島名

の山遺

中

公益財団法人茨城県教育財団

島名熊の山遺跡

島名·福田坪一体型特定土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

中 巻

平成26年3月

茨 城 県 公益財団法人茨城県教育財団

島名熊の山遺跡

島名·福田坪一体型特定土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

中 巻

平成26年3月

茨 城 県 公益財団法人茨城県教育財団

目 次

- 中巻 -

第5節	15 区の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	287
1 古	墳時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	287
竪穴	建物跡	287
2 平	安時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	291
竪穴	建物跡	291
3 室	町時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	295
(1)	方形竪穴遺構 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	295
(2)	掘立柱建物跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	299
(3)	井戸跡	311
(4)	火葬施設	333
(5)	地下式坑 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	334
(6)	土坑	342
(7)	道路跡	360
(8)	堀跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	361
(9)	溝跡	390
(10)	柱穴列跡	412
4 江	戸時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	416
(1)	井戸跡	416
(2)	土坑	417
(3)	溝跡	418
(4)	土塁跡	423
5 そ	の他の遺構と遺物	433
(1)	井戸跡	433
(2)	土坑 ·····	437
(3)	道路跡	452
(4)	溝跡	453
(5)	ピット群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	455
(6)	遺構外出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	471
第6節	16 区の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	477
1 古	墳時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	477
(1)	竪穴建物跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	477
(2)	土坑	480

2 奈	長良時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	481
土坊	[481
3 平	至安時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	483
(1)	竪穴建物跡	483
(2)	掘立柱建物跡	483
(3)	井戸跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	486
(4)	土坑	491
4	を町時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	493
(1)	掘立柱建物跡	493
(2)	井戸跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	498
(3)	地下式坑 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	509
(4)	土坑	511
(5)	道路跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	518
(6)	堀跡	519
(7)	溝跡	538
5 Z	I.戸時代の遺構と遺物 ·····	540
(1)	土坑	540
(2)	溝跡	541
6 明	月治時代の遺構と遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	544
校舎	· 基礎跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	518
7 ?	· の他の遺構と遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	546
(1)	掘立柱建物跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	546
(2)	土坑	547
(3)	溝跡	551
(4)	柱穴列跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	553
(5)	ピット群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	554
(6)	遺構外出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	557
第7節	まとめ	562
付章1	第 3161 号竪穴建物跡出土鉄製品付着木質の樹種同定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	589
付章2	第 84 号地下式坑出土短刀の成分分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	591
付章3	第 84 号地下式坑出土短刀柄部分の樹種同定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	592
付章4	第 104 号堀跡出土木製品の樹種同定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	594
抄 録		

第5節 15区の遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 3032 号竪穴建物跡 (第 231 · 232 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 c4 区. 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6026・6027・6028 号土坑, 第443・444 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.65 m. 短軸 5.27 mの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は8~14cmで、外傾 して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅 14 ~ 30cm、深さ 12 ~ 28cmで、浅いU字形の壁溝 が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで 112cm,燃焼部幅 50cmである。袖部は床面から深さ $3 \sim 9$ cmほど掘りくぼめた部分に、褐色土の第 $18 \cdot 19$ 層を埋土した後、砂質粘土を主体とした第 $13 \sim 16$ 層 を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており、火床面は赤変硬化している。第17 層は、被熱により第18層の一部が赤変したものである。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床部から緩やか に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 暗 褐 色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子 小量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量,砂質粘土ブロック・ローム粒子・ 炭化粒子少量
- にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
- 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量,ロームブロック・炭化粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・灰少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・砂質粘土ブロッ 21 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

- ク・炭化粒子少量
- 11 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 12 暗赤褐色 焼土粒子中量 ローム粒子・粘土粒子少量
- 13 にぶい褐色 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 14 褐
- 15 暗 褐 色 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量
- 16 暗 褐 色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 17 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量
- 18 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量
- 19 褐 色 ローム粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック・ 炭化粒子少量
- 20 褐 色 ロームブロック・焼土粒子中量

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 26 ~ 62cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 38cmで南壁際 の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

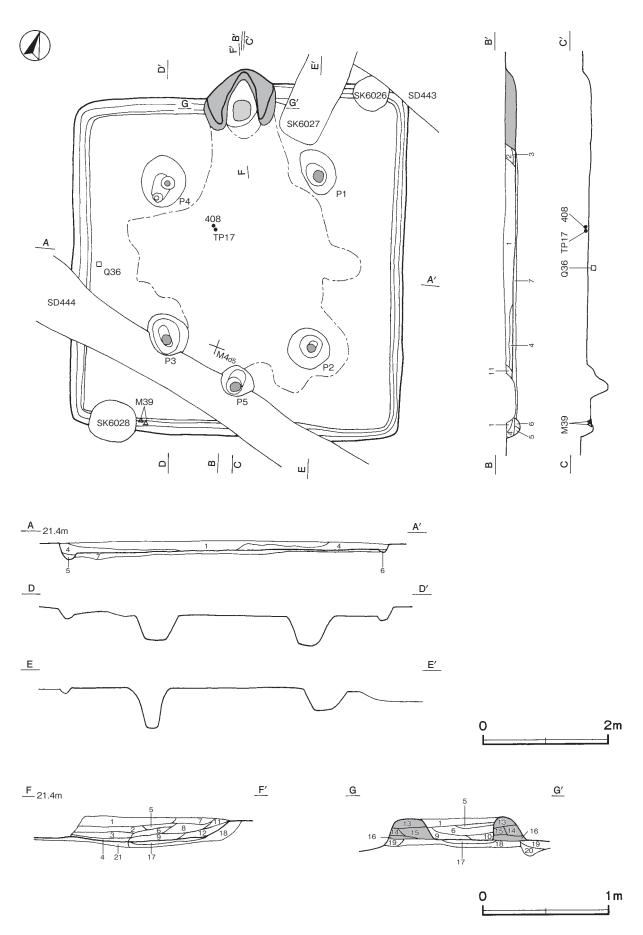
覆土 7層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

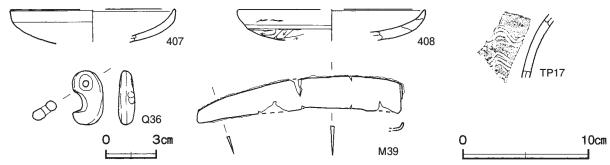
- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 裾 色 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロッ ク微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック少量
- にぶい黄褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 121 点(坏 40,甕 80,甑 1),須恵器片 7 点(坏 3 ,甕 4),石製品 1 点(勾玉),鉄 器 1 点(鎌)が出土している。408, TP17 は中央部, Q 36 は西部, M 39 は南部, 407 は南東部の覆土下層か らそれぞれ出土している。

所見 時期は出土土器から7世紀後葉に比定できる。



第231 図 第3032 号竪穴建物跡実測図



第232 図 第3032 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3032 号竪穴建物跡出土遺物観察表(第232 図)

種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手	法	のも	特 往	数に	ま か		Н	土位置	備	考
土師器	坏	[13.1]	(2.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内	面横	ナデ					覆	土下層	5 %	
土師器	坏	[15.4]	(2.4)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内 外面輪積み痕	面横	ナデ	体音	邓外面	「ヘラ)	削り	覆	土下層	10%	
種 別	器種	J	胎 土	:	色 調			文様の	特	徴	ほ	か			Н	土位置	備	考
須恵器	甕	長石・石	石英		黄灰	櫛歯状工具	具によ	る波状文							覆	土下層	5 %	
器 種	長さ	幅	孔径	重量	材 質			特		徴					Н	土位置	備	考
勾玉	2.2	1.2	0.3	2.4	チャート	全面研磨	二方	向からの穿孔							覆	土下層	PL87	
器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特		徴					Н	土位置	備	考
鎌	(16.4)	2.6	0.3	(32.86)	鉄	刃部断面:	三角形	柄装着部上	方へ打	斤り曲	まげ				覆	土下層	PL91	
	土師器 土師器 種 別 須恵器 器 種 勾玉	土師器 坏 土師器 坏 種 別 器種 須恵器 甕 器 種 長さ 勾玉 2.2	土師器 坏 [13.1] 土師器 坏 [15.4] 種別 器種 長石・2 器種 長さ 幅 勾玉 2.2 1.2 器種 長さ 幅 器種 長さ 幅	土師器 坏 [13.1] (2.6) 土師器 坏 [15.4] (2.4) 種 別 器種 胎 土 須恵器 要 長石・石英 器 種 長さ 幅 孔径 勾玉 2.2 1.2 0.3 器 種 長さ 幅 厚さ	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 土師器 坏 [15.4] (2.4) - 種別 器種 胎 土 須恵器 要 長石・石英 器種 長さ 幅 孔径 重量 勾玉 2.2 1.2 0.3 2.4 器種 長さ 幅 厚さ 重量	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 長石・石英・雲母 長石・石英・雲母 長石・石英・赤色粒子・ 種別 器種 胎土 色調 須恵器 売売・石英 黄灰 器種 長さ 幅 孔径 重量 材質 勾玉 2.2 1.2 0.3 2.4 チャート 器種 長さ 幅 厚さ 重量 材質	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 長石・石英・ 養	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 土師器 坏 [15.4] (2.4) - 長石・石英・ 橙 普通 種別 器種 胎土 色調 須恵器 要長石・石英 黄灰 櫛歯状工具によ 器種 長さ 幅 孔径 重量 材質 勾玉 2.2 1.2 0.3 2.4 チャート 全面研磨 二方 器種 長さ 幅 厚さ 重量 材質	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 口縁部外・内 長石・石英・ 橙 普通 口縁部外・内 原色粒子・ 橙 普通 口縁部外・内 外面輪積み痕 種別 器種別 胎土 色調 文様の 須恵器 要長石・石英 黄灰 櫛歯状工具による波状文 器種長さ幅 孔径重量 材質 特 勾玉 2.2 1.2 0.3 2.4 チャート 全面研磨 二方向からの穿孔 器種長さ幅厚さ重量材質 特	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 口縁部外・内面横 土師器 坏 土師器 坏 [15.4] (2.4) - 長石・石英・ 橙 普通 口縁部外・内面横 内面輪積み痕 種別 器種 胎 土 色 調 文様の特須恵器 要長石・石英 黄灰 櫛歯状工具による波状文 器種長さ幅 孔径 重量 材質 特 勾玉 2.2 1.2 0.3 2.4 チャート 全面研磨 二方向からの穿孔 器種長さ幅厚さ重量材質 特	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 長石・石英・ 橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 八面輪積み痕 種別 器種別 胎土 色調 文様の特徴 須恵器 要長石・石英 黄灰 櫛歯状工具による波状文 器種長さ幅 孔径 重量 材質 特徴 勾玉22 1.2 0.3 2.4 チャート 全面研磨 二方向からの穿孔 器種長さ幅厚さ重量材質 特徴	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 大師器 坏 [15.4] (2.4) - 長石・石英・ 橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部 水面輪積み痕		土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 土師器 坏 [15.4] (2.4) - 長石・石英・ 橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外面へララ 水面輪積み痕 種 別 器種 胎 土 色 調 文 様 の 特 徴 ほ か 須恵器 甕 長石・石英 黄灰 櫛歯状工具による波状文 器 種 長さ 幅 孔径 重量 材 質 特 徴 勾玉 2.2 1.2 0.3 2.4 チャート 全面研磨 二方向からの穿孔 器 種 長さ 幅 厚さ 重量 材 質 特 徴	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 水面輪積み痕 土師器 坏 [15.4] (2.4) - 長石・石英・ 橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 外面輪積み痕 種別 器種 胎 土 色 調 文様の特徴ほか 類恵器 要長石・石英 黄灰 櫛歯状工具による波状文 器種 長さ幅 孔径 重量 材質 特徴 勾玉 2.2 1.2 0.3 2.4 チャート 全面研磨 二方向からの穿孔 器種 長さ幅 厚さ 重量 材質 特徴		土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 覆土下層 生師器 坏 [15.4] (2.4) - 長石・石英・ 橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 覆土下層 水血粒子 種別 器種別 胎土 色調 文様の特徴ほか 出土位置 須恵器 要長石・石英 黄灰 櫛歯状工具による波状文 器種長さ幅 孔径重量 材質 特徴 出土位置 須玉・下層 器種長さ幅 現在 重量 材質 特徴 出土位置 須玉・下層 器種長さ幅 厚さ重量材質 特徴 出土位置 須玉・下層	土師器 坏 [13.1] (2.6) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 覆土下層 5% 推動 口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 覆土下層 10% 外面輪積み痕 麦土 下層 10% 水面輪積み痕 種別 器種別 上 色調 文様の特徴ほか 出土位置 備額株工具による波状文 器種長さ幅 孔径重量 材質 特徴 出土位置 備額土工屋 公玉 22 12 0.3 24 チャート全面研磨 二方向からの穿孔 器種長さ幅厚さ重量材質 特徴 出土位置 備額土下層 円1.87

第 3033 号竪穴建物跡 (第 233 · 234 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 g6 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 中央部を第445・448号溝に,北西コーナー部を第99号方形竪穴遺構に掘り込まれており,確認できた竈及び南部は,底面近くまで削平された状態で確認した。

重複関係 第99号方形竪穴遺構,第445・448号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.82m, 短軸 3.60 mの長方形で、主軸方向は $N-19^{\circ}-E$ である。南壁で3cmほどの壁の立ち上がりを確認した。張り出し部は、北壁外へ70cmほど掘り込まれている。

床 平坦である。確認できた床面は、踏み固められていない。

電 北壁中央部に付設されている。規模は南端部が第445号溝に掘り込まれているため、煙道部までは76cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は床面に積み上げられた第5・6層のみを確認した。火床部は床面と同じ高さを使用しており、火床面の赤変硬化は認められない。煙道部は、壁外へ28cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

ピット 4か所。P1~P3は深さ30~55cmで、規模や配置から主柱穴である。P4は深さ29cmで、南壁の

ほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

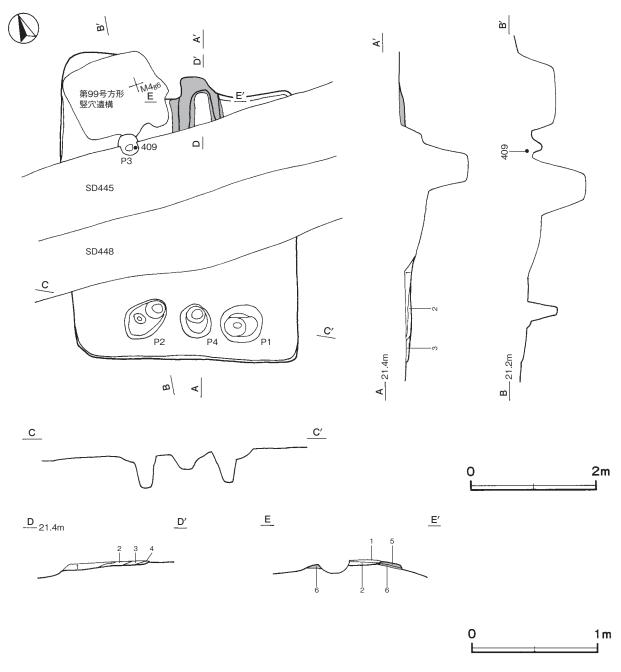
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

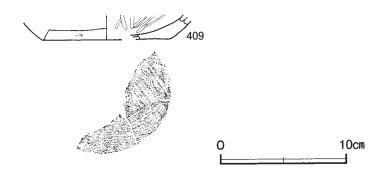
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 3 褐 2 暗 褐 色 ロームブロック少量 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片11点(坏2,甕8,鉢1),須恵器片1点(坏)が出土している。409は北西部の覆 土中層から出土した。

所見 時期は、出土土器から、6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第233 図 第3033 号竪穴建物跡実測図



第234 図 第3033 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3033 号竪穴建物跡出土遺物観察表(第234図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
409	土師器	鉢	-	(1.9)	[10.0]	長石・石英	橙	普通	体部内面多方向のヘラ磨き 体部下端横位のヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土中層	30%

表 35 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高	床面 壁溝			内	部施	設		覆土	主な出土遺物	時期	備考
宙力		土釉刀円		長軸×短軸(m)	(cm)			主柱穴	出入口	ピット	炉·竈	貯蔵穴	復工.	土な山上退初		
3032	M4c4	N - 19° - W	方 形	5.65 × 5.27	8~14	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器 片, 石製品, 鉄器		本跡→SK6026 · 6027 · 6028, SD443 · 444
3033	M4g6	N - 19° - E	長方形	4.82 × 3.60	3	平坦	-	3	1	-	篭1	-	人為	土師器片, 須恵器片	6 C後葉~ 7 C前葉	本跡→第 99 号方形竪穴 遺構,SD445・448

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 3031 号竪穴建物跡 (第 235 · 236 図)

調査年度 平成 20 年度

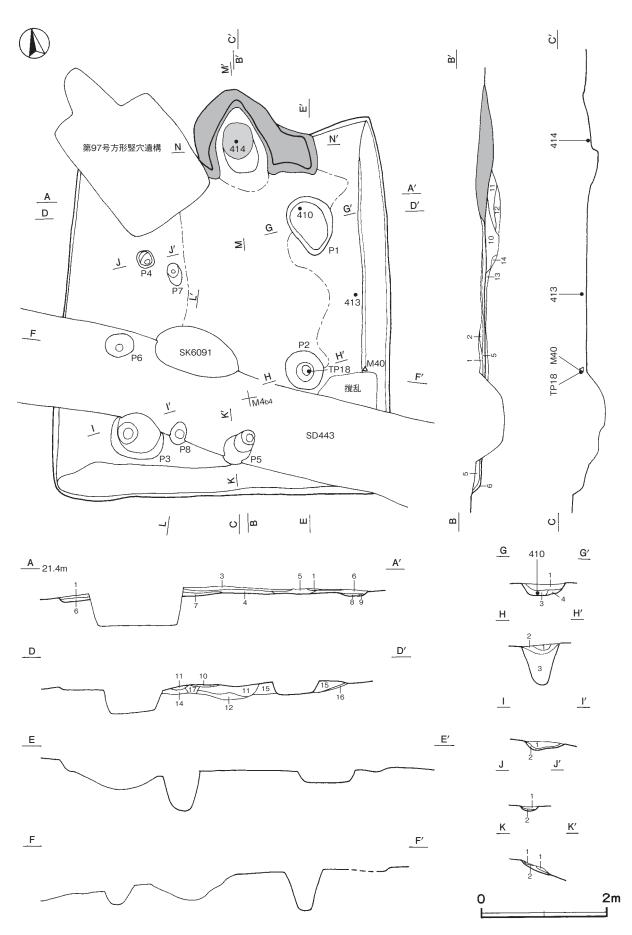
位置 15 区北部のM 4 a3 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第97号方形竪穴遺構,第6091号土坑,第443号溝に掘り込まれている。

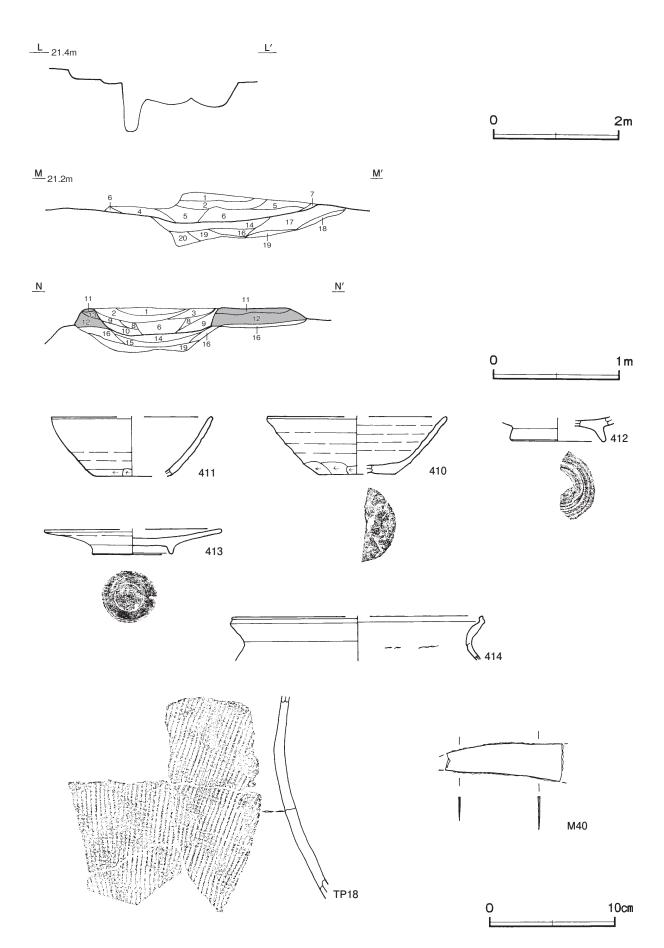
規模と形状 長軸 $5.56\,\mathrm{m}$ 短軸 $5.26\,\mathrm{m}$ の方形で、主軸方向は N - $7\,^{\circ}$ - E である。壁高は $8\,\sim$ $16\,\mathrm{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、確認面から深さ $27 \sim 30$ cm掘り込み、ロームブロックや砂質粘土ブロックを含んだ第 $10 \sim 17$ 層を埋土し構築されている。東壁下には、幅 $32 \sim 46$ cm、深さ $4 \sim 10$ cmで、浅いU字形の溝が設けられている。

電 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで $168 \, \mathrm{cm}$,燃焼部幅は $77 \, \mathrm{cm}$ である。袖部は,床面を $3 \sim 60 \, \mathrm{cm}$ ほどを掘りくぼめ,第 $16 \, \mathrm{F}$ 唇を埋土した後,砂質粘土ブロックを含む褐色土を主体とした第 $11 \sim 13 \, \mathrm{F}$ 唇を積み上げて構築されている。火床部は床面を深さ $23 \, \mathrm{cm}$ ほど皿状に掘りくぼめ,ロームブロックを含む第 $14 \sim 20 \, \mathrm{F}$ 唇を埋土して構築されている。火床面は,火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ $92 \, \mathrm{cm}$ ほど掘り込まれ,火床部から緩やかに立ち上がっている。



第235 図 第3031 号竪穴建物跡実測図



第236 図 第3031 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

電十層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロッ 11 にぶい褐色 粘土粒子多量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子 ク・炭化物少量 少量 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロッ 12 裾 色 ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・炭化物・焼 ク・炭化粒子少量 土粒子少量 3 暗 褐 色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子 13 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・砂質粘土ブロッ 少量 ク・炭化粒子少量 14 暗 褐 色 砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒 4 暗 褐 色 粘土粒子中量 焼土ブロック・ローム粒子・炭化 粒子少量 子少量 15 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・砂質粘土ブロッ ク・炭化物微量 色 ローム粒子中量,炭化粒子・粘土粒子少量 16 裾 17 暗赤褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・ 6 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, ロームブロック・粘土粒子少量 7 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子 炭化粒子少量 18 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂粒 少量 8 黒 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・ 炭化粒子少量 19 にぶい赤褐色 ローム粒子中量,砂粒少量,焼土粒子・炭化粒子

ピット 8か所。 $P1 \sim P4$ は深さ $21 \sim 64$ cmで,配置から主柱穴である。P5 は南壁際のほぼ中央部に位置していることから,出入り口施設に伴うピットと考えられる。 $P6 \sim P8$ は深さ $18 \sim 73$ cmで性格不明である。

微量

20 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット土層解説(各ピット共通)

9 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量

10 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・砂質粘土ブロッ

ク・炭化物少量

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐 色 ロームブロック少量 2 暗 褐 色 ローム粒子少量 4 褐 色 ローム粒子中量

覆土 9層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第10 ~17層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 9 裾 色 ローム粒子中量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量 10 黒 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子 3 暗 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 少量 4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロッ 11 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 ク少量 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 12 裾 5 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量 13 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (締まり強い) 6 暗 褐 色 ローム粒子中量 色 ロームブロック中量 14 褐 7 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロッ 15 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 ク微量 16 裾 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量 8 暗 褐 色 ロームブロック少量 17 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 304 点 (坏 38, 高台付坏 1, 甕 265), 須恵器片 17 点 (坏 8, 高台付坏 1, 皿 1, 甕 7), 鉄器 1 点 (鎌) が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。413 は東部の 覆土下層、414 は竈の覆土下層、410 は P 1 の柱痕跡、TP18、M 40 は南東部の覆土下層、411・412 は南西部 の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第3031 号竪穴建物跡出土遺物観察表(第236 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
410	須恵器	坏	[14.2]	4.6	[6.2]	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	P 1 柱痕跡	40% PL76
411	須恵器	坏	[12.5]	4.8	[6.0]	長石・石英・雲母	灰・黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土上層	10%
412	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	[7.4]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土上層	30%
413	須恵器	Ш	[14.2]	2.1	[6.4]	長石・石英・雲 母・赤色粒子	黒	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	60% PL76
414	土師器	甕	[20.0]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面輪積み痕	竈覆土下層	10%

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備考
TP18	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰	格子目状の叩き 内面輪積み痕	覆土下層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徵	出土位置	備考
M40	鎌	(9.4)	3.1	0.2	(14.8)	鉄	切先部欠損 柄装着部欠損	覆土下層	PL91

3 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は,方形竪穴遺構 4 基,掘立柱建物跡 10 棟,井戸跡 10 基,火葬施設 1 基,地下式坑 7 基,土坑 72 基,堀跡 1 条,溝跡 16 条,柱穴列跡 4 条を確認した。以下,遺構及び遺物について記述する。

(1) 方形竪穴遺構

第 96 号方形竪穴遺構(第 237 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 a3 区、標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 1.76 m, 短軸 1.48 mの長方形で,長軸方向は $N-45^\circ-W$ である。壁高は $14\sim18 \text{cm}$ で,外傾して立ち上がっている。北壁の西寄りには壁外へ 42 cm, 南壁の中央部には壁外へ 28 cm張り出したスロープがあり,位置と形状から出入り口施設と考えられる。出入り口施設の新旧関係は不明である。

床 ほぼ平坦である。出入口施設付近から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ33cm・26cmで、南壁際と北壁際の中央部に位置していることから、柱穴と考えられる。

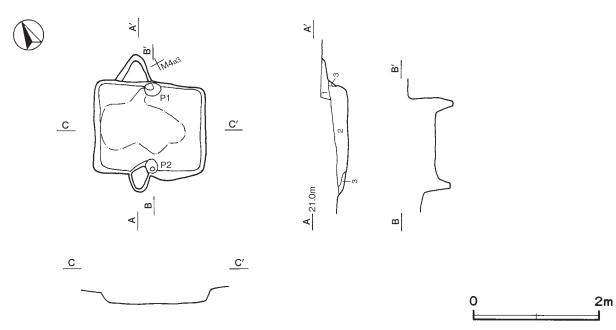
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブ 2 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 ロック・炭化物少量 3 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 23 点 (坏 4, 甕類 19) が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第237図 第96号方形竪穴遺構実測図

第 97 号方形竪穴遺構 (第 238 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 a3 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3031 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 2.30 m, 短軸 1.64 mの長方形で、北壁側が 38 cmほど方形に張り出している。長軸方向はN $-28 \degree - \text{W}$ である。壁高は $26 \sim 37 \text{cm}$ で、外傾して立ち上がっている。北壁の中央部には、壁外に 94 cmほど張り出したスロープがあり、位置と形状から出入り口施設と考えられる。

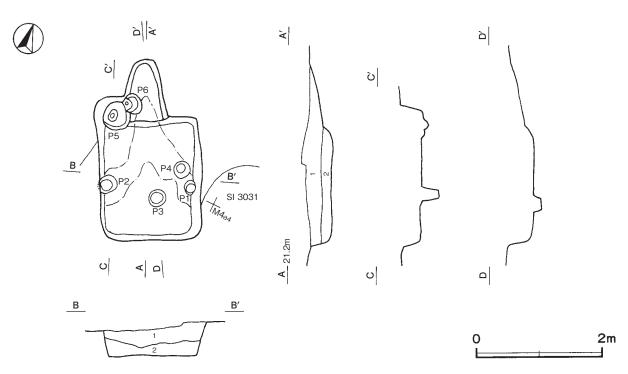
床 ほぼ平坦である。出入り口施設から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 6 か所。P 1 \sim P 3 は深さ 17 \sim 36cm \circ , 配置から主柱穴と考えられる。P 4 \sim P 6 は深さ 19 \sim 20cm \circ , 性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。 ±層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブ 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 ロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片 63 点(坏 6 , 椀 1 , 高台付椀 1 , 甕 55),須恵器片 9 点(坏 1 , 甕 8)が出土している。 **所見** 時期は,伴う遺物が出土していないため不明であるが,重複関係や遺構の形状から室町時代と考えられる。



第238 図 第97号方形竪穴遺構実測図

第99号方形竪穴遺構 (第239図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 g5 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3033 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 1.54m, 短軸 1.21m の隅丸長方形で,長軸方向は N -89° - Wである。壁高は $31\sim53$ cmで,南北壁は外傾し,東西壁は直立している。南東コーナー部に壁外へ 32cm張り出したスロープがあり,出入り口施設と考えられる。

床面 ほぼ平坦で東から西に向かって緩やかに下がっている。

覆土 4層に分層できる。各層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 粘土ブロック微量

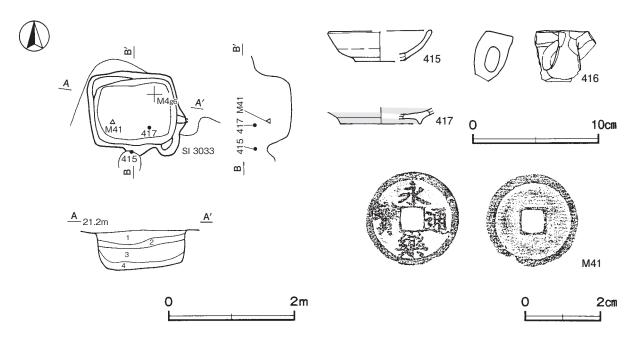
3 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

4 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器 2 点 (小皿, 内耳鍋), 陶器 1 点 (皿), 銭貨 1 点 (永樂通寳) が出土している。 M41 は覆土中層, 415・417 は覆土上層, 416 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、16世紀代と考えられる。



第239 図 第99号方形竪穴遺構·出土遺物実測図

第99号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第239図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手 法 の	特 徴 ほ	か	出土位置	備考
415	土師質土器	小皿	[8.0]	2.9	[4.0]	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙	普通 ロクロナ	デ			覆土上層	20%
416	土師質土器	内耳鍋	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通 口縁部外	面ナデ			覆土中	5% 煤付着
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備考
417	IX41 R.F.	m		(1.2)	FC 47	last site:	1 - >>, 土土	HZS.	进址	海口 羊油	10 0 岩	悪山 し屋	200/

番号	銭 種	径	厚さ	孔径	重量	材質	初鋳年	特 徵	出土位置	備考
M41	永樂通寶	2.5	1.74	0.5	3.54	銅	1408年	無背	覆土中層	PL92

第 100 号方形竪穴遺構 (第 240 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 c0 区、標高 21 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第6024 号土坑を掘り込み, 第585 号掘立柱建物に掘り込まれている。第6033 号土坑, 第443 号溝と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸 2.38m, 短軸 1.36m の隅丸長方形で, 長軸方向は N -73° - W である。壁高は $14 \sim 20$ cmで, 緩やかに立ち上がっている。

床面 平坦である。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 10cm、P 2 は深さ 20cmで、いずれも性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

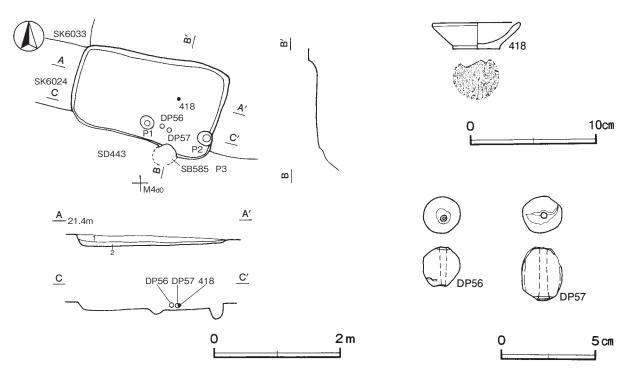
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 4 点 (小皿 1 , 内耳鍋 3) , 土製品 2 点 (土玉) のほか , 土師器片 55 点 (坏 13 , 甕類 42) , 須恵器片 2 点 (甕類) が出土している。418 は北西部の , DP56・DP57 は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から16世紀代と考えられる。



第 240 図 第 100 号方形竪穴遺構·出土遺物実測図

第100号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第240図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調 焼	手法の特徴ほか	出土位置	備考
418	土師質土器	小皿	6.8	2.1	3.7	長石・石英・雲母	橙普	ロナデ 底部回転糸切り 内底面仕」	げナデ 覆土中層	80% PL76
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色 調	特 徴	出土位置	備考
DP56	土玉	2.04	2.03	0.3	7.78	長石・石英	にぶい黄橙	二方向からの穿孔	覆土中層	PL87
DP57	土玉	2.20	2.80	0.7	(10.9)	長石・石英	橙	上部孔部分破損 下部からの穿孔	覆土中層	PL87

表 36 室町時代方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁 高 (cm)		内部施設		覆土	主な出土遺物	時代	備考
留万	12. 直	土粗刀円		長軸×短軸 (m)			柱穴	出入口	復工	土な田工退物	₩ 1/	/順 - 存
96	M4a3	$N-45^{\circ}-W$	長方形	1.76 × 1.48	14 ~ 18	平坦	2	1	人為	土師器片	室町	
97	M4a3	N - 28° - W	長方形	2.30 × 1.64	$26 \sim 37$	平坦	6	1	人為	土師器片・須恵器片	室町	SI3031 →本跡
99	M4g5	N - 89° - W	隅丸長方形	1.54 × 1.21	31 ~ 53	平坦	-	1	人為	土師質土器片・陶器片・ 銭貨		SI3033 →本跡
100	M4c0	N - 73° - W	隅丸長方形	2.38 × 1.36	14 ~ 20	平坦	2	-	人為	土師質土器片・土製品	室町	SK6024 →本跡→ SB585

(2) 掘立柱建物跡

第 539 号掘立柱建物跡 (第 241 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 h9 ∼M 4 i0 区、標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6139 号土坑, 第78 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が $N-82^\circ-W$ の東西棟である。規模は桁行 3.9 m, 梁行 3.6 mで,面積は 14.04㎡である。柱間寸法は,桁行が西妻から 2.1 m(7 尺),1.8 m(6 尺),梁行は北平から 1.9 m,1.7 m(6 尺)で間尺は異なっているが,柱筋はほぼ揃っている。西妻の中柱穴は確認できなかった。

柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形で、長径 $42\sim93$ cm、短径 $36\sim58$ cmである。深さは $18\sim51$ cmである。第1・2層は柱抜き取り後の堆積層、第3~6層は埋土である。P3・P4・P7の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説(各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化物・焼土粒子微量 4 黒 褐 色 ロームブロック少量 2 暗 褐 色 ローム粒子微量 5 暗 褐 色 ローム粒子中量 3 暗 褐 色 ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化物微量 6 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏)、細礫 1 点 (瑪瑙) が出土している。

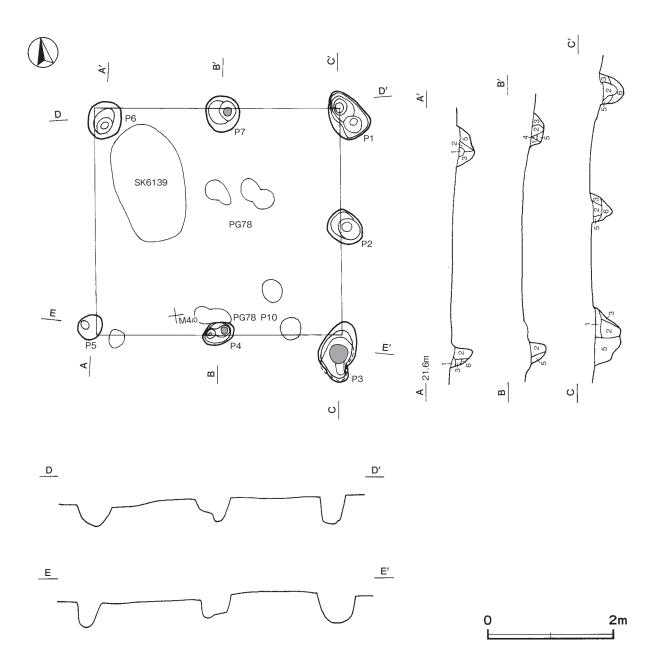
所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、本跡の南西に位置し、16世紀前葉から中葉と考えられる第545号掘立柱建物跡と軸方向がほぼ同じであることから同時期と考えられる。新旧関係は不明だが、第543号掘立柱建物跡を建て替えた可能性もある。規模や形状から倉庫としての機能が想定される。

第 540 号掘立柱建物跡 (第 242 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 g0 区、標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第543号掘立柱建物跡,第6053号土坑,第76号ピット群と重複しているが,新旧関係は不明である。 規模と構造 桁行 2 間,梁行 1 間の側柱建物跡で,桁行方向が $N-75^\circ-W$ の東西棟である。規模は桁行 3.9 m,梁行 3.0 mで,面積は 11.7㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻から 2.0 m, 1.9 m,梁行は 3.0 m (10 尺)で間尺は異なっているが、柱筋はほぼ揃っている。



第241 図 第539 号掘立柱建物跡実測図

柱穴 5か所。平面形は円形または楕円形で,長径 $30\sim72$ cm,短径 $25\sim42$ cmである。深さは $24\sim34$ cmである。第 $1\sim3$ 層は柱抜き取り後の堆積層である。 P 5 の底面で柱のあたりを確認した。

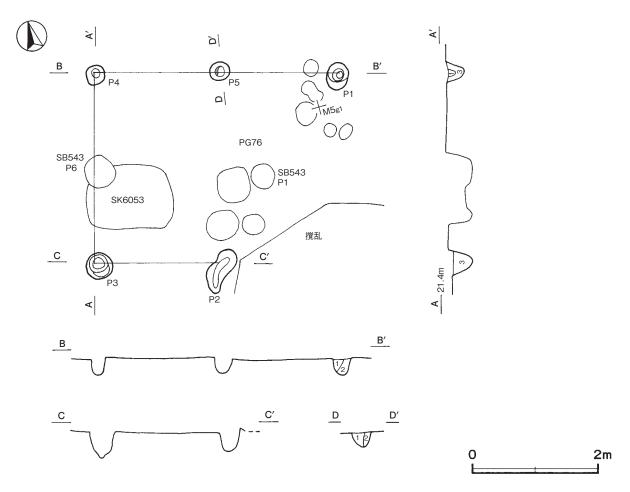
土層解説(各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量 2 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片4点(坏1,甕類3),須恵器片2点(甕,壺)が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、本跡から約4m北にある第444号溝と軸方向がほぼ同じであることから、同時期の15世紀後葉から16世紀前葉と考えられる。柱穴の規模や構造から、墓域に伴う小堂としての機能が想定される。



第242 図 第540 号掘立柱建物跡実測図

第 541 号掘立柱建物跡 (第 243 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 a7 区、標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第82号地下式坑, 第246号井戸に掘り込まれている。第73号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 南側が第82号地下式坑及び第246号井戸に掘り込まれているため、確認できた範囲は桁行2間、梁行1間以上の建物跡で、桁行方向が $N-89^\circ-W$ の東西棟と推測される。規模は桁行4.2 m、確認できた梁行1.5 mである。柱間寸法は、桁行が西妻から2.0 m、2.2 m、梁行は1.5 m(5尺)で間尺は異なっているが、柱筋は揃っている。

柱穴 5か所。平面形は円形または楕円形で、長径 33~56cm、短径 23~47cmである。深さは 14~42cmである。第 1~5層は柱抜き取り後の堆積層である。 P 2~P 5 の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化物・焼土粒子微量

4 黒 褐 色 ロームブロック少量 5 暗 褐 色 ローム粒子中量

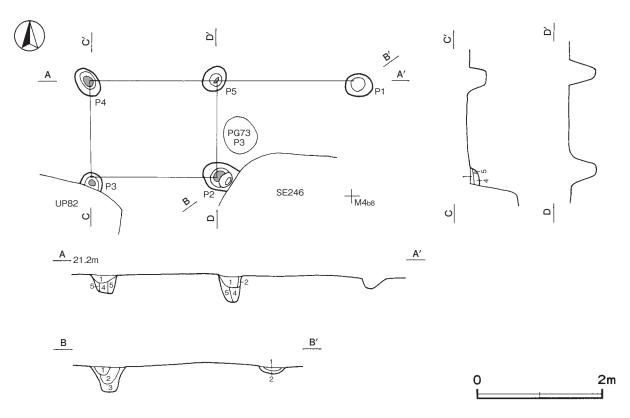
2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片 2点(甕)が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、16世紀中葉から後葉と考えられる第82号地下式坑、第246号井戸に掘り込まれていることから、15世紀後葉から16世紀中葉の範疇と考えられる。柱穴の

規模や構造から、墓域に伴う小堂としての機能が想定される。



第243 図 第541 号掘立柱建物跡実測図

第 542 号掘立柱建物跡 (第 244 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 f6 区. 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6220号土坑、第75号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が $N-70^\circ-W$ の東西棟である。規模は桁行 3.2 m, 梁行 2.8 mで, 面積は 8.96㎡である。柱間寸法は, 桁行が西妻から 2.1 m(7 尺), 1.1 m, 梁行は北平から 1.7 m, 1.1 mで間尺は異なっているが, 柱筋はほぼ揃っている。西妻の中柱穴は確認できなかった。

柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形で,長径 $24 \sim 49$ cm,短径 $22 \sim 37$ cmである。深さは $12 \sim 40$ cmである。 第 $1 \sim 4$ 層は柱抜き取り後の堆積層である。 P $1 \sim$ P 7の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

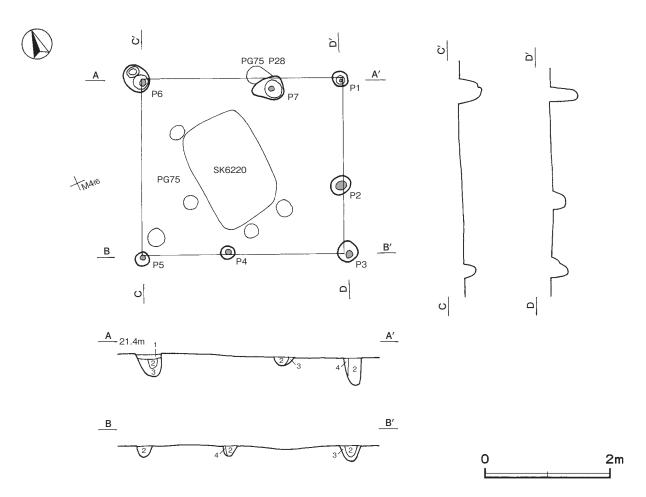
3 暗 褐 色 ローム粒子中量

2 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

4 暗 褐 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 3 点 (坏1, 甕類 2) が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、本跡から約5.5m 北にある第444号溝と軸方向がほぼ同じであることから、15世紀後葉から16世紀前葉と考えられる。柱穴の規模や構造から、墓域に伴う小堂としての機能が想定される。



第244 図 第542 号掘立柱建物跡実測図

第 543 号掘立柱建物跡 (第 245 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 g9 ∼M 4 h0 区. 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6053 号土坑を掘り込み, 第448 号溝に掘り込まれている。第76 号ピット群, 第540 号掘立柱 建物跡, 第445 号溝と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間, 梁行 1 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 81° - Wの東西棟である。規模は桁行 5.1 m, 梁行 3.9 mで,面積は 19.89㎡である。柱間寸法は,桁行 2.4 m(8 尺),梁行 3.9 m(13 尺)で間尺は異なっているが,柱筋はほぼ揃っている。両妻の中柱穴は確認できなかったが,東妻部は撹乱を受けており,存否は不明である

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径 $40\sim72$ cm、短径 $34\sim50$ cmである。深さは $15\sim36$ cmである。第 $1\sim5$ 層は柱抜き取り後の堆積層である。 P 6の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

 1 暗 褐 色 ローム粒子多量
 4 褐 色 ロームブロック中量

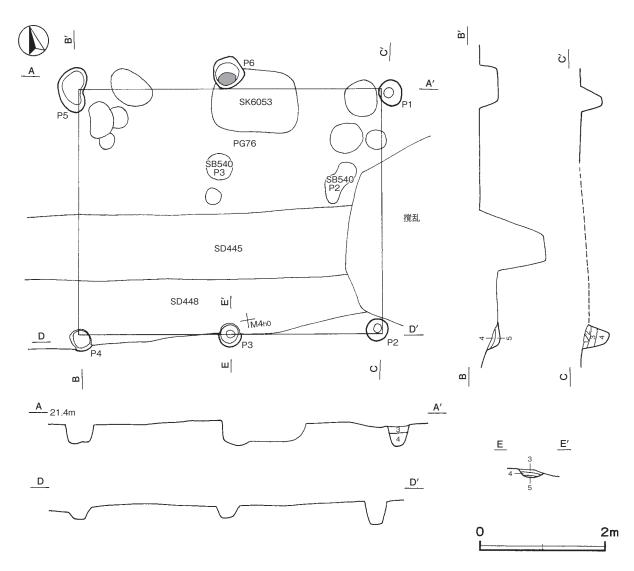
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
 5 暗 褐 色 ロームブロック中量

 3 褐 色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片 3 点 (坏1, 甕2) が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明である。本跡の南西に位置し、16世紀前葉から中葉と考えられる第545号掘立柱建物跡と軸方向が同じであることから同時期と考えられる。新旧関係は不明だが、第

539 号掘立柱建物跡を建て替えた可能性もある。規模や形状から倉庫としての機能が想定される。



第245 図 第543 号掘立柱建物跡実測図

第 544 号掘立柱建物跡 (第 246 図)

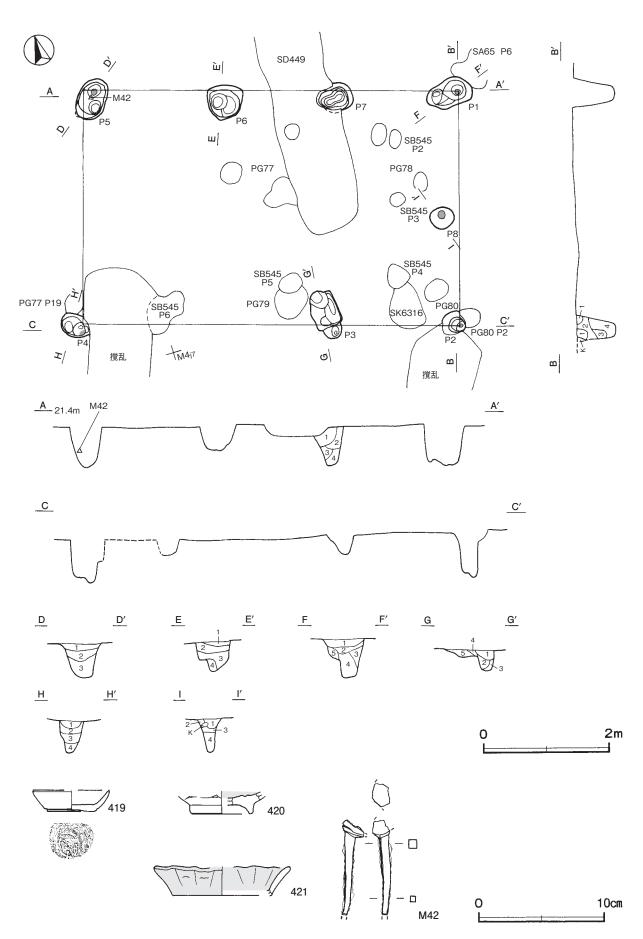
調査年度 平成 20 年度

位置 15 区中央部のM4h6~M4j8区,標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 449 号溝に掘り込まれている。第 545 号掘立柱建物跡, 第 6316 号土坑, 第 65 号柱穴列跡, 第 77 ~ 80 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が $N-73^\circ-W$ の東西棟である。規模は桁行 6.0 m, 梁行 3.7 mで,面積は 22.2 mである。柱間寸法は,桁行が 2.0 mで,西妻の中柱穴は確認できなかった。梁行は北平から 2.0 m, 1.8 m (6 尺)で,間尺は異なっているが,柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形,楕円形,不整楕円形で,長径 $40\sim82$ cm,短径 $37\sim54$ cmである。深さは $40\sim70$ cmである。第 $1\sim5$ 層は柱抜き取り後の堆積層である。P $1\cdot$ P $2\cdot$ P $4\cdot$ P $5\cdot$ P8の底面で柱のあたりを確認した。



第246 図 第544 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量

3 黒 褐 色 ロームブロック中量

 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

 5 黒 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (小皿), 陶器片 2 点 (碗, 皿), 鉄製品 (釘) が出土している。419 は P 6, 420 は P 8, 421 は P 3 の覆土中, M42 は P 5 の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺物が細片のため不明であるが、本跡から約5 m北にある第444 号溝と軸方向がほぼ同じであることから、同時期の15 世紀後葉から16 世紀中葉の範疇と考えられる。規模や形状から倉庫としての機能が想定される。

第544号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第246図)

- AE D	26 HI	RH 1st	F14₹	RF -tr	中 公	II/5 I.	/t - SHI	late +12-	T. H. O.	side Silv. 1-1	1.	山上丛場	£#s	-t/.	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土		.,,,,,,	手法の	特徴ほ	か	出土位置	備	考	
419	土師質土器	小皿	[6.0]	1.7	3.8	長石・石英	灰白	普通 ロクロナ 内底面仕	ロクロナデ・底部回転糸切り後ナデ 内底面仕上げナデ				20%		
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考	
420	陶器	碗	_	(1.8)	[4.8]	長石・石英	にぶい橙	_	浅黄	瀬戸・美濃	16 C代	P8覆土中	20%		
421	陶器	稜皿	[10.8]	2.3	[8.0]	長石	橙	-	灰黄褐	瀬戸・美濃	16 C代	P 3 覆土中	10%		
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質		出土位置	備	考					
M42	釘	(7.6)	(1.8)	0.7	(12.2)	鉄	断面方形 頭部打撃によりやや潰れる P 5 覆土中層 PL92								

第 545 号掘立柱建物跡(第 247 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区中央部のM4h6 ∼M4i8 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6316 号土坑, 第 60・65 号柱穴列跡, 第 78・79 号ピット群を掘り込み, 第 449 号溝に掘り込まれている。第 544 号掘立柱建物跡, 第 77 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 南西部が撹乱を受けているため、桁行 3 間、梁行 3 間の側柱建物跡と推定される。桁行方向はN -82° - Wの東西棟である。規模は桁行 5.9 m、梁行 3.7 mで、面積は 21.83 m である。柱間寸法は、桁行は西 妻から 1.7 m、2.5 m、1.6 m で、梁行は北平から 1.5 m、0.9 m (3 尺)、1.2 m (4 尺)で、間尺は異なっているが、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形,楕円形,不定形で,長径 24 ~ 74cm,短径 24 ~ 52cmである。深さは $18 \sim 64$ cmである。第 $1 \sim 4$ 層は柱抜き取り後の堆積層,第 5 層は埋土である。 P $3 \sim$ P 5 , P $8 \sim 10$ の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説(各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

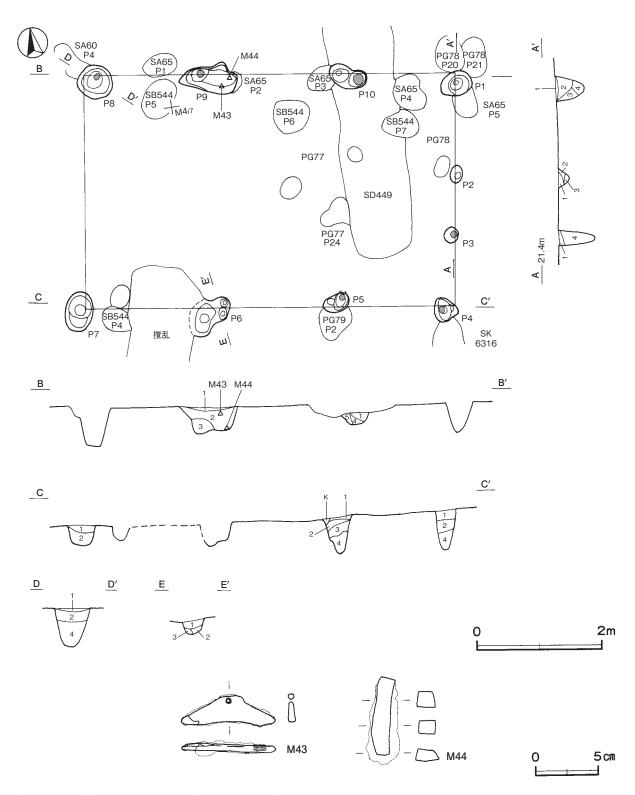
5 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 鉄製品 2点(火打金、楔 $_{n}$)のほか、土師器片 1点(坏)、粘土塊(47.7 g)が出土している。 M 43 · M 44 は P 9 の覆土中から出土している。

所見 時期は、伴う土器が出土していないため不明であるが、15 世紀後葉から16 世紀前葉と考えられる第65 号柱穴列跡を掘り込み、16 世紀中葉から後葉と考えられる第449 号溝に掘り込まれ、本跡から約10 m北東に

ある 16 世紀前葉から中葉の第 539 号掘立柱建物跡と軸方向がほぼ同じであることから, 第 539 号掘立柱建物跡と同時期と考えられる。規模や形状から倉庫としての機能が想定される。



第247図 第545号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第545号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第247図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
M43	火打金	7.5	(2.7)	0.8	(20.2)	鉄	頂上部に孔 径3 mm	P 9 覆土中	PL91
M44	楔ヵ	7.9	2.7	1.3	(39.81)	鉄	断面方形	P 9 覆土中	PL91

第 585 号掘立柱建物跡 (第 248 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 c9 ∼M 4 c0 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 100 号方形竪穴遺構, 第 586・588 号掘立柱建物, 第 443 号溝に掘り込まれている。第 87 号地下式坑, 第 6024・6033 号土坑, 第 74 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

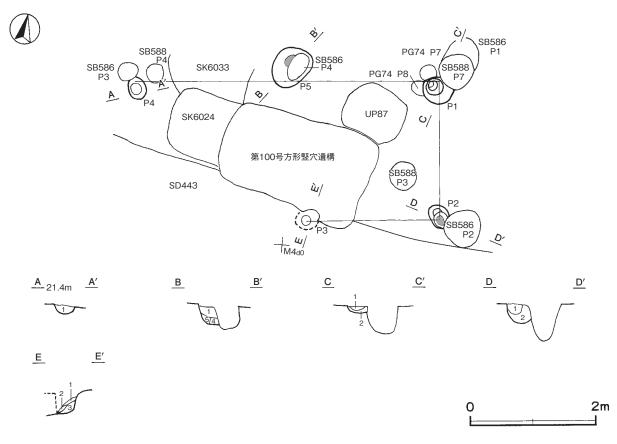
規模と構造 南部が第 443 号溝に掘り込まれているため,桁行 2 間,梁行 1 間の側柱建物跡と推定され,桁行方向が N -85° -E の東西棟である。規模は桁行 4.8 m,梁行 2.2 mで,面積は 10.6 mである。柱間寸法は,桁行 2.4 m(8尺),梁行 2.2 mで,ほぼ均等に配置されている。,

柱穴 5 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 $40 \sim 62$ cm、短径 $30 \sim 52$ cmである。深さは $20 \sim 40$ cmである。第 $1 \sim 4$ 層は柱抜き取り後の堆積層で、第 5 層は埋土である。 P $2 \cdot P$ 5 の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説(各柱穴共通)

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子多量,炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ローム粒子中量



第248 図 第585 号掘立柱建物跡実測図

所見 時期は、遺物が出土していないため不明であるが、15世紀後葉から 16世紀前葉と考えられる第443号 溝に掘り込まれていることから、15世紀後葉以前と考えられる。規模や形状から倉庫としての機能が想定さ れる。

第 586 号掘立柱建物跡 (第 249 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 c9 ∼M 4 c0 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第585 号掘立柱建物跡を掘り込み、第588 掘立柱建物、第443 号溝に掘り込まれている。第100 号 方形竪穴遺構、第87号地下式坑、第6024・6033号土坑、第74号ピット群と重複しているが、新旧関係は不 明である。

規模と構造 南部が第443号溝に掘り込まれているため、桁行2間、梁行1間の側柱建物跡と推定され、桁 行方向がN-75°-Eの東西棟である。規模は桁行5.4m、梁行2.9mで、面積は15.6mである。柱間寸法は、 桁行が西妻から 2.8 m, 2.6m, 梁行は 2.9 mで間尺は異なっているが、柱筋は揃っている。

柱穴 4 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 $32 \sim 68$ cm、短径 $26 \sim 33$ cmである。深さは $32 \sim 58$ cmである。 第 $1 \sim 4$ 層は柱抜き取り後の堆積層で、第5層は埋土である。 $P2 \sim P4$ の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量

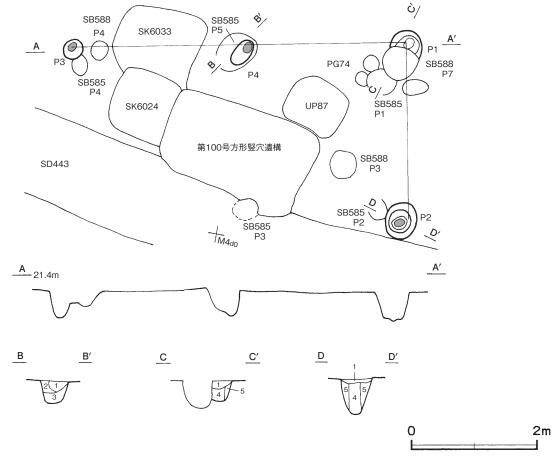
4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

5 暗 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ローム粒子少量

8 SB588 SB585 SK6033 P4



第 249 図 第 586 号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 10点(坏6,甕類4),須恵器片 1点(甕類),土製品 1点(土玉)が出土している。 所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、15世紀後葉から 16世紀前葉と考えられる第 443号溝に掘り込まれていることから、15世紀後葉以前と考えられる。各柱穴が第 585号掘立柱建物跡の各柱 穴とほぼ重複し、規模もほぼ同じであることから、第 585号掘立柱建物跡から本建物への建て替えが行われた ものと推測できる。規模や形状から倉庫としての機能が想定される。

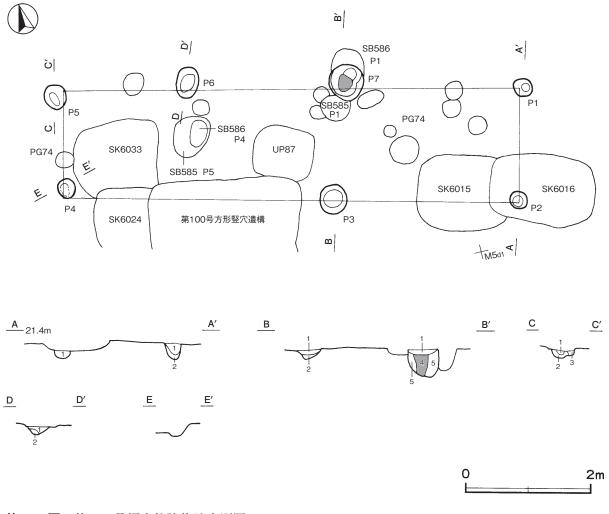
第 588 号掘立柱建物跡 (第 250 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 c9 ~ M 5 c1 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 585・586 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第 100 号方形竪穴遺構, 第 87 号地下式坑, 第 6015・6016・6024・6033 号土坑, 第 74 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 1 間の側柱建物跡で, 桁行方向が $N-70^{\circ}-W$ の東西棟である。規模は桁行 7.2 m, 梁行 1.7 mで,面積は 12.2 mである。柱間寸法は,桁行が西妻から 1.9 m,2.5m,2.5m,梁行は 1.7 mで間尺は異なっているが,柱筋は揃っている。



第 250 図 第 588 号掘立柱建物跡実測図

柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形で、長径 28 ~ 58cm、短径 28 ~ 53cmである。深さは 8 ~ 44cmである。 第 1 ~ 3層は柱抜き取り後の堆積層で、第 4層は柱痕跡、第 5層は埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

5 暗 褐 色 ローム粒子中量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

所見 時期は、伴う土器が出土していないため不明であるが、規模や形状から室町時代と考えられる。

表 37 室町時代掘立柱建物跡一覧表

	(1- m	U-4-1-1-	柱間数	規札	漠 [面積	柱間寸法		柱穴					備考	
番号	位置	桁行方向	桁×梁(間)	桁×梁	(m)	(m²)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)	主な出土遺物	i/III −6	
539	M 4 h9 ~M 4 i0	N - 82° - W	2 × 2	3.9 × 3	3.6	14.04	1.8 ~ 2.1	$1.7 \sim 1.9$	側柱	7	円形 楕円形	18 ~ 51	瑪瑙		
540	M 4 g0	N - 75° - W	2×1	3.9 × 3	3.0	11.70	$1.9 \sim 2.0$	3.0	側柱	5	円形 楕円形	$24 \sim 34$			
541	M 4 a7	N - 89° - W	2×1	4.2 ×	1.5	6.30	$2.0 \sim 2.2$	1.5	側柱	5	円形 楕円形	$14 \sim 42$		本跡→SE246, UP82	
542	M 4 f6	N - 70° - W	2×2	3.2 × 3	2.8	8.96	$1.1 \sim 2.1$	$1.1\sim1.7$	側柱	7	円形 楕円形	$12 \sim 40$			
543	M 4 g9 ~M 4 h0	N - 81° - W	2×1	5.1 × 3	3.9	19.89	2.4	3.9	側柱	6	円形 楕円形	$15\sim36$		SK6053 →本跡 → SD448	
544	M 4 h6 ~M 4 j8	N - 73° - W	3×2	6.0 × 3	3.7	22.20	2.0	1.8 ~ 2.0	側柱	8	円形・楕円形 不整楕円形	$40 \sim 70$	土師質土器,陶器片, 鉄製品	本跡→SD449	
545	M 4 h6 ~M 4 i8	N - 82° - W	3 × 3	5.9 × 1	3.7	21.83	1.6 ~ 2.5	0.9 ~ 1.5	側柱	10	円形・楕円形 不定形	18 ~ 64	粘土塊,鉄製品	SK6316, SA60· 65, PG78·79→本跡 → SD449	
585	M 4 c9 ~M 4 c0	N - 85° - E	2 × 1	4.8 × 1	2.2	10.60	2.4	2.2	側柱	5	円形 楕円形	$20 \sim 40$		本跡→ SB586 · 588, 第100号方形竪穴遺構, SD443	
586	M 4 c9 ~M 4 c0	N - 75° - E	2 × 1	5.4 × 1	2.9	15.60	$2.6 \sim 2.8$	2.9	側柱	4	円形 楕円形	32 ~ 58	土師器片, 須恵器片, 土製品	SB585 →本跡→ SB588, SD443	
588	M 4 c9 ~ M5c1	N - 70° - E	3 × 1	7.2 ×	1.7	12.20	$1.9 \sim 2.8$	1.7	側柱	7	円形 楕円形	8~44		SB585 · 586 →本跡	

(3) 井戸跡

第 224 号井戸跡 (第 251 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部の M 4 b8 区、標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第246号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は、径 1.35m の円形で、下位に行くに従ってすぼまっている。1.90 mまで掘り下げたが、 湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況で、多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 褐 色 ロームブロック多量

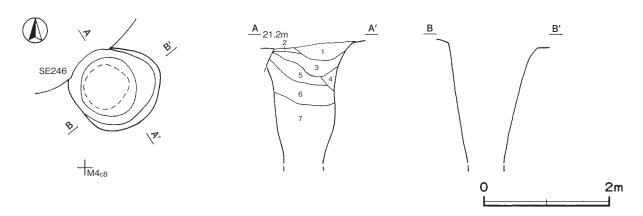
4 褐 色 ロームブロック少量

5 褐 色 ロームブロック微量

6 褐 色 ローム粒子多量

7 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片 6 点(甕類)のほか,須恵器片 1 点(坏),鉄製品 1 点(不明)が出土している。 所見 素掘りの構造である。時期は,出土土器が細片のため明確ではないが,重複関係から 15 世紀代と考え られる。



第 251 図 第 224 号井戸跡実測図

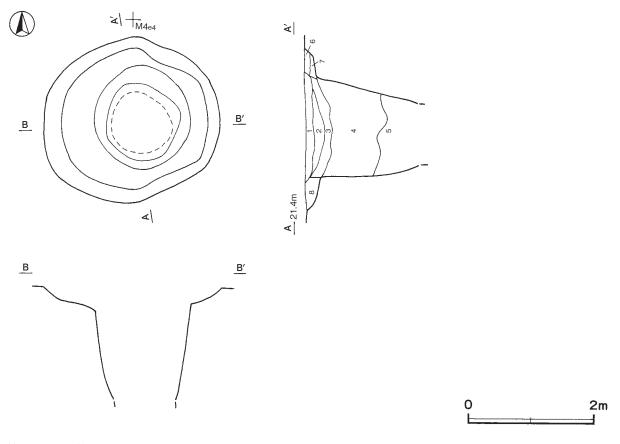
第 225 号井戸跡 (第 252 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 e3 区, 標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は、長径 2.86m、短径 2.50m の楕円形で、長径方向は $N-66^\circ-E$ である。確認面から 0.38 mまで漏斗状に掘り込み、下部は径 1.45 mの円筒状に掘り下げている。1.77 mまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 8層に分層できる。第 $4\sim8$ 層はロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 $1\sim3$ 層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積した層と考えられる。



第 252 図 第 225 号井戸跡実測図

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

4 灰黄褐色 ロームブロック中量

5 黒 褐 色 ロームブロック中量

6 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

7 暗 褐 色 ロームブロック少量

8 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 陶器片 1 点 (甕類), 鉄滓 1 点 (44.7 g) のほか, 土師器片 25 点 (坏 12, 高台付椀 1, 甕類 12). 須恵器片 19 点 (坏 9. 鉢 2. 甑 1. 甕類 7) が出土している。

所見 覆土の堆積状況や形状から,第6~8層は井戸枠の裏込め土の可能性がある。井戸枠は遺存していない。 時期は、出土土器が細片のため明確ではないが、16世紀代と考えられる。

第 226 号井戸跡 (第 253 ~ 259 図)

調査年度 平成 20 年度

重複関係 第6163・6257 号土坑, 第448 号溝跡を掘り込んでいる。

位置 15 区北部のM 4 h4 区,標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は、長径 4,60m、短径 3.96m の楕円形で、長径方向は $N-54^\circ-W$ である。確認面から 2.00 mまでは漏斗状に掘り込み、下部は径 1.10 mの円筒状に掘り下げている。2.50 mまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

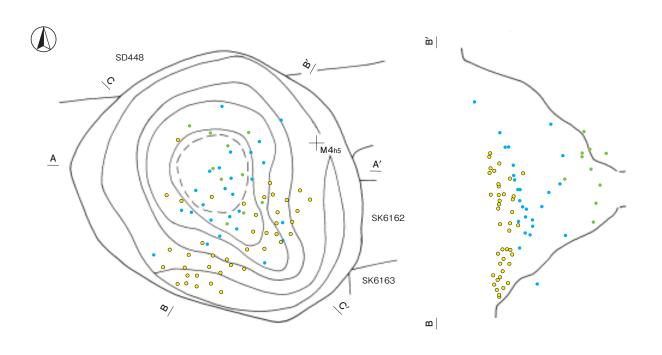
覆土 18層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

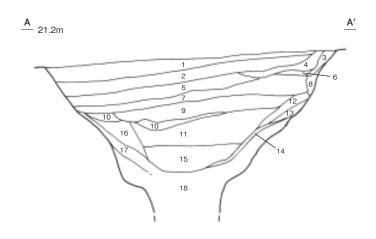
土層解説

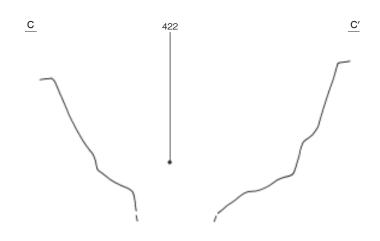
1 灰 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量 10 黒 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 11 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量 3 暗 褐 色 ローム粒子中量 12 暗 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量 4 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量 13 暗 褐 色 ロームブロック微量 色 ロームブロック微量 5 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量 14 里 6 暗 褐 色 ローム粒子少量 15 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子中量 7 暗 褐 色 ロームブロック少量 16 黒 褐 色 ローム粒子少量 色 ロームブロック中量 17 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量 8 褐 9 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 18 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片 48 点 (小皿 17, 内耳鍋 4, 擂鉢 2, 甕 25), 陶器片 3 点 (碗), 石器 1 点 (石臼), 石製品 103 点 (五輪塔 95, 宝篋印塔 1, 不明 7), 鉄器 1 点 (刀子) のほか, 土師器片 7 点 (坏 5, 高台付坏 1, 甑 1), 須恵器片 2 点 (坏, 甕類) が出土している。422・Q 38~Q 46・Q 113 は覆土下層, Q 47~Q 72・Q 112 は覆土中層, 423~425・428・Q 73~Q 111・M45 は覆土上層, 426・427・Q37 は覆土中からそれぞれ出土している。五輪塔の内訳は、空風輪が 14 点、火輪が 19 点、水輪が 17 点、地輪が 24 点である。出土した空風輪の様相から制作時期の差はそれほどはなく、出土位置から井戸の南側から一括投棄されたと想定される。また、覆土下層の五輪塔が出土した層位と同じ場所から、雲母片岩が出土した。切り出し痕や削り出し痕が見られることから、板碑や礎石の可能性も考えられるが詳細は不明である。

所見 時期は、出土土器から 15世紀後半から 16世紀前半と考えられる。五輪塔は出土状況から、本跡の南側から東側にかけて建立されていたと想定できる。本跡から南東約 50 mには妙徳寺があり、本跡の南東部付近は墓域であった可能性がある。

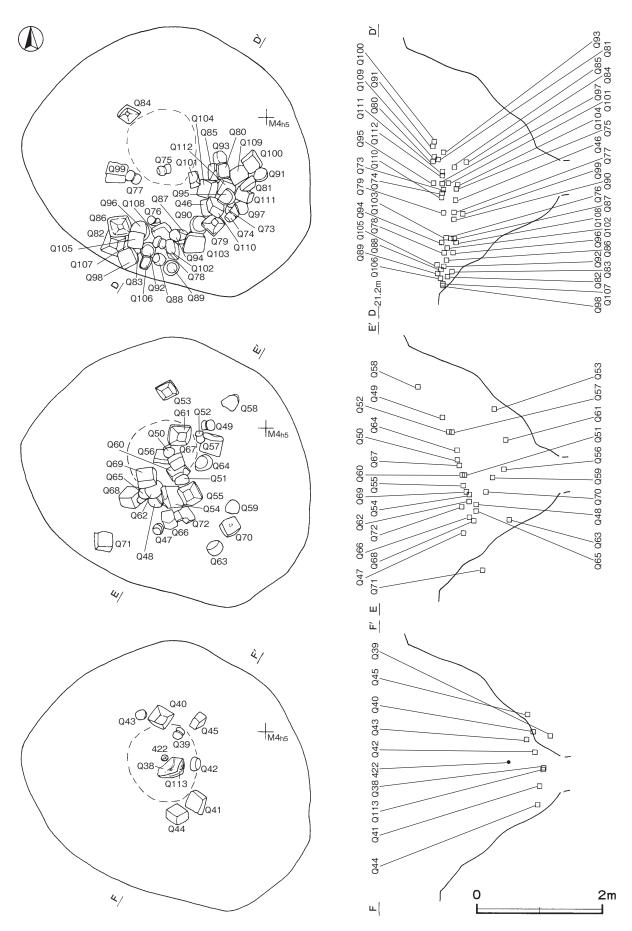




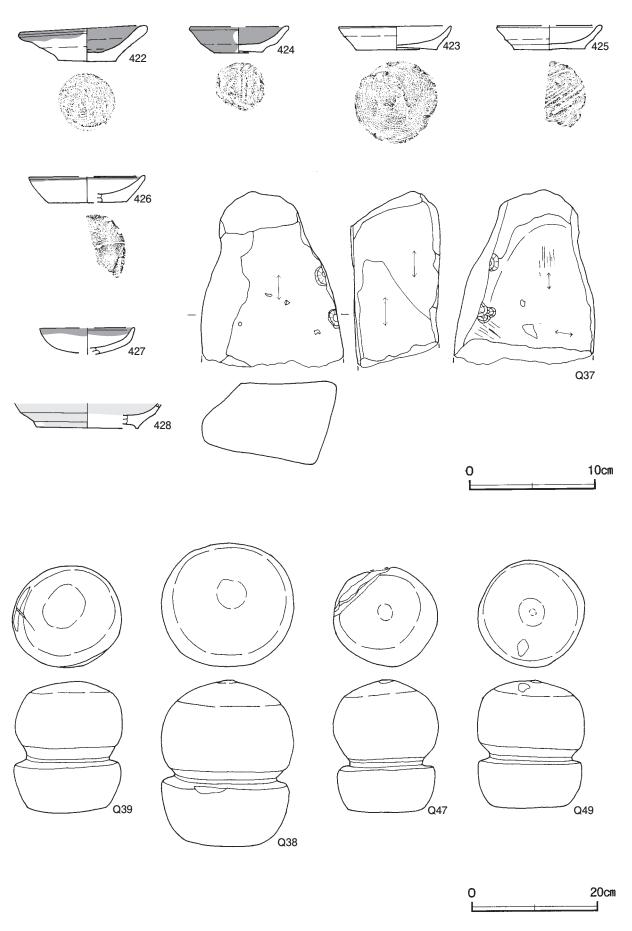




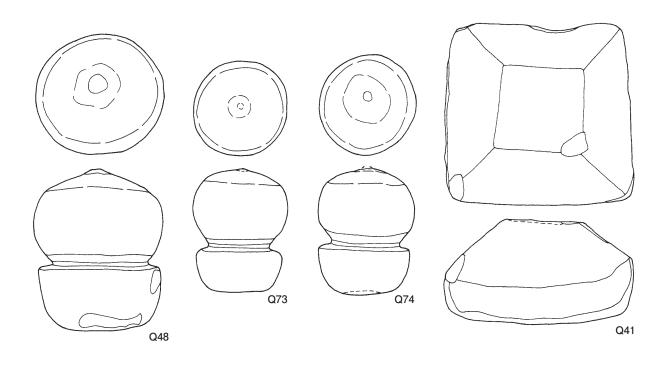
第 253 図 第 226 号井戸跡実測図 (1)

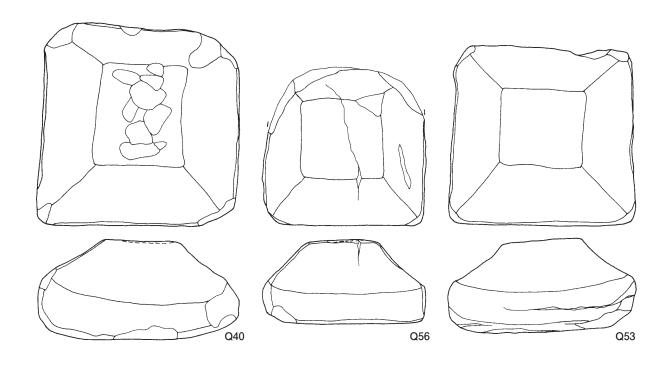


第 254 図 第 226 号井戸跡実測図 (2)



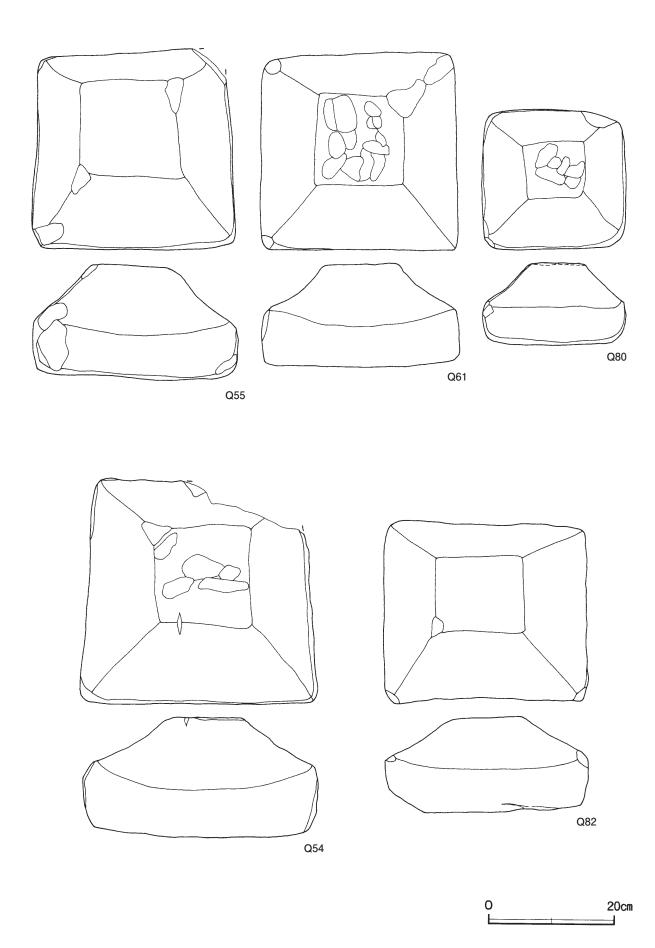
第 255 図 第 226 号井戸跡出土遺物実測図(1)



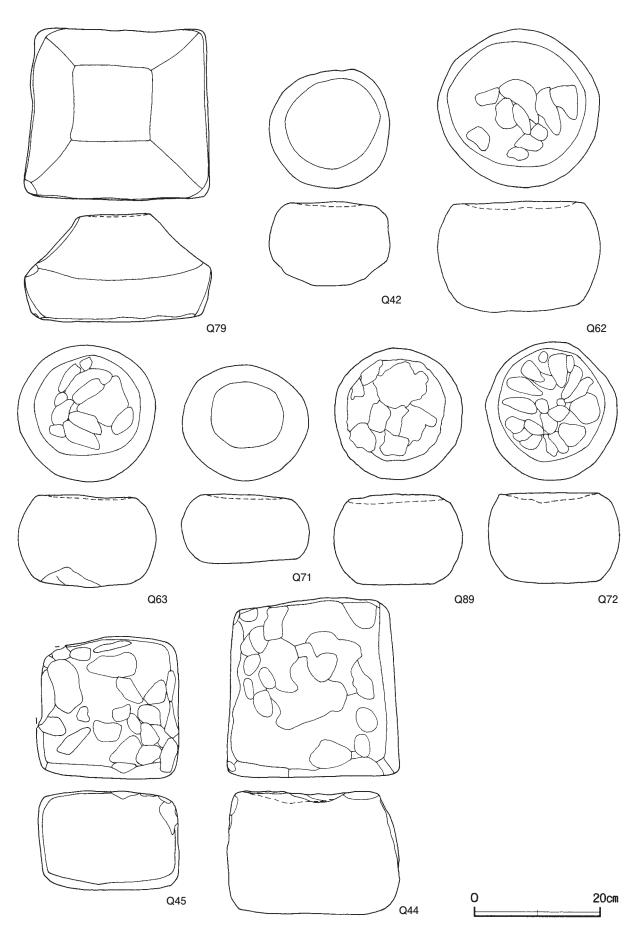




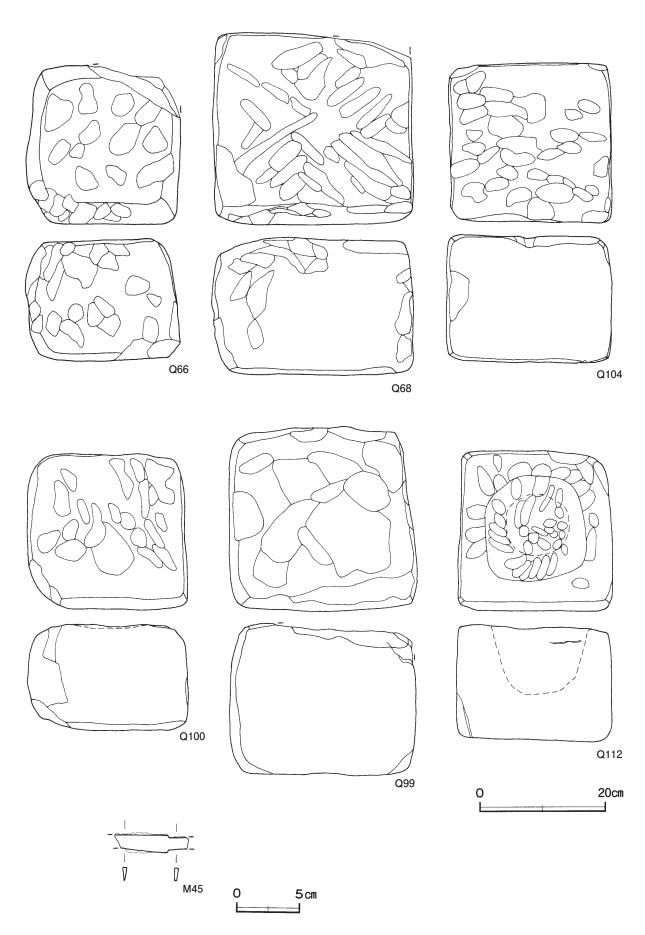
第256 図 第226 号井戸跡出土遺物実測図(2)



第257図 第226号井戸跡出土遺物実測図(3)



第258図 第226号井戸跡出土遺物実測図(4)



第259 図 第226 号井戸跡出土遺物実測図(5)

第 226 号井戸跡出土遺物観察表(第 255 ~ 259 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成			特徴ほ		出土位置	備	
422	土師質土器	小皿	10.0	2.9	4.6	長石・石英・ 雲母	浅黄橙	普通	ロクロナロ目(う	デ 底部回転 ずまき状) [内底面仕上げ	部内面ロク ナデ	覆土下層	100% 油煙付茅	
423	土師質土器	小皿	8.9	1.9	6.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通			糸切り 内底		覆土上層	70%	PL76
424	土師質土器	小皿	[7.8]	2.1	3.9	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	内底面仕	上げナデ	糸切り後へラ		覆土上層	60% 油煙付	着
425	土師質土器	小皿	[8.2]	1.9	5.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	内底面仕		糸切り後へラ	プナデ	覆土上層	50%	
426	土師質土器	小皿	[9.2]	2.1	[6.2]	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	ロクロナ	デ 底部回転	糸切り 内底	面仕上げナデ	覆土中	40%]	着
427	土師質土器	小皿	[7.6]	(2.1)	_	長石・石英	にぶい橙	普通	非ロクロ	成形 口縁部	外・内底面仕	上上げナデ	覆土中	50% P. 油煙付着	L76 <u>† </u>
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調		絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考
428	陶器	丸皿	-	(2.0)	[8.0]	長石	淺黄橙		-	灰自	瀬戸・美濃系	16 C前	覆土上層	5 %	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質				特 賀	ά		出土位置	備	考
Q 37	砥石	(14.0)	11.4	7.3	(1,254.8)	安山岩	砥石5面						覆土中	PL88	
Q 38	五輪塔	26.6	21.2	20.0	(20,800)	花崗岩	空風輪 庭	医面ノ	ミ状工具	良			覆土下層		
Q 39	五輪塔	21.0	17.4	16.2	(10,200)	花崗岩	空風輪 -	部欠	損				覆土下層		
Q 40	五輪塔	32.2	32.4	16.0	(29,300)	花崗岩	火輪 軒兒	心外反	上面ノ	ミ状工具痕			覆土下層		
Q 41	五輪塔	(29.9)	30.2	16.8	(31,000)	花崗岩	火輪 軒昇	:外反	一部欠	損			覆土下層		
Q 42	五輪塔	19.0	19.4	13.4	(7,700)	花崗岩	水輪 一部	『欠損	l				覆土下層		
Q 43	五輪塔	15.6	(14.0)	13.6	(5,000)	花崗岩	水輪 上面	ゴノミ	状工具痕	一部欠損			覆土下層	計測値	のみ
Q 44	五輪塔	28.6	27.6	19.6	(34,200)	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	一部欠損		覆土下層		
Q 45	五輪塔	(22.4)	(22.6)	15.8	(20,200)	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	一部欠損		覆土下層		
Q 46	五輪塔	25.0	24.8	16.6	23,200	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	:		覆土下層	計測値	のみ
Q 47	五輪塔	21.2	26.8	15.8	(9,200)	花崗岩	空風輪 -	部欠	損				覆土中層	PL89	
Q 48	五輪塔	26.0	20.8	19.4	(19,000)	花崗岩	空風輪 -	部欠	損				覆土中層	PL89	
Q 49	五輪塔	20.4	17.2	17.0	(12,200)	花崗岩	空風輪						覆土中層		
Q 50	五輪塔	(18.8)	18.0	(16.6)	(7,400)	花崗岩	空風輪 糸	的半分	欠損				覆土中層	計測値	のみ
Q 51	五輪塔	(20.6)	15.0	(14.0)	(6,500)	花崗岩	空風輪 -	部欠	損				覆土中層	計測値	のみ
Q 52	五輪塔	(16.8)	(13.4)	14.2	(4,800)	花崗岩	空風輪 -	部欠	損				覆土中層	計測値	のみ
Q 53	五輪塔	28.6	30.0	14.8	(21,900)	花崗岩	火輪 軒兒	:外反	一部欠	損			覆土中層		
Q 54	五輪塔	(36.2)	37.8	19.2	(44,800)	花崗岩	火輪 軒昇	こわず	かに外反	一部欠損			覆土中層		
Q 55	五輪塔	(31.8)	(31.8)	18.6	(34,600)	花崗岩	火輪 軒昇	こわず	かに外反	一部欠損			覆土中層	PL90	
Q 56	五輪塔	(25.4)	26.2	13.6	(16,000)	花崗岩	火輪 軒兒	:外反	一部欠	損			覆土中層		
Q 57	五輪塔	35.8	36.0	19.2	45,400	花崗岩	火輪 軒兒	こわず	かに外反	上面わずか	にノミ状工具	-痕	覆土中層	計測値	のみ
Q 58	五輪塔	(22.2)	24.2	9.4	(8,600)	花崗岩	火輪 軒昇	心外反	一部欠	損			覆土中層	計測値	のみ
Q 59	五輪塔	(24.0)	(23.4)	(12.2)	(10,200)	花崗岩	火輪 軒夘	:外反	欠損 .	上面ノミ状工	具痕		覆土中層	計測値	のみ
Q 60	五輪塔	28.2	30.4	13.4	(21,500)	花崗岩	火輪 軒昇	こわず	かに外反	一部欠損			覆土中層	計測値	のみ
Q 61	五輪塔	31.6	31.6	16.8	(33,500)	花崗岩	火輪 軒昇	:外反	上面ノ	ミ状工具痕	一部欠損		覆土中層	PL90	
Q 62	五輪塔	25.4	26.2	17.8	(28,600)	花崗岩	水輪 上面	百わず	かにノミ	 伏工具痕 一	部欠損		覆土中層		
Q 63	五輪塔	22.0	22.0	15.0	(14,600)	花崗岩	水輪 上面	ゴノミ	状工具痕	あり 一部欠	損		覆土中層		
Q 64	五輪塔	23.0	22.2	15.6	18,500	花崗岩	水輪 上面	i わず	かにノミ	 伏工具痕			覆土中層	計測値	のみ
Q 65	五輪塔	16.2	14.4	(13.6)	(6,100)	花崗岩	水輪 上面	ゴノミ	状工具痕	一部欠損			覆土中層	計測値	のみ
Q 66	五輪塔	(25.4)	24.6	19.8	(26,200)	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	一部欠損		覆土中層		
Q 67	五輪塔	25.2	24.0	18.0	26,300	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	:		覆土中層	計測値	のみ
Q 68	五輪塔	30.6	32.0	21.8	(49,800)	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	一部欠損		覆土中層		
Q 69	五輪塔	28.2	28.8	20.0	(35,700)	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	一部欠損		覆土中層	計測値	のみ
Q70	五輪塔	26.6	27.0	20.2	(31,200)	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	一部欠損		覆土中層	計測値	のみ
Q71	五輪塔	25.0	26.6	16.8	(28,600)	花崗岩	地輪 上面	ゴノミ	状工具痕	断面長方形	一部欠損		覆土中層	計測値	のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徵	出土位置	備考
Q 72	五輪塔	(25.6)	24.8	17.2	(20,100)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具痕 断面長方形 一部欠損	覆土中層	NII -2
Q 73	五輪塔	19.8	15.0	15.0	(8,200)	花崗岩	空風輪 一部欠損	覆土上層	
Q 74	五輪塔	(20.2)	15.6	16.2	(9,800)	花崗岩	空風輪 頂上部・底部くばみあり 一部欠損	覆土上層	PL89
Q 75	五輪塔	21.2	17.0	15.2	(9,000)	花崗岩	空風輪 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 76	五輪塔	20.6	16.0	16.2	(9,800)	花崗岩	空風輪 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 77	五輪塔	23.0	17.8	(17.4)	(13,400)	花崗岩	空風輪 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 78	五輪塔	19.0	15.2	16.2	(9,800)	花崗岩	空風輪 一部欠損	78 土上層	計測値のみ
Q 79	五輪塔	27.6	29.6	17.2	(24,500)	花崗岩	火輪 軒先外反 一部欠損	78 土上層	PL89
	五輪塔	22.4	23.0	13.2	(11,800)		大輪 軒先わずかに外反 上面わずかにノミ状工具痕あり	覆土上層	PL90
Q 80						花崗岩	一部欠損		
Q 81	五輪塔	26.2	27.8	16.2	(21,000)	花崗岩	火輪 軒先外反 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 82	五輪塔	29.2	32.6	(10.0)	(27,400)	花崗岩	火輪 軒先外反 一部欠損	覆土上層	PL89
Q 83	五輪塔	(23.8)	(25.0)	(12.2)	(10,000)	花崗岩	火輪 軒先わずかに外反 欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 84	五輪塔	26.8	26.4	13.2	21,000	花崗岩	火輪 軒先外反 上面ノミ状工具による加工痕	覆土上層	計測値のみ
Q 85	五輪塔	33.0	34.0	18.0	(35,200)	花崗岩	火輪 軒先わずかに外反 上面ノミ状工具による加工痕	覆土上層	計測値のみ
Q 86	五輪塔	31.2	31.2	17.8	(31,200)	花崗岩	火輪 軒先外反 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 87	五輪塔	(22.6)	(21.2)	14.8	(13,600)	花崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 88	五輪塔	18.4	18.4	13.4	(8,500)	花崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 89	五輪塔	21.0	20.6	14.6	(14,000)	花崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損	覆土上層	PL90
Q 90	五輪塔	23.0	23.4	16.8	19,700	花崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕	覆土上層	計測値のみ
Q 91	五輪塔	18.4	20.4	11.2	8,000	花崗岩	水輪 上面わずかにくぼみあり	覆土上層	計測値のみ
Q 92	五輪塔	22.0	21.2	14.6	15,400	花崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕	覆土上層	PL90
Q 93	五輪塔	20.0	21.4	13.6	(12,000)	花崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕 底部平坦 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 94	五輪塔	19.0	19.2	12.0	(7,700)	花崗岩	水輪 底部平坦 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 95	五輪塔	(15.8)	22.6	12.6	(7,400)	花崗岩	水輪 約半分欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 96	五輪塔	25.0	28.0	18.2	30,500	花崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕	覆土上層	計測値のみ
Q 97	五輪塔	20.0	21.6	14.8	(13,600)	花崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 98	五輪塔	25.0	25.2	17.8	(26,500)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 99	五輪塔	(29.4)	(30.0)	(24.0)	(52,000)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	
Q 100	五輪塔	25.0	25.6	17.0	(23,200)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	
Q 101	五輪塔	20.4	20.6	14.8	14,000	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形	覆土上層	計測値のみ
Q 102	五輪塔	25.6	26.2	20.6	29,800	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形	覆土上層	計測値のみ
Q 103	五輪塔	26.4	27.2	19.0	(35,400)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 104	五輪塔	25.7	26.5	20.3	(36,900)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	PL90
Q 105	五輪塔	23.8	23.8	17.4	(18,800)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 106	五輪塔	(22.0)	20.0	16.2	(14,200)	花崗岩	地輪 断面台形 約半分欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 107	五輪塔	27.6	28.2	20.0	(30,800)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 108	五輪塔	28.0	27.0	20.4	(30,800)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 底面皿状のくぼみあり 断面長方形 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 109	五輪塔	24.2	25.2	19.0	(29,200)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 110	五輪塔	22.4	24.2	18.2	(23,000)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 111	五輪塔	25.0	25.4	18.2	(27,500)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 断面長方形 一部欠損	覆土上層	計測値のみ
Q 112	宝篋印塔	25.4	25.0	18.6	(25,200)	花崗岩	塔身 上部皿状のくぼみあり 断面長方形 一部欠損	覆土中層	
Q 113	不明	36.1	17.4	26.0	33,500	雲母片岩	切り出し痕 削り出し痕あり 板碑・礎石に使用。	覆土下層	計測値のみ
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	 材 質	特	出土位置	備考
M45	刀子	(5.9)	1.4	0.4	(8.72)		刃部から茎部にかけての破片 茎部断面長方形 両関	覆土上層	PL91

第 228 号井戸跡 (第 260 · 261 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 j6 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

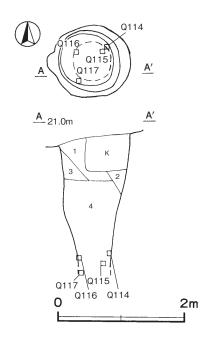
規模と形状 確認面は、長径 1.36m、短径 1.16m の楕円形で、長径方向は $N-85^{\circ}-W$ である。下位に行くに従ってややすぼまっている。 2.08m まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、不規則な 堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

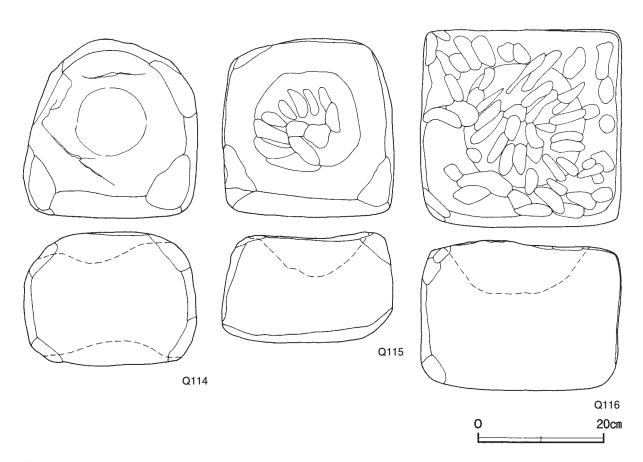
- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量 (締まり弱い)

遺物出土状況 土師質土器片 5 点 (甕類), 石製品 3 点, (五輪塔 2, 宝篋印塔 1), 木製品 1 点 (不明:長さ 111cm, 重さ 1183.2 g), 雲母片岩 1 点のほか, 石鏃 1 点 (頁岩) が出土している。Q 114~Q117は覆土下層から出土している。



第 260 図 第 228 号井戸跡実測図

所見 素掘りの構造である。出土土器や遺構の形状から室町時代前半と考えられる。



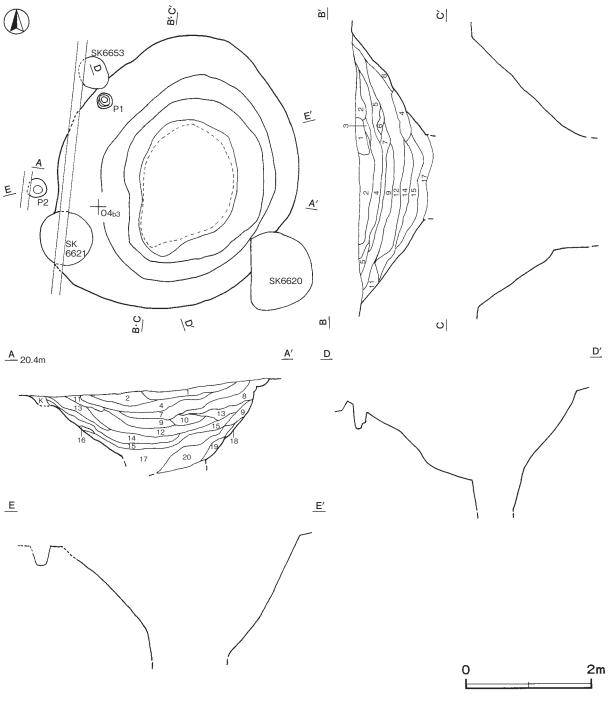
第 261 図 第 228 号井戸跡出土遺物実測図

第 228 号井戸跡出土遺物観察表(第 261 図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徵	出土位置	備考
Q 114	五輪塔	28.0	(28.6)	21.4	(28,400)	花崗岩	水輪 上面底面にくぼみあり 一部欠損	覆土下層	
Q 115	五輪塔	28.6	27.6	17.8	35,200	花崗岩	地輪 角3か所欠損 上面くぼみあり 断面長方形 一部欠損	覆土下層	
Q 116	宝篋印塔	31.4	32.2	23.0	59,200	花崗岩	基部 角2か所欠損 上面くぼみあり 断面長方形 一部欠損	覆土下層	
Q 117	不明	29.6	10.6	30.1	22,900	雲母片岩	切り出し痕 削り出し痕あり 板碑・礎石に使用ヵ	覆土下層	計測値のみ

第 232 号井戸跡 (第 $262 \sim 264$ 図)

調査年度 平成 21 年度



第 262 図 第 232 号井戸跡実測図

位置 15 区南部の O 4 a3 区、標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6620 · 6621 · 6653 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は、長径 4.40m、短径 3.80m の楕円形で、長径方向はN-12°-Eである。確認面から 1.00 mまでを漏斗状に掘り込んだ後、径 1.34 mの円筒状に掘り下げている。1.82 mまで掘り下げたが、湧水 のため下部の調査を断念した。

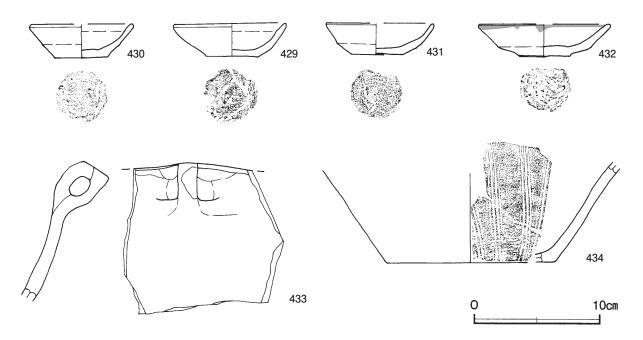
ピット 2 か所。P1 は掘り込みから約 20cm西側に、P2 は掘り込みから約 30cm西側にある。井戸部の長径 方向とほぼ平行に位置しており、P1とP2の柱間寸法は1.8 mである。平面形は円形でP1は径26cm、深さ 48cmで、P 2 は径 34cm、深さ 32cmである。付属施設の可能性がある

覆土 20 層に分層できる。ロームや粘土のブロックが含まれている層が多いことから埋め戻されている。

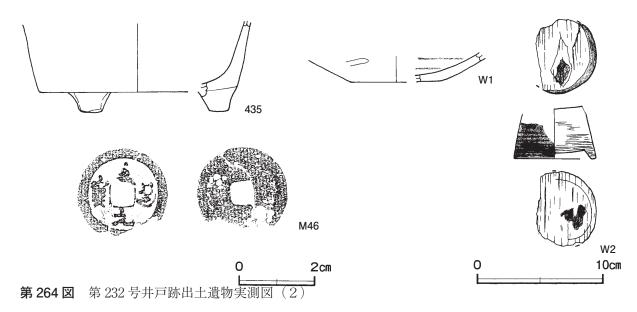
土層解説 1 灰 褐 色 粘土ブロック中量 11 黒 褐 色 ロームブロック少量 色 ロームブロック少量 裾 12 明 褐 色 ロームブロック少量 3 明 褐 色 ロームブロック微量 13 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 4 黒 褐 色 ローム粒子・炭化物微量 14 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 にぶい褐色 ロームブロック少量 15 褐 色 ローム粒子微量 明 褐 色 ローム粒子少量 16 黒 褐色 ローム粒子少量 17 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量 7 暗 褐 色 ローム粒子微量 色 ローム粒子少量 18 明 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量 19 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 色 ローム粒子・炭化粒子微量 9 裾 10 黒 褐 色 ロームブロック微量 20 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片 63 点 (小皿 10. 内耳鍋 15. 擂鉢 7. 火鉢 4. 甕類 27). 陶器片 3 点 (甕). 石 器1点(砥石), 銭貨1点(至道元寳), 木製品5点(椀2, 木杭1, 木片2)のほか, 土師器片1点(坏), 須恵器片5点(甕類)が出土している。429・431・433・435・M46・W1・W2は覆土下層、430・432・434 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。



第 263 図 第 232 号井戸跡出土遺物実測図 (1)



第 232 号井戸跡出土遺物観察表 (第 263·264 図)

						ı			I	i	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
429	土師質土器	小皿	8.9	2.7	4.1	長石・石英・砂粒	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 底体部内 面ロクロ目 内底面仕上げナデ	覆土下層	70% PL76
430	土師質土器	小皿	[8.0]	2.7	4.2	長石	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 底体部内面ロクロ目 仕上げナデ	覆土上層	30% PL76
431	土師質土器	小皿	[8.4]	2.5	4.0	長石・石英・雲母				覆土下層	50%
432	土師質土器	小皿	[10.2]	2.6	4.2	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	覆土上層	20% 油煙付着
433	土師質土器	内耳鍋	-	(12.0)	_	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	10% 外面煤付着
434	土師質土器	擂鉢	_	(8.0)	[13.2]	長石・石英・雲母	褐	普通	3条1単位の擂り目	覆土上層	10%
435	土師質土器	火鉢	-	(7.1)	[15.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	三足付きヵ	覆土下層	20%

番号	銭 種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	初鋳年	特 徵	出土位置	備考
M46	至道元寶	2.5	1.08	0.6	(1.87)	銅	995年	無背	覆土下層	PL92

番号	器種	口径	器高	底径	特	出土位置	備考
W 1	椀	_	(2.3)	[7.2]	横木取り板目 ロクロ挽き	覆土下層	
W 2	椀	_	(4.1)	[6.4]	横木取り板目 ロクロ挽き 環状高台削出	覆土下層	漆付着

第 235 号井戸跡 (第 265 · 266 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の O 3 d0 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第234号井戸跡を掘り込み、第513号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は、長径 2.48m、短径 2.32m の円形で、確認面から 0.56 mまでを漏斗状に掘り込んだ後、径 1.24 mの円筒状に掘り下げている。1.50 mまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 16 層に分層できる。ほとんどの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

2 灰 白 色 粘土ブロック多量

3 暗 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒 子・炭化粒子微量

4 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量

5 暗 褐 色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量

6 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量

7 灰黄褐色 粘土ブロック多量

8 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

9 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

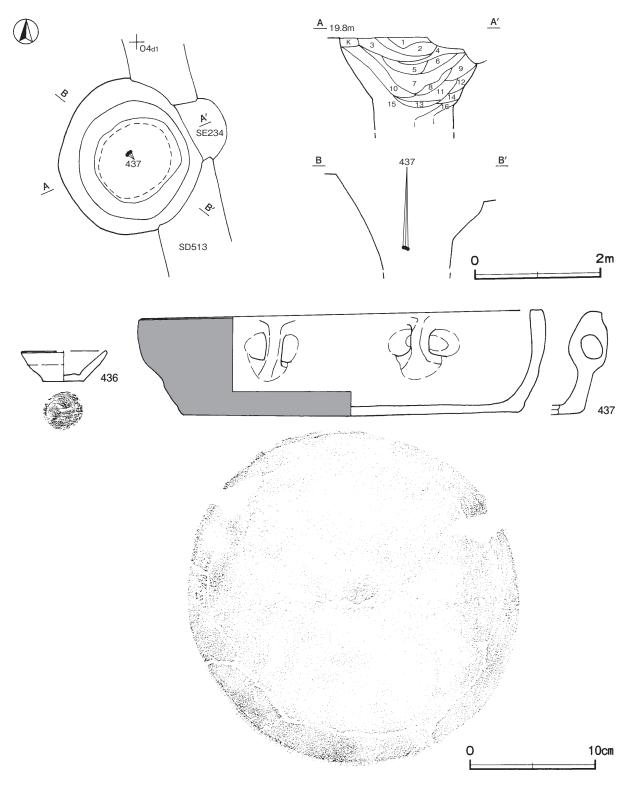
10 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

11 黒 褐 色 粘土ブロック少量

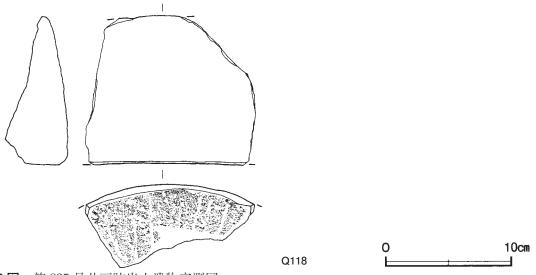
12 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片 4 点 (小皿 1, 焙烙 2, 擂鉢 1), 石器 3 点 (石臼) のほか, 須恵器片 1 点 (甕類) が出土している。437・Q 118 は覆土下層, 436 は覆土中から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。



第 265 図 第 235 号井戸跡·出土遺物実測図



第266 図 第235 号井戸跡出土遺物実測図

第 235 号井戸跡出土遺物観察表 (第 265 · 266 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
436	土師質土器	小皿	[6.6]	2.4	3.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	覆土中	50% PL76
437	土師質土器	焙烙	32.2	8.6	26.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部へラ削り	覆土下層	95% PL77 外面煤付着

番号	器 種	径	孔径	厚さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
Q 118	石臼	[26.0]	-	(11.8)	(827.8)	凝灰岩	上臼 裏側7条の擂り目	覆土下層	

第 236 号井戸跡 (第 267 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の O 4 b3 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は、長径 2.77m、短径 2.38m の楕円形で、長径方向は $N-46^{\circ}-E$ である。確認面から 0.94 mまでを漏斗状に掘り込んだ後、径 1.48 mの円筒状に掘り下げている。1.30 mまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

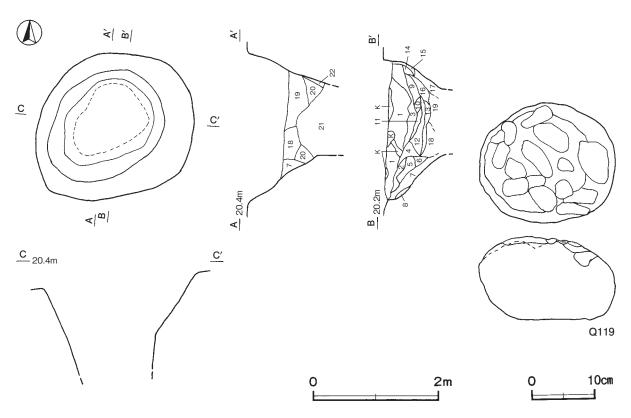
覆土 22 層に分層できる。ほとんどの層にロームや粘土ブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示している ことから埋め戻されている。

土層解説

1	灰 白 色	粘土ブロック多量,炭化粒子微量	12	にぶい黄橙色	粘土ブロック多量,ロームブロック少量,炭化粒
2	褐 色	ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土粒子・			子微量
		炭化粒子微量	13	褐 色	ロームブロック中量,粘土ブロック・焼土粒子・
3	にぶい黄橙色	粘土ブロック多量,炭化粒子微量			炭化粒子微量
4	にぶい黄橙色	粘土ブロック中量,ロームブロック少量,炭化粒	14	褐 色	ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土粒子・
		子微量			炭化粒子微量
5	暗 褐 色	ロームブロック少量,炭化粒子微量	15	黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒 褐 色	ロームブロック少量	16	暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック少量,炭化粒子微量
7	暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量	17	褐 色	ロームブロック中量,炭化物微量
8	暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化粒子微量	18	黒 褐 色	ロームブロック少量,炭化粒子微量
9	褐 色	ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化粒子微量	19	褐 色	ロームブロック中量,炭化粒子微量
10	褐 色	ロームブロック中量,粘土ブロック微量	20	極暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量
11	にぶい黄橙色	粘土ブロック中量,ロームブロック少量,焼土粒	21	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
		子・炭化粒子微量	22	灰 褐 色	粘土ブロック少量,ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 11 点(焙烙 $_{n}$ 1 , 甕類 10),石製品 1 点(五輪塔)のほか,土師器片 6 点(甕)が出土している。 Q119 は覆土下層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は出土土器から室町時代後半と考えられる。



第267 図 第236 号井戸跡・出土遺物実測図

第236号井戸跡出土遺物観察表(第267図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質	特 徵	出土位置	備考
Q 119	五輪塔	19.2	(21.8)	13.2	(8.800)	花崗	崗岩	水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損	覆土下層	

第 237 号井戸跡 (第 268 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の O 4 d3 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は,直径 1.10m の円形で,下位に行くに従ってすぼまっている。1.38 mまで掘り下げたが, 湧水のため下部の調査を断念した。

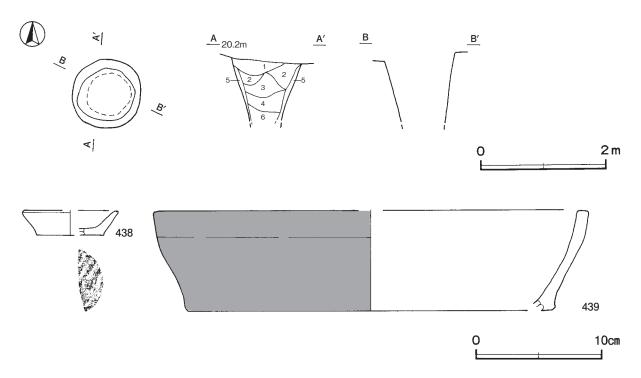
覆土 6層に分層できる。各層にロームや粘土のブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量
- 5 黒 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・焼 土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片 6 点 (小皿 2 , 焙烙 1 , 甕類 3) のほか , 土師器片 3 点 (甕) が出土している。 438・439 は覆土上層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から室町時代後半と考えられる。



第 268 図 第 237 号井戸跡·出土遺物実測図

第237号井戸跡出土遺物観察表(第268図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
438	土師質土器	小皿	[7.4]	2.0	[5.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土上層	30%
439	土師質土器	焙烙	[34.6]	8.0	[29.2]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土上層	20% 外面煤付着

第 245 号井戸跡 (第 269 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 a8 区、標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6071 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は, 長径 1.60m, 短径 1.30m の楕円形で, 長径方向はN-16°-Eである。確認面から70 cmまでは漏斗状に掘り込み、下部は径 0.88m の円筒状に掘り下げている。1.60m まで掘り下げたが、湧水のた め下部の調査を断念した。

覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

6 暗 褐 色 ローム粒子少量(締まり弱い)

色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

7 褐 色 ロームブロック少量 8 暗 褐 色 ローム粒子中量

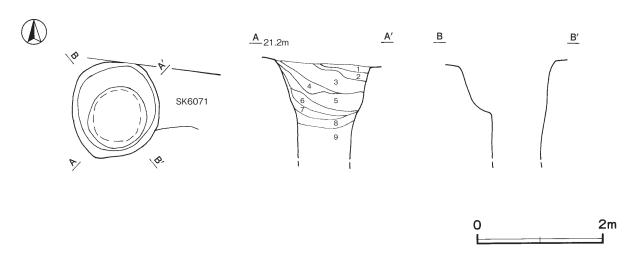
3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

9 暗 褐 色 ローム粒子少量

4 暗 褐 色 ロームブロック中量 5 黒 褐 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片7点(内耳鍋1,甕類6)のほか,土師器片3点(坏2,甕1),須恵器片2点(甕 類)が出土している。いずれも細片のため、図示できない。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から室町時代後半と考えられる。



第 269 図 第 245 号井戸跡実測図

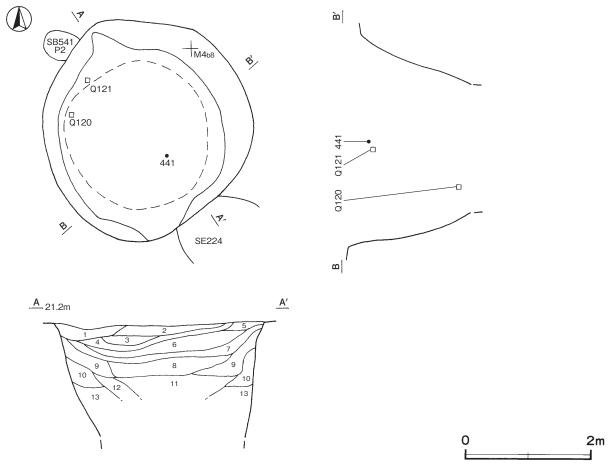
第 246 号井戸跡 (第 270 · 271 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 b7 区,標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第541号掘立柱建物跡,第224号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は、径 3.38m の円形である。下位に行くに従ってすぼまっている。1.90 mまで掘り下げた



第 270 図 第 246 号井戸跡実測図

が、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック微量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

4 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量 5 灰 褐 色 ローム粒子中量,粘土粒子少量

6 褐 色 ロームブロック中量

7 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

8 極暗褐色 ローム粒子少量

9 褐 色 ローム粒子中量

10 褐 色 ローム粒子多量

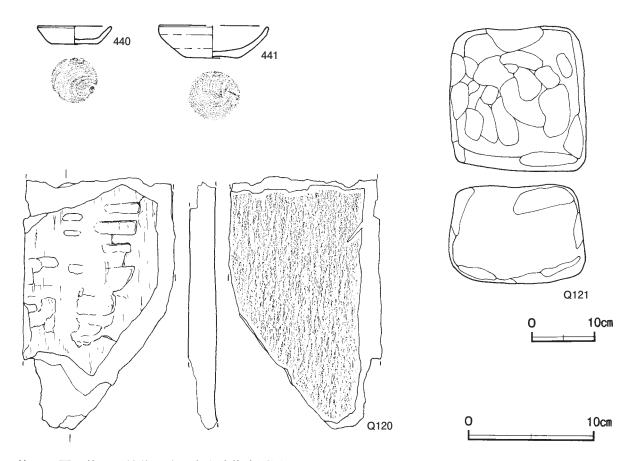
11 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量

12 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量

13 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 95 点 (小皿 25, 焙烙 67, 擂鉢 3), 石製品 3 点 (五輪塔 2, 板碑 1), 自然遺物 (貝) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢), 土師器片 7 点 (坏 2, 椀 3, 高坏 2), 須恵器片 5 点 (甕類) が出土している。440・Q120 は覆土下層, 441・Q121 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器や重複関係から、16世紀後半と考えられる。



第271 図 第246 号井戸跡·出土遺物実測図

第246号井戸跡出土遺物観察表(第271図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手	法の特	徴ほか	出土位置	備	考
440	土師質土器	小皿	5.9	1.5	3.7	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ ロ目	底部回転糸切	り 底体部内面ロク	覆土下層	100%	PL76
441	土師質土器	小皿	[8.8]	2.6	4.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	ロクロナデ	底部回転糸切	り 内底面仕上げナデ	覆土上層	60%	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徵	出土位置	備考
Q 120	板碑	(20.1)	(12.2)	2.2	(910.4)	緑泥片岩	基部 表面は横位に幅 1.2cm程の工具痕を 6 条確認した 裏面は 未調整	覆土下層	
Q 121	五輪塔	(23.2)	22.0	15.8	(17.400)	花崗岩	地輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 断面長方形	覆土上層	

表 38 室町時代井戸跡一覧表

- A- D	在 國	巨汉十六	T = T/	規	模	r =	PW 75	覆土	->>- 11: 1. \tax iii	備考
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 面	壁面	覆土	主な出土遺物	/順 考
224	M 4 b8	-	〔円形〕	1.35 × (1.35)	(190)	-	円筒状	人為	土師質土器片,鉄製品	本跡→ SE246
225	M 4 e3	N - 66° - E	楕円形	2.86 × 2.50	(177)	-	漏斗状	自然 人為	陶器片, 鉄滓	
226	M 4 h4	N - 54° - W	楕円形	4.60 × 3.96	(250)	-	漏斗状	人為	土師質土器片,陶器片,石製品, 金属製品	SK6163 · 6257, SD448 →本跡
228	M 4 j6	N - 85° - W	楕円形	1.36 × 1.16	(208)	-	円筒状	人為	土師質土器片,石製品,木製品	
232	O 4 a3	N - 12° - E	楕円形	4.40 × 3.80	(182)	-	漏斗状	人為	土師質土器片,陶器片,石製品, 木製品,銭貨	本跡→ SK6620 · 6621 · 6653
235	O 3 d0	_	円形	2.48 × 2.32	(150)	_	漏斗状	人為	土師質土器片,	SE234 →本跡 → SD513
236	O 4 b3	$N-46^{\circ}-E$	楕円形	2.77 × 2.38	(148)	-	漏斗状	人為	土師質土器片,石製品	
237	O 4 d3	-	円形	1.10 × 1.10	(138)	-	円筒状	人為	土師質土器片,	
245	M 4 a8	N - 16° - E	楕円形	1.60 × 1.30	(160)	-	漏斗状	人為	土師質土器	SK6071 →本跡
246	M 4 b7	-	〔円形〕	(3.38) × 3.38	(190)	-	円筒状	人為	土師質土器片,石製品	SB541 · SE224 → 本跡

(4) 火葬施設

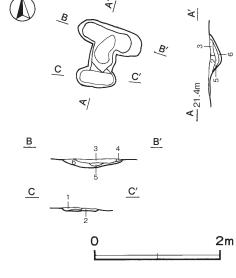
第 6156 号土坑 (第 272 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部の M 4 e3 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は呂字状で,主軸方向はN-165°-Wである。焚口部は奥行 0.34m, 横幅 0.62 mの楕円形で,確認面からの深さは 5 cmである。通風溝は長さ 0.70 m,上幅 0.44 m,下幅 0.24 m,確認面からの深さは 13 cmで,底面は燃焼部に向かって緩やかに下がっている。燃焼部は奥行き 0.38 m,横幅 1.06 mの楕円形で,主軸と直交している。確認面からの深さは 18 cmで,壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。



第 272 図 第 6156 号火葬施設実測図

土層解説

- 1 黒 色 炭化物中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量
- 4 黒 褐 色 炭化粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・骨片・骨 粉微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 燃焼部上層から骨片及び骨粉が出土している。

所見 焼土と炭化物及び骨片と骨粉が出土していることから、火葬施設である。伴う遺物が出土していないことから時期は不明であるが、本跡の北側にある井戸跡と同時期の可能性があり、16世紀代と考えられる。

(5) 地下式坑

第82号地下式坑(第273図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 b6 区、標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 541 号掘立柱建物跡, 第 6265・6269 号土坑を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は 2.62m で、軸方向は N - 19° - Eである。

堅坑 主室の南壁中央部に位置し、奥行 1.24m、横幅 1.60m の長方形である。深さ 90cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は南面の上位にステップ状の段を有し、急な傾斜で平坦面に至っている。主室との連結部には、わずかに段をなしている。

主室 奥行 1.15m, 横幅 2.10m の長方形である。天井部は崩落している。確認面からの深さは 98cm, 底面は 平坦で,壁は直立している。

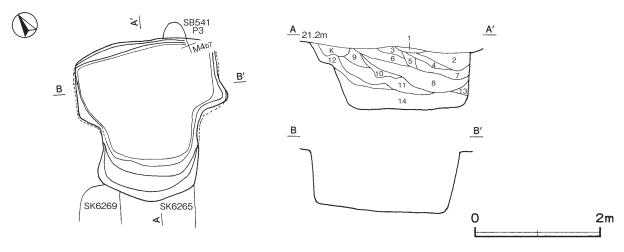
覆土 14 層に分層できる。第 13・14 層は天井部の崩落土である。上層の第 $1 \sim 12$ 層は,天井部の崩落後に 竪坑部側から埋め戻されている層である。

土層解説

色 ロームブロック少量 8 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量 1 裾 暗 褐 色 ローム粒子中量(粘性弱い) 9 暗 褐 色 ローム粒子少量 色 ロームブロック微量 3 褐 ロームブロック微量 10 暗 褐 色 色 ロームブロック中量(粘性弱い) 4 褐 11 褐 5 暗 褐 色 ローム粒子多量 12 裾 色 ローム粒子多量 黒 褐 色 ローム粒子少量 13 褐 色 ロームブロック中量 暗 褐 色 ロームブロック少量 14 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片 18 点(内耳鍋 2, 甕類 16)のほか, 土師器片 11 点(坏 6, 甕類 5), 須恵器片 2 点(甕類)が出土している。土師質土器片は細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から16世紀代と考えられる。



第273 図 第82 号地下式坑実測図

第83号地下式坑 (第274·275 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区北部のM 5 e2 区, 標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

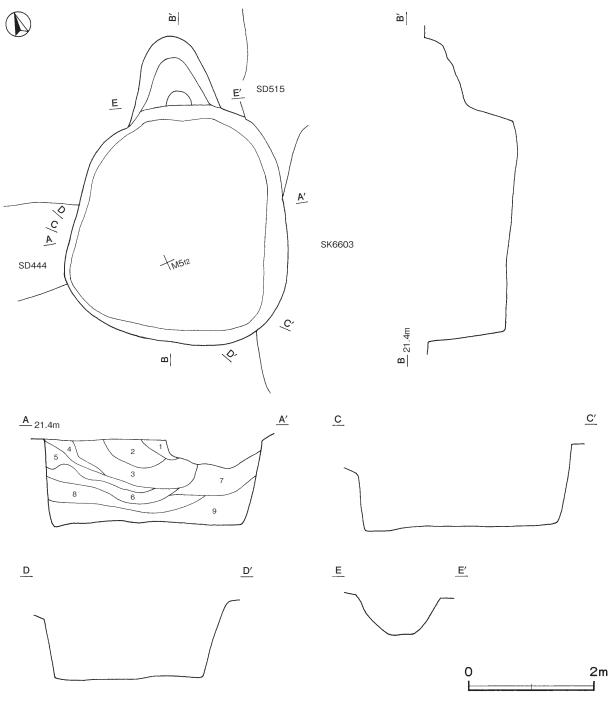
重複関係 第6603 号土坑, 第444 号溝跡を掘り込み, 第515 号溝に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長は 4.94m で、軸方向は N - 162° - Wである。

堅坑 主室の北壁中央部に位置し、奥行 1.06m、横幅 1.42m の馬蹄形である。深さ 62cmで、北端からスロープ状に主室へ向かって緩やかに傾斜して底面に至っている。主室の底面とは、68cmの段差をなしている。 壁は外傾して立ち上がっている。底面はスロープ状に主室に向かって緩やかに下がっており、主室の底面とは、

68cmの段差をなしている。 **主室** 奥行 3.00m,横幅 3.40m の不整楕円形で,天井部は崩落している。確認面からの深さは 1.38m,底面は ほぼ平坦で,壁はほぼ直立している。

覆土 9層に分層できる。第9層は天井部の崩落土である。それより上層の第1~8層は、天井部の崩落後に



第274 図 第83 号地下式坑実測図

主室壁側から埋め戻されている層である。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 褐 灰 色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量

4 黒 褐 色 ローム粒子微量

5 暗 褐 色 ロームブロック中量

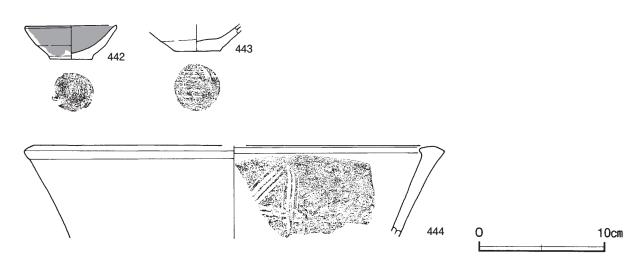
6 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

7 明 褐 色 ロームブロック少量

8 灰 褐 色 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

9 灰 褐 色 ロームブロック・粘土粒子中量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 6 点 (小皿 3, 内耳鍋 2, 擂鉢 1), 鉄製品 1 点 (釘) のほか, 土師器片 15 点 (坏 3, 甕類 12), 須恵器片 4 点 (坏 1, 甕類 3) が出土している。442·444 は覆土下層, 443 は覆土中から出土している。**所見** 時期は、出土土器や重複関係から 15 世紀後葉から 16 世紀前葉と考えられる。



第275 図 第83 号地下式坑出土遺物実測図

第83号地下式坑出土遺物観察表(第275図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
442	土師質土器	小皿	7.2	2.7	3.4	長石・石英・ 雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面仕上げナデ	覆土下層	90% PL76 油煙付着
443	土師質土器	小皿	-	(2.1)	3.7	長石・石英・ 雲母		孙 '圣		覆土中	10%
444	土師質土器	擂鉢	[32.0]	(7.4)	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面4条1単位の擂り目	覆土下層	5 %

第84号地下式坑 (第276図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区北部のM 4 d8 区, 標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6088 号土坑, 第 444 号溝を掘り込んでいる。第 449 号溝と重複しているが新旧関係は不明である。 **軸長・軸方向** 軸長は 3.98m で、軸方向は N -0°である。

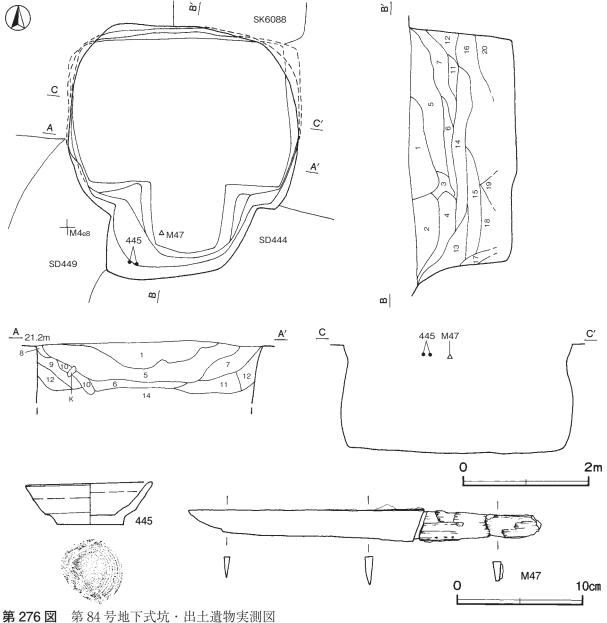
堅坑 主室の南壁中央部に位置し、奥行 1.49m、横幅 2.28m の不整長方形である。深さは 1.48m で、壁はほぼ直立している。底面は平坦で、連結部で 10cmほどの段を有し主室に至っている。

主室 奥行 2.27m, 横幅 3.43m の長方形である。確認面からの深さは 1.74m, 底面は平坦で,壁は直立している。 **覆土** 20 層に分層できる。確認面から深さ 1.50 mで湧水があったため, それより下層は確認できなかった。 第 20 層は天井部の崩落土である。ロームブロックや粘土ブロックが含まれている層が多く, 不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

土層解説 1 褐 色 ロームブロック中量 11 黒 褐 色 ローム粒子少量 2 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 12 暗 褐 色 ローム粒子中量 3 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 13 褐 ローム粒子多量 色 色 ロームブロック・焼土粒子少量 褐 色 ローム粒子少量 4 黒 褐 14 暗 褐 色 ロームブロック微量 5 15 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量 6 黒 褐 色 ローム粒子微量 16 暗 褐 色 ロームブロック中量 7 黒 褐 色 ロームブロック少量 17 にぶい褐色 ローム粒子多量, 粘土粒子少量 8 褐 色 ローム粒子中量 18 黒 褐 色 ローム粒子中量 9 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 19 にぶい褐色 ローム粒子多量 10 暗 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 20 黒 褐 色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿),陶器片1点(碗),金属製品1点(短刀)のほか,土師器片41点(坏 11, 甕類 30), 須恵器片 5点(甕類) が出土している。445とM 47は竪坑部の上層(第2層) から出土してい る。M 47 は横位で出土していることから、本跡が埋め戻された後の窪地を利用し置かれたものであると考え られる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から16世紀中葉から後葉と考えられる。



第84号地下式坑出土遺物観察表(第276図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
445	土師質土器	小皿	10.0	3.4	5.3	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面周 縁部凹み 体部内面横ナデ	竪坑部上層	60% PL76
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特 徵	出土位置	備考
M47	短刀	28.2	2.6	0.5 ~ 0.6	99.5	鉄	切先部刃	こぽれ	有り 刃断面三角形 柄部木質残存	竪坑部上層	PL91

第85号地下式坑 (第277·278 図)

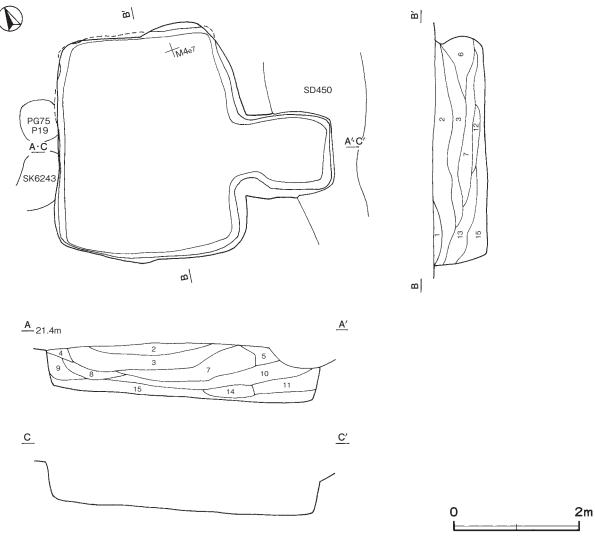
調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 e6 区,標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6243 号土坑・第75 号ピット群を掘り込み,第450 号溝に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長は 4.42m で、軸方向は N - 67° - W である。

堅坑 主室の東壁中央部に位置し、奥行 1.52m, 横幅 1.39m の長方形である。深さは 86cmで, 壁は直立している。 底面は平坦で、主室に向かって緩やかに上っている。



第277 図 第85号地下式坑実測図

主室 奥行き 2.62m, 横幅 3.30m の長方形である。天井部は崩落している。確認面からの深さは $59 \sim 86$ cmで、底面は竪坑部へ向って緩やかに下がっている。北壁は内彎し、南・西壁は外傾して立ち上がっている。

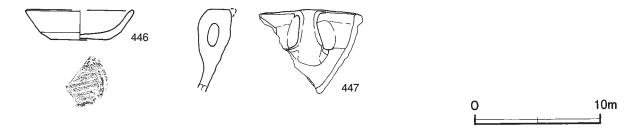
覆土 15層に分層できる。第6・9・14・15層は天井部と壁部の崩落土である。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 9 裾 色 ロームブロック中量 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 10 褐 色 ローム粒子多量 3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量 11 黒 褐 色 ロームブロック少量 暗 裾 色 ロームブロック少量 12 褐 色 ローム粒子中量 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 13 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量 色 ロームブロック多量 色 ロームブロック多量,炭化粒子微量 14 褐 色 ロームブロック少量 7 黒 褐 色 ローム粒子少量 15 褐 8 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 89 点 (小皿 12, 内耳鍋 12, 擂鉢 2, 甕 63), 陶器片 1 点 (甕), 鉄滓 1 点 (13.0g), 自然遺物 4 点 (貝) が出土しているほか, 土師器片 26 点 (坏 20, 甕類 6), 須恵器片 29 点 (甕) が出土している。 446 は主室北部の覆土上層, 447 は主室南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から16世紀前葉から中葉と考えられる。



第 278 図 第 85 号地下式坑出土遺物実測図

第85号地下式坑出土遺物観察表(第278図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土		焼成		出土位置	備考
446	土師質土器	小皿	[8.2]	2.4	[4.8]	石英・雲母・赤 色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	覆土上層	40% PL76
447	土師質土器	内耳鍋	-	(5.6)	-	長石・石英・雲 母・赤色粒子		1	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土下層	5 %

第86号地下式坑 (第279図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 h7 区,標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第77号ピット群を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は 1.42m で, 軸方向は N - 25° - W である。

竪坑 主室の南壁中央部に位置し, 奥行き 0.86m, 横幅 1.04m の方形である。深さは 100cmで, 壁は直立している。 底面は平坦で、北部で 20cmほど下がり主室に至る。

主室 長径 0.60 m, 短径 0.30 mの楕円形で, 天井部の一部が遺存している。確認面から底面までの深さは 122cmで, 底面から天井部までの高さは 0.75 mである。底面は半球状に掘り込まれ, 北壁は天井部まで直立している。

覆土 10 層に分層できる。第 $8 \sim 10$ 層は天井部の崩落土である。ロームブロックを含む層が多いことや,不 規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

 1
 褐
 色
 ローム粒子中量、炭化粒子微量
 6
 褐
 色
 ローム粒子中量

 2
 暗
 褐
 色
 ローム粒子中量、炭化粒子微量
 7
 暗
 褐
 色
 ローム粒子中量

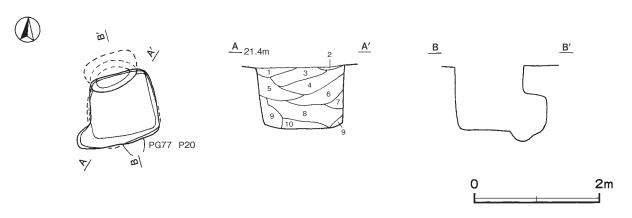
 3
 暗
 褐
 色
 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 8
 褐
 色
 ロームブロック多量

 4
 褐
 色
 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 9
 褐
 色
 ロームブロックの量量

 5
 褐
 色
 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 10
 明
 褐
 色
 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片 8 点 (甕類) のほか, 土師器片 2 点 (坏, 甕類), 須恵器片 1 点 (甕) が出土している。 いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。



第279 図 第86号地下式坑実測図

第87号地下式坑 (第280図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 c0 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6023 号土坑に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長は1.76 mで、軸方向はN-2°-Eである。

竪坑 主室の南部に位置し、奥行き 0.88 m、横幅 1.06m の隅丸長方形である。深さ 100cmで、壁は直立している。底面は南端からスロープ状に下り、中位でステップ状の段を有し底面に至る。底面は平坦で、くびれ部で5 cmの高まりがあり、主室へ至る。

主室 奥行き 0.70m, 横幅 0.88m の楕円形で, 竪坑から主室にかけての上部を第 6023 号土坑に掘り込まれている。天井部の一部が依存しており, 確認面から底面までの深さは 100cmで, 底面から天井部までの高さは 0.80m である。底面は半球状に掘り込まれ, 壁は内彎して天井部に至る。

覆土 5層に分層できる。第2・3層は天井部の崩落土に相当し,第4・5層は竪坑から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

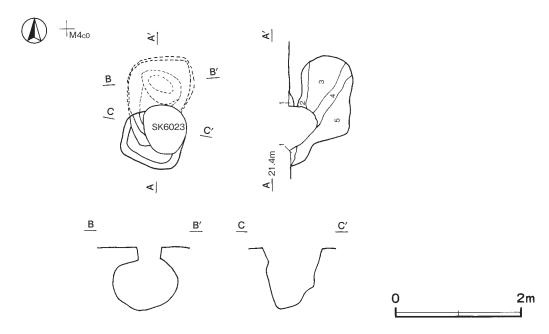
土層解説

 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
 4 暗 褐 色 ローム粒子中量

 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
 5 暗 褐 色 ローム粒子多量

 3 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片 10 点 (甕類) のほか, 土師器片 3 点 (坏2, 甕類 1), 須恵器片 1 点 (瓶類) が 出土している。いずれも細片のため図示できない。 **所見** 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。



第280 図 第87 号地下式坑実測図

第88号地下式坑 (第281 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 5 d1 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第443号溝, 第81号ピット群のP5~P7・P10・P17に掘り込まれている。

軸長と軸方向 長軸 1.52m で、軸方向は N - 165° - Wである。

竪坑 奥行き 0.50m, 横幅 1.38m の隅丸長方形である。深さは 162cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。主室の底面とは、90cmの段差をなしている。

主室 奥行き $1.02\,\mathrm{m}$, 横幅 $1.24\,\mathrm{m}$ の不定形で,天井部は崩落している。確認面からの深さは $150\,\mathrm{cm}$ で,底面は中央部で $10\,\mathrm{cm}$ ほどの段をなし,北壁に向かって下がり,北壁付近で緩やかに傾斜して上がっている。壁はほぼ直立している。

覆土 8層に分層できる。第8層は天井部の崩落土である。それより上層はロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
 5 暗 褐 色 ロームブロック少量

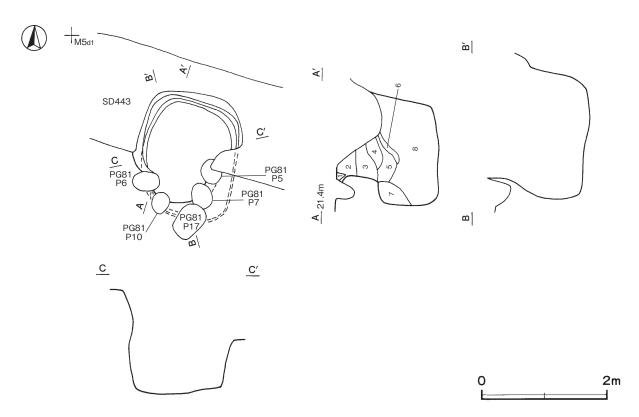
 2 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
 6 黒 褐 色 ロームブロック多量

 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
 7 にぶい褐色 ロームブロック少量

 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
 8 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片4点(内耳鍋1,甕類3)のほか、土師器片4点(坏3,高台付坏1)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や、15世紀後葉から16世紀前葉と考えられる第443号溝に掘り込まれていることから、15世紀後葉以前と考えられる。



第281 図 第88 号地下式坑実測図

表 39 室町時代地下式坑一覧表

- 4 □ .	片 學	劫士ウ	平面	面形	軸長	主	室 規	模	竪	坑 規	模	亜 丄	ナムロム海伽	£±: ±¥.
番号	位置	軸方向	主室	竪坑	(m)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	覆 土	主な出土遺物	備考
82	M 4 b6	N - 19° - E	長方形	長方形	2.62	1.15	2.10	98	1.24	1.60	90	人為	土師質土器片	SB541, SK6265 · 6269 →本跡
83	M 5 e2	N - 162° - W	不整楕円形	馬蹄形	4.94	3.00	3.40	138	1.06	1.42	62	人為	土師質土器片, 金属製品(釘)	SD444, SK6603 → 本跡→ SD515
84	M 4 d8	N - 0°	長方形	不整長方形	3.98	2.27	3.43	174	1.49	2.28	150	人為	土師質土器片,陶器片, 金属製品(短刀)	SK6088, SD444 →本跡
85	M 4 e6	N - 67° - W	長方形	長方形	4.42	2.62	3.30	59 ~ 86	1.52	1.39	86	人為	土師質土器片,陶器片, 鉄滓,自然遺物	SK6242 · 6243 → 本跡→ SD450
86	M 4 h7	N – 25° – W	楕円形	方形	1.42	0.86	1.04	1122	0.86	1.04	100	人為	土師質土器片	PG77 →本跡
87	M 4 c0	N - 2° - E	楕円形	隅丸長方形	1.76	0.70	0.88	100	0.88	1.06	100	自然	土師質土器片	本跡→ SK6023
88	M 5 d1	N – 165° – W	不定形	隅丸長方形	1.52	1.02	1.24	150	0.50	1.38	162	人為	土師質土器片	本跡→ SD443, PG81

(6) 土坑 (第 282 ~ 299 図)

今回の調査で土坑73基を確認した。遺物が出土している土坑や特徴的な土坑11基について記載し、それ以外は、平面図、実測図及び一覧表を掲載する。

第6018号土坑 (第282図)

調査年度 平成 20 年度

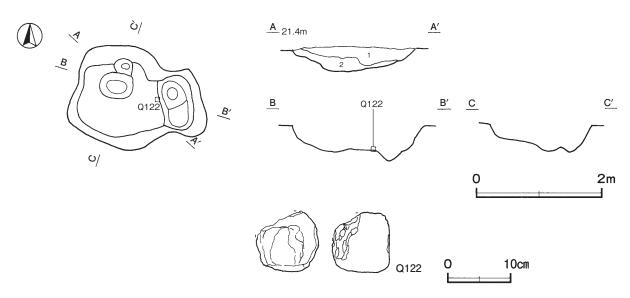
位置 15 区北部のM 4 c8 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 2.12m, 短軸 1.56m の不定形で,長軸方向は N - 26° - W である。深さは 50cm,底面は凹凸があり,壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片 2 点 (小皿, 焙烙), 石製品 1 点 (五輪塔) のほか, 土師器片 11 点 (甕類), 須 恵器片1点(甕類)が出土している。Q122は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から室町時代と考えられる。五輪塔が出土していることから、付近は墓域であったと 想定されるが明確ではない。



第282 図 第6018 号土坑·出土遺物実測図

第6018号土坑出土遺物観察表(第282図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徵	出土位置	備考
Q 122	五輪塔	(9.1)	(9.6)	10.1	(1009.3)	花崗岩	空風輪 風化が激しい	覆土下層	

第6019号土坑 (第283図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 g6 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第448号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 100cm. 短径 84cmの楕円形で、長径方向は N - 19°-Eである。深さは 48cm. 底面は皿状 で壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

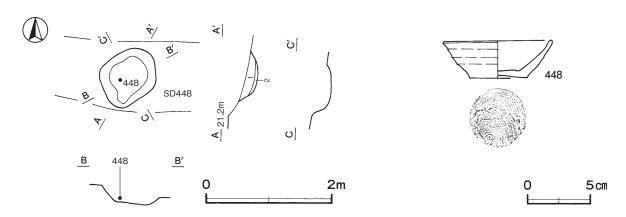
土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物微量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器1点(小皿)が出土している。448は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 15 世紀後葉から 16 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第283 図 第6019 号土坑・出土遺物実測図

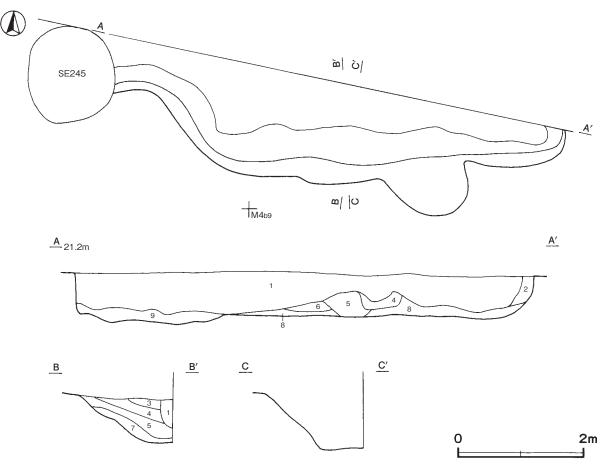
第6019号土坑出土遺物観察表(第283図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
448	土師質土器	小皿	8.5	3.1	4.6	長石·石英· 雲母·赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面周縁部 凹み 仕上げナデ 内底面煤付着	覆土下層	100% PL77

第 **6071** 号土坑 (第 284 · 285 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 a9 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。



第 284 図 第 6071 号土坑実測図

重複関係 第245号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第 245 号井戸に掘り込まれ、北部は調査区域外に延びているため、確認できた東西軸は 7.5m、南北軸は 1.63m で不定形である。軸方向は $N-80^\circ-W$ である。深さは 53cm、底面は平坦で、南壁は外頃し、東壁は緩やかに傾斜しながら立ち上がっている。

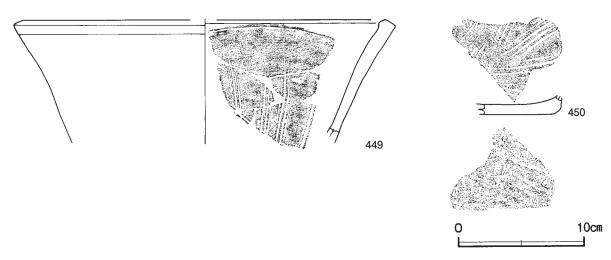
覆土 9層に分層できる。各層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 8 暗 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片 8 点 (甕類 6 , 擂鉢 2) のほか , 土師器片 3 点 (甕類) が出土している。449・450 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から室町時代後半と考えられる。大部分が調査区域外にあるため、全体の 形状や性格は不明である。



第285 図 第6071 号土坑出土遺物実測図

第6071号土坑出土遺物観察表(第285図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 士	-	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
449	土師質土器	擂鉢	[28.6]	(9.7)	-	長石・石英・	雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面4条1単位の擂り目	覆土中	10%
450	土師質土器	擂鉢	-	(1.5)	-	長石・石英 雲母・細礫	•	にぶい褐	普通	内面4条1単位の擂り目	覆土中	5%

第6132号土坑 (第286図)

調査年度 平成 20 · 21 年度

位置 15 区中央部のM 4 j0 ~ M 5 a1 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 453 号溝跡を掘り込み, 第 6133・6138 号土坑, 第 503 号溝, 第 80 号ピット群 P 9 に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第503 号溝に掘り込まれているため確認できた長さは5.70m で、幅1.83m の長方形で、長軸方向はN-78° -W である。深さは83cmで、底面は凹凸があり、南壁は外傾し、北壁は緩やかに立ち上

がっている。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

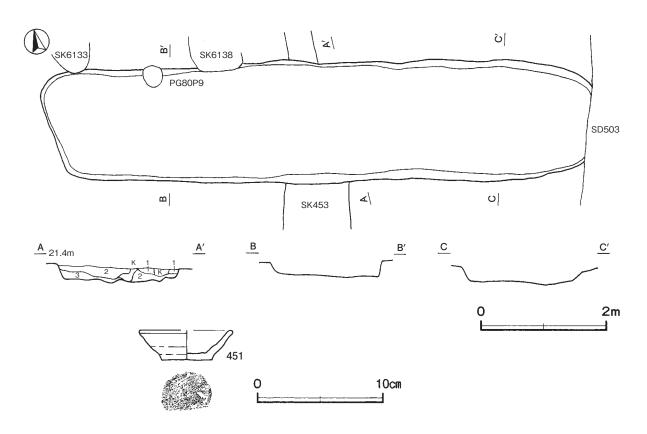
1 暗 褐 色 ロームブロック微量

3 褐 色 ロームブロック少量

2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が出土している。451は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や15世紀後葉から16世紀前葉と考えられる第453号溝跡を掘り込み、江戸時代の第503号溝に掘り込まれていることから16世紀後葉から17世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第286 図 第6132 号土坑·出土遺物実測図

第6132号土坑出土遺物観察表(第286図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
451	土師質土器	小皿	[7.2]	2.3	4.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面周 縁部凹み 仕上げナデ	覆土中	40% PL77

第 6539 号土坑 (第 287 · 288 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の O 4 j5 区, 標高 21 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第6540 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.80m, 短径 2.32m, 深さ 88cmの楕円形の土坑部に方形あるいは長方形の張り出し部を有する柄鏡形をしている。張り出し部は東端部が第 6540 号土坑に掘り込まれているため, 長さは 0.64m しか確認できなかった。幅は 0.72 mで, 深さは 40cmである。土坑部と張り出し部とを合わせた軸長は 2.98 mで, 長軸

方向はN-6°-Wである。連結部から土坑部に至る部分に、幅 72cm、高さ 40cmの土手状の高まりを有している。底面は西壁から張り出し部へ緩やかに下り、壁は外傾して立ち上がっている。

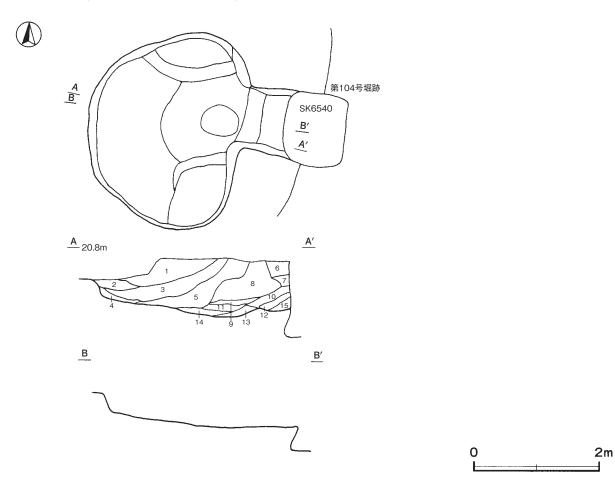
覆土 15層に分層できる。各層にロームや粘土のブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量	9	灰	褐	色	ロームブロック中量,青灰色粘土ブロック少量
2	褐		色	ロームブロック中量,炭化粒子微量	10	黒	褐	色	ロームブロック中量
3	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量	11	黒		色	ロームブロック中量,青灰色粘土ブロック少量
4	黒	褐	色	ロームブロック中量,炭化物微量	12	黒	褐	色	ロームブロック・灰色粘土ブロック少量,青灰色
5	暗	褐	色	ロームブロック少量,炭化物微量					粘土ブロック微量
6	暗	褐	色	ロームブロック中量,炭化物微量	13	褐		色	ロームブロック多量,青灰色粘土ブロック中量
7	黒	褐	色	ロームブロック多量	14	黒		色	ロームブロック少量
8	褐		色	ロームブロック少量,焼土粒子微量	15	褐		色	ロームブロック多量,青灰色粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 8 点 (焙烙), 陶器片 1 点 (大皿), 磁器片 1 点 (皿) のほか, 土師器片 8 点 (坏 2, 高台付椀 1, 甕類 5), 須恵器片 5 点 (坏 2, 瓶類 1, 甕類 2) が出土している。452・453 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、16世紀後葉から17世紀中葉と考えられる。性格は不明である。

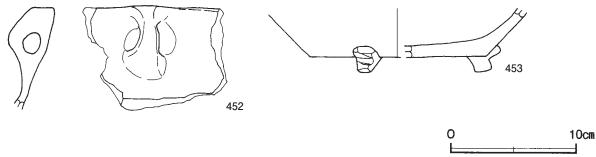


第 287 図 第 6539 号土坑実測図

第6539号土坑出土遺物観察表(第288図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
452	土師質土器	焙烙	-	(8.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 外面 指頭押圧 内面へラ削り痕	覆土中	5%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	絵 付	釉 色	産 地	年 代	出土位置	備考
453	陶器	大皿	-	(5.1)	[14.0]	長石・石英	黄灰	-	浅黄	瀬戸	15 C後葉	覆土中	20%



第288図 第6539号土坑・出土遺物実測図

第 6545 号土坑 (第 289 · 290 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区南部の O 4 g0 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第500号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 2.06 mの円形である。深さは 90cmで、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 青灰色粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化物微量

3 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量

4 黒 褐 色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量

5 黒 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量

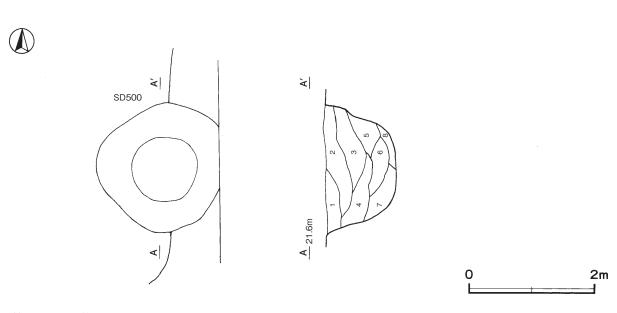
6 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

7 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量

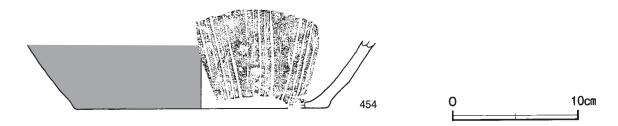
8 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 9 点(焙烙 7, 擂鉢 2)のほか, 土師器片 10 点(坏 2, 甕類 8), 瓦 1 点が出土 している。454 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 16 世紀後葉以降と考えられる。性格は不明である。



第 289 図 第 6545 号土坑実測図



第290 図 第6545 号土坑出土遺物実測図

第6545号土坑出土遺物観察表(第290図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
454	土師質土器	擂鉢	_	(5.4)	[20.2]	長石·石英·雲 赤色粒子	t· 123	ぶい褐	普通	体部外面ナデ 内面5条1単位の擂り目	覆土中	10% 外面煤付着

第 6656 号土坑 (第 291 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の O 4 d2 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西両壁が削平されており、長軸は 1.54 mで、短軸 1.00m ほどの隅丸長方形と推定した。長軸 方向はN-3°-Eで、深さは18cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒 4 黒 褐 色 ロームブロック微量

子微量

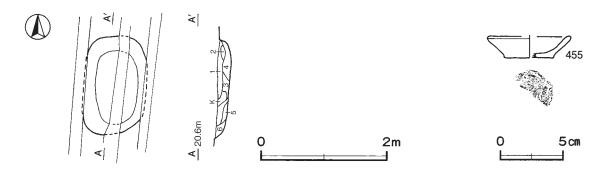
5 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量

2 黒 褐 色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック微量 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

6 黒 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 3 点 (小皿 1, 焙烙 2) のほか, 土師器片 3 点 (坏 1, 甕類 2) が出土している。 455 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第291 図 第6656 号土坑 · 出土遺物実測図

第6656号土坑出土遺物観察表(第291図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法	の	特	徴	ほか		出土位置	備	考
455	土師質土器	小皿	[6.4]	1.7	[4.0]	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部国 仕上げナデ	回転差	糸切り)後^	ヽ ラナデ	内底面	覆土中	20%	

第 6674 号土坑 (第 292 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の N 4 j1 区, 標高 20 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 $0.48\,\mathrm{m}$, 短径 $0.42\,\mathrm{m}$ の楕円形で,長径方向は $\mathrm{N}-83^\circ-\mathrm{E}$ である。深さは $46\,\mathrm{cm}$ で,底面は平坦で,壁はほぼ直立している。

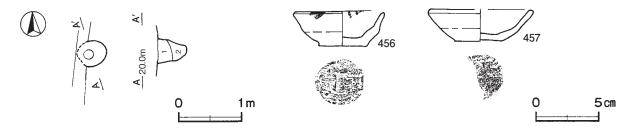
覆土 2層に分層できる。各層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化物・ 2 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)が出土している。456・457は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第292 図 第6674 号土坑·出土遺物実測図

第6674号土坑出土遺物観察表(第292図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手	法 の 特	徴ほ	か	出土位置	備考
456	土師質土器	小皿	7.1	2.7	3.6	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 周縁部凹み	底部回転糸り 仕上げナデ	刀り後ヘラナ	デ 内底面	覆土中	100% PL77 油煙付着
457	土師質土器	小皿	[8.0]	2.5	(3.8)	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	ロクロナデ 部凹み	底部回転糸切	刀り後ナデ	内底面周縁	覆土中	30% PL77

第 6678 号土坑 (第 293 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部のN 4 i2 区. 標高 20 mほどの台地平坦部に位置している。

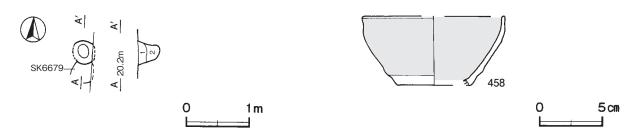
重複関係 第6679 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.44m, 短径 0.36m の楕円形で, 長径方向は $N-40^{\circ}-W$ である。深さは 28cmで, 底面は平坦で, 壁はほぼ直立している。

覆土 2層に分層できる。各層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒 2 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量子微量



第 293 図 第 6678 号土坑·出土遺物実測図

遺物出土状況 陶器片 1 点(天目茶碗)のほか、土師器片 1 点(坏)が出土している。458 は覆土中から出土 している。

所見 時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。性格は不明である。

第6678号土坑出土遺物観察表(第293図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土.	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備考
458	陶器	天目茶碗	[11.1]	5.4	-	長石		淡黄	_	黒	瀬戸・美濃	16 C代	覆土中	20%

第 6688 号土坑 (第 294 図)

調査年度 平成 21 年度

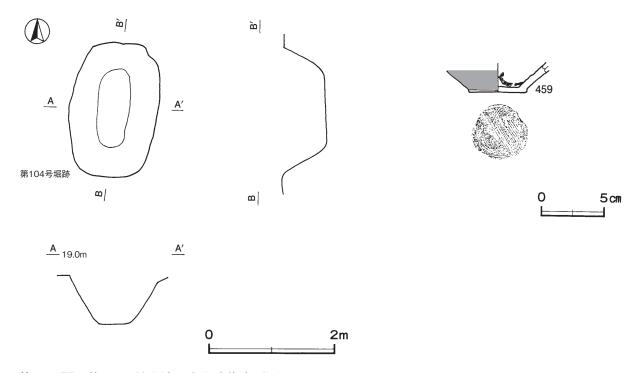
位置 15 区南部の O 4 f4 区, 標高 20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第104号堀の底面で確認した。

規模と形状 長軸 2.14m, 短軸 1.40m の隅丸長方形で,長軸方向は N-6° -Eである。深さは 80cmで,底面は平坦で,壁は外傾し立ち上がっている。

遺物出土状況 土師質土器片 3 点 (小皿 1 , 焙烙 2) , 陶器片 1 点 (碗) , 石製品 1 点 (石臼) のほか , 石製品 6 点 (不明) が出土している。459 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。第 104 号堀跡に関連する土坑の可能性もあるが、詳細は不明である。



第294 図 第6688 号土坑·出土遺物実測図

第6688号土坑出土遺物観察表(第294図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
459	土師質土器	小皿	-	[2.4]	4.5	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙		デ 底部回転糸切り後へラナデ 内原 み 仕上げナデ 内外面煤付着	面 覆土中	30% PL77 油煙付着

第7278号土坑 (第295図)

調査年度 平成 24 年度

位置 15 区東部のM 8 d2 区,標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第30号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.78 m, 短径 0.70 mの楕円形である。深さは 15cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

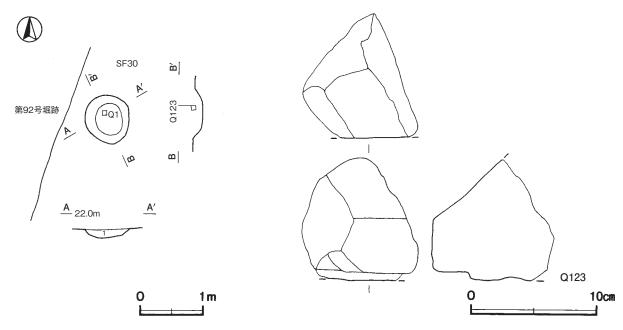
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量(締まり強い)

遺物出土状況 土師質土器片 2 点(内耳鍋,擂鉢),石製品 1 点(五輪塔)のほか,土師器片 1 点(坏)が覆土中から散在して出土している。Q 1 は中央部の覆土中層から出土している。

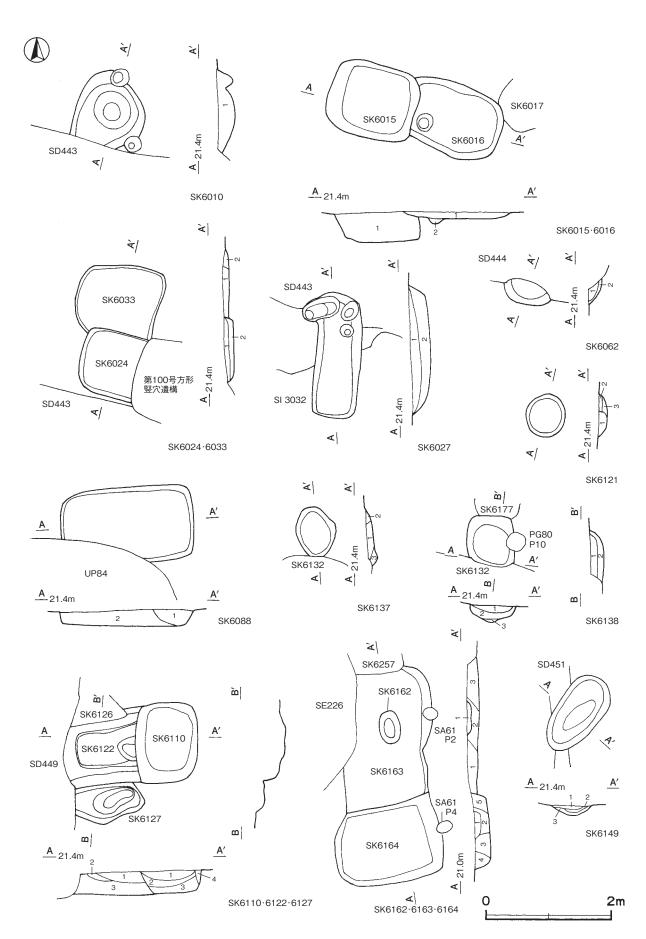
所見 本跡はロームブロックや砂質粘土ブロックが含まれる土が充填され、強く締まっていることから、第 30 号道路の補修痕の可能性がある。時期は、出土遺物や重複関係から 15 世紀代と考えられる。



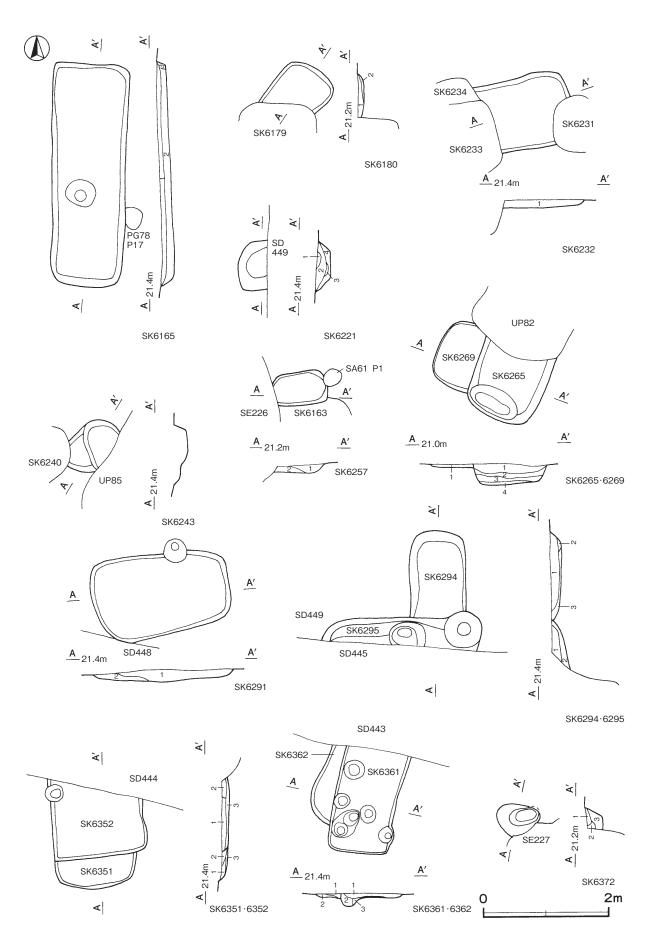
第 295 図 第 7278 号土坑・出土遺物実測図

第7278号土坑出土遺物観察表(第295図)

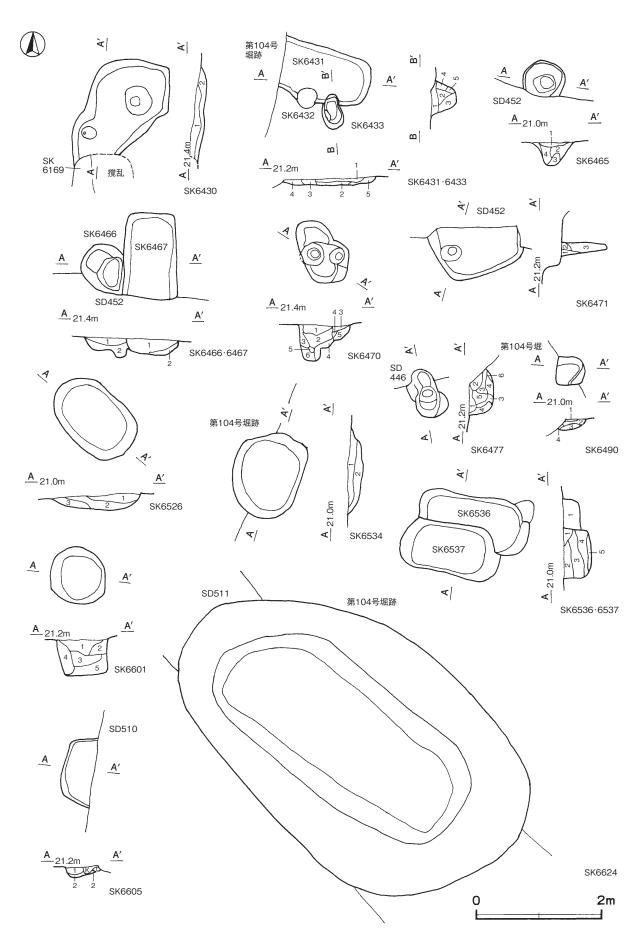
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
Q 123	五輪塔	(10.0)	(9.1)	(9.7)	(79,200)	花崗岩	空風輪 欠損	覆土中層	



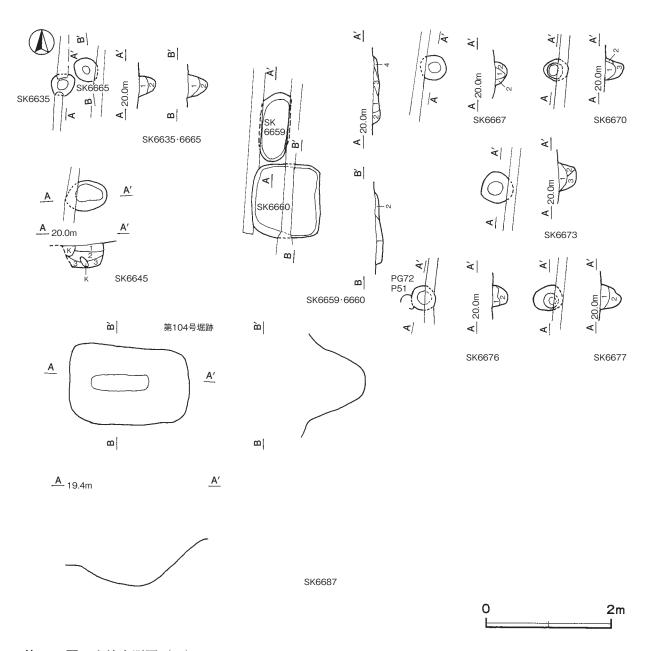
第296 図 土坑実測図(1)



第297 図 土坑実測図(2)



第298 図 土坑実測図(3)



第299 図 土坑実測図(4)

調査年度 平成 20 年度

第 6010 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 6015 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量

第 6016 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 6024 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量 2 黒 褐 色 ロームブロック中量

6027 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6033 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 6062 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量

色 ローム粒子多量 2 褐

第 6088 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 6110 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 黒 褐 色 ロームブロック少量

4 暗 褐 色 ローム粒子微量

第 6121 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 陪 裾 缶 ローム粒子中量

第 6122 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化物微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6137 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量,焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

第 6138 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 色 ロームブロック少量

第 6149 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 色 ローム粒子多量

第 6162 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量

第 6163 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 6164 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量 (締まり弱い)
- 3 褐 色 ロームブロック多量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 色 ロームブロック中量 5 褐

第 6165 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 6180 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 色 ロームブロック中量

第 6221 号土坑土層解説

- 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 3 褐
- 色 ロームブロック少量 色 ロームブロック中量 4 褐

第 6232 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量

第 6257 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 6265 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

第 6269 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 6291 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6294 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 6295 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 6351 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化 粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6352 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子・
 - 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒
 - 子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量、粘土ブロック微量

第 6361 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒 子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6362 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6372 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第 6430 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 6431 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック多量、炭化物少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック多量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 色 ロームブロック多量 5 褐

第 6433 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化物微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量
- 3 褐 色 ロームブロック多量
- 4 褐
 色
 ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 6465 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

第 6466 号十坑十層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6467 号十坑十層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6470 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量(締まり弱い)
- 6 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量 (締まり弱い)

6471 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 6477 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 色 ロームブロック中量 4 裾
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック微量

第6490号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 色 ロームブロック少量 4 褐

第 6526 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量
- 2 黒 色 ロームブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 6534 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 6536 号土坑土層解説

1 灰黄褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

第 6537 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化物微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 黒 褐 色 黒色粒子中量, ロームブロック少量
- 4 褐 色 黒色粒子多量、ローム粒子微量 5 灰黄褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

調査年度 平成 21 年度

第 6601 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

第 6605 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 色 ロームブロック少量 2 褐

第 6635 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 6645 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 白色粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化物 微量
- 2 暗 褐 色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

6659 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 色 ロームブロック・炭化物微量

第 6660 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

第 6665 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量

第 6667 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量

第 6670 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック微量

第 6673 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物少量。 焼土粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック・自色粘土ブロック・炭化物少量
- 3 暗 褐 色 炭化物中量、ロームブロック・白色粘土ブロック 少量

第 6676 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化物微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第 6677 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子・ 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック微量

表 40 室町時代の土坑一覧表

	番号 位置 長径力		平面形	規	規模		壁面	覆土	主な出土遺物	備考
宙力			十山形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 面	室 田	復 丄	土な山土退物	\/H 45
6010	M 5 c2	N - 3 ° - E	[不定形]	(1.22) × 1.10	60	皿状	緩斜	人為	陶器片	本→ SD443
6015	M 5 c1	N - 76° - W	隅丸長方形	1.46 × 1.20	46	平坦	外傾	自然		SK6016 →本跡
6016	M 5 c1	N - 68° - W	[隅丸長方形]	1.38 × 1.14	12	平坦	緩斜	自然		SK6017→本跡 → SK6015
6018	M 4 c8	N - 26° - W	不定形	2.12 × 1.56	50	凹凸	緩斜	人為	土師質土器片,石製品	

	Ī			規	 模					
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	疾 深さ (cm)	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
6019	M 4 g6	N - 29° - E	楕円形	1.00 × 0.84	10	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	本跡→ SD448
6024	M 4 c9	N - 72° - W	[方形]	1.00 × (0.90)	18	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	SK6033 →本跡→第 100 号方形竪穴遺構
6027	M 4 b5	N - 2° - E	隅丸長方形	2.02 × 0.75	30	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	SI3032 →本跡
6033	M 4 c9	N - 78° - W	長方形	1.32 × 1.10	8	平坦	緩斜	自然	石器	→ SD443 本跡→ SK6024
6062	M 4 e0	N - 73° - W	[楕円形]	0.82 × 0.40	21	皿状	緩斜	人為	土師質土器片	本跡→ SD444
6071	M 4 a9	N - 80° - W	不定形	0.38 × 0.30	13	平坦	外傾	人為	土師質土器片	本跡→ SE245
6088	M 4 d8	N - 85° - E	隅丸長方形	2.12 × 1.22	18	平坦	緩斜 傾斜	人為		本跡→ UP84
6110	M 4 e8	N - 4 ° - E	隅丸長方形	1.31 × 1.03	38	平坦	外傾	人為	土師質土器片、陶器片	SK6122 →本跡
6121	M 4 f8	_	円形	0.70 × 0.65	16	平坦	緩斜	人為		
6122	M 4 e8	N - 81° - E	長方形	2.08 × 1.20	42	平坦	緩斜	人為		本跡→SK6110·
6127	M 4 e8	N - 0 °	不定形	(1.09) × 0.56	24	平坦	外傾	-		6126, SD449 本跡→ SK6122,
						,		1 1/-	1 47 85 1 00 11	SD449 SK6138, SD453 →本
6132	M 4 j0	N – 78° – W	長方形	(4.23) × 1.78	26	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	跡→ SK6133·6138, PG80, SD503
6137	M 4 j9	N – 11° – W	楕円形	0.84 × 0.65	14	平坦	緩斜	人為		
6138	M 4 j0	N - 0 °	方形	0.80 × 0.74	28	平坦	外傾	人為	陶器片	SK6177 →本跡 → SK6132, PG80
6149	M 4 e4	N - 38° - E	楕円形	1.34 × 0.74	22	皿状	緩斜	人為		SD451 →本跡
6162	M 4 h5	N - 8° - W	楕円形	0.52×0.34	9	平坦	緩斜	自然	土師質土器片	SK6163 →本跡
6163	M 4 h5	N - 8° - W	[長方形]	(2.18) × (1.53)	20	平坦	外傾	人為		本跡→SK6162・ 6164・SE226, SA61
6164	M 4 h5	N - 81° - E	長方形	1.75 × 1.23	32	平坦	外傾	人為	土師質土器片	SK6163 →本跡 → SA61
6165	M 4 h8	N - 10° - E	隅丸長方形	3.56 × 1.18	22	平坦	外傾	人為	土師質土器片	PG78 →本跡
6180	M 4 f5	N - 39° - E	[長方形]	0.96 × 0.84	10	平坦	緩斜	人為	土師質土器片, 石器	本跡→ SK6179
6221	M 4 e7	-	不明	0.78 × (0.48)	25	平坦	緩斜	人為		本跡→SD449
6232	M 4 e5	N - 17° - W	楕円形	0.91 × 0.78	24	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	本跡→ SK6231, 6233, 6234
6243	M 4 e6	N - 35° - E	楕円形	0.97×0.62	24	平坦	外傾	-		本跡→ SK6240, UP85
6257	M 4 h5	N - 81° - E	楕円形	(0.73) × 0.54	22	皿状	緩斜	人為	土師質土器片	SK6133→本跡 → SE226, SA61
6265	M 4 b6	N - 21° - E	[隅丸長方形]	(1.40) × 1.18	42	平坦	外傾	人為		SK6269 →本跡 → UP82
6269	M 4 b6	N - 22° - E	[隅丸長方形]	1.06 × (0.74)	12	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	本跡→ SK6265, UP82
6291	M 4 g8	N - 79° - E	隅丸長方形	2.20 × 1.35	16	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	SD448 →本跡
6294	M 4 g8	N - 0 °	[隅丸長方形]	(1.40) × 0.82	18	平坦	緩斜	人為		本跡→ SK6295
6295	M 4 g8	N - 87° - W	不明	2.50 × (0.78)	11	凹凸	外傾	人為		SK6294 →本跡→ SD445
6351	M 4 e9	N - 5° - W	[長方形]	(0.50) × (1.30)	6	平坦	緩斜	人為		本跡→SK6352
6352	M 4 e9	N - 5 ° - W	[方形]	(1.56) × 1.44	6	平坦	緩斜	人為		SK6351 →本跡 → SD444
6361	M 4 d0	N - 12° - E	[長方形]	(1.68) × 0.98	3	平坦	緩斜	人為	鉄滓	SK6362→本跡 → SD443
6362	M 4 d0	N - 18° - E	[長方形]	(1.20) × (0.35)	4	平坦	緩斜	人為		本跡 →SK6361→SD443
6372	M 4 h5	N - 82° - E	楕円形	0.70 × 0.53	26	平坦	外傾	人為	土師質土器片	本跡→ SE227
6430	M 4 h8	N - 20° - E	不定形	1.57 × 1.15	20	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	本跡→ SK6169
6431	N 4 c8	N - 72° - W		(1.42) × 0.90	5	平坦	緩斜	人為		SK6432 · 6433 → 本跡→第 104 号堀
6433	N 4 c8	N - 5° - E	楕円形	0.60 × 0.32	40	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	本跡→第 104 亏堀 本跡→ SK6431
6465	N 4 b8	_	[円形]	0.65 × (0.57)	38	凹凸	直立	人為		本跡→ SD452
6466	N 4 b8	N - 34° - W	[楕円形]	0.90 × 0.69	36	凹凸	緩斜	人為		本跡→SK6467,
6467	N 4 b8	N - 1 ° - E	[長方形]	(1.35) × 0.84	26	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	SD452 SK6466 →本跡,
6470	N 4 i8	N - 36° - W	楕円形	1.10 × 0.72	56	凹凸	外傾	人為	土師質土器片	SD452
6471	N 4 c9	-	[方形]	1.39 × (0.81)	26	平坦	緩斜 外傾	人為		本跡→ SD452
6477	N 4 d8	N - 15° - W	不定形	0.79 × 0.45	46	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	本跡→ SD446
6490	M 4 i5	-	[円形]	(1.02) × (1.00)	_	皿状	緩斜	自然		本跡→第 104 号堀
6526	O 4 a8	N - 46° - W	楕円形	1.47 × 0.96	23	平坦	緩斜	人為	土師質土器片,石器	
6534	N 4 i6	N - 15° - E	楕円形	1.38 × 1.10	28	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	第 104 号堀→本跡
6536	O 4 b6	N - 78° - W		1.80 × 0.86	28	平坦	外傾緩斜	人為	土師質土器片, 陶器片	本跡→ SK6537
6537	O 4 b6	N - 77° - W		1.62 × 0.86	44	平坦	緩斜 外傾	人為	土師質土器片	SK6536 →本跡
	0 4 00		111/61/1/1/	1.02 / 0.00	11	1 444	/ FPR	/ \ \		2110000 - 本助。

- AL D	(上 皿	巨汉士向	77 Z T/	規	模	* =	壁面	覆土	->>- 11: 1. \P\$. #4m	4th -tv.
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 面	壁 囬	復工	主な出土遺物	備考
6539	O 4 j5	N - 6° - W	楕円形	3.10 × 2.45	88	皿状	緩斜	人為	土師質土器片,陶器片,磁器片	本跡→ SK6540
6545	O 4 g0	-	円形	2.06 × 2.06	110	皿状	外傾	人為	土師質土器片	SD500 →本跡
6601	M 5 fl	-	円形	0.94 × 0.86	62	平坦	直立	人為	土師質土器片	
6605	N 4 d0	N - 12° - E	[長方形]	1.08 × (0.50)	12	平坦	外傾	人為	石器	本跡→ SD510
6624	M 4 h3	N - 45° - W	楕円形	6.05 × 3.58	-	平坦	緩斜	-		SD511, 第 104 号堀跡→本跡
6635	N 4 i2	N - 60° - E	楕円形	0.39×0.35	24	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	
6645	O 4 a2	N - 84° - E	[楕円形]	$(0.65) \times 0.48$	44	皿状	外傾	人為	土師質土器片	SD500 →本跡
6656	O 4 d2	N - 3° - E	[長方形]	1.54 × (1.00)	18	皿状	緩斜	人為	土師質土器片	
6659	O 4 c1	N - 7° - E	[楕円形]	1.10 × 0.46	10	平坦	外傾	人為	土師質土器片	
6660	O 4 d1	N - 5 ° - E	長方形	1.16 × 1.10	8	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	
6665	N 4 i2	$N-40^{\circ}-W$	楕円形	0.42×0.36	38	凹凸	外傾	人為		
6667	N 4 i1	N - 76° - W	楕円形	0.44×0.39	22	皿状	緩斜	人為	土師質土器片	
6670	N 4 j2	N - 75° - E	[楕円形]	0.39×0.33	61	平坦	直立 外傾	人為	土師質土器片	
6673	N 4 i2	-	円形	0.50×0.48	34	平坦	外傾	人為	土師質土器片	
6674	N 4 j1	N - 83° - E	楕円形	0.48×0.42	46	平坦	外傾	人為	土師質土器片	
6676	N 4 j2	-	円形	0.41 × 0.38	28	凹凸	外傾	自然	土師質土器片	PG72 →本跡
6677	N 4 j2	N - 68° - W	[楕円形]	$(0.47) \times 0.43$	52	平坦	外傾	自然	土師質土器片,陶器片	
6678	N 4 i2	N - 40° - W	楕円形	0.40×0.35	38	平坦	外傾	人為	陶器片	SK6679 →本跡
6687	O 4 f4	N - 89° - W	長方形	1.94 × 1.28	236	皿城	緩斜	-		第 104 号堀跡新 旧不明
6688	O 4 f4	N - 6° - E	長方形	2.14 × 1.40	80	皿状	外傾 緩斜	-	土師質土器片, 石器	
7278	M 8 d2	N - 20° - W	楕円形	0.78×0.70	15	平坦	緩斜	人為	土師質土器片,石製品	SF30 →本跡

(7) 道路跡

第30号道路跡 (第300図)

調査年度 平成24年度

位置 15 区東部のM8c3 ∼M8gl区,標高22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7278 号土坑, 第92 号堀, 第571 号溝に掘り込まれている。

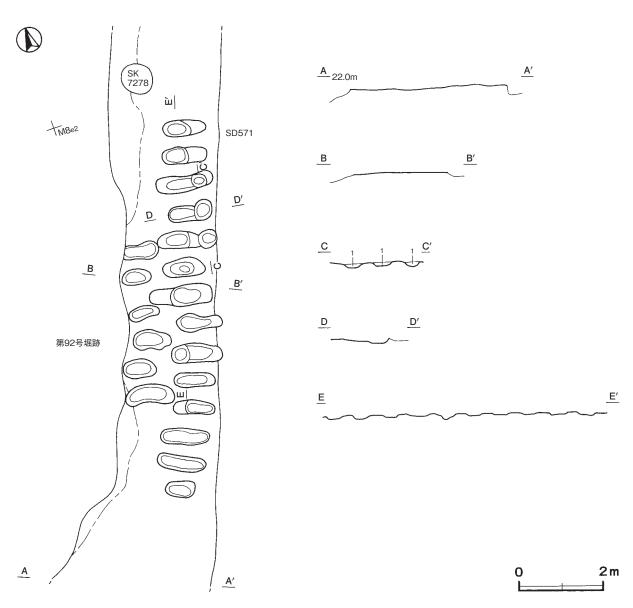
規模と形状 M8g1 区から北東方向($N-22^\circ-E$)にほぼ直線状に延び、調査区域外に至っている。確認できた長さは 17.60 m、幅は $1.89\sim3.35$ mである。地山面が路面として使用され、踏み固められている。硬化面は 1 面である。北端部と南端部の路面は平坦である。

波板状凹凸 中央部から南部にかけての長さ 9.43 m, 幅 2.58 mの範囲で波板状の凹凸 20 か所を確認した。平面形は道路の延長方向と直交する長楕円形で,規模は長さ $68 \sim 153$ cm,幅 $26 \sim 48$ cmで,深さ $3 \sim 17$ cmである。掘り込みは,0.6 mほどの等間隔で配置されており,掘り込み 14 か所が延長方向に並行して配置されている。その西側に並行して,掘り込み 6 か所が配置されている。また,長楕円形 3 か所の東部に,径 $1.06 \sim 1.60$ m,深さ $8 \sim 10$ cmの円形の掘り込みが確認されている。いずれの掘り込みについても砂質粘土ブロックを含む暗褐色土で埋め戻され,突き固められている。また,掘り込みの合間の路面は平坦で,上面が固く締まっている。

波板状凹凸土層解説

1 暗 褐 色 砂質粘土ブロック中量 (締まり強い)

所見 本跡は, 第92号堀, 第571号溝に掘り込まれる15世紀後半まで道路として機能していたと考えられる。 構築時期については, 遺構に伴う土器が出土していないため不明である。波板状凹凸については, 本跡の中央 部・南部の標高が, 北部に比べてやや低くなっていることから, 軟弱な路面を補強した痕跡とみられる。一部 に凹凸が2列確認されており、その地点が特に軟弱な地盤であった可能性がある。



第300図 第30号道路跡実測図

(8) 堀跡

第 104 号堀跡 (第 301 ~ 322 図)

調査年度 平成 20 · 21 年度

位置 15 区中央部の M 4 h3 ~ N 4 d7 区, N 4 h6 ~ O 4 f2 区, 標高 20 ~ 21 mほどの台地平坦部に位置している。 重複関係 第 6431 · 6490 号土坑,第 446 · 448 · 511 · 516 号溝跡を掘り込み,第 239 ~ 244 号井戸,第 6441 · 6534 · 6540 · 6624 号土坑,第 513 号溝に掘り込まれている。第 452 号溝跡,第 229 · 230 号井戸,第 6687 ~ 6689 号土坑とも重複しているが,新旧関係は不明である。

規模と形状 平成 20 年度と平成 21 年度の調査区の間には未調査部があり、また、各調査年度とも南北端部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは合わせて 79.41 mである。N 4 g2 区から南東方向 $(E-45^\circ-S)$ に直線的に延び、N 4 b7 区で南方向 $(S-15^\circ-W)$ にL字状に屈折して、調査区域外へ至り、N 4 h6 区から南方向 $(S-10^\circ-W)$ に彎曲しながら延び、O 4 f5 区で西方向 $(W-0^\circ)$ にL字状に屈折して、調査区

区域外へ至っている。規模は上幅 $6.32\sim11.80$ m,下幅 $0.40\sim3.00$ m,深さ $2.96\sim3.36$ m である。断面形は N 4 d7 区から北は逆台形,N 4 h6 から南は U字状で,壁はそれぞれ緩やかに立ち上がっている。土層断面の 観察から 3 期に分かれる。各時期の規模は I 期の堀は,II 期の堀に掘り返されているため,中央部の底部の一部と壁の立ち上がりしか確認できなかった。確認できた上幅は 3.44 m~ 6.76 mで,下幅は 0.60 m~ 1.00m,深さ 2.40 m~ 3.16 mである。断面は北部では逆台形,南部では U字状で,壁は緩やかに立ち上がっている。 II 期の堀は,第 511 号溝を掘り込み,南部をII 期の堀に掘り返されているため,確認できた上幅は 0.21 m~ 0.54 m,下幅 0.32m~ 0.40m,深さ 0.76m~ 1.62m である。断面は南部では逆台形,北部では U字状,壁は緩やかに立ち上がっている。 II 期の堀は南西部で確認面から深さ 1.40 mで湧水があったため,それより下位は確認できなかった。上幅は 7.30m~ 9.60m,下幅 0.40m~ 1.80m,深さ 2.04m~ 3.36m である。断面は北部では逆台形や浅い U字状,南部では有段や浅い U字状,壁は南部の一部に段を有し,他は緩やかに立ち上がっている。南北底面の比高は I 期が 0.2m,II 期が 0.5m,III 期が 0.9m であり, I・III 期は南部に向かって、II 期は北部に向かってやや傾斜している。

覆土 45 層に分層できる。各層にロームや粘土のブロックを含む不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。第 $1 \sim 34$ 層は Π 期の堀,第 $35 \sim 38$ 層は Π 期の堀,第 $39 \sim 45$ 層は Π 期の堀の覆土である。北部の第 $2 \sim 10$ 層で,硬化面を確認したことから,この面が道路として利用された可能性もある。平成 21 年度調査の Π 21 46 から南では,硬化面を確認することはできなかった。

土層解説

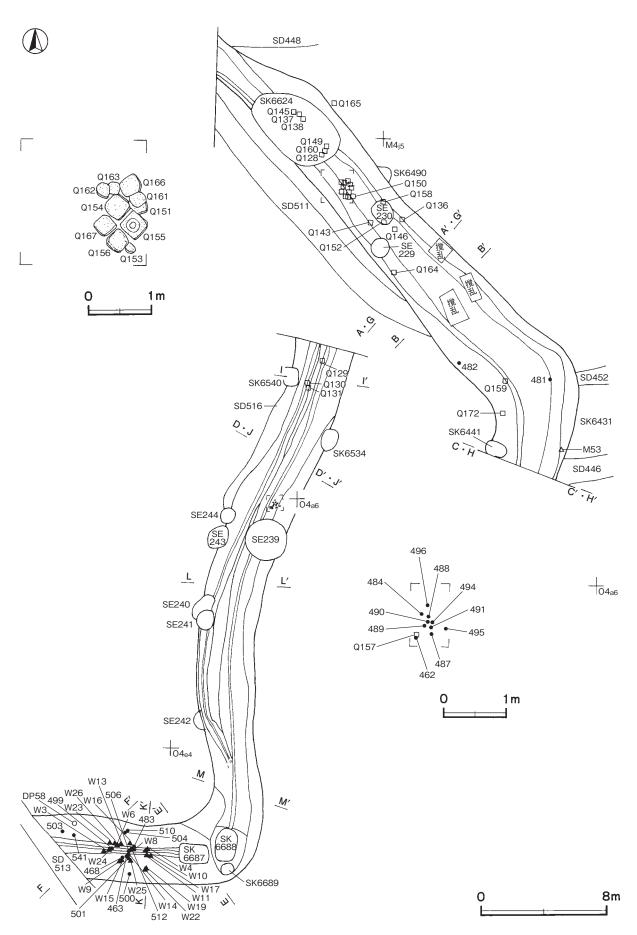
- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量 (締まり強い)
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量(締まり強い)
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量, 白色粘土ブロック・焼土粒子・ 炭化粒子微量 (締まり強い)
- 5 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 焼土粒 子・炭化粒子微量 (締まり強い)
- 6 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 焼土粒 子・炭化粒子微量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 褐 色 ローム粒子・白色粘土粒子中量
- 9 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量
- 10 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 (締まり強い)
- 11 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 12 暗 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック微量
- 13 極暗褐色 ロームブロック微量
- 14 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子・ 炭化粒子微量
- 16 にぶい褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 17 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 18 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 炭化物 巻号
- 19 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量, 鉄分少量, 炭化物微量
- 20 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒 子・炭化粒子微量
- 21 暗 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック・炭化粒 子微量
- 22 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 23 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量
- 24 黒 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック・炭化物 微量
- 25 黒 褐 色 白色粘土ブロック・赤色粘土ブロック中量, 炭化 物少量, ロームブロック・焼土粒子微量

- 26 暗 褐 色 赤色粘土ブロック中量,ロームブロック・白色粘 +ブロック少量
- 27 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 炭化粒 子微量
- 28 黒 褐 色 ロームブロック・赤色粘土ブロック少量, 白色粘 土ブロック微量
- 29 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量、焼土ブロック・赤色粘土 ブロック微量
- 30 黒 褐 色 赤色粘土ブロック中量, 白色粘土ブロック・ローム粒子微量(粘性・締まり強い)
- 31 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量・ローム粒子・焼土粒子・ 炭化粒子微量
- 32 黒 褐 色 赤色粘土ブロック・白色粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 33 黒 褐 色 赤色粘土ブロック中量, 白色粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量(粘性・締まり強い)
- 34 暗 褐 色 赤色粘土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量
- 35 黒 褐 色 炭化物中量, ロームブロック少量・焼土粒子微量
- 36 暗 褐 色 ロームブロック・青灰色粘土ブロック・炭化物少 量: 焼土粒子微量
- 37 黒 色 灰白色粘土ブロック中量, ローム粒子少量
- 38 暗 褐 色 青灰色粘土ブロック中量,炭化粒子少量,ローム ブロック微量
- 39 暗 褐 色 白色粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒 子・炭化粒子微量
- 40 黒 褐 色 白色粘土粒子少量,ロームブロック・炭化物・焼 土粒子微量
- 41 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子・ 炭化粒子微量
- 42 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子・ 炭化粒子微量
- 43 暗 褐 色 ローム粒子少量, 白色粘土ブロック・炭化物微量
- 44 暗 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック・焼土粒 子舎長
- 45 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

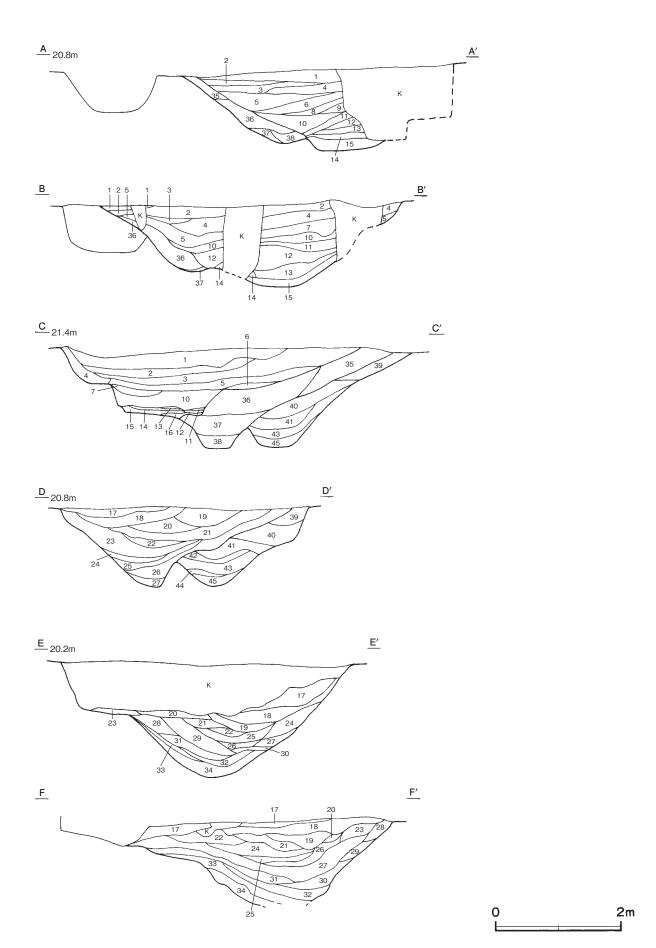
遺物出土状況 土師質土器片 1023 点 (小皿 278. 内耳鍋·焙烙 570. 擂鉢 68. 火鉢 45. 甕 60. 香炉 2). 瓦 質土器片 5 点(擂鉢 1,鉢類 4),陶器片 87 点(碗 36, 皿 7,鉢 2,擂鉢 36,甕 5,壺 1),磁器片 2 点(碗), 土製品9点(羽口1,五徳4,支脚1,多孔状土製品1,不明2),石器46点(磨石2,石臼29,茶臼5,砥 石 10), 石製品 128 点 (石鉢 1, 軽石 1, 板碑 1, 五輪塔 81, 宝篋印塔 3, 礎石, 2, 硯 1, 不明 38), 鉄器 2点(雁股鏃1, 鎺1)鉄製品3点(釘1, 不明2),銭貨2点(洪武通寳, 永楽通寳),木製品54点(椀 12, 杭 12, 荷札状木製品 4, 曲物 7, 箆状木製品 1, 下駄 2, 樋, 5, 不明 11), 瓦 3 点 (鬼瓦 1, 平瓦 2), 自然遺物 2 点 (種子, 炭化材), 鉄滓 3 点, 瑪瑙 1 点のほか, 土師器片 165 点 (坏 32, 椀 1, 高坏 4, 甕 127, 甑 1),須恵器片 68 点(坏 6 ,高坏 1 ,鉢 1 ,擂鉢 1 ,壺 2 ,甕類 53,坏蓋 3 ,提瓶 1),土製品 2 点(土玉, 土器片錘)が、散在した状態で出土している。Q128·Q136~Q150·Q170·Q171は北西部の、549は中央部 の、460~462·547·548·Q125は南部の、463~480·543·546·551·553·565·TP20·DP60·M50·W $3 \sim W26$ は南西部の覆土下層から、Q151 \sim Q156 は北西部の、481 \sim 483 \cdot 561 \cdot 562 \cdot 570 \cdot Q129 \sim Q131 \cdot Q157・M53 は中央部の、484 ~ 496・TP19 は南部の、497 ~ 512・541・542・DP58・DP61・DP62・Q124 は 南西部の覆土中層から, 513・Q158 ~ Q167 は北西部の, Q172 は中央部の, 544・Q174・M54 は南部の, 514 ~ 532·556·557·564·568·DP59·Q132·Q133·Q135 は南西部の覆土上層から, 552 は北西部の, 550· 558 は中央部の、533 ~ 535、545・567・569・Q126・Q127・Q134・Q169・Q173 は南部の、536 ~ 539・554・ 555 は南西部の覆土中から、540・559・560・563・566・M48・M49・M51・M52 は覆土中からそれぞれ出土 している。(出土遺物は、A断面から北を北西部、A断面からF断面までの間を中央部、F断面からG断面ま での間を南部、G断面から南を南西部とした)。北西部では、五輪塔の出土量が多い。本跡から北へ3mには、 五輪塔が大量に投棄された第226号井戸跡があり、関連が想定される。また、南部のO4a5区では、覆土下 層から 484・487 ~ 491・494 ~ 496 がまとまって出土している。これらの土師質土器(小皿)は、内底面周辺 部が凹んでいるものが多い。西部のO4f2~f3区では、土師質土器(小皿)と共に、木器・木製品が覆土下 層から大量に出土している。全体的な遺物出土状況は、北部(平成20年度調査区)から五輪塔、南部(平成 21年度調査区)から土師質土器や木製品が、多量に出土しており、地区によって大別できる。

石組み状遺構 北部M 4 i 4 区で、五輪塔が整然と並んだ状態で出土した。出土範囲は南北 1.5 m, 東西 0.9 mで、確認面からの深さは 1 mである。五輪塔の内訳は火輪 3 点、水輪 2 点、地輪 5 点、不明 1 点の計 11 点で構築されている。石組み状遺構の下から五輪塔が出土していることから、五輪塔を投棄し、第 10 層まで埋め戻した後、石組み状遺構を構築したものと考えられる。建物の基礎部分に使われた可能性もあるが、詳細は不明である。

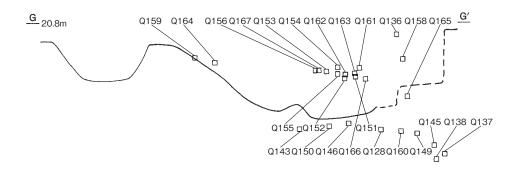
所見 時期は、 I 期の堀が、出土土器($484\cdot487\sim491\cdot494\sim496$)から、16 世紀前葉には埋め戻されたと考えられる。 I 期の堀は、16 世紀中葉から 16 世紀後葉と考えられ、 I 期の堀は出土土器から 17 世紀中葉には機能を終えたと考えられる。規模や形状から防御施設としても機能していたと考えられる。また、西側が未調査区のため明確ではないが、本跡の西側で室町時代の井戸跡や土坑など、北側で墓域が確認できたことから、西側の居住区域と北側の墓域を区画する機能を有していたと想定される。南部の屈曲する部にある第 $6687\cdot6688$ 号土坑、最北部にある第 6624 号土坑は、敵が堀を渡河する際に、その進入速度を低減させるものとも考えられる。

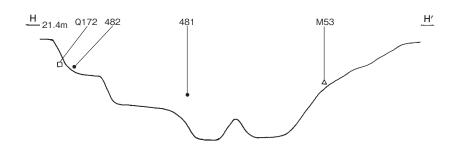


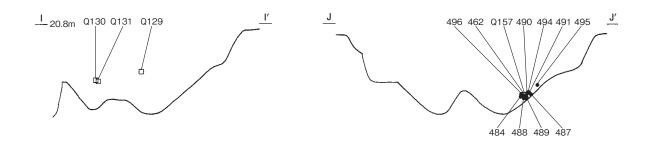
第301 図 第104 号堀跡実測図(1)

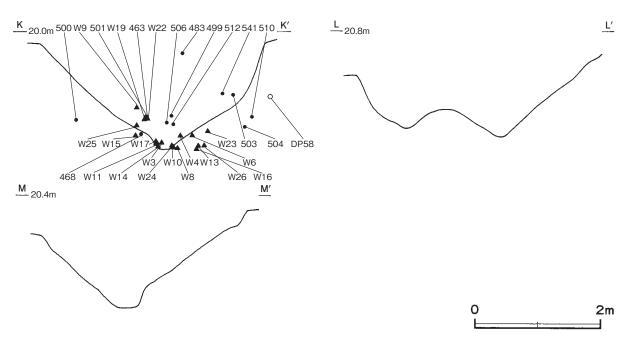


第302 図 第104 号堀跡実測図(2)

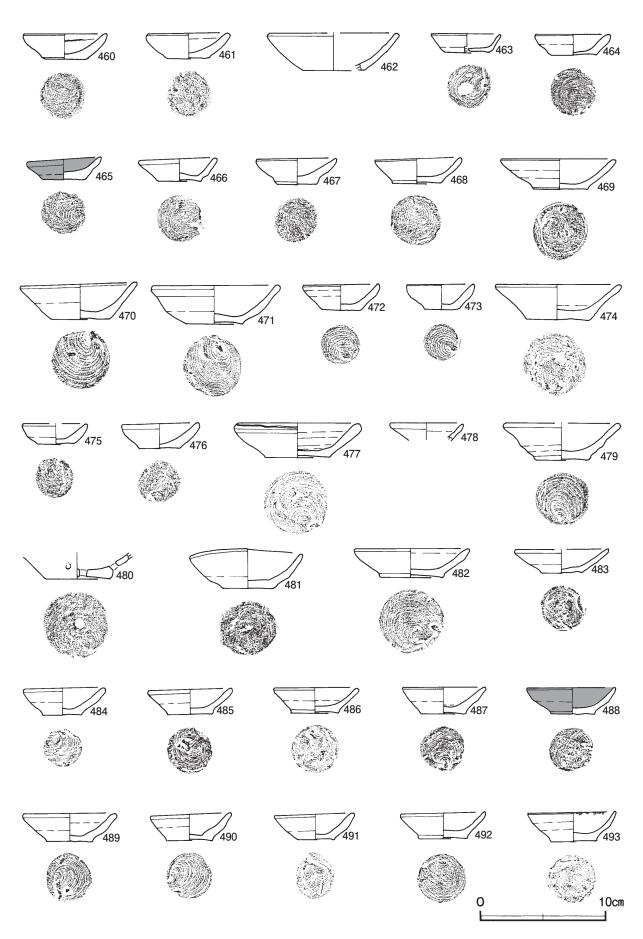




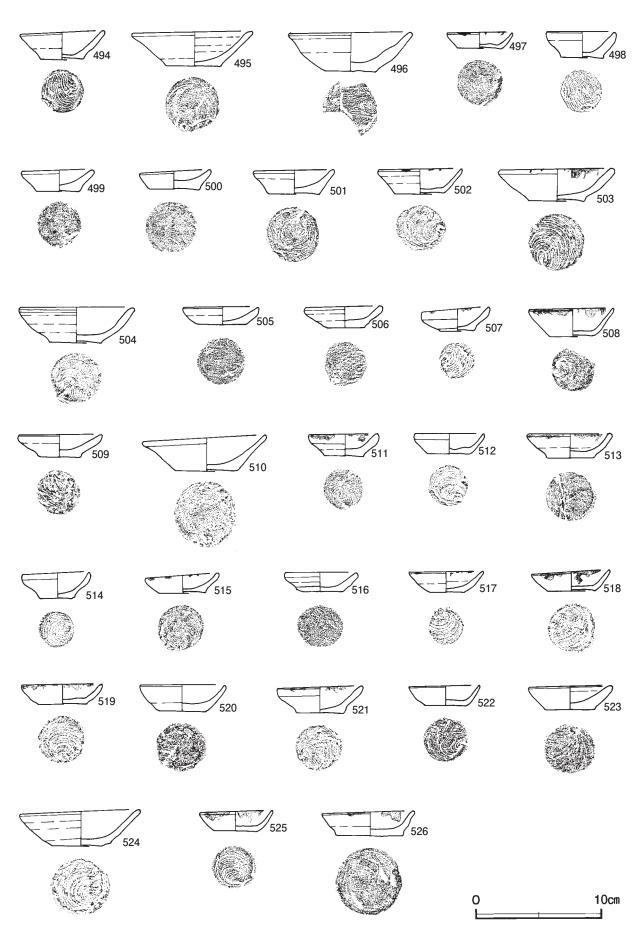




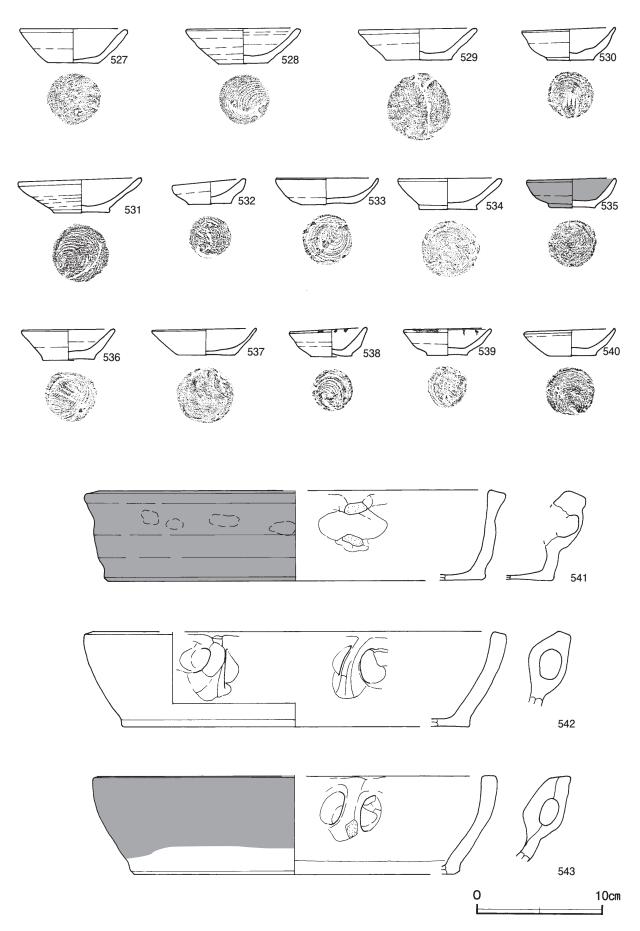
第303図 第104号堀跡実測図(3)



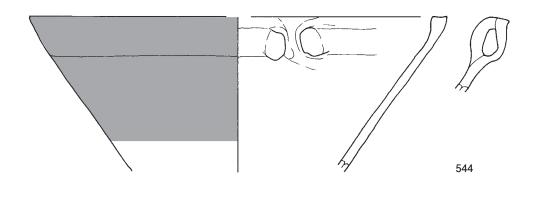
第 304 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図(1)

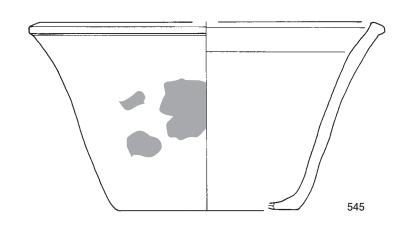


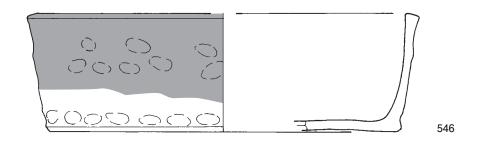
第 305 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (2)

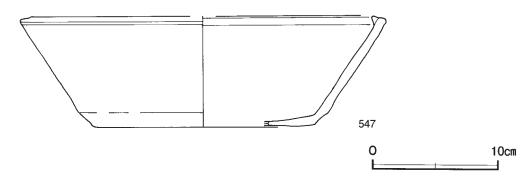


第306 図 第104 号堀跡出土遺物実測図(3)

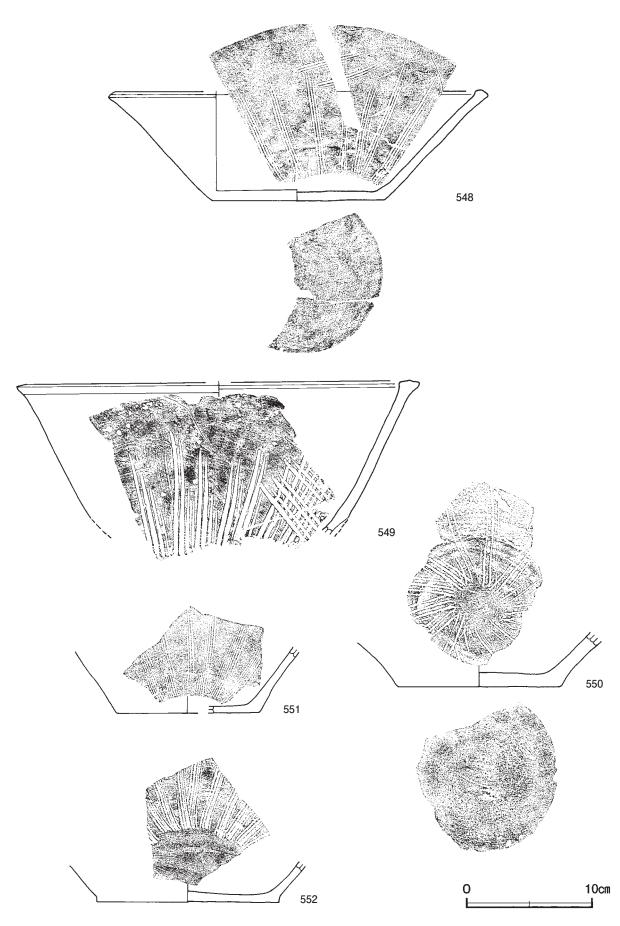




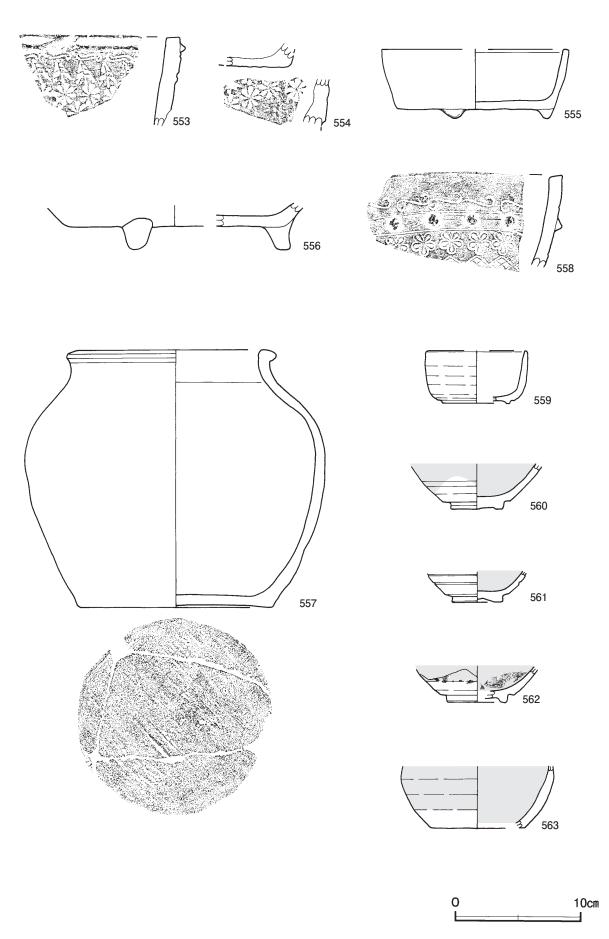




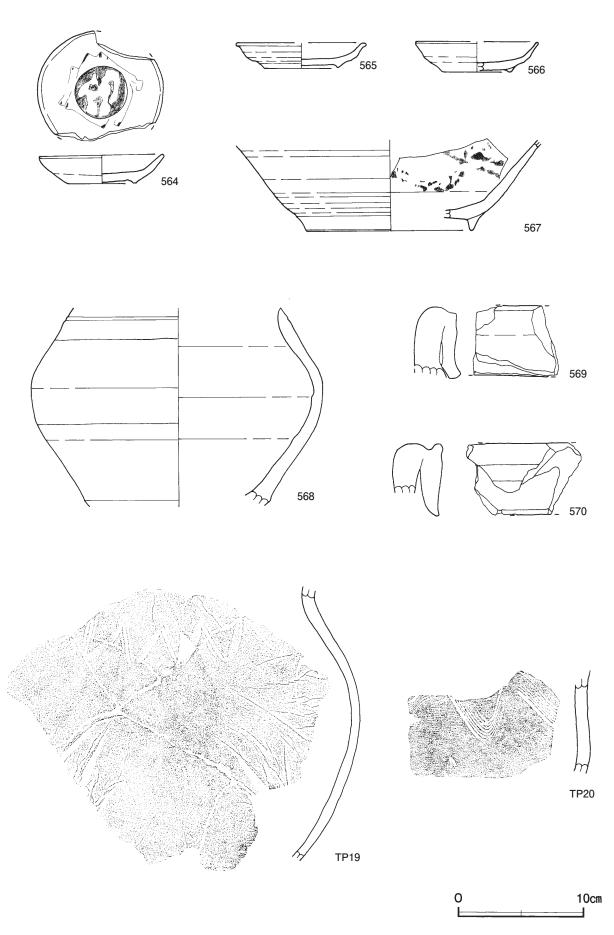
第307図 第104号堀跡出土遺物実測図(4)



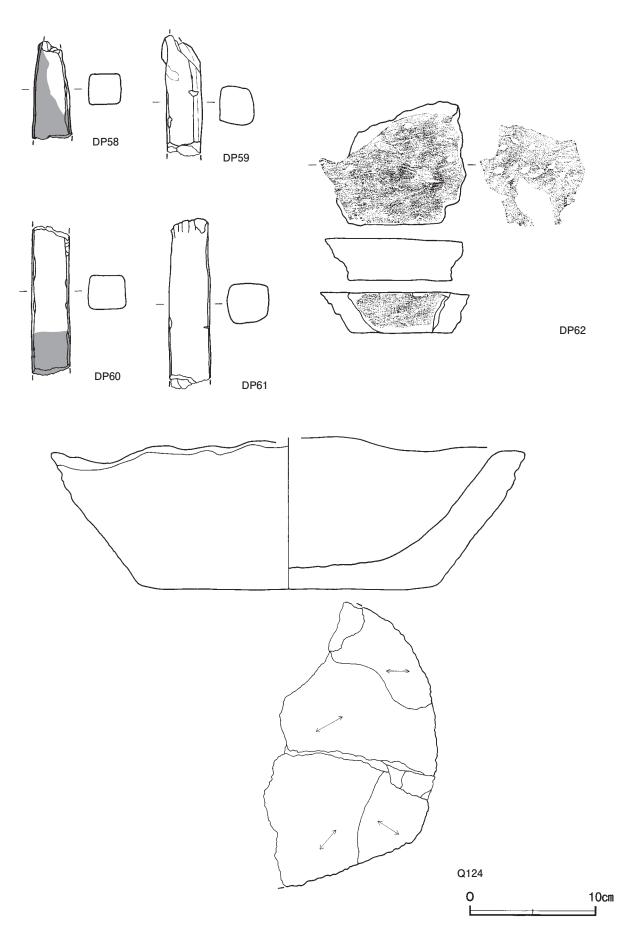
第 308 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (5)



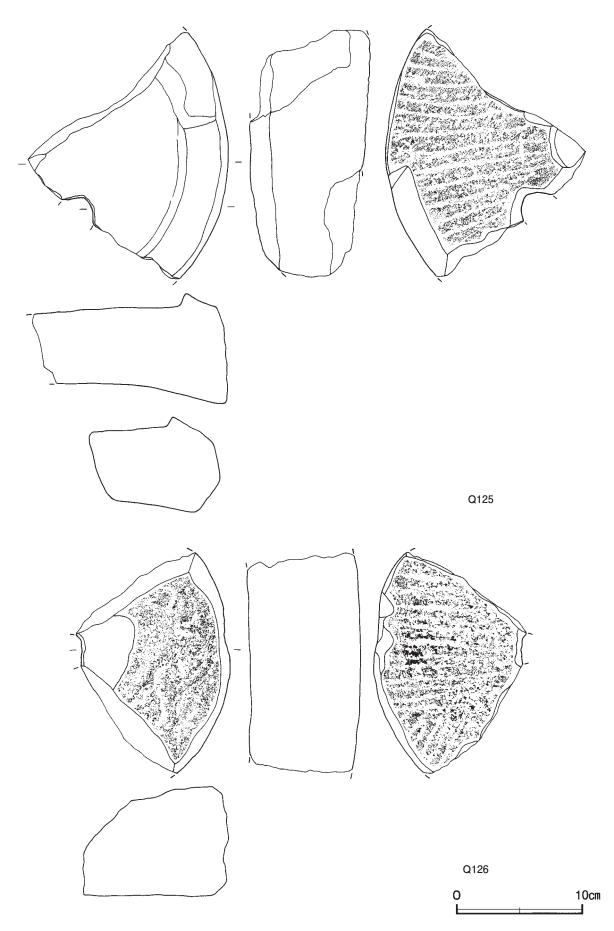
第 309 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (6)



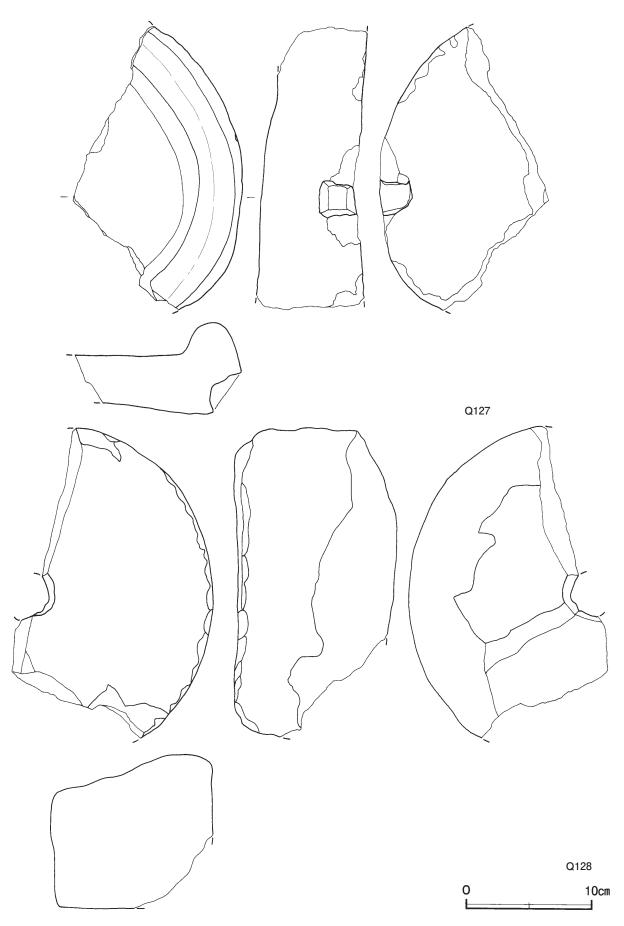
第 310 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (7)



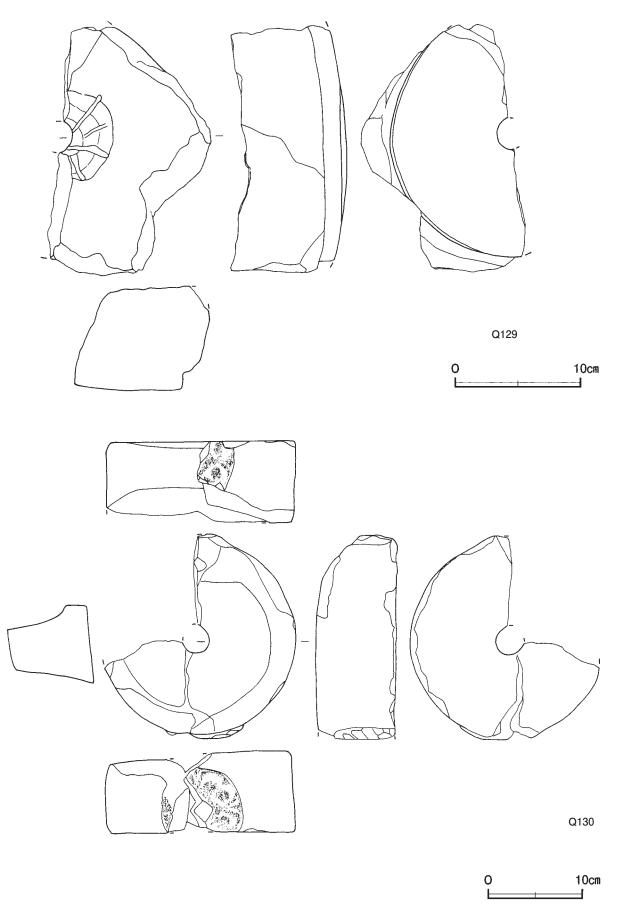
第311 図 第104号堀跡出土遺物実測図(8)



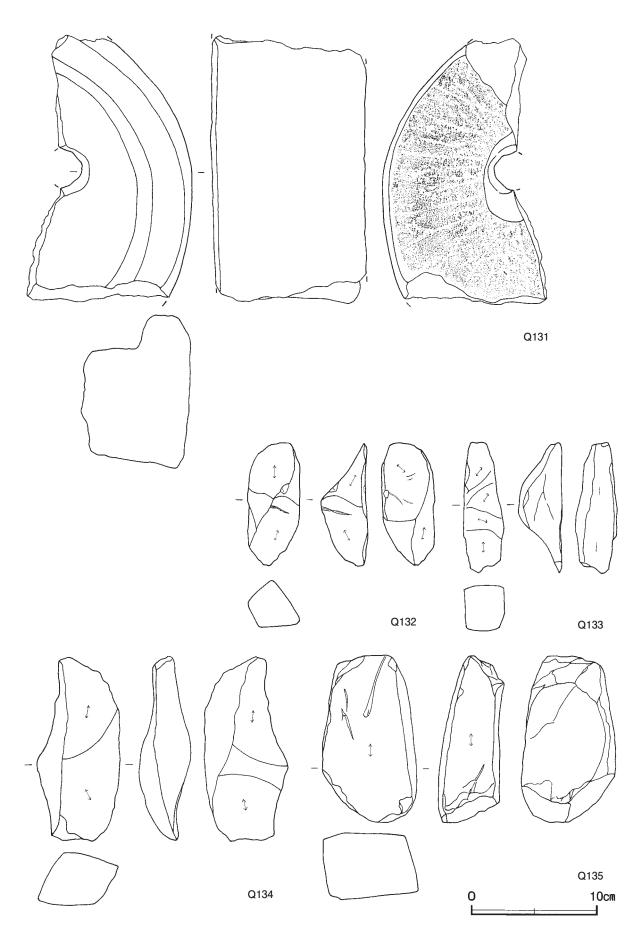
第 312 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (9)



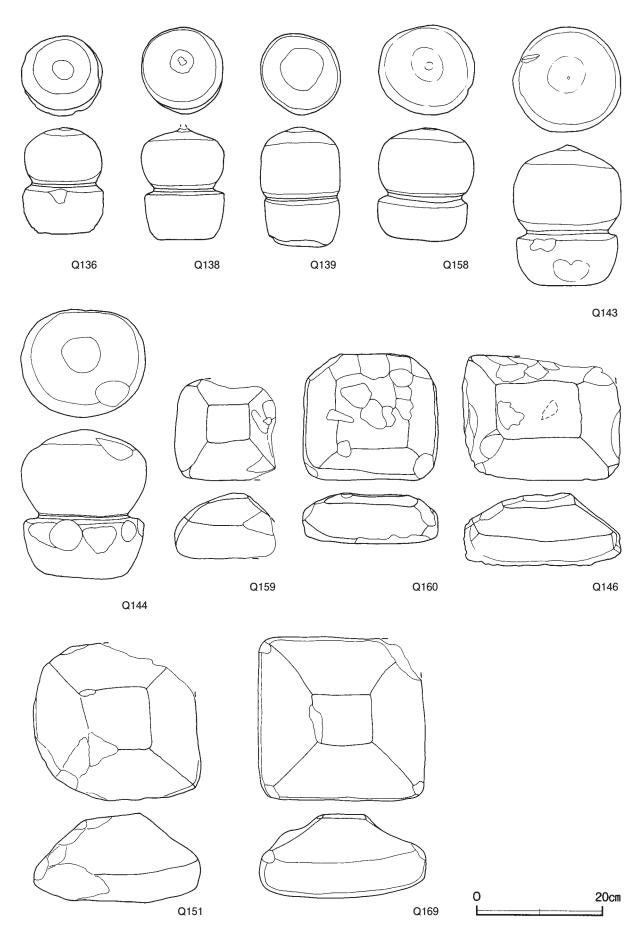
第 313 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (10)



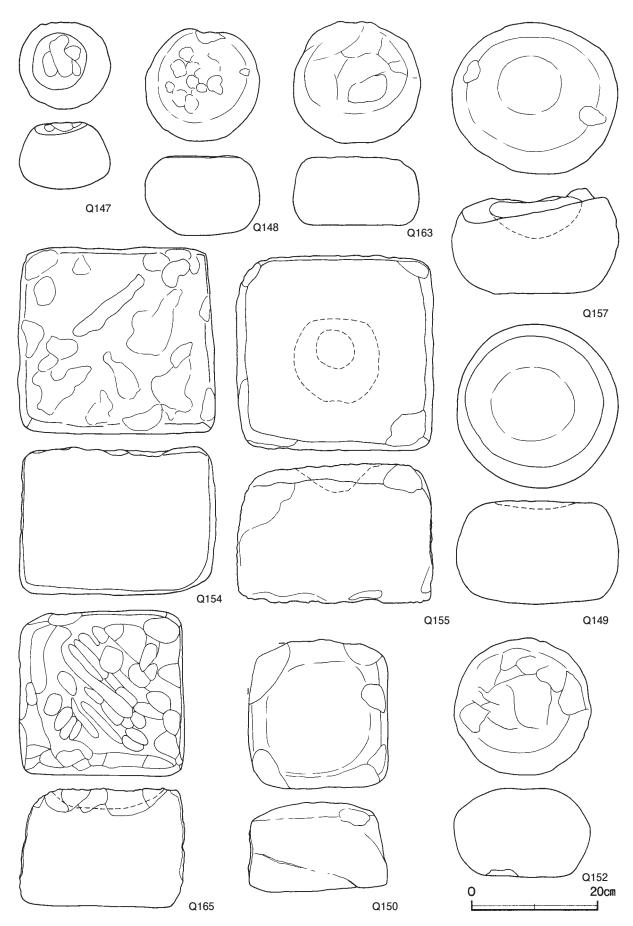
第 314 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (11)



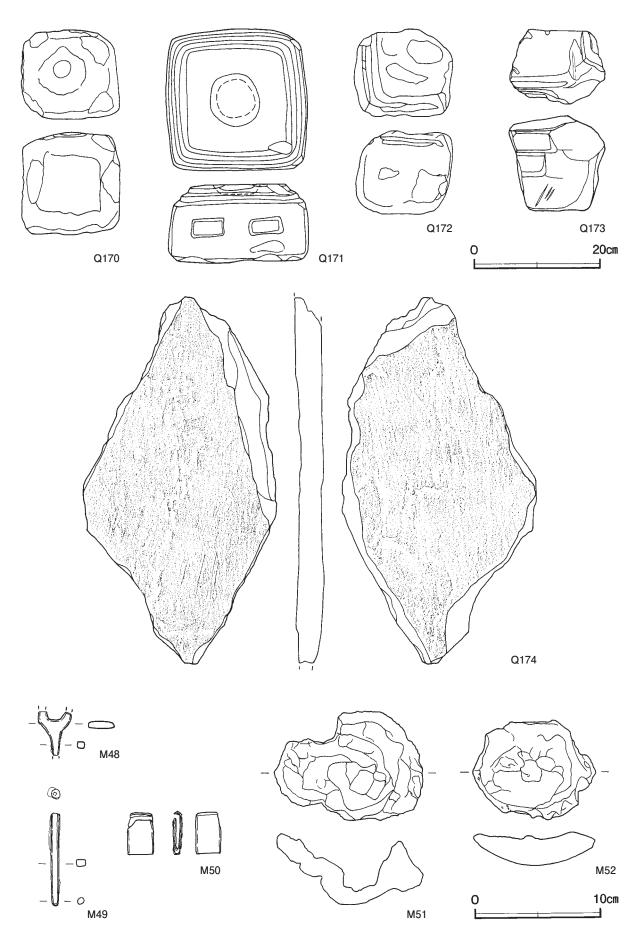
第 315 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (12)



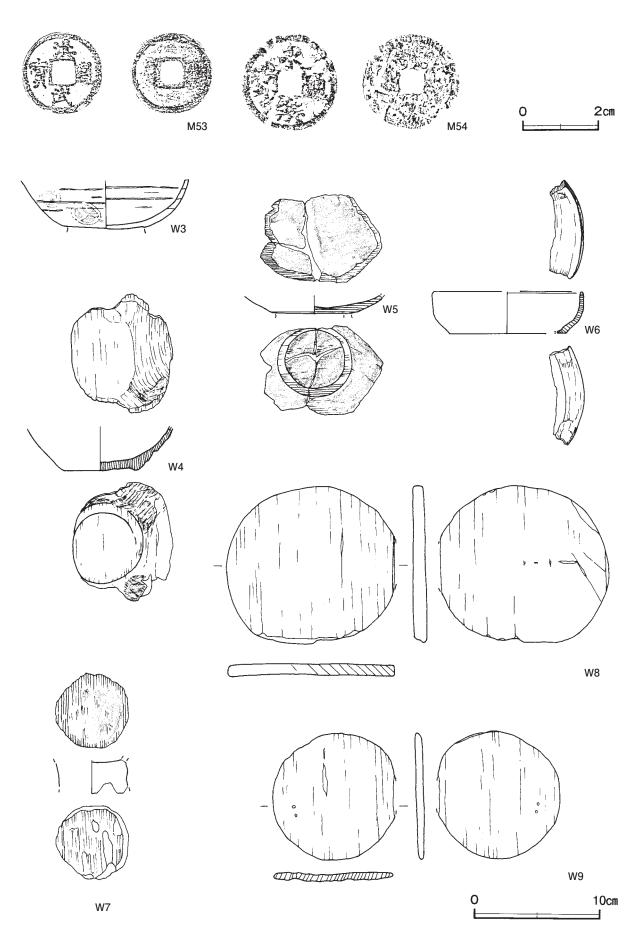
第 316 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (13)



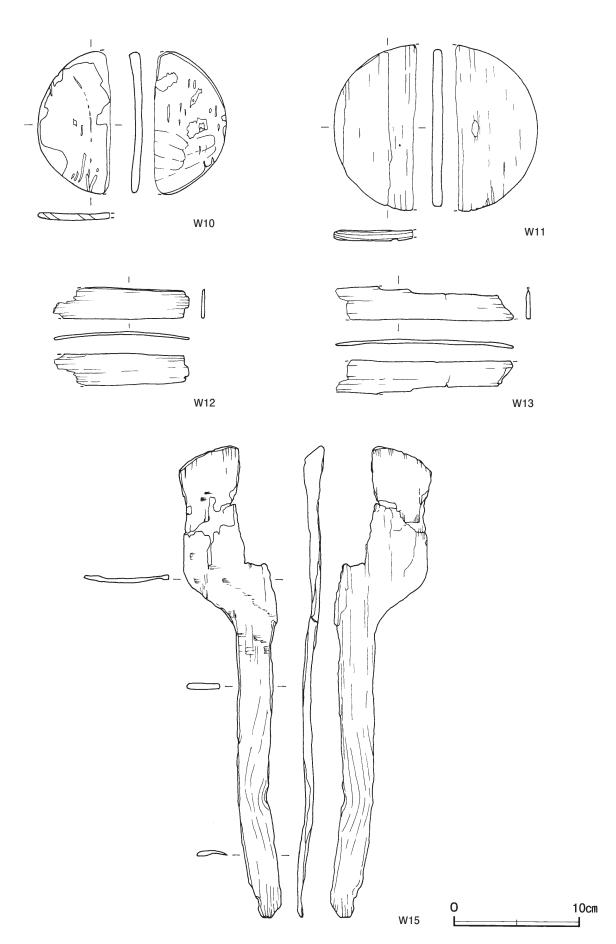
第 317 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (14)



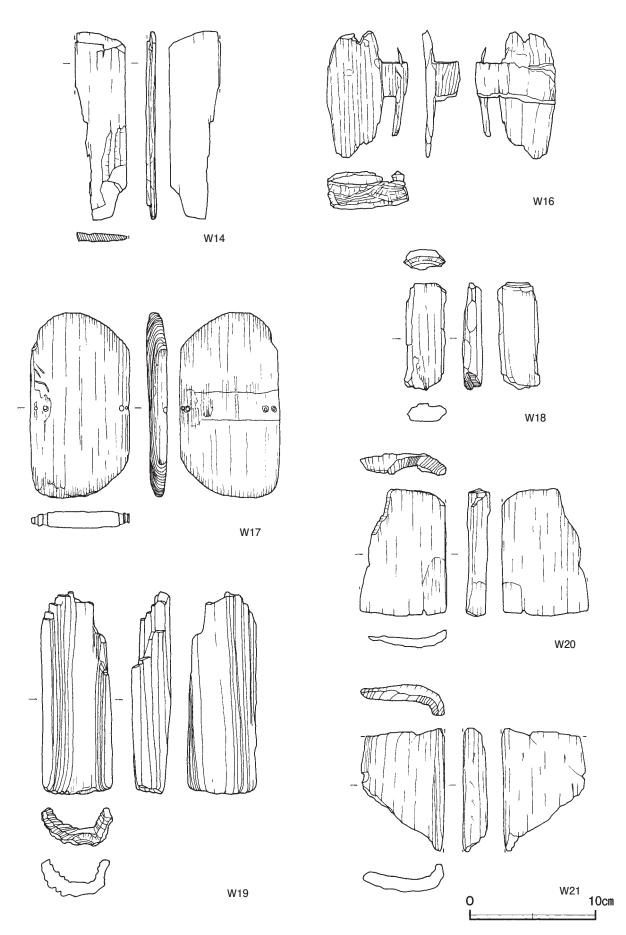
第 318 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (15)



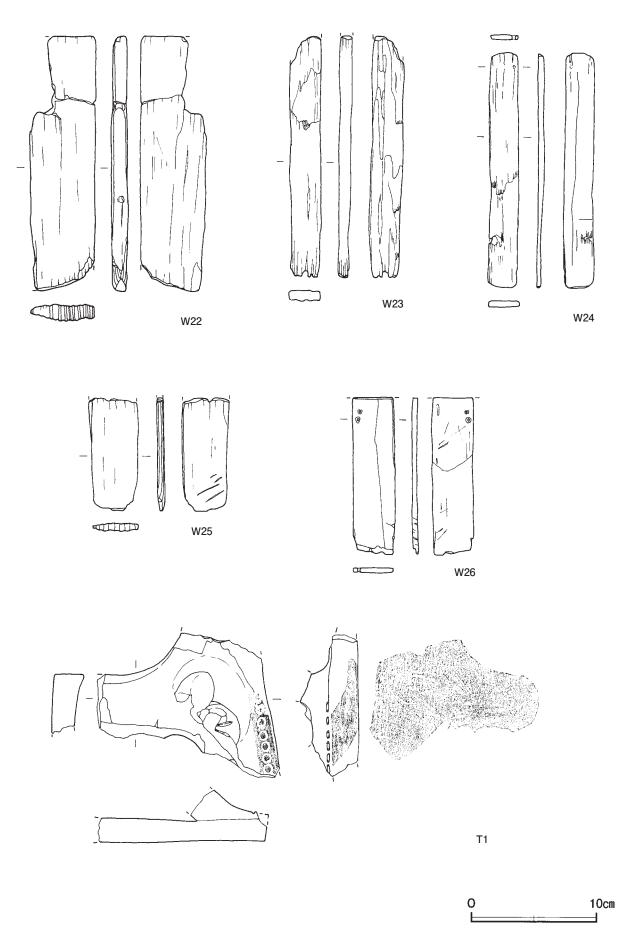
第 319 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (16)



第 320 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (17)



第 321 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (18)



第 322 図 第 104 号堀跡出土遺物実測図 (19)

第 104 号堀跡出土遺物観察表(第 304 ~ 322 図)

			1								
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成		出土位置	備考
460	土師質土器	小皿	6.6	2.1	3.7	長石・石英・ 雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 内面摩滅のため調整不明	南部下層	100% PL79
461	土師質土器	小皿	6.5	2.1	3.5	長石・石英・ 雲母・砂粒	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 内面摩滅のため調整不明	南部下層	100% PL79
462	土師質土器	小皿	[10.0]	3.0	5.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	南部下層	30%
463	土師質土器	小皿	5.5	1.5	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 底部1か所穿孔 底体部内面ロクロ目	南西部下層	100% PL81
464	土師質土器	小皿	6.0	1.7	3.7	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面仕上げナデ	南西部下層	100% PL78
465	土師質土器	小皿	6.0	1.9	3.5	長石·石英· 雲母·赤色粒子	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面仕上げナデ	南西部下層	100% PL78 油煙付着
466	土師質土器	小皿	6.1	1.9	3.5	長石·石英· 雲母·赤色粒子	橙	良好		南西部下層	100% PL79
467	土師質土器	小皿	6.4	2.1	3.2	長石・石英・	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内面摩滅のため調整不明	南西部下層	100% PL79
468	土師質土器	小皿	6.8	2.1	4.0	長石・石英・	淡橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部下層	100% PL79
469	土師質土器	小皿	8.9	2.4	4.4	雲母・赤色粒子 長石・石英・	淡橙	普通	内面摩滅のため調整不明 ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ	南西部下層	100% PL80
470	土師質土器	小皿	9.2	3.0	4.6	雲母・赤色粒子 長石・石英・	にぶい橙	普通	内底面周縁部凹み 仕上げナデ ロクロナデ 底部回転糸切り	南西部下層	100% PL81
471	土師質土器	小皿	9.9	3.2	4.6	雲母・赤色粒子 長石・石英・	橙	普通	体底部内面ロクロ目強(同心円状) ロクロナデ 底部回転糸切り	南西部下層	100% PL81
472	土師質土器	小皿	6.0	2.2	3.1	雲母・赤色粒子 長石・石英・雲母	赤褐	普通	体底部内面ロクロ目強(同心円状) ロクロナデ 底部回転糸切り	南西部下層	99% PL77
473	土師質土器			2.1	2.8	長石・石英・	赤	普通	体底部内面ロクロ目 ロクロナデ 底部回転糸切り 内面摩滅のため調整不明	南西部下層	油煙付着 98% PL77
		小皿	5.3			赤色粒子 長石・石英・			内面摩滅のため調整不明 ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ		油煙付着
474	土師質土器	小皿	9.7	2.8	5.0	雲母 長石・石英・	橙	普通	内面摩滅のため未調整 ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底	南西部下層	95% PL81
475	土師質土器	小皿	[5.1]	1.7	3.0	赤色粒子 長石・石英・	橙	普通	面周縁部凹み 仕上げナデ ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	南西部下層	90% PL77
476	土師質土器	小皿	6.0	2.1	3.3	雲母・赤色粒子	橙	普通	内面摩滅のため調整不明 ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	南西部下層	90% PL78
477	土師質土器	小皿	9.7	2.7	5.2	長石·石英·雲母 長石·石英·	褐灰	普通	体底部内面ロクロ目強(うずまき状)	南西部下層	90% PL81
478	土師質土器	小皿	5.9	(1.4)	-	雲母·赤色粒子 長石·石英·	橙	普通	ロクロナデ 体部のみ残存 ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	南西部下層	70%
479	土師質土器	小皿	[8.9]	3.0	4.2	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体底部内面ロクロ目強(うずまき状)	南西部下層	70% PL81
480	土師質土器	小皿	-	(2.0)	[5.0]	長石·石英· 雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体部 2か所穿孔 底部1か所穿孔	南西部下層	30% PL81
481	土師質土器	小皿	8.8	3.2	4.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	中央部中層	100% PL80
482	土師質土器	小皿	9.0	2.3	5.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 内面摩滅のため未調整	中央部中層	90% PL81
483	土師質土器	小皿	[7.4]	1.9	3.1	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	中央部中層	70% PL80
484	土師質土器	小皿	6.4	2.2	3.2	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙	普通		南部中層	100% PL79
485	土師質土器	小皿	6.5	2.1	3.6	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	南部中層	100% PL79
486	土師質土器	小皿	6.6	2.0	3.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 内底 面仕上げナデ	南部中層	100% PL79
487	土師質土器	小皿	6.7	2.1	3.6	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	南部中層	100% PL79
488	土師質土器	小皿	6.9	2.2	3.5	長石・石英・雲母	黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 内底 面周縁部凹み	南部中層	100% PL79
489	土師質土器	小皿	7.3	2.3	3.6	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面周縁部凹み	南部中層	100% PL80
490	土師質土器	小皿	6.3	2.2	3.7	長石・石英・ 雲母・砂粒	にぶい橙	普通	170周囲周隊部日外 11.1.17 / /	南部中層	98% PL79
491	土師質土器	小皿	6.4	2.2	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	ロカロムボ 皮が同転を切り落くこよぶ	南部中層	98% PL78
492	土師質土器	小皿	6.7	2.1	3.9	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面摩滅のため調整不明	南部中層	98% PL79
493	土師質土器	小皿	6.8	2.4	3.8	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	南部中層	90% PL80
494	土師質土器	小皿	6.7	2.4	3.4	長石・石英・雲母	橙	普通		南部中層	80% PL80
495	土師質土器	小皿	9.5	2.9	4.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面仕上げナデ	南部中層	80% PL81
496	土師質土器	小皿	9.6	3.3	4.0	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙	普通	口グロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 体底部内面ロクロ目(うずまき状)	南部中層	60% PL81
497	土師質土器	小皿	5.3	1.3	3.5	 ボ巴粒士 長石・石英	にぶい黄橙		ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部中層	100% PL78
498	土師質土器	小皿	5.5	2.2	3.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	内底面周縁部凹み 仕上げナデ ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面仕上げナデ	南西部中層	油煙付着 100% PL77 沖煙付差
499	土師質土器	小皿	5.6	1.8	3.5	長石・石英・	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部中層	油煙付着 100% PL78
500	土師質土器	小皿	5.7	1.7	4.0	雲母・赤色粒子 長石・石英・	明褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	南西部中層	100% PL78
501	土師質土器	小皿	6.4	2.0	4.0	雲母・赤色粒子 長石・石英・雲母	橙	良好	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部中層	100% PL78
502	土師質土器	小皿	6.7	2.0	3.9	長石・石英・雲母	橙橙	普通	内底面仕上げナデ ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	南西部中層	98% PL79
	土師質土器		9.0			長石・石英・		普通	体底部内面ロクロ目強(同心円状) ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面中央部凹み	南西部中層	油煙付着 100% PL80
503		小皿		2.6	4.5	雲母・赤色粒子	明赤褐		ロクロナデ 底部回転糸切り		油煙付着
504	土師質土器	小皿	9.1	2.8	4.1	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体底部内面ログロ目強(うずまき状) ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部中層	100% PL80
505	土師質土器	小皿	6.1	1.5	3.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内底面仕上げナデ	南西部中層	98% PL78

# 2 日						1			T			
19 1 1 1 1 1 1 1 1 1	番号	種別	器種	口径	器高	底径		色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
19 19 19 19 19 19 19 19	506	土師質土器	小皿	6.1	1.8	3.3	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内底面仕上げナデ	南西部中層	
1985 1987	507	土師質土器	小皿	5.4	2.0	2.9		赤	普通	内底面仕上げナデ	南西部中層	油煙付着
1987年 小田 197 29 20 20 20 20 20 20 20	508	土師質土器	小皿	6.7	2.2	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	内底面周縁部凹み 仕上げナデ	南西部中層	
19 19 19 19 19 19 19 19	509	土師質土器	小皿	6.6	1.9	3.4		にぶい黄橙	普通	内面摩滅のため調整不明	南西部中層	90% PL80
15 1	510	土師質土器	小皿	9.7	2.9	5.0	雲母・砂粒	浅黄橙	普通	体底部内面ロクロ目強(うずまき状)	南西部中層	
19 19 19 19 19 19 19 19	511	土師質土器	小皿	5.6	1.8	3.3		赤褐	普通	体底部内面ロクロ目(うずみき状)	南西部中層	
15 1 日東北 1	512	土師質土器	小皿	5.5	1.7	3.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通		南西部中層	80% PL78
10 10 10 10 10 10 10 10	513	土師質土器	小皿	6.5	1.9	3.8		橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ 内底面周縁部凹み	北西部上層	100% PL79
59	514	土師質土器	小皿	5.3	2.1	2.7	長石・石英	赤褐	普通		南西部上層	100% PL77
1987日 19	515	土師質土器	小皿	5.9	1.6	3.7	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体底部内面ロクロ目(うずまき状)	南西部上層	
1987日 19	516	土師質土器	小皿	5.8	1.5	3.7	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	南西部上層	
15	517	土師質土器	小皿	5.9	1.8	2.9	長石・石英・	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	南西部上層	100% PL78
1987年 1987年	518	土師質土器	小皿	6.2	1.7	3.7		橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部上層	100% PL78
10 日本日本 小田 67 22 40 英石 - 石英 - 安春 によい報告 20 20 20 27 7 表面影響を到り後ヘラナデ 南西部上層 100% PL79 120	519	土師質土器	小皿	6.5	1.6	3.8	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部上層	100% PL78
1 日東日本 小田 67 22 37 接行 石吹 市政 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	520	土師質土器	小皿	6.7	2.2	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通		南西部上層	
522 1番目上巻 小皿 5.6 1.6 3.5 長石・石夹・雲母 投 2月 (1) サア 前面部上号 59% PL79 12 13 13 14 14 15 15 15 15 15 15	521	土師質土器	小皿	6.7	2.2	3.7	長石・石英・	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部上層	
23 上海工器 小皿 6.5 2.0 4.0 長石・百美・雲母 日本・記念子 日本・記念子	522	土師質土器	小皿	5.6	1.6	3.5		橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部上層	
10	523	土師質土器	小皿	6.5	2.0	4.0		橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	南西部上層	98% PL79
1958年 1957年 19			小皿	9.4	3.0	4.6				ロクロナデ 底部回転糸切り	南西部上層	
10 日東日巻 小皿 73 21 53 長石・石英・雲砂 投										ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ		90% PL78
527 上面貫土器 小皿 8.7 2.7 4.1 反石 - 石英 1.2 2.3 2.3 1.3 2.3			-							ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ		
528 上崎貴上帝 小皿 8.8 2.8 4.0 長石・石英・安白 天白 子苑・松丘子 天白 子苑・松丘子 天白 子苑・松丘子 天白 子苑・松丘子 天白 子苑・松丘子 大石・石英・安田 大石・石英・安田 松丘松田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田										ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ		
252							長石・石英・			ロクロナデ 底部回転糸切り		
530 土崎寅土岩 小皿 7.3 2.8 3.7 長石 - 石英 - 雲母 橙 普通 上崎東土岩 小皿 9.7 2.9 4.5 長石 - 石英 - 雲母 伊永裕 普通 九回本祭 - 田本 日本 1.00% PL80 1.50%							長石・石英・			ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ		
531										ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ		
532 土崎質土巻 小皿 5.7 21 3.5 長石・石英・雲母 にぶい黄樹 普通 フロ・テ 底部回転系切り後・ラナデ 南部覆土中 100% PL80 日本質土巻 小皿 8.0 2.1 3.9 長石・石英・雲母 にぶい黄樹 普通 フロ・テ 底部回転系切り後・ラナデ 南部覆土中 100% PL80 日本質土巻 小皿 8.0 2.5 4.5 長石・石英・雲母 にぶい黄樹 普通 フロ・テ 底部回転系切り後・ラナデ 南部覆土中 100% PL80 日本質土巻 小皿 7.0 2.4 3.7 長石・石英・雲母 にぶい黄樹 普通 フロ・テ 底部回転系切り後・ラナデ 南部覆土中 100% PL80 日本質土巻 小皿 7.3 2.4 4.2 長石・石英・雲母 左 七本 七本 日本 日本 日本 日本 日本 日本									-	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ		
533										ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ		
534 上師貴上書 小皿 8.0 2.5 4.5 表看 石英・ 雲母 2.5 4.5												
1887日 18			· ·							内底面仕上げナデ		
535			-				雲母			内面摩滅のため未調整 ロクロナデ 底部回転糸切り後へラナデ		
18月上春 小皿 7.3 2.4 4.2 及日 七巻 雲母 程 日西 内底面周線部回入 田西田俊工 100% PL80			· ·							内底面周縁部凹み 仕上げナデ		
537 上崎貞上巻 小皿 6.1 2.4 3.3 長石・石英・雲母 橙 普通 広体部内面ロクロ目強 ()・引まき状) 南西部覆土中 油煙付着 2.4 3.3 長石・石英・雲母 橙 普通 ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 南西部覆土中 油煙付着 2.5			-							内底面周縁部凹み		
538 上師賃上等 小皿 1.0 2.4 3.3 長石・石英・豊の 位 四 内底面周縁部四み 仕上げナデ 神西部復上中 油煙付着 油煙付着 1.5 1.									-	底体部内面ロクロ目強(うずまき状)		000/ DI 70
5.99 土師賃土器 小皿 7.1 2.2 3.9 長石・石英・雲母 橙 普通 内底面周縁部凹み 仕上げナデ 独煙付着 80% PL80 PL80 日本町土器 焙烙 [33.4] 7.2 [29.8] 長石・石英・雲母 明赤褐 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 南西部中層 紫付着 20% PL82 大田賃土器 焙烙 [31.9] 7.6 [27.8] 長石・石英・雲母 明赤褐 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 南西部中層 紫付着 20% PL82 株付着 20% PL82 株付着 20% PL82 20% PL82										内底面周縁部凹み 仕上げナデ		油煙付着
10 10 10 11 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15							雲母・赤色粒子			内底面周縁部凹み 仕上げナデ		油煙付着
1 日曜日 1										内底面周縁部凹み 仕上げナデ		
542 上崎貞上帝 左紹 [25.6] 雲母・砂粒 赤色粒子 明褐 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 南西部下層 媒付着 20% 接石・石英・雲母・赤色粒子 七崎貞土器 内耳鍋 [26.8] 15.0 [14.5] 雲母・赤色粒子 電海 口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 南部上層 30% PL82 操行着 大色粒子 大色粒子 電海 日縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 南部上層 30% PL82 操行着 大色粒子 日本の世末・赤色粒子 日本の出土・赤色粒子 日本の出土・赤色粒子 日本の土・赤色粒子 日本の土・大田崎土 日本の土・大田舎 日本の土・大田舎 日本の土・大田舎 日本の土・大田舎 日本の土・大田舎 日本の土・大田舎 日本の一本・大田舎 日本の土・大田舎 日本の土・大田										部外面指頭押圧		煤付着
544 土卸賃土器 内耳鍋 [334] (123) - 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 楊 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 南部上層 30% PL82 煤付着 545 土卸賃土器 内耳鍋 [268] 15.0 [14.5] 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 暗赤褐 普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 体 部外面指頭押圧 底部へう削り 南部下層 30% 煤付着 546 土卸賃土器 内耳鍋 [29.4] 9.4 [28.0] 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 黒褐 普通 一級部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 体 部外面描頭押圧 底部へう削り 南部下層 20% 煤付着 547 土卸賃土器 擂鉢 [29.4] 8.7 13.6 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 日縁部外・内面横ナデ 体部外面通押圧 体 部外面横付着 5条1単位の擂り目その上に対 位の3条1単位の擂り目 南部下層 40% PL82 549 土卸賃土器 擂鉢 [30.4] (12.2) - 長石・石英・ 雲母 にぶい費 普通 日縁部外面剥離 3条から4 条1単位の擂り目その上に2条1単位の擂り目 中央部下層 10% 底部煤付着 550 土卸賃土器 擂鉢 - (4.4) 13.0 長石・石英・雲母 にぶい費 普通 3条から4条1単位の擂り目をの上に2条1単位の擂り目 中央部下層 10% 底部煤付着 550 土卸賃土器 15.0 長石・石英・雲母 にぶい費	542	土師質土器	焙烙	[31.9]	7.6	[27.8]	雲母・砂粒	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	南西部中層	煤付着
10% 10	543			[32.4]	7.8	[25.6]		明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	南西部下層	煤付着
545 上崎質土器 内耳鍋 [29.4] 9.4 [28.0] 長石・石英・	544	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	(12.3)	_	雲母・赤色粒子	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	南部上層	煤付着
547 土飾質土器 内耳鍋 [27.2] 8.8 [17.9] 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 にぶい掲書通 底部へ列削り 普通 底部へ列削り 口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 体部外・内面ナデ 体部外・内面ナデ 体部外・内面横ナデ 体部外・向面横ナデ 体部外・向面横ナデ 体部外・向面横井 で 体部外・向面横井 で 体部外面指頭押圧 体 部外面操作者 5条1単位の擂り目その上に斜	545	土師質土器	内耳鍋	[26.8]	15.0	[14.5]	雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通		南部覆土中	煤付着
548 土飾質土器 擂鉢 [29.4] 8.7 13.6 長石・石英・雲母 にぶい整 普通 部外面煤付着 5条1単位の擂り目その上に斜 南部下層 40% PL82 549 土飾質土器 擂鉢 [30.4] (12.2) - 長石・石英・ にぶい費整 普通 口縁部内面横ナデ 口縁部外面測離 3条から 4 中央部下層 底部煤付着 条1単位の擂り目その上に2条1単位の擂り目 中央部下層 底部煤付着 系3条から 4条1単位の擂り 目をの上に2条1単位の擂り目 550 土飾質土器 擂鉢 - (4.4) 13.0 長石・石英・雲母 にぶい整 普通 3条から 4条1単位の擂目 底部へラ削り 中央部覆土中 20% PL82	546	土師質土器	内耳鍋	[29.4]	9.4	[28.0]		黒褐	普通	部外面指頭押圧 底部ヘラ削り	南西部下層	煤付着
13.0 長石・石英・雲母 にぶい憶 普通 13.0 大石・石英・雲母 にぶい憶 普通 13.0 大石・石英・雲母 にぶい竜 13.0 大石・石英・雲母 にぶい竜 13.0 13.0 日本・石英・雲母 13.0 日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日	547	土師質土器	内耳鍋	[27.2]	8.8	[17.9]	長右・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部ヘラ削り	南部下層	
549 土師質土器 擂鉢 [30.4] (12.2) - 長石・石英・ 震母・ にぶい黄橙 普通 口縁部内面横ナデ 口縁部外面剥離 3条から4 中央部下層 底部煤付着 550 土師質土器 擂鉢 - (4.4) 13.0 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 3条から4条1単位の擂り 底部ペラ削り 中央部覆土中 20% PL82	548	土師質土器	擂鉢	[29.4]	8.7	13.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	部外国保付有 3条1単位の擂り日での上に斜	南部下層	40% PL82
550 土師質土器 擂鉢 - (4.4) 13.0 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 3条から4条1単位の擂目 底部ヘラ削り 中央部覆土中 20% PL82	549	土師質土器	擂鉢	[30.4]	(12.2)	-	長石·石英· 雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内面横ナデ 口縁部外面剥離 3条から4	中央部下層	
551 土飾質土器 擂鉢 - (5.2) [11.4] 長石・石英・雲母 明赤褐 普通 6条1単位の擂り目 底部ヘラ削り 南西部下層 20%	550	土師質土器	擂鉢	-	(4.4)	13.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	3条から4条1単位の擂目 底部ヘラ削り	中央部覆土中	
	551	土師質土器	擂鉢	-	(5.2)	[11.4]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	6条1単位の擂り目 底部ヘラ削り	南西部下層	20%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調焼	成	手法の	特 徴 ほ	か	出土位置	備	考
552	土師質土器	擂鉢	-	(3.3)	14.6	長石・石英・雲母	黒褐 普	通 5条1単位	泣の擂り目 リ	底部ヘラ削り	底部煤付着	北西部覆土中	20%	
553	土師質土器	火鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐 普	通 内面ナデ	外面突带貼	り付け 花文	て押捺	南西部下層	5%	
554	土師質土器	火鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	橙普	通花文押捺				南西部覆土中	5%	
555	土師質土器	香炉	[15.0]	5.5	[12.6]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐 普	通ロクロ成	形			南西部覆土中	30%	PL82
556	土師質土器	香炉	-	(3.7)	[17.6]	長石・石英・ 雲母	にぶい黄渇 普	通体部外面	下端ナデ			南西部上層	10%	
557	土師質土器	甕	16.8	20.5	15.6	長石・石英・雲母	にぶい褐 普	通 口縁部外部へラ削		* 体部外・内	可面ナデ 底	南西部上層	70%	PL82
558	瓦質土器	火鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰 普	通貼り付け	珠文 逆S字	形 菊花文	四菱形押捺	中央部覆土中	5%	
													,	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考 ———
559	陶器	志野丸碗	[7.8]	4.2	[5.4]	長石	灰白	-	灰白	瀬戸・美濃	16 C後	覆土中	30%	PL107
560	陶器	天目茶碗	-	(3.6)	4.1	長石・石英	灰白	-	黒褐	瀬戸・美濃	16 C後	覆土中	20%	PL107
561	陶器	天目茶碗	-	(2.4)	4.0	長石	にぶい褐	-	黒褐	瀬戸・美濃	16 C代	中央部中層	20%	
562	陶器	天目茶碗	-	(2.9	[4.7]	長石・石英	浅黄橙	-	黒褐	瀬戸・美濃	16 C代	中央部中層	20%	
563	陶器	天目茶碗	-	(5.0)	-	長石	浅黄橙	_	黒褐	瀬戸・美濃	17 C前	覆土中	5%	PL107
564	陶器	丸皿	9.8	2.3	5.5	長石	浅黄	-	灰白	瀬戸・美濃	16C 後	南西部上層	70%	PL107
565	陶器	志野皿	[10.2]	2.0	[5.8]	長石	灰白	-	灰白	瀬戸・美濃	17C 前	南西部下層	50%	PL107
566	陶器	灰釉皿	[9.8]	2.4	[5.4]	長石	黄灰	-	浅黄	瀬戸・美濃	16C 代	覆土中	30%	PL107
567	陶器	鉄絵鉢	-	(7.2)	[13.2]	石英	灰白	-	暗緑灰	瀬戸・美濃	17C 代	南部覆土中	10%	PL107
568	陶器	甕	-	(15.8)	-	長石・石英	にぶい赤褐	-	暗赤褐	常滑	16 世紀代カ	南西部上層	20%	
569	陶器	甕	-	(5.7)	-	長石・石英	褐灰	-	極暗赤褐	常滑	16世紀前	南部覆土中	5%	
570	陶器	甕	-	(5.7)	_	長石・石英	にぶい赤褐	-	暗赤褐	常滑	15 世紀前	中央部中層	5%	
番号	種別	器種		胎 土		色 調			の 特 徴	ほか		出土位置	備	考
TP19	土師質土器	甕	長石・石	5英・雲岳	‡	橙	肩部に工具に	よる波状文				南部中層	備	考
			長石・石		‡			よる波状文	の 特 徴				備	考
TP19 TP20	土師質土器	発	長石・石	5英・雲岳 5英・雲岳	}	橙橙	櫛歯状工具に	よる波状文	単位の波状文			南部中層南西部下層		
TP19 TP20	土師質土器 土師質土器 器 種	悪悪	長石・石長石・石幅	英・雲母 英・雲母	重量	橙 橙 胎 土	櫛歯状工具に 色 調	こよる波状文	単位の波状文 特	徵	脚部欠揖	南部中層南西部下層出土位置		考
TP19 TP20 番号 DP58	土師質土器 土師質土器 器 種 五徳	甕 甕 (7.8)	長石·石 長石·石 幅 3.0	「英・雲母 「英・雲母 「英・雲母 「英・雲母 「夏さ	重量 79.7	橙 橙 胎 土 長石·雲母	櫛歯状工具に 色 調 明赤褐	よる波状文 こよる7条1 ¹ へラ削りに 片面に煤付	単位の波状文 特 よる角張った 着	徴 形状 頭部・		南部中層南西部下層出土位置南西部中層		
TP19 TP20 番号 DP58 DP59	土師質土器 土師質土器 器 種 五徳 五徳	甕 要 (7.8) (9.6)	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3	万英・雲岳 万英・雲岳 厚さ 2.5 2.7	重量 79.7 97.0	橙 橙 胎 土 長石・雲母 長石・雲母	機歯状工具に 色 調 明赤褐 にぶい褐	よる波状文 よる7条1 ¹ へラ削りに 片面に煤付: ヘラ削りに へラ削りに み痕 脚部	単位の波状文 特 よる角張った が よる角張った 大人損	徴 形状 頭部・ 形状 頭部へ	ラによる刻	南部中層南西部下層出土位置南西部中層南西部上層		
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60	土師質土器 土師質土器 器 種 五徳 五徳	薨 - - - - - - - - - -	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9	写英・雲岳 写英・雲岳 厚さ 2.5 2.7 2.9	重量 79.7 97.0 146.5	橙 橙 胎 土 長石・雲母 長石・雲母	横歯状工具に 色 調 明赤褐 にぶい褐	よる次状文 よる7条1 ¹ へラ削りに 片面に煤付 へラ削り部 へラ削りに 下部1/4	単位の波状文 特 よる角張った よる角張った 欠損 よる角張った よる角張った よば付着	徴 形状 頭部・ 形状 頭部へ 形状 頭部・	ラによる刻 脚部欠損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部上層 南西部下層		
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60 DP61	上師質土器 上師質土器 器 種 五徳 五徳 五徳 五徳	要 要 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6)	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2	写英・雲母 写英・雲母 早さ 2.5 2.7 2.9 3.2	重量 79.7 97.0 146.5 183.0	橙 橙 胎 土 長石・雲母 長石・雲母 長石	横歯状工具に色調明赤褐にぶい褐橙橙	よる波状文 よる7条1 ¹ へラ削りに 片面に煤炉 へラ削りに み痕 脚部 へラ削りに 下部1 / 4 ヘラ削りに	単位の波状文 特 よる角張った 大類 よる角張った に媒付着 よる角張った	微形状 頭部・形状 頭部へ形状 頭部・形状 脚部欠	ラによる刻 脚部欠損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部上層 南西部下層	備	考
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60	土師質土器 土師質土器 器 種 五徳 五徳	薨 - - - - - - - - - -	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9	写英・雲岳 写英・雲岳 厚さ 2.5 2.7 2.9	重量 79.7 97.0 146.5	橙 橙 胎 土 長石・雲母 長石・雲母	横歯状工具に色調明赤褐にぶい褐橙橙	よる波状文 よる7条1 ¹ へラ削りに 片面に煤炉 へラ削りに み痕 脚部 へラ削りに 下部1 / 4 ヘラ削りに	単位の波状文 特 よる角張った 大類 よる角張った に媒付着 よる角張った	微形状 頭部・形状 頭部へ形状 頭部・形状 脚部欠	ラによる刻 脚部欠損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部上層 南西部下層		考
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60 DP61	土師質土器 土師質土器 器 種 五徳 五徳 五徳	売 売 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7)	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8)	写英・雲母 厚さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2	橙 橙 胎 土 長石・雲母 長石・雲母 長石・雲母 長石・二英・雲母	横歯状工具に色調明赤褐にぶい褐橙橙	よる波状文 よる7条1 ¹ へラ削りに 片面に煤炉に み痕削りに 下部1/4 へラ削りに 下部1/4 、ラ削りに 表面ナデ	単位の波状文 特 よる角張った だ損 よる角張った に媒付着 よる角張った よる角張った よる角張った よる角張った	微形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 脚部ケ	ラによる刻 脚部欠損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部上層 南西部中層 南西部中層	備 PL87	考
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60 DP61 DP62	土師質土器 上師質土器 器種 五徳 五徳 五徳 五徳 田徳	売 売 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7)	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8)	写英・雲岳 厚さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2	 橙 橙 橙 橙 橙 上 長石・雲母 長石・雲母 長石・雲母 長石・石英・雲母 材質 	櫛歯状工具に 色 調明赤褐にぶい褐 橙 橙 にぶい黄橙	よる波状文 よる7条1 ¹ へラ削りに 片面に煤りに み痕削りに へラ割りに 下部1/4 へラ削りに 、	単位の波状文 特 よる角張った た大損 よる角張った に媒 はる角形張った よる角形張った よる角形張った よる角形張った よる角形張った よる角形張った よる角形張った よる角形張った よる角形なります。 となる角形なります。 となる角形なります。 はなります。 となり。 となり。 となり。 となり。 となり。 となり。 となり。 となり	微 形状 頭部・ 形状 頭部・ 形状 頭部・ 形状 脚部欠	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部上層 南西部中層 南西部中層	備 PL87	考
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60 DP61	土師質土器 上師質土器 器種 五徳 五徳 五徳 五徳 田徳	売 売 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7)	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8)	写英・雲母 厚さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2	橙 橙 胎 土 長石・雲母 長石・雲母 長石・雲母 長石・二英・雲母	機歯状工具に 色 調 明赤褐 にぶい褐 橙 位ぶい黄橙	よる波状文 よる7条1 ¹ へラ削りに 片面に煤りに み痕削りに へラ割りに 下部1/4 へラ削りに 、	単位の波状文 特 る角張った よな損 よる角張った よな損 よこ媒付着 よこ媒 は よこ よ よ よ よ よ り ま り ま の も り ま り ま り ま り ま り ま り ま り ま り ま り ま り	微形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 脚部ケ	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部上層 南西部中層 南西部中層	備 PL87	考
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60 DP61 DP62 番号 Q 124	土師質土器 土師質土器 基 種 五徳 五徳 五徳 五徳 西徳 本 種 石鉢	要 要 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7) 径 [37.9]	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8) 厚さ 12.2	写英・雲岳 厚さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3 底径 [24.0]	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2 重量 (3652.1)	 橙 橙 橙 橙 B 大田・雲母 長石・雲母 長石・雲母 長石・石英・雲母 材質 砂岩 	機歯状工具に 色 調 明赤褐 にぶい褐 橙 位ぶい黄橙	よる波状文 よる 7条 1	単位の波状文 特 よる角 張った 大坂 最 人類 角 張った よる 大坂 よる 大坂 よる 角 張った よる 大坂 よる 角 張った よる 大坂 よる 大坂 よる 大坂 よる 大坂 よる 大坂 よる 大坂 よる 大坂 よる 大 たった よる たった よる たった よ よ よ よ よ よ と よ り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り	微形状 頭部 · 形状 頭部 · 形状 頭部 · 形状 頭部 · 形状 脚部 ケ	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部上層 南西部中層 南西部中層 南西部中層	備 PL87 備 PL87 底部内	考面媒付着
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60 DP61 DP62 番号 Q 124	土師質土器 土師質土器 工師質土器 工徳 五徳 五徳 五徳 五徳 五徳 五徳 五徳 五徳 五徳 五 徳 五 徳 本 4 本 4 本 4 本 4 本 4 本 4 本 4 本 4 本	売 売 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7) 径 [37.9]	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8) 厚さ 12.2	写英・雲岳 厚さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3 底径 [24.0]	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2 重量 (3652.1)	を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	横歯状工具に色調明赤褐にぶい褐橙ををををたぶい黄橙でぶい黄橙にぶい黄橙にぶい黄橙	よる7条11	単位の波状文 特 よる角 張った た類 る角 張る 角 張る 角 張る 角 張る 角 張る 角 張 る 角 氏 は る 角 張 る た ば る 角 、 た は る た は る た は る た は る た は る た は る ち 、 を 、 を 、 を 、 を 、 の を り 、 の を り 、 の も り も 、 の も り も も り も も り も も り も も も も も も も も	微形状 頭部 · 形状 頭部 · 形状 頭部 · 形状 頭部 · 形状 脚部 ケ	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 南西部中層	備 PL87 備 PL87 底部内	考
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60 DP61 DP62 番号 Q 124	土師質土器 杜	要 要 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7) 径 [37.9]	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8) 厚さ 12.2	写英・雲岳 厚さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3 底径 [24.0]	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2 重量 (3652.1)	 橙 橙 橙 橙 胎 土 長石・雲母 長石・雲母 長石・石英・雲母 材 質 砂岩 材 質 安山岩 	 他歯状工具に 色調明赤褐にぶい褐橙 位を たぶい黄橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙 上白 12条	よる波状文 よる7条11	単位の波状文 特 場 の 角 り の 角 り の り の り の り の り の り の り の り	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 由世紀世 南西部中層	備 PL87 備 PL87 底部内	考面媒付着
TP19 TP20 番号 DP58 DP59 DP60 DP61 DP62 番号 Q 124 番号 Q 125 Q 126	上師質土器 上師質土器 器 種 五 徳 五 徳 五 徳 名 4 本 名 4 本 名 4 本 名 4 本 名 4 本 名 4 本 名 4 本 名 4 本 名 4 本 名 4 本	要 要 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7) 径 [37.9] 径 [18.2]	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8) 厚さ 12.2 孔径 [3.1]	写 ・ 雲岳 写 ・ 雲岳 厚 さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3 底径 [24.0] 高 さ 9.8 9.2	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2 重量 (3652.1) 重量 (2385.9) (1900.0)	を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	 横歯状工具に 色調 明赤褐 にぶい褐 橙 たぶい黄橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙 上台 12条 下白 4条: 	よる波状文 よる7条11	単位の波状文 特 よる角 張った た類 る角 張る 角 張る 角 張る 角 張る 角 張る 角 張 る 角 氏 は る 角 張 る た ば る 角 、 た は る た は る た は る た は る た は る た は る ち 、 を 、 を 、 を 、 を 、 の を り 、 の を り 、 の も り も 、 の も り も も り も も り も も り も も も も も も も も	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部中層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 由土位置 南西部中層	備 PL87 備 PL87 底部内	考面媒付着
番号 DP59 DP60 DP61 DP62 番号 Q 124 番号 Q 125 Q 127	上師質土器 上師質土器 器 種 五徳 五徳 - 五徳 - 五徳 - 五徳 - 五徳 - 五 徳 - 五 徳 - 五 徳 - 五 徳 - 五 徳 - 五 徳 - 五 徳 - 五 徳 - 五 西 白 - 五 五 五 五	要 要 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7) 径 [37.9] 径 [18.2] [26.8]	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8) 厚さ 12.2 孔径 [3.1]	写英・雲岳 厚さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3 底径 [24.0] 高さ 9.8 9.2	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2 重量 (3652.1) 重量 (2385.9) (1900.0) (2011.7)	 橙 橙 橙 橙 橙 上 長石・雲母 長石・雲母 長石・石英・雲母 材 砂岩 材 砂岩 材 砂岩 女山岩 安山岩 	 機歯状工具に 色調明赤褐にぶい褐橙 を登しています にぶい黄橙 にぶい黄橙 上の 12条 下の 4条 上の 軸受権 	よる7条11	単位の波状文 特別の 特別である 本の はな を対しる はな を対しる はな はな はな はな はな はな はな はな はな はな	微形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 脚部ケ	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部上層 南西部上層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 由土位置 南西部中層	備 PL87 備 PL87 底部内	考面媒付着
番号 DP59 DP60 DP61 DP62 番号 Q 124 番号 Q 125 Q 126 Q 127 Q 128	土師質土器 杜	要 要 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7) 径 [37.9] 径 [18.2] [26.8] [13.5] [26.0]	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8) 厚さ 12.2 孔径 [3.1] [3.0] - [13.0]	写 ・ 雲岳 厚 さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3 底径 [24.0] 高 さ 9.8 9.2 8.6 (3.8)	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2 重量 (3652.1) 重量 (2385.9) (1900.0) (2011.7) (4900.0)	 橙 橙 橙 橙 樹 長石・雲母 長石・雲母 長石・石英・雲母 枝石・石英・雪母 材砂岩 材砂岩 材 砂岩 女山岩 安山岩 安山岩 	 機歯状工具に 色調明赤褐にぶい褐を を を にぶい黄橙 にぶい黄橙 上日 12条件 下日 4条1 上日 軸受権 上日 上面・ 	よる7条11	単位の波状文 特 場 の 角 り の 角 り の り の り の り の り の り の り の り	微形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 脚部ケ	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部上層 南西部上層 南西部上層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 由土位置 南西部中層 出土位置 南部で	備 PL87 備 PL87 底部内	考面媒付着
番号 DP59 DP60 DP61 DP62 番号 Q 124 番号 Q 125 Q 126 Q 129	上師質土器	要 要 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7) 径 [37.9] 径 [18.2] [26.8] [13.5] [26.0]	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8) 厚さ 12.2 孔径 [3.1] [3.0] - [13.0]	写英・雲岳 厚さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3 底径 [24.0] 高さ 9.8 9.2 8.6 (3.8) (13.0)	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2 重量 (3652.1) 重量 (2385.9) (1900.0) (2011.7) (4900.0) (2268.3)	を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	 横歯状工具に 色調 明赤褐 にぶい褐 橙 たぶい黄橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙 たぶい黄橙 上白 12条の 下白 4条 上白 軸受相 上白 上白 	よる7条11	単位の波状文 特別の 特別である 本の はな を対しる はな を対しる はな はな はな はな はな はな はな はな はな はな	微形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 脚部ケ	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部上層 南西部上層 南西部中層 南西部中層 由西部中層 出土位置 南西部中層	備 PL87 備 PL87 所 係 常 内 PL87	考面媒付着
番号 DP59 DP60 DP61 DP62 番号 Q 124 番号 Q 125 Q 126 Q 127 Q 128	土師質土器 程 五 徳 五 五 徳 五 五 徳 西 五 徳 西 本 4 年 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 二 茶 白	要 要 (7.8) (9.6) (11.9) (13.6) (11.7) 径 [37.9] 径 [18.2] [26.8] [13.5] [26.0]	長石・石 長石・石 幅 3.0 3.3 2.9 3.2 (9.8) 厚さ 12.2 孔径 [3.1] [3.0] - [13.0]	写 ・ 雲岳 厚 さ 2.5 2.7 2.9 3.2 3.3 底径 [24.0] 高 さ 9.8 9.2 8.6 (3.8)	重量 79.7 97.0 146.5 183.0 418.2 重量 (3652.1) 重量 (2385.9) (1900.0) (2011.7) (4900.0)	 橙 橙 橙 橙 樹 長石・雲母 長石・雲母 長石・石英・雲母 枝石・石英・雪母 材砂岩 材砂岩 材 砂岩 女山岩 安山岩 安山岩 	 機歯状工具に 色調明赤褐にぶい褐を を登しています。 たぶい黄橙 たぶい黄橙 たぶい黄橙 たぶい黄橙 上日 12条 下日 4条: 上日 土田 土日 上日 軸受相 上日 土日 軸受相 	よる7条11	単位の波状文 特別の 特別の を対して よる を対して はる を対して はる を対して はる を対して はる はる はる はる はる はる はる はる はる はる	微形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 頭部・形状 脚部ケ	ラによる刻 脚部欠損 は損	南部中層 南西部下層 出土位置 南西部上層 南西部上層 南西部上層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 南西部中層 由土位置 南西部中層 出土位置 南部で	備 PL87 備 PL87 底部内	考面媒付着

## 2015									T	T
Q130 展析 11-10 33 35 11-27 解析 427 (86) 422 (186) 英田野田 第四年日中 日本 Q130 156 167 760 620 (167) 670 670 680 20 250 250 760 760 680 250	番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徵	出土位置	備考
Q15 秋日 14.77 66.0 42.2 58.00 ※出作 数配 数配 数配 数配 数配 数配 数配 数	_									
Q15 現存 133 176 53 1747 形容 取留 128 126 5190 元裕号 128 248 348	_									
○日本										
1917 大松花 1829 133 132 25500 在回答	_									
Q 18 五集等 17.8 13.2 13.8 15.8	_									
Q130 売帳帳 188 128 132 700 花崗岩 交換機 登場機 運動部のみ 北京衛下屋 担当 Q140 五馬塔 100 142 128 158 56 500 花崗岩 空風機 空極情景橋一郎大村 北京衛下屋 北京衛下屋 計算館のみ 北京衛下屋 対理のみ 北京衛下屋 対理のみ 北京衛下屋 対理のみ 北京衛下屋 対理のみ 北京衛下屋 対理のみ 北京衛下屋 対理のみ 北京衛門 <										
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	_									
Q 14 五輪等 (106) 142 (124) (280) 花崗岩 空風輸 空風輸 空風輸 空間 上間 上間 計劃館のみ Q 142 五輪幣 (196) 144 (144 (46,000)) 花崗岩 空風輸 空風輸 金融電風機商 北田(市下間) 計劃館のみ 北田(市下間) 計劃館のみ 北田(市下間) 計劃館のみ 北田(市下間) 計劃館のみ 北田(市下間) 計測館のみ 北田(市下間) 北田(市	_									
Q142 五等等 19.6 14.4 14.4 6.00 花園岩 空風蘭 空風蘭 空風蘭 上田高子段 計画像のみ Q143 五等等 2.6 2.00 (17.2) 15.80 在周岩 世風器 地田高子段 1.88 地田高子段 山田高子段 山田高子段 山田高子段 山田高子段 山田高子段 日本日子段 山田高子段 山田高子段 山田高子段 大田高子段 山田高子段 山田高子名 山田高子名 山田高子名 山田高子名 山田高子名 山田高子名 山田高子名 山田石名名 山田石名名 山田石名名 山田高子名 山田石名名 山田石	_									
Q16 五輪等 22.6 17.4 16.6 11.50 花崗岩 空風輸 一部大規 土田商子房 PLS9 Q145 五輪等 2.16 20.0 (17.2) 15.800 花崗岩 空風輸 空風輸 上田高子房 上田高子房 上田高子房 10.0 花崗岩 空風輸 空風輸 金融線 工品商子 10.0 北田高子房 土田高子房 上田高子房 上田子房										
Q144 互稿等 21.6 200 (17.2) (15.80) 花崗岩 空風稿 空稿高 空稿高 空稿高 空稿高 空稿高 地路高層 北西市・層 計画係のみ Q145 五輪等 194 15.8 14.4 (1000) 花崗岩 火輪 全海線 整備製稿部一部欠損 北西市・層 北西市・層 北西市・房 北西市・房 北西市・房 北西市・房 17.8 18.4 13.0 (6000) 花崗岩 大橋 上面ノミ状工具による加工廠 一部大規 北西市・房 17.8 18.4 13.0 (6600) 花崗岩 本橋 上面ノミ状工具による加工廠 一部大規 北西市・房 18.8 14.0 18.20 花崗岩 本橋 上面ノミ状工具による加工廠 北西部・房 1.0 13.0 北西市・房 北西市・房 1.0 13.0 北西市・房 北西市・房 1.0 13.0 13.0 13.0 北西市・房 北西市・房 北西市・房 1.0 13.0 北西市・房 北西市・房 北西市・房 1.0 13.0 北西市・房 北西市・房 北西市・房 北西市・房 1.0 13.0 13.0 13.2 14.2 13.5000 花崗岩 上面」・大瀬 上面」・大瀬 上										
Q145 五輪幣 194 158 144 (8000) 花崗管 空風輸 管理 空風輸 管理 企業 上面子表知 上面子表別 上面子表別 上面子表別 上面子表別 上面子表別 上面子表別工作 上面子表別工作 上面子表別工作 上面子表別工作 上面子表別工作 上面所下層 上面子形文用 上面所下層 上面所下層 上面所下層 上面所下層 上面所下層 上面所下層 上面所下層 上面子表別工作 上面子的表別工作 上面子表別工作 上面子表別工作 上面子表別工作 上面子表別工作 上面子表別工作 工門工作所 工門工作 工門工作所 工門工作所 工門工作所 工門工作所 工門工作所 工門工作所 工門工作 工門工作<	_									PL89
Q 146 五輪等 20.0 25.2 11.4 (10.00) 花崗管 火輪 角2 クライ大災 計画が大災 上面が下層 Q 147 五輪等 140 148 10.6 (1280) 花崗管 木輪 上面/ミ状工具による加工銀 北西部下層 北西部下層 Q 149 五輪等 240 224 144 15.800 花崗管 木輪 上面川東のくはみあり 北西部下層 Q 150 五輪等 250 26.8 140 18.200 花崗管 木輪 上面川東のくはみあり 北西部下層 Q 151 五輪等 250 26.8 140 18.200 花崗管 木輪 上面川東大県大 北西部下層 Q 152 五輪等 21.6 22.0 142 13.500 花崗管 木輪 上面ノミ状工具による加工銀 北西部下層 Q 152 五輪等 25.0 2.6 3.000 花崗管 木輪 上面ノミ状工具による加工銀 北西部下層 Q 152 五輪等 2.5 2.6 3.000 花崗管 木輪 上面ノミ状工具による加工銀 北西部・日本 Q 15 五輪等 2.2 2	_									⇒L201 (± o. 7
Q 147 五輪榕 140 148 106 (280) 花崗岩 木輪 上面/ 2 秋江 具による加工板 一部欠損 北南部下層 Q 148 五輪榕 260 256 166 35.00 花崗岩 木輪 上面月2 秋江 具による加工板 北西部下層 北西部下層 Q 150 五輪榕 240 224 144 (1880) 花崗岩 水輪 上面月2 秋江 具による加工板 北西部下層 Q 150 五輪榕 240 224 144 (1880) 花崗岩 水輪 全の角欠損 北西部市局 Q 152 358 216 220 268 140 (1820) 花崗岩 水輪 全の角欠損 北西部市局 北西市中局 北										計測値のみ
Q 148 五輪幣 173 184 130 (660) 花陽岩 木輪 上面/大大工具による加工資 一部欠損 北西部下屋 Q 150 五輪幣 260 256 166 5,400 花陽岩 木輪 上面川水のくはみあり 北西部下層 北西部下層 Q 150 五輪幣 240 224 144 (1580) 花陽岩 水輪 全の角欠相 北西部下層 北西部中層 Q 151 五輪幣 216 220 142 (13300) 花岡岩 水輪 正成工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具工具										
Q 149 五輪塔 26.0 25.6 16.6 第40 花崗岩 木輪 上面順歌のくはみあり 北西部下層 Q 150 五輪塔 24.0 22.4 14.4 (15.800) 花崗岩 九輪 全ての角欠損 北西部下層 Q 151 五輪塔 25.0 26.8 14.0 (18.200) 花崗岩 大輪 全面の角欠損 北西部中層 Q 152 五輪塔 21.6 22.0 14.2 (13.500) 花崗岩 木輪 上面/未花工具による加工銀 北西部中層 北西部中層 Q 152 五輪塔 30.0 31.2 23.4 54.800 花崗岩 地輪 上面/未就工具による加工銀 北西部中層 北西部部上層 北西部半層 北西部上層 北西部部門 北西部上層 北西部部上層 </td <td></td>										
150 五輪帯 240 224 144 (15800) 花崗岩 地輸 全ての角欠損 北西部下層 151 五輪帯 250 268 140 (18200) 花崗岩 火輪 角 3 カ所欠損 軒光外反 北西部中層 1820 182										
Q 151 五輪塔 25.0 26.8 14.0 (1820) 大輪 上面/2 秋江 井下上を加工班 底面一部欠損 北西部中層 Q 152 五輪塔 21.6 22.0 14.2 (13500) 花崗岩 水輪 上面/2 秋江 井下上を加工班 底面一部欠損 北西部中層 北西部上面 北西部上面 北西部上面 北西部上面 北西部上面 北西部上面 北西部上面 北西部上										
Q 152 五輪塔 21.6 22.0 14.2 (13500) 花崗岩 木輪 本輪 上面/主 採工具による加工痕 北西部中層 計画値のみ Q 153 五輪塔 (18.4) (10.1) (11.9) (2.400) 花崗岩 木輪 風化により表面が聴い 一部欠損 北西部中層 計画値のみ Q 155 五輪塔 31.0 32.0 22.2 (46.900) 花崗岩 地輪 上面/主状工具による加工痕 北西部中層 北西部中層 Q 155 五輪塔 31.0 32.0 22.2 (46.900) 花崗岩 地輪 上面/主状工具による加工痕 北西部中層 計画館中層 計画館中層 計画館のみ 小西部中層 北西部中層 北西部中層 計画館中層 計画館中層 計画館のみ 小西部中層 北西部中層 北西部上層 北西部上層 北南全のの内央租 北西部	_									
Q 153 五輪零 (18.4) (10.1) (11.9) (2.400) 花崗岩 水輪 風化により表面が能い 一部欠損 上西部中層 計劃値のみ Q 154 五輪零 30.0 31.2 23.4 54.800 花崗岩 地輪 上面ノミ状工具による加工旗 北西部中層 Q 155 五輪零 31.0 32.0 22.2 (46.400) 花崗岩 地輪 上面上水工具による加工旗 北西部中層 Q 156 五輪零 25.2 26.6 20.0 (33.400) 花崗岩 地輪 角2か所欠損 上面ノミ状工具による加工痕 北西部中層 計画値のみ Q 157 五輪零 24.4 26.6 17.0 (17.000) 花崗岩 交風輪 空輪部一部欠損 北西部上層 Q 158 五輪零 18.2 15.4 15.2 (7.600) 花崗岩 交風輪 空輪部一部欠損 北西部上層 Q 159 五輪零 16.4 (16.4) 10.4 (4.200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒先外反 上面ノミ状工具による加工館 北西部上層 Q 160 五輪零 (18.2) (22.6) 10.6 (8.500) 花崗岩 火輪 角3カ所欠損 軒先外反 北西部上層 北西部上層 Q 161 五輪零 (18.2) (22.6) 10.6 (8.500) 花崗岩 火輪 角1カ所欠損 軒先外反 北西部上層 北西部上層 Q 162 五輪零 (19.6) (16.4) (13.0) (7.300) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計劃値のみ Q 163 五輪零 (18.4) 19.6 (12.4 (9.600) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 Q 166 五輪零 (26.2 (26.4 (18.8) (25.000) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 Q 167 五輪零 (26.2 (27.8) 18.6 (28.800) 花崗岩 水輪 月1カ所欠損 新聞のみ Q 168 五輪零 (26.2 (26.4 (18.8) (25.000) 花崗岩 地輪 月1カ所欠損 北西部上層 Q 167 五輪零 (26.2 (27.8) 18.6 (28.800) 花崗岩 地輪 月1カ所の角形の内側上の大損 市西部日 中の大損 北西部日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	_									
Q 154 五輪塔 300 312 234 5(800) 花崗岩 地輪 上面/ミ状工具による加工痕 北西部中層 Q 155 五輪塔 310 320 222 (46,400) 花崗岩 地輪 上面直状のくぼみあり 一部欠損 北西部中層 北西部中層 Q 156 五輪塔 25.2 26.6 200 (33,400) 花崗岩 地輪 上面/ミ状工具による加工痕 北西部中層 計測値のみ Q 157 五輪塔 24.4 26.6 17.0 (17000) 花崗岩 水輪 上面川ノミ状工具による加工痕 北西部上層 Q 158 五輪塔 18.2 15.4 15.2 (7600) 花崗岩 火輪 全の角欠損 中央部中 中央部中層 Q 160 五輪塔 16.4 (16.4) 10.4 (4200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 新工具による加工痕 北西部上層 Q 161 五輪塔 (26.2) 21.4 8.2 (7200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 東京北具による加工痕 北西部上層										ショルオの 7.
Q 155 五輪塔 310 320 222 (46,400) 花崗岩 地輪 上面皿状のくぼみあり 一部欠損 北西部中層 Q 156 五輪塔 252 266 200 (33,400) 花崗岩 地輪 角2か所欠損 上面ノき秋工具による加工報 北西部中層 計測値のみ Q 157 五輪塔 244 266 17.0 (17,000) 花崗岩 水輪 上面皿状のくぼみあり 一部欠損 中央部中層 Q 158 五輪塔 182 15.4 15.2 (7,600) 花崗岩 空風輪 空輪 空輪 中央部中層 中央部中層 Q 169 五輪塔 164 (164) 10.4 (4,200) 花崗岩 大輪 全の角欠損 軒先りずいいり 北西部上層 北西部上層 Q 161 五輪塔 162 226 10.6 (8,500) 花崗岩 大輪 上面ノま状工具による加工銀 北西部上層 北西部上層 公園のみ Q 163 五輪塔 19.4 20.2 11.0 7800 花崗岩 水輪 上面ノま状工具による加工銀 北西部上層 北西部上層 北西部上層 北西部上層 北西部上層 北西部上廊画上層 北西部上層 北西部上層 北西部上層 北西部上層 北西部上層										司側他のみ
Q 156 五輪客 252 266 200 (33400) 花崗岩 地輪 角2か所欠損 上面/ミ状工具による加工痕 北西部中層 計画値のみ Q 157 五輪客 244 266 170 (17,000) 花崗岩 水輪 上面皿状穴くほみあり 一部欠損 中央部中層 Q 158 五輪客 182 154 152 (7,600) 花崗岩 空風輪 空輪部一部欠損 北西部上層 Q 169 五輪客 164 (164) 10.4 (4200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒先わずかに外反 北西部上層 Q 160 五輪客 1682 (226) 10.6 (8500) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒先外反 上面/ミ状工具による加工銀 北西部上層 Q 163 五輪客 19.4 20.2 11.0 (7800) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工銀 北西部上層 北西部上層 北西部企品層 計画値のみ Q 163 五輪客 26.2 26.4 (18.8) (2800) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工銀 北西部上層 北西部企品層 計画値のみ Q 165 五輪客 26.2 26.4 (18.8) (2800) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工銀	_									
Q 157 五輪塔 24.4 26.6 17.0 (17,000) 花崗岩 水輪 上面皿状のくほみあり 一部欠損 中央部中層 Q 158 五輪塔 18.2 15.4 15.2 (7,600) 花崗岩 空風輪 空輪部一部欠損 北西部上層 Q 159 五輪塔 16.4 (16.4) 10.4 (4,200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒光わずかに外反 北西部上層 Q 160 五輪塔 (182) (22.6) 10.6 (8,500) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒光外反 上面/ミ状工具による加工銀 北西部上層 Q 161 五輪塔 (19.6) (16.4) (13.0) (7,300) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工銀 北西部上層 Q 163 五輪塔 19.4 20.2 11.0 (7,800) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工銀 北西部上層 Q 164 五輪塔 19.4 20.2 10.0 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工銀 北西部上層 Q 165 五輪塔 26.2 26.4 (18.8) (28,000) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工銀 北西部上層 Q 165 26.2 26.4 (18.8) (_									計測値の 7。
Q 158 五輪塔 182 15.4 15.2 (7600) 花崗岩 空風輪 空極輪 空極輪 空極輪 上面部上層 北西部上層 Q 159 五輪塔 164 (164) 10.4 4200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒光外反 上面ノミ状工具による加工痕 北西部上層 Q 161 五輪塔 (182) (22.6) 10.6 (8500) 花崗岩 火輪 角3カ所欠損 軒光外反 北西部上層 計測値のみ Q 162 五輪塔 (184) (19.6) (16.4) (13.0) 7(300) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 163 五輪塔 19.4 20.2 11.0 (7800) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 163 五輪塔 19.4 20.2 11.0 7(800) 花崗岩 地輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層										可倒胆如
Q 159 五輪塔 16.4 (16.4) (10.4) (4.200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒先わずかに外反 北西部上層 Q 160 五輪塔 (20.2) 21.4 8.2 (7.200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒先分下 八角 北西部上層 北西部上層 Q 161 五輪塔 (18.2) (22.6) 10.6 (8.500) 花崗岩 火輪 角3カ所欠損 軒先外反 北西部上層 北西部上層 計測値のみ Q 162 五輪塔 (19.6) (16.4) (13.0) (7.300) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 163 五輪塔 (19.4) (20.2) 11.0 (7.800) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ 日本語出層 20.2 26.4 (18.8) (28.000) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 1.0 2.0 1.0 2.0 2.0 1.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0	_									
Q 160 五輪塔 (20.2) 21.4 8.2 (7.200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 軒先外反 上面/ミ状工具による加工痕 北西部上層 Q 161 五輪塔 (18.2) (22.6) 10.6 (8.500) 花崗岩 火輪 角 3 カ所欠損 軒先外反 北西部上層 北西部上層 計測値のみ Q 162 五輪塔 (19.6) (16.4) (13.0) (7.300) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 163 五輪塔 (18.4) 19.6 12.4 (9.600) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 165 五輪塔 (26.2 26.4 (18.8) (28.000) 花崗岩 地輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 165 五輪塔 26.2 26.4 (18.8) (28.000) 花崗岩 地輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 北西部と上層<										
Q 161 五輪塔 (182) (226) 10.6 (8500) 花崗岩 火輪 角3カ所欠損 軒先外反 北西部上層 計測値のみ Q 162 五輪塔 (196) (164) (130) (7300) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 163 五輪塔 19.4 20.2 11.0 (7800) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 164 五輪塔 (184) 19.6 12.4 (9,600) 花崗岩 水輪 上面/ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 165 五輪塔 26.2 26.4 (188) (28,000) 花崗岩 地輪 月1か所欠損 斯面風化 北西部上層 計測値のみ Q 167 五輪塔 (27.8) 18.6 (26,800) 花崗岩 地輪 月1か所欠損 北西部上層 計測値のみ Q 167 五輪塔 27.6 27.8 19.2 (35200) 花崗岩 地輪 角3か所欠損 北西部上層 計測値のみ Q 168 五輪塔 20.4 (16.2) 8.0 (4.400) 花崗岩 火輪 角1カ所欠損 東西部上層 計測値のみ Q 169 五輪塔 25.8 27.0 13.4 (17.400) 花崗岩<				-						
Q 162 五輪塔 (19.6) (16.4) (13.0) (7.300) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 163 五輪塔 19.4 20.2 11.0 (7.800) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 164 五輪塔 (18.4) 19.6 12.4 (9600) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 165 五輪塔 26.2 26.4 (18.8) (28000) 花崗岩 地輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 165 五輪塔 (26.2 (26.4 (18.8) (28000) 花崗岩 地輪 月1か所欠損 北西部上層 計測値のみ Q 167 五輪塔 27.6 27.8 19.2 (35200) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 地西部上層 計測値のみ Q 169 五輪塔 20.4 (16.2) 8.0 (4.400) 花崗岩 火輪 身1か所欠損 北西部子 上面部費上車 上面面実施 上面正所受 上面正所受 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>計測値のる</td>										計測値のる
Q 163 五輪塔 19.4 20.2 11.0 (7.800) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 Q 164 五輪塔 (18.4) 19.6 12.4 (9.600) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 165 五輪塔 26.2 26.4 (18.8) (28.000) 花崗岩 地輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 166 五輪塔 (25.4) (27.8) 18.6 (26.800) 花崗岩 地輪 角 1 か所欠損 断面風化 北西部上層 計測値のみ Q 167 五輪塔 27.6 27.8 19.2 (35.200) 花崗岩 地輪 角 3 か所欠損 北西部上層 計測値のみ Q 169 五輪塔 25.8 27.0 13.4 (17.400) 花崗岩 火輪 角 1 カ所欠損 市部覆土中 Q 170 室庭印塔 14.2 15.8 16.4 (8.700) 花崗岩 大橋岩 上底面突起あり 新面四角升水所欠損 北西部下層 上西部下層 上面回来の下層 1.2 上面回来のではまたのではまたのではまたのではまたのではま										
Q 164 五輪塔 (184) 196 124 (9600) 花崗岩 水輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 計測値のみ Q 165 五輪塔 26.2 26.4 (18.8) (28.000) 花崗岩 地輪 上面ノミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 Q 166 五輪塔 (25.4) (27.8) 18.6 (26.800) 花崗岩 地輪 角1か所欠損 断面風化 北西部上層 計測値のみ Q 167 五輪塔 27.6 27.8 19.2 (35.200) 花崗岩 地輪 角3か所欠損 断面風化 北西部上層 計測値のみ Q 168 五輪塔 20.4 (16.2) 8.0 (4.400) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 南西部上層 計測値のみ Q 169 五輪塔 25.8 27.0 13.4 (17.400) 花崗岩 火輪 角1カ所欠損 軒先外反 南部護土中 Q 170 宝篋印塔 14.2 15.8 16.4 (8.700) 花崗岩 塔身 上底面突起あり 断面四角形状のくぼみあり 一部欠損 北西部下層 Q 171 宝篋印塔 (14.0) (15.8) 13.4 (5.000) 花崗岩 上面皿状のくぼみあり 角1か所欠損 北西部下層 上面部状のくぼみあり 11.4 (14.00) 北西部下層 中央部上層 11.4 (14.00) Q 173 宝篋印塔 (14.0) (15.8) 13.4 (5.000) 花崗岩 並面 (14.00) (15.00) 花崗岩 並面 (14.00) 花崗岩 重確 上面 (14.00) 市部護土中 (14.00) Q 173 宝篋印塔 (14.00) (15.8) 13.4 (5.000) 花崗岩 並面 (14.00) 花崗岩 並面 (14.00) 花崗岩 並面 (14.00) 東京 (14.00) 東京 (14.00) Q 173 宝篋印塔 (14.00) (15.8) (14.00) 花崗岩 並面 (14.00) 東京				-						DI 180 IEL VOVA
Q 165 五輪塔 26.2 26.4 (18.8) (28.000) 花崗岩 地輪 上面 / ミ状工具による加工痕 一部欠損 北西部上層 Q 166 五輪塔 (25.4) (27.8) 18.6 (26.800) 花崗岩 地輪 角 1 か所欠損 斯面風化 北西部上層 計測値のみ Q 167 五輪塔 27.6 27.8 19.2 (35.200) 花崗岩 地輪 角 3 か所欠損 北西部上層 計測値のみ Q 168 五輪塔 20.4 (16.2) 8.0 (4.400) 花崗岩 火輪 角 1 カ所欠損 東西部上層 計測値のみ Q 169 五輪塔 25.8 27.0 13.4 (17.400) 花崗岩 火輪 角 1 カ所欠損 東西部費上層 計測値のみ Q 170 宝篋印塔 14.2 15.8 16.4 (8.700) 花崗岩 塔身 上底面突起あり 所面四角形状のくぼみあり 一部欠損 北西部下層 PL90 Q 171 宝篋印塔 (14.0) (15.8) 13.4 (5.000) 花崗岩 基礎 上面世状のくぼみあり 中央部上層 中央部上層 中央部上層 中央部上層 中央部上層 中央部上層 <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>計測値のみ</td></t<>										計測値のみ
Q 166 五輪塔 (25.4) (27.8) 18.6 (26.800) 花崗岩 地輪 角 1 か所欠損 断面風化 北西部上層 計測値のみ Q 167 五輪塔 27.6 27.8 19.2 (35.200) 花崗岩 地輪 角 3 か所欠損 北西部上層 計測値のみ Q 168 五輪塔 20.4 (16.2) 8.0 (4.400) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 南西部と屋 計測値のみ Q 169 五輪塔 25.8 27.0 13.4 (17.400) 花崗岩 火輪 角 1 カ所欠損 南部養土中 Q 170 宝篋印塔 14.2 15.8 16.4 (8.700) 花崗岩 塔身 上底面突起あり 断面四角形状のくほみあり 一部欠損 北西部下層 Q 171 宝篋印塔 (14.0) (15.8) 13.4 (5.000) 花崗岩 上面皿状のくほみあり 上面皿状のくほみあり 単立の大損 中央部上層 Q 172 宝篋印塔 (14.0) (15.8) 13.4 (5.000) 花崗岩 並面出状のくぼみあり 上面皿状のくぼみあり 中央部上層 中央部上層 Q 173 宝篋印塔 11.8 (15.3) 15.2 (3014) 花崗岩 並 1 / 4残存 四部受 南										DI 180 IEL VOVA
Q 167 五輪塔 27.6 27.8 19.2 (35,200) 花崗岩 地輪 角3か所欠損 北西部上層 計測値のみ Q 168 五輪塔 20.4 (16.2) 8.0 (4,400) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 南西部上層 計測値のみ Q 169 五輪塔 25.8 27.0 13.4 (17,400) 花崗岩 火輪 角1カ所欠損 軒先外反 南部覆土中 Q 170 宝篋印塔 14.2 15.8 16.4 (8,700) 花崗岩 塔身 上底面突起あり 断面四角形状のくぼみあり 一部欠損 北西部下層 Q 171 宝篋印塔 22.6 22.6 12.4 (14,400) 花崗岩 基礎 上面皿状のくぼみあり 角1か所欠損 北西部下層 PL90 Q 172 宝篋印塔 (14.0) (15.8) 13.4 (5,000) 花崗岩 基礎 上面皿状のくぼみあり 新面四角形状のくぼみあり 中央部上層 中央部上層 PL90 Q 173 宝篋印塔 11.8 (15.3) 15.2 (3014) 花崗岩 笠 1/4残存 陽飾突起全て欠損 南部覆土中 東部 上層 PL88 Q 174 板碑 (29.2) 15.5 2.3 (1,448) 緑泥片岩 基部 表面は横位に幅1.2cm程の工具痕 裏面は未調整 南部上層 PL88 番号 器種 長さ 幅厚さ 重量 材質 特質 特質 数 出土位置 備考 M48 鎌 (3.5) 2.6 0.6 (5.37) 鉄 銀身部雁文式 室部断面方形 関なし 複生					-					計測値のみ
Q 168 五輪塔 20.4 (16.2) 8.0 (4.400) 花崗岩 火輪 全ての角欠損 南西部上層 計測値のみ Q 169 五輪塔 25.8 27.0 13.4 (17.400) 花崗岩 火輪 角1カ所欠損 軒先外反 南部覆土中 Q 170 宝篋印塔 14.2 15.8 16.4 (8.700) 花崗岩 塔身 上底面突起あり 断面四角形状のくほみあり 一部欠損 北西部下層 Q 171 宝篋印塔 22.6 22.6 12.4 (14.400) 花崗岩 基礎 上面皿状のくほみあり 角1か所欠損 北西部下層 PL90 Q 172 宝篋印塔 (14.0) (15.8) 13.4 (5.000) 花崗岩 基礎 上面皿状のくぼみあり 断面四角形状のくぼみあり 中央部上層 1 / 4残存 一部欠損 中央部上層 Q 173 宝篋印塔 11.8 (15.3) 15.2 (3.014) 花崗岩 笠 1 / 4残存 隅飾突起全て欠損 南部覆土中 Q 174 板碑 (29.2) 15.5 2.3 (1.448) 縁泥片岩 基部 表面は横位に幅1.2cm程の工具痕 裏面は未調整 南部上層 PL88 番号 器 種 長き 幅 厚き 重量 材 質 特 衡 出土位置 備 考 M48 鏃 (3.5) 2.6 0.6 (5.37) 鉄 鏃身部雁又式 茎部断面方形 関なし 覆土中 PL91										
Q 169 五輪塔 25.8 27.0 13.4 (17,400) 花崗岩 火輪 角1カ所欠損 軒先外反 南部覆土中 Q 170 宝篋印塔 14.2 15.8 16.4 (8,700) 花崗岩 塔身 上底面突起あり 断面四角形状のくぼみあり 一部欠損 北西部下層 Q 171 宝篋印塔 22.6 22.6 12.4 (14,400) 花崗岩 基礎 上面皿状のくぼみあり 月1か所欠損 上面部で入口ではみあり 所面四角形状のくぼみあり 中央部上層 中央部上層 1/4残子 一部欠損 中央部上層 中央部上層 2/173 中央部上層 中央部上層 2/174 東部覆土中 2/174 東部覆土中 2/174 東部覆土中 2/174 東部では 11.8 (15.3) 15.2 (3,014) 花崗岩 笠 1/4残子 開飾突起全で欠損 南部覆土中 2/174 東部上層 PL88 番号 器 種 長さ 幅 厚さ 重量 材 質 特 徵 出土位置 備 考 M48 株 質 特 徵 出土位置 備 考 M48 出土位置 備 考	_									
Q 170 宝篋印塔 14.2 15.8 16.4 (8,700) 花崗岩 塔身 上底面突起あり 断面四角形状のくぼみあり 一部欠損 北西部下層 Q 171 宝篋印塔 22.6 22.6 12.4 (14,400) 花崗岩 藍龍 上面皿状のくぼみあり 角 1 か所欠損 北西部下層 PL90 Q 172 宝篋印塔 (14,0) (15.8) 13.4 (5,000) 花崗岩 基礎 上面皿状のくぼみあり 断面四角形状のくぼみあり 断面四角形状のくぼみあり 中央部上層 1 / 4 残存 一部欠損 中央部上層 中央部上層 中央部上層 2 (17.3 宝篋印塔 11.8 (15.3) 15.2 (3,014) 花崗岩 笠 1 / 4 残存 隅飾突起全て欠損 南部覆土中 2 (29.2) 15.5 2.3 (1,448) Q 174 板碑 (29.2) 15.5 2.3 (1,448) 緑泥片岩 基部 表面は横位に幅 1.2cm程の工具痕 裏面は未調整 南部上層 PL88 番号 器 種 長さ 幅 厚さ 重量 材 質 特 徵 出土位置 備 考 M4.8 鏃 (3.5) 2.6 0.6 (5.37) 鉄 鏃身部雁又式 茎部断面方形 関なし 覆土中 PL91										7
Q 171 宝篋印塔 22.6 22.6 12.4 (14.400) 花崗岩 基礎 上面皿状のくぼみあり 角1か所欠損 断面四角形状のくぼみあり 所面四角形状のくぼみあり 中央部上層 上面四角形状のくぼみあり 中央部上層 中央部上層 1 / 4 残存 一部欠損 南部覆土中 2 / 173 宝篋印塔 11.8 (15.3) 15.2 (3.014) 花崗岩 笠 1 / 4 残存 隔飾突起全て欠損 南部覆土中 日本部 表面は横位に幅1.2cm程の工具痕 裏面は未調整 南部上層 PL88 番号 器 種 長さ 幅 厚さ 重量 材 質 特 徴 出土位置 備 考 M48 鏃 (3.5) 2.6 0.6 (5.37) 鉄 錄身部雁又式 茎部断面方形 関なし 覆土中 PL91										
Q 172 宝篋印塔 (140) (15.8) 13.4 (5.000) 花崗岩 基礎 上面正状のくほみあり 断面四角形状のくぼみあり 中央部上層 1 / 4 残存 一部欠損 南部覆土中 2 (173) 中央部上層 東部覆土中 東部変土中 東部上層 PL88 Q 174 板碑 (29.2) 15.5 (2.3) (1,448) 緑泥片岩 基部 表面は横位に幅1.2cm程の工具痕 裏面は未調整 南部上層 PL88 番号 器 種 長さ 幅 厚さ 重量 材 質 特 徴 出土位置 備 考 M48 鉄 (3.5) 2.6 (5.37) 鉄 鎌身部雁又式 茎部断面方形 関なし 覆土中 PL91								基礎 上面皿状のくぼみあり 角1か所欠損		PL90
Q 173 宝篋印塔 11.8 (15.3) 15.2 (3.014) 花崗岩 笠 1/4残存 隅飾突起全て欠損 南部覆土中 Q 174 板碑 (29.2) 15.5 2.3 (1.448) 緑泥片岩 基部 表面は横位に幅1.2cm程の工具痕 裏面は未調整 南部上層 PL88 番号 器 種 長さ 幅 厚さ 重量 材 質 特 徴 出土位置 備 考 M48 鏃 (3.5) 2.6 0.6 (5.37) 鉄 鏃身部雁又式 茎部断面方形 関なし 覆土中 PL91								基礎 上面皿状のくぼみあり 断面四角形状のくぼみあり		
Q 174 板碑 (29.2) 15.5 2.3 (1,448) 緑泥片岩 基部 表面は横位に幅1.2cm程の工具痕 裏面は未調整 南部上層 PL88 番号 器 種 長さ 幅 厚さ 重量 材 質 特 徴 出土位置 備 考 M48 鏃 (3.5) 2.6 0.6 (5.37) 鉄 鏃身部雁又式 茎部断面方形 関なし 覆土中 PL91	_									
番号 器 種 長さ 幅 厚さ 重量 材 質 特 徴 出土位置 備 考 M48 鏃 (3.5) 2.6 0.6 (5.37) 鉄 鏃身部雁又式 茎部断面方形 関なし 覆土中 PL91	_									PL88
M48 鏃 (3.5) 2.6 0.6 (5.37) 鉄 鏃身部雁又式 茎部断面方形 関なし 覆土中 PL91		10 er 1				(=, = 10)				
	番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徵	出土位置	備考
M49 釘 (7.5) 0.7 0.5 ~ 0.6 (6.45) 鉄 断面長方形 頭部付近空洞あり 頭部・先端部欠損 覆土中 PL92	M48	鏃	(3.5)	2.6	0.6	(5.37)	鉄	鏃身部雁又式 茎部断面方形 関なし	覆土中	PL91
	M49	釘	(7.5)	0.7	$0.5 \sim 0.6$	(6.45)	鉄	断面長方形 頭部付近空洞あり 頭部・先端部欠損	覆土中	PL92

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	Ĩ	特	出土位置	備考
M50	鎺	3.4	1.1	0.1 ~ 0.9	6.25	銅	銅板を	を折り曲げた後、別の銅板で背部分を接合	南西部下層	PL92
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	着磁	特 徵	出土位置	備考
M51	椀状滓	8.8	11.9	1.3 ~ 4.9	374.6	鉄	有	明赤褐色 表面中核部が円形にくぼむ 端部一部欠損	覆土中	PL92
M52	椀状滓	8.0	10.0	1.0 ~ 2.0	244.9	鉄	有	明赤褐色 中核部の滓 端部欠損	覆土中	PL92
			,							
番号	銭 種	径	厚さ	孔径	重量	材質	初鋳年	特 徵	出土位置	備考
M53	洪武通寶	2.2	2.15	0.5	3.24	銅	1368 年	無背	中央部中層	PL92
M54	永楽通寶	2.5	0.6	1.52	1.91	銅	1408年	無背	南部上層	PL92
	1			,	1				1	
番号	器	種	口径	器高	底径	Attack With In-	HETT HA	特 徴	出土位置	備 考
W 3	椀		_	(3.9)	6.0	関本取り	板目 ロク	ロ挽き 漆付着・内面赤 外面黒 外面三巴文 底部漆	南西部下層	★ PL108
W 4	椀		-	(3.5)	(5.9)	横木取り	証目 ロク	口挽き 台状高台削出 漆付着・内面赤 外面黒	南西部下層	★ PL94
W 5	椀		-	(1.5)	6.0	横木取り	扳目 ロク	口挽き 環状高台削出 漆付着・内面赤 外面黒	南西部下層	★ PL94
W 6	椀		[11.9]	3.3	[9.3]	横木取り	証目 ロク	口挽き 漆付着	南西部下層	★ PL94
W 7	椀		-	(2.2)	-	横木取り	扳目 ロク	口挽き 台状高台 漆付着・内面赤 外面黒	南西部下層	★ PL94
W 8	曲物	底板	12.4	(13.4)	1.0	板目 釘	綴じ 片面	刃物痕	南西部下層	PL93
W 9	曲物	底板	10.1	9.6	0.7	板目 釘	綴じ 孔2:	か所 径 1 ~ 2 mm	南西部下層	PL93
W 10	曲物	底板	11.4	(5.8)	0.9	柾目 釘	綴じ 一部	炭化	南西部下層	PL93
W 11	曲物	底板	13.2	(6.5)	0.8	柾目 釘	綴じ		南西部下層	PL93
W 12	曲物	側板	[10.8]	2.6	0.2	板目 皮	綴じ		南西部下層	PL93
W 13	曲物	側板	[14.2]	(2.7)	0.2	板目 皮	綴じ		南西部下層	PL93
W 14	曲物	側板	[15.0]	(4.0)	0.7		綴じ		南西部下層	PL93
W 15	箆状木	製品	37.6	8.2	1.7	板目 柄	先端部削り 身部分のほ	加工 柄先端から1/3部分に窪みあり 身柳葉形に削 ば水平・一部炭化	南西部下層	★ PL94
W 16	下馬	汰	[10.1]	(6.4)	2.9	板目 連	歯下駄 緒	孔1か所	南西部下層	PL94
W 17	下馱	Ċ _ħ	14.7	7.9	1.7	板目 緒	孔4か所	2 mm~ 4 mm 一部炭化	南西部下層	PL94
W 18	樋,	ħ	[8.5]	(3.3)	1.6	板目			南西部下層	
W 19	樋,	ħ	16.1	5.7	3.2	柾目 断	面U字状	底部幅 1.7cm	南西部下層	PL94
W 20	樋,	b	[11.2]	(6.9)	[1.9]	板目			南西部下層	
W 21	樋,	b	[9.8]	(6.6)	2.0	板目			南西部下層	
W 22	樋,	b	[20.4]	(5.2)	1.3	板目 側	面穿孔 1 か	所 樋の底部ヵ	南西部下層	
W 23	曲物(則板ヵ	19.1	2.6	1.0	板目 穿	孔1か所		南西部下層	PL93
W 24	曲物(則板ヵ	18.7	2.3	0.6	柾目 円	孔2か所	孔経 1 ~ 2 mm	南西部下層	PL93
W 25	曲物(則板力	[9.0]	3.9	0.6	柾目 片i	面刃物痕		南西部下層	PL93
W 26	曲物(則板ヵ	[12.4]	(3.4)	[0.4]	柾目 円	孔2か所	孔経 1mm~ 2mm 片面・側面刃物痕	南西部下層	PL93
		Т	-	1						
悉号	哭 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎士	任 1	周 焼成 特 巻	出土位置	備老

(9) 溝跡

第 443 号溝跡 (第 323 · 324 図)

調査年度 平成 20・21 年度

位置 15 区北部のM 4 a2 ∼ M 5 d1 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

(421.3) 長石・石英・ 雲母

重複関係 第 3031 号竪穴建物跡, 第 585 · 586 号掘立柱建物跡, 第 6010 · 6091 · 6361 · 6362 号土坑を掘り込み, 第 100 号方形竪穴遺構, 第 88 号地下式坑, 第 6026 · 6027 · 6079 · 6264 号土坑, 第 515 号溝に掘り込まれている。

にぶい橙 普通 貼り付け玉文スタンプの連続押捺 の一部残存 側面へラ削り

南部覆土中 PL94

規模と形状 東・西両端部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは $45.75\,\mathrm{m}$ である。M $5\,\mathrm{d}1\,\mathrm{E}$ から西方向(N -72° - W)に直線的に延びている。上幅 $1.28\sim1.68\mathrm{m}$ 、下幅 $0.20\sim0.70\,\mathrm{m}$ 、深さ $61\sim75\mathrm{cm}$ で、溝底は中央部が最も高く、東端との比高は $18\mathrm{cm}$ 、西端との比高は $6\,\mathrm{cm}$ である。断面は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

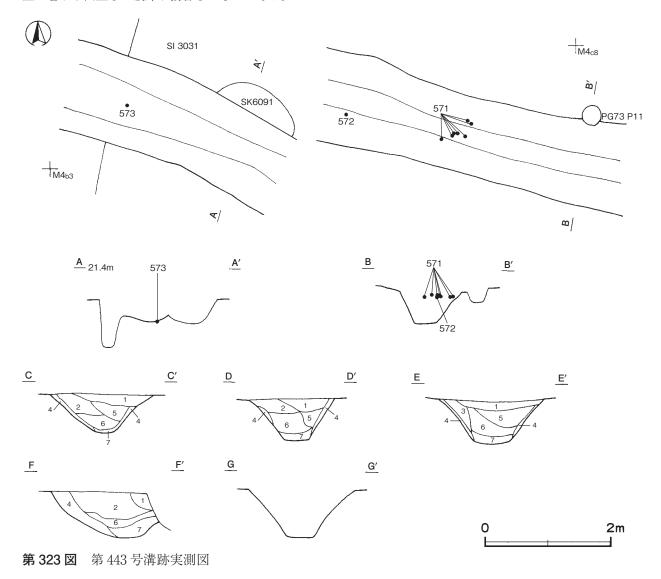
 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 5 黒 褐 色 ローム粒子少量

 2 褐 色 ローム粒子中量
 6 暗 褐 色 ローム粒子少量

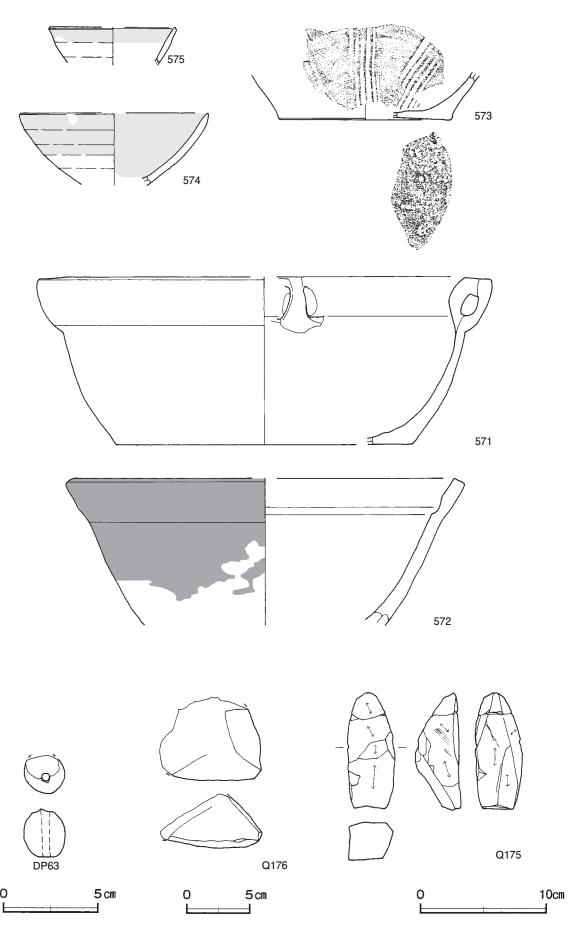
 3 暗 褐 色 ローム粒子中量(締まり弱い)
 7 暗 褐 色 ローム粒子中量

 4 褐 色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師質土器片 6点(内耳鍋 5,擂鉢 1),陶器片 14点(碗 2,甕 12),石器 2点(砥石),石製品 1点(五輪塔),土製品 1点(土玉)のほか,土師器片 233点(坏 48,高台付坏 2,甕類 183),須恵器片 55点(坏 7,高台付坏 1,蓋 2,甕類 45),石製品 2点(磨石),鉄滓 3点(132.1g),中礫 1点(雲母片岩)が覆土中から散在した状態で出土している。Q176 は東部,DP63 は中央部,573・Q175 は西部の覆土下層から,572 は中央部,574・575 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。また,571 は中央部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。



- 391 -



第324 図 第443 号溝跡出土遺物実測図

所見 本跡の南に位置する第 444 号溝とほぼ平行して延びていることから、同時期に機能していたものと考え られる。両溝の間隔は 4.0 m~ 5.5 mである。調査区東側に位置する妙徳寺の東側に向かって直線的に延びて おり、道の側溝として機能していた可能性もある。時期は、出土土器から16世紀前葉には機能を終えたと考 えられる。

第443号溝跡出土遺物観察表(第324図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の	特徴ほ	か	出土位置	備	考
571	土師質土器	内耳鍋	[36.2]	13.3	[23.6]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通 口縁部外	内面横ナデ	体部外・内	面ナデ	覆土上層	20%	PL83
572	土師質土器	内耳鍋	[30.1]	(11.7)	-	長石·石英· 雲母·赤色粒子	明赤褐	普通 口縁部外	・内面横ナテ	体部外・内	面ナデ	覆土上層	10%	
573	土師質土器	擂鉢	-	(3.8)	[13.5]	長石·石英· 雲母·赤色粒子	暗赤褐	普通 体部外面	ナデ 内面 5	条1単位の擂	り目 底部	覆土下層	20%	
					•									
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考
574	陶器	碗	[14.9]	(5.8)	-	長石	淡黄	-	オリーブ黄	瀬戸	15 世紀後	覆土上層	10%	
575	陶器	碗	[10.0]	(3.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	<u>*</u>	灰オリーブ	瀬戸・美濃系	16 世紀前	覆土上層	5 %	
番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎土			特 償	ģ		出土位置	備	考
DP63	土玉	(2.2)	2.6	0.4 ~ 0.5	(9.66)	石英・雲母	ナデ 一方	i向からの穿孔				覆土下層	PL87	
												`		
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特 徵	ť		出土位置	備	考
Q 175	砥石	9.3	3.8	3.6	(125.3)	凝灰岩	砥面9面			覆土下層				
Q 176	五輪塔	(13.3)	(16.3)	(8.6)	(1,878)	花崗岩	火輪 軒先	わずかに外反		覆土下層				

第 444 号溝跡(第 325 図)

調査年度 平成 20 · 21 年度

位置 15 区北部のM 4 c2 ∼ M 4 e0 区、標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3032 号竪穴建物跡, 第 6062・6125・6352 号土坑を掘り込み, 第 83・84 号地下式坑, 第 75 号ピ ット群、第449・450 号溝に掘り込まれている。第81 号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。 規模と形状 東・西両端部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは 40.85 mである。M 5 e0 区か ら西方向 $(N-80^{\circ}-W)$ に直線的に延びている。上幅 $0.68\sim1.48m$, 下幅 $0.25\sim0.70$ m, 深さ $15\sim54$ cmで、 溝底は中央部が最も高く、東端との比高は24cm、西端との比高は30cmである。断面はU字状で、壁は緩やか に立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1 里 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

5 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量

色 ローム粒子中量 6 裾

色 ロームブロック・粘土ブロック中量

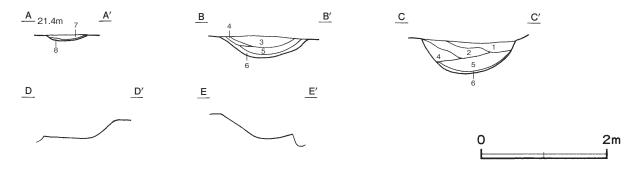
7 暗 褐 色 ローム粒子中量

4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

8 褐 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋),石製品1点(砥石)のほか,土師器片 66 点(坏 11,高台付坏 1、甕類 54) 須恵器片 10点(坏3、甕類7)、土製品1点(不明)が覆土中から散在した状態で出土している。 いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は遺物が細片のため明確ではないが、本跡の北側に位置する第 443 号溝とほぼ平行して延びている ことから、同時期の16世紀前葉には機能を終えたと考えられる。調査区東側に位置する妙徳寺の東側に向か って直線的に延びており、道の側溝として機能していた可能性もある。



第 325 図 第 444 号溝跡実測図

第 446 号溝跡 (第 326 · 327 図)

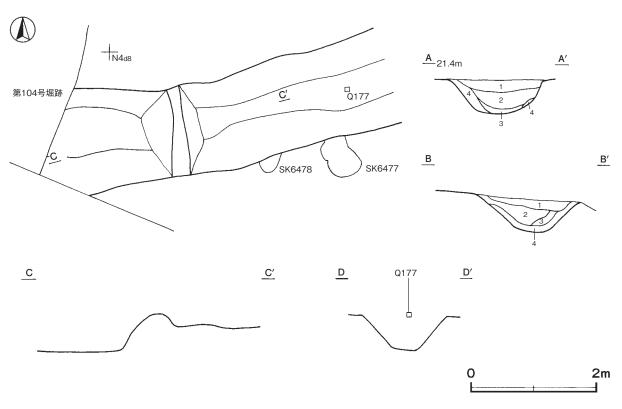
調査年度 平成 20 · 21 年度

位置 15 区中央部の N 4 d8 ~ N 4 c0 区. 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6475・6477・6478 号土坑, 第 510 号溝跡を掘り込み, 第 6609 号土坑, 第 104 号堀, 第 452・503 号溝に掘り込まれている。第 6479・6486・6487 号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 東・西両端部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは 13.20~mである。N 4~d8~Eから 北東方向(N $-73^\circ-\text{E}$)に直線的に延びている。上幅 $1.32\sim2.45$ m、下幅 $0.28\sim0.80~\text{m}$ 、深さ $52\sim65$ cmで、 溝底は中央部が最も高く、東端との比高は 138cm、西端との比高は 39cmである。断面は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。N 4~d8~Eで地山を掘り残した長さ 1.4m、上幅 $18\sim32$ cm、下幅 $68\sim94$ cm、高さ 50cmの障壁を確認した。障壁の段差は東側が 22cm、西側が 54cmある。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



第 326 図 第 446 号溝跡実測図

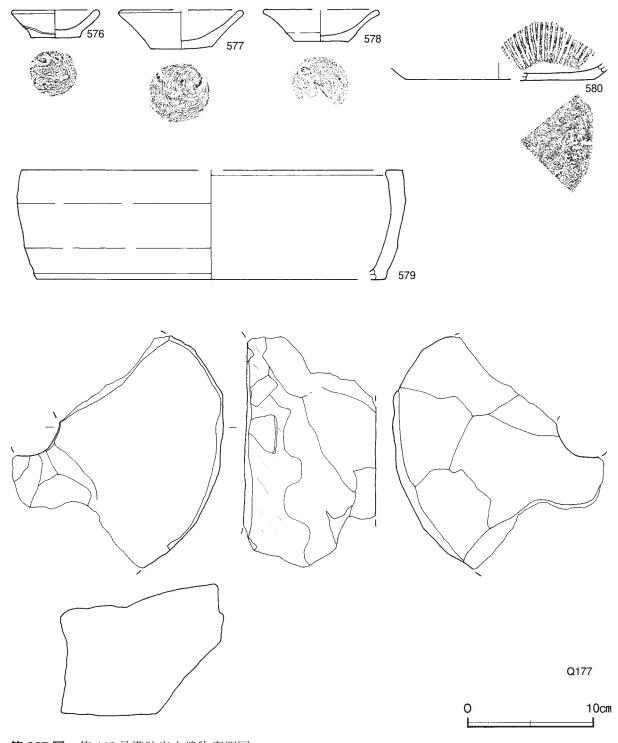
土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐 色 ローム粒子少量 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

4 褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片 18点 (小皿3,焙烙11,擂鉢4),陶器片2点 (碗,皿),石製品1点 (石臼)のほか, 土師器片 52 点 (坏 10, 甕類 42), 須恵器片 12 点 (坏 1, 高台付皿 1, 鉢 1, 甕類 9) が, 覆土中から散在し た状態で出土している。Q177 は覆土上層, 576~580 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 16 世紀前葉には機能を終えたと考えられる。溝底面で障壁を確認し たことから防御施設として機能していたとも考えられる。



第327 図 第446 号溝跡出土遺物実測図

第446号溝跡出土遺物観察表(第327図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
576	土師質土器	小皿	6.8	2.2	3.8	長石・石英・ 赤色粒子	明褐色		ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	覆土上層	80% PL83
577	土師質土器	小皿	[9.6]	3.1	4.8	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面仕上げナデ	覆土上層	50% PL83
578	土師質土器	小皿	[9.0]	2.6	4.4	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面仕上げナデ	覆土上層	40% PL83
579	土師質土器	焙烙	[30.2]	8.7	[28.8]	長石・礫・石英・ 赤色粒子	赤黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土上層	10%
580	土師質土器	擂鉢	-	(1.4)	[15.0]	長石·石英· 雲母·細礫	にぶい橙	普通	擂り目 14 条以上	覆土上層	5 %

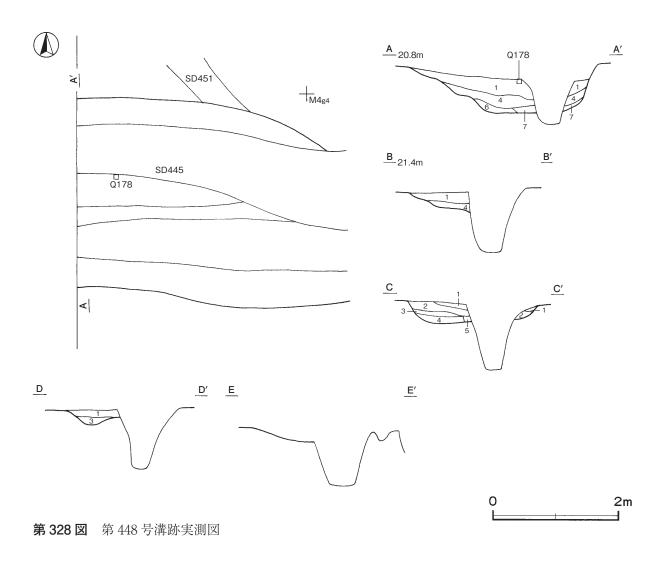
番号	器 種	径	孔径	高さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
Q 177	石臼	(6.2)	(6.7)	10.5	(2739.1)	安山岩	上臼 上面が焼けている 裏面9条の擂り目	覆土上層	

第 448 号溝跡 (第 328 · 329 図)

調査年度 平成 20 · 21 年度

位置 15 区北部の M 4 g3 \sim M 5 g1 区、標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3033 号竪穴建物跡, 第 543 号掘立柱建物跡を掘り込み, 第 226 号井戸, 第 104 号堀, 第 445 号 溝に掘り込まれている。第 6019・6291・6295・6472・6623 号土坑, 第 449・451 号溝跡と重複しているが, 新 旧関係は不明である。



規模と形状 第 445 号溝に掘り込まれ、東端部が撹乱を受け、西端部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは 29.42 mである。M 5 gl 区から西方向(N - 84° - W)に直線的に延びている。上幅 0.68 \sim 3.08m、下幅 $0.12 \sim 1.10$ m、深さ $22 \sim 64$ cmで、溝底は東端部が最も高く、西端部との比高は 28cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。第1~5層はレンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。第6・7層はロームや粘土のブロック含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

5 暗 褐 色 ローム粒子少量

 6 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量

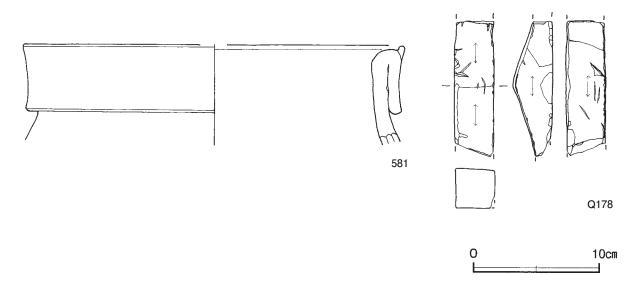
 7 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

3 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化物少量,焼土粒子微量

4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 4 点 (小皿 1, 擂鉢 1, 甕類 2), 陶器片 2 点 (碗類, 甕), 石製品 1 点 (石皿) のほか, 土師器片 6 点 (坏 2, 甕類 4), 須恵器片 4 点 (甕類), 灰釉陶器片 1 点 (瓶類), 土師質土器片 1 点 (置き竈)が, 覆土中から散在した状態で出土している。581 は西部の覆土下層, Q 178 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は,重複関係から16世紀後葉には機能を終えたものと考えられる。本跡の北側には地下式坑や火 葬施設があることから、これらの施設を区画するための溝であった可能性がある。



第329 図 第448 号溝跡出土遺物実測図

第448号溝跡出土遺物観察表(第329図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考
581	陶器	甕	[30.0]	(7.8)	-	精良		褐灰	-	暗赤褐	常滑	15 世紀中	覆土下層	10%	
										•					
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特徵	Ė		出土位置	備	考
Q 178	砥石	(10.7)	3.2	3.2	(149.6)	凝历	天岩	砥面3面					覆土上層	PL88	

第 449 号溝跡 (第 330 · 331 図)

調査年度 平成 20 年度

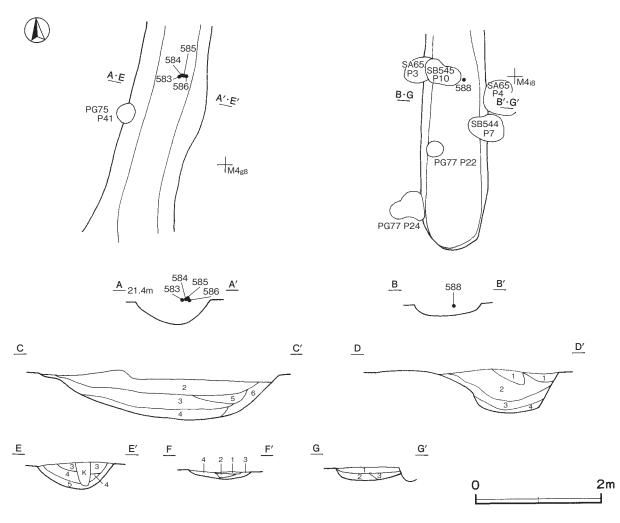
位置 15 区北部の M 4 d7 ∼ M 4 f7 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北端部が第 89 号地下式坑に掘り込まれているため、確認できた長さは 20.26 mで、M 4 f7 区から北方向(N - 6°- E)に直線的に延びている。上幅 $0.95\sim1.64$ m、下幅 $0.50\sim0.85$ m、深さ $25\sim68$ cmで、溝底は中央部が最も高く、北端との比高は 64cmで南端との比高はほとんどない。断面は U字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

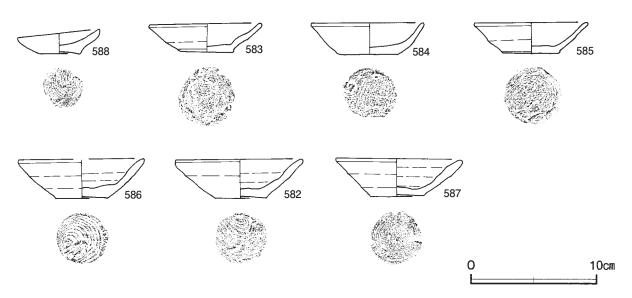
- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子多量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中量 6 黒 褐 色 ローム粒子中量



第 330 図 第 449 号溝跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片 7点(小皿),陶器片 1点(皿)のほか,土師器片 67点(坏 12,甕類 55),須恵器片 10点(坏 1,蓋 2,甕類 7),土製品 1点(不明)が,覆土中から散在した状態で出土している。588は南部の覆土中層, $582 \sim 587$ は中央部の覆土上層からまとまって出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 16 世紀後葉には機能を終えたと考えられる。溝の東西を区画する機能を有していたと考えられる。



第331 図 第449 号溝跡出土遺物実測図

第449号溝跡出土遺物観察表(第331図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
582	土師質土器	小皿	10.0	3.1	4.2	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 体底部内面ロクロ目強(うずまき状)	覆土上層	100% PL83
583	土師質土器	小皿	8.8	2.4	4.4	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面仕上げナデ	覆土上層	90% PL83
584	土師質土器	小皿	8.9	2.6	4.3	長石・石英・ 赤色粒子	橙		ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 体底部内面ロクロ目 (うずまき状) 内底面仕上げナデ	覆土上層	80% PL83
585	土師質土器	小皿	8.9	2.5	4.6	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	覆土上層	80% PL83
586	土師質土器	小皿	[9.9]	3.1	4.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 体底部内面ロクロ目強(うずまき状)	覆土上層	80% PL83
587	土師質土器	小皿	9.9	3.1	4.2	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロクロ目強(うずまき状)	覆土上層	80% PL83
588	土師質土器	小皿	6.4	1.9	3.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面仕上げナデ	覆土中層	60% PL83

第 450 号溝跡 (第 332 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部の M 4 d7 ∼ M 4 f7 区. 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第444号溝跡, 第85号地下式坑を掘り込み, 第449号溝に掘り込まれている。

規模と形状 M 4f7 区から北方向(N - 16° - E)に直線的に延びており、長さは 9.44 mである。上幅 0.56 ~ 1.35 m、下幅 $0.35 \sim 0.80$ m、深さ 48cmで、溝底は北端部が最も高く、南端部との比高は 40cmである。断面形は U字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片5点(坏2,甕類3),須恵器片1点(甕類)が出土している。

所見 時期は、伴う土器が出土していないため不明であるが、重複関係から 16 世紀中葉には機能を終えたと考えられる。性格は不明である。



第 332 図 第 450 号溝跡実測図

第 451 号溝跡 (第 333 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部の M 4 d4 ∼ M 4 g4 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6149 号土坑に掘り込まれている。第448 号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南端部が第 448 号溝と重複しているため、確認できた長さは 9.58 mで、M 4 d4 Ξ から南方向($S-10^{\circ}$ – W)に直線的に延びており、南端部は扇状に広がっている。上幅 $0.28\sim1.98$ m、下幅 $1.10\sim1.45$ m、深さ $15\sim20$ cmで、溝底は北端部が最も高く、南端との比高は 14cmである。断面は M 4 e4 Ξ 0 から M 4 d4 Ξ 1 までの 2.6m が浅い M2 字状になっており、掘り直しの可能性がある。その他は浅い M2 字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

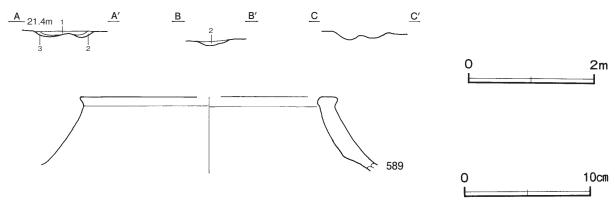
1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

3 暗 褐 色 ローム粒子中量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(甕)が出土している。589は中央部覆土下層から出土している。

所見 溝底の比高はわずかであるが、本跡の南が第448号溝跡に連結しており、この溝へ排水していた可能性がある。時期は、出土土器や重複関係から16世紀後葉には機能を終えたと考えられる。



第 333 図 第 451 号溝跡実測図

第 451 号溝跡出土遺物観察表 (第 333 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
589	土師質土器	甕	[20.2]	(15.9)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5 %

第 452 号溝跡 (第 334 ~ 339 図)

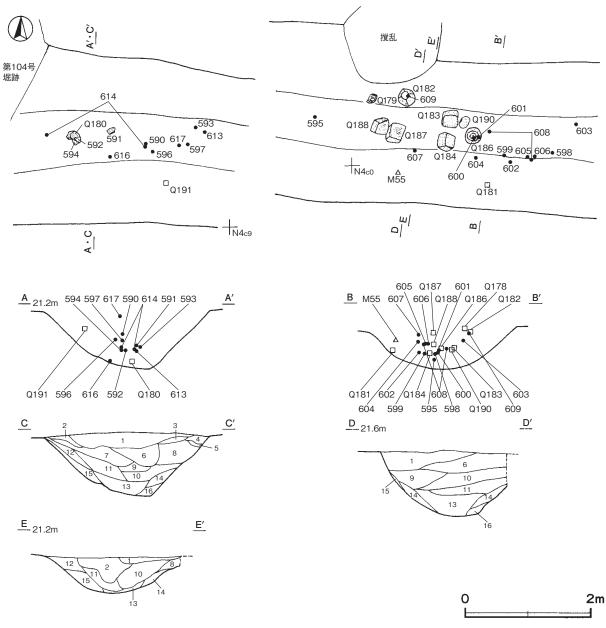
調査年度 平成 20 年度

位置 15 区中央部の N 4 b8 ~ N 5 c1 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 $6465 \sim 6467 \cdot 6471$ 号土坑を掘り込み,第 503 号溝に掘り込まれている。第 104 号堀跡と重複しているが,新旧関係は不明である。

規模と形状 東端部が第 503 号溝, 西端部が第 104 号堀に掘り込まれているため, 確認できた長さは 12.60 mで, N 5 cl 区から西方向(N - 75° - W)に直線的に延びている。上幅 $2.42 \sim 2.94$ m,下幅 $0.70 \sim 0.92$ m,深さ $100 \sim 105$ cm,溝底は中央部が最も高く,東端との比高は 3 cm,西端部との比高は 16cmである。断面はU字状で,壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 16 層に分層できる。第 $12 \sim 16$ 層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積で、それより上層はロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。



第 334 図 第 452 号溝跡実測図

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量
 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
 3 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

4 黒 褐 色 ロームブロック少量

5 褐 色 ロームブロック中量

6 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

7 黒 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

8 極暗褐色 ローム粒子少量

9 黒 褐 色 ロームブロック微量

10 極暗褐色 ロームブロック少量

11 暗 褐 色 ローム粒子微量

12 褐 色 ローム粒子少量

13 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

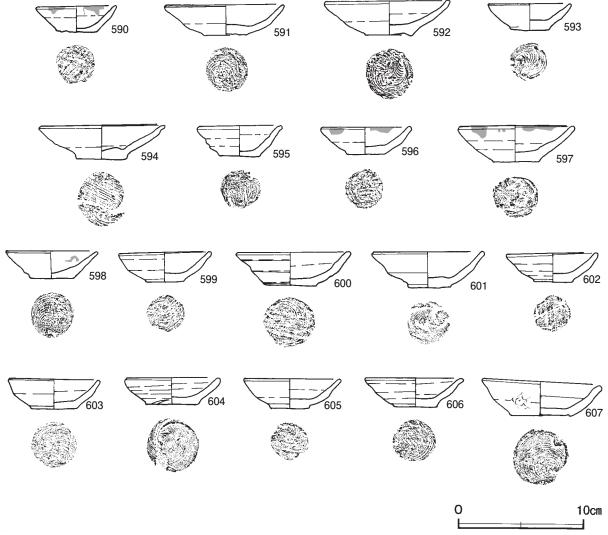
14 黒 褐 色 ローム粒子少量

15 褐 色 ローム粒子中量

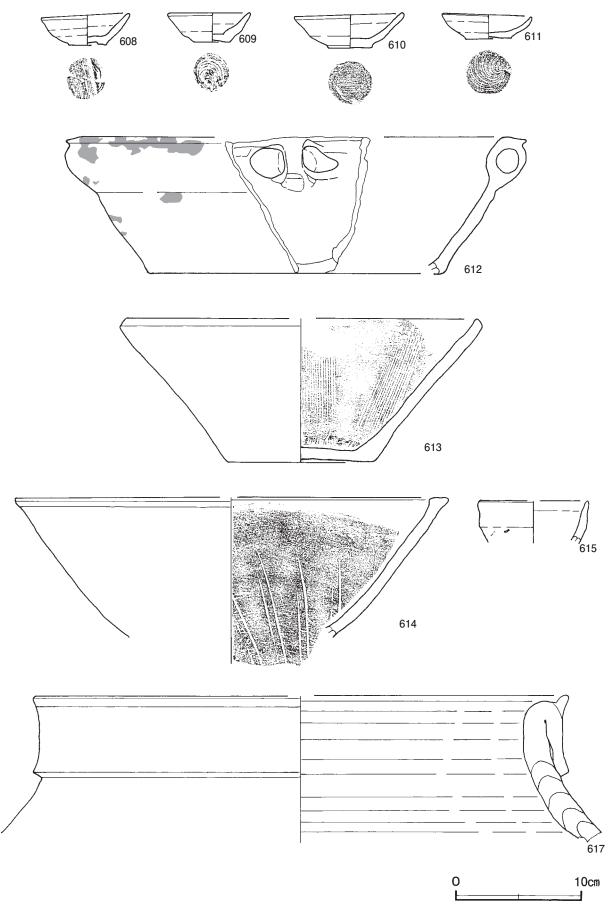
16 黒 褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片 99 点 (小皿 48, 内耳鍋 44, 擂鉢 4, 火鉢 3), 瓦質土器片 1点 (火鉢), 陶器片 10点 (碗 5, 天目茶碗 2, 皿 1, 甕 2), 磁器片 5点 (碗類 4, 皿 1), 石器 4点 (凹石 1, 石臼 2, 砥石 1), 石製品 12点 (五輪塔 9, 宝篋印塔 2, 不明 1), 鉄製品 1点 (釘), 銭貨 1点 (不明) のほか, 土師器 112点 (坏 19, 甕類 93), 須恵器片 24点 (坏 5, 甕類 19), 馬骨片 (歯, 顎骨) が出土している。591・592・616・Q 180 は西部の覆土下層, 590・593・594・596・597・613・614・Q 191 は西部の, 595・598~603, 606・Q181・Q183~Q185・Q 189・Q190 は東部の覆土中層, 615・617 は西部の, 604・605・607~609・612・Q 179・Q182・Q 186~Q188・M 55 は東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

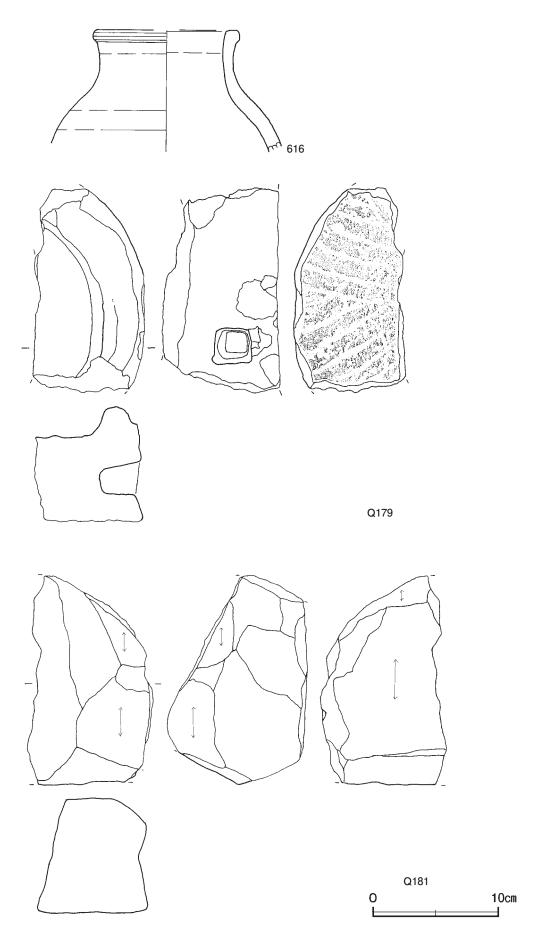
所見 時期は、出土土器や重複関係から 16 世紀後葉には機能を終えたと考えられる。五輪塔の部材が北東部からに多く出土していることから、本跡の北側に墓域があり、それを区画する機能を有していたと想定される。



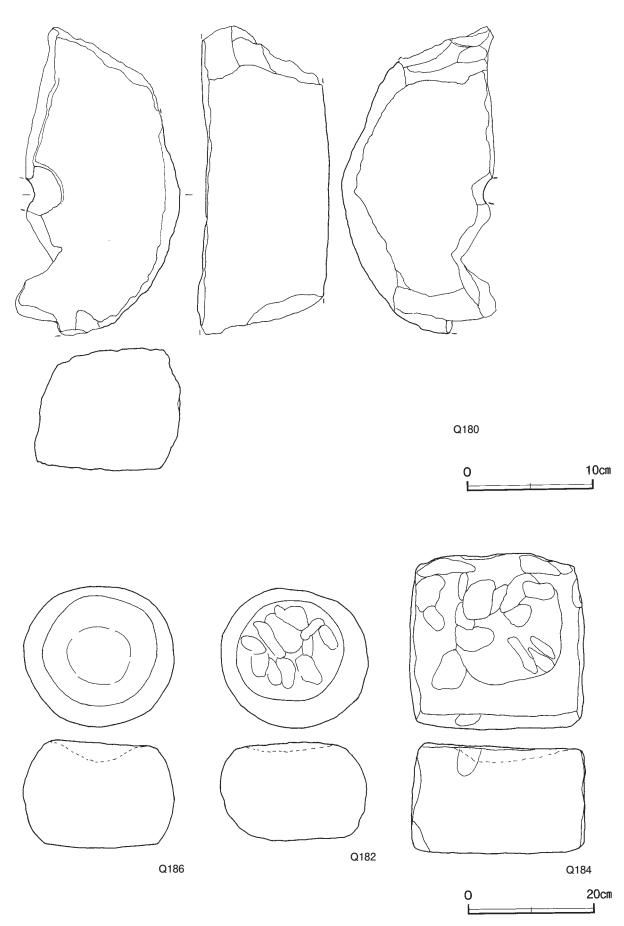
第 335 図 第 452 号溝跡出土遺物実測図 (1)



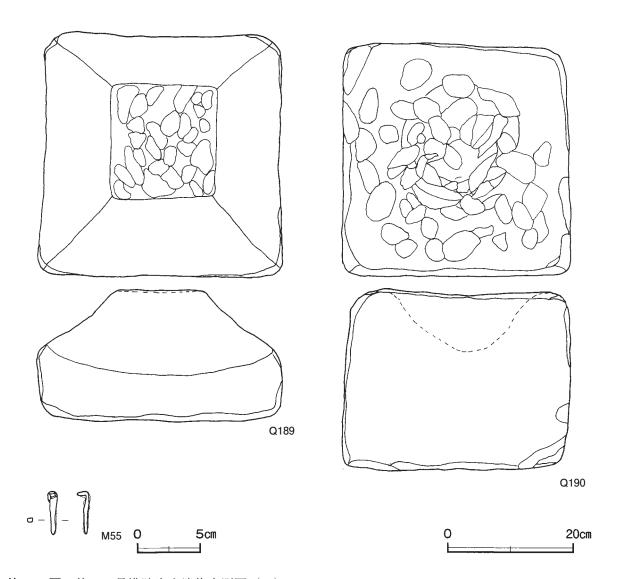
第 336 図 第 452 号溝跡出土遺物実測図 (2)



第337図 第452号溝跡出土遺物実測図(3)



第338図 第452号溝跡出土遺物実測図(4)



第 339 図 第 452 号溝跡出土遺物実測図 (5)

第 452 号溝跡出土遺物観察表(第 335 \sim 339 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
590	土師質土器	小皿	6.3	2.2	3.2	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	西部中層	100% PL83 油煙付着
591	土師質土器	小皿	9.3	2.4	3.3	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	西部下層	90% PL84
592	土師質土器	小皿	9.9	2.8	3.8	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	西部下層	90% PL84
593	土師質土器	小皿	6.6	2.2	3.0	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面凹み 仕上げナデ	西部中層	80% PL84
594	土師質土器	小皿	10.0	2.8	4.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	西部中層	80% PL84
595	土師質土器	小皿	6.5	2.6	3.2	長石・石英・雲 母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	東部中層	100% PL83
596	土師質土器	小皿	7.1	2.3	3.1	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 体底部内面ロクロ目 仕上げナデ	西部中層	100% PL83 油煙付着
597	土師質土器	小皿	9.1	2.9	3.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	西部中層	100% PL84 油煙付着
598	土師質土器	小皿	7.2	2.3	3.4	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロ目(うずまき状) 内底面仕上げナデ	東部中層	100% PL83 油煙付着
599	土師質土器	小皿	7.2	2.4	3.0	長石・石英・雲母	淡橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	東部中層	100% PL84
600	土師質土器	小皿	9.0	2.7	4.1	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 底部内面 ロクロ目強 (うずまき状) 内底面仕上げナデ	東部中層	100% PL84
601	土師質土器	小皿	8.7	2.9	3.4	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	東部中層	98% PL84
602	土師質土器	小皿	7.2	2.4	3.0	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ	東部中層	95% PL84
603	土師質土器	小皿	7.0	2.3	3.7	長石・石英	橙	普通	内広田口み 11.1.17 / /	東部中層	90% PL84
604	土師質土器	小皿	7.3	2.1	4.2	長石・石英・ 赤色粒子	淡橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り底部内面ロクロ目 (うずまき状) 内底面仕上げナデ	東部上層	100% PL84

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の	特徴ほ	か	出土位置	備	考
605	土師質土器	小皿	7.6	2.4	3.1	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通 ロクロナ 体底部内	デ 底部回転 面ロクロ目	糸切り後ヘラ 仕上げナデ	ナデ	東部上層	100%	PL84
606	土師質土器	小皿	7.6	2.3	3.4	長石・石英	にぶい橙	普通 ロクロナ ロクロ目	強 (うずまき	糸切り後ナデ (状) 内底面(上上げナデ	東部中層		PL84
607	土師質土器	小皿	9.3	2.9	4.7	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙		縁部凹み 仕			東部上層		PL86
608	土師質土器	小皿	7.0	2.6	3.1	長石・石英・雲母	橙		縁部凹み 仕			東部上層	95%	PL84
609	土師質土器	小皿	6.5	2.4	2.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	^{晋囲} 仕上げナ				東部上層	90%	PL84
610	土師質土器	小皿	8.7	2.8	3.5	長石・石英	淡橙		縁部凹み 仕			覆土中	95%	PL84
611	土師質土器	小皿	7.1	2.1	3.6	石英・雲母	にぶい橙	普通 ロクロナ 仕上	デ 底部回転 げナデ	糸切り 内底	面周縁部凹	覆土中	80%	PL84
612	土師質土器	内耳鍋	[36.8]	10.9	[23.2]	長石・石英・雲母	橙	普通 口縁部外				東部上層	10% 外面煤	付着
613	土師質土器	擂鉢	[28.0]	11.4	11.8	長石・石英・雲母	灰褐		.位の擂目 口 にかけ外面剥		f剥離 体部	西部中層	40%	PL85
614	土師質土器	擂鉢	[34.6]	(11.2)	_	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通 2条1単	位の擂り目	口縁部外・内	面横ナデ	西部中層	30%	PL85
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考
615	陶器	天目茶碗	[8.6]	(3.4)	_	長石	浅黄橙	_	黒褐	瀬戸・美濃	16C 代	西部上層	5 %	
616	陶器	甕	[11.2]	(9.6)	_	長石・石英・細礫	褐灰	_	暗赤褐	常滑	13C 末 (伝世 ₂)	西部下層	20%	PL107
617	陶器	甕	[42.4]	(11.7)	-	長石・石英	灰褐	-	にぶい赤褐	常滑	15 C後	西部上層	5 %	
	,					,	,			,				
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質			特 徵	t		出土位置	備	考
Q 179	石臼	[23.0]	(3.0)	(9.4)	(1502.6)	安山岩	上臼 5条	₹1単位の擂り	目 軸受け横	打込孔残存		東部上層		
Q 180	石臼	[26.4]	[3.3]	10.4	(3,400)	安山岩								
Q 181	砥石	[16.9]	(10.1)	(11.1)	(1942.4)	安山岩	砥面5面					東部中層		
番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材 質			特 徵	t		出土位置	備	考
Q 182	五輪塔	23.6	23.4	15.8	17,200	花崗岩	水輪 上面	面ノミ状工具に	よる加工痕	底部平坦		東部上層		
Q 183	五輪塔	22.8	24.8	18.2	(23,000)	花崗岩	地輪 上面	面ノミ状工具に	よる加工痕	一部欠損		東部中層	計測値	iのみ
Q 184	五輪塔	28.0	28.0	17.6	34,600	花崗岩	地輪 上面	面ノミ状工具に	よる加工痕	断面長方形		東部中層		
Q 185	五輪塔	19.0	21.0	(17.2)	(15,000)	花崗岩	地輪 上面	面ノミ状工具に	よる加工痕	一部欠損		東部中層	計測値	iのみ
Q 186	五輪塔	22.2	24.0	17.2	18,200	花崗岩	水輪 上面	面にくぼみあり	底部平坦			東部上層		
Q 187	五輪塔	27.0	25.6	20.8	32,300	花崗岩	地輪 上面	面ノミ状工具に	よる加工痕			東部上層	計測値	iのみ_
Q 188	五輪塔	(23.2)	(24.4)	17.6	(20,800)	花崗岩	地輪 上面	面ノミ状工具に	よる加工痕	一部欠損		東部上層	計測値	iのみ
Q 189	五輪塔	39.0	39.2	29.8	59,700	花崗岩	火輪 軒先	たわずかに外反	上面ノミ状	工具による加	工痕	東部覆土中		
Q 190	宝篋印塔	37.2	36.8	28.6	83,600	花崗岩	基部 上面	新皿状のくぼみ	あり 断面長	方形		東部中層		
Q 191	宝篋印塔	(17.0)	(23.6)	17.8	(12,200)	花崗岩	基部 円状	犬の凹みあり	断面長方形	一部欠損		西部中層	計測値	iのみ
Q 192	不明	66.2	49.5	14.8	64,800	雲母片岩	切り出し痕	痕 削り出し痕	あり 板碑・	礎石に使用ヵ		東部覆土中	計測值	iのみ
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特 徵	t		出土位置	備	考
M55	釘	3.5	0.75	0.3	2.09	鉄	断面長方刑	形 両端部欠損	上位で屈曲			東部上層	PL92	

第 453 号溝跡 (第 340 図)

調査年度 平成 20・21 年度

位置 15 区中央部の M 4 i0 ∼ N 4 b0 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6132号土坑,第452号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端部が第 452 号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは 12.1 mで、N 4 b0 区から南方向(N - 8° - E)に直線的に延びている。上幅 $0.20\sim1.30$ m、下幅 $0.10\sim0.81$ m、深さ $10\sim18$ cm、溝底は北端部が最も高く、南端との比高は約 10cmである。断面は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

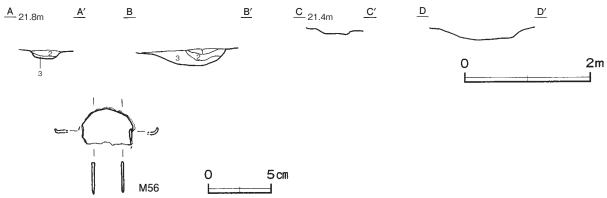
土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子微量

- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 鉄製品 1 点 (不明) のほか, 土師器片 7 点 (坏3, 甕類 4), 須恵器片 1 点 (瓶類) が出土している。 M 56 は覆土上層から出土している。

所見 時期は,重複関係から16世紀中葉には機能を終えたと考えられる。第510号溝と規模や形状が近似しており,同じ時期に区画的な機能を有していたと想定される。



第 340 図 第 453 号溝跡·出土遺物実測図

第453号溝跡出土遺物観察表(第340図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
M56	不明	(4.3)	2.8	0.2	(13.3)	鉄	円盤状 一部欠損	覆土上層	PL91

第 499 号溝跡 (第 341 図)

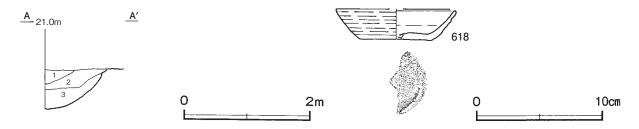
調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の ○ 4 i4 ~ ○ 4 i6 区、標高 20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 498 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東端が削平され、西端は第 498 号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは 8.0 mで、O 4 i6 区から西方向(S - 80° - W)に直線的に延びている。上幅 $0.50 \sim 1.10$ m、下幅 $0.10 \sim 0.36$ m、深さ $60 \sim 145$ cm、溝底は東部が最も高く、西端との比高は 6 cmである。断面は U 字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。**覆土** 3 層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説



第341 図 第499 号溝跡 · 出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片 19 点 (小皿 3, 内耳鍋 3, 擂鉢 1, 甕類 12), 陶器片 1 点 (甕), 瓦片 1 点 (平瓦ヵ) のほか、中礫 1 点、細礫 1 点が出土している。618 は東部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から、16世紀後半には機能を終えたと考えられる。性格は不明である。

第499号溝跡出土遺物観察表(第341図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土		色調	司	焼成	手	法	の	特	徴	ほ	か	出土位置	備	考
618	土師質土器	小皿	[9.6]	2.4	[5.6]	長石・石英・雲	長母	橙	3	普通	ロクロナデ 縁部凹み	底部	四車	5.糸切	Jり衫	をナテ	' 内底面周	覆土中	20%	

第 507 号溝跡 (第 342 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の ○ 4 f0 ~ ○ 5 f1 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第500 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 上部が第 500 号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは 12.86 mで、O 5 fl 区から北方向 (N $-11^{\circ}-W$) に直線的に延びている。上幅 $0.70\sim0.75$ m、下幅 $0.30\sim0.50$ m、深さ 56cm、溝底は北部寄りが高く、南端との比高は 17cmである。断面は U字状で、壁の立ち上がりは明確でない。

覆土 2層に分層できる。第500号溝に掘り込まれているため明確ではないが、ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されていると想定される。

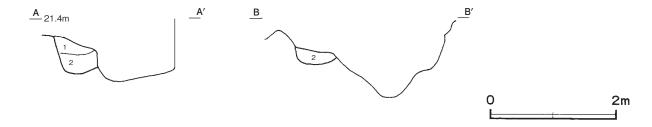
土層解説

1 極 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量

遺物出土状況 中礫1点が出土している。

所見 時期は、重複関係から 16 世紀前葉には機能を終えたものと考えられる。性格は不明である。



第 342 図 第 507 号溝跡跡実測図

第 510 号溝跡 (第 343 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区中央部のN4c0∼N4g9区,標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6605 号土坑を掘り込み、第 6606 号土坑、第 446 号溝に掘り込まれている。

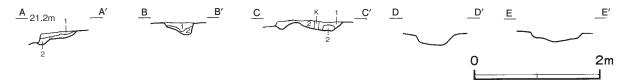
規模と形状 溝の北端が第 446 号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは 15.42 mで、N 4 g9 区から北方向(N - 8° - E)に直線的に延びている。上幅 $0.49\sim0.92$ m、下幅 $0.40\sim0.72$ m、深さ 8 \sim 16cm、溝底は北部寄りが高く、南端との比高は 17cmである。断面は U字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

色 ローム粒子少量 1 褐

2 明 褐 色 ローム粒子中量

所見 時期は、重複関係から 16 世紀中葉には機能を終えたと考えられる。第 453 号溝と規模や形状が近似し ており、同じ時期に区画的な機能を有していたと想定される。



第 343 図 第 510 号溝跡跡実測図

第 511 号溝跡 (第 344 図)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区北部のM 4 h2 ~ N 4 b6 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第104 号堀に掘り込まれている。第6424·6425 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。 規模と形状 北西端部が調査区域外に延び、東端は第104号堀に掘り込まれているため、確認できた長さは 22.25 mである。N 4 b6 区から北西方向 (N - 42° - W) に直線的に延びている。上幅 1.05 ~ 1.78m, 下幅 0.74 ~ 0.94 m. 深さ60 ~ 72cmで、溝底は北端部が最も高く、南端との比高は12cmである。断面は逆台形で、 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

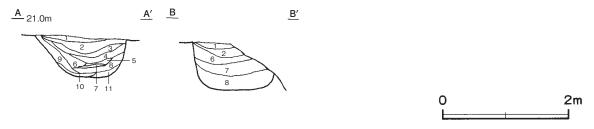
土層解説

- 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 色 ローム粒子中量 5 裾
- 裾 色 ロームブロック中量 6

- 7 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・ 炭化粒子微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 9 灰 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 10 暗
- 11 灰 褐 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 陶器片1点(甕)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、土器が細片のため明確ではないが、重複関係から 16 世紀後葉には機能を終えたものと考えら れる。性格は不明である。



第 344 図 第 511 号溝跡跡実測図

第 515 号溝跡 (第 345 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区北部のM 5 c2 ∼M 5 e2 区,標高 21 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第83号地下式坑、第443号溝跡を掘り込み、第6603号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延び、南部が第 6603 号土坑に掘り込まれているため、確認できた長さは 7.34 mで、N 5 e2 区から北方向 $(N-17^\circ-E)$ に直線的に延びている。上幅 $1.14\sim1.90$ m、下幅 $0.84\sim1.60$ m、深さ 72cmで、南北の比高は不明である。断面形は東部が調査区域外にあるため不明であるが、西壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

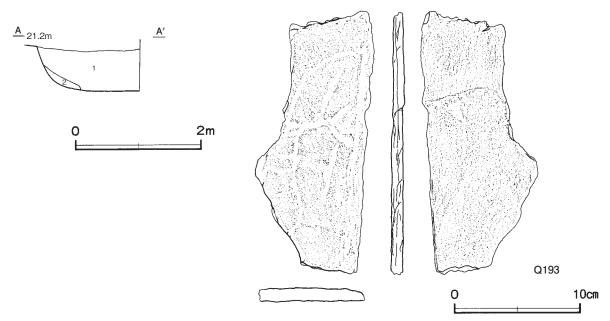
土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

2 明 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片 20 点 (小皿 4 , 内耳鍋 1 , 甕類 15), 陶器片 3 点 (碗, 擂鉢, 火鉢), 石製品 1 点 (板碑) が出土している。 Q 193 は覆土中から出土している。

所見 時期は,重複関係や出土土器から 16 世紀中葉には機能を終えたと考えられる。本跡の東には妙徳寺があり,寺域の西側を区画する溝の可能性がある。



第345 図 第515 号溝跡跡・出土遺物実測図

第515号溝跡出土遺物観察表(第345図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
Q 193	板碑	(24.9)	(9.5)	(1.1)	(301.3)	緑泥片岩	身部の破片 円相の一部が見られる 裏面は剥落が著しい	覆土中	

表 41 室町時代溝跡一覧表

番号	位置	方 向	平面形		規	模		断面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備考
宙力	一	<i>J</i> J I ^H J	十回ル	長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ(cm)		笙 田	復 丄	土な山上退初	加考
443	M 4a2~M 5d1	N - 72° - W	直線	(45.75)	1.28 ~ 1.68	0.20 ~ 0.70	61 ~ 75	逆台形	緩斜	人為	土師質土器片・陶器片・ 石製品・土製品	SI3031 · 3032 → 本跡→ SD515
444	M 4c2 ~ M 4e0	N - 80° - W	直線	(40.85)	0.68 ~ 1.48	0.25 ~ 0.70	15 ~ 54	U字状	緩斜	人為	土師質土器片・石製品	SI3032, SK6062 · 6352 → 本跡→ UP83 · 84, SD449 · 450
446	N 4d8 ~ N 4c0	N - 73° - E	直線	(13.20)	1.32 ~ 2.45	0.28 ~ 0.80	$52 \sim 65$	逆台形	緩斜	自然		SD510, SK6475 · 6477 · 6488 →本跡→第 104 号 堀跡 · SD452 · 503

番号	位 置	方 向	平面形		規	模		断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
笛写	7年 直	<i>Л</i> I ^{II}	十川形	長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ(cm)		生 田	復 工	土な山工退物	加一名
448	N 4 g3 ~ M 5 g 1	N - 84° - W	直線	(29.42)	(0.68 ~ 1.44)	0.12 ~ 0.92	$22\sim55$	U字状	緩斜	自然 人為	土師質土器片・陶器片・石 製品	SI3033 · SB543 → 本 跡 → SE226 · SB445 · 堀 104
449	M 4 d7 ~M 4 i7	N - 6° - E	直線	(20.26)	0.95 ~ 1.64	$0.50 \sim 0.85$	$25\sim68$	U字状	緩斜	人為	土師質土器片・陶器片	SB544·545, SD444·450, SA65→本跡→SD445
450	M 4 d7 ~ M 4 f7	N - 16° - E	直線	9.44	$0.56 \sim 1.35$	$0.35 \sim 0.80$	48	U字状	緩斜	自然	土師器片・須恵器片	SD444 · UP85 → 本跡→ SD449
451	M 4 d4 ~M 4 g4	N - 6° - W	直線	(9.58)	0.28 ~ 1.98	1.10 ~ 1.48	$15\sim20$	U字状	緩斜	自然	土師質土器片	本跡→SK6149
452	N 4 b8 ~ N 5 c1	N - 75° - W	直線	(12.6)	2.42 ~ 2.94	$0.70 \sim 0.92$	100 ~ 105	U字状	緩斜	自然 人為	土師質土器片・瓦質土器片・ 陶磁器片・石製品	SK6465 ~ 6467 · 6471 →本跡→SD503
453	M 4 i0 ~ N 4 b0	N - 8° - E	直線	(12.1)	0.20 ~ 1.30	$0.10 \sim 0.81$	10 ~ 18	(逆台形)	緩斜	自然		本 跡 → SK6132, SD452
499	O 4 i4 ~ O 4 i6	N - 100° - W	直線	(8.00)	$(0.50 \sim 1.60)$	(0.10 ~ 0.36)	$60 \sim 145$	U字状	緩斜	自然	土師質土器片・陶器片	本跡→SD498
507	O 4 f0 ~ O 5 f1	N - 11° - W	直線	(12.86)	$0.70 \sim 078$	$(0.30 \sim 0.50)$	56	U字状	緩斜	(人為)		本跡→ SD500
510	N 4 c0 ~ N 4 g9	N - 8° - E	直線	(15.42)	0.49 ~ 0.92	$0.40 \sim 0.72$	8~16	U字状	緩斜	人為		SK6605 → 本 跡 → SD446, SK6606
511	M 4 h2 ~ N 4 b6	N - 42° - W	直線	(22.25)	1.05 ~ 1.78	$0.74 \sim 0.94$	60 ~ 72	逆台形	緩斜	人為	陶器片	本跡→堀 104
515	M 5 c2 ~ M 5 e2	N - 17° - E	直線	(7.34)	1.14 ~ 1.90	$0.84 \sim 1.60$	72	_	緩斜	人為	土師質土器片・陶器片・板 碑	UP83·SD443 → 本跡→SK6603

(10) 柱穴列跡

第 59 号柱穴列跡 (第 346 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区中央部のM 4 i9 ∼M 4 j8 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第80号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 7.30 mの間にピット 5 か所を確認した。列方向はN-3°-Wで、柱間寸法は 2.0 mを基調としているが、P4とP5の柱間寸法は 1.2 m (4尺) である。

柱穴 平面形は楕円形で,長径 $42\sim74$ cm,短径 $34\sim58$ cmである。深さは $11\sim40$ cmである。第 $1\sim5$ 層は 柱抜き取り後の堆積層である。

土層解説(各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

4 褐 色 ロームブロック中量 5 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック微量

3 褐 色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片 5点(甕類)が出土している。

所見 時期は、伴う土器が出土していないため不明であるが、列方向が本跡の西側に位置する第 544 号掘立柱 建物跡の梁行方向とほぼ同じであることから、同時期の 15 世紀後葉から 16 世紀中葉と考えられ、これに付属 する塀などの施設が想定される。

第60号柱穴列跡(第346図)

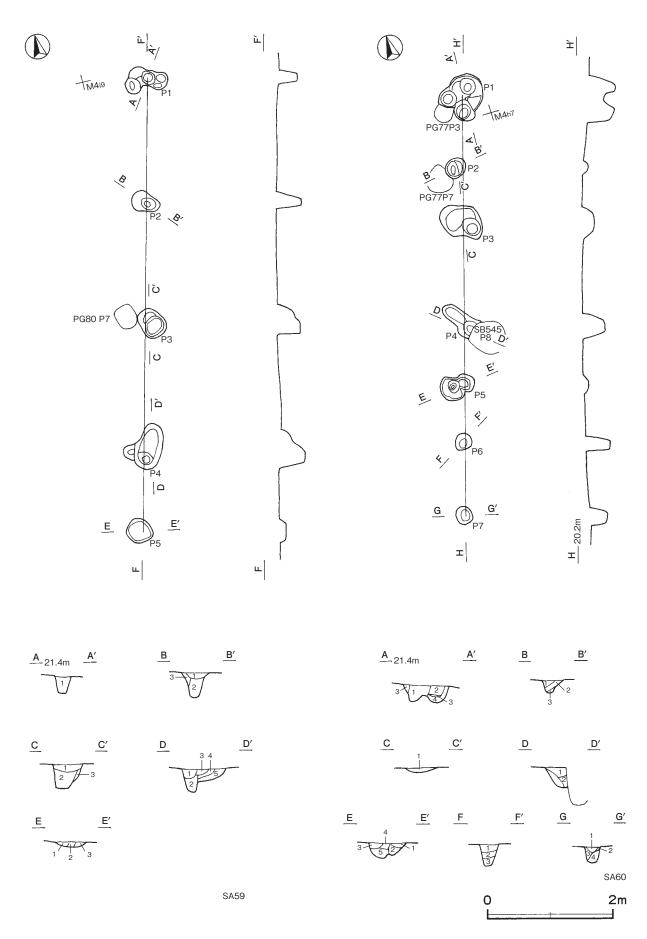
調査年度 平成 21 年度

位置 15 区中央部のM 4 g6 ∼M 4 i6 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第77号ピット群を掘り込み、第545号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 $6.40 \,\mathrm{m}$ の間にピット $7 \,\mathrm{m}$ が所を確認した。列方向はN $-3\,^\circ$ $-\mathrm{W}$ で、柱間寸法は北から $0.90 \,\mathrm{m}$ (3尺)、 $0.90 \,\mathrm{m}$ (3尺) (3尺) (3尺) (3尺) (3尺) (3尺) (3 尺) (3 Ր) (3

柱穴 平面形は円形または楕円形で,長径 $26\sim75$ cm,短径 $25\sim68$ cmである。深さは $12\sim38$ cmである。第 $1\sim6$ 層は柱抜き取り後の堆積層である。



第 346 図 第 59 · 60 号柱穴列跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

2 黒 褐 色 ローム粒子少量

3 暗 褐 色 ローム粒子中量

4 暗 褐 色 ローム粒子少量 5 黒 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)が出土している。

所見 時期は、伴う土器が出土していないため不明であるが、列方向が本跡の東側に位置する第 544 号掘立柱 建物跡の梁行方向とほぼ同じであることから、同時期の 15 世紀後葉から 16 世紀中葉と考えられ、これに付属 する塀などの施設が想定される。

第61号柱穴列跡(第347図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区中央部のM 4 h5 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6163・6164・6257 号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 4.10 mの間にピット 5 か所を確認した。列方向は $N-11^\circ-W$ で,柱間寸法は北から 1.16 m, 0.86 m, 0.95 m, 0.95 m とばらつきがある。

柱穴 平面形は楕円形で,長径 24 ~ 34cm,短径 18 ~ 27cmである。深さは 13 ~ 33cmである。第 1 ~ 3 層は 柱抜き取り後の堆積層である。

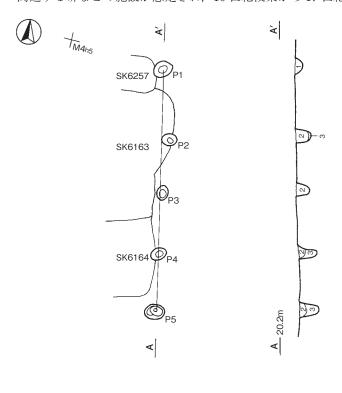
土層解説(各柱穴共通)

1 黒 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐 色 ロームブロック少量

2 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 3点(甕類)が出土している。

所見 時期は、伴う土器が出土していないため不明であるが、本跡の西側 1.2m に位置する第 226 号井戸跡に 関連する塀などの施設が想定され、16 世紀後葉から 17 世紀前葉と考えられる。





第347 図 第61 号柱穴列跡実測図

第65号柱穴列跡(第348図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区中央部のM 4 h7 ~ M 4 h9 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 544 · 545 号掘立柱建物, 第 449 号溝に掘り込まれている。

規模と構造 7.40 mの間にピット 7 か所を確認した。列方向はN - 73° - W で,柱間寸法は西から 1.0 m, 1.6 m, 1.4 m, 0.9 m(3 尺), 1.3 m, 1.2 m(4 尺)とばらつきがある。

柱穴 平面形は円形, 楕円形, 不整楕円形で, 長径 $30\sim90$ cm, 短径 $30\sim64$ cmである。深さは $8\sim50$ cmである。第 $1\sim6$ 層は柱抜き取り後の堆積層, 第 $7\cdot8$ 層は埋土である。 P $3\cdot$ P $4\cdot$ P 6 の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子少量

5 褐 色 ロームブロック少量

2 灰 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

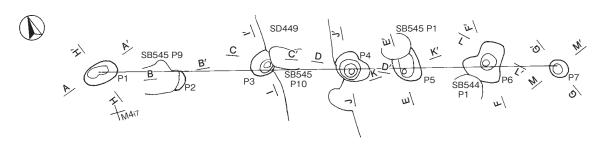
6 黒 褐 色 ロームブロック多量

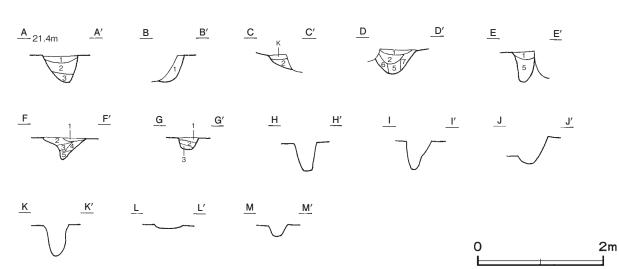
3 黒 褐 色 ロームブロック中量

7 極暗褐色 ロームブロック中量

4 褐 色 ローム粒子多量

所見 時期は、伴う土器が出土していないため不明であるが、列方向が本跡の南側に位置する第 544 号掘立柱 建物跡の桁行方向とほぼ同じであることから、これに付属する庇などの施設の可能性が想定され、同時期の 15 世紀後葉から 16 世紀中葉と考えられる。





第348 図 第65 号柱穴列跡実測図

表 42 室町時代の柱穴列跡一覧表

番号	位 置	列方向	長さ (m)	柱間(m)			柱 穴			備考
笛ケ	1元 匡	9177 PJ	KG (III)	生间(III)	柱穴数	平面形		短径 (cm)	深さ (cm)	7/H 45
59	M 4 i9 ~ M 4 j8	N - 3 ° - W	7.30	1.2 ~ 2.0	5	楕円形・不定楕 円形・不定形	42 ~ 74	34 ~ 58	11 ~ 40	PG80 新旧不明

番号	位 置	列方向	長さ (m)	柱間(m)			柱 穴			備考
宙ケ	□ □ □	9177 PJ		性間 (III)	柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	7/H 45
60	M 4 g6 ~ M 4 i6	N - 3 ° - W	6.40	0.9 ~ 1.6	7	円形・楕円形・不 定楕円形・不定形	$26 \sim 75$	$25 \sim 68$	12 ~ 38	PG77 →本跡→ SB545
61	M 4 h5	N - 11° - W	4.10	0.86 ~ 1.16	5	楕円形	24 ~ 34	18 ~ 27	13 ~ 33	SK6163 · 6164 · 6257 →本跡
65	M 4 h7 ~M 4 h9	N - 73° - W	7.40	$0.6 \sim 2.0$	7	円形・楕円 形・不定形	30 ~ 90	30 ~ 64	8 ~ 50	本跡→ SB544 · 545, SD449

4 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、井戸跡1基、土坑1基、溝跡3条、土塁1条を確認した。以下、遺構及び遺物について 記述する。

(1) 井戸跡

第 231 号井戸跡 (第 349 · 350 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の O 4 b0 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第500号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は、長径 1.70m、短径 1.54m の楕円形で、長径方向はN-16°-Wである。下位に行くに 従ってすぼまっている。0.92 mまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

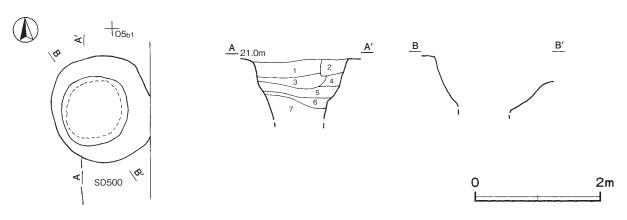
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 明 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 明 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 にぶい褐色 ローム粒子中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片4点(焙烙2,擂鉢2),陶器片6点(碗2,皿3,甕1),石製品1点(五輪塔) のほか、土師器片8点(甕類)が出土している。619~621は覆土上層からそれぞれ出土している。

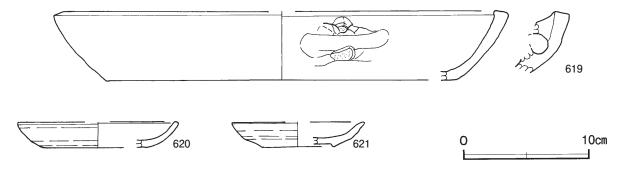
所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から 18 世紀中頃には廃絶したと考えられる。



第 349 図 第 231 号井戸跡実測図

第231号井戸跡出土遺物観察表(第350図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	手 法	の	特	と ほ	か	出土位置	備	考
619	土師質土器	焙烙	[34.2]	5.5	[28.0]	長石・7 雲母	5英・	灰褐	普通	口縁部外・内面横	ナデ	外面	煤付差	首	覆土上層	20%	



第350 図 第231 号井戸跡出土遺物実測図

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備考
620	陶器	Ш	[12.6]	2.0	[7.6]	長石・石英	灰黄	-	赤褐	瀬戸・美濃系	18 C中	覆土上層	20%
621	陶器	志野皿	[10.6]	2.0	[5.6]	長石	灰白	-	灰白	瀬戸・美濃系	17 C後	覆土上層	10%

(2) 土坑

第 6603 号土坑 (第 351 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区北部のM 5 f2 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号土塁, 第83号地下式坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外にあるため、南北軸は 5.38~mで、東西軸は 1.76m~ しか確認できなかった。南北軸方向は $N-15^\circ-E$ での長方形状を呈している。深さは 82cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

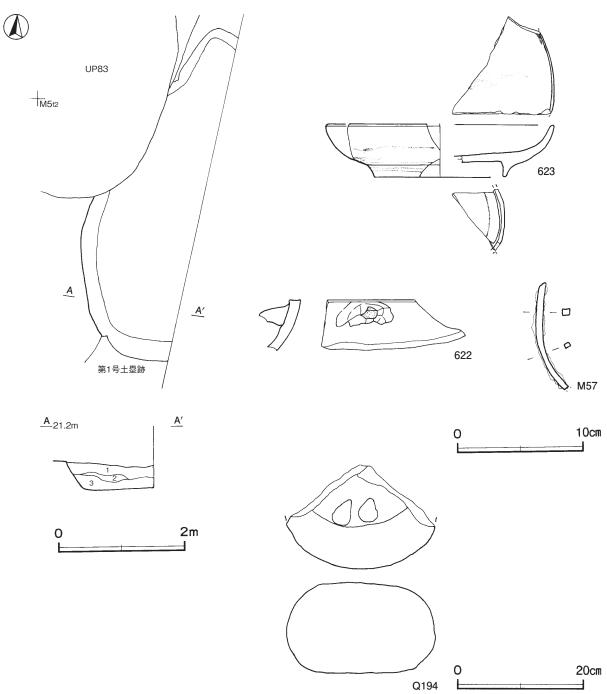
2 黒 褐 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 11 点 (焙烙), 陶器片 13 点 (碗 3, 甕類 10), 磁器片 6 点 (碗 4, 皿 2), 土製品 2 点 (五徳), 石製品 1 点 (五輪塔), 鉄製品 1 点 (釘), 瓦片 4 点のほか, 土師器片 7 点 (坏 1, 甕 6), 須恵器片 2 点 (甕類) が出土している。622・623・Q194・M57 は覆土中から出土している。

所見 時期は,出土土器や重複関係から17世紀代と考えられる。性格は不明である。

第6603号土坑出土遺物観察表(第351図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼成		手	法	の	特	徴	ほ	か	出土位置	備	考
622	土師質土器	焙烙	-	(4.1)	-	長石・石	英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外	・内	面横	ナデ					覆土中	5%	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調		絵 付	Ä	舳	色	Ē	Ĕ Þ	Ш	年 代	出土位置	備	考
623	磁器	Ш	[18.0]	4.2	[10.3]	緻密		明緑灰		絵付け		透明	1		肥前		17 C代	覆土中	20%	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質				特		徤	ά				出土位置	備	考
Q 194	五輪塔	(16.8)	(23.8)	14.4	(8,200)	花椒	崗岩	水輪 1/4	残存									覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質				特		徎	ά				出土位置	備	考
M57	釘	(8.5)	0.7	0.6	(9.74)	ŝ	失	断面方形	中央	から先端	にか	け屈	曲					覆土中	PL92	



第351 図 第6603 号土坑・出土遺物実測図

(3) 溝跡

第 445 号溝跡 (第 352 · 353 図)

調査年度 平成 20・21 年度

位置 15 区北部の M 4 g3 ∼ M 5 i2 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3033 号竪穴建物跡, 第 543 号掘立柱建物跡, 第 6291・6295・6623 号土坑, 第 448・449・451・503 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東・西両端部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは $35.92~\mathrm{m}$ で、M $4~\mathrm{g}$ 3 区から東方向(N $-~84^\circ$ $-~\mathrm{W}$)に直線的に延びている。上幅 $0.74\sim1.94\mathrm{m}$ 、下幅 $0.20\sim0.70~\mathrm{m}$ 、深さ $61\sim94\mathrm{cm}$ である。

溝底は平坦で,東西の底面の比高はほとんどない。断面は逆台形で,壁は外傾し立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

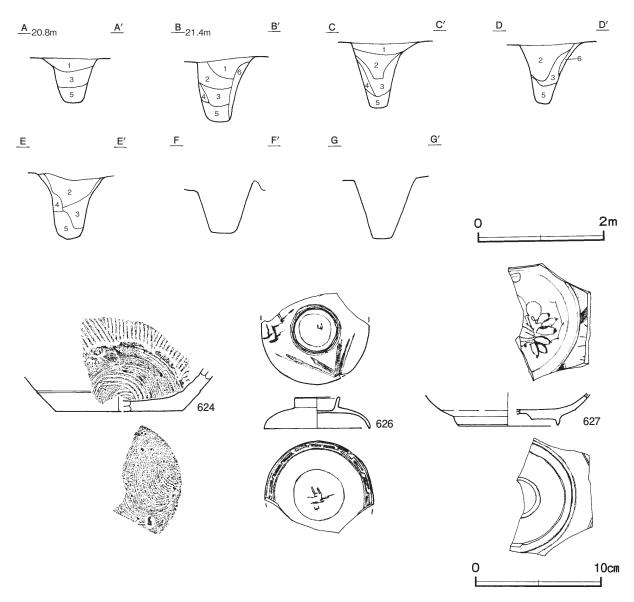
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 炭化粒 3 暗 褐 色 ローム粒子少量 子微量 4 褐 色 ロームブロック中量

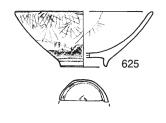
2 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量, 焼 5 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック・炭化粒 土粒子・炭化粒子微量 子微量

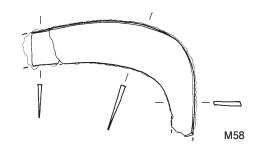
遺物出土状況 陶器片 15 点 (皿1, 碗類 11, 擂鉢1, 香炉1, 急須1), 磁器片 21 点 (碗類 18, 蓋1, 猪口1, 皿1), 土製品 1点 (五徳), 石器 2点 (砥石), 鉄器 2点 (鎌), 鉄製品 5点 (釘4, 不明1), 瓦片 2点のほか, 土師器片 22点 (坏7, 甕 15), 須恵器片 5点 (甕類), 土師質土器片 28点 (小皿3, 焙烙 23, 擂鉢1, 火鉢1), 陶器片 3点 (天目茶碗 2, 甕1), 石製品 4点 (五輪塔) が出土している。626 は西部の覆土下層, M 58 は東部の覆土下層, 625・627 は中央部の覆土中層, 624 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 18 世紀前葉に廃絶したと考えられる。現在の地籍図の筆境と位置がほぼ一致していることから、近世以降の区画溝の可能性が考えられる。



第352 図 第445 号溝跡・出土遺物実測図







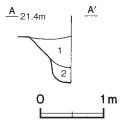
第353図 第445号溝跡出土遺物実測図

第 445 号溝跡出土遺物観察表 (第 352·353 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備考
624	陶器	擂鉢	-	(3.4)	[10.0]	長石・石英・細礫	浅黄橙	-	にぶい赤褐	瀬戸・美濃	17 C後	覆土上層	10% PL107
625	磁器	碗	[10.8]	4.4	[3.6]	緻密	灰白	染付	透明	肥前	18 C前	覆土中層	30%
626	磁器	蓋	8.5	2.5	3.5	緻密	灰白	染付	透明	肥前	17 C後	覆土下層	70% PL108
627	磁器	Ш	-	(2.6)	[7.8]	緻密	灰白	染付	透明	肥前	18 C前	覆土中層	40% PL108

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徵	出土位置	備考
M58	鎌	(13.8)	3.7	0.3 ~ 0.4	(71.7)	鉄	両端部欠損 刃部から基部にかけ屈曲 断面三角形	東部覆土下層	PL91

第 503 号溝跡 (第 354 · 355 図)



第354図

第503号溝跡実測図

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区北部の M 5 g2 \sim N 5 h1 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6132 号土坑, 第 512 号溝跡を掘り込み, 第 445 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは $43.48 \,\mathrm{m}$ で、N $5 \,\mathrm{h1}$ 区から北東方向(N -15° - E)に直線的に延びている。東壁が調査区域外に位置しているため、上幅は $2.52 \,\mathrm{m}$ ほどで、下幅 は $\sim 0.28 \,\mathrm{m}$ しか確認できなかった。深さ $74 \,\mathrm{cm}$ 、断面は U 字状で、壁は底面から直立し、中位で外傾しながら立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

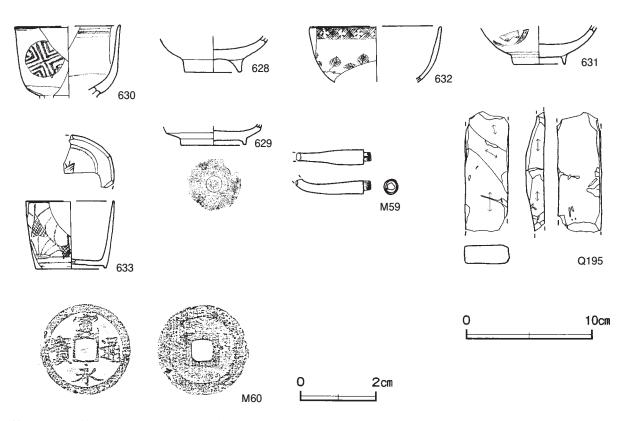
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 極暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片 41 点 (焙烙 31, 擂鉢 6, 火鉢 3, 甕類 1), 陶器片 18 点 (碗類 7, 皿 7, 擂鉢 4), 磁器片 10 点 (碗類 7, 猪口 2, 皿 1), 石器 3 点 (砥石), 石製品 4 点 (五輪塔), 銭貨 1 点 (寛永通寳), 銅製品 1 点 (煙管), 瓦片 10 点 (平瓦) のほか, 土師器片 6 点 (坏 4, 甕 2), 須恵器片 5 点 (甕類) が出土している。630・632・M 60 は覆土下層, 628・629・631・633・M 59 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から18世紀後葉以降に廃絶したと考えられる。本跡の東には妙徳寺があり、 寺域の西側を区画する溝の可能性がある。



第355 図 第503 号溝跡・出土遺物実測図

第503号溝跡出土遺物観察表(第355図)

														_	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考
628	陶器	碗	-	(2.8)	4.4	長石		浅黄	-	淡黄	唐津	17 C後	覆土中	30%	
629	陶器	Ш	-	(1.6)	5.2	長石		にぶい黄橙	<u>.</u> –	浅黄	瀬戸・美濃	17 C後	覆土中	60%	
630	磁器	小坏	[8.4]	(5.8)	_	緻密		灰白	染付	透明	肥前	18 C後	覆土下層	10%	PL108
631	磁器	碗	-	(3.1)	4.0	緻密		明緑灰	染付	透明	肥前	18 C前	覆土中	40%	
632	磁器	碗	[10.4]	(4.4)	_	緻密		灰白	染付	透明	肥前	18 C後	覆土下層	10%	PL108
633	磁器	猪口	[6.8]	5.4	5.4	緻密		灰白	染付	透明	肥前	18 C後	覆土中	20%	PL108
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特徵	t		出土位置	備	考
Q 195	砥石	(9.5)	(3.5)	(1.5)	(80.8)	安山岩	岩	砥面5面					覆土中	PL88	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質			特 徵	t		出土位置	備	考
M59	煙管	(6.0)	1.2	1.2	9.40	銅		雁首部 外	面緑青 内羅	宇残存 火皿	部欠損		覆土中	PL92	
								,							
番号	銭 種	径	厚さ	孔径	重量	材質	初] 鋳 年		特	徴		出土位置	備	考
M60	寛永通寳	2.5	1.2	0.5	2.96	銅	1	636年 2	電永 無背				覆土下層	PL92	

第 513 号溝跡 (第 356 図)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の○3b0~○4i4区、標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第234·235 号井戸跡, 第104 号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南・北両端部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは33.5 mで、04i4区から北西

方向($N-25^\circ-W$)に直線的に延び、O4f1区で北方向($N-10^\circ-W$)に屈曲して延びている。上幅 0.50 ~ 1.12 m,下幅 $0.10 \sim 0.54$ m,深さ $14 \sim 40$ cmで,溝底は南部が最も高く,北部との比高は 30cmで,北部に向かって傾斜している。断面は逆台形とU字状で,壁は緩やかに立ち上がっている。

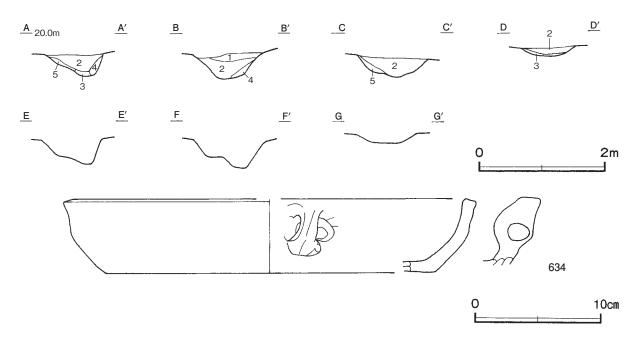
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が多いことから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量 4 暗 褐 色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 白色粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 5 暗 褐 色 白色粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 9 点(焙烙 8 , 甕類 1)が出土している。634 は覆土中から出土している。

所見 時期は、調査前は一部が水路として利用されていたことや、出土土器、重複関係から 18 世紀前葉以前から現在まで継続していたと考えられる。



第356 図 第513 号溝跡·出土遺物実測図

第513号溝跡出土遺物観察表(第356図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色	調	焼成		手	法	0)	特	徴	ほ	か	出土位置	備	考
634	土師質土器	焙烙	[32.9]	5.9	[26.2]	長石·石 雲母·砂	英・ 粒	暗赤	褐	普通	体部外・	内面	ナデ	,					覆土中	30% 外面煤	付着

表 43 江戸時代溝跡一覧表

番号	位 置	方 向	平面形		規	模		断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
宙力	12. 匡	<i>//</i> III	十回ル	長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ(cm)		室 回	復 丄		加持
445	M 4 g3 ∼ M 5 i2	N - 84° - W	直線	(35.92)	0.74 ~ 1.94	0.20 ~ 0.70	$61 \sim 94$	逆台形	外傾	人為	陶磁器片, 土製品, 石器, 鉄製品	SI3033 · SB544 → 本跡
503	M 5 g2 ∼ N 5 h1	N - 15° - E	直線	(43.48)	2.52	(0.28)	74	U字状	直立 外傾	人為	陶磁器片,石器,銭貨,銅製品	SK6132, SD445 →本跡
513	O 3 b0 ~ O 4 i4	N - 25° - W N - 10° - W	直線 屈曲	(33.5)	0.50 ~ 1.12	0.10 ~ 0.54	$14 \sim 40$	逆台形 U字状	緩斜	人為	土師質土器片	SK234·235, 第 104号堀跡→本跡

(4) 土塁跡

今回の調査で土塁1条を確認した。東西両側に位置する第500・512 号溝は、土塁構築時に掘り込まれ たと考えられることから、土塁の付帯施設として扱うこととした。

第1号土塁跡 (第357·358 図)

色 ロームブロック少量

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南東部から東部のM 5 a3 ~ 0 5 h4 区. 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 507 号溝跡、第 6603・6623 号土坑を掘り込み、第 231 号井戸、第 6132 号土坑、第 503 号溝に掘 り込まれている。

規模と構造 北部が調査区域外へ延びており、確認できた長さは110mで、O5h4区から西方向(N-90°-W) に直線的に延び、O5i5区で北方向に直角に屈曲し、北東方向(N-10°-E)へ緩やかに彎曲しながら延び ている。規模は上幅 0.45 ~ 10.8 m. 下幅 2.4 m~ 13.5 mで、地山からの残存高は 0.06 ~ 0.84m である。残存 状態が良好な部分から、断面はほぼ台形と推定される。トレンチ調査の結果、A~Cトレンチ、Fトレンチ で土塁の基部を確認した。構築当時と現存する土塁との規模や形状などは異なっている。

覆土 28 層に分層できる。第 1 ~ 8 層は流出土,第 9 · 10 層は第 512 号溝,第 11 · 12 層は第 501 号溝,第 13·14 層は第6544 号土坑, 第15~20 層は第500 号溝のそれぞれの埋土, 第21~28 層は土塁の構築土である。

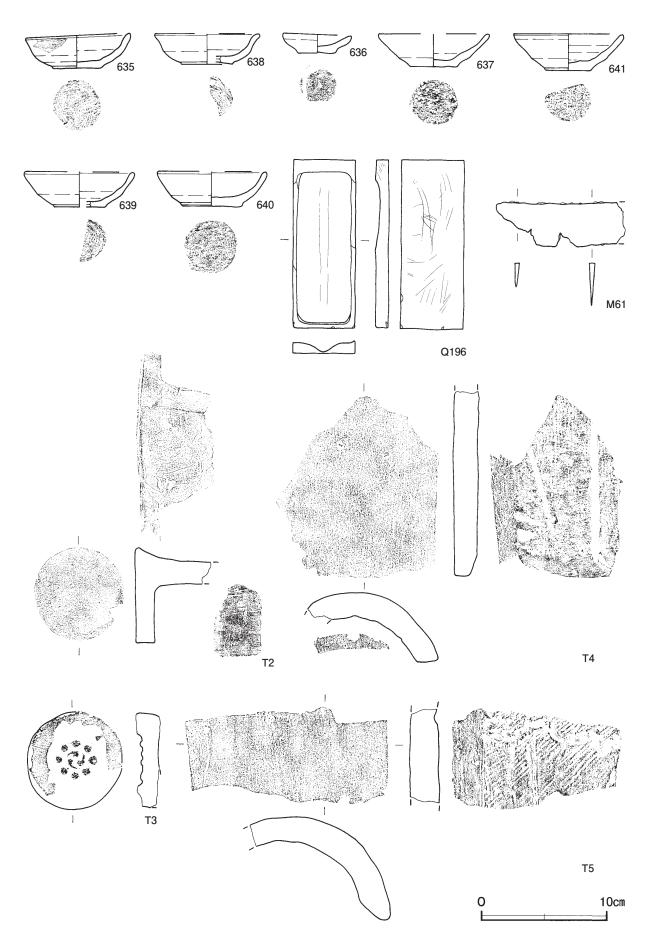
十層解説

14 裾

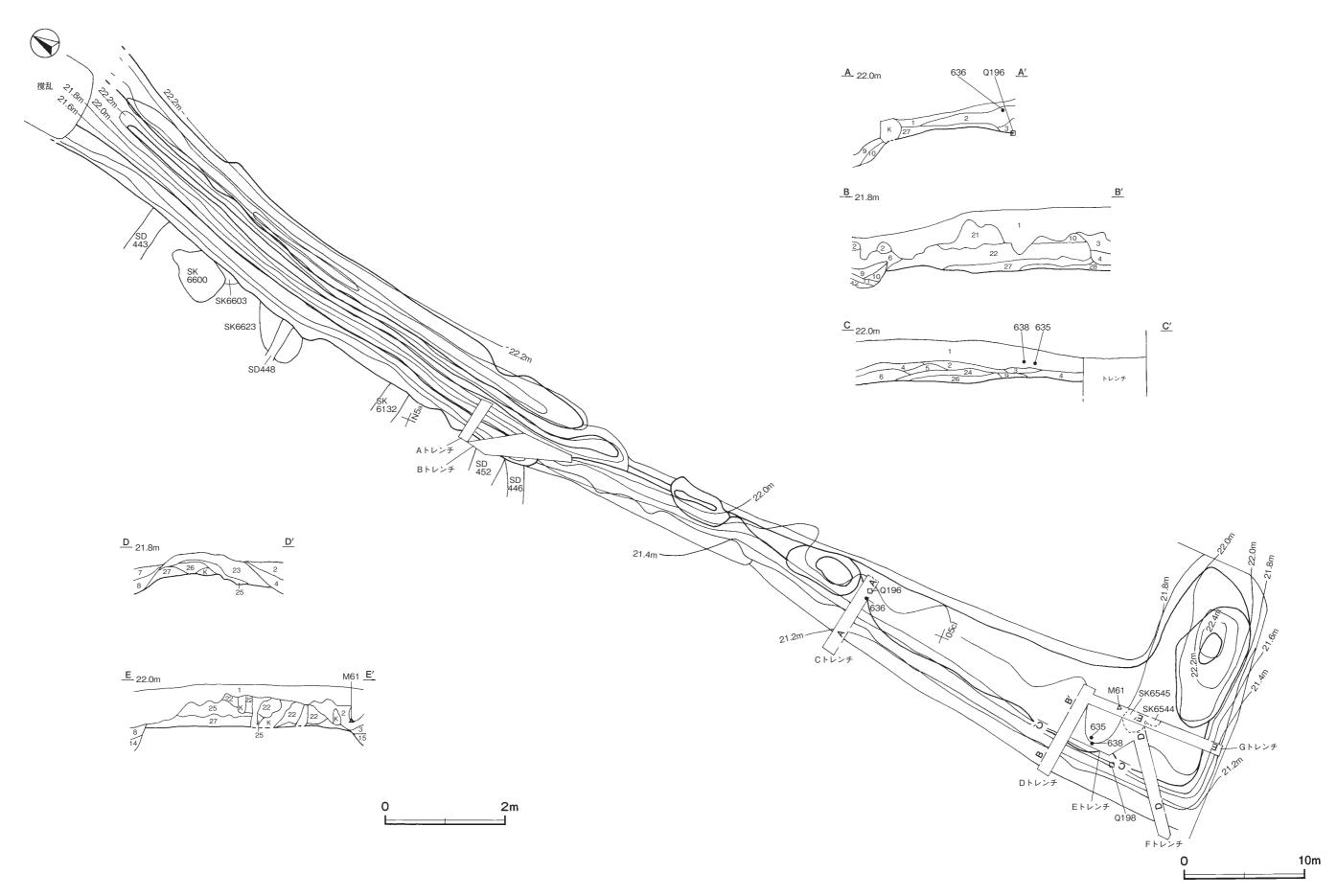
1 暗 褐 色 ロームブロック中量 15 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量 16 暗 褐 色 ローム粒子少量 黒 褐 色 ロームブロック中量 17 暗 褐 色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 黒色粒子少量 18 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量 5 黒 褐 色 ロームブロック微量,炭化物微量 19 暗 褐 色 白色粘土ブロック少量 6 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・ 20 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 炭化粒子微量 21 暗 褐 色 ローム粒子多量 7 暗 褐 色 ロームブロック少量(粘性弱い) 22 暗 褐 色 ロームブロック中量(粘性・締まり強い) 8 黒 褐 色 ローム粒子少量 23 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 9 黒 褐 色 ロームブロック少量 24 暗 褐 色 ロームブロック中量, 黒色粒子少量 10 暗 褐 色 赤色粘土ブロック中量、ロームブロック微量 25 褐 色 ロームブロック中量 11 暗 褐 色 ロームブロック少量 26 黒 褐 色 ロームブロック少量, 黒色粒子少量 12 黒 褐 色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック・鉄分微量 27 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量 13 極 暗 褐 色 ロームブロック中量 28 にぶい黄橙色 ロームブロック・粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片 162 点(小皿 32,内耳鍋 121,擂鉢 9),瓦質土器片 1 点(鉢類),陶器片 69 点 (碗 16, 蓋 3, 皿 5, 行平鍋 2, 鉢 1, 擂鉢 8, 火鉢 1, 香炉 2, 壺 14, 甕 16, 土瓶 1), 磁器片 34点(碗 21、猪口4、皿4、香炉2、水滴3)、土製品4点(五徳)、石器11点(磨石2、石臼6、砥石3)、石製品 10点(硯3. 五輪塔5. 石碑2). 鉄器1点(包丁). 鉄製品1点(不明). ガラス製品4点(瓶3. 遊具1). 瓦片 4 点(軒瓦 1 , 練込瓦 1 , 丸瓦 2) のほか, 土師器片 28 点(坏 5 , 甕 22 , 甑 1) , 須恵器片 17 点(坏 1 , 壺1. 甕15) が出土している。635・638 は南部の構築土、639・T5はAトレンチ、637はBトレンチ、636・ Q 196 はCトレンチ, 640・641・T2・T3はDトレンチ, T4はFトレンチ, M61 はGトレンチから出土 している。

所見 時期は、土塁の付帯施設と考えられる第 500·512 号溝から出土した土器から、18 世紀には溝が埋めら れ、防御施設の役割を終えたと考えられる。土塁は第512号溝に沿って延びていくと想定され、南辺は東側に 位置する妙徳寺の方向へ延びていくことから関連が想定される。



第357図 第1号土塁出土遺物実測図



第358図 第1号土塁跡実測図

第1号土塁跡出土遺物観察表(第357図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎士	-	色調	焼成	支 手	法の	特	徴	ほか		出土位置	備	考
635	土師質土器	小皿	8.3	2.8	3.8	長石・石英・	雲母	橙	普通	ロクロナデ 内底面仕上げ		伝糸切	り後/	ヘラナテ	2	Eトレンチ	100%	PL85
636	土師質土器	小皿	5.4	1.6	2.9	長石·石英·雪 赤色粒子	雲母・	橙	普通	ロクロナデ 内底面仕上げ		伝糸切	り後~	ヘラナテ	2	Cトレンチ	90%	PL86
637	土師質土器	小皿	[8.8]	2.6	3.7	長石·石英·雪 赤色粒子	雲母・	浅黄橙	普通	ロクロナデ 内底面周縁部	底部回軸 凹み 亻	転糸切 仕上げ	り後′ ナデ	ヘラナテ	2	Bトレンチ	50%	
638	土師質土器	小皿	[8.2]	2.4	[4.0]	長石・石英・	雲母	橙	普通	ロクロナデ 内底面仕上げ		伝糸切	り後~	ヘラナテ	2	Eトレンチ	40%	
639	土師質土器	小皿	[8.6]	2.8	[4.0]	長石·石英·雪 赤色粒子	雲母・	橙	普通		ロクロ	日内	底面位	生上げナ	・デ	Aトレンチ	40%	
640	土師質土器	小皿	[8.6]	2.8	4.4	長石・石英・	雲母	浅黄橙	普通	内底囬同称前	凹み 付	土上げ	ナデ		2	Dトレンチ	40%	
641	土師質土器	小皿	[8.4]	2.9	3.6	長石・石英・	雲母	にぶい村	登普通	重ロクロナデ 底・体部内面	底部回軸 ロクロ	転糸切 目 内	り後 底面(ナデ 生上げナ	・デ	Dトレンチ	20%	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	E			特		数				出土位置	備	考
Q 196	硯	13.4	5.0	1.1	(122.5)	粘板岩		硯堂に凹みあり・硯面一部破損 硯背に刻書 硯背にも刻書						Cトレンチ	PL88			
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	E			特	í	数				出土位置	備	考
Q 197	五輪塔	24.6	17.6	18.2	(14,400)	花崗岩		空風輪	一部位	傷あり 底面ノ	ミ状工具	具痕				Dトレンチ		
Q 198	五輪塔	21.6	24.0	12.2	10,800	花崗岩		火輪 車	F先一i	部外反 上面ノ	ミ状工具	具痕				南部盛土中		
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	Ŧ			特	í	数				出土位置	備	考
M61	包丁	(10.1)	3.3	$0.3 \sim 0.4$	(30.8)	鉄		断面三角	角形 二	刃部一部欠損						Gトレンチ	PL91	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土		色 調	焼成		特		徴			出土位置	備	考
T2	軒瓦	(6.1)	7.7	-	(217.6)	長石・石英		灰	普通	右部 垂れ部分	火損					Dトレンチ		
Т3	棟込瓦	1.9	7.6	-	97.7	長石・石英		灰	普通	外径 7.6cm 内	径 4.5cm	中央	とに三	巴文・	文殊	Dトレンチ	PL94	
T4	丸瓦	(15.1)	(10.4)	2.1	(373.2)	長石・石英		灰	普通	内面に工具痕						Fトレンチ		
Т5	丸瓦	(8.2)	(11.2)	2.4	(354.6)	長石・石英・	雲母	灰白	普通	凸面ヘラ削り	凹面布	目痕				Aトレンチ		

第 **500 号溝跡** (第 359 ~ 361 図·付図 3)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の ○ 4 b0 ~ ○ 5 g0 区,標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 507 号溝跡を掘り込み、第 231 号井戸、第 6545 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北端部が第 231 号井戸に掘り込まれているため、確認できた長さは 21.5 mで、O 5 g0 区から北方向(N - 11° - E)に直線的に延びている。上幅 $1.52\sim1.66$ m、下幅 $0.18\sim0.36$ m、深さ 103cm、溝底は平坦である。断面は U字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層に分層できる。ロームや粘土のブロックが含まれている層が多いことから埋め戻されている。

十層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量

6 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

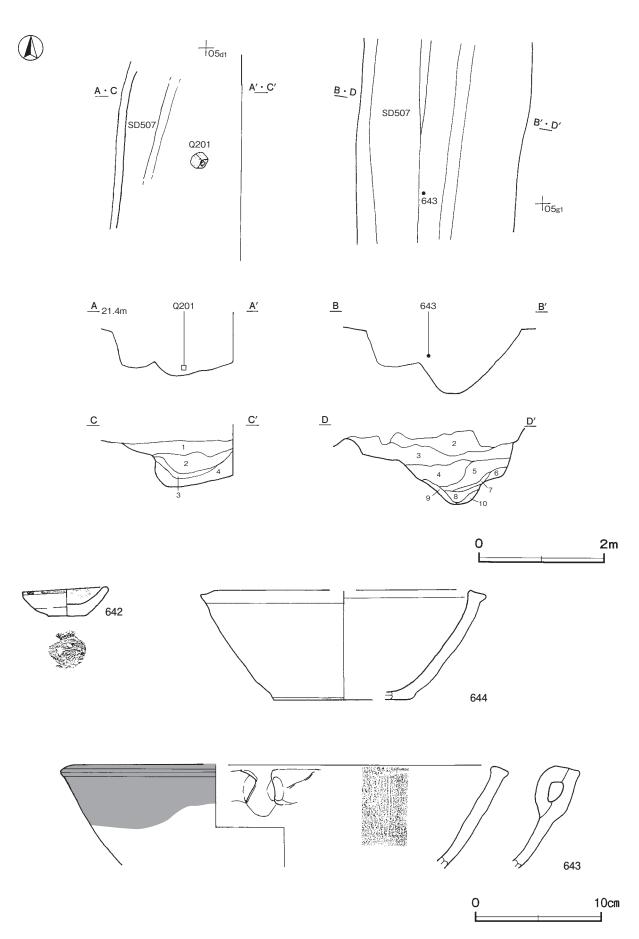
2 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量 7 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量

暗 褐 色 ロームブロック中量 8 赤 褐 色 鉄分多量

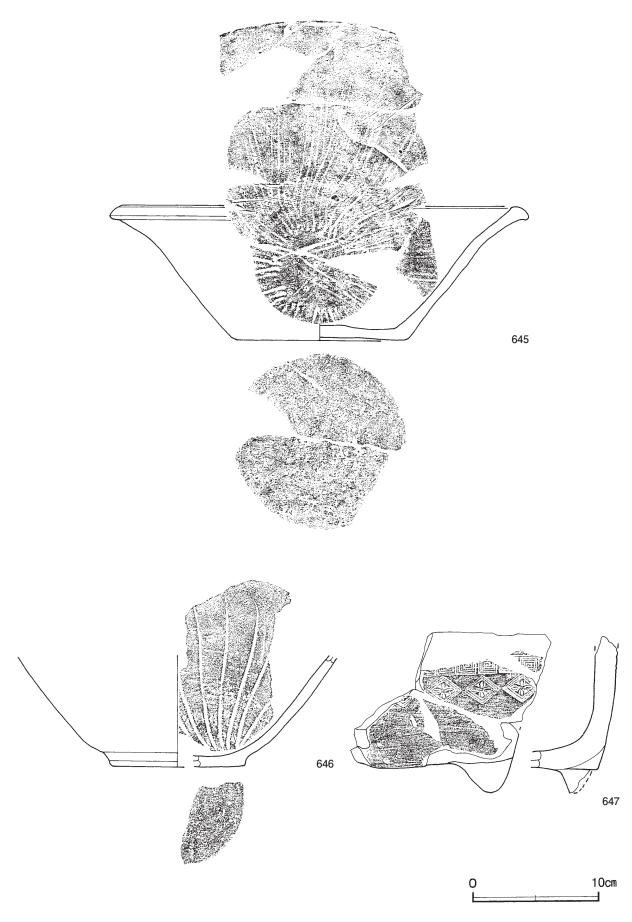
4 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量 9 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

5 灰 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量 10 にぶい褐色 粘土粒子中量

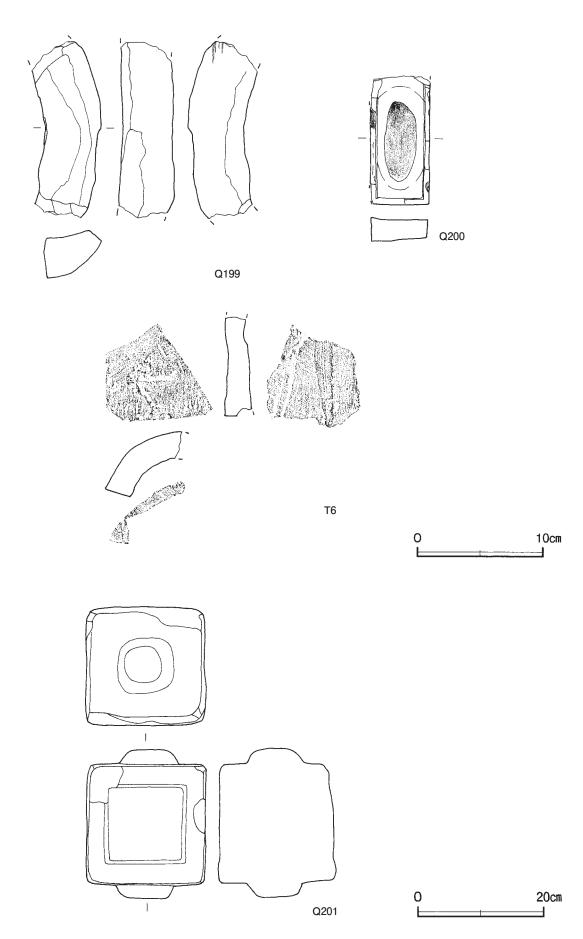
遺物出土状況 土師質土器片 93 点 (小皿 18, 擂鉢 18, 火鉢 1, 内耳鍋 23, 焙烙 2, 甕 31), 瓦質土器片 1 点 (甕類), 陶器片 3 点 (皿 1, 甕 2), 磁器片 2 点 (皿), 石器 3 点 (茶臼 1, 砥石 2), 石製品 9 点 (硯 1, 宝篋印塔 1, 不明 7), 瓦片 3 点 (丸瓦) のほか, 須恵器片 1 点 (甕) が出土している。Q 201 は北部の 643 は南部の覆土下層から, Q199 は覆土中層から, 642·644 ~ 647·Q200·T 6 は覆土中からそれぞれ出土している。所見 時期は, 出土土器から 17 世紀後葉には機能を終えたと考えられる。第 512 号溝とほぼ平行して延びていることから, 同時期に機能していたものと考えられるが, 廃絶には時期差がある。



第359 図 第500 号溝跡・出土遺物実測図



第 360 図 第 500 号溝跡出土遺物実測図 (1)



第 361 図 第 500 号溝跡出土遺物実測図 (2)

第 500 号溝跡出土遺物観察表 (第 359 ~ 361 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	<u>*</u>
642	土師質土器	小皿	6.7	2.3	3.0	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土中	95% PL	_85
643	土師質土器	内耳鍋	[34.6]	(18.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい権	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内面へラ削り痕	南部下層	40% PL 外面煤付	
644	土師質土器	鍋	[20.4]	8.7	[0.8]	長石・石英・雲母	にぶい赤衫	8 普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	20%	
645	土師質土器	擂鉢	[31.4]	10.7	14.2	長石·石英·雲母· 赤色粒子	橙	普通	4条1単位の擂り目 口縁部外・内面横ナデ 底部ヘラ削り	覆土中	40% PL	_85
646	土師質土器	擂鉢	-	(9.0)		長石・石英・雲母	橙	普通	7条以上の擂り目 底部ヘラ削り	覆土中	20%	
647	土師質土器	火鉢	-	(12.8)	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	にぶい権	普通	体部上位雷文・花菱文スタンプの連続押捺	覆土中	20% PL	L85
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材 質			特 徵	出土位置	備考	李
Q 199	石臼	[14.0]	-	(4.5)	(326.8)	安山岩	下臼片			覆土中層		
												=
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特 徴	出土位置	備考	\$
Q 200	硯	(10.2)	4.7	(1.9)	(165.5)	粘板岩	海部破損	祖 視 [京 朝 離	覆土中	PL88	
Q 201	宝篋印塔	19.1	19.3	23.8	15,400	花崗岩	塔身 上	面底面	「に突起あり 角3か所破損	北部下層	PL90	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色 調	焼成	特	出土位置	備考	李
Т6	丸瓦	(8.3)	(6.2)	2.2	(150.5)	長石・石英・ 赤色粒子	黒褐	普通	凹面布目痕 凸面ヘラ削り 側面ヘラ削り	覆土中	PL94	

第 512 号溝跡 (第 362 · 363 図 · 付図 3)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区南部の N 4 h0 ~ ○ 4 i9区,標高 21 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第503号溝に掘り込まれている。

規模と形状 溝の北端が第 503 号溝に掘り込まれ、南端が調査区域外に延びているため、確認できた長さは $42.8\,\mathrm{m}$ で、 $0.4\,\mathrm{i}$ 9 区から北方向($N-19^\circ-\mathrm{E}$)に直線的に延びている。上幅 $1.50\sim3.50\mathrm{m}$ 、下幅 $0.04\sim0.32\,\mathrm{m}$ 、深さ $76\sim82\mathrm{cm}$ で、溝底は北端が最も高く、南端との比高は $44\mathrm{cm}$ である。断面形は U字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。土層断面の観察から 3 期に分かれる。各時期の規模は、 I 期の溝は、 I 期の溝に掘り返されているため、中央部の底部と壁の立ち上がりの一部しか確認できなかった。確認できた上幅は $0.90\sim1.21\,\mathrm{m}$ 、下幅は $20\mathrm{cm}$ 、深さは $80\mathrm{cm}$ である。断面は U字状で壁は緩やかに立ち上がっている。 I1 期の溝は、 I1 期の溝に掘り返されているため、底部と壁の立ち上がりしか確認できなかった。確認できた上幅は $1.41\sim1.84\mathrm{m}$ 、下幅は $10\sim50\mathrm{cm}$ 、深さ $10\sim50\mathrm{cm}$ 深さ $10\sim50\mathrm{cm}$ 不同 $10\sim50\mathrm{cm}$ 不同 $10\sim50\mathrm{cm}$ 不同 $10\sim50\mathrm{cm}$ 不同 $10\sim50\mathrm{cm}$ 不可 $10\sim50\mathrm{cm}$ 不可

覆土 10 層に分層できる。第1層から4層はⅢ期,第6から9層はⅡ期,第10層はⅠ期の覆土である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量

3 灰黄褐色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量

4 暗 褐 色 ローム粒子・鉄分少量

5 褐 色 白色粘土ブロック少量

6 にぶい褐色 ローム粒子中量, 白色粘土ブロック少量

7 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量

8 灰 褐 色 鉄分多量

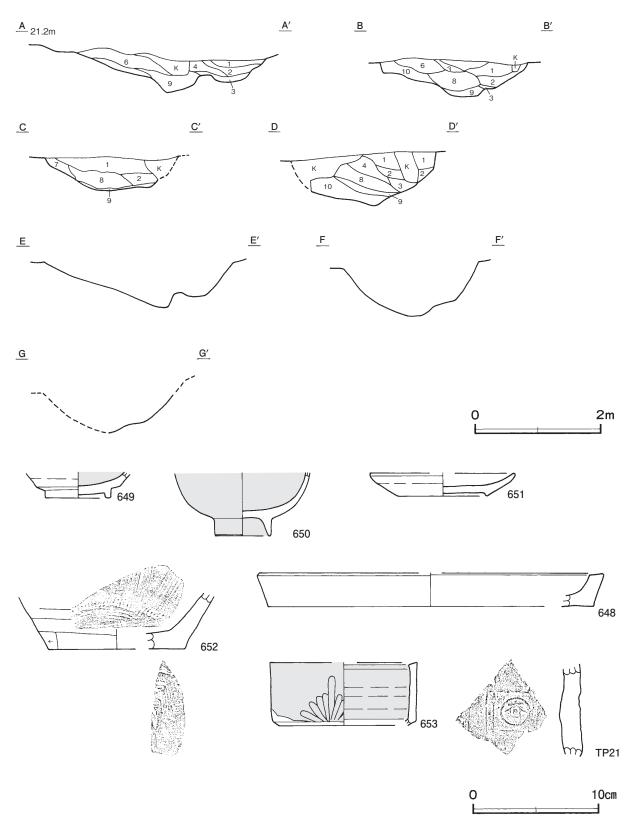
9 灰 褐 色 白色粘土ブロック少量

10 灰 褐 色 白色粘土ブロック少量, 鉄分多量

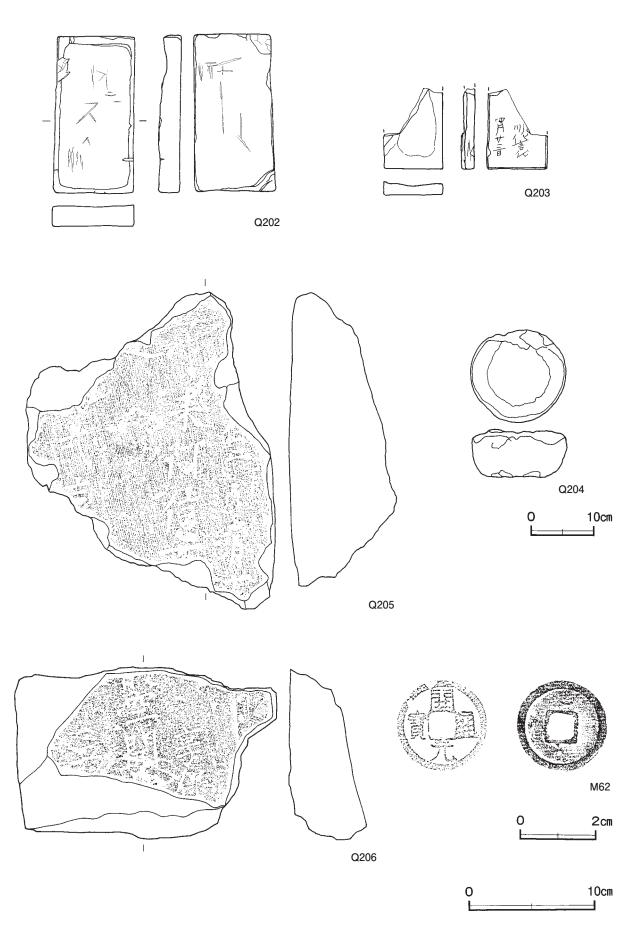
遺物出土状況 土師質土器片 86 点 (小皿 11, 内耳鍋 60, 焙烙 1, 擂鉢 14), 陶器片 58 点 (碗 27, 皿 3, 擂鉢 9, 香炉 3, 壺 4, 甕 12), 磁器片 31 点 (碗 30, 蓋 1), 土製品 2点 (五徳), 石器 1点 (茶臼), 石製品 5点 (五輪塔 1, 石碑 2, 硯 1), 瓦片 1点, 銭貨 1点 (開元通寶) のほか, 土師器片 17点 (坏 2, 高坏 1, 甕 13, 壺 1), 須恵器片 22点 (蓋 2, 甕 20) が出土している。Q 204・M 62 は中央部の, Q 202・Q 203 は南部の覆土上層,

652 · Q205 · Q206 は中央部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 18 世紀前葉には機能を終えたと考えられる。本跡の東に位置する第 500 号溝とほぼ平行して延びていることから、同時期に機能していたものと考えられるが、廃絶には時期差がある。



第 362 図 第 512 号溝跡·出土遺物実測図 (1)



第 363 図 第 512 号溝跡・出土遺物実測図 (2)

第 512 号溝跡出土遺物観察表 (第 362·363 図)

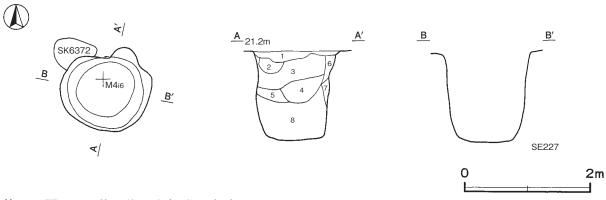
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎士	Ŀ.	色 調	焼成		手法の	特徴ほ	か	出土位置	備	考
648	土師質土器	焙烙	[27.4]	2.6	[26.0]	長石・石英・3 砂粒	雲母・	橙	普通	体部外·	内面ナデ			南部下層	10%	
										,						
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎士	i.	色調		絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考
649	陶器	天目茶碗	_	(2.1)	5.3	長石・石英		灰白		_	黒褐	瀬戸・美濃	17 C後	中央部上層	20%	
650	陶器	碗	_	(5.0)	4.3	長石		にぶい黄	橙	_	浅黄	唐津	17 C後	南部下層	40%	
651	陶器	Ш	[11.5]	1.8	[7.0]	長石・石英		黄灰		-	灰白	瀬戸・美濃	17 C後	南部下層	30%	
652	陶器	擂鉢	-	(4.2)	[11.0]	長石		浅黄橙 - 暗赤褐 瀬戸·美濃 17 C代 F					中央部覆土中	20%		
653	陶器	香炉	[11.8]	(4.7)	[11.4]	長石・石英							南部下層	30%	PL107	
番号	種 別	器種	J.	胎 土		色 誰	司			文 様	の特徴	ほか		出土位置	備	考
TP21	陶器	甕	長石・石	万英		褐灰		縦二重横-	一汁方	形枠内丸	囲み文字「杏			南部下層		
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	Ĩ				特 徴			出土位置	備	考
Q 202	硯	(10.2)	4.7	(1.9)	(165.5)	粘板岩		硯池・硯i 硯背にも	面一部 刻書	破損 墨	堂から墨池に	:かけ「ス」 <i>た</i>	よどの刻書	南部上層	PL88	
Q 203	硯	(6.4)	4.7	(1.1)	(41.9)	粘板岩		硯堂剥離	硯背	に「四月	廿三日」など	の刻書		南部上層	PL88	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	E				特 徴			出土位置	備	考
Q 204	五輪塔	(7.8)	(15.3)	(14.7)	(2000.2)	花崗岩		空風輪 3	空輪部	欠損				中央部上層		
Q 205	石碑	(25.3)	(20.0)	(11.5)	(3993.0)	安山岩		「来阿信」,「月」,「弌□」などの刻書						中央部覆土中	PL88	
Q 206	石碑	(13.8)	(20.8)	(6.1)	(1657.0)	安山岩		「享保」、「空開」などの刻書						中央部覆土中	PL88	
番号	銭 種	径	厚さ	孔径	重量	材質	初	初鋳年 特 徴						出土位置	備	考
M62	開元通寳	2.5	1.43	0.6	2.78	銅	6	621年 無背							PL92	

5 その他の遺構と遺物

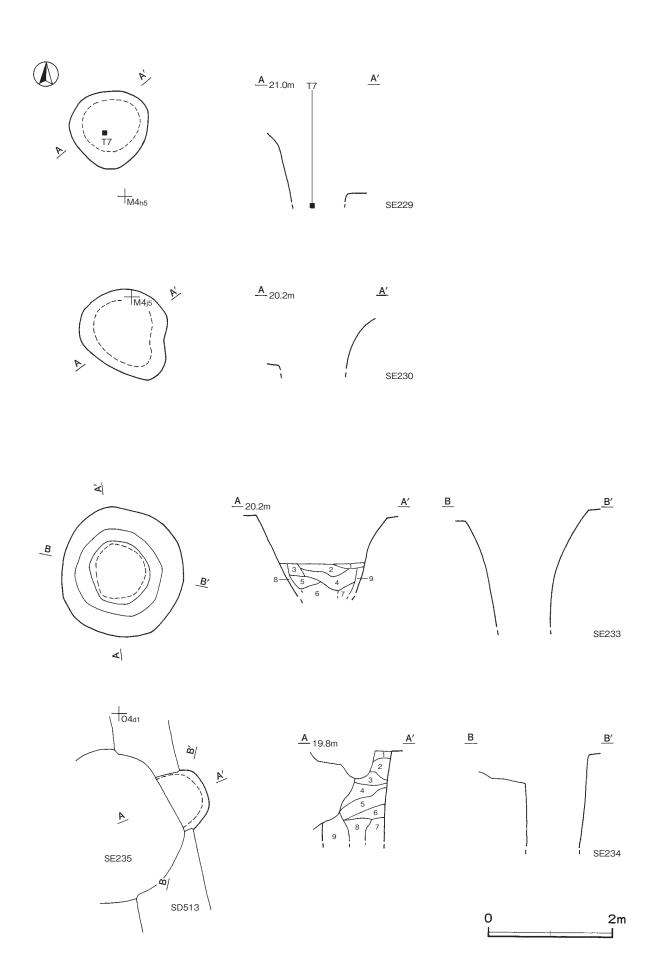
今回の調査で、時期や性格が明確でない井戸跡 12 基、土坑 147 基、道路跡 1 条、溝跡 6 条、ピット群 11 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 井戸跡 (第 364 ~ 367 図)

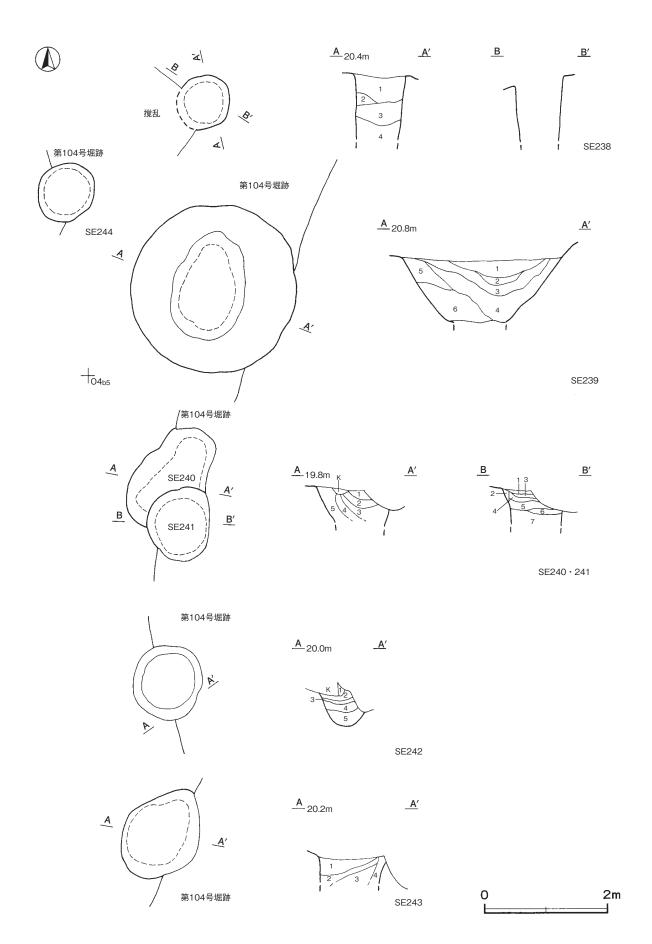
今回の調査で時期不明の井戸跡 12 基を確認した。以下、実測図と土層解説、一覧表を掲載する。



第364図 その他の井戸跡実測図(1)



第365図 その他の井戸跡実測図(2)



第366図 その他の井戸跡実測図(3)

調査年度 平成 20 年度

第 227 号井戸跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 褐
- 色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量
- 色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量 4 褐
- 5 褐 色 ロームブロック多量、粘土ブロック微量

調査年度 平成 21 年度

第 233 号井戸跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量,炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 暗
- 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 里 褐 色 ロームブロック少量
- 褐 色 ロームブロック中量 暗
- 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 9 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 234 号井戸跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量 3 暗
- 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 暗 裾
- 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量
- 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 里
- 8 里 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 9 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 238 号井戸跡土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子微量
- 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第 239 号井戸跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 5 暗 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 6 灰 白 色 粘土ブロック多量

- 色 ロームブロック中量, 黒色土粒子少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 7 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

第 240 号井戸跡土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化 粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量

第 241 号土層解説

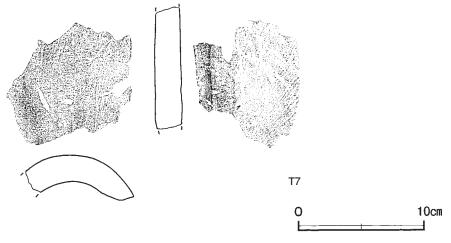
- 色 ロームブロック・粘土ブロック少量 1 裾
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物 微量
- 4 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック・ 焼土粒子微量
- 5 黒 褐 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物 色 微量
- 色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子・ 6 里 褐 炭化粒子微量
- 7 黒 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量

第 242 号井戸跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第 243 号井戸跡土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック多量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック微量



第367 図 第229 号井戸跡出土遺物実測図

第229号井戸跡出土遺物観察表(第367図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色 調	焼成		特	徴	出土位置	備考
Т 7	丸瓦	(10.8)	(8.8)	2.2	(263.7)	長石·石英· 雲母	灰	普通	凸面ヘラ削り	凹面布目痕		覆土下層	PL94

表 44 その他の井戸跡一覧表

	<i>件</i> 墨	巨汉士白	W ## 112	規	模	底 面	壁面	覆土	ナメロエ鬼 腕	備考
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
227	M 4 i6	-	円形	1.38 × 1.38	140	平坦	円筒状	人為		本跡→ SK6372
229	M 4 j4	-	円形	1.26 × 1.24	(144)	_	円筒状	-	瓦片	
230	M 4 i4	N - 50° - E	楕円形	1.58 × 1.34	(160)	_	漏斗状	_	石製品	
233	O 4 c3	_	円形	2.08 × 2.06	(180)	_	漏斗状	人為	土師器片,須恵器片	
234	O 4 c3	_	〔円形〕	(1.14) × 1.04	(140)	-	円筒状	人為		本跡→ SE235, SD513
238	O 4 h4	_	〔円形〕	0.92×0.87	(96)	-	円筒状	人為	土師器片,須恵器片,土師質土器片	
239	O 4 a4	-	円形	2.76 × 2.66	(100)	-	漏斗状	人為		第 104 号堀跡→ 本跡
240	O 4 b4	N - 8° - E	楕円形	1.22 × 1.04	(150)	_	漏斗状	人為		本跡→ SE241, 第 104 号堀
241	O 4 b4	N - 35° - E	〔円形〕	(3.38) × 3.34	(190)	-	円筒状	人為		SE240 →本跡
242	O 4 d4	_	円形	1.18 × 1.12	168	皿状	円筒状	人為		本跡→第104号堀
243	O 4 a4	N - 31° - E	楕円形	1.64 × 1.24	(114)	-	円筒状	人為		本跡→第 104 号堀
244	O 4 a4	N - 39° - E	楕円形	1.02 × 0.90	-	_	_	-		第 104 号堀跡→ 本跡

(2) 十坑

今回の調査で時期不明の土坑 141 基を確認した。以下、土層解説及び一覧表を掲載する。

調査年度 平成 20 年度

第 6017 号土坑土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化物・砂粒微量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化物少量,砂粒微量

3 褐 色 ローム粒子多量

第 6026 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子微量

第 6028 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 6030 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 2 黒 褐 色 ロームブロック微量 3 褐 色 ロームブロック少量

第 6053 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化物・焼土粒

子微量

色 ロームブロック中量 色 ロームブロック少量

4 暗 褐 色 ロームブロック中量 5 暗 褐 色 ロームブロック中量(締まり弱い)

第 6078 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量

暗 褐 色 ロームブロック微量

色 ロームブロック多量

黒 褐 色 ロームブロック微量暗 褐 色 ロームブロック少量 5

6 褐 色 ローム粒子多量

第 6079 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

色 ロームブロック中量 2 裼

第 6082 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック微量 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6083 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 6085 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 6086 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6089 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐 色 ロームブロック少量

第 6090 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐 色 ロームブロック少量

第 6092 土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 褐 色 ロームブロック中量

第 6093 号土坑土層解説

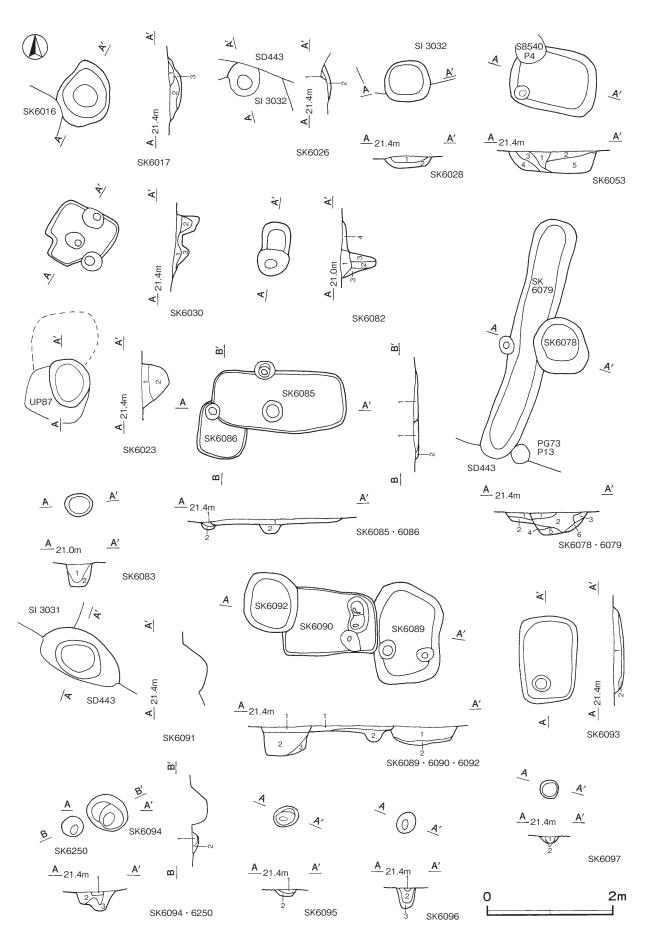
1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐 色 ロームブロック中量

第 6094 号土坑土層解説

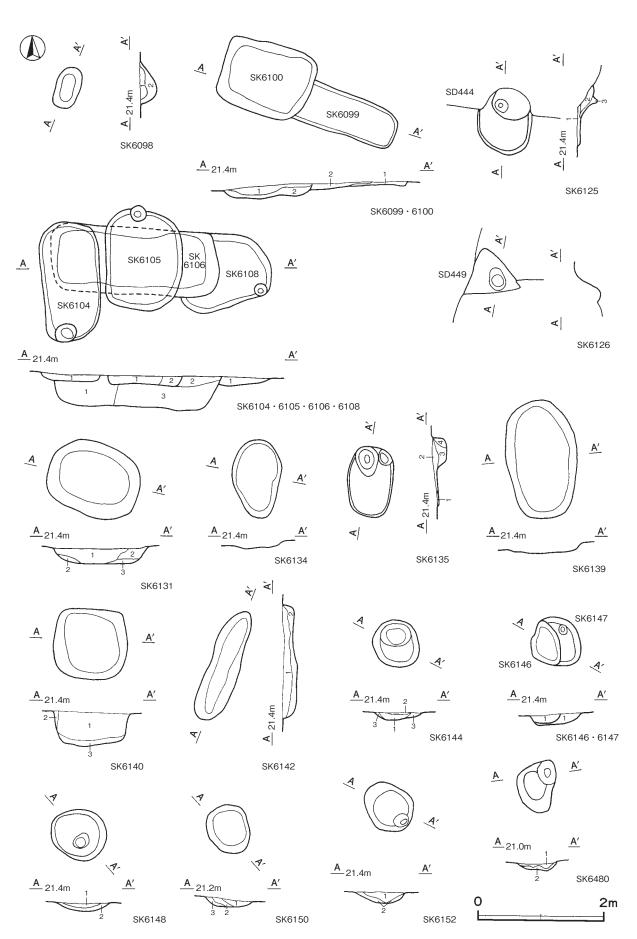
色 ロームブロック多量

2 暗 褐 色 ロームブロック微量

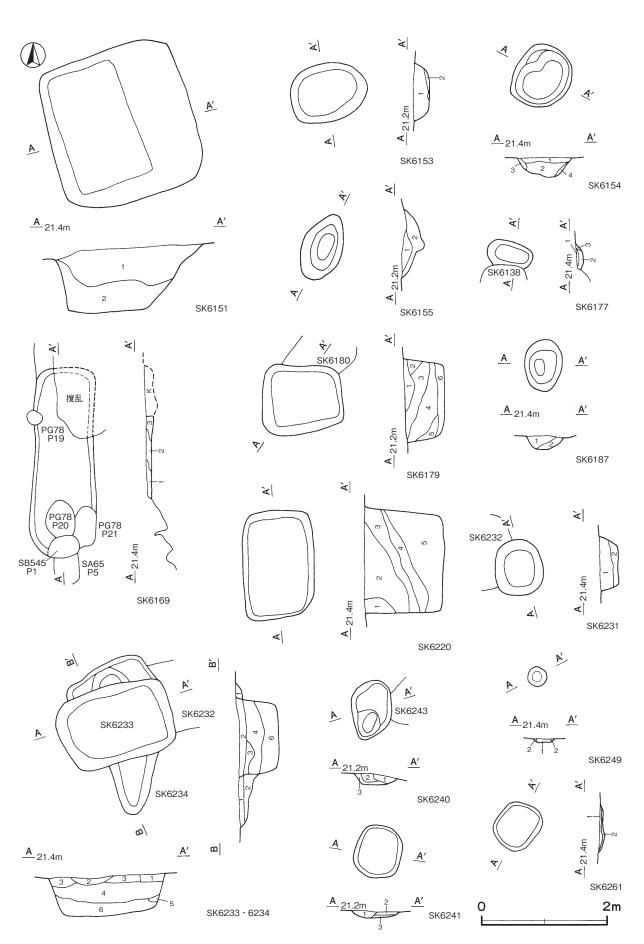
3 褐 色 ロームブロック少量



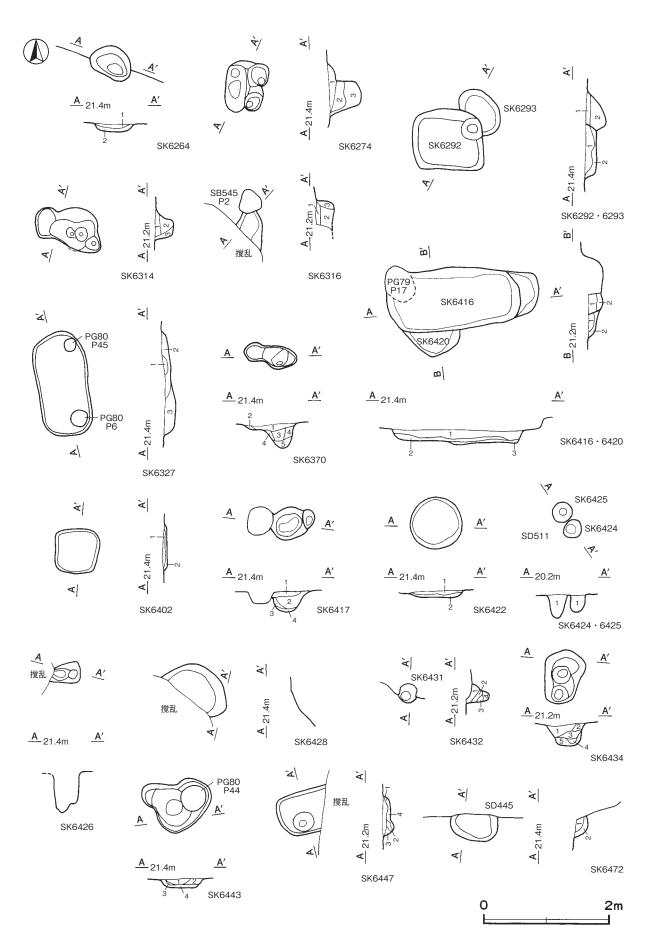
第368図 その他の土坑実測図(1)



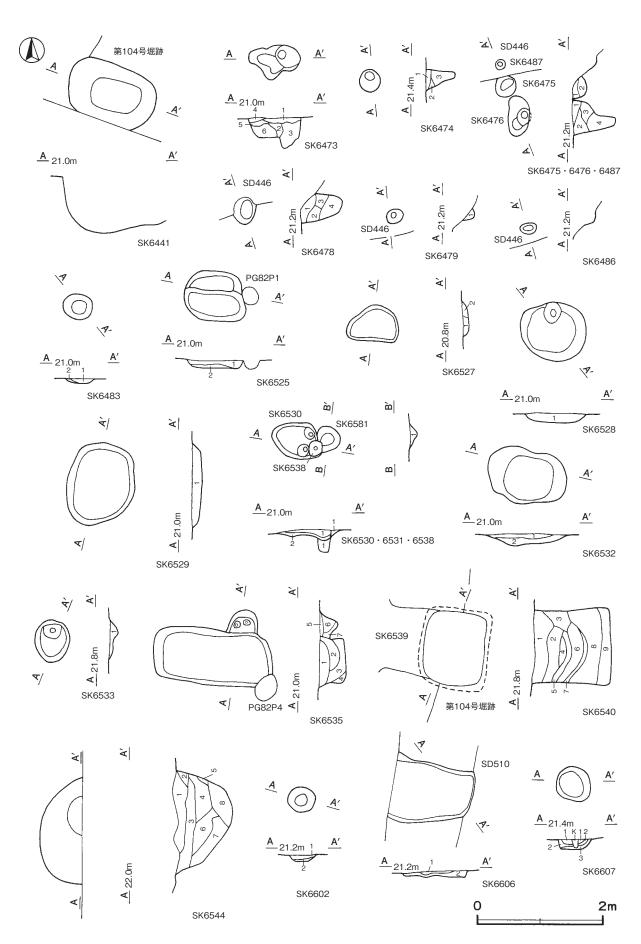
第369図 その他の土坑実測図(2)



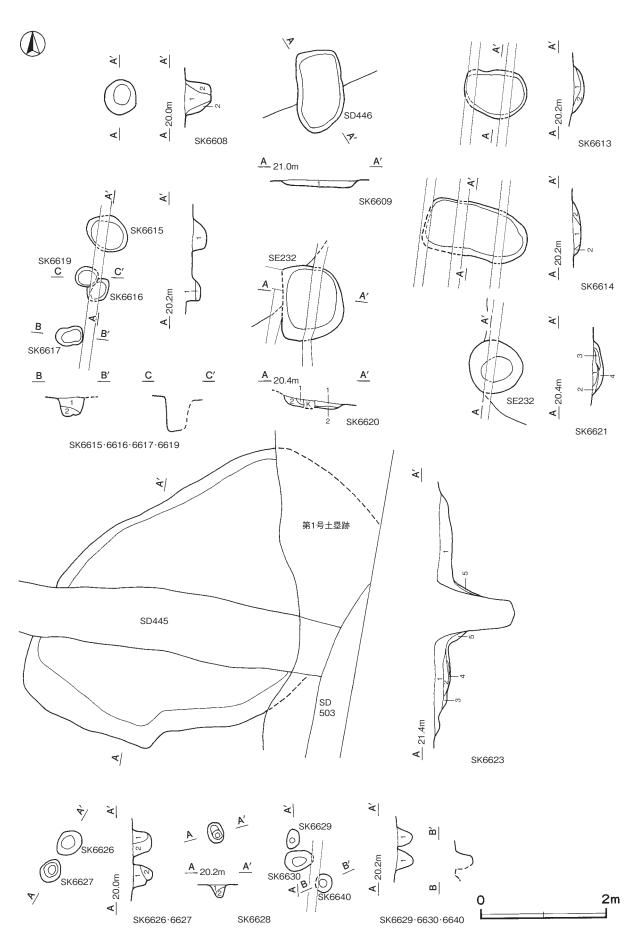
第370図 その他の土坑実測図(3)



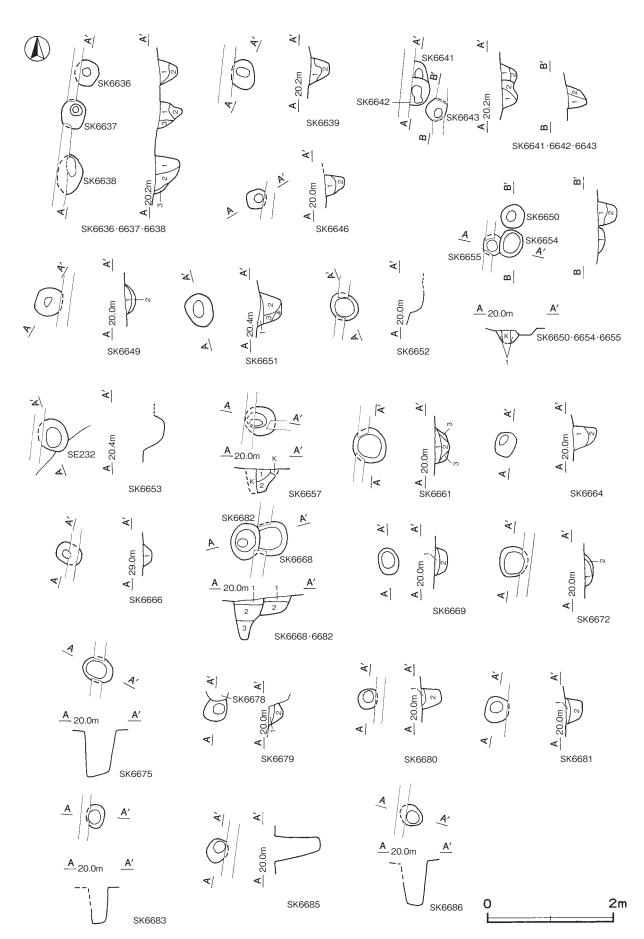
第371図 その他の土坑実測図(4)



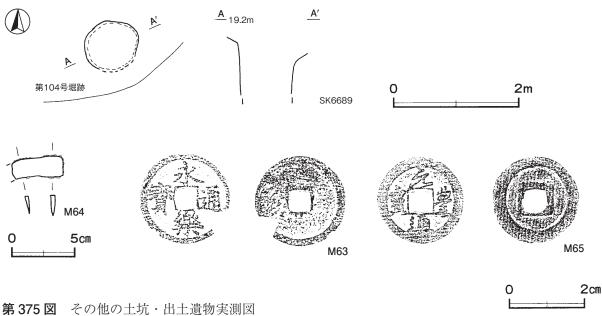
第372図 その他の土坑実測図(5)



第373 図 その他の土坑実測図(6)



第374図 その他の土坑実測図(7)



第 6023 土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化物・焼土粒子微量

2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 6095 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

2 褐 色 ロームブロック少量

第 6096 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量

色 ロームブロック少量

第 6097 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック微量

2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

第 6098 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第 6099 号十坑十層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6100 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6104 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 6105 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 6106 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

色 ロームブロック少量

第 6108 号土坑土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量

第 6125 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 褐 色 ローム粒子中量

3 褐 色 ロームブロック中量

第 6131 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

色 ローム粒子中量 3 裾

第 6135 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

色 ローム粒子多量 2 褐

色 ロームブロック中量 3 裼

色 ロームブロック少量 4 褐

第 6140 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

2 褐 色 ローム粒子多量

色 ロームブロック中量 3 褐

第 6142 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 6144 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子微量(粘性弱い)

2 暗 褐 色 ローム粒子微量

色 ローム粒子中量

第 6146 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

第 6147 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 6148 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ローム粒子微量

第 6150 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子微量

2 褐 色 ローム粒子少量

3 暗 褐 色 ローム粒子少量(粘性弱い)

第 6151 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 6152 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子微量

2 褐 色 ローム粒子少量

第 6153 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 6154 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 褐 色 ローム粒子多量

4 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 6155 土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6169 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量

第6177号土坑土層解説

1 暗 褐 色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物微量

2 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐 色 ロームブロック中量

第 6179 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量

2 褐 色 ローム粒子多量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物微量

4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

5 暗 褐 色 ロームブロック少量

6 褐 色 ロームブロック中量

第 6187 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 6220 号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量

2 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量

3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

5 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6231 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6233 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量

4 褐 色 ロームブロック中量

5 暗 褐 色 ロームブロック少量

6 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 6234 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐 色 ロームブロック中量

第 6240 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6241 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

3 褐 色 ロームブロック少量

第 6249 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6250 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6261 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6264 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6274 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量

2 褐 色 ローム粒子多量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 6292 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6293 土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐 色 ロームブロック中量

第 6314 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック多量,炭化物・焼土粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

3 黒 褐 色 ロームブロック多量

第 6316 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック・炭化粒

子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

3 褐 色 ロームブロック多量

第 6327 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

3 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

第 6370 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐 色 ロームブロック少量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量

4 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

5 褐 色 ローム粒子中量

第 6402 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化

粒子微量

2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 6416 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量

2 褐 色 ロームブロック中量,炭化物微量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6417 号土坑土層解説

4 褐

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

 2 褐
 色
 ロームブロック少量

 3 褐
 色
 ローム粒子多量

第 6420 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 6422 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐 色 ローム粒子多量

第 6424 号十坑十層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物微量

第 6425 土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 6432 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量

4 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 6434 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化物微量

1 無 橋 巴 ロームブロックが重、灰化物板重 2 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量

4 褐 色 ロームブロック中量 5 褐 色 ロームブロック多量

第 6443 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量

2 褐 色 ロームブロック中量

3 黒 褐 色 ローム粒子少量

4 褐 色 ロームブロック多量

第 6447 号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量

3 褐 色 ローム粒子多量 (締まり強い)

色 ローム粒子多量

第 6472 土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

2 褐 色 ロームブロック少量

第 6473 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量

4 暗 褐 色 ローム粒子少量 5 暗 褐 色 ローム粒子中量

色 ロームブロック中量 6 褐

第 6474 号十坑十層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

3 褐 色 ロームブロック少量

第 6475 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 6476 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 褐 色 ロームブロック中量

色 ロームブロック少量 4 裾

第 6478 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量

調査年度 平成 21 年度

第 6544 土坑土層解説

3 暗 褐 色 ロームブロック中量

4 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

4 暗 褐 色 ローム粒子微量

第 6479 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 6480 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

2 褐 色 ロームブロック少量

第 6483 号十坑十層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

2 褐 色 ロームブロック少量

第 6525 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物微量

2 褐 色 ロームブロック多量

第 6527 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6528 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 6529 号土坑土層解説

1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 6530 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

2 灰黄褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 6531 土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

第 6532 号土坑土層解説

1 灰 黄 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物少量

2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

第 6533 号土坑土層解説

1 黒 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 6535 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

4 黒 色 ロームブロック・炭化粒子少量

5 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

7 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 6540 号土坑土層解説

1 灰 白 色 粘土ブロック多量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量

3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

4 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

5 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 6 褐 色 ロームブロック多量, 粘土ブロック微量

7 暗 褐 色 ロームブロック中量

8 黄 褐 色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量

9 褐 色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量

 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
 5 暗 褐 色 ロームブロック中量(粘性・締まり強い)

 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
 6 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量

7 暗 褐 色 ロームブロック多量

8 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量

第 6602 号十坑十層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 6606 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子少量

第 6607 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 6608 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒 子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・自色粘土ブロック微量

第 6609 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 6613 土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 6614 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 6615 号土坑土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 6616 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

第 6617 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 6620 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒 子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

第 6621 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 赤色粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化物 微量
- 2 暗 褐 色 赤色粘土ブロック中量, ローム粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ローム粒子微量

第 6623 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 褐 色 ローム粒子少量

第 6626 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量

第 6627 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量

第 6628 土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 6629 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量

第 6630 号土坑土層解説

1 にぶい褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量

第 6636 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 6637 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 3 灰 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量

第 6638 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 明 褐 色 ローム粒子中量

第 6639 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6641 土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 2 黒 褐 色 自色粘土ブロック少量, ローム粒子微量

第 6642 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 白色粘土ブロック中量。ローム粒子微量

第 6643 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 白色粘土ブロック中量, ローム粒子少量

第 6646 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量,炭化粒 子微量
- 2 黒 褐 色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック微量

第 6649 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6650 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量

第 6651 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 白色粘土ブロック・炭化粒 子微量
- 3 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 6654 号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック・炭化粒子微量

第 6655 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量

第 6657 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 6661 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量, 炭 化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック・自色粘土ブロック中量
- 3 灰黄褐色 白色粘土ブロック多量, ロームブロック少量

第 6664 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 白色粘土プロック中量, ロームプロック少量, 炭 化物微量
- 2 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック微量

第 6666 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 6668 土坑土層解説

- 1 灰 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物少量

第 6669 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 2 暗 褐 色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭 化物微量

第 6672 土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック・炭化物 微量
- 2 褐 色 白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量

第 6679 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 白色粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 白色粘土ブロック少量, 炭化物微量

第 6680 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

第 6681 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

第 6682 号土坑土層解説

- 1 灰 褐 色 白色粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

第6135号土坑出土遺物観察表(第375図)

番号	銭 種	径	厚さ	孔径	重量	材質	初鋳年	特	出土位置	備考
M63	永楽通寳	2.5	1.60	0.5	(2.87)	銅	1408 年	無背	覆土中	PL92

第6434号土坑出土遺物観察表(第375図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
M64	鎌	(4.2)	1.8	0.3	(11.8)	鉄	刃部の破片	覆土中	

第6664号土坑出土遺物観察表(第375図)

番号	銭 種	径	厚さ	孔径	重量	材質	初鋳年	特	出土位置	備考
M65	元豊通寳	2.4	1.28	0.6	2.12	銅	1075 年	無背	覆土中	PL92

表 45 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規	模	底面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備考
宙力		灰任刀門	干面形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 田	生 田	復 丄	土な山工退初	7/H 45
6017	M 5 cl	N - 10° - E	楕円形	1.07 × 0.82	20	皿状	緩斜	人為	土師器片,須恵器片	本跡→ SK6016
6023	M 4 c0	N - 40° - W	楕円形	0.85 × 0.56	45	皿状	緩斜	人為		UP87 →本跡
6026	M 4 c0	-	[円形]	0.52 × (0.50)	12	皿状	緩斜	人為	土師器片	SI3032 →本跡 → SD443
6028	M 4 b4	N - 86° - E	楕円形	0.75×0.67	18	皿状	緩斜	自然		SI3032 →本跡
6030	M 5 c1	-	隅丸長方形	1.06 × 1.40	50	平坦	緩斜	人為		
6053	M 4 g0	N - 72° - W	方形	1.04 × 1.00	30	平坦	緩斜	人為	土師器片,須恵器片	
6078	M 4 b5	N - 39° - W	不整楕円形	0.96 × 0.86	28	平坦	緩斜	人為		SK6079 →本跡
6079	M 4 a5	N - 13° - E	楕円形	3.92 × 0.64	10	平坦	緩斜	人為		本跡→ SK6078 · SD443, PG73
6082	M 3 j2	N - 13° - E	不定形	0.86×0.44	56	平坦	外径	人為	土師器片	
6083	M 3 j2	N - 75° - W	楕円形	0.45×0.37	45	平坦	外径	人為	土師器片	
6085	M 4 d9	N - 89° - W	長方形	2.16 × 1.00	8	平坦	緩斜	人為	土師器片,須恵器片	SK6086 →本跡
6086	M 4 d9	N - 3° - E	[長方形]	(0.88) × 0.78	10	平坦	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SK6085
6089	M 4 d7	N - 0 °	不定形	1.62 × 1.15	30	平坦	外傾	人為	土師器片	本跡→ SK6090
6090	M 4 d7	N - 89° - W	長方形	1.48 × 1.08	10	平坦	外径	人為	土師器片	SK6089 →本跡 → SK6092
6091	M 4 a3	N - 49° - W	楕円形	1.42 × 0.76	36	皿状	緩斜	-		SI3031 →本跡 → SD443

				規	 模					
番号	位 置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
6092	M 4 C7	N - 8° - E	隅丸方形	0.93 × 0.86	48	平坦	外径	人為	土師器片	SK6090 →本跡
6093	M 4 c6	N - 5° - W	長方形	1.39 × 0.94	18	平坦	緩斜	人為	土師器片	
6094	M 4 c6	N - 55° - W	楕円形	0.65×0.56	38	平坦	外傾 緩斜	人為		
6095	M 4 d6	N - 42° - E	楕円形	0.38 × 0.32	15	皿状	外径 緩斜	人為	土師器片	
6096	M 4 d6	N - 28° - E	楕円形	0.37×0.30	34	皿状	外傾	人為		
6097	M 4 c3	-	円形	0.32 × 0.30	16	皿状	緩斜	人為		
6098	M 4 c3	N - 17° - E	楕円形	0.68 × 0.38	18	皿状	緩斜	人為		
6099	M 4 b3	N - 72° - W	[長方形]	(1.52) × 0.66	10	平坦	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SK6100
6100	M 4 b2	N - 74° - W	長方形	1.46 × 1.14	24	平坦	緩斜	人為	土師器片	SK6099 →本跡
6104	M 4 f8	N - 3° - W	楕円形	1.88 × 0.95	10	平坦	緩斜	人為	土師器片	SK6106 →本跡
6105	M 4 f8	N - 2 ° - E	楕円形	(1.60) × 1.22	15	平坦	外傾	人為	土師器片	SK6106 →本跡
6106	M 4 h8	N - 87° - W	[隅丸長方形]	(2.70) × 1.18	54	平坦	外傾	人為	須恵器片	SK6108 →本跡 → SK6104 · 6105
6108	M 4 f8	N - 85° - E	[楕円形]	(1.51) × 1.24	14	平坦	緩斜	人為		本跡→ SK6106
6125	M 4 e8	N - 3° - W	楕円形	1.08 × 0.87	8	平坦	緩斜	人為		本跡→ SD444
6126	M 4 e8	N - 10° - E	不定形	(0.86) × (0.68)	38	平坦	緩斜	-		SK6122→本跡 → SD449
6131	M 4 j9	N - 66° - W	楕円形	1.49 × 1.14	20	平坦	緩斜	人為	土師器片,須恵器片,陶器片	
6134	M 4 i9	N - 3° - W	[楕円形]	(1.25) × (0.78)	10	平坦	緩斜	-		
6135	M 4 j9	N - 6° - E	楕円形	1.12 × 0.73	6 ~ 24	平坦	外傾	人為	須恵器片, 銭貨	
6139	M 4 h9	N - 5° - W	[楕円形]	(1.90) × 1.13	12	平坦	緩斜	-		
6140	M 4 h8	-	円形	1.19 × 1.13	52	平坦	外傾	人為		
6142	M 4 e3	N - 21° - E	楕円形	1.94 × 0.24	20	皿状	緩斜	人為	土師器片	
6144	M 4 d5	-	円形	(0.76) × (0.72)	22	皿状	緩斜	人為	鉄滓	
6146	M 4 d4	N – 18° – W	楕円形	0.74 × 0.46	18	平坦	緩斜	自然	土師器片,須恵器片	
6147	M 4 d4	-	円形	0.80 × (0.76)	22	平坦	緩斜	自然		
6148	M 4 e5	-	円形	0.90 × 0.82	12	平坦	緩斜	人為	土師器片,須恵器片	
6150	M 4 f3	N - 37° - W	楕円形	0.80 × 0.70	18	傾斜	緩斜	自然	土師器片	
6151	M 4 d3	N - 17° - W	方形	2.46 × 2.34	110	平坦	外傾	人為	土師器片,陶器片	
6152	M 4 f4	N – 44° – W	楕円形	0.68 × 0.84	18	皿状	緩斜	自然	土師器片	
6153	M 4 f5	N - 18° - E	楕円形	1.24 × 0.94	32	皿状	緩斜	人為	土師器片	
6154	M 4 e5	N - 62° - E	楕円形	0.92 × 0.04	26	平坦	緩斜	人為	土師器片,須恵器片	
6155	M 4 f5	N - 27° - E	楕円形	1.10 × 0.68	24	凹凸	緩斜	人為		
6169	M 4 h8	N - 2° - E	隅丸長方形	2.96 × 0.95	16	平坦	外傾	人為		本跡→ SA65, PG78 · SB545
6177	M 4 i0	N - 72° - W	楕円形	0.74 × (0.42)	12	平坦	緩斜	人為		本跡→ SK6138
6179	M 4 g5	N - 84° - E	長方形	1.26 × 1.10	66	平坦	外傾	人為	土師器片	SK6180 →本跡
6187	M 4 f5	N - 5° - W	楕円形	0.83 × 0.61	20	皿状	緩斜	人為		
6220	M 4 f6	N - 2° - E	隅丸長方形	1.72 × 1.16	116	平坦	直立	人為	土師器片,須恵器片	
6231	M 4 e5	N – 17° – W	楕円形	0.91 × 0.78	24	平坦	緩斜	人為	土師器片	SK6232 →本跡
6233	M 4 e5	N - 74° - E	隅丸長方形	1.87 × 123	58	平坦	緩斜	人為	土師器片,須恵器片	SK6232 · 6234 → 本跡
6234	M 4 f5	N – 10° – W	[不定形]	2.48 × 0.78	24	平坦	緩斜	人為		SK6232 →本跡 → SK6233
6240	M 4 e6	N - 15° - E	楕円形	0.98 × 0.68	20 ~ 40	平坦	外傾	人為	土師器片	SK6243 →本跡
6241	M 4 d5	N - 17° - E	楕円形	0.86×0.74	11	皿状	緩斜	人為		
6249	M 4 c5	-	円形	0.32 × 0.31	6	平坦	外傾	人為	土師器片	
6250	M 4 c6	-	円形	0.35 × 0.35	12	皿状	緩斜	人為		
6261	M 4 c5	N - 38° - E	楕円形	0.79 × 0.68	11	平坦	緩斜	人為		
- 1					0.4	777 1411	紹公	人為	土師器片	SD443 →本跡
6264	M 4 b5	N - 68° - W	楕円形	0.68×0.48	24	平坦	傾斜) C/mg		30443 7430
	M 4 b5 M 4 h6	$N - 68^{\circ} - W$ $N - 4^{\circ} - E$	格円形 不整楕円形	0.68 × 0.48 0.81 × 0.67	62	凹凸	外傾	人為		3万44. 本助

				規	模					
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備考
6293	M 4 f8	N - 39° - W	[楕円形]	0.80 × (0.40)	84	皿状	緩斜	人為	須恵器片	本跡→ SK6292
6314	M 4 h5	N - 61° - W	不定形	1.15 × 0.65	58	凹凸	外傾	人為		
6316	M 4 j7	N - 12° - E	[不定形]	(0.74) × 0.55	34	平坦	外傾 緩斜	人為		本跡→ SB545
6327	M 4 j8	N - 10° - W	楕円形	1.68 × 0.86	16	平坦	緩斜	人為	土師器片,磁器片	SK6268 · 6287 → 本跡
6370	M 4 h5	N - 80° - W	不整楕円形	0.84 × 0.37	53	凹凸	外傾	人為		
6402	M 4 c0	-	円形	0.72 × 0.72	7	平坦	緩斜	人為		
6416	N 4 a7	N - 86° - E	楕円形	2.45 × 1.00	18 ~ 26	平坦	外傾	人為		SK6420→本跡 → PG79
6417	N 4 a8	-	円形	0.45 × 0.45	19	凹凸	外傾	人為		本跡→ PG79
6422	N 4 a8	-	円形	0.84 × 0.83	12	平坦	傾斜	自然		
6424	N 4 a4	N - 36° - E	楕円形	0.32 × 0.27	26	平坦	外傾	人為		
6425	N 4 a4	-	円形	0.33 × 0.32	38	皿状	外傾	人為		
6426	M 4 i6	N - 87° - E	[長方形]	(0.48) × 0.33	62	凹凸	直立	-		
6428	M 4 i6	N - 52° - W	[不定形]	1.05 × (0.56)	50	平坦	傾斜	人為	土師器片	
6432	N 4 c8	-	円形	0.33 × 0.33	36	平坦	外傾	人為		本跡→ SK6431
6434	N4c8	N - 15° - E	楕円形	0.88 × 0.58	34	平坦	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄器	
6441	N 4 c6	N - 63° - W	[楕円形]	1.46 × (0.88)	68	平坦	緩斜	-		本跡→第 104 号 堀跡
6443	N 4 b9	N - 62° - E	不整楕円形	1.12 × 0.89	12	平坦	緩斜	人為	土師器片	
6447	M 4 j6	N - 73° - E	[不定形]	(0.81) × 0.68	4	皿状	緩斜	自然	土師器片	
6472	M 4 g8	N - 85° - W	[楕円形]	0.76 × (0.42)	20	平坦	緩斜	人為		本跡→ SD448
6473	N 4 d9	-	円形	0.37 × 0.36	45	平坦	外傾	人為	土師器片	
6474	N 4 d9	-	円形	0.34 × 0.34	52	皿状	外傾	人為		
6475	N 4 d9	-	円形	0.32 × (0.32)	24	平坦	外傾	人為		本跡→ SD446
6476	N 4 d9	N - 6 ° - E	楕円形	0.64 × 0.33	70	平坦	外傾	人為	須恵器片	本跡→ SD446
6478	N 4 d8	N - 13° - E	楕円形	0.47 × 0.38	62	平坦	外傾	人為		本跡→ SD446
6479	N 4 d8	-	円形	0.28 × 0.24	38	平坦	外傾	人為		本跡→ SD446
6480	M 4 i5	N - 13° - W	不整楕円形	0.80 × 0.65	18	平坦	緩斜	人為		
6483	M 4 i5	-	円形	0.48 × 0.48	9	皿状	緩斜	人為		本跡→第 104 号 堀跡
6486	N 4 d8	N - 74° - E	楕円形	0.28 × 0.18	36	平坦	外傾	人為		本跡→ SD446
6487	N 4 d9	-	円形	0.36 × 0.36	35	平坦	外傾	人為		本跡→ SD446
6525	O4b7	N - 86° - W	楕円形	0.94 × 0.80	14	平坦	外傾	人為		PG82 →本跡
6527	O 4 g7	N - 85° - W	楕円形	0.83 × 0.58	14	平坦	外傾	人為		
6528	N 4 i7	N - 58° - W	楕円形	1.10 × 0.94	20	平坦	緩斜	人為		
6529	N 4 j6	N - 14° - E	楕円形	1.34 × 1.10	20	平坦	緩斜	人為		
6530	N 4 i6	N - 71° - E	[不整楕円形]	(0.72) × 0.60	20	凹凸	緩斜	人為		SK6531 · 6538 → 本跡
6531	N 4 i6	N - 72° - W	楕円形	0.42 × (0.38)	14	皿状	緩斜	人為		本跡→ SK6530・ 6538
6532	N 4 j6	N - 73° - W	不整楕円形	1.31 × 0.86	18	平坦	外傾	自然		
6533	N 4 i5	N - 5° - W	楕円形	0.68 × 0.57	18	皿状	緩斜	自然		本跡→ PG82
6535	O 4 b5	N - 84° - W	隅丸長方形	1.92 × 1.20	44	平坦	外傾	人為		
6538	N 4 i6	N - 27° - E	楕円形	0.84 × 0.24	38	平坦	緩斜	人為		SK6531 →本跡 → SK6530
6540	O 4 j5	N - 10° - E	長方形	1.16 × 0.99	120	平坦	直立	人為		本跡→ SK6539・ 第 104 号堀跡
6544	O 4 g0	N - 10° - E	[楕円形]	1.19 × (0.66)	90	皿状	緩斜	人為		SD500 →本跡
6602	M 5 fl	_	円形	0.46 × 0.42	12	皿状	緩斜	人為		
6606	N 4 e9	N - 84° - W	[長方形]	(1.33) × 0.95	10	平坦	緩斜	人為		SD510 →本跡
6607	N 4 f0	-	円形	0.56 × 0.56	16	平坦	外傾	自然		
6608	O 3 a9	N - 4 ° - E	楕円形	0.56 × 0.51	32	皿状	外傾	人為	土師器片	
6609	N 4 c0	N - 1 ° - W	楕円形	1.32 × 0.73	16	平坦	外傾	人為		SD446 →本跡

				+	4#					
番号	位置	長径方向	平面形	規 長径×短径(m)	模 深さ (cm)	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
6613	N 4 i3	N - 80° - W	長方形	0.98 × 0.76	18	凹凸	緩斜	人為		
6614	N 4 h3	N - 76° - W	長方形	1.64 × 0.86	12	平坦	傾斜	人為		
6615	N 4 j3	-	円形	0.60 × 0.64	16	皿状	傾斜	人為		
6616	N 4 j3	N - 45° - E	[長方形]	0.44 × (0.28)	24	平坦	外傾	人為		本跡→ SK6619
6617	N 4 j2	N - 84° - E	楕円形	0.44 × 0.30	30	平坦	外傾	人為	煙管	
6619	N 4 j3	-	円形	0.34×0.34	52	平坦	外傾 直立	-		SK6616 →本跡
6620	N 4 b3	N - 10° - W	[楕円形]	1.20 × (1.06)	18	平坦	外傾緩斜	人為		SE232 →本跡
6621	O 4 b2	-	円形	0.85×0.85	16	平坦	緩斜	人為		SE232 →本跡
6623	M 5 g1	N - 52° - E	[楕円形]	(5.84) × (3.80)	30	平坦	緩斜	人為	土師器片,磁器片	本跡→ SD445 · 503
6626	N 4 h3	N - 23° - E	楕円形	0.44 × 0.36	43	平坦	外傾	人為		
6627	N 4 h3	N - 33° - E	楕円形	0.38×0.33	38	平坦	外傾	人為		
6628	N 4 i3	N - 22° - W	楕円形	0.33 × 0.24	24	皿状	外傾	自然		
6629	N 4 i3	-	円形	0.20 × 0.30	26	皿状	外傾	人為		
6630	N 4 i3	N - 79° - E	楕円形	(0.46) × 0.32	30	皿状	外傾	人為		
6636	N 4 j3	N - 5° - W	楕円形	0.44 × (0.40)	31	平坦	外傾	人為		
6637	N 4 j3	N - 10° - E	[楕円形]	(0.49) × 0.39	39	平坦	外傾	人為		
6638	N 4 j3	N - 7 ° - E	[楕円形]	0.62 × (0.43)	48	平坦	直立 外傾	人為		
6639	N 4 j3	N - 6 ° - W	[楕円形]	0.49 × (0.36)	34	平坦	外傾	自然		
6640	N 4 j3	N - 3 ° - E	[楕円形]	0.29 × (0.26)	25	平坦	外傾	-		
6641	N 4 j3	N - 8° - W	[楕円形]	(0.27) × (0.24)	35	有段	直立 外傾	人為		本跡→SK6642
6642	N 4 j3	N - 8° - E	[楕円形]	0.44 × (0.32)	35	皿状	外傾	-		SK6641 →本跡
6643	N 4 j3	-	[円形]	$(0.35) \times 0.34$	38	平坦	外傾 直立	人為		
6646	N 4 j2	-	[円形]	0.32 × (0.32)	37	平坦	外傾	人為		
6649	N 4 i2	N - 17° - E	楕円形	047 × (0.42)	26	平坦	緩斜	人為		
6650	N 4 i2	-	円形	0.38×0.37	32	皿状	外傾 緩斜	人為		
6651	D 4 a4	$N - 15^{\circ} - W$	楕円形	0.55×0.43	31	平坦	外傾	人為		
6652	N 4 j2	$N - 48^{\circ} - W$	楕円形	0.49 × (0.41)	20	平坦	緩斜	人為		
6653	D 4 a2	N - 42° - W	楕円形	0.55×0.48	32	平坦	外傾	人為		本跡→ SE232
6654	N 4 j2	N - 20° - E	楕円形	0.44×0.37	10	平坦	緩斜	人為		SK6655 →本跡
6655	N 4 j2	N - 1 ° - W	[楕円形]	0.35 × (0.26)	23	平坦	外傾	人為		本跡→ SK6654
6664	O 4 a2	N - 22° - E	楕円形	0.41 × 0.33	41	外傾	平坦	人為	銭貨	
6666	N 4 i2	N - 68° - W	楕円形	0.43×0.33	28	外傾	緩斜	人為		
6668	O 4 b2	-	円形	0.55 × (0.44)	32	外傾	平坦	人為		本跡→ SK6682
6669	N 4 j2	N - 21° - W	楕円形	0.44 × 0.33	29	外傾	皿状	人為		
6672	N 4 j2	-	円形	0.49 × (0.46)	16	平坦	外傾	人為		
6675	O 4 c2	$N - 60^{\circ} - W$	楕円形	0.50 × (0.40)	74		直立	-		
6679	N 4 i2	N - 43° - E	楕円形	(0.32) × 0.36	28	平坦	外傾	人為	土師質土器片	本跡→ SK6678
6680	N 4 i2	-	円形	(0.32) × 0.32	46	平坦	外傾	人為		
6681	N 4 i2	N - 10° - E	楕円形	0.42 × (0.37)	54	平坦	外傾	自然		
6682		N - 8° - W	楕円形	0.59 × 0.45	80	凹凸	外傾	自然		SK6668 →本跡
6683	O 4 b2	N - 0 °	楕円形	0.39 × 0.31	58	平坦	直立	-		
6685	O 4 a2		楕円形	(0.39) × 0.34	74	平坦	外傾直立	-		
6686		N - 65° - W	楕円形	(0.41) × 0.34	70	平坦	外傾 直立	-		
6689	O 4 f4	N - 68° - E	楕円形	0.90×0.70	_	_		_		

(3) 道路跡

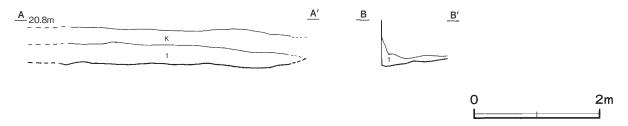
今回の調査で道路跡 1 条を確認した。室町時代の第 499 号溝を掘り込んでいる第 498 号溝を埋め戻した後、溝の上位に本跡が構築されたと考えられる。覆土中に細礫が多く混じっていたことから、現代まで道路として使用されていたと考えられる。水路として利用されていた第 513 号溝に沿って延びていくと想定

される。以下、土層断面図と土層解説を掲載する。

第 32 号道路跡 (第 376 図·付図 3)

第 32 号道路跡土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量(締まり強い)



第 376 図 第 32 号道路跡実測図

(4) 溝跡

今回の調査で、時期や性格が明確でない溝跡 5 条を確認した。第 498・516 号溝跡は文章で記述し、第 1 号土塁のトレンチ調査時に確認した第 504 ~ 506 号溝については、土層断面図と土層解説を掲載する。各溝の平面図は遺構全体図に示す。第 504 号溝で硬化面を 3 面確認した。道路として使用されていた可能性があるがトレンチ調査のみであったので、詳細は不明である。

第 498 号溝跡 (第 377 図·付図 3)

調査年度 平成 20 年度

位置 15 区南部の O 4 i4 区. 標高 20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第499号溝跡を掘り込み,第32号道路の下位で確認した。

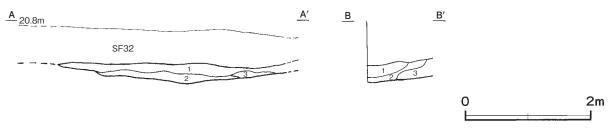
規模と形状 西端部が削平され、東端部は調査区域外に延びているため、確認できた長さは 3.5 m である。 O 4 f4 区から北西方向(N - 45° - W)に直線的に延びている。西壁が調査区域外に位置しているため、上幅は 2.0 m、下幅は 0.6 m しか確認できなかった。深さは 50 cmで、断面は逆台形状と想定される。東壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黄 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量・炭化粒子微量

所見 時期は、室町時代と考えられる第 499 号溝を掘り込んでいるが、遺物が出土していないため不明である。 本跡は埋め戻された後、現代の道路として使われている。



第 377 図 第 498 号溝跡実測図

第 516 号溝跡 (第 378 図・付図 3)

調査年度 平成 21 年度

位置 15 区中央部のN 4 i5 ~ O 4 a4 区. 標高 20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 244 号井戸, 第 104 号堀に掘り込まれている。

規模と形状 南端部が第 244 号井戸に、北端部が第 104 号堀に掘り込まれているため、確認できた長さは 5.2m である。O 4 a4 区から北方向 $(N-25^{\circ}-E)$ に緩やかに彎曲しながら延びている。上幅は $0.28m\sim0.68$ m、下幅は $0.4m\sim0.6$ m しか確認できなかった。深さは $30\sim44$ cmで、溝底は北端部が最も高く、南端部との比高は 10cmである。断面は U字状で、壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子微量

2 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量, 焼 土粒子・炭化粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量

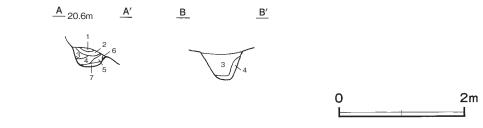
4 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 炭化粒

子微量

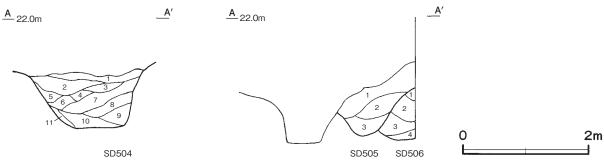
5 褐色ロームブロック中量6 暗 褐 色ロームブロック微量

7 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

所見 時期は、16世紀後葉以降に機能していたと考えられる第104号堀に掘り込まれていることから、16世 紀後葉以前と考えられるが、遺物が出土していないため明確ではない。性格は不明である。



第 378 図 第 516 号溝跡実測図



第 379 図 第 504 ~ 506 号溝跡実測図

平成 21 年度

第 504 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 9 暗 褐 色 ローム粒子・粘土ブロック中量
- 10 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 11 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 505 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 506 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 黒色粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量

表 46 その他の溝跡一覧表

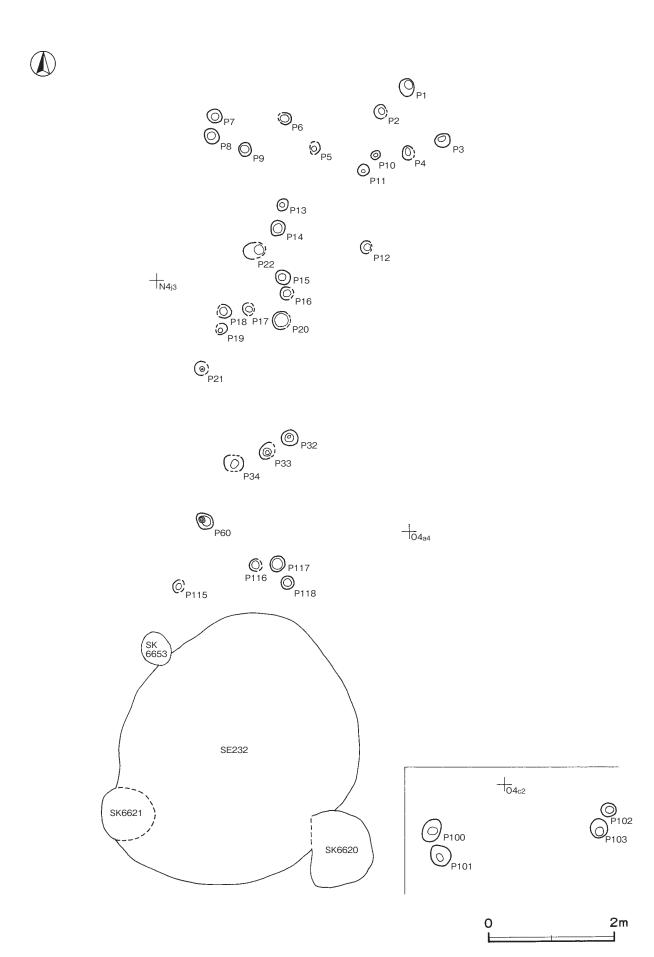
番号	位 置	+	77F 27Z 17V		規	模		断面	壁面	覆土	ナ た 山 上 海 伽	備考
留写	位 置	方 向	平面形	長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ(cm)		生 川	復 工	主な出土遺物	加 专
498	M 4 g3 ∼ M 5 i2	N - 45° - W	直線	(35.92)	0.74 ~ 1.94	0.20 ~ 0.70	61 ~ 94	逆台形	外傾	人為	陶磁器片, 土製品, 石器, 鉄製品	SD499 →本跡
516	N 4 J5 ~ O 4 a4	N - 25° - E	彎曲	(5.2)	0.28 ~ 0.68	0.40 ~ 0.60	30 ~ 44	U字状	直立	人為		本跡→ SE244・第 104 号堀跡

(5) ピット群

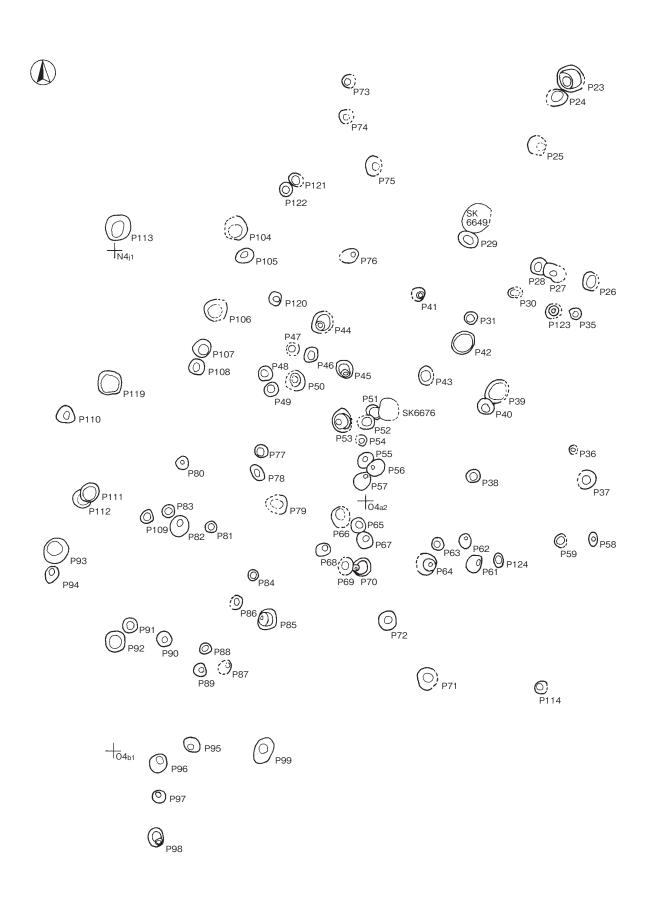
今回の調査で柱穴状のピット群 11 か所を確認した。ピットの分布状況から配列に規則性を見いだせず、建物跡は想定できない。また、出土遺物は細片が多いため、時期を判断することはできない。以下、ピットごとの計測表を掲載する。

表 47 第 72 号ピット群ピット計測表

ピット	/L 100	T/ Jb		規	模 (cm)		ピット	/-L 100	#/ Jb		規	模 (cm)	
番号	位置	形状	長径	×	短径	深さ	番号	位置	形状	長径	×	短径	深さ
1	N 4 i4	楕円形	28	×	23	30	29	N 4 i2	楕円形	34	×	26	18
2	N 4 i3	円形	22	×	20	32	30	N 4 j2	〔楕円形〕	(25)	×	22	26
3	N 4 i4	楕円形	26	×	23	32	31	N 4 j2	円形	21	×	21	14
4	N 4 i4	円形	22	×	20	30	32	N 4 j3	円形	26	×	25	24
5	N 4 i3	〔楕円形〕	21	×	(16)	30	33	N 4 j3	〔楕円形〕	28	×	(24)	28
6	N 4 i3	楕円形	21	×	18	20	34	N 4 j3	〔楕円形〕	32	×	(25)	42
7	N 4 i3	円形	24	×	22	42	35	N 4 j2	楕円形	21	×	19	36
8	N 4 i3	楕円形	26	×	23	22	36	N 4 j2	〔円形〕	14	×	(14)	22
9	N 4 i3	楕円形	23	×	20	18	37	N 4 j2	〔円形〕	32	×	(29)	24
10	N 4 i3	楕円形	16	×	14	6	38	N 4 j2	楕円形	24	×	20	24
11	N 4 i3	楕円形	19	×	17	12	39	N 4 j2	〔楕円形〕	(43)	×	(34)	32
12	N 4 i3	円形	18	×	18	8	40	N 4 j2	楕円形	28	×	24	36
13	N 4 i3	楕円形	19	×	17	12	41	N 4 j2	円形	23	×	22	32
14	N 4 i3	円形	25	×	24	12	42	N 4 j2	楕円形	39	×	35	22
15	N 4 i3	楕円形	25	×	22	24	43	N 4 j2	楕円形	31	×	(25)	60
16	N 4 j3	〔円形〕	22	×	(22)	24	44	N 4 j1	〔楕円形〕	(38)	×	(34)	18
17	N 4 j3	〔円形〕	(19)	×	19	10	45	N 4 j1	楕円形	31	×	26	26
18	N 4 j3	〔円形〕	22	×	22	10	46	N 4 j1	楕円形	26	×	23	50
19	N 4 j3	楕円形	20	×	16	20	47	N 4 j1	〔円形〕	(22)	×	(21)	26
20	N 4 j3	〔円形〕	(30)	×	28	10	48	N 4 j1	円形	24	×	24	20
21	N 4 j3	円形	22	×	22	24	49	N 4 j1	楕円形	26	×	23	18
22	N 4 i3	楕円形	36	×	25	42	50	N 4 j1	〔円形〕	32	×	(32)	30
23	N 4 i2	円形	45	×	43	30	51	N 4 j2	〔楕円形〕	(27)	×	(20)	16
24	N 4 i2	〔楕円形〕	34	×	(28)	39	52	N 4 j2	〔楕円形〕	(28)	×	(23)	22
25	N 4 i2	〔楕円形〕	(32)	×	(29)	24	53	N 4 j1	〔楕円形〕	39	×	(31)	28
26	N 4 i2	〔楕円形〕	30	×	(26)	10	54	N 4 j1	〔円形〕	19	×	(18)	8
27	N 4 i2	〔楕円形〕	(38)	×	26	30	55	N 4 j1	〔楕円形〕	28	×	(21)	20
28	N 4 i2	〔楕円形〕	28	×	(20)	14	56	N 4 j2	楕円形	31	×	24	24



第380図 第72号ピット群実測図(1)



0 2m

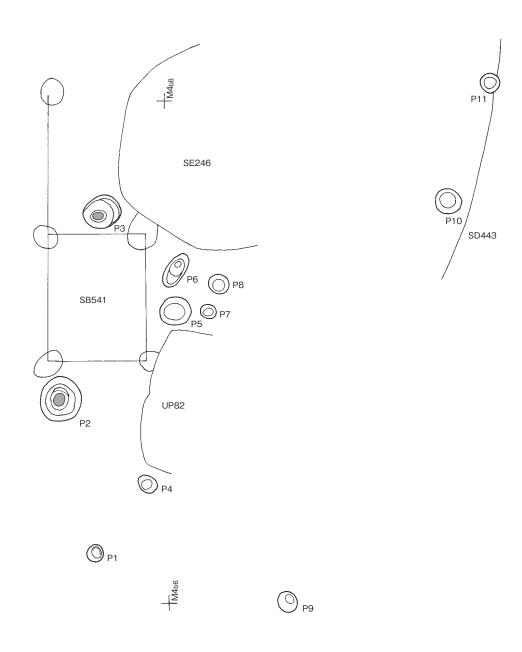
第381図 第72号ピット群実測図(2)

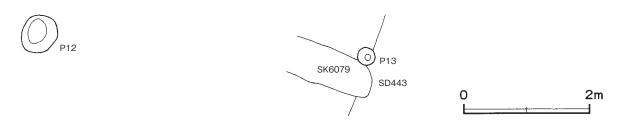
ピット				規	模 (cm)		ピット				規	模 (cm)	
番号	位置	形状	長径	×	短径	深さ	番号	位置	形状	長径	×	短径	深さ
57	N 4 j1	楕円形	29	×	26	20	91	O 4 a1	円形	22	×	22	20
58	O 4 a2	楕円形	23	×	14	26	92	O 4 a1	円形	33	×	33	18
59	O 4 a2	円形	23	×	(21)	22	93	O 3 a0	楕円形	42	×	37	12
60	N 4 j3	楕円形	27	×	23	20	94	O 3 a0	楕円形	28	×	21	20
61	O 4 a2	楕円形	28	×	25	40	95	O 4 a1	楕円形	28	×	23	24
62	O 4 a2	楕円形	26	×	20	22	96	O 4 b1	円形	30	×	29	26
63	O 4 a2	円形	21	×	20	26	97	O 4 b1	円形	22	×	21	22
64	O 4 a2	円形	35	×	32	34	98	O 4 b1	楕円形	32	×	25	20
65	O 4 a1	円形	25	×	25	25	99	O 4 b1	楕円形	41	×	29	24
66	O 4 a1	〔楕円形〕	(34)	×	(30)	18	100	O 4 c1	楕円形	37	×	29	36
67	O 4 a1	円形	27	×	26	22	101	O 4 c1	楕円形	36	×	32	34
68	O 4 a1	円形	24	×	22	16	102	O 4 c2	(円形)	24	×	(22)	22
69	O 4 a1	〔楕円形〕	28	×	(24)	20	103	O 4 c2	楕円形	31	×	25	52
70	O 4 a1	楕円形	31	×	28	30	104	N 4 i1	(円形)	38	×	(36)	24
71	O 4 a2	〔楕円形〕	36	×	(33)	26	105	N 4 i1	楕円形	31	×	25	18
72	O 4 a2	円形	31	×	29	24	106	N 4 j1	(円形)	(38)	×	35	32
73	N 4 i1	〔円形〕	22	×	(21)	18	107	N 4 j1	楕円形	31	×	28	22
74	N 4 i1	〔円形〕	(24)	×	(23)	12	108	N 4 j1	円形	27	×	26	24
75	N 4 i1	〔楕円形〕	33	×	(26)	28	109	O 4 a1	円形	23	×	21	12
76	N 4 j1	〔楕円形〕	(31)	×	24	18	110	N 3 j0	円形	30	×	29	24
77	N 4 j1	円形	22	×	21	32	111	N 3 j0	円形	33	×	31	38
78	N 4 j1	〔楕円形〕	27	×	19	20	112	N 3 a0	(円形)	(32)	×	32	24
79	O 4 a1	〔楕円形〕	(34)	×	(33)	22	113	N 4 i1	楕円形	44	×	39	24
80	N 4 j1	円形	22	×	21	22	114	O 4 a2	楕円形	22	×	20	30
81	O 4 a1	円形	18	×	18	16	115	O 4 a3	楕円形	21	×	19	34
82	O 4 a1	楕円形	33	×	29	26	116	O 4 a3	(円形)	(20)	×	19	16
83	O 4 a1	円形	21	×	20	8	117	O 4 a3	円形	25	×	24	20
84	O 4 a1	円形	18	×	17	14	118	O 4 a3	円形	21	×	20	12
85	O 4 a1	楕円形	35	×	30	26	119	N 3 j0	円形	40	×	40	32
86	O 4 a1	〔楕円形〕	24	×	(21)	18	120	N 4 j1	(楕円形)	(26)	×	19	8
87	O 4 a1	〔楕円形〕	(24)	×	(20)	22	121	N 4 i1	円形	22	×	21	8
88	O 4 a1	楕円形	20	×	18	24	122	N 4 i2	(楕円形)	(27)	×	(23)	24
89	O 4 a1	円形	22	×	21	14	123	N 4 j2	楕円形	21	×	16	48
90	O 4 a1	円形	25	×	23	16	124	O 4 a2	楕円形	24	×	18	48

表 48 第 73 号ピット群ピット計測表

ピット	位置	形状		規	模 (cm)		ピット	位置	形状	規模(cm)				
番号			長径	×	短径	深さ	番号	12. 匡		長径	×	短径	深さ	
1	M 4 a6	円形	28	×	26	24	8	M 4 b7	円形	33	×	33	15	
2	M 4 a6	円形	72	×	67	8	9	M 4 b6	楕円形	36	×	30	20	
3	M 4 a7	楕円形	60	×	52	55	10	M 4 c7	円形	40	×	40	20	
4	M 4 a6	楕円形	32	×	26	14	11	M 4 c8	円形	30	×	30	20	
5	M 4 b7	楕円形	53	×	48	16	12	M 4 a5	楕円形	62	×	54	12	
6	M 4 b7	楕円形	60	×	30	21	13	M 4 b5	楕円形	32	×	30	24	
7	M 4 b7	楕円形	26	×	23	11								







第382 図 第73 号ピット群実測図





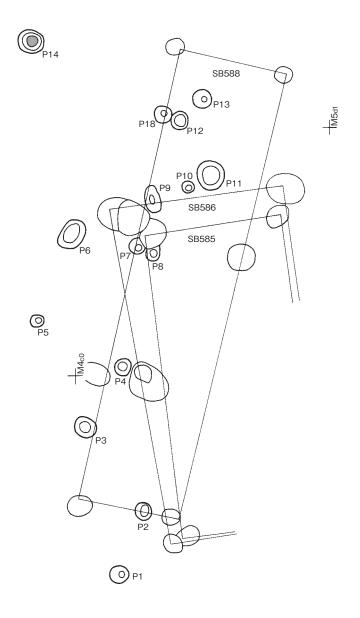




表 49 第 74 号ピット群ピット計測表

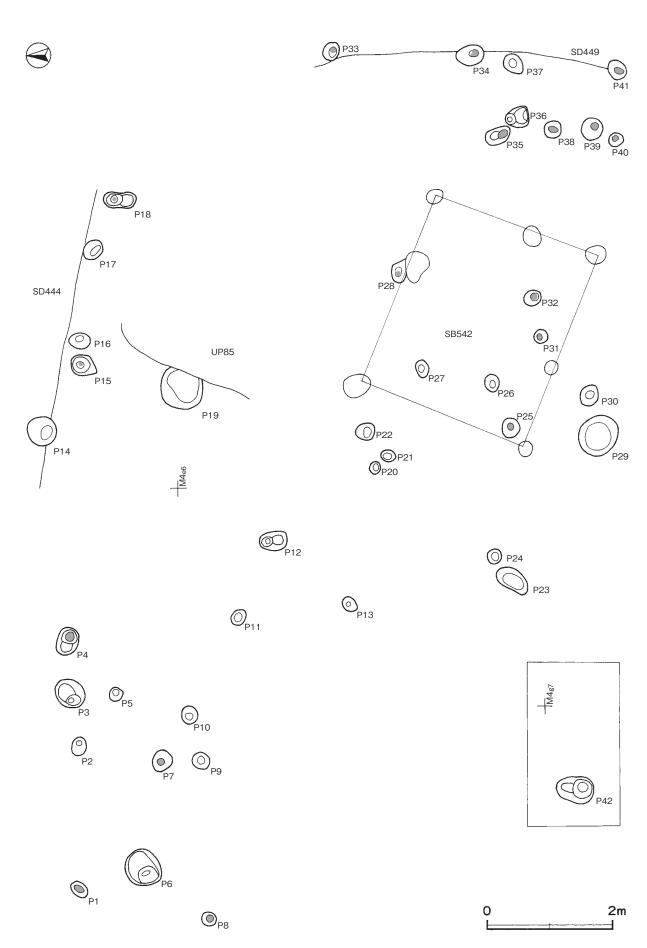
ピット	位置	形状		規	模 (cm)		ピット	/L DE	TE ATE		規	模 (cm)	
番 号	12. 直	形状	長径	×	短径	深さ	番 号	位置	形状	長径	×	短径	深さ
1	M 4 c9	円形	30	×	30	10	10	M 4 c0	円形	21	×	20	11
2	M 4 c9	円形	30	×	28	12	11	M 4 c0	円形	45	×	45	12
3	M 4 c9	円形	36	×	32	18	12	M 5 c1	円形	58	×	30	22
4	M 4 c0	円形	30	×	30	12	13	M 5 c1	円形	30	×	30	18
5	M 4 b0	円形	23	×	21	18	14	M 5 b1	楕円形	42	×	37	42
6	M 4 b0	楕円形	51	×	37	8	15	M 5 b1	楕円形	40	×	(22)	20
7	M 4 c0	円形	26	×	26	11	16	M 5 b1	不定形	52	×	(46)	34
8	M 4 c0	楕円形	22	×	(22)	6	17	M 5 c1	円形	44	×	44	22
9	M 4 c0	楕円形	44	×	26	18	18	M 5 c1	円形	28	×	28	20

表50 第75号ピット群ピット計測表

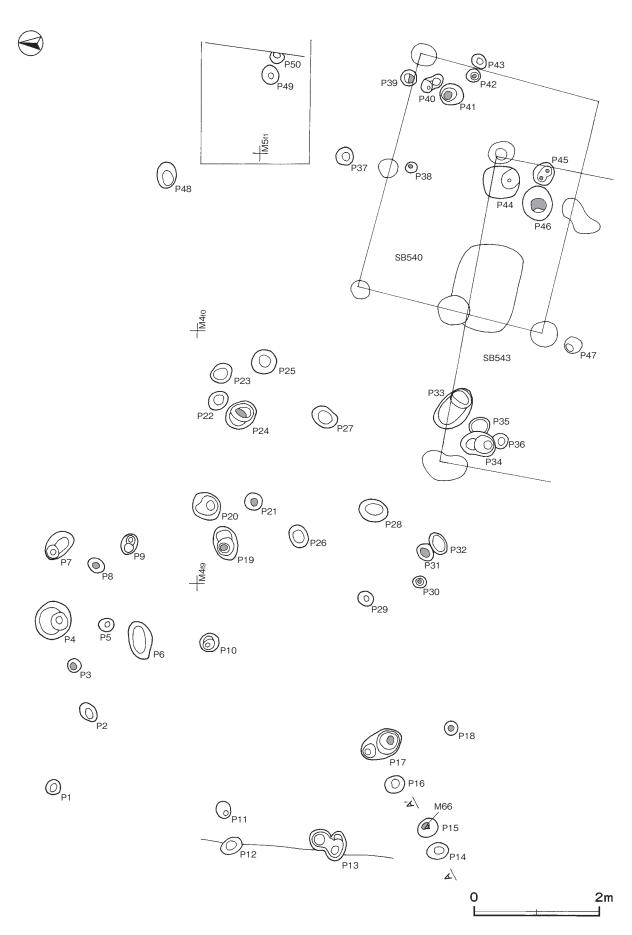
18 1				規	模 (cm)		ピット				規	模 (cm)	
ピット 番 号	位置	形状	長径	×	短径	深さ	番 号	位 置	形状	長径	×	短径	深さ
1	M 4 d4	楕円形	30	×	22	20	22	M 4 e6	楕円形	22	×	18	16
2	M 4 d4	楕円形	32	×	26	32	23	M 4 f5	楕円形	55	×	32	5
3	M 5 d5	楕円形	52	×	46	46	24	M 4 f5	楕円形	28	×	25	8
4	M 4 d5	楕円形	46	×	34	22	25	M 4 f6	円形	32	×	30	28
5	M 4 d5	円形	22	×	22	12	26	M 4 f6	楕円形	28	×	23	16
6	M 4 d4	楕円形	64	×	54	24	27	M 4 e6	楕円形	28	×	22	15
7	M 4 d4	円形	34	×	32	10	28	M 4 e6	楕円形	38	×	24	14
8	M 4 e4	円形	24	×	24	16	29	M 4 f5	楕円形	67	×	58	14
9	M 4 e4	円形	30	×	28	20	30	M 4 f6	楕円形	35	×	30	18
10	M 4 e5	楕円形	32	×	28	24	31	M 4 f6	楕円形	25	×	23	12
11	M 4 e5	楕円形	30	×	24	14	32	M 4 f6	楕円形	29	×	25	16
12	M 4 e5	楕円形	46	×	32	11	33	M 4 e7	楕円形	30	×	36	20
13	M 4 e5	楕円形	26	×	22	12	34	M 4 f7	楕円形	44	×	31	38
14	M 4 d6	円形	48	×	47	16	35	M 4 f7	楕円形	42	×	25	14
15	M 4 d6	不定形	36	×	32	16	36	M 4 f7	楕円形	42	×	33	18
16	M 4 d6	楕円形	35	×	25	18	37	M 4 f7	楕円形	37	×	28	14
17	M 4 d6	楕円形	36	×	29	17	38	M 4 f7	円形	30	×	28	18-
18	M 4 d7	楕円形	53	×	26	27	39	M 4 f7	円形	35	×	35	22
19	M 4 e6	(円形)	64	×	(60)	24	40	M 4 f7	円形	24	×	22	14
20	M 4 e6	円形	30	×	30	12	41	M 4 f7	円形	32	×	30	30
21	M 4 e6	楕円形	24	×	20	18	42	M 4 g6	楕円形	62	×	42	22

表51 第76号ピット群ピット計測表

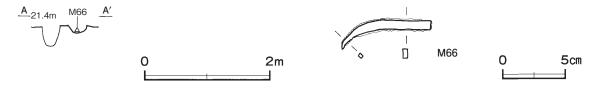
ピット	位置	形状		模 (cm)		ピット	位置	形状	規 模 (cm)				
番号			長径	×	短径	深さ	番号	17. 国.	// 1/K	長径	×	短径	深さ
1	M 4 e8	円形	24	×	24	22	6	M 4 e8	楕円形	62	×	37	18
2	M 4 e8	楕円形	37	×	25	14	7	M 4 e9	楕円形	53	×	37	14
3	M 4 e8	円形	26	×	24	5	8	M 4 e9	楕円形	28	×	24	16
4	M 4 e8	円形	60	×	60	14	9	M 4 e9	楕円形	33	×	25	24
5	M 4 e8	楕円形	25	×	22	14	10	M 4 f8	円形	30	×	30	20



第 384 図 第 75 号ピット群実測図



第 385 図 第 76 号ピット群実測図



第386図 第76号ピット群・出土遺物実測図

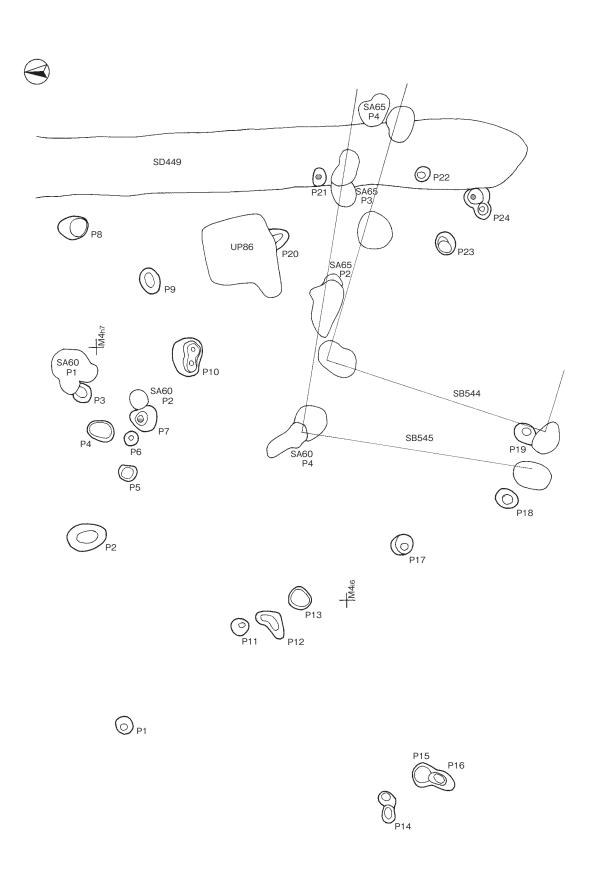
第76号ピット群出土遺物観察表(第386図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材	質		特	F	徴	出土位置	備	考
M66	釘力	(7.1)	0.8	0.3 ~ 0.4	(8.52)	鉄		片側部欠損	断面長方形			P 15 覆土中	PL92	

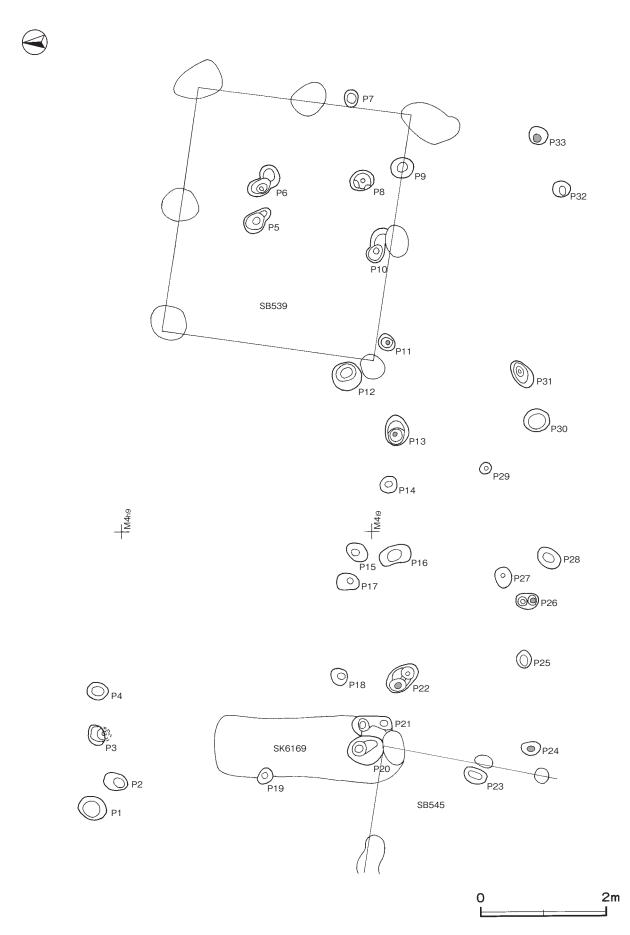
ピット	位 置	形状		規	模 (cm)		ピット	位置	形状		規	模 (cm)	
番号	17. 匡	15 10	長径	×	短径	深さ	番 号		115 11	長径	×	短径	深さ
11	M 4 f8	楕円形	32	×	26	24	31	M 4 f9	楕円形	28	×	23	6
12	M 4 f7	楕円形	28	×	22	16	32	M 4 f9	楕円形	39	×	28	16
13	M 4 f7	不定形	61	×	42	30	33	M 4 g9	楕円形	74	×	50	14
14	M 4 f7	楕円形	34	×	26	34	34	M 4 g9	不定形	56	×	38	28
15	M 4 f8	円形	31	×	29	12	35	M 4 g9	[楕円形]	32	×	(24)	6
16	M 4 f8	楕円形	32	×	29	18	36	M 4 g9	[楕円形]	24	×	(20)	-
17	M 4 f8	楕円形	68	×	45	27	37	M 4 f0	円形	28	×	26	10
18	M 4 g8	円形	23	×	22	10	38	M 4 f0	円形	18	×	18	20
19	M 4 f9	楕円形	54	×	39	15	39	M 5 f1	円形	28	×	26	10
20	M 4 f9	楕円形	47	×	41	26	40	M 4 f0	不定形	40	×	20	26
21	M 4 f9	円形	28	×	28	21	41	M 4 g0	円形	36	×	34	30
22	M 4 f9	円形	31	×	30	16	42	M 5 g1	円形	20	×	20	28
23	M 4 f9	円形	33	×	31	17	43	M 5 g1	楕円形	26	×	18	24
24	M 4 f9	楕円形	50	×	43	36	44	M 4 g0	楕円形	60	×	52	6
25	M 4 f9	円形	42	×	40	44	45	M 4 g0	楕円形	36	×	32	38
26	M 4 f9	楕円形	35	×	28	10	46	M 4 g0	楕円形	54	×	48	34
27	M 4 f9	楕円形	42	×	31	9	47	M 4 g9	円形	26	×	26	56
28	M 4 f9	楕円形	44	×	36	12	48	M 4 e0	楕円形	42	×	35	22
29	M 4 f8	楕円形	27	×	23	11	49	M 5 fl	円形	28	×	28	22
30	M 4 f9	楕円形	21	×	19	12	50	M 5 f1	[楕円形]	(22)	×	(18)	22

表52 第77号ピット群ピット計測表

ピット	位 置	形状		規	模 (cm)		ピット	位 置	形状		規	模 (cm)	
番 号	江 直	形机	長径	×	短径	深さ	番 号	12. 但	形机	長径	×	短径	深さ
1	M 4 h5	円形	28	×	27	42	10	M 4 h7	楕円形	62	×	46	48
2	M 4 g6	楕円形	63	×	45	32	11	M 4 h5	楕円形	30	×	27	12
3	M 4 g6	[楕円形]	29	×	(26)	10	12	M 4 h5	楕円形	58	×	30	10
4	M 4 h6	円形	45	×	34	12	13	M 4 h6	円形	38	×	35	9
5	M 4 h6	楕円形	29	×	25	34	14	M 4 i5	不定形	52	×	26	12
6	M 4 h6	楕円形	26	×	22	32	15	M 4 i5	[円形]	48	×	(38)	12
7	M 4 h6	楕円形	42	×	39	17	16	M 4 i5	楕円形	44	×	29	19
8	M 4 g7	楕円形	48	×	38	34	17	M 4 i6	楕円形	37	×	30	-
9	M 4 h7	楕円形	44	×	34	12	18	M 4 i6	楕円形	37	×	31	18







第388 図 第78号ピット群実測図

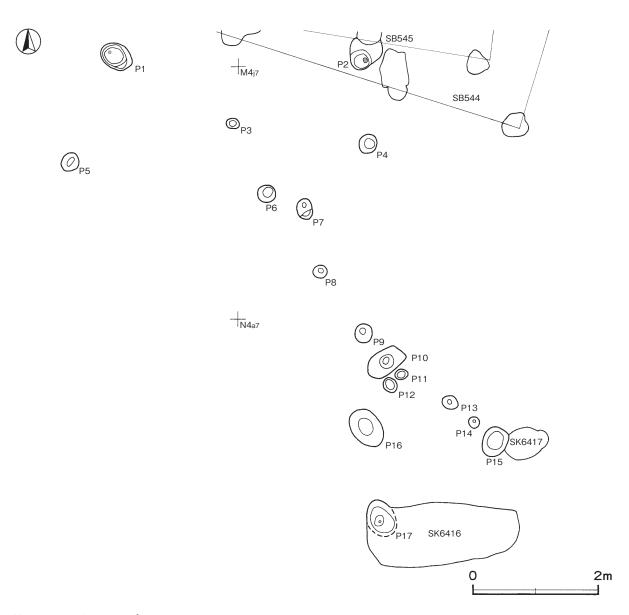
ピット	 	形状		規	模 (cm)		ピット	位置	形状		規	模 (cm)	
番号		15 10	長径	×	短径	深さ	番号	17. 国.	115 AV	長径	×	短径	深さ
19	M 4 i6	円形	26	×	25	38	22	M 4 i7	円形	26	×	24	26
20	M 4 h7	[楕円形]	31	×	(24)	28	23	M 4 i7	楕円形	37	×	33	20
21	M 4 h7	[楕円形]	28	×	(20)	-	24	M 4 i7	不整楕円形	54	×	46	16

表53 第78号ピット群ピット計測表

ピット	/L 00	all ya		規	模 (cm)		ピット	/L 122	TZ 415		規	模 (cm)	
番 号	位置	形状	長径	×	短径	深さ	番 号	位置	形状	長径	×	短径	深さ
1	M 4 g7	楕円形	45	×	38	18	18	M 4 h8	円形	24	×	24	16
2	M 4 g8	楕円形	40	×	28	12	19	M 4 h8	楕円形	27	×	22	-
3	M 4 g8	楕円形	37	×	32	16	20	M 4 h8	楕円形	59	×	49	30
4	M 4 g8	楕円形	34	×	30	12	21	M 4 h8	楕円形	64	×	(32)	30
5	M 4 h0	楕円形	49	×	32	36	22	M 4 i8	楕円形	58	×	34	32
6	M 4 h0	不整楕円形	59	×	35	22	23	M 4 i8	楕円形	37	×	26	20
7	M 4 h0	円形	29	×	28	18	24	M 4 i8	楕円形	31	×	22	28
8	M 4 h0	楕円形	38	×	33	14	25	M 4 i8	楕円形	28	×	24	34
9	M 4 i0	楕円形	37	×	33	30	26	M 4 i8	楕円形	37	×	24	22
10	M 4 i0	不定形	60	×	20	12	27	M 4 i8	楕円形	31	×	26	11
11	M 4 i9	円形	29	×	27	11	28	M 4 i8	楕円形	41	×	28	20
12	M 4 h9	円形	46	×	46	32	29	M 4 i9	円形	21	×	20	-
13	M 4 i9	楕円形	46	×	38	24	30	M 4 i9	楕円形	42	×	37	17
14	M 4 i9	円形	28	×	26	20	31	M 4 i9	楕円形	47	×	31	22
15	M 4 h8	楕円形	35	×	27	22	32	M 4 i0	円形	27	×	26	12
16	M 4 i9	楕円形	52	×	39	18	33	M 4 i0	円形	29	×	29	22
17	M 4 h8	楕円形	35	×	28	23							

表54 第79号ピット群ピット計測表

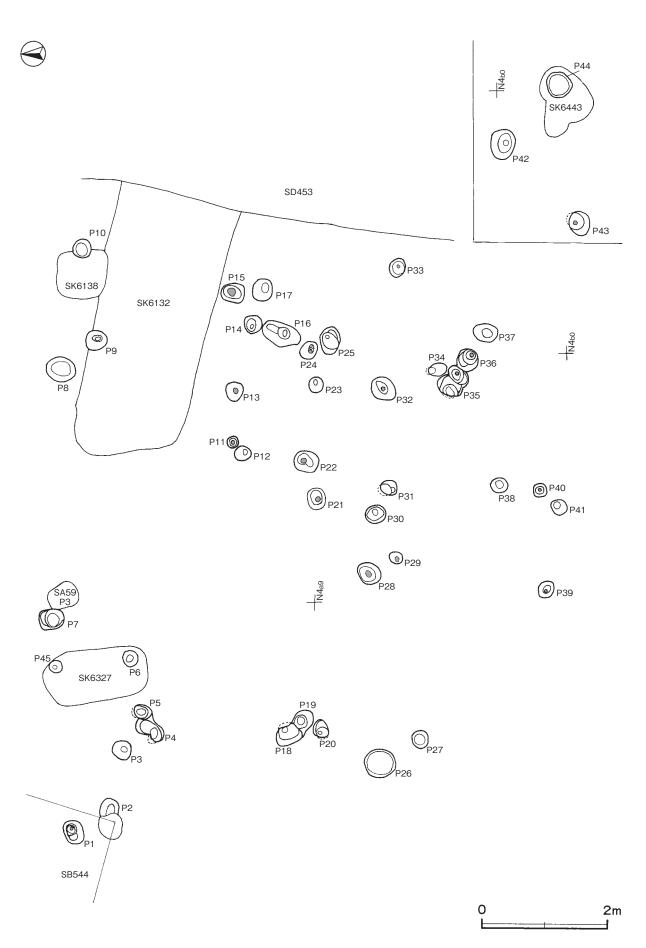
ピット	位置	形状		規	模(cm)		ピット	位 置	形状		規	模 (cm)	
番号		115 11	長径	×	短径	深さ	番号	17. 恒.	115 11	長径	×	短径	深さ
1	M4i6	楕円形	47	×	41	36	10	N4a7	不整楕円形	63	×	37	14
2	M4i7	楕円形	53	×	43	36	11	N4a7	楕円形	21	×	15	6
3	M4j6	楕円形	21	×	17	6	12	N4a7	楕円形	27	×	23	8
4	M4j7	楕円形	34	×	28	14	13	N4a7	楕円形	26	×	22	10
5	M4j6	円形	30	×	30	8	14	N4a7	円形	19	×	18	6
6	M4j7	円形	30	×	29	8	15	N4a8	楕円形	48	×	41	38
7	M4j7	楕円形	34	×	25	24	16	N4a7	楕円形	65	×	46	24
8	M4j7	円形	22	×	20	22	17	N4a7	[楕円形]	(58)	×	(47)	42
9	N4a7	円形	31	×	29	22							



第 389 図 第 79 号ピット群実測図

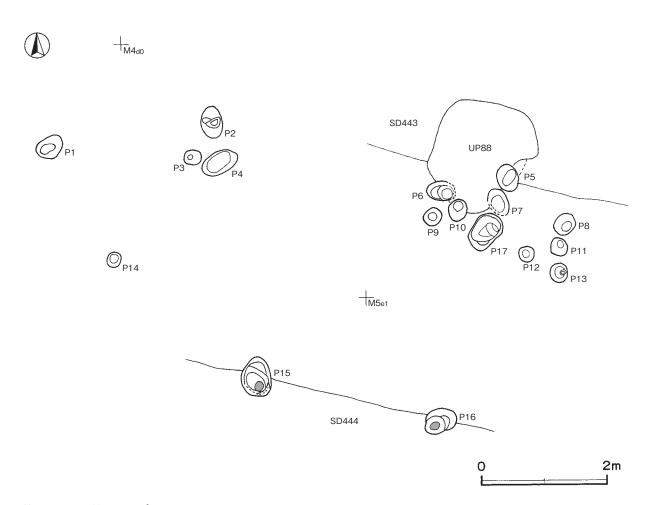
表 55 第 80 号ピット群ピット計測表

ピット	/- m	TIV AID		規	模 (cm)		ピット	在 單	π/41s.		規	模 (cm)	
番号	位置	形状	長径	×	短径	深さ	番 号	位置	形状	長径	×	短径	深さ
1	M 4 j8	楕円形	40	×	30	50	12	M 4 j9	楕円形	28	×	25	21
2	M 4 j8	不整楕円形	30	×	30	66	13	M 4 j9	楕円形	31	×	28	16
3	M 4 j8	円形	32	×	30	48	14	M 4 j0	円形	30	×	29	29
4	M 4 j8	不定形	50	×	36	46	15	M 4 j0	楕円形	38	×	31	15
5	M 4 j8	楕円形	30	×	24	36	16	M 4 j0	楕円形	63	×	36	34
6	M 4 j8	円形	27	×	25	22	17	M 4 j0	楕円形	38	×	34	20
7	M 4 i8	楕円形	39	×	32	37	18	M 4 j8	楕円形	40	×	30	62
8	M 4 j9	楕円形	47	×	40	22	19	M 4 j8	[楕円形]	(32)	×	30	44
9	M 4 j0	楕円形	35	×	31	46	20	N 4 a8	楕円形	30	×	26	22
10	M 4 j0	円形	30	×	30	16	21	N 4 a9	楕円形	35	×	30	16
11	M 4 j9	円形	18	×	17	_	22	M 4 j9	楕円形	39	×	33	21



第390図 第80号ピット群実測図

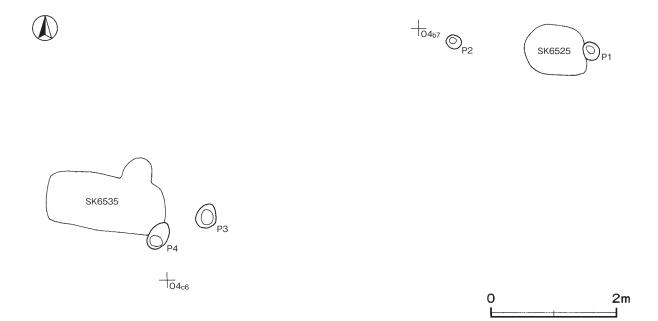
ピット	位 置	形状		規	模 (cm)		ピット	位置	形状		規	模 (cm)	
番 号	12. 恒	N> 1\	長径	×	短径	深さ	番 号	17. 直	ガシ 4人	長径	×	短径	深さ
23	N 4 a9	円形	25	×	24	45	35	N 4 a9	楕円形	47	×	41	50
24	N 4 j0	楕円形	28	×	25	14	36	N 4 a9	円形	36	×	34	52
25	N 4 a0	楕円形	45	×	26	24	37	N 4 a0	楕円形	40	×	29	30
26	N 4 a8	楕円形	50	×	45	6	38	N 4 a9	楕円形	29	×	26	10
27	N 4 a8	楕円形	30	×	26	12	39	N 4 a9	楕円形	36	×	26	18
28	N 4 a9	楕円形	41	×	34	4	40	N 4 a9	円形	24	×	22	20
29	N 4 a9	円形	23	×	22	8	41	N 4 a9	円形	27	×	26	8
30	N 4 a9	楕円形	33	×	29	22	42	N 4 b9	楕円形	47	×	41	22
31	N 4 a9	楕円形	30	×	25	54	43	N 4 b9	楕円形	39	×	35	10
32	N 4 a9	楕円形	44	×	34	26	44	N 4 b0	円形	43	×	42	36
33	N 4 a0	楕円形	31	×	24	22	45	M 4 i8	楕円形	21	×	18	24
34	N 4 a9	楕円形	30	×	22	38							



第391 図 第81 号ピット群実測図

表56 第81号ピット群ピット計測表

ピット	位置	形状		規	模 (cm)		ピット	位置	形状		規	模 (cm)	
番 号	12. 直	形机	長径	×	短径	深さ	番号	12. 匡	形机	長径	×	短径	深さ
1	M 4 d9	楕円形	44	×	32	18	10	M 5 d1	楕円形	34	×	30	42
2	M 4 d0	円形	52	×	48	40	11	M 5 d1	楕円形	30	×	27	34
3	M 4 d0	円形	28	×	25	34	12	M 5 d1	円形	26	×	25	12
4	M 4 d0	楕円形	64	×	35	20	13	M 5 d1	楕円形	30	×	26	22
5	M 5 d1	楕円形	45	×	37	12	14	M 4 d9	円形	25	×	23	6
6	M 5 d1	楕円形	46	×	32	30	15	M 4 e0	楕円形	64	×	48	54
7	M 5 d1	楕円形	46	×	35	8	16	M 5 e1	楕円形	53	×	38	50
8	M 5 d1	楕円形	37	×	31	27	17	M 5 d1	楕円形	60	×	44	36
9	M 5 d1	楕円形	31	×	28	27							



第392図 第82号ピット群実測図

表57 第82号ピット群ピット計測表

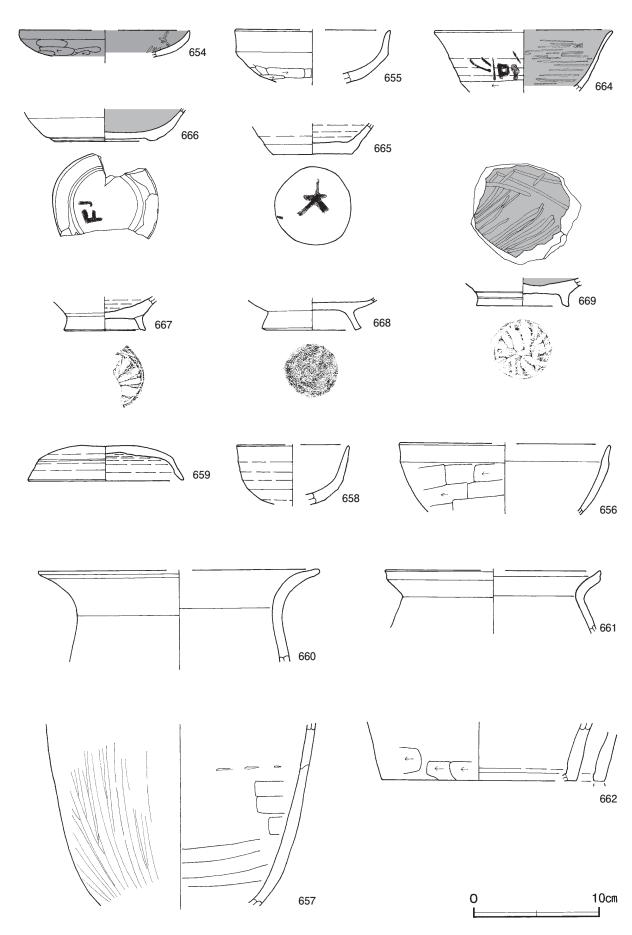
 ピット 番 号	位置	形状		規	模 (cm)		ピット	位置	形状		規	模 (cm)	
番号	12. 直	形机	長径	×	短径	深さ	番号	12. 直	形机	長径	×	短径	深さ
1	O 4 b7	円形	38	×	26	15	3	O 4 b6	楕円形	44	×	24	20
2	O 4 b7	楕円形	30	×	26	9	4	O 4 b5	楕円形	48	×	28	46

(6) 遺構外出土遺物 (第393~395図)

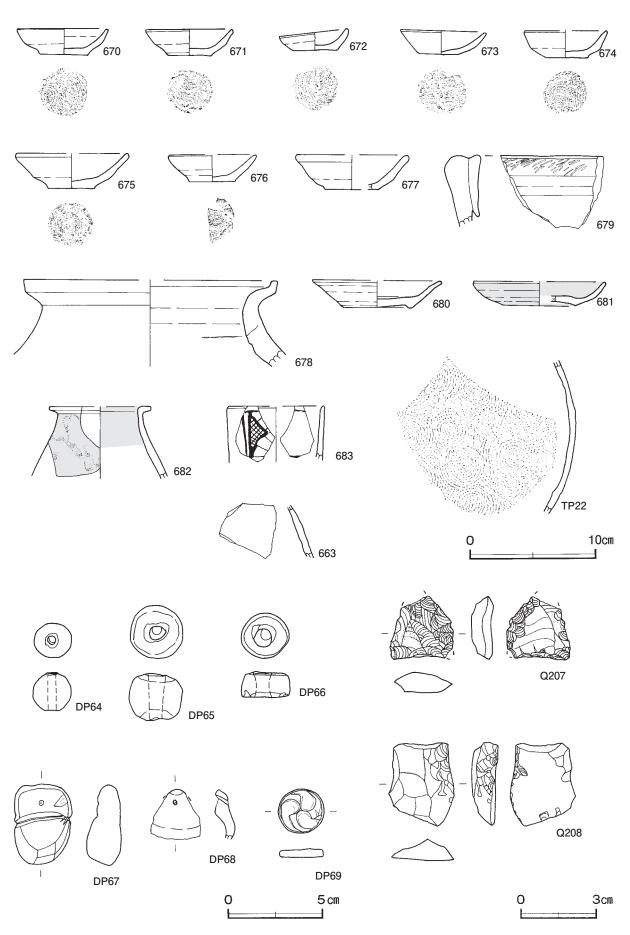
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。

遺構外出土遺物観察表 (第393~395図)

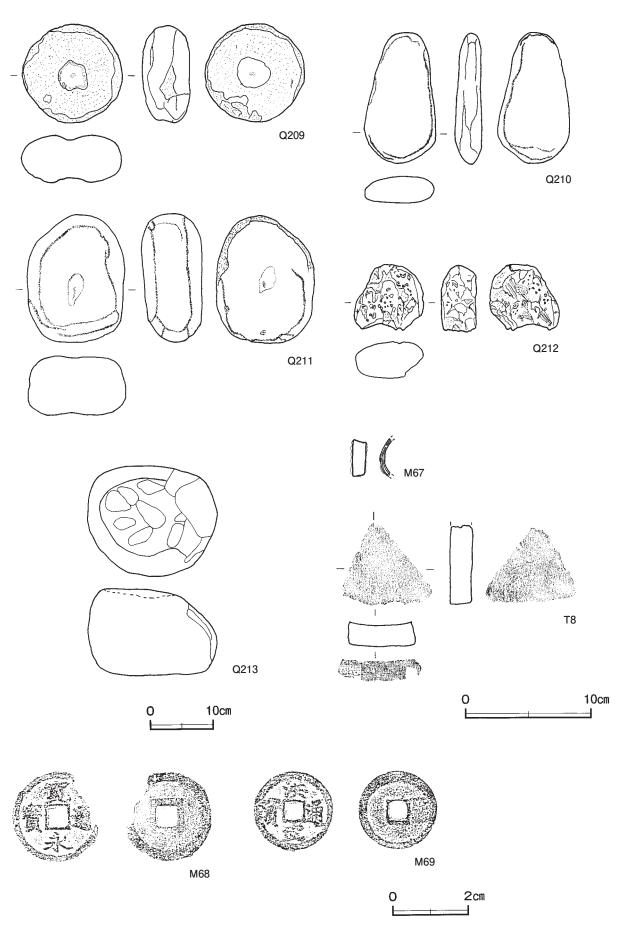
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
654	土師器	坏	[13.6]	(2.1)	-	長石・石英	黒褐	普通	体部外面へラ削り 内面へラ磨き	SK6098	5 %



第393 図 遺構外出土遺物実測図(1)



第394図 遺構外出土遺物実測図(2)



第395図 遺構外出土遺物実測図(3)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成		手法の	特徴ほ	か	出土位置	備	考
655	土師器	坏	[12.3]	(4,2)	-	長石・雲母・ 赤色粒子	・ にぶい 橙 普通 体部外面へラ削り 内面ナデ 口線部外・P 内面へラ削り 内面かり 内面かり 内面かり 内面かり 内面かり 内面かり 内面かり 内面か					最部外・内面	PG73 P 2	20%	
656	土師器	鉢	[16.8]	(5.5)	-	長石·石英·雲母· 赤色粒子	にぶい機管 普通 (格形外面へラ削り 内面・ア 口縁部外・内面(アラナデー (たぶい機管 普通)					ヘラ削り	SK6083	20%	
657	土師器	甑	_	(1.5)	-	石英・雲母	は、にぶい機 普通 体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外・ 内面板ナデ 体部外面へラ削り 内面のラナデ 体部外面のラカラ 内面のラナデ 機能が外・ 内面板ナデ 体部外面のラカリ 外・ 内面ロクロナデ 医母 にぶい機 普通 口縁部外・ 内面横ナデ 内面のラカリ 外・ 内面ロクロナデ 医母 にぶい機 普通 口縁部外・ 内面横ナデ 内面へラ磨き 塵間 人 体部外面ロクロナデ 内面へラ磨き 塵間 人 体部外面ロクロナデ 内面へラ磨き 塵間 人 体部外面ロクロナデ 内面へラ磨き 医部 医器 医母 にぶい機 普通 底部回転へラ削り 底部回転へラナデ 放射法へラ削り 底部回転へラナデ 放射法へラ削り 底部回転へリナデ 放射法へラ神印 底部回転糸切り後ナデ 内底面 仕上げナデ 放射法へラ神印 底部回転糸切り後ナデ 内底面 仕上げナデ 旅部回転糸切り後ナデ 内底面 仕上げナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面 仕上げナデ 底部回転糸切り後 カラナデ 内底面 仕上げナデ 底部回転糸切り後 カラナデ 内底面 仕上げナデ 原					ラナデ 内面	PG74 P14	10%	
658	須恵器	把手付椀	[8.8]	(4.8)	-	長石	は、 に ぶい 機 普通 体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外面に ぶい 黄橙 普通 保部外面 (本部外面 (本部外面 (本部外面 (本部外面 (本部)) (本部) (本部) (本部) (本部) (本部) (本部) (本部					トデ	表土 (04 a6)	20% 🖟	与 自 日産
659	須恵器	坏蓋	[12.2]	(2.9)	_	長石・石英	にぶい機 普通 体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外 横 が 下 口縁部外 下 内面へラ 門					ロナデ	第 104 号堀跡	20% 湖西産	PL86
660	土師器	甕	[22.4]	(7.4)	_	長石・石英・雲母	にぶい機 普通 体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外 横 が で はい						PG73 P 2	5 %	
661	土師器	甕	[17.2]	(5.0)	_	長石・石英	にぶい橙 普通 体部外面へラ削り 内面ナデ 口縁部外面へ見削り 内面のラナ・ にぶい黄橙 普通 西藤松 東井部回転へラ削り 外面ロクロナデ 原灰 普通 田縁部外・内面横ナデ 原灰 普通 田縁部外・内面横ナデ 原灰 普通 田縁部外・内面横ナデ 明赤褐 普通 田縁部外・内面横ナデ 明赤褐 普通 田縁部外・内面横ナデ 中部外面ロクロナデ 内面へラ磨き 一方向からの穿孔 上が、橙 普通 佐部外面ロクロナデ 内面へラ磨き 万」部 東部 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東						SK6024	10%	
662	須恵器	甑	_	(4.6)	[15.5]	長石・石英・雲母	にぶい整 普通 体部外面へラ削り 内面サデ 口縁部 サーにぶい黄檀 普通 内面のラカ (本部外面を) 内面の (本部外面の) 内面の (本部外面) 大田面の (本部) 大田面の (本語) 大田面の (本語) 大田面の (本語) 大田のの (本語) 大田ののの (本語) 大田のののののののののののののののののののののののののののののののののののの						SF30	5 %	
663	灰釉陶器	瓶類	_	(4.3)	_	長石・石英	にぶい機 普通 体部外面へラ削り 内面ナデ 口線 作業外面へラカア 体部外面へ 内面 体部外面へ 内面 体部外面 へ						SF30	5 %	
664	土師器	坏	[14.2]	(4.9)	_	長石・石英・雲母	世 にぶい					墨書「□	SE225	20%	PL86
665	須恵器	坏	_	(2.5)	6.2	長石・石英・雲母	展生物の表示					云ヘラ切り後	SE225	30%	PL86
666	土師器	高台付椀	_	(2.6)	[8.4]	長石・石英・雲母	灰白 普通 ロクロ成形 はぶい黄橙 普通 体部下端手持ちへラ削り 底部回 人 の				底部回転	SE225	30%	PL86	
667	土師器	高台付坏	_	(2.7)	[6.4]	長石・石英・雲母	はいでである。 であいっぱい であいまい であいまい であいっぱい ではいまい であいまい であいまい であいまい であいまい ではいまいまい ではいまいまい ではいまい ではいまいまい では				トデ 放射状	UP85	20%		
668	土師器	高台付椀	_	(2.6)	7.1	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通					第 97 号方形 竪穴遺構	60%	
669	土師器	高台付椀	_	(2.3)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通				底部回転へ	トレンチF	10%	
670	土師質土器	小皿	7.0	2.2	3.8	長石・石英・雲母	· 橙	普通	底部回転			录部凹み 仕	表土(調査区北部)	100%	PL86
671	土師質土器	小皿	6.9	2.2	3.6	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通		糸切り後ナテ	* 内底面仕」	ニげナデ	表土 (N 5 bl)	100%	PL86
672	土師質土器	小皿	5.3	1.7	3.6	長石·石英· 雲母·赤色粒子	橙	普通	底部回転	糸切り後ナテ	* 内底面仕」	ニげナデ	表土(調査区北部)	90%	PL86
673	土師質土器	小皿	6.8	2.0	3.8	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転	糸切り後へラ	ナデ 内底面	面仕上げナデ	PG 72 P 110 覆土中	90%	
674	土師質土器	小皿	[6.4]	2.2	3.4	長石・石英・雲母	□ □ □ 上げナデ □ □ 上げナデ □ □ □ 上げナデ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □				最部凹み 仕	表土(調査区北部)		PL86	
675	土師質土器	小皿	[8.8]	2.8	3.7	長石・石英・雲母	雲母 橙 普通 上げナデ 雲母 橙 普通 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周縁部 仕上げナデ					面周縁部凹み	PG72 P84	50%	PL86
676	土師質土器	小皿	[6.8]	2.2	[3.6]	長石・石英	雲母 たがで 自思 上げナデ 雲母 橙 普通 佐部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周糸 仕上げナデ にぶい橙 普通 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕」					面仕上げナデ	PG72 P84	40%	
677	土師質土器	小皿	[8.8]	2.8	[4.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙 普通 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上に						PG72 P 4	10%	
					,		素母 普通 底部回転糸切り後ナデ 内底面周縁部四。上げナデ 子 橙 普通 底部回転糸切り後ナデ 内底面仕上げナデ 子 橙 普通 底部回転糸切り後ハラナデ 内底面仕上げナデ 雲母 にぶい橙 普通 底部回転糸切り後ハラナデ 内底面周縁部四。上げナデ 内底面周縁部四。上げナデ 雲母 たぶい橙 普通 底部回転糸切り後ハラナデ 内底面周縁部四。上げナデ にぶい橙 普通 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ にぶい橙 普通 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面仕上げナデ 色調 絵 付 釉 色 産 地 年 大場 にぶい赤褐 青滑 13 は ボ滑 15 は ボ滑 15 ボ滑 15 ボ滑 15 ボ滑 15 ボース ボース 下 下 17 C 下 下 17 C 下 下 17 C 下 17 C 18 C 18 C 17 C 18 C								
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	母 黄灰 普通 体部外面下端へラ削り						出土位置	備	考
678	陶器	甕	[20.2]	(6.7)	_	長石・石英	1					13 C後	SD452	30%	PL86
679	陶器	甕	_	(5.8)	_	長石・石英	雲母 にぶい橙 普通 底部回転糸切り後ナデ 内底面周線上げナデ 内底面 原部回転糸切り後ヘラナデ 内底 住上げナデ にぶい橙 普通 底部回転糸切り 後ヘラナデ 内底 底部回転糸切り 内底面仕上げナテ 内底 でぶい橙 普通 底部回転糸切り 内底面仕上げナテ クロボール 大変 一 浅黄 常滑 下機 ー にぶい赤褐 常滑 浅黄橙 ー 灰白 瀬戸 灰 ー 暗赤褐 瀬戸・美濃 灰白 ー 灰オリーブ 志戸呂ヵ				15 C後	SE231	5 %		
680	陶器	Ш	[10.2]	2.2	5.6	長石・石英	浅黄橙		-	灰白	瀬戸	15 C後	SD503	40%	
681	陶器	Ш	[10.5]	1.9	[5.8]	長石・石英	灰		_	暗赤褐	瀬戸・美濃	17 C後半	PG78 P20	30%	
682	陶器	甕	[8.0]	(5.8)	-	長石	灰白		-	灰オリーブ	志戸呂ヵ	17 C末~ 18 C 前	SK6179	10%	
683	陶器	小碗	[7.5]	(4.4)	-	精良	灰白		染付	透明	瀬戸・美濃系		表土	5 %	
		,			,						,				
番号	種 別	器種	J	胎 土	:	色 調			文 様	の特徴	ほか		出土位置	備	考
TP22	須恵器	甕	長石・	石英・雲	母	褐灰	体部外面同	心円	文叩き				UP83		
番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色 調			特	徴		出土位置	備	考
DP64	土玉	2.0	2.0	0.4	7.05	長石・石英	浅黄	ナ	デ 一方[句からの穿孔			SB586 P 2	PL87	
DP65	土玉	2.8	2.5	0.9	19.1	長石・石英	にぶい橙	ナ	デ 一方[句からの穿孔			第 104 号堀跡	PL87	
DP66	土玉	2.6	1.4	0.9 ~ 1.0	9.39	長石・石英	明赤褐	ナ	デ 一方[SK6121	PL87	
DP67	1 00	4.3	3.0	1.8	30.5	長石・石英	橙	上	部に径2m	mの孔 中央	に一字形の溝	<u>.</u>	第 104 号堀跡	PL87	
	土錘					l					ar.		DI 07		
DP68	土鉾	(2.7)	(2.6)	0.4	(5.02)	長石	黒 外・内面ナデ 上部に径2mmの孔1か所				'HT	PG72 P 4	PL87		
DP68		(2.7)	(2.6)	0.4	(5.02)	長石	黒	7 1	· PIED /	デー上部に径	Z IIIIIV77L I A	·H/T	PG72 P 4	PL87	
DP68 番号		(2.7)	(2.6)	0.4	(5.02)	長石 胎 土			· [1]国 / .			יאין	PG72 P 4 出土位置		考
	土鈴											דערי		備	考
番号	土鈴 器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調					нут 	出土位置	備	考
番号	土鈴 器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調 特 徴 黄橙 三巴文					нут 	出土位置	備 PL87	考
番号 DP69	土鈴 器 種 泥面子	径 2.4	厚さ 0.5	孔径	重量 3.50	胎 土 長石·石英	色調		巴文	特	徴	.	出土位置表採(調査区北部)	備 PL87	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 貿	Ę.			特	出土位置	備	考
Q 208	剥片	3.3	2.6	1.1	9.20	頁岩		凹基無素	を鏃 i	両端部欠損	SE228	PL87	
Q 209	磨石	9.8	8.9	3.8	322.5	安山岩		凹痕表 1	・裏	1 か所 両面磨痕	表土(調査区南部)		
Q 210	磨石	10.3	7.7	4.8	322.5	安山岩		凹痕表 1	・裏	1 か所 全面磨痕	表土(調査区南部)		
Q 211	磨石	10.4	5.7	2.2	200.3	安山岩		両面磨疽	复		SK6180		
Q 212	浮子力	(5.2)	5.6	2.9	(41.4)	軽石		全面磨痕	复		SK6430		
Q 213	五輪塔	17.6	(20.6)	13.8	(9,500)	花崗岩		水輪 」	上面ノ	ミ状工具による加工痕 約 1/3 欠損	SD448		
Q 214	五輪塔	(20.0)	(14.2)	12.4	(6,400)	花崗岩		空風輪	約 1/	2欠損	表土(調査区北部)	計測値	のみ
Q 215	五輪塔	(24.8)	(25.8)	11.4	(13,000)	花崗岩		火輪 車	F先わ	ずかに外反 一部欠損	表土(調査区北部)	計測値	のみ
Q 216	五輪塔	25.0	24.2	17.0	23,800	花崗岩		地輪 」	上面ノ	ミ状工具による加工痕 断面長方形	表土(調査区南部)	計測値	のみ
Q 217	宝篋印塔	(18.0)	(22.6)	(16.4)	(10,600)	花崗岩		基礎 」	上面皿	伏の凹みあり 断面方形状の凹みあり	表土(調査区北部)	計測値	のみ
Q 218	宝篋印塔	(19.8)	(21.8)	(16.2)	(15,200)	花崗岩		基礎 」	上面皿	伏の凹みあり 断面方形状の凹みあり	表土(調査区北部)	計測値	のみ
Q 219	宝篋印塔	(26.4)	(26.0)	16.2	(14,000)	花崗岩		笠部 車	F先外,	又 約 1/2 欠損	表土(調査区北部)	計測値	のみ
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	Ĩ			特 徵	出土位置	備	考
M67	責金具,	(2.9)	1.1	0.2 ~ 0.3	(3.46)	鉄		両端部砌	支損 3	浅存中央部でゆるやかに屈曲	SK6110	PL92	
番号	銭 種	径	厚さ	孔径	重量	材質	初	鋳 年		特 徵	出土位置	備	考
M68	寛永通寶	2.4	1.20	0.5	1.80	銅	16	636 年	古寛	永 無背	表土(調査区南部)	PL92	
M69	洪武通寶	2.1	1.71	0.4	2.26	銅	13	368 年	無背		表採(調査区南部)	PL92	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土		色調	焼成	特 徵	出土位置	備	考
Т8	平瓦	(6.3)	(7.6)	1.8	(79.7)	長石		灰	普通	「平古」の刻印	表採(調査区南部)		

第6節 16区の遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟、土坑2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 3155 号竪穴建物跡 (第 396 · 397 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 5 c8 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3156 号竪穴建物跡を掘り込み、第594 号掘立柱建物、第221 号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.30 m, 短軸 6.10 mの方形で, 主軸方向はN-2°-Wである。床面の近くまで削平されて いるため、壁高は2~14cmで、遺存している壁は外傾して立ち上がっている。

床 やや凸凹があり、中央部から北部が踏み固められている。南西部の一部を除き、壁下には、幅12~25cm、 深さ3~4cmで、浅いU字形の壁溝が巡っている。

電 北壁中央部で袖部と火床部の痕跡を確認した。確認できた規模は焚口部から煙道部まで99cmで、燃焼部 幅は53cmである。火床部は赤変している。

ピット 11か所。P1~P4は深さ74~80cmで、規模と配置から主柱穴である。P5~P7は深さ17~28cmで、 南壁際のほぼ中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P8~P11は深さ20 ~ 48cmで, 性格は不明である。

貯蔵穴 北壁際の竈の東側に位置し、長径 104cm、短径 73cmの楕円形で、深さ 27cmである。底面は皿状で、 西壁の中位に段を有し、そのほかの壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

5 にぶい黄褐色 ローム粒子少量

2 暗 褐 色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土 粒子微量

6 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 7 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

3 灰黄褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子 8 褐 色 ローム粒子中量

微量 4 にぶい赤褐色 焼土粒子中量,炭化粒子少量,ローム粒子微量

9 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 10 褐 灰 色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

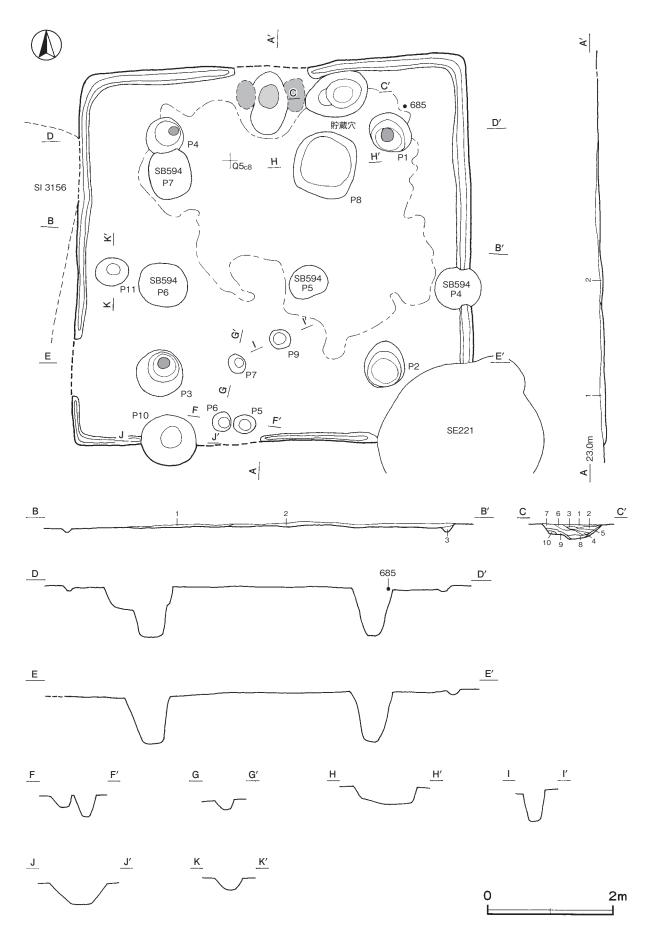
2 にぶい褐色 ロームブロック少量

3 裾 色 ロームブロック少量

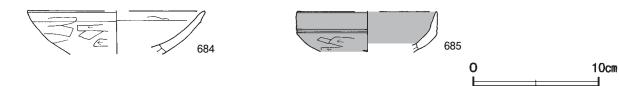
遺物出土状況 土師器片71点(坏12,高坏1,甕類58),須恵器片6点(坏3,甕類3)が出土している。

685 は北東部の覆土下層から、684 は P 6 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から7世紀前葉に比定できる。



第396図 第3155号竪穴建物跡実測図



第397図 第3155号竪穴建物跡出土遺物実測図

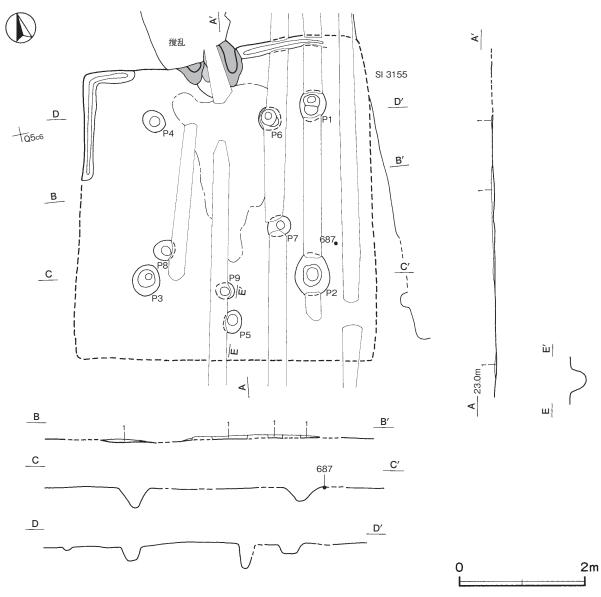
第3155号竪穴建物跡出土遺物観察表(第397図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土		焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
684	土師器	坏	[14.0]	(3.4)	-				口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土中	5 %
685	土師器	坏	[11.0]	(3.2)	-	長石・石英・赤 色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	5 %

第 3156 号竪穴建物跡 (第 398·399 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 5 c6 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。



第398図 第3156号竪穴建物跡実測図

重複関係 第3155号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 上部が削平されており、北西コーナー部の壁溝やピットの配置から、規模は一辺 5.0~mほどの方形または長方形と推定される。主軸方向はN-8°-Eである。壁高は北西コーナー部で 2~cmほどを確認した。 **床** 平坦で、竈前が踏み固められている。竈東側の北壁下及び北西コーナー部の壁下で、幅 $14\sim21~cm$ 、深さ $2\sim4~cm$ で、浅い U字形の壁溝を確認した。

ピット 9か所。 $P1\sim P4$ は深さ $17\sim 32$ cmで,配置から主柱穴である。P5は深さ 24cmで,竈と向き合う 南壁際付近に位置していることから,出入り口施設に伴うピットと考えられる。 $P6\sim P9$ は深さ $56\sim 77$ cmで,性格は不明である。

電 北壁中央部に袖部と火床部の一部を確認した。確認できた規模は焚口部から煙道部まで91cmで、燃焼部幅は42cmである。火床部は赤変している。煙道部の壁外への掘り込みは31cmのみ確認した。

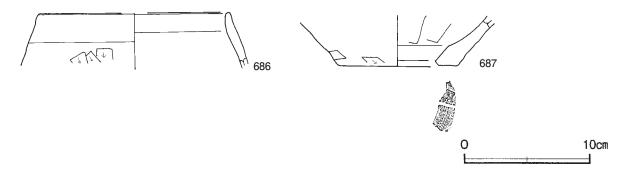
覆土 単一層である。薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 31 点 (坏 4, 高坏 1, 壺 1, 甕類 24, 甑 1), 須恵器片 2 点 (坏, 甕) が出土している。 687 は南東部の床面から, 686 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第399 図 第3156 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3156号竪穴建物跡出土遺物観察表(第399図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
686	土師器	壺	[15.0]	(4.1)	-	長石・石英	明赤褐		口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中	5 %
687	土師器	甑	-	(4.0)	[9.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 下端へラ削り後ナデ 内面へラ ナデ 孔有り	床面	5% 外面煤付着

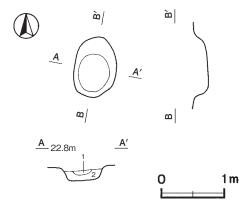
表 83 古墳時代竪穴建物跡一覧表

来早	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高	床面	壁溝		内	部施	設		覆土.	主な出っ	上書舫	時期	備考
田力			十四ル	長軸×短軸(m)	(cm)		至件	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	1发丄.	工な四コ	L.風初	时 树)HI 45
3155	Q5c8	N - 2° - W	方形	6.30 × 6.10	$2 \sim 14$	やや 凸凹	ほぽ 全周	4	3	4	箍1	1	人為	土師器片,	須恵器片	7世紀前葉	SI3156→本跡 → SB594, SE221
3156	Q5c6	N - 8° - E	[方形· 長方形]	$[5.0 \times 5.0]$	2	平坦	一部	4	1	4	箍1	-	不明	土師器片,	須恵器片	6世紀後葉	本跡→ 3155

(2) 土坑

第7154号土坑 (第400図)

調査年度 平成 23 年度



第 400 図 第 7154 号土坑実測図

位置 16 区北東部の P 6 a9 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位 置している。

規模と形状 長径 0.98 m, 短径 0.67 mの楕円形で, 長径方向は N - $10\degree$ - Eである。深さは 20cmで,底面は平坦である。壁は 外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれている ことから埋め戻されている。

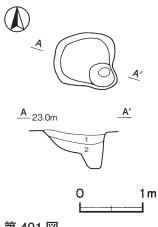
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 6点(甕)が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。 **所見** 時期は、出土土器から6世紀代と考えられる。性格は不明である。

第 7279 号土坑 (第 401 図)



第 401 図

第7279号土坑実測図

調査年度 平成23年度

位置 16 区中央部のQ 5 e8 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。 規模と形状 長軸 1.12 m. 短軸 1.08 mの隅丸方形で、長軸方向は N - 57°-Wである。深さは53cmで、底面は平坦である。南東コーナー部に径46cmで、 底面からの深さ53cmのピット状の掘り込みをもつ。壁は、緩やかに外傾して 立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから埋め 戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片4点(坏1,甕3)が覆土中から出土している。いず れも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から6世紀代と考えられる。性格は不明である。

表 84 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規	模	底 面	壁面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備考
田力		区住力円	1 四 //2	長径×短径 (m)	深さ (cm)	展 田	至叫	1及 丄.	土な田工度初	/m 15
7154	P6a9	N - 10° - E	楕円形	0.98×0.67	20	平坦	外傾	人為	土師器片	
7279	Q5e8	N - 57° - W	隅丸方形	1.12 × 1.08	53	平坦	緩斜	人為	土師器片	

2 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

土坑

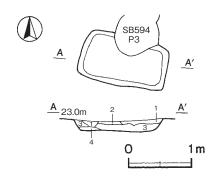
第7256号土坑 (第402図)

調査年度 平成23年度

位置 16 区中央部のQ 5 c9 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第594号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 1.39 m, 短軸 0.80 mの長方形で, 長軸方向はN-78°-Wである。深さは 20cmで, 底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。



第 402 図 第 7256 号土坑実測図

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 炭化物少量, ロームブロック・焼土粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 4 点 (甕), 須恵器片 1 点 (甕) が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。性格は不明である。

第 7262 号土坑 (第 403 図)

調査年度 平成23年度

位置 16 区中央部のQ 5 a3 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.03 m, 短径 0.90 mの楕円形で, 長径方向はN - 83°-Eである。深さは 38cmで, 底面は 平坦である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量

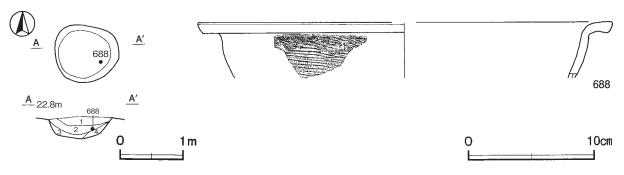
3 にぶい黄褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

4 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 7 点 (甕), 須恵器片 3 点 (鉢) が覆土中から出土している。688 は東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



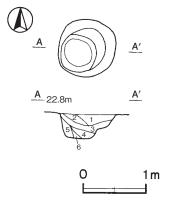
第 **403** 図 第 7262 号土坑 · 出土遺物実測図

第7262 号土坑出土遺物観察表(第403 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
688	須恵器	鉢	[32.8]	(4.5)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 外面横位の叩き 内面ナデ	覆土下層	5 %

第7264号土坑 (第404図)

調査年度 平成 23 年度



第 404 図

第7264号土坑実測図

位置 16 区中央部のQ 5 c3 区, 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。 規模と形状 長径 0.97 m, 短径 0.90 mの円形で, 深さは 39cm, 底面は平坦 である。壁は西部はほぼ直立し, 北東部は中位に段を有し, 緩やかに外傾し て立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 5 点 (坏1,甕4),須恵器片 1 点 (甕)が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。性格は不明である。

表 85 奈良時代土坑一覧表

		長径方向	平面形	規	模	底 面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
省万		女任万円	干曲形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 囲	生 田	復 工	土な田工退物	1/H 45
7256	Q5c9	N - 78° - W	長方形	1.39 × 0.80	20	平坦	外傾	人為	土師器片,須恵器片	本跡→ SB594
7262	Q5a3	N - 83° - E	楕円形	1.03 × 0.90	38	平坦	緩斜	人為	土師器片,須恵器片	
7264	Q5c3	_	円形	0.97×0.90	39	平坦	緩斜	人為	土師器片,須恵器片	

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 1 棟、掘立柱建物跡 1 棟、井戸跡 1 基、土坑 4 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 3159 号竪穴建物跡 (第 405 図)

調査年度 平成 24 年度

位置 16 区東部のQ 6 f6 区, 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7294A 号土坑, 第152A・152B 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を第152B 号溝に、西部を第152A 号溝に掘り込まれ、南部が調査区外に延びているため、

南北軸は 3.55 m,東西軸は 3.53 m しか確認できなかった。方形または長方形と推定され,主軸方向はN - 8° - Eである。壁高は $4\sim10$ cmで,ほぼ直立している。

床 平坦で、竈前から中央部にかけてが踏み固められている。確認できた範囲の壁下には、幅 $18\sim 29$ cm、深 さ $8\sim 12$ cmで、断面 U字形の壁溝が巡っている。

電 西半分が第 152B 号溝に掘り込まれ、遺存する東半分も上部を削平されているため、右袖部と煙道の一部のみを確認した。確認できた規模は焚口部から煙道部まで 67cmで、燃焼部幅は 18cmのみである。煙道部は壁外に 24cm掘り込まれている。

ピット 6か所。 $P1\sim P3$ は深さ $23\sim 35$ cmで,配置から主柱穴である。P4は深さ 18cmで,南壁付近の竈と向き合う場所に位置していることから,出入り口施設に伴うピットと考えられる。 $P5\cdot P6$ は深さ 24cm・21cmで,性格不明である。

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームや焼土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

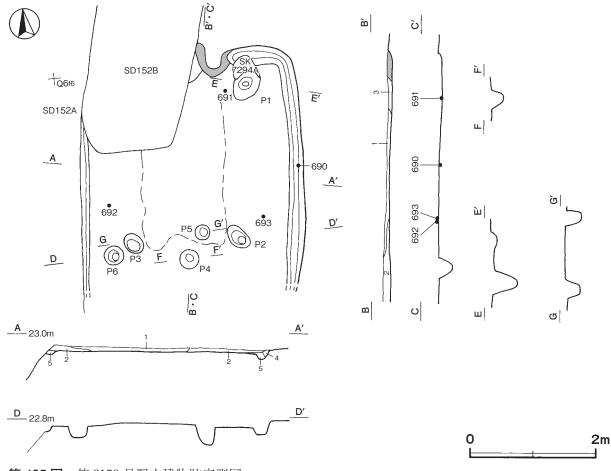
1 黒 褐 色 炭化材・焼土ブロック少量、ロームブロック微量 4 灰 黄 褐 色 ロームブロック中量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 5 黒 褐 色 ロームブロック少量

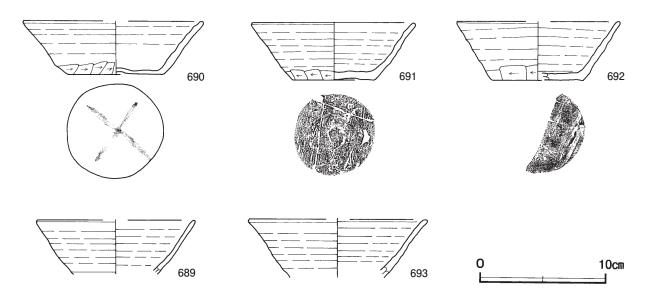
3 褐 灰 色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片 32 点 (坏 3, 椀 2, 甕類 27), 須恵器片 15 点 (坏 12, 鉢 1, 長頸瓶 1, 甕 1) が覆 土中から散在して出土している。690 は東部の壁溝から, 691 は北東部の床面からそれぞれ出土している。692 は南西部、693 は南東部の覆土下層から、689 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉に比定できる。



第 405 図 第 3159 号竪穴建物跡実測図



第 406 図 第 3159 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3159号竪穴建物跡出土遺物観察表(第406図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
689	土師器	坏	[12.4]	(4.3)	-	長石・石英・雲 母・赤色粒子	黄橙	普通	ロクロナデ	覆土中	5 %
690	須恵器	坏	[14.2]	4.2	7.4	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	ロクロナデ 体部下端手持ちへラ削り 底部多方向のヘラ削り 墨書「十ヵ」	壁溝	60%
691	須恵器	坏	12.8	4.6	6.5	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 体部下端手持ちへラ削り 底部多 方向のヘラ削り	床面	60% PL101
692	須恵器	坏	[12.8]	4.7	[7.2]	長石・石英	灰黄褐	普通	ロクロナデ 体部下端手持ちへラ削り 底部一 方向のヘラ削り	覆土下層	30%
693	須恵器	坏	[14.2]	(4.5)	-	長石・石英・雲 母・黒色粒子	褐灰	普通	ロクロナデ	覆土下層	20%

(2) 掘立柱建物跡

第 485 号掘立柱建物跡 (第 407 図)

調査年度 中央部から南平にかけての $P1 \sim P6$ を平成 17年度に調査し、『第280集』にて報告している。北平の $P7 \sim P10$ は平成23年度に調査した。

位置 16 区中央部のQ 5 f9 区. 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7297A 号土坑を掘り込んでいる。第4458・4459 号土坑と重複しているが,新旧関係は不明である。 **規模と構造** 桁行3間,梁行2間の側柱建物跡で,桁行方向がN-89°-Eの東西棟である。規模は,桁行5.4 m,梁行4.2 mで,面積は22.68㎡である。柱間寸法は,桁行が1.8 m(6尺),梁行が2.1 m(7尺)である。 柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 78~115cm、 短径 64~98cmである。深さは 27~53cmである。

土層解説 (各柱穴共通)

 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 5 褐 色 ロームブロック少量

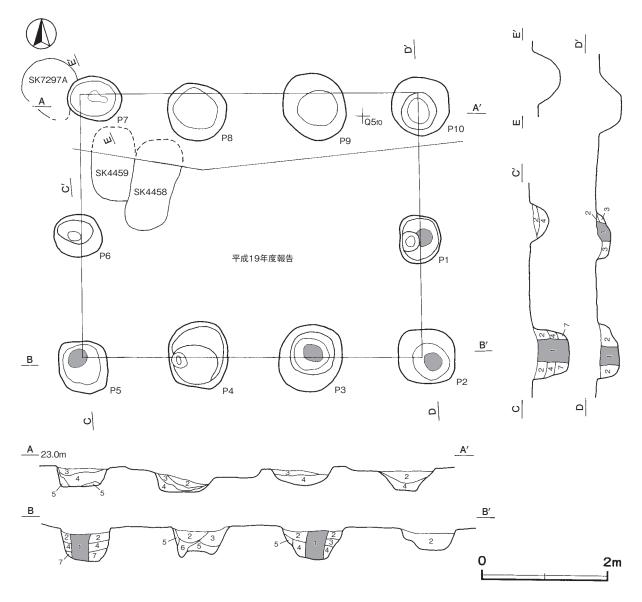
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
 6 黒 褐 色 ロームブロック微量

 3 褐 色 ロームブロック中量
 7 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

4 暗 褐 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 $P1 \sim P6$ の出土遺物については『第 280 集』を参照されたい。 $P7 \sim P10$ からは土師器片 10 点(坏 2 , 甕類 8) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 規模や形状から, 倉庫としての機能が想定される。時期は, 『第280集』では9世紀後半と報告されており, 今回の調査においても, 出土土器や重複関係から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第407図 第485号掘立柱建物跡実測図

(3) 井戸跡

第 220 号井戸跡 (第 $408 \sim 411$ 図)

調査年度 平成23年度

位置 16 区中央部のQ 6 b1 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径 1.20 m, 短径 1.10 mの円形で, 円筒状に掘り込まれている。深さ 1.88 mまで掘り下げた時点で湧水のため, 下部の調査を断念した。

覆土 7層に分層できる。ロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

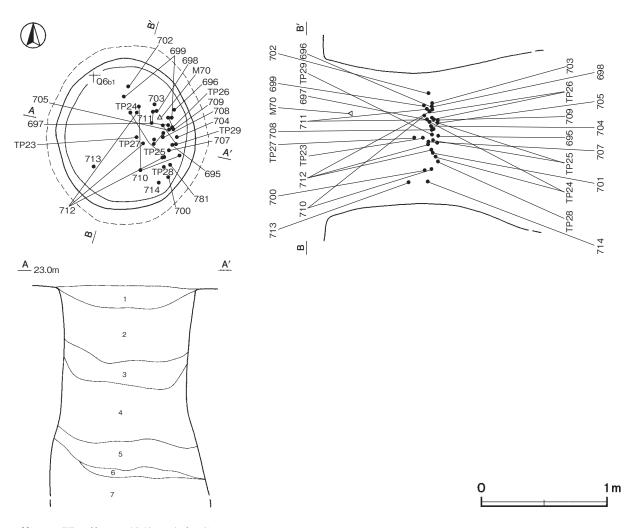
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 2 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土 5 暗オリーブ橋 ロームブロック多量 粒子微量 6 にぶい褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック 4 にぶい褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック・粘土ブロック・増土ブロック中量。ロームブロック・焼土

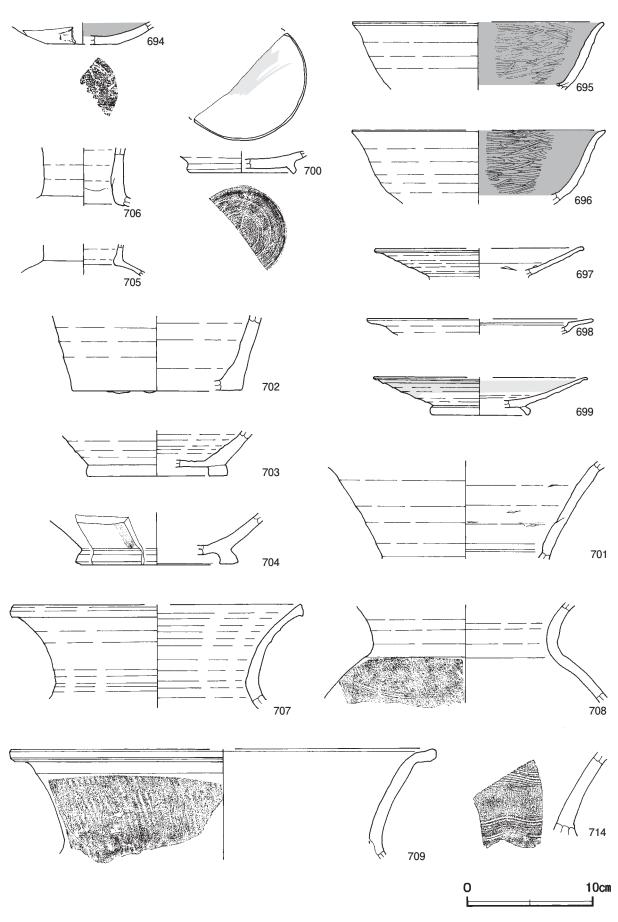
遺物出土状況 土師器片 29 点 (坏 9, 甕類 20), 須恵器片 100 点 (坏 4, 壺 3, 長頸瓶 1, 瓶類 3, 甕類 82,

大甕7),灰釉陶器片 20点(皿4,高台付皿1,瓶類7,壺3,甕5),銭貨1点(咸平元寶)が,東半部の覆土中層を中心に出土している。 $695\sim698\cdot704\cdot705\cdot707\sim709\cdot\text{TP23}$ はそれぞれ東部の覆土中層から出土している。TP27 は中央部,702 は北部,703 は北東部,713 は北西部,700・701・714・TP28 は南東部のそれぞれ覆土中層から出土している。711・TP25・TP26・TP29 は東部,712 は中央部, $699\cdot710\cdot\text{TP24}$ は中央部と東部のそれぞれ覆土中層から出土した破片が接合したものである。M 70 は東部の覆土上層から, $694\cdot706$ は覆土中からそれぞれ出土している。接合関係にある土器片が少なく,多くの破片が重なり合った状態で出土している。

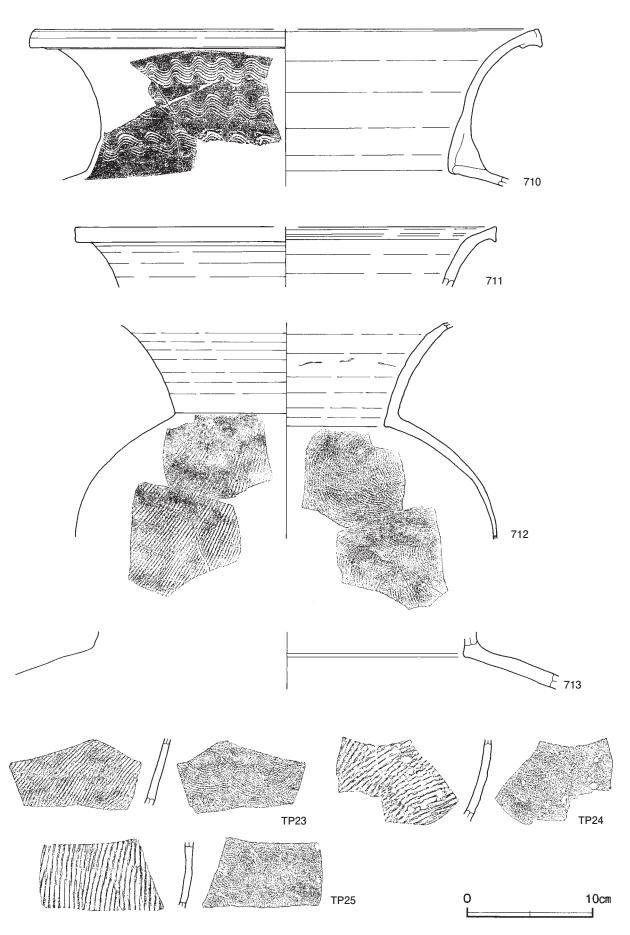
所見 素掘りの構造である。確認面から深さ 1.0 mで、湧水点までは 0.8 mほどの層位から出土土器の大半が出土している。時期は、出土土器から、9世紀後葉までには廃絶したと考えられる。第4層上面から出土した土器片の破断面には摩滅がほとんど見られず、破砕された土器片が投棄された状況がみて取れる。第3層を含む上層から出土した遺物は、第2層から銭貨1点、第1層から須恵器壺の体部片 1点の計 2点である。第2層出土の銭貨は、その初鋳年が 998 年であることから、第2層から上層は 10 世紀末以降に埋め戻され、銭貨・須恵器壺の体部片はその過程で混入したものと想定される。なお、出土遺物の種類や投棄された状況から、井戸の廃絶に伴う祭祀行為が行われた可能性は低いと考えられる。本跡と同時期の竪穴建物跡は、本跡の周囲で計6棟を確認している。そのうち、本跡から北西 20 mに位置する第3022 号竪穴建物跡は、出土遺物が須恵器片や灰釉陶器片だけでも 400 点を超えている大形の建物跡である。墨書土器も 32 点出土し、周囲の遺構の中



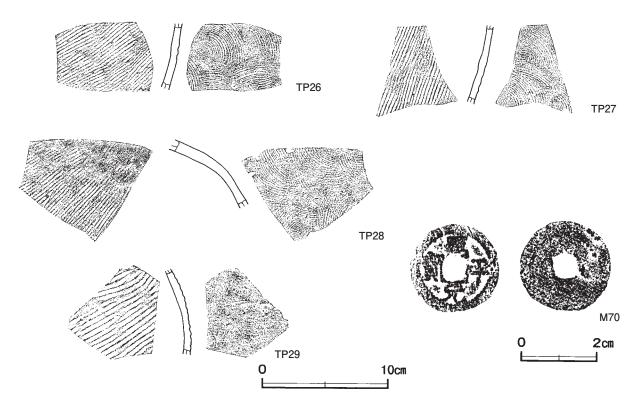
第 408 図 第 220 号井戸跡実測図



第 409 図 第 220 号井戸跡・出土遺物実測図 (1)



第 410 図 第 220 号井戸跡·出土遺物実測図 (2)



第 411 図 第 220 号井戸跡·出土遺物実測図 (3)

では群を抜いている。本跡の土器片と接合関係は認められなかったが、本跡及び第3022号竪穴建物跡は、多数の遺物が出土していること、当時の希少な品である東海地方からの搬入品が多く出土していることなどの共通点から、何らかの関連性が考えられる。

第 220 号井戸跡出土遺物観察表(第 409 ~ 411 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
694	土師器	坏	-	(1.8)	[5.4]	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り 墨書「石」 _カ	覆土中	10%
695	土師器	坏	[20.0]	(5.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 内面へラ磨き	覆土中層	5 %
696	土師器	坏	[20.0]	(5.9)	-	長石・石英	浅黄	普通	ロクロナデ 内面へラ磨き	覆土中層	5 %
697	灰釉陶器	Ш	[16.4]	(2.4)	_	精良	灰	良好	ロクロナデ 外・内面施釉 黒笹90号窯式	覆土中層	5% 猿投産
698	灰釉陶器	段皿	[17.8]	(1.3)	-	精良	灰白	良好	ロクロナデ 内面施釉 黒笹 90 号窯式	覆土中層	5% 猿投産
699	灰釉陶器	Ш	[16.8]	3.0	[7.7]	精良	褐灰	良好	ロクロナデ 外・内面施釉 高台貼付 黒笹 90 号窯式	覆土中層	20% 猿投産
700	灰釉陶器	高台付皿	-	(1.8)	[8.2]	精良	灰白	良好	内面筆状工具による施釉 黒笹 90 号窯式	覆土中層	5% 猿投産
701	須恵器	鉢	-	(7.8)	-	長石・雲母	褐灰	良好	ロクロナデ 外・内面自然釉	覆土中層	5% 在地産
702	須恵器	瓶	-	(6.3)	[13.4]	長石・黒色粒子	灰黄褐	良好	ロクロナデ 体部外・内面・底部自然釉	覆土中層	5% 在地産
703	灰釉陶器	瓶	-	(3.6)	[10.9]	精良	灰	良好	ロクロナデ 底部内面自然釉 黒笹 90 号窯式	覆土中層	5% 猿投産
704	灰釉陶器	瓶	-	(4.1)	[12.0]	精良	灰白	良好	ロクロナデ 外・内面施釉 黒笹90号窯式	覆土中層	5% 猿投産
705	灰釉陶器	瓶	-	(2.5)	-	精良	褐灰	良好	ロクロナデ 外面施釉 黒笹 90 号窯式	覆土中層	5% 猿投産
706	須恵器	長頸瓶	-	(4.6)	-	長石・石英	暗灰	普通	ロクロナデ 外面自然釉	覆土中	5% 東海産
707	須恵器	甕	[22.8]	(8.3)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	覆土中層	5% 在地産
708	須恵器	甕	-	(7.9)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 外面摩滅 縦位の平行叩きヵ	覆土中層	5% 在地産
709	須恵器	甕	[33.6]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 頸部縦位の平行叩き 内面摩滅	覆土中層	5% 在地産
710	須恵器	甕	[40.0]	(12.5)	-	長石・石英・雲母	暗灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 頸部外面櫛歯状工 具による3段の波状文 内面ナデ	覆土中層	5% PL101 在地産

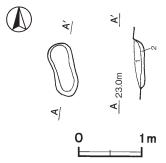
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
711	須恵器	甕	[33.4]	(4.8)	-	長石・石英	灰赤	良好	外・内面ナデ	覆土中層	5% 東海産
712	須恵器	甕	-	(17.2)	-	長石・石英	灰赤	良好	頸部外面ロクロナデ 内面輪積痕を残すナデ 体 部外面縦位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	10% 東海産
713	須恵器	甕	-	(4.6)	-	長石・石英	黒褐	普通	ロクロナデ	覆土中層	5% 在地産
714	須恵器	甕	_	(6.7)	_	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 外面櫛歯状工具による2条の波状文	覆土中層	5% 在地産

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP23	須恵器	甕	長石・石英	灰赤	外面斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	東海産
TP24	須恵器	甕	長石・石英	灰	外面斜位の平行叩き	覆土中層	在地産
TP25	須恵器	甕	長石・石英	褐灰	外面縦位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	PL104 在地産
TP26	須恵器	甕	長石	灰赤	外面斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	PL104 東海産
TP27	須恵器	甕	長石・石英	灰赤	外面斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	東海産
TP28	須恵器	甕	長石・石英・黒色粒子	灰黄	外面斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕 外面自然釉	覆土中層	在地産
TP29	須恵器	甕	長石・石英	黄灰	外面斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	在地産

番号	銭 種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	初鋳年	特 徵	出土位置	備考
M70	咸平元寶	2.48	0.65	0.12	2.70	銅	998年	無背	覆土上層	PL106

(4) 土坑

第7285号土坑 (第412図)



第 412 図

第7285号土坑実測図

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 5 e9 区, 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。 規模と形状 長軸 0.87 m,短軸 0.39 mの楕円形で,長軸方向はN - 13 $^{\circ}$ - Wである。深さは 13cmで,底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 4 点 (甕), 須恵器片 1 点 (甕) が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。

第 7294A 号土坑 (第 413 図)

調査年度 平成24年度

位置 16 区東部のQ 6 f6 区, 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3159 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.40 m, 短径 0.34 mの楕円形で,長径方向は $N-0^\circ$ である。深さは 40 cmで,底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

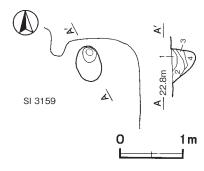
覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 須恵器片 2 点 (坏) が覆土中から出土している。いずれ も細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 413 図 第 7294A 号土坑実測図

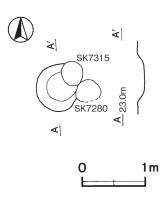
第7295号土坑 (第414図)

調査年度 平成23年度

位置 16 区中央部のQ 5 e8 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。 **重複関係** 第 7280・7315 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部を第7315号土坑に、東部を第7280号土坑に掘り込まれているため、長径0.76 mで、短径は0.65 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定される。深さは11cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片3点(坏2,甕1),須恵器片2点(甕),自然遺物10点(桃の種子)が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。



第 414 図

第7295号土坑実測図

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。性格は不明である。

第7310号土坑 (第415図)

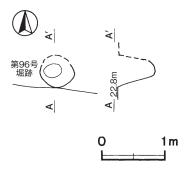
調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 5 e8 区, 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。 **重複関係** 第 96 号堀に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第96号堀に掘り込まれているため、長径0.54 m、短径は0.41 mしか確認できなかった。円形と推定される。深さは58cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏,甕),須恵器片 1 点 (甕)が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。性格は不明である。



第 415 図

第7310号土坑実測図

表 86 平安時代土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平面形	規	模	底 面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7285	Q5e9	N - 13° - W	楕円形	0.87×0.39	13	ほぽ平坦	外傾	人為	土師器片,須恵器片	
7294A	Q6f6	N - 0°	楕円形	0.40×0.34	40	皿状	外傾	人為	須恵器片	SI3159 →本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規	模	底 面	壁面	覆土	主 な 出 土 遺 物	備考
				長径×短径(m)	深さ (cm)					
7295	Q5e8	-	[円形·楕円形]	0.76 × (0.65)	11	平坦	緩斜	人為	土師器片, 須恵器片, 自然遺物	本跡→ SK7280 · 7315
7310	Q5e8	-	[円形]	0.54 × (0.41)	58	平坦	外傾	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→第 96 号堀跡

4 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡 4 棟、井戸跡 7 基、地下式坑 1 基、土坑 11 基、道路跡 1 条、堀跡 3 条、 溝跡 3 条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第 586 号掘立柱建物跡 (第 416 図)

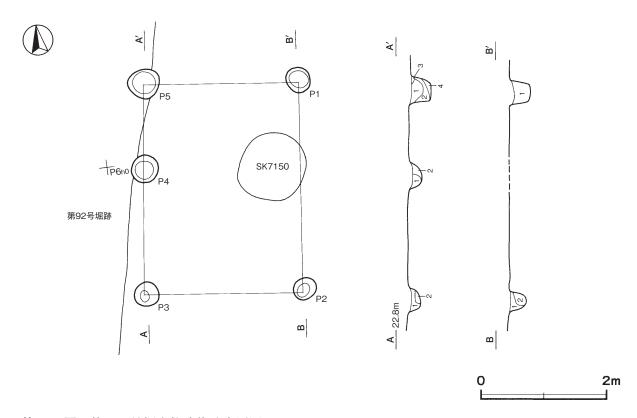
調査年度 平成 23 年度

位置 16 区北東部の P 6 h0 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第92号堀跡を掘り込み、第7150号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 2 間,梁行 1 間の側柱建物跡で,桁行方向がN-8°-Eの南北棟である。規模は,桁行 3.3 m,梁行 2.4 mで,面積は 7.92 m°である。柱間寸法は,桁行が北妻から 1.2 m(4 尺)・2.1 m(7 尺)である。柱筋はほぼ揃っている。東平の中間柱穴は,第 7150 号土坑によって失われている。

柱穴 5 か所。平面形は円形または楕円形で,長径 $41\sim52$ cm,短径 $33\sim47$ cmである。深さは $15\sim32$ cmである。 第 $1\sim4$ 層は柱抜き取り後の堆積層である。



第416 図 第586 号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

1 褐 色 ロームブロック少量 2 暗 褐 色 ローム粒子中量 3 橙 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

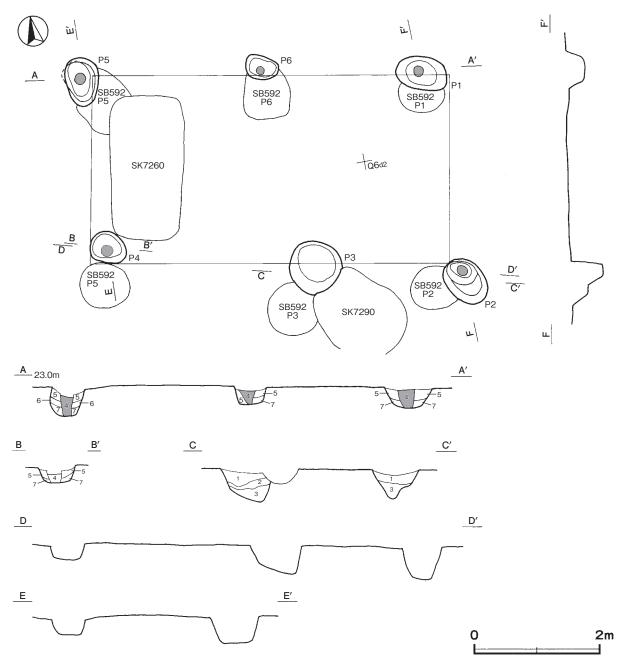
4 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋),陶器片2点(碗,灯明皿),鉄製品4点(不明)のほか,土師器片2点(坏)が, P2・P5の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 方形区画の第 96 号堀跡と主軸方向をほぼ同じくすることから, 第 96 号堀跡に関わりをもつ住居か倉庫の可能性がある。時期は, 出土土器や重複関係から 16 世紀末と考えられる。

第 591 号掘立柱建物跡 (第 417 図)

調査年度 平成 23 年度



第417図 第591号掘立柱建物跡実測図

位置 16 区中央部のQ 6 dl 区. 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 592 号掘立柱建物跡を掘り込み, 第 7290 号土坑に掘り込まれている。第 7260 号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間,梁行 1 間の側柱建物跡で,桁行方向が $N-79^\circ-W$ の東西棟である。規模は,桁行 5.7 m,梁行 3.0 mで,面積は 17.10 m である。柱間寸法は,桁行が北平では,東妻から 2.7 m (9尺)・3.0 m (10尺),南平では,東妻から 2.4 m (8尺)・3.3 m (11尺) である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で,長径 $51 \sim 82$ cm,短径 $36 \sim 71$ cmである。深さは $24 \sim 52$ cmである。第 $1 \sim 3$ 層が柱抜き取り後の堆積層で,第 4 層が柱痕跡,第 $5 \sim 7$ 層が掘方への埋土である。柱のあたりを, P 3 を除いて底面で確認した。

土層解説(各柱穴共通)

1 にぶい黄褐色 ローム粒子中量

5 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 暗 褐 色 ローム粒子中量

6 暗 褐 色 ロームブロック中量

3 灰黄褐色 ローム粒子中量

7 褐 色 ロームブロック中量

4 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 2点(鍋)のほか、土師器片 9点(坏 4、甕類 5)、須恵器片 1点(瓶類)が、P 1・ P 3 \sim P 5 の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 方形区画の第96号堀跡の内側に位置し、南北方向をほぼ同じくすることから、第96号堀跡に関わりをもつ住居か倉庫の可能性が高い。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。

第 592 号掘立柱建物跡 (第 418 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 6 d1 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 591 号掘立柱建物, 第 7260 · 7290 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 2 間,梁行 1 間の側柱建物跡で,桁行方向が $N-80^{\circ}-W$ の東西棟である。規模は,桁行 5.1 m,梁行 3.0 mで,面積は 15.30㎡である。柱間寸法は,桁行が北平では,東妻から 2.4 m(8尺)・2.7 m(9尺)で,南平では,東妻から 2.1 m(7尺)・3.0 m(10尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径 $72\sim80$ cm、短径 $41\sim76$ cmである。深さは $15\sim52$ cmである。 第 $1\sim3$ 層が柱痕跡で、第 $4\cdot5$ 層が掘方への埋土である。柱のあたりをすべての底面で確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

1 褐 色 ロームブロック多量

4 暗 褐 色 ローム粒子中量 5 灰 黄 褐 色 ローム粒子多量

2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物少量

3 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

遺物出土状況 混入した土師器片 25 点 (坏 6, 高坏 1, 甕類 18), 須恵器片 2 点 (高台付坏, 甕) が, P 1・P 3~P 6 の覆土中から出土している。

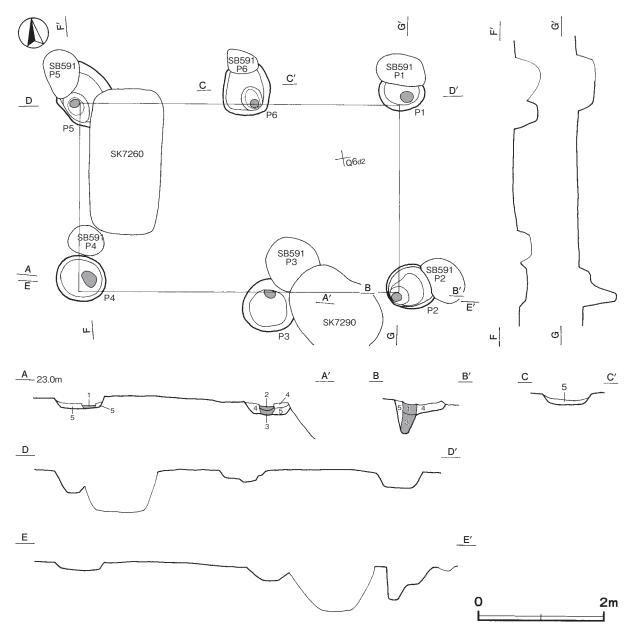
所見 方形区画の第96号堀跡の内側に位置し、南北方向をほぼ同じくすることから、第96号堀跡に関わりをもつ住居か倉庫の可能性が高い。時期は、重複関係から15世紀代と考えられる。

第 593 号掘立柱建物跡 (第 419 図)

調査年度 平成 24 年度

位置 16 区東部のQ6c5区,標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第80号地下式坑・第152A号溝に掘り込まれている。



第418 図 第592 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行 2 間,梁行 2 間の側柱建物跡で,桁行方向が N -5° - E の南北棟である。規模は,桁行 5.4 m,梁行 5.1 mで,面積は 27.54 mである。柱間寸法は,桁行が 2.7 m(9 尺),梁行が東平から 2.4 m(8 尺)・ 2.7 m(9 尺)である。柱筋はほぼ揃っている。北妻の中間柱穴は,第 80 号地下式坑によって失われている。 **柱穴** 7 か所。平面形は円形で,長径 75 ~ 107 cm,短径 69 ~ 98 cm である。深さは 9 ~ 53 cm である。第 1 ~ 4 層が柱痕跡で,第 5 層が柱抜き取り後の堆積層,第 6 ~ 9 層が掘方への埋土である。柱のあたりを, P 2 を除いた底面及び第 9 層上面で確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

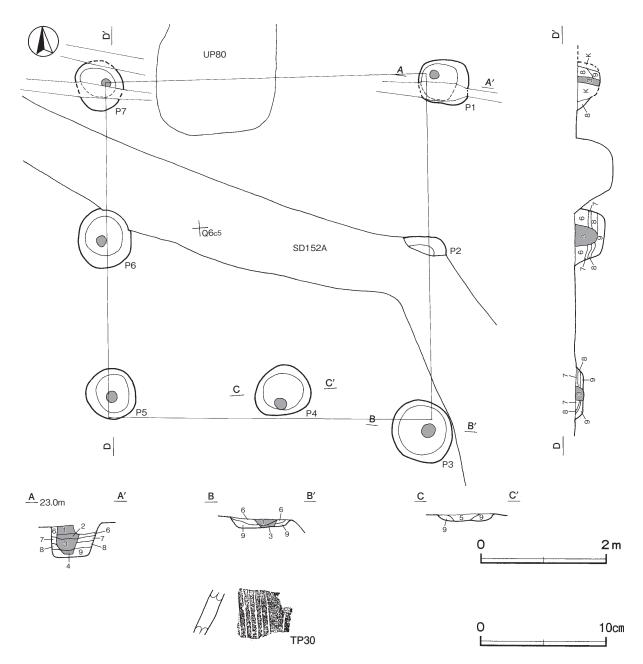
- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子多量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量

- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 8 灰黄褐色 ローム粒子多量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(擂鉢)のほか、土師器片19点(坏2,械2,高坏1,甕類14)、須恵器

片3点(甕類)が、P1~P6の覆土中から出土している。TP30はP1の覆土中から出土している。

所見 方形区画の第 96 号堀跡と主軸方向をほぼ同じくすることから, 第 96 号堀跡に関わりをもつ住居か倉庫の可能性がある。時期は, 出土土器や重複関係から 15 世紀代と考えられる。



第419 図 第593 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第593号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第419図)

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP30	土師質土器	擂鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	外・内面ナデ 内面6条1単位の擂目	P 1 覆土中	

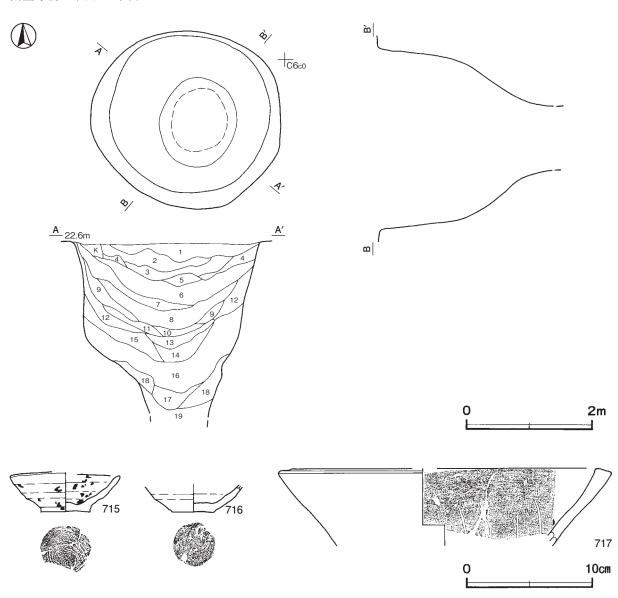
表 87 室町時代掘立柱建物跡一覧表

番号	片 單	松石士白	柱間数	規模	面積	柱間	寸法			柱 穴		テム川上 忠陽	時期	備考
笛写	位置	桁行方向	桁×梁(間)	桁 × 梁(m)	(m²)	桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)	主な出土遺物	. ,,,	
586	P6h0	N - 8° - E	2 × 1	3.3 × 2.4	7.92	$1.2 \sim 2.1$	2.4	側柱	5	円形・楕円形	15 ~ 32	土師質土器片, 陶器片, 鉄製品		第 92 号堀跡→本 跡→ SK7150
591	Q6d1	N - 79° - W	2 × 1	5.7 × 3.0	17.10	2.7 ~ 3.0	3.0	側柱	6	円形・楕円形	24 ~ 52		16 世紀代	SB592 →本跡 → SK7290 SK7260 新旧不明
592	Q6d1	N - 80° - W	2 × 1	5.1 × 3.0	15.30	2.1 ~ 3.0	3.0	側柱	6	円形・楕円形	$15 \sim 52$			本跡→ SB591, SK7260 · 7290
593	Q6c5	N - 5° - E	2 × 2	5.4 × 5.1	27.54	2.7	$2.4 \sim 2.7$	側柱	7	円形・楕円形	9 ~ 53	土師質土器片	15 世紀代	本跡→ UP80, SD152A

(2) 井戸跡

第 213 号井戸跡 (第 420 図)

調査年度 平成 24 年度



第420 図 第213 号井戸跡実測図・出土遺物実測図

位置 16 区北東部の P 6 c9 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径 3.04 m, 短径 2.81 mの円形で,確認面から深さ 2.5 mまで漏斗状に掘り込んだ後,径 1.0 mの円筒状に掘り下げている。2.76 mまで掘り下げた時点で湧水のため,下部の調査を断念した。

覆土 19層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土ブロッ ク・炭化粒子・細礫微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、細礫微量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 細礫微量 4 里 褐 色 ロームブロック小量 性+ブロック・粘土粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 5 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 細礫微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土 粒子微量
- 7 褐 色 ロームブロック多量、粘土ブロック微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック多量, 細礫少量, 焼土粒子・粘土 粒子微量
- 9 褐 色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子・ 粘土粒子微量

- 10 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量、細礫微量
- 11 暗 褐 色 ロームブロック多量, 粘土粒子微量
- 12 褐 色 ロームブロック多量、焼土ブロック・粘土粒子・ 細礫微量
- 13 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック微量
- 14 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 15 褐 色 ロームブロック多量
- 16 褐 色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量
- 17 暗 褐 色 ロームブロック多量, 粘土粒子少量
- 18 褐 色 ロームブロック多量, 粘土粒子微量
- 19 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 8点(小皿 6, 内耳鍋 1, 擂鉢 1), 瓦質土器片 1点(鉢), 陶器片 1点(碗), 瓦 1点(平瓦)のほか, 土師器片 154点(坏 14, 高台付坏 1, 甕類 139), 須恵器片 9点(坏 3, 甕 6)が, 覆土下層から上層にかけて散在した状態で出土している。715 は覆土下層と中層から出土した破片が接合したものである。716 は覆土中層から, 717 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から 16 世紀後半に比定できる。

第213号井戸跡出土遺物観察表(第420図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
715	土師質土器	小皿	[8.6]	3.2	4.0	長石・石英・赤 色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底面周縁部凹み	覆土下層 ~中層	70% PL101 油煙付着
716	土師質土器	小皿	-	(2.1)	3.3	長石・石英	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	覆土中層	20%
717	土師質土器	擂鉢	[24.2]	(6.2)	-	長石・石英・細礫	灰褐	普通	外・内面ナデ 内面1条1単位の擂目	覆土上層	5 %

第 214 号井戸跡 (第 421 図)

調査年度 平成 24 年度

位置 16 区北東部の P 6 e9 区. 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径 1.30 m, 短径 1.25 mの円形で, 円筒状に掘り下げている。深さ 1.80 mまで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

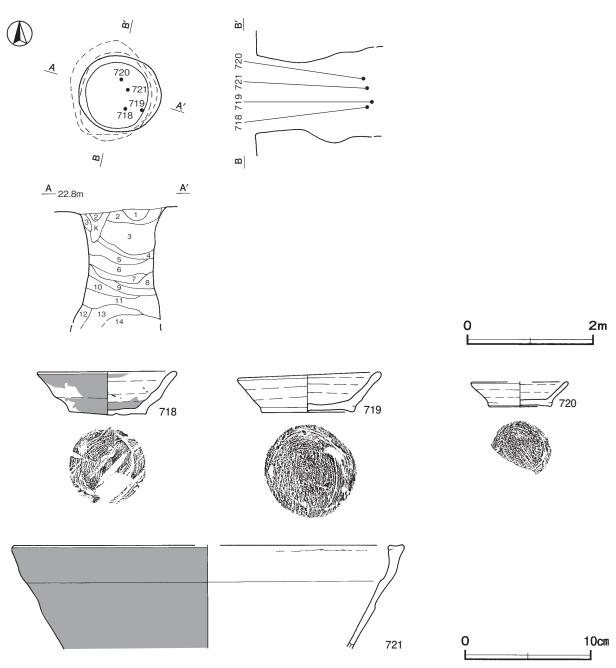
覆土 14層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黄 褐 色 粘土ブロック多量
- 2 灰 黄 色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量
- 3 暗灰黄色 粘土ブロック多量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 5 暗オリーブ褐色 粘土ブロック多量
- 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 8 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 10 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量
- 11 灰 黄 色 粘土ブロック多量
- 12 褐 色 ロームブロック多量
- 13 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 14 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 5 点 (小皿 3, 鍋 1, 内耳鍋 1), 石器 1 点 (砥石) のほか, 土師器片 8 点 (坏 1, 甕 7), 須恵器片 1 点 (坏) が出土している。719 は東部, 718・720・721 は中央部のそれぞれ覆土下層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から16世紀後半に比定できる。



第421 図 第214号井戸跡実測図・出土遺物実測図

第214号井戸跡出土遺物観察表(第421図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
718	土師質土器	小皿	10.8	3.5	6.0	長石・石英・赤 色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面中央部凹み	覆土下層	95% PL101 油煙付着
719	土師質土器	小皿	11.2	3.2	7.2	長石・石英・赤 色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	80% PL101
720	土師質土器	小皿	[7.6]	2.0	4.8	長石・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	40%
721	土師質土器	鍋	[30.0]	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土下層	5% 外面煤付着

第 215 号井戸跡 (第 422 · 423 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区北東部の P 6 h8 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

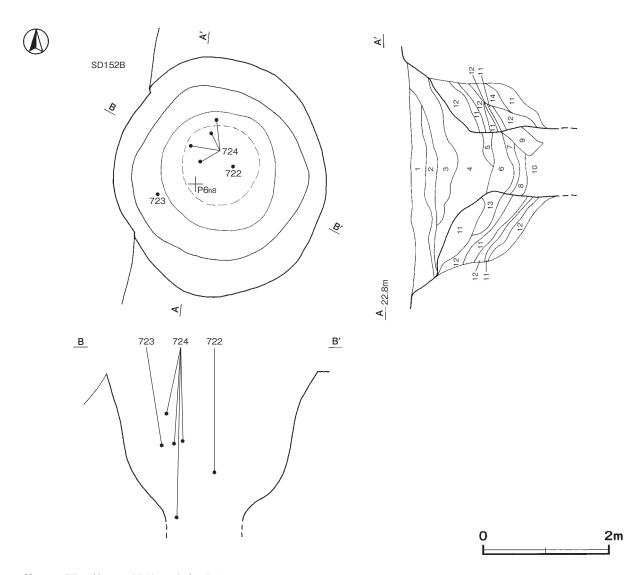
重複関係 第152B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 外側の掘方部と内側の井戸部からなる二重構造をしている。掘方部は、確認面で長径 $3.80 \, \text{m}$ 、短径 $3.40 \, \text{m}$ の楕円形で、長径方向は $N-0^\circ$ である。確認面から深さ $2.3 \, \text{m}$ まで漏斗状に掘り込んだ後、径 $1.08 \, \text{m}$ の円筒状に掘り込んでいる。井戸部は、確認面から漏斗状部に $0.39 \, \text{m}$ まで掘り下げた時点から $0.91 \, \text{m}$ まで漏斗状に掘り込んだ後、径 $0.89 \sim 1.08 \, \text{m}$ の円筒状に掘り下げている。深さ $2.45 \, \text{m}$ まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 10 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 $11 \sim 14$ 層は井戸枠外側への裏込め土であり、褐色土と黒褐色土が互層に積み重なっている。第 $1 \sim 10$ 層は廃絶の際に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

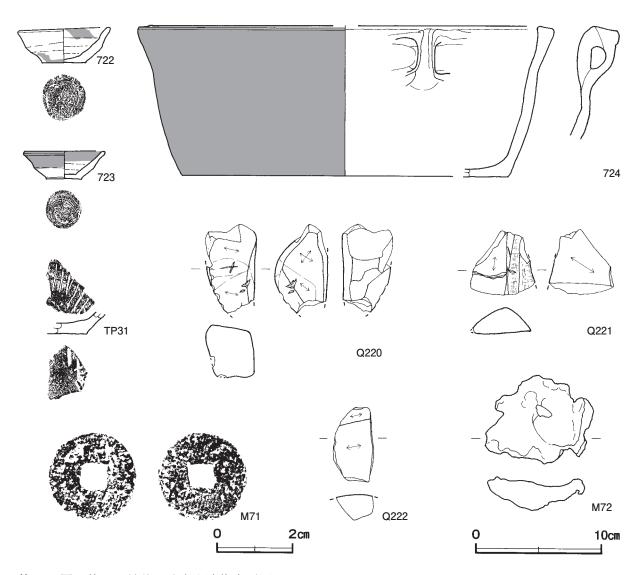
1 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量 8 暗 褐 色 ロームブロック中量 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 9 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量 3 黒 褐 色 ロームブロック少量 10 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量 色 ロームブロック中量 4 褐 11 褐 5 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 12 黒 褐 色 炭化粒子少量・ロームブロック微量 6 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量 13 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量 7 暗 褐 色 ローム粒子中量 14 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量



第 422 図 第 215 号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片 35 点 (小皿 6, 内耳鍋 24, 擂鉢 3, 片口鉢 1, 火鉢 1), 陶器片 2 点 (碗), 石器 4 点 (砥石 3, 硯 1), 石製品 1 点 (石塔), 金属製品 1 点 (不明), 銭貨 1 点 (不明), 椀状滓 1 点 (155.0 g) のほか, 土師器片 16 点 (坏 2, 甕類 14), 須恵器片 9 点 (坏 1, 鉢 1, 甕 7) が出土している。724 は中央部の覆土下層から中層にかけて出土した破片 4 点が接合したものである。722 は中央部の第 6 層の埋め戻し土から, 723 は西部の第 11 層の裏込め土からそれぞれ出土している。TP31・Q 220~Q 222・M 71・M 72 はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 土層断面の観察状況から、井戸枠を使用した構造と考えられる。井戸の構築は、周囲を広く掘り込み、中央部に井戸枠を設置し、井戸枠の周囲に裏込めして固定したものと推定される。井戸枠の部材は、遺構の形状や土層の堆積状況から円形と考えられ、木桶の転用もしくは丸太を刳り抜いたものなどを使用したことが想定される。裏込め土が確認面まで存在していないことや、裏込め土の第11・12層が内側に傾斜していることから、広く掘って井戸枠を抜き取ったと考えられる。時期は、裏込め土から出土している土師質土器小皿の特徴から、16世紀前半に構築され、埋め戻し土から出土している土師質土器小皿の特徴と重複関係から、16世紀後半には廃絶したと考えられる。



第423 図 第215 号井戸跡出土遺物実測図

第215号井戸跡出土遺物観察表(第423図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色	調焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
722	土師質土器	小皿	7.1	2.8		長石・赤色粒		普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面周縁部凹み	覆土中層	90% PL101 油煙付着
723	土師質土器	小皿	6.3	2.2	2.8	長石・石英・ 色粒子	赤 档			覆土中層	70% PL101 油煙付着
724	土師質土器	内耳鍋	[30.9]	12.0	[26.0]	長石・石英・ 母・赤色粒子	悪 にぶ	ハ橙 普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土下層 ~中層	10% 外面煤付着
番号	種 別	器種	J	胎 土	:	色 調			手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP31	土師質土器	擂鉢	長石・	石英・赤	色粒子	黒褐	外・ド	内面ナデ	内面3条1単位の擂目	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特	出土位置	備考
Q 220	砥石	(7.0)	4.0	4.2	(112.8)	凝灰岩	砥面:	3 面		覆土中	
Q 221	砥石	(5.2)	(5.1)	(2.5)	(49.8)	凝灰岩	砥面:	2面 他2	面は破断面	覆土中	
Q 222	砥石	(5.9)	(3.2)	(2.0)	(39.8)	凝灰岩	砥面:	2面 他1	面は破断面	覆土中	
							,				
番号	銭 種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	初鋳年		特 徵	出土位置	備考
M71	不明	2.38	0.15	0.60	3.50	銅	-	表・夏	裏ともに摩滅が激しい	覆土中	PL106
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特	出土位置	備考
M72	椀状滓	7.1	8.7	2.6	155.0	鉄	着磁性	生なし 妻	を面はにぶい赤褐色 裏面は褐灰色	覆土中	

第 216 号井戸跡 (第 424 図)

調査年度 西部の一部は平成19年度に調査し、『第322集』にて第5964号土坑として報告している。それ以 外は平成23年度に調査した。

位置 16 区北東部の P 6 f8 区. 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 152B 号溝に掘り込まれている。第 217 号井戸跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 外側の掘方部と内側の井戸部からなる二重構造をしている。掘方部は、確認面で長径 3.98 m, 短径 3.87 mの円形である。確認面から深さ 2.5 mまで漏斗状に掘り込んだ後、径 1.17 mの円筒状に掘り込ん でいる。井戸部の規模については、裏込め土が崩落していることから不明である。深さ 2.55 mまで掘り下げ たが、湧水のため下部の調査を断念した。

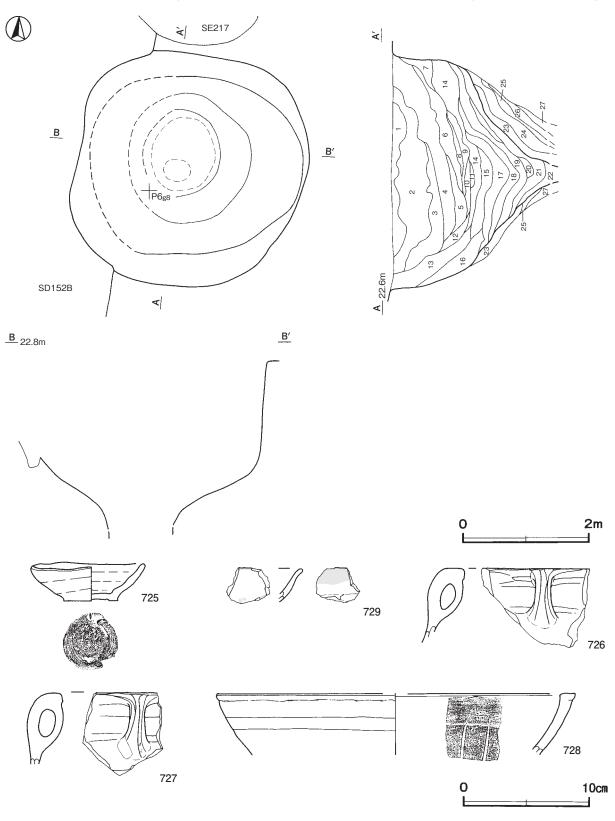
覆土 27層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。 第23~27層は、ロームと粘土のブロックが多量に含まれ、下部へとずり落ちているが、井戸枠の裏込め土と 考えられる。第1~22層は廃絶の際に埋め戻されたと考えられる。

12 裾

- 1 灰 褐 色 粘土ブロック少量,炭化物微量
- 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 3 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 4 明 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量, 鉄分微量
- 6 明 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 7 褐 色 ローム粒子中量, 粘土ブロック微量
- 8 黒 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量 10 暗 褐 色 粘土ブロック中量,炭化物・ローム粒子少量
- 11 黄 褐 色 粘土ブロック中量
- 色 ローム粒子中量 13 明 褐 色 ローム粒子中量
- 14 明 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量

- 15 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 16 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量
- 17 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量
- 18 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 19 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 20 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 21 暗 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量
- 22 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 23 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 24 オリーブ褐色 粘土ブロック多量
- 25 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 細砂微量
- 26 黄 褐 色 粘土ブロック多量, ローム粒子・細砂少量
- 27 灰 白 色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片 33 点 (小皿 3, 内耳鍋 28, 擂鉢 2), 瓦質土器片 9 点 (甕), 陶器片 3 点 (小皿 1, 不明 2), 瓦 3 点 (平瓦 2, 丸瓦 1) のほか, 土師器片 32 点 (坏 5, 壺 1, 甕類 26), 須恵器片 4 点 (甕) が出土している。727 は覆土下層から, 726・728・729 は覆土中層から, 725 は覆土上層からそれぞれ出土している。 所見 土層断面の観察状況から, 井戸枠を使用した構造と考えられる。井戸の構築は, 周囲を広く掘り込み,



第424 図 第216 号井戸跡実測図・出土遺物実測図

中央部に井戸枠を設置し、井戸枠の周囲に裏込めして固定したものと推定される。井戸枠の部材は、遺構の形 状から円形と考えられる。裏込め土は井戸枠の抜き取り時に崩落したため、井戸部の規模は明確でない。裏込 め土が確認面まで存在していないことや、裏込め土の第23~27層が内側に傾斜していることから、広く掘っ て井戸枠を抜き取ったと考えられる。時期は、出土土器や重複関係から16世紀後半と考えられる。

第216号井戸跡出土遺物観察表(第424図)

													,	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成		手法の	特 徴 ほ	か	出土位置	備考
725	土師質土器	小皿	9.1	3.1	4.3	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロナ	デ 底部回転	糸切り 内底	面周縁部凹み	覆土上層	95% PL101
726	土師質土器	内耳鍋	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面	ナデ			覆土中層	5% 外面煤付着
727	土師質土器	内耳鍋	-	(6.6)	-	長石・石英	灰褐	普通	外・内面	ナデ			覆土下層	5% 外面煤付着
728	土師質土器	擂鉢	[28.4]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外・内面	ナデ 内面2	条の擂目 タ	卜面輪積痕	覆土中層	5 %
														,
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調		絵 付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備考
729	陶器	端反皿	-	(2.7)	-	精良	灰白		-	淡黄	瀬戸・美濃	16 C中葉	覆土中層	5 %

第 217 号井戸跡 (第 425 図)

調査年度 西部の一部は平成 19 年度に調査し, 『第 322 集』にて第 5963 号土坑として報告している。それ以 外は平成23年度に調査した。

位置 16 区北東部の P 6 f8 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 152B 号溝に掘り込まれている。第 216 号井戸跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 外側の掘方部と内側の井戸部からなる二重構造をしている。掘方部は,確認面で長径 2.70 m, 短径 2.38 mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。確認面から 2.0 mまで袋状に掘り込んだ後、径 1.26 mの円筒状に掘り下げている。井戸部の規模については、裏込め土が崩落していることから、詳細は不明であ る。深さ 2.15 mまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 18層に分層できる。多くの層にロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。 第15~18層は、ロームと粘土のブロックが中量から多量含まれ、下部へずり落ちているが、裏込め土と考え られる。第1~14層は廃絶の際に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

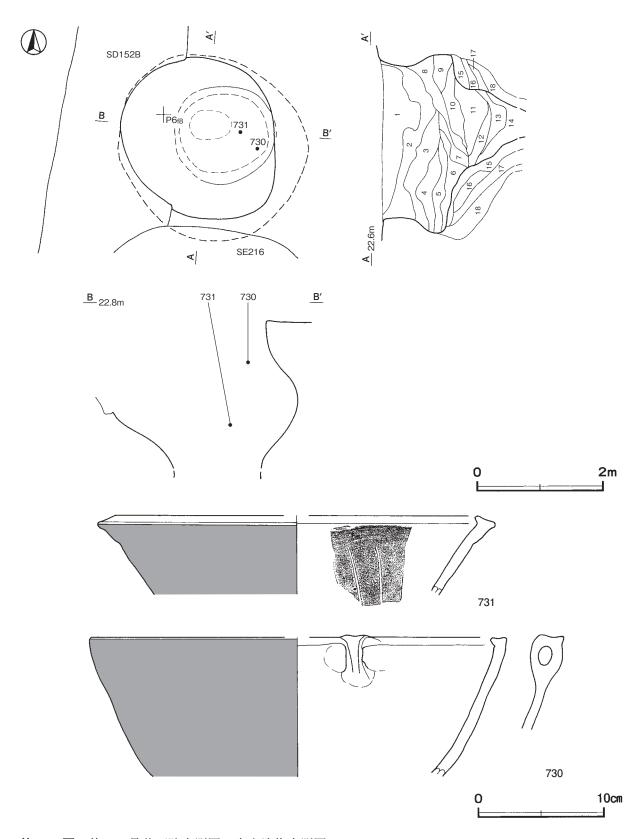
- 1 明 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量 10 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・細砂少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量 11 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 3 にぶい橙色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 浅 黄 色 粘土ブロック多量,細砂中量,ロームブロック少量 13 にぶい黄褐色 ロームブロック多量,粘土ブロック微量
- 5 灰 白 色 粘土ブロック多量
- 6 にぶい黄橙色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 8 灰 黄 色 細砂中量,ロームブロック・粘土ブロック少量 17 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量,ローム粒子中量
- 色 ロームブロック多量, 粘土ブロック微量

- 12 にぶい黄橙色 粘土粒子多量
- 14 にぶい黄色 ロームブロック・粘土ブロック・細砂中量
- 15 暗 褐 色 ロームブロック中量・粘土ブロック微量 16 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子・細砂少量
- 18 褐 色 ロームブロック多量, 粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 40 点(内耳鍋 39、擂鉢1)のほか、土師器片3点(坏、壺、甕)が、各層から 散在して出土している。731 は覆土下層から、730 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 土層断面の観察状況から、井戸枠を使用した構造と考えられる。井戸の構築は、周囲を広く掘り込み、 中央部に井戸枠を設置し、井戸枠の周囲に裏込めして固定したものと推定される。井戸枠の部材は、遺構の形 状から円形と考えられる。裏込め土は井戸枠の抜き取り時に崩落したため、井戸部の規模は明確でない。第 10層から上層は、その周囲に裏込め土が確認されていないことから、広く掘り返され、井戸枠が抜き取られ

たと考えられる。時期は、出土土器や遺構の形状から16世紀後半と考えられる。



第 425 図 第 217 号井戸跡実測図·出土遺物実測図

第217号井戸跡出土遺物観察表(第425図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
730	土師質土器	内耳鍋	[32.2]	(11.1)	-	長石・石英・雲 母・赤色粒子	赤褐	普通	外・内面横ナデ 外面煤付着	覆土上層	5 %
731	土師質土器	擂鉢	[29.0]	(6.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ 内面4条の擂目	覆土下層	5% 外面煤付着

第 221 号井戸跡 (第 426 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 5 d8 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3155号建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径 3.04 m, 短径 2.45 mの楕円形で, 長径方向は N - 29° - E である。漏斗状に掘り 下げており、深さ1.20 mまで掘り下げた時点で湧水のため、下部の調査を断念した。

覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

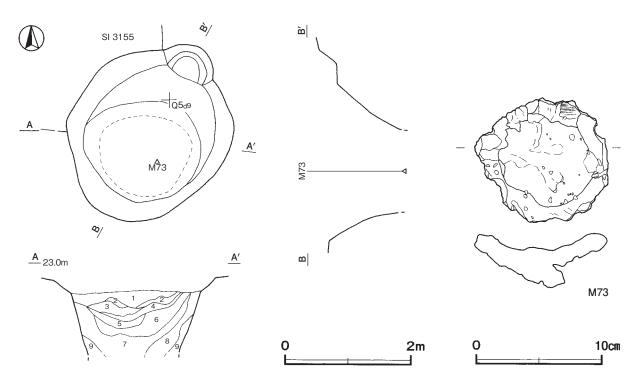
土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 色 ロームブロック多量 4 褐

- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 8 にぶい黄褐色 ローム粒子多量
- 9 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 3 点(内耳鍋),椀状滓 1 点(310.0 g)のほか,土師器片 10 点(坏 1 ,甕 9), 須恵器片3点(甕), 灰釉陶器片2点(椀)が出土している。M73は覆土下層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器の内耳の形状や重複関係から15世紀代と考えられる。



第426 図 第221 号井戸跡・出土遺物実測図

第221号井戸跡出土遺物観察表(第426図)

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徵	出土位置	備考
M73	椀状滓	9.9	10.7	4.7	310.0	鉄	着磁性なし 表面は暗赤褐色で中央に凹みあり 裏面は暗赤灰色	覆土下層	PL106

第 247 号井戸跡 (第 427 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 6 e3 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第96号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径 2.10 m, 短径 1.93 mの円形で, 円筒状に掘り下げている。深さ 1.75 mまで掘り下げた時点で湧水のため, 下部の調査を断念した。

覆土 5層に分層できる。含有物や堆積状況から、第3~5層が埋め戻された後に、第1·2層が自然堆積したと考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

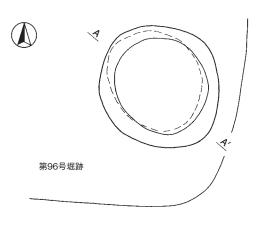
4 暗 褐 色 ロームブロック少量

2 黒 褐 色 ローム粒子微量

5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

所見 素掘りの構造である。時期は、本跡が掘り込んでいる第96号堀跡が15世紀後半に比定されていることから、それ以降で16世紀代と考えられる。



A 23.0m A'

1
2
0
2m

第 427 図 第 247 号井戸跡実測図

表 88 室町時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規	模	断面	底 面	覆土.	主な出土遺物	備考
宙力			干山形	長径×短径(m)	深さ (cm)	10) IEI	医 画	復 丄	土な山土退物	1
213	P6c9	-	円形	3.04 × 2.81	(276)	漏斗状	-	人為	土師質土器片,陶器片,瓦質土 器片	
214	P6e9	-	円形	1.30 × 1.25	(180)	円筒状	_	人為	土師質土器片	
215	P6h8	N - 0°	楕円形	3.80 × 3.40	(245)	漏斗状	-	人為	土師質土器片,陶器片,石器, 銭貨	本跡→SD152B
216	P6f8	_	円形	3.98 × 3.87	(255)	漏斗状	-	人為	土師質土器片,陶器片,瓦質土 器片	本跡→ SD152B SE217 新旧不明
217	P6f8	N - 20° - W	楕円形	2.70 × 2.38	(215)	漏斗状	-	人為	土師質土器片	本跡→ SD152B SE216 新旧不明
221	Q5d8	N - 29° - E	楕円形	3.04 × 2.45	(120)	漏斗状	-	人為	土師質土器片,椀状滓	SI3155 →本跡
247	Q6e3	_	円形	2.10 × 1.93	(175)	円筒状	-	自然 人為		第 96 号堀跡→本跡

(3) 地下式坑

第80号地下式坑 (第428 · 429 図)

調査年度 平成 24 年度

位置 16 区東部のQ6 a5 区,標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

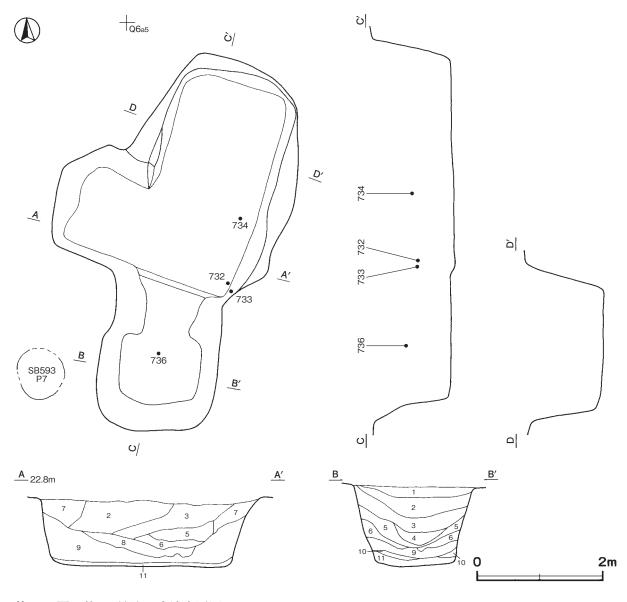
重複関係 第593号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

軸長・軸方向 軸長は 6.05 mで, 軸方向はN - 20° - Eである。

竪坑 主室南壁の南部に位置し、奥行 2.35 m、横幅 1.93 mの長方形である。主室との接続部は長さ 0.71 mで、幅 1.71 mほどに狭くなっている。いずれも深さは 1.23 mで、壁はほぼ直立している。接続部の天井部は崩落している。底面は平坦で、接続部で緩やかに下り主室に至っている。高低差は 6 cmである。

主室 奥行 3.70 m, 横幅 3.66 mで, 接続部に隣接する西壁に奥行 1.44 m, 幅 1.81 mの張り出し部をもつ, 逆 L字形をしている。天井部は崩落している。いずれも深さ 1.29 mで, 底面は平坦である。

覆土 11 層に分層できる。第7~9 層は天井部と壁部の崩落土に相当し、それより下層の第10・11 層は竪坑



第428図 第80号地下式坑実測図

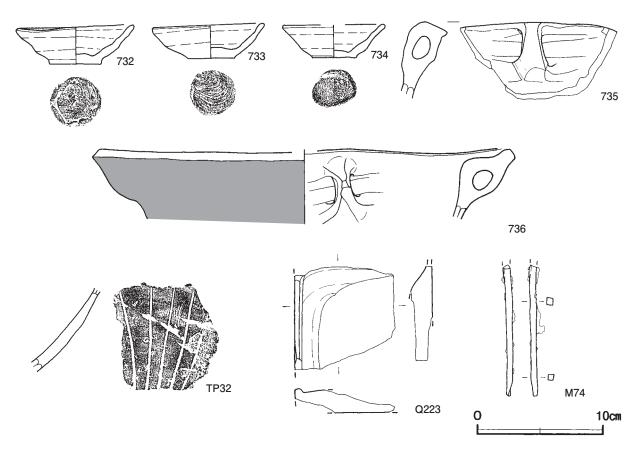
側から流入した自然堆積層である。崩落土から上層の第 $2\sim6$ 層は,ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第1 層は黒色土が均質に堆積していることから,自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 色 ローム粒子微量 7 黄 褐 色 ロームブロック中量 2 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量 8 苗 褐 色 ロームブロック多量 3 黒 褐 色 ロームブロック少量 9 褐 色 ロームブロック多量 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 10 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量 5 にぶい褐色 ロームブロック少量 11 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 49点 (小皿6, 内耳鍋 38, 擂鉢5), 陶器片 11点 (碗4, 甕7), 鉄製品 2点 (釘, 不明), 石器 3点 (砥石1, 硯2), 石製品 1点 (石塔ヵ), 鉄滓 3点 (62.7g) のほか, 土師器片 67点 (坏6, 高台付椀1, 甕類 60), 須恵器片 21点 (坏6, 高台付椀3, 鉢10, 甕2)が, 覆土中層から上層にかけて散在して出土している。736 は竪坑の中央部, 34・35 は主室の南東部, 734 は主室の東部のそれぞれ覆土中層から出土している。735・TP32・Q 223・M 74 はそれぞれ覆土中から出土している。いずれも天井部・壁部の崩落土より上層から出土している。

所見 主室西壁の張り出し部は、天井部の崩落状況から、主室と同時期に機能していたものと考えられる。時期は、出土土器が天井部の崩落土より上層から出土していることから、本跡は16世紀後半には廃絶していたと考えられる。



第429 図 第80 号地下式坑出土遺物実測図

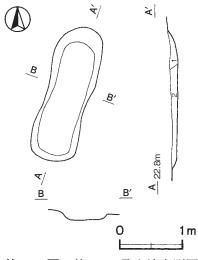
第80号地下式坑出土遺物観察表(第429図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調 焼	成	手 法	の特	徴 ほ か	出土位置	備	考
732	土師質土器	小皿	9.1	3.1	4.0	長石・石英	にぶい橙 普	通 ロクロナ 内底面店	デ 底部 縁部凹み	回転糸切 仕上げ	り後ナデ ナデ	覆土中層	95%	PL101
733	土師質土器	小皿	8.7	2.8	3.7	長石・石英・赤 色粒子	明黄褐 普	通 ロクロナ	デ 底部	回転糸切り	内底面周縁部凹み	覆土中層	70%	PL101
734	土師質土器	小皿	[7.8]	2.6	3.5	長石・石英・赤 色粒子	黄橙 普	通 ロクロナ 内底面居	デ 底部 縁部凹み	回転糸切 仕上げ) ナデ	覆土中層	50% 油煙付	PL101 着
735	土師質土器	内耳鍋	-	(6.1)	-	長石・石英	にぶい赤褐 普	通 口縁部外	· 内面横	ナデー体語	部外・内面ナデ	覆土中	5% 外面煤	付着
736	土師質土器	内耳鍋	[32.7]	(6.4)	-	長石・石英・雲 母	にぶい褐 普	通 口縁部外	· 内面横	ナデー体語	部外面ナデ	覆土中層	5% 外面煤	付着
番号	種 別	器種	J	胎 土	:	色 調		手 法	の特	徴ほ	か	出土位置	備	考
TP32	土師質土器	擂鉢	長石・	石英・赤	色粒子	赤褐	外・内面ナラ	一 内面1条	1単位の	擂目		覆土中		
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特	徴		出土位置	備	考
Q 223	硯	(8.1)	(8.0)	(1.9)	(118.6)	泥岩	海部欠損					覆土中	PL105	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特	徴		出土位置	備	考
M74	釘	(10.5)	(0.7)	0.6	(17.8)	鉄	頭部欠損 圏	f面方形				覆土中	PL106	

(4) 土坑

第7155号土坑 (第430図)

調査年度 平成 23 年度



第 430 図 第 7155 号土坑実測図

位置 16 区北東部の P 6 d9 区,標高 23 m ほどの台地平坦部に位置 している。

規模と形状 長径 2.18 m, 短径 0.76 mの楕円形で、長径方向はN - 17° - Eである。深さは 13cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていること から埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

2 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した土師器片 4 点(坏 2 , 甕 2) が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないものの、周囲の遺構の様相などから室町時代と考えられる。性格は不明である。

第7156号土坑 (第431図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区北東部の P 6 e8 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 $1.54\,\mathrm{m}$, 短径 $0.67\,\mathrm{m}$ の不整楕円形で,長径方向は $\mathrm{N}-16\,^{\circ}-\mathrm{E}$ である。深さは $24\mathrm{cm}$ で,底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

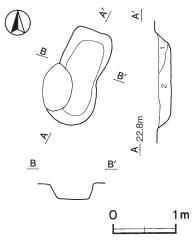
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量,炭化物微量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(鍋)のほか,土師器片1点(坏), 自然遺物1点(貝)が覆土中から出土している。いずれも細片のため図 示できない。

所見 時期は、出土土器や周囲の遺構の様相などから室町時代と考えられる。性格は不明である。



第 431 図 第 7156 号土坑実測図

第7254号土坑 (第432図)

調査年度 平成23年度

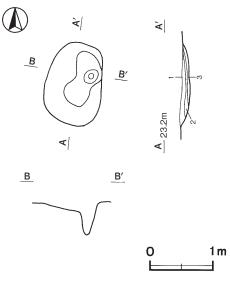
位置 16 区中央部の Q 5 b0 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 $1.35 \, \text{m}$, 短径 $0.92 \, \text{m}$ の楕円形で,長径方向は $N-16\,^\circ-E$ である。深さは $12 \, \text{cm}$ で,底面は平坦である。底面 の東部に,長径 $27 \, \text{cm}$,短径 $19 \, \text{cm}$ で,深さ $36 \, \text{cm}$ のピット状の掘り 込みを確認した。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれている ことから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック多量



第 432 図 第 7254 号土坑実測図

遺物出土状況 混入した土師器片 2点(甕), 粘土塊 1点が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないものの、周囲の遺構と長径方向が同様であることから、室町時代と 考えられる。性格は不明である。

第7255号土坑 (第433図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 6 b1 区. 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.88 m, 短径 1.10 mの楕円形で,長径方向は $N-32^\circ-E$ である。深さは 29 cmで,底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

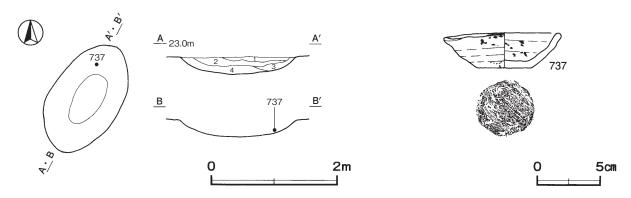
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 3 灰 黄 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量 4 にぶい黄褐色 ロームブロック多量,焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)のほか,土師器片1点(甕)が覆土上層から中層にかけて出土している。737 は北東部の覆土中層から出土している。

所見 遺構の形状から、墓坑と考えられる。時期は、出土土器から 16 世紀代と考えられる。



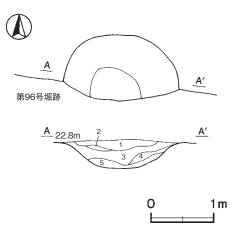
第433 図 第7255 号土坑 · 出土遺物実測図

第7255号土坑出土遺物観察表(第433図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
737	土師質土器	小皿	9.1	2.8	4.5	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面周縁部凹み 仕上げナデ	覆土中層	100% PL103 油煙付着

第7257号土坑 (第434図)

調査年度 平成 23 年度



第 434 図 第 7257 号土坑実測図

位置 16 区中央部のQ 5 d9 区, 標高 23 mほどの台地平坦部 に位置している。

重複関係 第96号堀に掘り込まれている。

規模と形状 南部が第 96 号堀に掘り込まれているため、東西 径は $1.85\,\mathrm{m}$ で、南北径は $1.05\,\mathrm{m}$ しか確認できなかった。東西 径方向は $N-82^\circ-\mathrm{W}$ で、円形または楕円形になると推定できる。深さは $43\,\mathrm{cm}$ で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。第 $2\sim4$ 層は、ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第1層は、黒褐色土が均質に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

- 土層解説
- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片1点(擂鉢)のほか、土師器片3点(甕)が覆土中から出土している。いずれも 細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から室町時代と考えられる。性格は不明である。

第7258号土坑 (第435 図)

調査年度 平成23年度

位置 16 区中央部のQ 5 d0 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第96号堀に掘り込まれている。

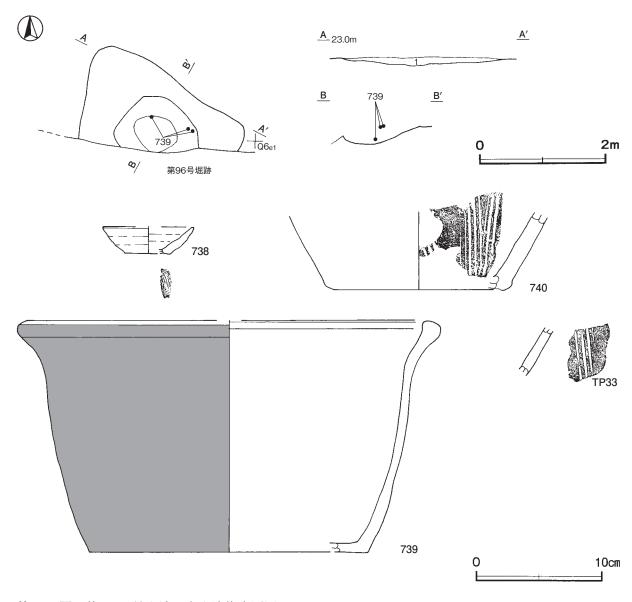
規模と形状 南部が第 96 号堀に掘り込まれているため、東西軸は $2.63 \, \text{m}$ 、南北軸は $1.60 \, \text{m}$ しか確認できなかった。東西軸方向は $N-66^\circ-W$ で、平面形は隅丸長方形と推測できる。深さは $23 \, \text{cm}$ で、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 13 点 (小皿 5, 鍋 1, 内耳鍋 5, 擂鉢 2) のほか, 土師器片 10 点 (甕類), 須 恵器片 1点 (蓋) が覆土中から散在して出土している。739 は中央部の覆土上層から下層にかけて出土した破



第 435 図 第 7258 号土坑・出土遺物実測図

片が接合したものである。738·740·TP33 はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀前半と考えられる。性格は不明である。

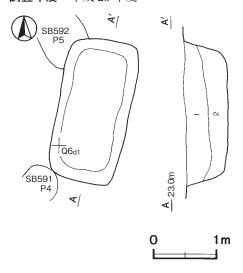
第7258号土坑出土遺物観察表(第435図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
738	土師質土器	小皿	[7.1]	2.2	[3.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	10%
739	土師質土器	鍋	[32.0]	18.5	[22.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層 ~上層	10% 外面煤付着
740	土師質土器	擂鉢	-	(6.2)	[13.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ナデ 内面5条1単位の擂目	覆土中	5 %

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP33	土師質土器	擂鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	外・内面ナデ 内面3条1単位の擂目	覆土中	

第7260号土坑 (第436図)

調査年度 平成23年度



第 436 図 第 7260 号土坑実測図

位置 16 区中央部のQ 6 c1 区,標高 23 mほどの台地平坦部に 位置している。

重複関係 第 592 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第 591 号 掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸 2.31 m, 短軸 1.14 mの長方形で,長軸方向 は N -12° - E である。深さは 70 cmで,底面は平坦である。壁はやや外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック多量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

所見 遺構の形状から、墓坑と考えられる。時期は、遺物が出土していないものの、周囲の当時代の土坑と長径方向が同様であることから、室町時代と考えられる。

第 7287 号土坑 (第 437 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 5 a7 区. 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.69 m, 短軸は 1.13 mの隅丸長方形である。長軸方向はN -10° - Eである。深さは 10cmで,底面は平坦である。底面の東部に,径 20cm・24cm,深さ 12cm・16cmのピット状の掘り込み 2か所を確認した。壁は緩やかに立ち上がっている。

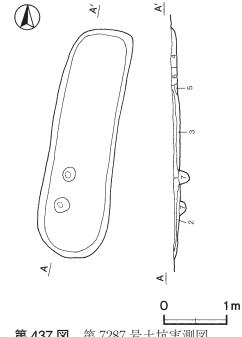
覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子中量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 混入した土師器片4点(甕)が覆土中から出土 している。いずれも細片のため図示できない。

所見 遺構の形状から、墓坑と考えられる。時期は、伴う遺物 が出土していないものの、周囲の当時代の土坑と長径方向が同 様であることから、室町時代と考えられる。



第 437 図 第 7287 号土坑実測図

第7306号土坑 (第438図)

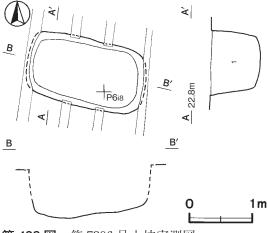
調査年度 平成 24 年度

位置 16 区北東部の P 6 h7 区、標高 23 m ほどの台地平 坦部に位置している。

規模と形状 東端・西端とも上部を削平されているため. 長軸は1.95 mしか確認できなかった。, 短軸は1.08 mで, 長方形と推定される。長軸方向はN-77°-Wである。 深さは78cmで、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。 覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていること から埋め戻されている。

土層解説

1 灰黄褐色 ロームブロック中量



第 438 図 第 7306 号土坑実測図

所見 遺構の形状から、墓坑と考えられる。時期は、遺物が出土していないものの、周囲の当時代の土坑と長 径方向が同様であることから、室町時代と考えられる。

第7307号土坑 (第439図)

調査年度 平成24年度

位置 16 区北東部の P 6 i7 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7308号土坑を掘り込み、第7309号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.19 m、短軸 1.16 mの長方形で、長軸方向はN-9°-Eである。深さは 27cmで、底面は 平坦である。壁はやや外傾して立ち上がっている。

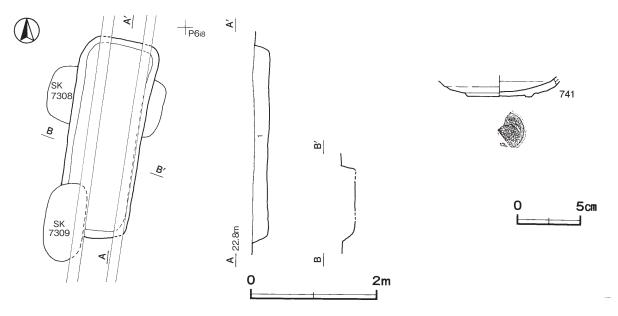
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 5 点(鍋),陶器片 1 点(皿)のほか、土師器片 2 点(坏、甕)、須恵器片 1 点(甕)、灰釉陶器片 1 点(瓶類)が覆土中から散在して出土している。741 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から16世紀代と考えられる。性格は不明である。



第439図 第7307号土坑・出土遺物実測図

第7307号土坑出土遺物観察表(第439図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	絵 付	釉 色	産 地	年 代	出土位置	備考
741	陶器	Ш	-	(1.6)	[5.2]	長石		灰白	-	灰オリーブ	瀬戸・美濃	16 C代	覆土中	10%

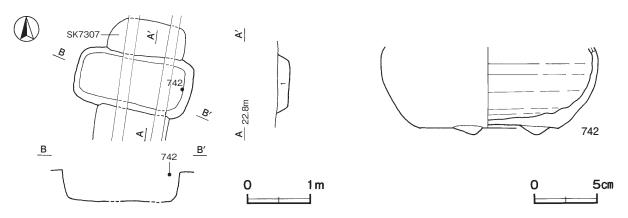
第7308号土坑 (第440図)

調査年度 平成 24 年度

位置 16 区北東部の P 6 i7 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7307 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 1.87 m, 短軸 0.91 mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-79°-Wである。深さは 19cmで, 底



第440図 第7308号土坑・出土遺物実測図

面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐 灰 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片3点(内耳鍋2,鉢1)のほか、土師器片5点(鉢4,甕1)が覆土中から散在して出土している。742は東部の覆土下層から出土している。

所見 遺構の形状から、墓坑の可能性がある。時期は、出土土器や重複関係から 15 世紀代と考えられる。

第7308号土坑出土遺物観察表(第440図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土				焼成				特				出土位置	備	考
742	土師質土器	鉢	-	(6.9)	11.0	長石・石英・ 母・赤色粒子	雲	にぶい	黄橙	普通	ロクロナデ	脚音	33カ	·所((うち	1カ	所剥離)	覆土下層	60%	

表 89 室町時代土坑一覧表

番号 位置		巨汉士向	平面形	規	模	底 面	壁面	覆土	主 な 出 土 遺 物	備考
田牙口匹巨	長径方向	十 山 形	長径×短径(m)	深さ (cm)	広 田	生 山	復 工	土な山工退物)HI 45	
7155	P6d9	N - 17° - E	楕円形	2.18 × 0.76	13	平坦	緩斜	人為	土師質土器片	
7156	P6e8	N - 16° - E	不整楕円形	1.54 × 0.67	24	平坦	緩斜	人為	土師質土器片,土師器片	
7254	Q5b0	N - 16° - E	楕円形	1.35 × 0.92	51	平坦	緩斜	人為	土師質土器片,粘土塊	
7255	Q6b1	N - 32° - E	楕円形	1.88 × 1.10	29	平坦	緩斜	人為	土師質土器片, 土師器片	
7257	Q5d9	N - 82° - W	[円形·楕円形]	1.85 × (1.05)	43	平坦	緩斜	自然 人為	土師質土器片, 土師器片	本跡→第 96 号堀跡
7258	Q5d0	N - 66° - W	隅丸長方形	2.63 × (1.60)	23	皿状	緩斜	人為	土師質土器片,土師器片,須恵 器片	本跡→第 96 号堀跡
7260	Q6c1	N - 12° - E	長方形	2.31 × 1.14	70	平坦	外傾	人為		SB592 →本跡 SB591 新旧不明
7287	Q5a7	N - 10° - E	隅丸長方形	3.69 × 1.13	10	平坦	緩斜	人為	土師器片	
7306	P6h7	N - 77° - W	[長方形]	[1.95] × 1.08	78	平坦	直立	人為		
7307	P6i7	N - 9° - E	長方形	3.19 × 1.16	27	平坦	外傾	人為	土師質土器片,陶器片	SK7308 →本跡
7308	P6i7	N - 79° - W	隅丸長方形	[1.87] × 0.91	19	平坦	外傾	人為	土師質土器片,土師器片	本跡→SK7307

(5) 道路跡

第6号道路跡 (第 441 図)

調査年度 平成 23 · 24 年度

位置 16 区北東部から東部の P 7 f1 ~ Q 6 a0 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第571号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 Q 6 a0 区から北方向(N - 17°-E)にほぼ直線状に延び、北端は調査区域外に至っている。 南端はQ 6 a0 区まで硬化面を確認した。確認できた長さは 14.1 mである。幅は $0.84 \sim 1.08$ mで、層厚は 13 cmである。浅いU字状に掘り込み、ロームブロック主体の第 $1\cdot 2$ 層を埋土して構築している。

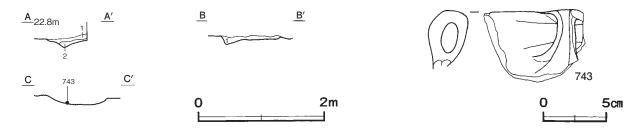
構築土 2層に分層できる。第1層は締まりが強く硬化している。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (締まり強い) 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が、南部の覆土下層から出土している。

所見 第 571 号溝跡の廃絶後に構築されている。時期は、出土遺物の内耳の特徴や重複関係から、室町時代と考えられる。



第441 図 第6号道路跡実測図·出土遺物実測図

第6号道路跡出土遺物観察表 (第441図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
743	土師質土器	内耳鍋	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	5% 外面煤付着

(6) 堀跡

第 92 号堀跡 (第 442 ~ 454 図·付図 5)

調査年度 本跡は、16 区東部のS 6 a4 区から、15 区東部のM 8 c2 区にかけて確認した。16 区東部のS 6 a4 区からQ 6 g8 区を平成 16・17 年度に調査し、『第 280 集』にて報告している。16 区北東部のP 6 j9 区からP 7 a1 区を平成 23 年度に、16 区東部のQ 6 g9 区からQ 6 j9 区及び 15 区東部のM 8 g1 区からM 8 c2 区を平成24 年度にそれぞれ調査した。

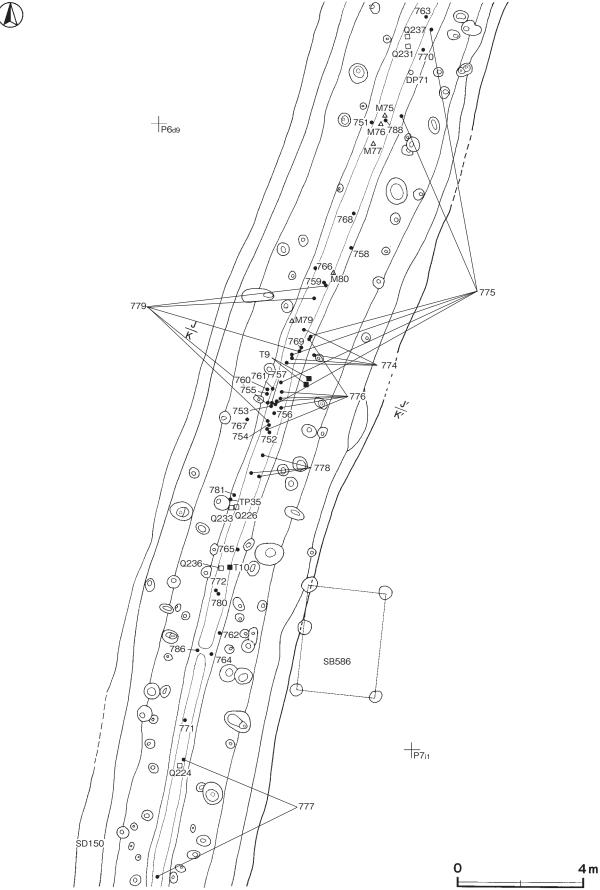
位置 16 区東部から北東部及び 15 区東部のQ 6 $g9 \sim M 8 c2$ 区、16 区東部から北東部は標高 23 mほど、15 区東部は標高 22 mほどの、いずれも台地平坦部に位置している。

重複関係 16 区東部から北東部では第 586 号掘立柱建物,第 7304 号土坑,第 150 号溝,第 64 号柱穴列に掘り込まれている。第 7300A 号土坑と重複しているが,新旧関係は不明である。15 区東部では第 30 号道路跡を掘り込んでいる。

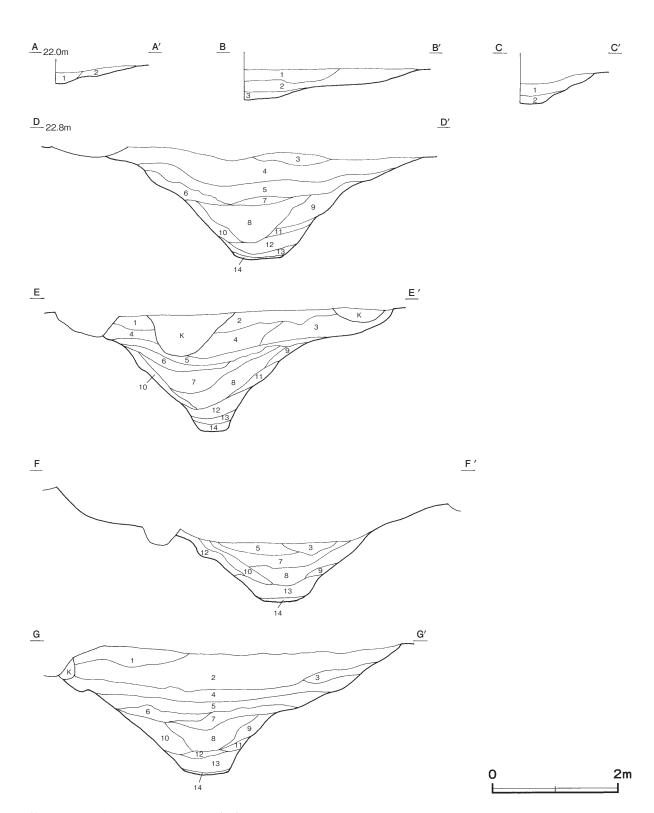
規模と形状 16 区東部のQ 6 g9 区から北方向(N - 12 $^{\circ}$ - E)にほぼ直線状に延びている。本跡の北端は 15 区東部に続くと想定され,南端は『第 280 集』報告の第 92 号堀跡と接続する。さらに,16 区の北北東 101 m に位置する 15 区東部,M 8 g1 区に本跡が確認され,北方向(N - 21 $^{\circ}$ - E)に直線状に延び,北端は調査区域外へ至っている。本調査区で確認できた長さは 80.22 mで,上幅 $1.28 \sim 5.80$ m,下幅 $0.30 \sim 0.77$ m,深さ $52 \sim 192$ cmである。断面形は薬研状で,壁は底面から中段までは外傾し,それ以上は緩やかに立ち上がっている。壁面中段には,長径 $20 \sim 101$ cm,短径 $18 \sim 65$ cm,深さ $16 \sim 80$ cmで,平面形は円形または楕円形のピット 161 基を確認している。底面の標高は,16 区が 15 区に比べてやや低くなっているが,15 区・16 区ともに,一方向への傾斜は認められない。

覆土 14層に分層できる。第 12~ 14層は締まりが弱くレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり,第 9~ 11層は壁部の崩落土と考えられる。第 1~8層は,ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 6~第 8層は,第 9層以下を掘り込んでいる堆積状況を示していることから,本跡を掘り返した跡とみられる。第 1~8層と第 9~ 14層では,堆積状況が異なっていることから, 2次期にわたって堆積していると考えられる。





第 442 図 第 92 号堀跡実測図 (1)

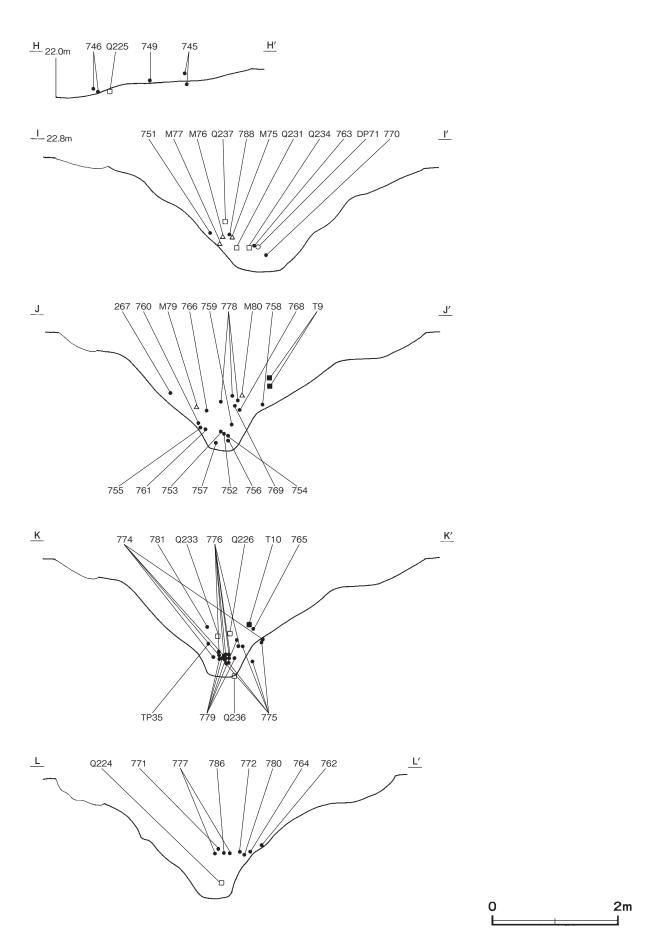


第 443 図 第 92 号堀跡実測図 (2)

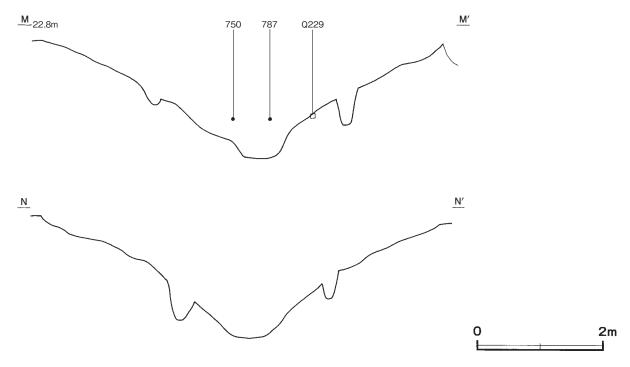
土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック少量

- 8 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 9 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 11 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 11 暗 褐 巴 ロームノロック・柏工粒士少量 12 暗 褐 色 粘土粒子中量, ロームブロック少量
- 13 褐 色 粘土粒子中量,ローム粒子少量
- 14 黒 褐 色 粘土粒子中量

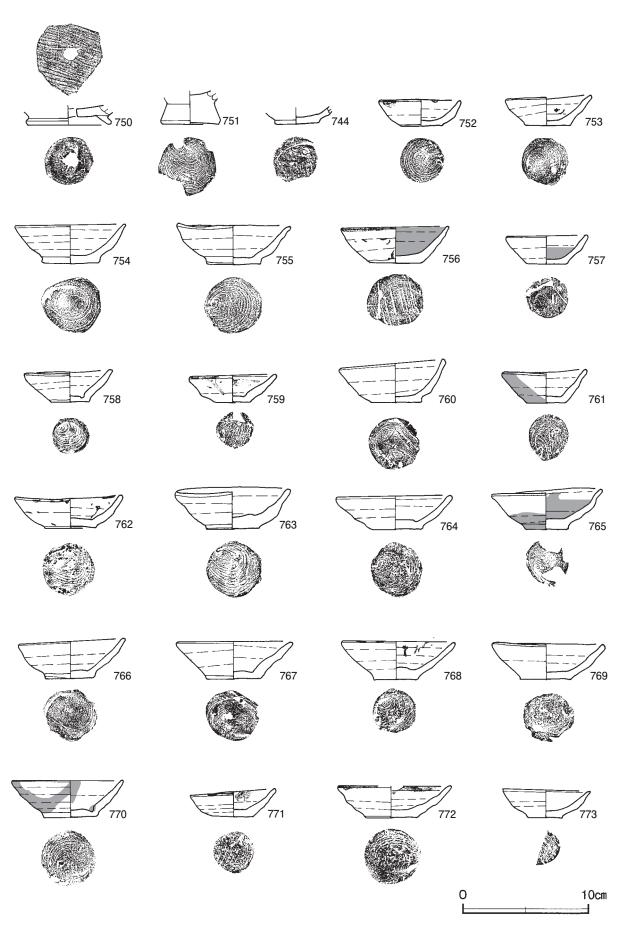


第 444 図 第 92 号堀跡実測図 (3)

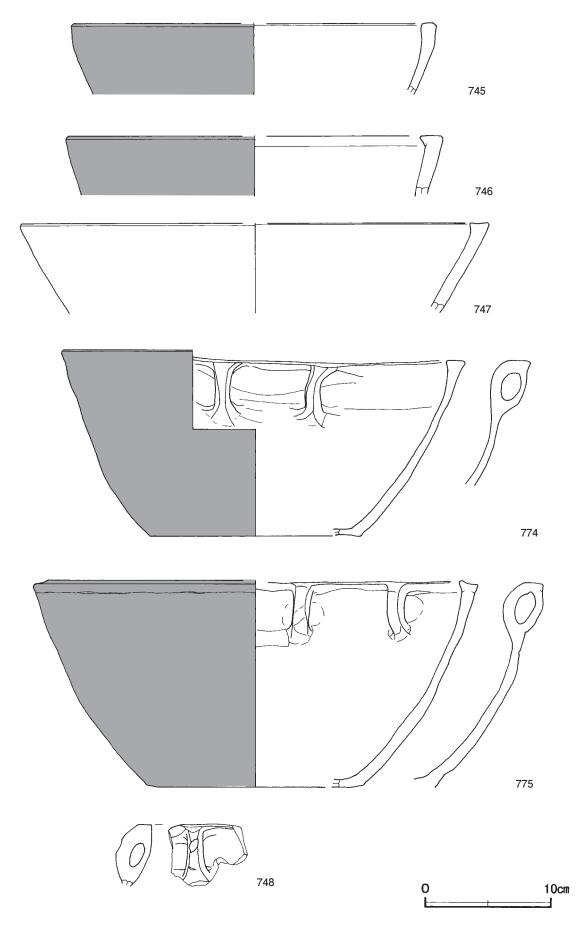


第 445 図 第 92 号堀跡実測図 (4)

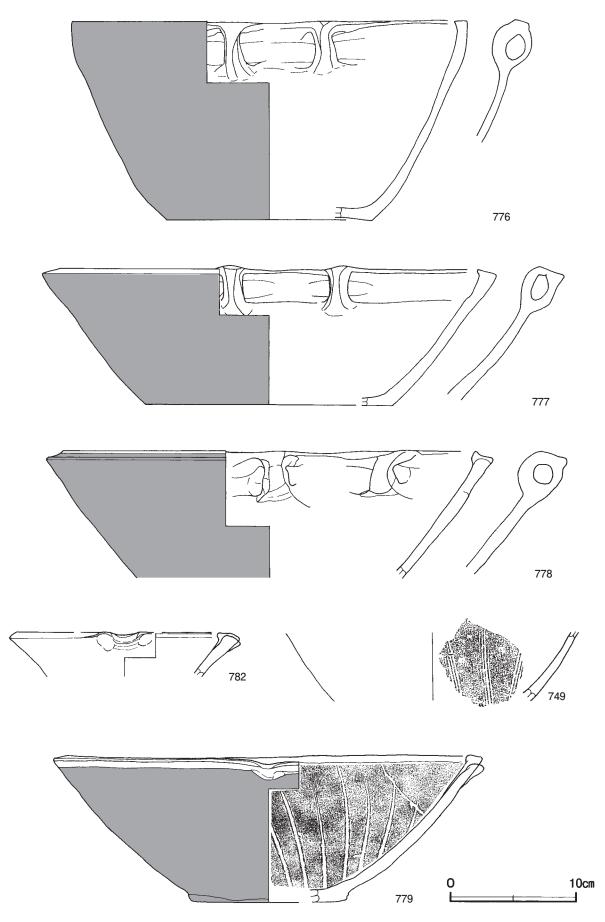
遺物出土状況 土師質土器片 1,246 点 (小皿 103, 鍋 4, 内耳鍋 1,030, 擂鉢 107, 片口鉢 1, 火鉢 1), 瓦質 土器 1 点 (火鉢), 陶器片 51 点 (天目茶碗 2, 碗 7, 皿 6, 鉢 1, 擂鉢 1, 甕 29, 不明 5), 磁器片 1 点 (八 角小坏),土製品 2 点(羽口,不明),石器 36 点(石臼 23,茶臼 3,砥石 9,硯 1),石製品 7 点(石塔),鉄 製品3点(釘2,不明1),銭貨3点(政和通寶,洪武通寶,景祐通寶),瓦片3点(平瓦1,丸瓦2),鉄滓 20点(1,937.0 g), 粘土塊6点のほか、土師器片592点(坏81, 椀4、高台付椀7, 柱状高台付皿1、高坏6、 鉢 1, 甕類 492), 須恵器片 95 点(坏 66, 高台付椀 4, 蓋 4, 鉢 2, 瓶類 3, 甕 16), 灰釉陶器片 6 点(蓋 1, 瓶類5)が出土している。16区出土遺物の層位については、時期差のある第8・9層を境に、第9層から下 層を覆土下層、第6~8層を覆土中層とする。15区出土遺物の層位については、層位からすべて16区の第3 ~5層に相当するため、すべて覆土上層とする。Q 236 は 16 区北東部の底面から、757 は 16 区北東部の覆土 下層(第14層)からそれぞれ出土している。754·756は16区北東部、Q224は16区東部のそれぞれ覆土下 層(第13層)から出土している。752・753・755・759・761・770は16区北東部の覆土下層(第12層)から それぞれ出土している。774~776・779は、それぞれ16区北東部の覆土下層(第12層)から出土した破片 が接合している。758 は16 区北東部の覆土下層(第11層),760 は16 区北東部の覆土下層(第10層)からそ れぞれ出土している。762 ~ 765 · 768 · 769 · 772 · 780 · 786 · 788 · TP35 · DP71 · Q 226 · Q 231 · Q 234 · Q 237·M 75~M 77·M 80·T 10 は 16 区北東部, Q 234 は 16 区東部のそれぞれ覆土中層(第 8 層)から 出土している。778・T9は16区北東部、777は16区東部の覆土中層(第8層)から出土した破片がそれぞ れ接合したものである。766・767・771・781・M 79 は 16 区北東部の覆土中層(第7層)からそれぞれ出土し ている。749 · Q 225 は 15 区東部の覆土上層からそれぞれ出土している。745 · 746 は 15 区東部の覆土上層か ら出土した破片がそれぞれ接合したものである。744・747・748・750・773・782 ~ 785・787・TP34・TP36 ~ TP39·DP70·Q 227·Q230·Q 232·Q 233·Q 235·M 78·M 81·T 11 は、それぞれ覆土中から出土 している。



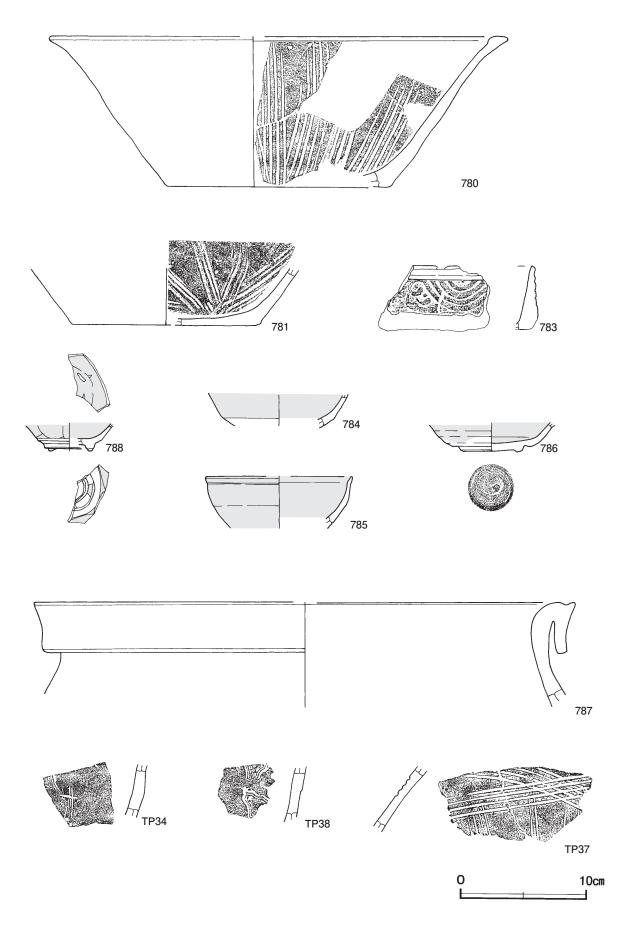
第 446 図 第 92 号堀跡出土遺物実測図 (1)



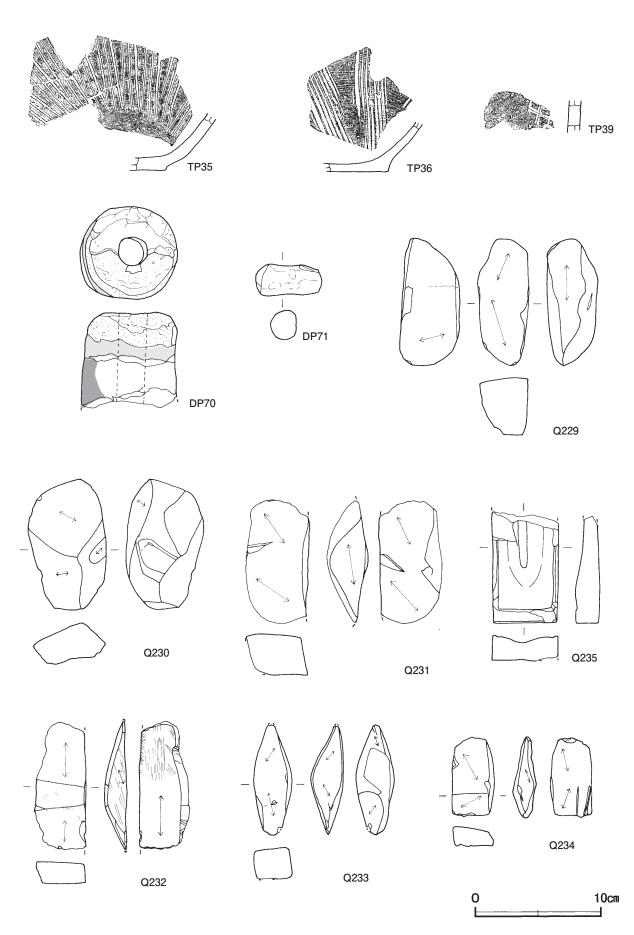
第447図 第92号堀跡出土遺物実測図(2)



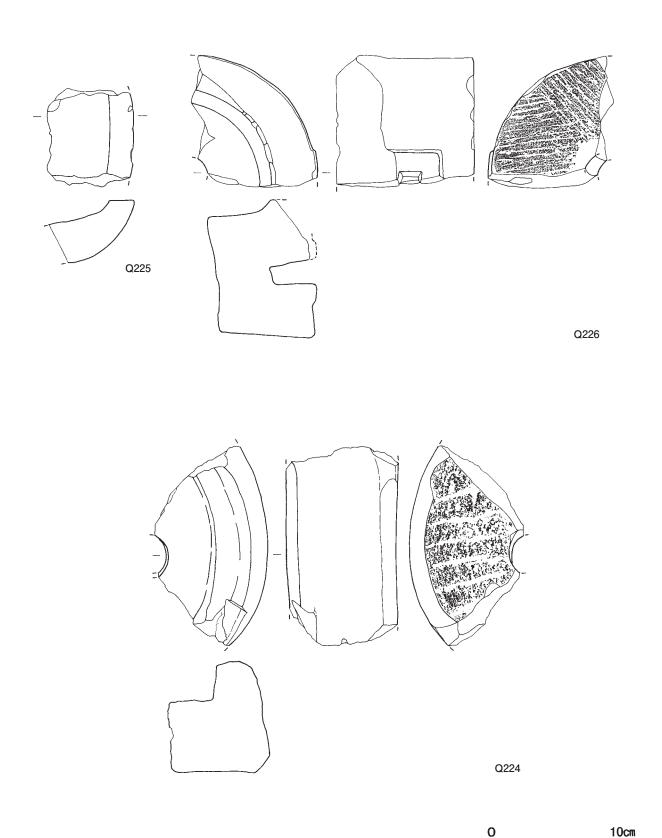
第448図 第92号堀跡出土遺物実測図(3)



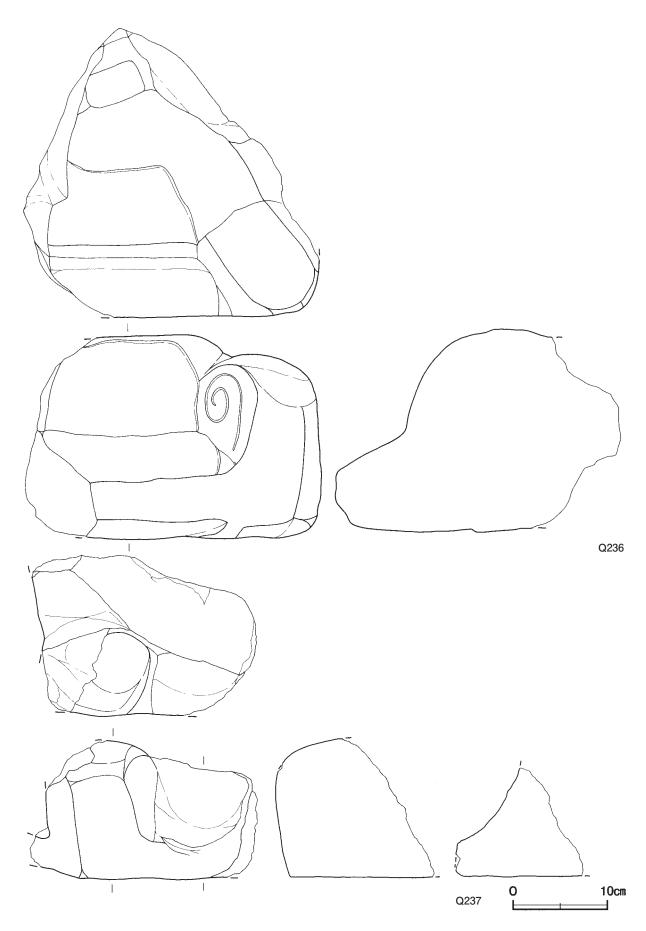
第 449 図 第 92 号堀跡出土遺物実測図 (4)



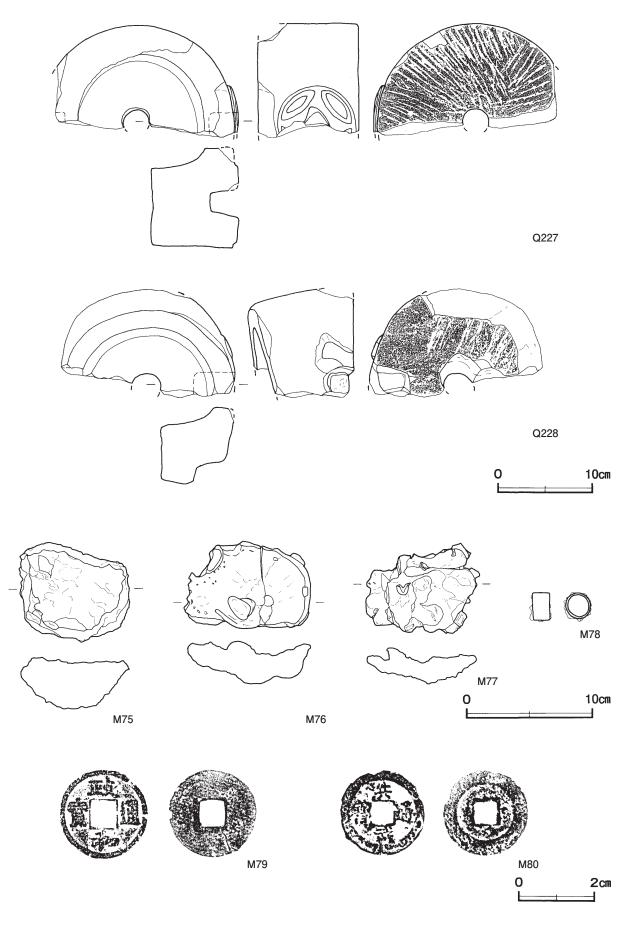
第 450 図 第 92 号堀跡出土遺物実測図 (5)



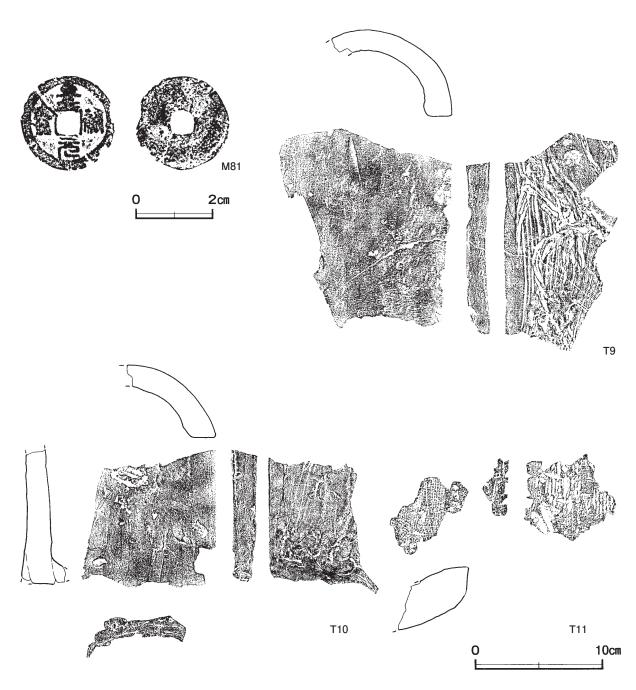
第 451 図 第 92 号堀跡出土遺物実測図 (6)



第 452 図 第 92 号堀跡出土遺物実測図 (7)



第453 図 第92号堀跡出土遺物実測図(8)



第 454 図 第 92 号堀跡出土遺物実測図 (9)

所見 前回の調査と併せて、確認できた長さは $131.22\,\mathrm{m}$ で、上幅 $1.28\sim5.80\,\mathrm{m}$ 、下幅 $0.30\sim0.92\,\mathrm{m}$ 、深さ $52\sim223\mathrm{cm}$ であることが明らかになった。時期は、『第 $280\,\mathrm{集}$ 』では $16\,\mathrm{te}$ 紀後半と報告されている。出土遺物 の土師質土器小皿のうち、下層(第 $12\cdot13\,\mathrm{R}$)から出土の $752\sim754\cdot761\cdot765\,\mathrm{o}$ 5 点は、他の小皿と比較 して口縁端部の器厚が薄い特徴がみられる。層位による出土土器の特徴や覆土の堆積状況から、本跡は $16\,\mathrm{te}$ 紀前半には堀として機能しており、 $16\,\mathrm{te}$ 世紀半ばには掘り直しを行ったと考えられる。廃絶時期は $16\,\mathrm{te}$ 紀末と 考えられる。底面がどちらか一方に傾斜している様子が見られないことや、東側に現道があること、壁面に柵 列状のピットが確認されていることなどから、区画及び防御を目的として機能していたと想定される。また、本跡の西側に妙徳寺が位置しており、寺と関わるものの可能性がある。

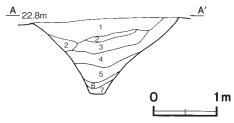
第 92 号堀跡出土遺物観察表(第 446 ~ 454 図)

24 日本記上 10	番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	ā	手法の	特徴ほ	か	出土位置	備	考
19 19 19 19 19 19 19 19	744	土師質土器	小皿	-	(1.4)	3.5	長石・石英・赤 色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転:	糸切り				
19 19 19 19 19 19 19 19	745	土師質土器	鍋	[28.6]	(5.7)	_		にぶい褐	普通						5% 外面煤	付着
15 15 15 15 15 15 15 15	746	土師質土器	鍋	[29.7]	(4.7)	_	長石・石英・雲 母・赤色粒子	橙	普通							付着
1981年 1981年 1982 198	747	土師質土器	鍋	[37.0]	(7.2)	_	長石・石英	にぶい褐	普通			体部外面ナ	デ	覆土中		
19	748	土師質土器	内耳鍋	-	(4.9)	-	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外	・内面横ナデ	体部外面ナ	デ	覆土中	5% 外面煤	付着
15 15 15 15 15 15 15 15	749	土師質土器	擂鉢	-	(5.4)	_		にぶい黄橙	普通	体部外面:	ナデ 内面4	条1単位の擂	目		5 %	
1987 1987	750	土師器		-	(1.5)	[6.4]	長石・石英・赤 色粒子	にぶい橙	普通	高台貼付	底部穿孔	内面へラ磨き	線刻有り	覆土中	10%	
10 10 10 10 10 10 10 10	751	土師器		_	(2.7)	4.5		にぶい橙	普通	ロクロナラ	デ 高台部回	転糸切り		覆土中層		
18.1 18.1 18.1 18.2 18.3 18.3 18.4	752	土師質土器	小皿	6.5	2.1	3.4	長石・石英・赤 色粒子	橙	普通	ロクロナラ				覆土下層		
10% PL101	753	土師質土器	小皿	6.8	2.4	3.7	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナラ 内底面周約	デ 底部回転: 縁部凹み 仕	糸切り後ナデ 上げナデ		覆土下層		
18 18 18 18 18 18 18 18	754	土師質土器	小皿	8.7	3.2	4.5	長石・石英・雲母	灰白	普通					覆土下層	100% I	PL102
18	755	土師質土器	小皿	8.8	3.2	4.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナラ 内底面周約	デ 底部回転: ^{彖部凹み}	糸切り後ナデ	ì	覆土下層	100% I	PL101
18 18 18 18 18 18 18 18	756	土師質土器	小皿	8.4	3.0	4.3	長石・石英	にぶい橙	普通					覆土下層		
10 日本日 小田 10 日本日	757	土師質土器	小皿	6.3	2.3	3.2		にぶい橙	普通	ロクロナラ 内底面周約	デ 底部回転: 縁部凹み 仕	糸切り後ナデ 上げナデ	`	覆土下層		
18日まか 小田 82 34 39 以下 56 24 24 26 27 27	758	土師質土器	小皿	6.6	2.6	2.9	長石・石英・赤 色粒子	橙	普通			糸切り 内底	面周縁部凹み	覆土下層		
10日 10	759	土師質土器	小皿	6.6	2.2	2.7	長石・石英・赤 色粒子	橙	普通		/24 HF 11 14 /			覆土下層		
762	760	土師質土器	小皿	8.2	3.4	3.9	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通		デ 底部回転; ^{彖部凹み}	糸切り後ヘラ	ナデ	覆土下層		
18月1日 小田 84 26 40 全校子 26 41 全校子 26 42 42 42 42 42 42 42	761	土師質土器	小皿	6.5	2.6	3.5	長石・石英	浅黄橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転糸	糸切り 内底	面周縁部凹み	覆土下層		
18	762	土師質土器	小皿	8.4	2.6	4.0	長石・石英・赤 色粒子	橙	普通				面周縁部凹み	覆土中層		
765 上海見上巻 小皿 8.7 3.3 3.4 長石 - 石英・霊物 橙 普通 内皮面固酸素配四次 優土中層 29.8 P.1.101 P.1.102	763	土師質土器	小皿	8.8	3.3	4.3	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面周約	豪部凹み 仕	上げナデ		覆土中層	100% I	PL101
766 上前五上章 小皿 84 32 38 接行 石英 赤 によい後 普通 ロクロナア 底部回転外切り 内底面固縁部門み 覆土中層 98% PL102 767 上前五上章 小皿 88 31 34 長行 石英 赤 によい後 普通 ロクロナア 底部回転糸切り 内底面固縁部門み 覆土中層 95% PL102 768 上前五上章 小皿 88 31 34 長行 石英 横 位配子 株 表行 石英 横 世 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	764	土師質土器	小皿	9.0	2.8	4.1		橙	普通	ロクロナラ 内底面周約	デ 底部回転: 录部凹み	糸切り後ナデ	`	覆土中層	100% I	PL102
767	765	土師質土器	小皿	8.7	3.3	3.4		橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転:	糸切り		覆土中層		
768 土崎工彦 小皿 8.8 3.1 3.4 長石 - 石英 松 普通 ロクロナア 底部回転糸切り 内底面周縁部四み 覆土中層 90% PL102 1.6	766	土師質土器	小皿	8.4	3.2	3.8	色粒子	にぶい橙	普通					覆土中層	98%	PL102
768	767	土師質土器	小皿	9.1	3.0	4.5	長石・石英・赤 色粒子	にぶい黄橙	普通		デ 底部回転: 录部凹み	糸切り後ヘラ	ナデ	覆土中層		
770	768	土師質土器	小皿	8.8	3.1	3.4		橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転糸	糸切り 内底	面周縁部凹み	覆土中層		
771 上邮貨土器 小皿 6.6 2.2 3.3 長石 行英・黒 位 音通 ロクロナデ 底部回転系切り後ハラナデ 覆土中層 治療付著 1.2 1.2 1.2 1.2 1.3 1.2 1.3	769	土師質土器	小皿	8.8	2.9	4.0	長石・石英・赤 色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転:	糸切り		覆土中層	90%	PL102
772	770	土師質土器	小皿	8.7	3.0	4.3		橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転糸	糸切り 内底で	面周縁部凹み	覆土下層	油煙付	着
73	771	土師質土器	小皿	6.6	2.2	3.3	色粒子	橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転:	糸切り後ヘラ	ナデ	覆土中層	油煙付	着
73 三町工音 小皿 7.0 2.2 2.8 日 赤色柱子 にふい橙 音通 り ロテナ 版計回転来切り依ケチ 複工中 70% P1.103 分面操付着 775 土崎貫土器 内耳錦 [33.0] 16.4 [17.4] 長石 石英・雲母 にぶい赤褐 普通 外 内面ナデ 覆土下層 分面操付着 30% 分面操付着 30% 分面操付着 30% 分面操付着 30% 月1.10 月1.10	772	土師質土器	小皿	[8.9]	2.6	4.3	色粒子	橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転:	糸切り後ナデ		覆土中層		
775	773	土師質土器	小皿	7.0	2.2		母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナラ	デ 底部回転:	糸切り後ナデ		覆土中		
776 土師賈士馨 内耳錦 [312] 158 [162] 長石・石英・雲母 福 将 外 内面ナデ 777 土師賈士馨 内耳錦 [334] 11.1 [194] 長石・石英・雲母 花ぶい海 普通 外・内面ナデ 覆土中層 30% 外面媒付着 778 土師賈士馨 内耳錦 [328] (10.1) - 長石・石英・雲母 にぶい海 普通 外・内面ナデ 覆土中層 分 外面媒付着 779 土師賈士馨 擂鉢 [32.2] 11.6 [124] 長石・石英・雲母 にぶい赤褐 普通 外・内面ナデ 内面1条1単位の擂目 覆土中層 分 外面媒付着 779 土師賈士馨 擂鉢 [36.0] 12.0 [18.0] 長石・石英・雲母 にぶい赤褐 普通 外・内面ナデ 内面1条1単位の擂目 覆土中層 30% 外面媒付着 779 土師賈士馨 擂鉢 (4.6) [15.0] 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 外・内面ナデ 内面4条1単位の擂目 覆土中層 30% 781 土師賈士馨 擂鉢 - (4.6) [15.0] 長石・石英・素母 にぶい橙 普通 外・内面ナデ 内面4条1単位の擂目 覆土中層 5% 782 土師賈士馨 大口鉢 [17.0] (3.5) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 サ・内面4条1単位の擂目 覆土中層 5% 783 土師賈士馨 大鉢 - 5.3 - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 サ・スタンプ文施文 覆土中 5% 784 阿器 天目茶碗 - 長石・石英・雲母 田本 大野 スタンプ文施文 覆土中 5% 785 阿器 天日茶碗 - (2.5) - 精良 灰褐 - 黒褐 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中層 20% 786 阿器 天日茶碗 [11.6] (4.1) - 精良 灰褐 -	774	土師質土器	内耳鍋	32.0	14.8	[16.6]		明赤褐	普通	外・内面で	ナデ			覆土下層		
777 上師賞土器 内耳鏡 [334] 11.1 [19.4] 長石・石英・雲 七郎・永色粒子 七郎賞土器 内耳鏡 [32.8] (10.1) -	775	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	16.4	[17.4]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面で	ナデ			覆土下層		付着
778 上師質土器 内耳錦 [32.8] (10.1) - 長石・石英・雲母 にぶい稿 普通 外・内面ナデ 覆土中層 30% 外面媒付着 779 土師質土器 擂鉢 [32.2] 11.6 [12.4] 長石・石英・雲母 にぶい赤褐 普通 外・内面ナデ 内面 1条 1単位の擂目 覆土中層 60% PL103 外面煤付着 780 土師質土器 擂鉢 [36.0] 12.0 [18.0] 長石・石英・雲 にぶい松 普通 外・内面ナデ 内面 5条 1単位の擂目 覆土中層 30% 781 土師質土器 擂鉢 - (4.6) [15.0] 長石・石英・素母 にぶい松 普通 外・内面ナデ 内面 4条 1単位の擂目 覆土中層 5% 782 土師質土器 片口鉢 [17.0] (3.5) - 長石・石英・雲母 にぶい橙 普通 外・内面ナデ 覆土中層 5% 783 土師質土器 八分面・ 7美・雲母 明赤褐 普通 サデスタンプ文施文 覆土中 5% 変土中 5% 784 陶器 天目茶碗 - (2.5) - 精良 灰褐 - 黒褐 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中 5% 785 陶器 天目茶碗 [11.6] (4.1) - 精良 灰褐 - 橙 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中 5% 786 陶器 皿 - (2.3) 5.0 精良 灰白 - 浅黄橙 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中 5% 787 陶器 悪 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰台 瀬戸・美濃 15世紀前 20% 787 陶器 悪 [43.2] - 精良 にぶい褐 - 灰岩 一 灰岩 瀬戸・大田 一 大田 一 大田 一	776	土師質土器	内耳鍋	[31.2]	15.8	[16.2]		褐	普通	外・内面で	ナデ			覆土下層		
778 工師賃上端 内耳輌 1.32.8 10.1 一 接右・石英・雲母 1.5.1 1.6 12.4 長石・石英・雲母 1.5.1 1.6 12.5 1.6 12.4 長石・石英・雲母 1.5.1 1.5	777	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	11.1	[19.4]	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外・内面で	ナデ			覆土中層	20% 外面煤	付着
780	778	土師質土器	内耳鍋	[32.8]	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面で	ナデ			覆土中層		付着
781	779	土師質土器	擂鉢	[32.2]	11.6	[12.4]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面で	ナデ 内面1	条1単位の擂	E	覆土下層		
782	780	土師質土器	擂鉢	[36.0]	12.0	[18.0]	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面で	ナデ 内面5	条1単位の擂	E	覆土中層	30%	
783 土師賃土器 火鉢 - 5.3 - 長石・石英・雲母 明赤褐 普通 ナデ スタンプ文施文 覆土中 5% 番号 種 別 器種 口径 器高 底径 胎 土 色 調 絵 付 釉 色 産 地 年 代 出土位置 備 考 784 陶器 天目茶碗 - (2.5) - 精良 灰褐 - 黒褐 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中 5% 785 陶器 天目茶碗 [11.6] (4.1) - 精良 灰褐 - 橙 瀬戸・美濃 16世紀中葉 覆土中 5% 786 陶器 皿 - (2.3) 5.0 精良 灰白 - 浅黄橙 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中層 20% 787 陶器 菱 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰赤 常滑 15世紀前葉 覆土中 5% 787 陶器 菱 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰赤 常滑 15世紀前葉 で 中葉 覆土中 5% 787 トラスティー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェ	781	土師質土器	擂鉢	-	(4.6)	[15.0]	長石・石英・赤 色粒子	褐	普通	外・内面で	ナデ 内面4	条1単位の擂	E	覆土中層	5 %	
番号 種 別 器種 口径 器高 底径 胎 土 色 調 絵 付 釉 色 産 地 年 代 出土位置 備 考 784 陶器 天目茶碗 - (2.5) - 精良 灰褐 - 黒褐 瀬戸・美濃 16 世紀後葉 覆土中 5 % 785 陶器 天目茶碗 [11.6] (4.1) - 精良 灰褐 - 橙 瀬戸・美濃 16 世紀後葉 覆土中 5 % 786 陶器 皿 - (2.3) 5.0 精良 灰白 - 浅黄橙 瀬戸・美濃 16 世紀後葉 覆土中層 20% 787 陶器 甕 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰赤 常滑 15世紀前葉 覆土中 5 %	782	土師質土器	片口鉢	[17.0]	(3.5)	_	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面で	ナデ			覆土中	5 %	
784 陶器 天目茶碗 - (2.5) - 精良 灰褐 - 黒褐 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中 5% 785 陶器 天目茶碗 [11.6] (4.1) - 精良 灰褐 - 橙 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中 5% 786 陶器 皿 - (2.3) 5.0 精良 灰白 - 浅黄橙 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中層 20% 787 陶器 甕 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰赤 常滑 15世紀前葉 ~中葉 覆土中 5%	783	土師質土器	火鉢	-	5.3	_	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	ナデ スタ	タンプ文施文			覆土中	5 %	
784 陶器 天目茶碗 - (2.5) - 精良 灰褐 - 黒褐 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中 5% 785 陶器 天目茶碗 [11.6] (4.1) - 精良 灰褐 - 橙 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中 5% 786 陶器 皿 - (2.3) 5.0 精良 灰白 - 浅黄橙 瀬戸・美濃 16世紀後葉 覆土中層 20% 787 陶器 甕 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰赤 常滑 15世紀前葉 ~中葉 覆土中 5%																
785 陶器 天目茶碗 [11.6] (4.1) - 精良 灰褐 - 橙 瀬戸・美濃 16 世紀中葉 覆土中 5% 786 陶器 皿 - (2.3) 5.0 精良 灰白 - 浅黄橙 瀬戸・美濃 16 世紀後葉 覆土中層 20% 787 陶器 甕 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰赤 常滑 15 世紀前葉 ~中葉 覆土中 5%	番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調		絵付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考
786 陶器 皿 - (2.3) 5.0 精良 灰白 - 浅黄橙 瀬戸・美濃 16 世紀後葉 覆土中層 20% 787 陶器 甕 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰赤 常滑 15 世紀前葉 つ中葉 覆土中 5%	784	陶器	天目茶碗	-	(2.5)	-	精良	灰褐		-	黒褐	瀬戸・美濃	16 世紀後葉	覆土中	5 %	
787 陶器 甕 [43.2] (8.2) - 精良 にぶい褐 - 灰赤 常滑 15世紀前葉 覆土中 5%	785	陶器	天目茶碗	[11.6]	(4.1)	-	精良	灰褐		-	橙	瀬戸・美濃	16 世紀中葉	覆土中	5 %	
101 陶品 完 [43.2] (6.2) 一 相良 にふい物 一 次小 市相 ~中葉 複工中 3 70	786	陶器	Ш	-	(2.3)	5.0	精良	灰白		-	浅黄橙	瀬戸・美濃	16 世紀後葉	覆土中層	20%	
	787	陶器	魙	[43.2]	(8.2)	-	精良	にぶいネ	8	_	灰赤	常滑	15世紀前葉 ~中葉	覆土中	5 %	
	788	磁器	八角小坏	_	(2.2)	[4.0]	緻密	灰白		_	白磁	明	15 世紀代	覆土中層	5 %	PL107

番号	種別	器種	J	胎 土	:	色 調			手法の特徴ほか	出土位置	備	考
TP34	土師質土器	鍋	長石・石	石英		黒褐	外	・・内面ナ	予 外面へラ記号	覆土中		
TP35	土師質土器	擂鉢	長石・石	石英		褐	外	・・内面ナ	一 内面 3 条 1 単位の擂目	覆土中層		
TP36	土師質土器	擂鉢		石英・雲		にぶい黄褐	曷 外	・内面ナラ	一 内面 9 条 1 単位の擂目	覆土中		
TP37	土師質土器	擂鉢	長石・ 赤色粒	石英・雲 子	·母·	橙	外	・・内面ナ	一 内面 4 条 1 単位の擂目	覆土中		
TP38	瓦質土器	鍋	長石・石	石英・雲	母	黒褐	外	・・内面ナ	が 外面へラ状工具による沈線	覆土中		
TP39	瓦質土器	火鉢	長石・A 赤色粒	石英・雲 子	母・	褐灰	外	・内面ナラ	が 外面スタンプ文施文	覆土中		
番号	器 種	径	長さ	孔径	重量	胎土		色 調	特 徵	出土位置	備	考
DP70	羽口	(7.7)	(7.6)	2.3	(410)	長石・赤色粒	江子 に	こぶい黄橙	先端部 黒色ガラス質付着	覆土中	PL104	
									,			
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土		色 調	特 徵	出土位置	備	考
DP71	不明	2.6	5.3	2.1	27.0	長石・赤色料	立子	明赤褐	ナデ 指頭痕	覆土中層		
	<u> </u>		ļ.	l	ļ.							
番号	器種	径	孔径	高さ	重量	材質			特 徴	出土位置	備	考
Q 224	石臼	[26.2]	[3.8]	9.0	(1,051)	安山岩	_	条の擂目	***	覆土下層		
Q 225	茶臼	[31.8]	-	(5.0)	(249)	安山岩		白片		15区		
Q 226	(下白) 茶白、	[19.0]	[3.6]	11.0	(1,428)	安山岩	_		手挽き孔残存 文様有り	覆土上層 覆土中層	PL104	
Q 227	(上臼) 茶臼、	[20.5]	[2.8]	10.6	(2,976)	安山岩	_		か所残存 うち1か所文様有り	覆土中	PL104	
Q 228	(上白) 茶白	18.2	3.1	11.1	(2,326)	安山岩		挽き孔27		覆土中	1 2101	
- Q 220	(上臼)	10.2	0.1	11.1	(2,020)	X1110		700 702 7	7/7/411	1		
- 45 □	RP 14	ע ≒	dore	le 2	4.8	J.J. 1616			ti-t- 2017.	山上佐墨	LH:	-b/.
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	_		特 徵	出土位置	備	专
Q 229	砥石	10.1	4.2	4.8	199.0	凝灰岩	_	面3面		覆土中	DI 105	
Q 230	砥石	10.4	6.2	3.3	183.0	凝灰岩		面4面	Land and All Market State Company	覆土中	PL105	
Q 231	砥石	(9.7)	(5.1)	(3.2)	(152.9)	凝灰岩			也1面は破断面	覆土中層	PL105	
Q 232	砥石	(10.2)	4.1	1.8	78.7	泥岩			也1面は破断面	覆土中	PL105	
Q 233	砥石	(8.8)	3.0	2.6	(67.5)	凝灰岩		(面4面		覆土中	PL105	
Q 234	砥石	6.4	3.3	1.8	37.0	凝灰岩	_		2条の擦痕有り	覆土中層	PL105	
Q 235	硯	(8.9)	5.3	2.0	158.8	泥岩	- -		中央に凹み有り	覆土中	PL105	
Q 236	石塔	(30.5)	(31.0)	(21.2)	(21,900)	花崗岩	六	角形の笠の	つ一部 蕨手文有り 石灯籠もしくは六地蔵石幢』	底面	PL105	
Q 237	石塔	(14.8)	(24.3)	(14.0)	(5,900)	花崗岩	六	角形の笠の	つ一部 石灯籠もしくは六地蔵石幢ヵ	覆土中層		
			1		1							
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質			特 徵	出土位置	備	考
M75	椀状滓	8.0	8.9	4.2	385.0	鉄	着	磁性あり	表面は暗赤褐色で中央に凹みあり 裏面は極暗赤褐色	覆土中層		
M76	椀状滓	6.9	10.0	3.4	300.0	鉄	着	磁性なし	表面はにぶい赤褐色で中央に凹みあり 裏面は赤褐色	覆土中層		
M77	椀状滓	7.2	9.1	2.9	155.0	鉄	着	磁性あり	表面は暗赤褐色 裏面は極暗赤褐色	覆土中層		
M78	不明	2.1	1.4	0.14	7.25	鉄	1)	ング状		覆土中	PL106	
番号	銭 種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	初鋳	寿年	特	出土位置	備	考
M79	政和通寶	2.39	0.14	0.65	2.39	銅	1111	1年 無	背 模鋳銭	覆土中層	PL106	
M80	洪武通寶	2.28	0.19	0.50	2.86	銅	1368	8年 無	背 模鋳銭	覆土中層	PL106	
M81	景祐通寶	2.52	0.10	0.60	2.41	銅	1034	4年 無	⊒ -	覆土中	PL106	
			1		1							
番号	種 別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	f	色調焼	成 手法の特徴ほか	出土位置	備	考
T 9	瓦	丸瓦	(17.3)	(9.5)	(2.1)	長石・石英・急			通 凸面ナデ 凹面布目痕 孔有り	覆土中層	210	
T 10	瓦	丸瓦	(12.4)	(7.0)	(3.5)	長石・石英	_		通 凸面へラ削り後ナデ 凹面布目痕 指頭痕	覆土中層		
T 11	瓦	平瓦	(8.7)	(6.3)	3.1	長石・石英			通 凹面布目痕 凸面叩き目状の圧痕	覆土中		
1 11	ഥ	一几	(0.1)	(0.5)	J.1	八11 1 1 1 1 1 1		154. 百	四日四州日承 日田中で日外の圧恢	1发上 中		

第93号堀跡(第455図・付図5)

調査年度 本跡は、16 区南部のS4f8 区から、16 区中央部のP5j5 区にかけて確認した。16 区南部のS4f8 区から中央部のQ5e4区を平成16・17年度に調査し、『第280集』にて報告している。16区中央部のQ5d5 区からP5i5区を平成23年度に調査した。



第 455 図 第 93 号堀跡実測図

位置 16 区中央部の P 5 j5 ~ Q 5 d5 区, 標高 23 m ほどの台 地平坦部に位置している。

重複関係 第96号堀跡を掘り込み,第154号溝に掘り込まれ

規模と形状 Q 5 d5 区から北方向 (N-19°-E) に直線状 にP5i5区まで延びている。南端は調査区域外へ至っている。 確認できた長さは 17.57 mである。規模は上幅 $2.10 \sim 2.50$ m,

下幅 0.28 ~ 0.30 m. 深さ 105 ~ 128cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は薬研状を している。底面の標高差はほとんどなく、一方向への傾斜は認められない。

覆土 7層に分層できる。第5~7層は締まりが弱くレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり,第1~4 層はロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 灰 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (鉢), 陶器片 1 点 (甕) のほか, 土師器片 14 点 (坏 2 , 甕 12) が出土している。 いずれも細片のため図示できない。

所見 前回の調査と併せて.確認できた長さは108.87 mである。規模は上幅1.72~4.25 m. 下幅0.10~0.40 m. 深さ52~223cmである。旧地割と位置がほぼ一致することから,区画を目的としていたと想定される。時期は, 『第280集』では16世紀後半と報告されており、今回の調査においても変更することはない。

第 96 号堀跡 (第 456 · 457 図 · 付図 5)

調査年度 本跡は,16 区中央部のQ4c9 区から北部のP6a5 区にかけて,方形に巡る堀として確認した。南 辺のQ5c4区から南西コーナー部, 西辺のQ4a9区を平成16·17年度に調査し、『第280集』にて報告している。 西辺のP4a9区から北西コーナー部を除いて、北辺、北東コーナー部、東辺のP6j3区にかけてを平成19年 度に調査し、『第322集』にて報告している。東辺のQ6a3区から南東コーナー部、南辺のQ5d5区を平成 23・24 年度に調査した。

位置 16 区中央部のQ 5 d5 ~ Q 6 a3 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7257·7258 号土坑を掘り込み、第247 号井戸、第93 号堀、第152A 号溝に掘り込まれている。 第7283 号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 Q5d5区から東方向(N-95°-E)に直線状に延び,Q6e2区で折れ曲がって北方向(N-7°-E) に直線状に延び、北端は『第322集』にて報告の第96号堀跡と、西端は『第280集』にて報告の第 96 号堀跡とそれぞれ接続している。確認できた長さは 48.00 mである。規模は上幅 2.76 ~ 3.38 m. 下幅 0.10 ~ 0.28 m, 深さ 163 ~ 196cmである。断面形は薬研状である。底面の標高差はあるものの, 一方向への傾斜は

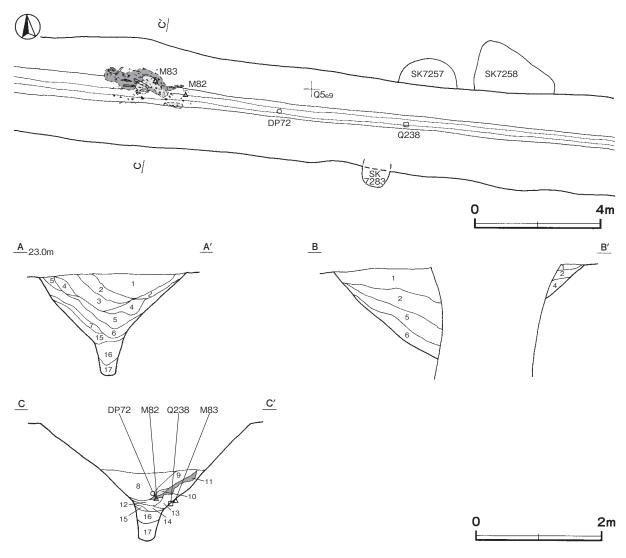
認められない。

覆土 17層に分層できる。第 15 ~ 17層は堆積状況から自然堆積である。それより上層の第 1 ~ 14層はロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 10層は焼土塊,第 11層は炭化物が多く含まれる層である。

土層解説

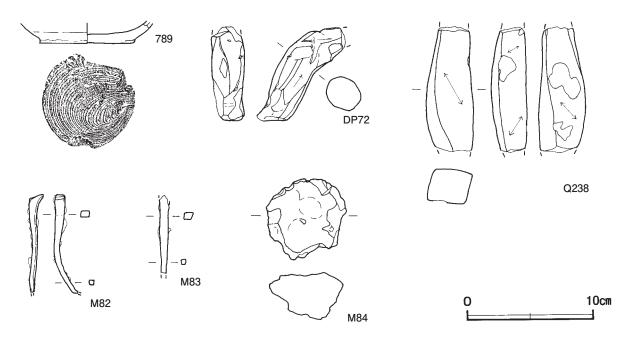
1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 9 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 2 暗オリーブ褐色 粘土ブロック中量 10 暗赤褐灰色 焼土ブロック多量, 炭化物少量 色 炭化物多量 色 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロッ 11 黒 ク・炭化粒子微量 12 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 4 黒 褐 色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量 13 灰 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量,炭化物少量 5 灰黄褐色 ロームブロック中量 14 灰 黄 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 6 オリーブ褐色 ロームブロック中量 15 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量 褐 灰 色 ロームブロック少量 16 黒 褐 色 ローム粒子微量 8 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 17 黄 灰 色 砂粒少量

遺物出土状況 土師質土器片 2 点 (内耳鍋, 鉢), 土製品 1 点 (五徳), 石器 2 点 (石臼, 砥石), 鉄製品 2 点 (釘), 椀状滓 1 点 (200.0g) のほか, 土師器片 121 点 (坏 19, 高台付坏 1, 高台付椀 1, 鉢 2, 甕類 98) が 覆土中から散在して出土している。DP72・Q 238・M 82・M 83 はいずれも南部の覆土中層から出土している。789・M 84 は覆土中からそれぞれ出土している。



第 456 図 第 96 号堀跡実測図

所見 今回の調査部は、『第 280 集』『第 322 集』で報告されている方形に巡る堀跡の南東部分にあたる。北西コーナー部のみが未調査区域であるが、南北軸 57 m、東西軸 55 mほどで、南北軸方向がN - 7°- Eで半町四方に巡る堀であることが明らかになった。堀の規模は上幅 1.58 ~ 3.38 m、下幅 0.10 ~ 0.36 m、深さ 104 ~ 196cmである。時期は、今回の調査において出土した土器からは明確でないが、『第 280 集』では出土土器から15世紀後半と報告されている。方形区画の出入り口部については、今回の調査では確認できなかった。区画と同時期の遺構として、区画内の南部に第 591・592 号掘立柱建物跡と第 221 号井戸跡を確認している。本跡の南辺部、Q 5 e8 区の北壁からは焼土と炭化物が出土しており、これらは区画内の建物等の廃絶に伴うものと考えられる。本跡の北側に妙徳寺が隣接しており、寺と関わりのある遺構の可能性がある。



第457 図 第96号堀跡出土遺物実測図

第96号堀跡出土遺物観察表(第457図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調焼	成 手法の特徴ほか	出土位置	備考
789	土師質土器	鉢	-	(1.8)	7.5	長石・石英・赤 色粒子	にぶい橙普	通 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	5 %
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色 調	特	出土位置	備考
DP72	五徳ヵ	(7.5)	2.6	(7.0)	70.0	長石・石英	橙	ヘラ削り後ナデ 脚部	覆土中層	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質		特 徵	出土位置	備考
Q 238	砥石	(10.0)	3.7	2.8	(141.6)	凝灰岩	砥面4面 他	は破断面	覆土中層	PL105
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質		特 徵	出土位置	備考
M82	釘	(7.9)	1.5	0.6	(14.2)	鉄	先端欠損 先	端部側が彎曲している 断面長方形	覆土中層	PL106
M83	釘	(6.2)	(0.9)	(0.6)	(12.1)	鉄	頭部・先端部	欠損 断面方形	覆土中層	PL106
M84	椀状滓	6.4	6.3	3.7	200.0	鉄	着磁性なし	表面は暗赤褐色 裏面は暗青灰色	覆土中	

表 90 室町時代堀跡一覧表

番号	位 置	方 向	平面形		規	模		断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
笛写	位置	方 向	十川形	長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ(cm)		壁面	復 工	土な山工退物	√m ~5
92	$M8c2 \sim Q6g9$	N - 12° - E N - 21° - E	ほぽ 直線状	(80.22)	1.28 ~ 5.80	$0.30 \sim 0.77$	52 ~ 192	薬研状	外傾緩斜	自然人為	陶器片,磁器片,土製品, 石器,石製品,鉄製品,銭	SF30→本跡→ SB586, SK7304, SD150, SA64 SK7300A新旧不明
93	P5j5 \sim Q5d5	N - 19° - E	直線状	(17.57)	$2.10 \sim 2.50$	0.28 ~ 0.30	105 ~ 128	薬研状	外傾	自然 人為	土師質土器片, 陶器片	第 96 号堀跡→本 跡→ SD154
96	Q5d5 ~ Q6a3	N - 95° - E N - 7° - E	L字状	(48.00)	2.76 ~ 3.38	0.10 ~ 0.28	150 ~ 163	薬研状	外傾	自然人為	土師質土器片, 土製品, 石器, 鉄製品, 鉄滓	SK7257·7258→ 本跡→ SE247 第 93 号堀跡, SD152A

(7) 溝跡

第 **152B 号溝跡** (第 458 図・付図 5)

調査年度 本跡は、16 区北東部の P 6 a8 区から、16 区東部の Q 6 f6 区にかけて確認した。16 区北東部の P 6 a8 区から Q 6 b6 区を平成 19 年度に調査し、『第 322 集』において第 152 号溝跡として報告している。東部の Q 6 b6 区から Q 6 f6 区を平成 24 年度に調査した。

位置 16 区東部のQ6b6 ~ Q6f6 区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第152A 号溝に掘り込まれている。

確認状況 『第 322 集』の報告では、今回の調査区南側と北側に延長する第 152 号溝跡は同一の溝跡と推測しているが、今回の調査により、それらは別々に延長する溝跡であることを確認した。それぞれが別の溝跡であることから、『第 280 集』で報告され、今回の調査区南側へ延長している第 152 号溝跡を第 152A 号溝跡に、『第 322 集』で報告され、同じく北側へ延長している第 152 号溝跡を第 152B 号溝跡に、それぞれ遺構名を変更した。規模と形状 Q 6 f6 区から北方向(N - 8° - E)に直線状に延び、北端は『第 322 集』にて報告の第 152B 号溝跡と接続している。確認できた長さは 15.20 mで、上幅 1.90 \sim 2.02 m、下幅 0.14 \sim 0.25 m、深さ 160 \sim 175cmである。断面形は薬研状である。底面の標高差は、南部に行くに従ってやや低くなっている。

覆土 8層に分層できる。第3~8層は、含有物やレンズ状の堆積状況から自然堆積である。第1・2層はロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 5 黒 褐 色 ローム粒子少量

2 にぶい褐色 ロームブロック中量、炭化物少量 6 褐 色 ローム粒子中量

3 褐 灰 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量 7 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

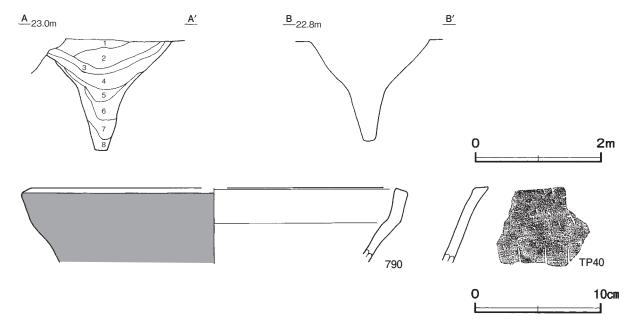
4 灰黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 8 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 7 点 (鍋 5 , 擂鉢 2), 陶器片 2 点 (甕), 瓦 1 点 (不明) のほか, 土師器片 54 点 (坏 18 , 椀 1 , 高台付坏 1 , 高坏 1 , 甕類 33), 須恵器片 28 点 (坏 8 , 蓋 1 , 甕類 18 , 甑 1) が, 覆土中から散在して出土している。790・TP40 はいずれも覆土中から出土している。

所見 『第 322 集』の報告分と併せて,確認できた長さは 59.20~mとなった。規模は上幅 $1.50\sim2.20~\text{m}$,下幅 $0.10\sim0.25~\text{m}$,深さ $150\sim175$ cmである。北端は調査区域外へ延びている。性格は,区画を目的としていたと 想定される。時期は,出土土器や重複関係から 16~世紀代と考えられる。

第 152B 号溝跡出土遺物観察表 (第 458 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
790	土師質土器	鍋	[29.0]	(6.3)	-	長石・石英・赤 色粒子	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ 外面煤付着	覆土中	5 %

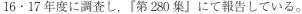


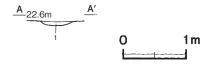
第 458 図 第 152B 号溝跡・出土遺物実測図

番号	種 別	器種	胎	土	色 調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP40	土師質土器	擂鉢	長石・石英	・赤色粒子	にぶい赤褐	外・内面ナデ 内面3条の擂目	覆土中	

第 155 号溝跡 (第 459 図)

調査年度 北端部を平成23年度に調査した。今回の調査は、主に北端部のみである。それ以外の全体を平成





位置 16 区中央部の Q 5 d4 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置 している。

第 459 図

第155号溝跡実測図

規模と形状 Q5d4 区から北方向(N-16°-E)に直線状に延びる北端部を確認した。北端はQ5d4 区で止まり、南端は『第 280 集』にて報告の第 155 号溝跡と接続している。確認できた長さは 0.76 m

である。規模は上幅 $0.48~\mathrm{m}$,下幅 $0.32~\mathrm{m}$,深さ $6~\mathrm{cm}$ である。断面は浅い U 字状で,壁は緩やかに立ち上がっている。底面の標高差は認められない。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物微量

遺物出土状況 土師器片 12 点(坏 11. 甑 1)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 『第 280 集』の報告と併せて,長さは 88.86 mとなった。規模は上幅 $0.28 \sim 1.20$ m,下幅 $0.13 \sim 0.68$ m,深さ $6 \sim 56$ cmである。調査区北側に位置する妙徳寺の正面から南部へ直線的に延びており,寺の施設に関わる溝の可能性がある。時期は,伴う土器が出土していないが,『第 280 集』では 16 世紀前半と報告されている。

第 571 号溝跡 (第 460 図)

調査年度 16 区北東部のQ 6 a0 区から P 7 c3 区を平成 23 年度に、15 区東部のM 8 g2 区からM 8 c3 区を平成 24 年度にそれぞれ調査した。

位置 16 区北東部及び 15 区東部のQ 6 a0 \sim M 8 c3 区,標高 22 \sim 23 mほどの台地平坦部に位置している。 **重複関係** 第 30 号道路跡を掘り込み,第 6 号道路に掘り込まれている。

規模と形状 16 区のQ 6 a0 区から北方向(N - 17° - E)に直線状に延び、本跡の北端は 15 区東部に続くと 想定される。また、16 区の北北東 101 mに位置する 15 区東部の南端、M 8 g2 区から北方向(N - 19° - E)に直線状に延びている。さらに北端は調査区域外へ至っている。確認できた長さは 46.57 mである。規模は上幅 $0.15\sim0.96$ m、下幅 $0.30\sim0.72$ m、深さ $18\sim23$ cmである。断面は浅いU字状で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高は16 区が高く15 区が低いが、一方に傾斜している様子はほとんど認められない。 **72** 番 に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

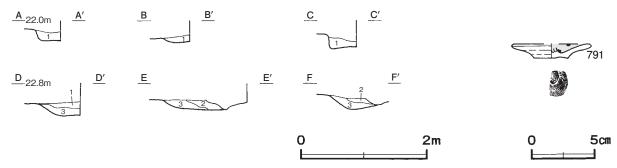
土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 12 点(鍋), 陶器片 3 点(碗,甕,乗燭)のほか,土師器片 29 点(坏6,甕類23),須恵器片 10 点(坏1,高台付坏1,瓶1,甕7)が,覆土中から散在して出土している。791 は覆土中から出土している。

所見 第92号堀の東側を並行しており、区画に関わる溝の可能性がある。時期は、出土土器や遺構の形状などから16世紀代と考えられる。



第 460 図 第 571 号溝跡·出土遺物実測図

第571号溝跡出土遺物観察表(第460図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	絵 付	釉 色	産 地	年 代	出土位置	備考
791	陶器	秉燭	[6.0]	1.1	[2.7]	精良		灰黄	_	透明	不明	16 世紀代	覆土中	20%

表 91 室町時代溝跡一覧表

番号	位置	方 向	平面形		規	模		断面	壁面	覆 土	主な出土遺物	£#± ± V .
笛写	12. 匡	方 向	干田形	長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ(cm)		型 川	覆 土	土な山工退物	備考
152B	Q6b6 \sim Q6f6	N - 8° - E	直線状	(15.20)	1.90 ~ 2.02	$0.14 \sim 0.25$	$160 \sim 175$	薬研状	外傾	人為 自然	土師質土器片, 陶器片, 瓦	本跡→SD152A
155	Q5d4	N - 16° - E	直線状	(0.76)	0.48	0.32	6	浅い U字状	緩斜	人為	土師器片	
571	M8c3 ~ Q6a0	N - 17° - E N - 19° - E	直線状	(46.57)	0.15 ~ 0.96	$0.30 \sim 0.72$	$18 \sim 23$	浅い U字状	緩斜	人為	土師質土器片,陶器片	SF30→本跡→SF6

5 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑1基、溝跡2条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

第7157号土坑 (第461図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区北東部の P 6 f0 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東部が撹乱を受けていることから、南北径 1.45m で、東西径 0.70 m しか確認できなかった。円形と推定される。深さは 60cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

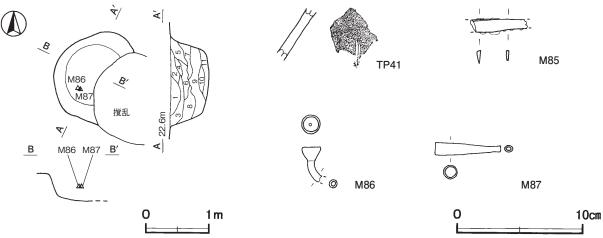
覆土 11 層に分層できる。ロームや粘土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 暗 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック微量
- 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 7 にぶい褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック微量
- 10 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量
- 11 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(擂鉢), 鉄器4点(刀子), 鉄製品1点(釘), 銅製品2点(煙管)のほか, 土師器片2点(甕)が, 覆土中から散在して出土している。M86・M87は南西部の覆土中層から, TP41・ M85は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 遺構の形状と出土遺物から墓坑と考えられる。時期は、出土遺物から 18 世紀後半と考えられる。



第461 図 第7157 号土坑実測図・出土遺物実測図

第7157号土坑出土遺物観察表(第461図)

番号	種別	器種	胎 土	色 調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP41	土師質土器	擂鉢	長石・石英・雲母	褐	外・内面ナデ 内面2条1単位の擂目	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徵	出土位置	備考
M85	刀子	(4.5)	1.0	0.3	(7.10)	鉄	切先部・茎部欠損 断面三角形	覆土中	
M86	煙管	(2.8)	1.6	0.17	(3.31)	銅	雁首部 欠損 外面縁青	覆土中層	PL106 古泉編年IV期 M87と同一ヵ
M87	煙管	5.2	1.0	0.14	(3.76)	銅	吸口部 一部欠損 外面緑青	覆土中層	PL106 古泉編年IV期 M86と同一ヵ

(2) 溝跡

第 **152A 号溝跡** (第 462 · 463 図 · 付図 5)

調査年度 16 区南部の S 5 c0 区から、北部の P 5 j0 区にかけて確認した。16 区南部の S 5 c0 区から中央部の Q 6 g5 区は平成 16・17 年度に調査し、『第 280 集』において第 152 号溝跡として報告している。中央部の Q 6 f6 区から北部の P 5 j0 区は平成 23・24 年度に調査した。

位置 16 区中央部から北部のQ 6 f6 ~ P 5 j0 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 593 号掘立柱建物跡, 第 152B 号溝跡を掘り込んでいる。第 96 号堀跡と重複しているが, 新旧 関係は不明である。

確認状況 『第 322 集』では、今回の調査区南側と北側に延長する第 152 号溝跡は同一の溝跡と推測しているが、今回の調査により、それらは別々に延長する溝跡であることが確認された。それぞれが別の溝跡であることから、『第 280 集』で報告され、今回の調査区南側へ延長している第 152 号溝跡を第 152A 号溝跡、『第 322 集』で報告され、同じく北側へ延長している第 152 号溝跡を第 152B 号溝跡に、それぞれ遺構名を変更した。

規模と形状 P 5 j0 区から東方向(S - 70° - E)に直線状に延び、Q 6 c6 区で南方向(S - 6° - W)に向きを変えて直線状に延び、南端は『第 280 集』にて報告の第 152A 号溝跡と接続している。確認できた長さは 38.40 mで、上幅 $0.90 \sim 1.62$ m、下幅 $0.38 \sim 0.68$ m、深さ $48 \sim 64$ cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量,焼土ブロック・炭化物少量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック少量

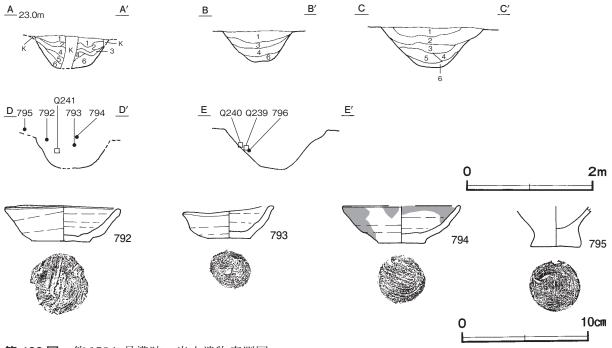
4 褐 色 ロームブロック中量

5 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

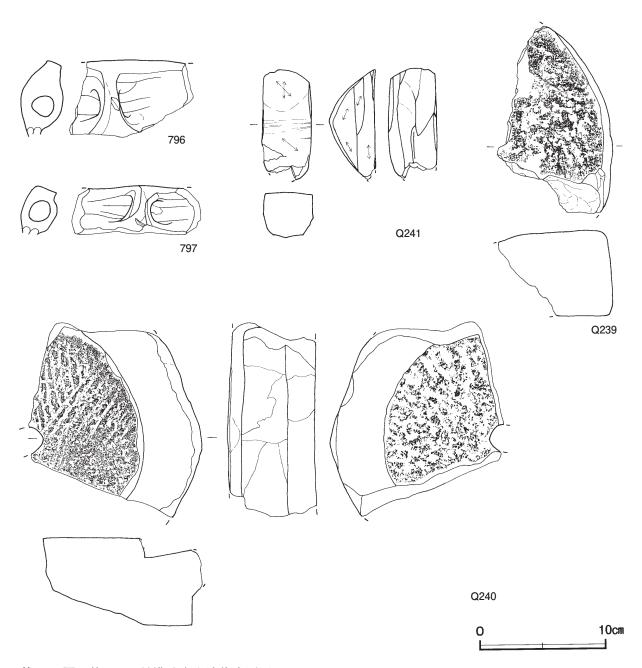
6 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片 65 点 (小皿 6, 柱状高台付皿 1, 鍋 50, 内耳鍋 2, 擂鉢 6), 瓦質土器片 6 点 (鉢), 陶器片 1 点 (碗), 石器 3 点 (石臼, 茶臼, 砥石) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢), 土師器片 175 点 (坏 15, 椀 10, 高台付坏 3, 高坏 1, 甕類 146), 須恵器片 80 点 (坏 25, 高台付坏 4, 蓋 2, 盤 1, 瓶 1, 甕類 47) が, 覆土上層から中層を中心に出土している。796・Q 239・Q 240 は南端部, Q 241 は西部のそれぞれ覆土中層から出土している。792~794 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。795・797 は覆土中から出土している。

所見 『第 280 集』の報告と併せて、確認できた長さは $111.60 \,\mathrm{m}$ であり、上幅 $0.90 \sim 1.90 \,\mathrm{m}$ 、下幅 $0.30 \sim 0.68 \,\mathrm{m}$ 、深さ $24 \sim 78 \,\mathrm{cm}$ である。性格は、区画的な機能を有していたと想定されるが明確でない。時期は、『第 $280 \,\mathrm{4}$ 』では $17 \,\mathrm{th}$ 世紀前半に比定しており、今回の調査においても変更することはない。



第 462 図 第 152A 号溝跡·出土遺物実測図



第 463 図 第 152A 号溝跡出土遺物実測図

第 152A 号溝跡出土遺物観察表(第 463 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
792	土師質土器	小皿	9.0	2.8	4.6	長石・石英・赤 色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土上層	95% PL103
793	土師質土器	小皿	7.2	2.5	3.4	長石・石英・赤 色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土上層	95% PL103
794	土師質土器	小皿	[9.0]	3.0	3.6	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 油煙付着	覆土上層	60%
795	土師質土器	柱状高 台付皿	-	(3.2)	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 高台部回転糸切り	覆土中	5 %
796	土師質土器	内耳鍋	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土中層	5 %
797	土師質土器	内耳鍋	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ 外面煤付着	覆土中	5 %

番号	器 種	径	孔径	高さ	重量	材 質	特	出土位置	備考
Q 239	(1 117	[23.0]	_	6.9	(745)	安山岩	下白片	覆土中層	
Q 240	茶臼 (下臼)	[28.0]	[3.0]	6.9	(1,924)	安山岩	下臼片	覆土中層	PL104

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徵	出土位置	備考
Q 241	砥石	(8.7)	3.9	3.6	(147.8)	凝灰岩	砥面 3 面	覆土中層	PL105

第 154 号溝跡 (第 464 図)

調査年度 16 区南部のS 4 a9 区から、中央部のQ 5 a4 区にかけて確認した。16 区南部のS 4 a9 区から中央部のQ 5 d4 区は平成 16・17 年度に調査し、『第 280 集』にて報告している。中央部のQ 5 d4 区からQ 5 a4 区は平成 23 年度に調査した。

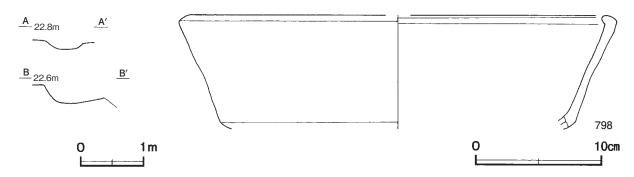
位置 16 区中央部のQ 5 d4 ~ P 5 i4 区. 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第93・96号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 P 5 j4 区から南方向(S - 13 $^{\circ}$ - W)に直線状に延び、南端は『第 280 集』にて報告の第 154 号 溝跡と接続している。確認できた長さは 12.86 mである。規模は上幅 $0.39\sim0.97$ m,下幅 $0.16\sim0.42$ m,深 さ $12\sim28$ cmである。断面は浅いU字状で,壁は緩やかに立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点(鍋)のほか、土師器片 1 点(甕)、須恵器片 1 点(坏)が出土している。 798 は覆土中から出土している。

所見 『第 280 集』の報告と併せた長さは 90 mほどである。『第 280 集』では、中・近世の区画的な機能を有した溝と報告されている。今回の調査では、出土土器や重複関係から 17 世紀前半に比定できる。



第 464 図 第 154 号溝跡実測図·出土遺物実測図

第154号溝跡出土遺物観察表(第464図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
798	土師質土器	鍋	[33.0]	(9.1)	_	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外・内面ナデ	覆土中	5 %

表 92 江戸時代溝跡一覧表

番号	位 置	方 向	平面形		規	模		断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
笛ケ	DZ	/J I ^{II} J		長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ(cm)		室 田	復 丄	土な山上退初	加持
152A	P5j0 ∼ Q6f6	N - 6° - E N - 70° - W	L字状	(38.40)	0.90 ~ 1.62	0.38 ~ 0.68	48 ~ 64	U字状	緩斜	人為	土師質土器片, 瓦質土器片, 陶器片, 石器	不明
154	Q5d4 \sim P5j4	N - 13° - E	直線状	(12.86)	0.39 ~ 0.97	0.16 ~ 0.42	12 ~ 28	浅い U字状	緩斜	-	土師質土器片	第 93 · 96 号堀跡→ 本跡

6 明治時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、校舎基礎跡1か所を確認した。以下、遺構について記述する。

校舎基礎跡

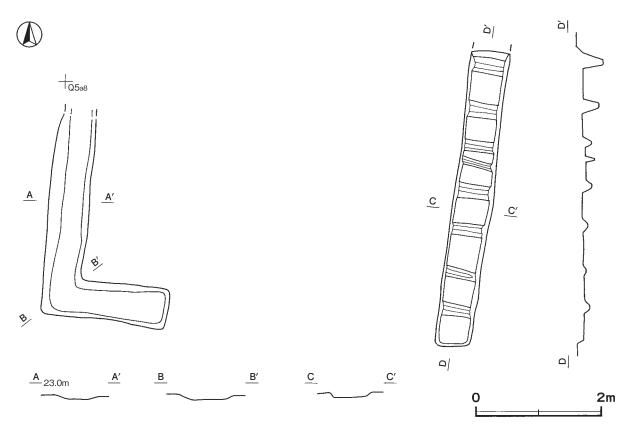
第2号建物基礎跡 (第 465 図)

調査年度 16 区北部の P 6 a6 区から中央部の Q 5 b7 区にかけて確認した。16 区北部の P 6 a6 区から中央部の Q 5 a7 区は平成 19 年度に調査し、『第 322 集』にて報告している。中央部の Q 5 a7 区から Q 5 b9 区は平成23 年度に調査した。

位置 16 区中央部のQ 5 a7 ~ Q 5 b9 区, 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 基礎跡は、溝状の掘方 2 条を確認した。東部の溝は直線状で、北端は『第 322 集』にて報告の建物基礎跡と接続する。長さ 4.75 m、上幅 $0.57 \sim 0.67$ m、下幅 $0.43 \sim 0.49$ m、深さは $8 \sim 42$ cmである。断面は浅い皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。底面には $14 \sim 51$ cmの間隔で、本跡の溝と直交する幅 $11 \sim 25$ cm、深さ $4 \sim 31$ cmの溝状の掘り込み 8 か所を検出している。西部の溝は L 字状で、北端は『第 322 集』にて報告の建物基礎跡と接続する。長さ 4.63 m、上幅 $0.58 \sim 0.65$ m、下幅 $0.33 \sim 0.49$ m、深さは $6 \sim 8$ cmである。断面は浅い皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

所見 『第 322 集』において報告されている,第 2 号建物基礎跡と同一の遺構である。本跡の規模は,前回の報告と併せて,東西軸 7 m,南北軸 25 m,面積は 175㎡の長方形で,長軸方向 N - 4°-Eの南北棟である。島名尋常高等小学校の前身は,妙徳寺を校舎として 1877 (明治 10)年に創立されている。5 年後の 1882 (明治 15)年に校舎が新築されており,本跡は妙徳寺から移転した際の校舎基礎と考えられる。なお,遺構外出土遺物の 808 は,調査区北東部の撹乱から出土した破片が接合したものであり,『第 322 集』の建物基礎跡で報告されている甕(76 A・76 B)と同様の器種である。これらは、校舎の外に設置された便所の便槽と報告されており,808 も本跡に関わる遺物である可能性が高い。



第465 図 第2号建物基礎跡実測図

7 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかでない掘立柱建物跡1棟、土坑46基、溝跡4条、柱穴列跡1条、ピット群3か所を確認した。土坑については実測図と一覧表、ピット群については一覧表のみの掲載とする。

(1) 掘立柱建物跡

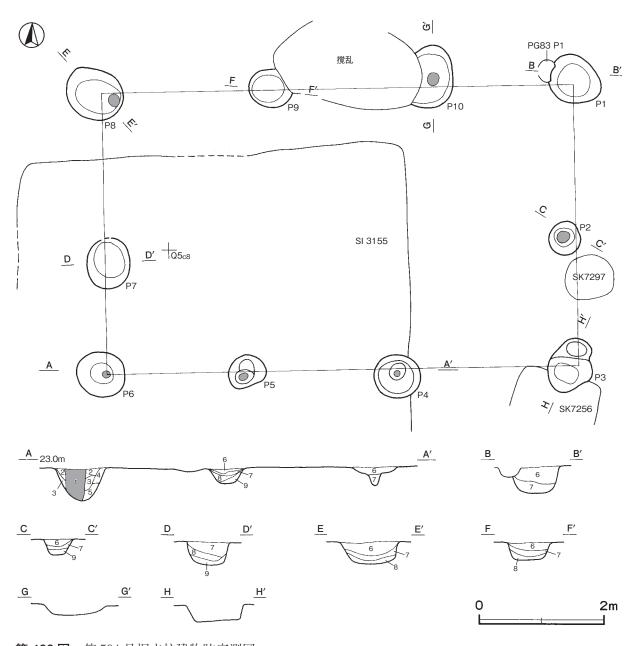
第 594 号掘立柱建物跡 (第 466 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区北東部のQ 5 c8 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3155 号竪穴建物跡、第7256 号土坑を掘り込み、第83 号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 3 間,梁行 2 間の側柱建物跡で,桁行方向が $N-88^{\circ}-E$ の東西棟である。規模は,桁行 7.5 m,梁行 4.5 mで,面積は 33.75㎡である。柱間寸法は,桁行が西妻から 2.7 m(9尺)・2.7 m(9尺)・2.1 m(7



第 466 図 第 594 号掘立柱建物跡実測図

尺). 梁行が北平から 2.7 m (9尺)・1.8 m (6尺) である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 52 ~ 100cm、短径 50 ~ 80cmである。深さは 19 ~ 51cmで ある。第1層は柱痕跡で、第2~5層は柱抜き取り後の堆積層、第6~9層は掘方への埋土である。柱のあた りを、P2·P4~P6·P8·P10の底面で確認した。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック少量
- 7 褐 色 ロームブロック少量
- 色 ロームブロック中量 8 褐
- 9 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (内耳鍋),陶器片 2 点 (碗,灯明皿),鉄製品 4 点 (不明) が,P2・P4・ P7の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から室町時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

(2) 土坑

第7150号土坑土層解説

- 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色
 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

 4 黒褐色
 ロームブロック少量,焼土粒子微量

第7151号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量

第7152号土坑土層解説

1 黒 橋 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第7153号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 2 黒 褐 色 ロームブロック少量 3 褐 色 ローム粒子多量

第7158A 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量 2 褐 色 ロームブロック多量

第7259号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量 2 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第7263号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 裾 色 ロームブロック少量

第7265号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子少量

第7266 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量

第7267号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第7268 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ローム粒子少量 3 黒 褐 色 ローム粒子少量

第7269号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 7270 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 2 褐 色 ローム粒子少量

第7271号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量 2 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子少量 5 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第7272 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

第7275号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量 2 にぶい黄褐色 ローム粒子中量

第7276号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子少量

第7277号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

第7280号土坑土層解説

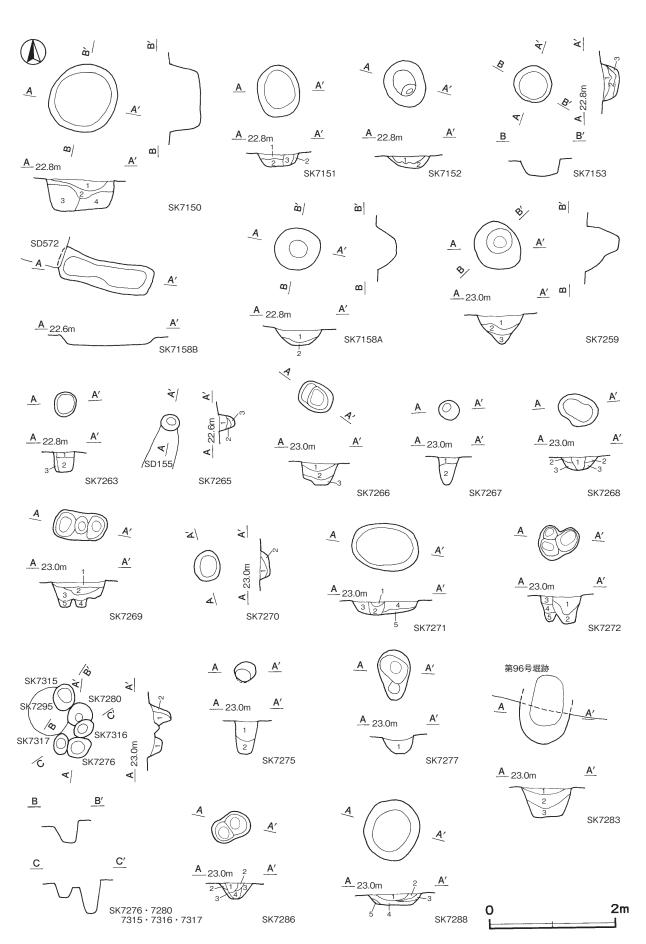
- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第7283号土坑土層解説

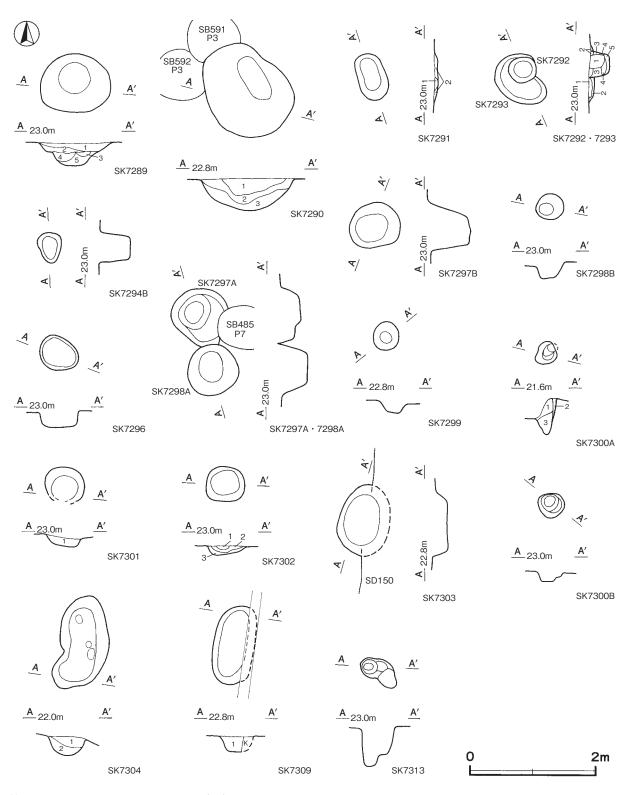
- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量

第7286 号土坑土層解説

- 色 ローム粒子中量,炭化粒子微量 1 裾
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量



第467図 その他の土坑実測図(1)



第468 図 その他の土坑実測図(2)

第 7288 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

第 7289 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物微量
- 2 灰黄褐色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子多量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 7290 号土坑土層解説

 第7290 考土功工層階

 1 暗 褐 色 ローム粒子中量

 2 褐 色 ローム粒子中量

 3 褐 色 ローム粒子中量,炭化粒子少量

第 7291 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 2 灰 黄 褐 色 ローム粒子中量

第7292号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物少量

 3
 褐

 4
 暗

 8
 色

 0
 ロームブロック中量

 5
 黒

 8
 色

 0
 ロームブロック少量

第 7293 号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物少量 2 灰 黄 褐 色 ロームブロック中量

 第7300A 号土坑土層解説

 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

 2 褐 色 ロームブロック中量

3 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量

第 7301 号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量

第7302号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量 2 褐 色 ロームブロック中量 3 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量

第7304号土坑土層解説

1 にぶい褐色 ロームブロック中量 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 7309 号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量

表 93 16 区その他の土坑一覧表

				規	 模		<u> </u>			
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備考
7150	P6h0	_	円形	1.09 × 1.02	49	平坦	外傾	人為	土師器片,須恵器片,土師質土 器片,陶器片,磁器片,石器	SB586 →本跡
7151	P6f0	N - 4 ° - W	楕円形	0.83 × 0.64	22	平坦	緩斜	人為		
7152	P7e1	N - 34° - W	楕円形	0.75×0.63	20	皿状	緩斜	人為		
7153	P7e1	-	円形	0.60 × 0.57	28	平坦	外傾	人為		
7158A	P6e8	N - 69° - W	楕円形	0.73×0.65	30	皿状	緩斜	人為		
7158B	P6b9	N - 75° - W	長方形	[1.50] × 0.47	14	平坦	緩斜	不明		SD572 新旧不明
7259	Q5d8	N - 35° - W	楕円形	0.82 × 0.70	55	皿状	外傾	人為		
7263	Q5b3	N - 3° - E	楕円形	0.38 × 0.33	30	平坦	直立	人為	土師器片	
7265	Q5d4	-	円形	0.29 × 0.27	27	平坦	外傾	自然		SD155 →本跡
7266	Q5d0	N - 59° - W	楕円形	0.57×0.45	36	平坦	外傾	人為		
7267	Q5d7	_	円形	0.32 × 0.30	60	皿状	外傾	人為		
7268	Q5d7	N - 64° - W	楕円形	0.62 × 0.51	22	皿状	緩斜	人為		
7269	Q5d8	N - 79° - W	楕円形	0.83 × 0.45	55	凸凹	外傾	人為	土師器片	
7270	Q5d8	N - 0°	楕円形	0.48 × 0.39	17	平坦	外傾	自然	土師器片	
7271	Q5a7	N - 80° - W	楕円形	1.05 × 0.75	20	平坦	緩斜	人為		
7272	Q5b8	-	不定形	0.67×0.56	43	凸凹	外傾	人為		
7275	Q5e8	-	円形	0.34 × 0.33	48	皿状	直立	自然		
7276	Q5e8	N - 58° - E	不整楕円形	0.45×0.35	13	平坦	外傾	自然		
7277	Q5f8	N - 0°	楕円形	0.77×0.50	20	皿状	外傾	自然		
7280	Q5e8	-	[円形]	0.40 × (0.30)	29	皿状	外傾	人為		SK7295 →本跡 → SK7316
7283	Q5e9	N - 9° - E	楕円形	(1.08) × 0.80	44	平坦	外傾	自然		第 96 号堀跡新旧 不明
7286	Q5b8	N - 60° - E	楕円形	0.64 × 0.56	23	凸凹	緩斜	人為		
7288	Q5a6	-	円形	0.95 × 0.88	17	平坦	緩斜	自然		
7289	Q5c9	N - 90°	楕円形	1.12 × 0.90	38	平坦	緩斜	人為		
7290	Q6d1	N - 32° - W	楕円形	1.58 × 1.28	70	平坦	緩斜	自然		SB591 · 529 →本跡
7291	Q6d4	N - 19° - W	楕円形	0.78×0.46	6	平坦	緩斜	人為	土師器片	
7292	Q6d5	-	円形	0.44 × 0.42	33	平坦	外傾	人為	土師器片	SK7293 →本跡
7293	Q6d5	-	不定形	0.88 × 0.54	9	平坦	緩斜	人為		本跡→ SK7292
7294B	Q5e8	N - 0°	楕円形	0.50×0.37	49	平坦	直立	不明		
7296	Q5b9	N - 57° - W	楕円形	0.63 × 0.52	29	平坦	外傾	不明		
7297A	Q5e8	$N-40^{\circ}-W$	楕円形	(1.00) × 0.85	33	平坦	外傾	不明		本跡→ SB485, SK7298A
7297B	Q5c9	N - 90°	楕円形	0.80 × 0.76	67	平坦	外傾	不明		

- A-	/L 100	巨汉士卢	77 Z TV	規	模	r =	壁面	覆土		備考
番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ (cm)	底 面	壁面	覆土	主な出土遺物	加 考
7298A	Q5f8	_	円形	0.83 × 0.81	41	平坦	外傾	不明		SK7297A →本跡
7298B	Q5d9	_	円形	0.44 × 0.41	21	平坦	外傾	不明		
7299	Q5f9	-	円形	0.45 × 0.45	21	平坦	外傾	不明		SB485 新旧不明
7300A	Q6c8	-	不整円形	0.35×0.35	56	皿状	外傾	人為		第 92 号堀跡新旧 不明
7300B	Q5d8	-	円形	0.41 × 0.40	16	平坦	外傾	不明		
7301	Q6f7	_	[円形・楕円形]	0.63 × [0.50]	12	平坦	外傾	人為		
7302	Q6f7	N - 90°	隅丸長方形	0.60 × 0.54	15	平坦	外傾	人為	土師器片	
7303	Q6d8	N - 16° - E	楕円形	1.15 × (0.80)	23	平坦	外傾	不明	土師器片	SD150 新旧不明
7304	Q6c8	N - 0°	不整楕円形	1.42 × 0.77	30	皿状	外傾	人為	須恵器片	第 92 号堀跡新旧 不明
7309	Q6i7	N - 11° - E	楕円形	1.25 × [0.57]	27	平坦	外傾	自然		
7313	Q5b8	N - 50° - W	楕円形	0.65×0.32	60	凸凹	外傾	不明		
7315	Q5e8	N - 90°	楕円形	0.37×0.32	34	平坦	外傾	不明		SK7295 →本跡
7316	Q5e8	N - 56° - E	楕円形	0.32 × 0.25	52	平坦	外傾	不明		SK7280 →本跡
7317	Q5e8	N - 90°	楕円形	0.35 × 0.23	23	平坦	外傾	不明		

(3) 溝跡

第 150 号溝跡 (第 469 図)

調査年度 16 区南東部のS 6 a4 区から、東部のQ 6 a8 区にかけて確認した。16 区南東部のS 6 a4 区から東部のQ 6 g7 区は平成 16・17 年度に調査し、『第 280 集』にて報告している。東部のQ 6 g7 区からQ 6 a8 区は平成 24 年度に調査した。

位置 16 区東部のQ 6 g7 ~ Q 6 a8 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第92号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 P 6 j8 区から南方向 (S - 10° - W) に直線状に延び, Q 6 c8 区で西側へ彎曲し, 南端は『第 280 集』 にて報告の第 150 号溝跡と接続している。確認できた長さは 24.70 mで, 上幅 $0.50 \sim 1.14$ m, 下幅 $0.30 \sim 0.60$ m, 深さ $16 \sim 66$ cmである。断面はU字状で,壁は緩やかに立ち上がっている。底面に標高差はなく,一方に傾斜している様子も認められない。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

 1
 褐
 色
 ロームブロック中量

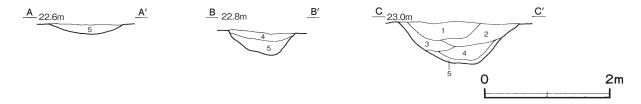
 2
 暗
 褐
 色
 ロームブロック中量

 3
 黒
 褐
 色
 ロームブロック少量

4 極暗褐色 ロームブロック少量 5 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏,甕),土師質土器片 2 点 (鍋),陶器片 1 点 (鉢),石器 1 点 (石臼)が, 覆土中から散在して出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 『第 280 集』の報告と併せて、長さは 86.50 mであり、上幅 $0.50 \sim 1.80$ m、下幅 $0.06 \sim 0.60$ m、深さ $16 \sim 66$ cmである。Q 6 e $6 \sim$ Q 6 e8 区から南部は、第 152A 号溝跡と互いに軸方向を同じにして平行していることから、『第 280 集』では同時期に区画的な機能を有していたと想定されているが、今回の調査範囲では平行しておらず、別の機能をもっていたと考えられる。時期は、『第 280 集』では 17 世紀前半に比定しているが、第 152A 号溝跡と別機能と考えられることから、今回の調査においては明確な時期は不明である。



第469 図 第150号溝跡・出土遺物実測図

第 572 号溝跡 (第 470 図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区北東部の P 6 a9 ~ P 6 b9 区、標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7158B 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 P6b9区から北方向(N-9°-E)に直線状に延び、北端は調査区域外へ延びている。確認で きた長さは4.32 mで、上幅0.70 ~ 0.80 m、下幅0.38 ~ 0.51 m、深さ76 ~ 84cmである。断面形は逆台形で、 壁は外傾して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 色 ロームブロック中量,炭化物少量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量 にぶい黄褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量 黄 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物少量 1 m 遺物出土状況 土師器片 2 点 (高坏), 瓦質土器片 10 点 (甕),

A 22.6m

陶器片3点(碗)、磁器片1点(皿)が、各層から散在して出 土している。いずれも細片のため図示できない。

第 470 図 第 572 号溝跡実測図

所見 第92号堀跡や第571号溝跡と並行しており、土地区画に関わる溝の可能性がある。時期は、出土土器 が細片のため不明である。

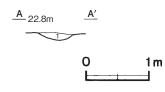
第 577 号溝跡 (第 471 図)

調査年度 平成 24 年度

位置 16 区東部のQ 6 f9 ~ Q 6 g9 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 Q6f9区から南方向(S-5°-W)に直線状に延び、南端は 調査区域外へ至っている。確認できた長さは 4.28 mで, 上幅 0.37 ~ 0.63 m, 下幅 0.14 ~ 0.32 m, 深さ 11cmである。断面は浅い U字状で,壁は緩やかに 立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されて いる。



第 471 図

第577号溝跡実測図

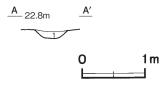
土層解説

1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

所見 時期・性格ともに不明である。

第 578 号溝跡 (第 472 図)

調査年度 平成 24 年度



第 472 図

第578号溝跡実測図

位置 16 区中央部の Q 6 b0 \sim Q 6 g9 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 Q6b0区から南方向($S-10^\circ-W$)に直線状に延び、南端は調査区域外へ至っている。確認できた長さは $19.77\,\mathrm{m}$ で、上幅 $0.27\sim0.50\,\mathrm{m}$ 、下幅 $0.08\sim0.26\,\mathrm{m}$ 、深さ $5\sim12\mathrm{cm}$ である。断面は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。**覆土** 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量

所見 時期・性格ともに不明である。

表 94 その他の溝跡一覧表

	- 	+ 5	THE THE		規	模		NC TO	BB 五	we l	ナル III 上 奥 Man	£±: ±V.
番号	位置	方 向	平面形	長さ(m)	上幅 (m) 下幅 (m) 深さ(cm) 🕅		断面	壁面	覆 土		備考	
150	Q6a8 ~ Q6g7	N - 10° - E	直線状	(24.70)	0.50 ~ 1.14	0.30 ~ 0.60	$16 \sim 66$	U字状	緩斜	人為	土師質土器片,陶器片, 石器	第 92 号堀跡→本跡
572	P6a9 ~ P6b9	N - 9° - E	直線状	(4.32)	$0.70 \sim 0.80$	0.38 ~ 0.51	$76 \sim 84$	U字状	外傾	人為	瓦質土器片,陶器片,磁 器片	SK7158B 新旧不明
577	$\rm Q6f9 \sim Q6g9$	N - 5° - E	直線状	(4.28)	0.37 ~ 0.63	0.14 ~ 0.32	11	浅い U字状	緩斜	人為		
578	Q6b0 ~ Q6g9	N - 10° - E	直線状	(19.77)	0.27 ~ 0.50	0.08 ~ 0.26	5 ~ 12	浅い U字状	緩斜	人為		

(4) 柱穴列跡

第 64 号柱穴列跡 (第 473 図)

調査年度 平成 24 年度

位置 16 区東部のQ 6 c9 区. 標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第92号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北方向 4.37 mの間に配置された柱穴 3 か所を確認した。軸方向は $N-10^{\circ}-E$ で、柱間寸法はいずれも 1.8 m (6尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 平面形は円形または楕円形で,長径 71 ~ 88cm,短径 63 ~ 87cmで,深さは 26 ~ 33cmである。掘方の断面形はU字形である。第 1 層は柱痕跡で,第 2 ~ 5 層は掘方への埋土である。

土層解説

1 灰黄褐色 ロームブロック・細礫微量

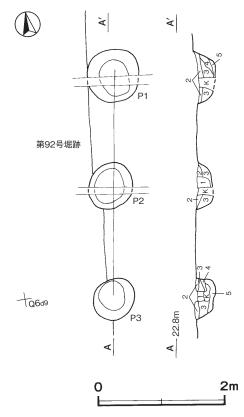
4 灰 黄 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

2 褐 灰 色 ロームブロック少量

5 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

3 黄 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 2点 (年、甕) が,P 3 の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。**所見**伴う土器が出土していないことから、時期は不明である。



第473 図 第64 号柱穴列跡実測図

(5) ピット群

今回の調査でピット群3か所を確認した。中央部・東部・北東部それぞれに1か所ずつ分布している。 各ピットの配置や、規模や形状から建物跡等を想定することはできない。また、出土した土器はいずれも 細片で、時期を判断することはできない。ここではピット群ごとに計測表を掲載し、平面図については遺 構全体図で掲載する。

第83号ピット群(第474図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区中央部のQ 5 b9 ~ Q 6 b1 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7261号土坑を掘り込んでいる。第7297B号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

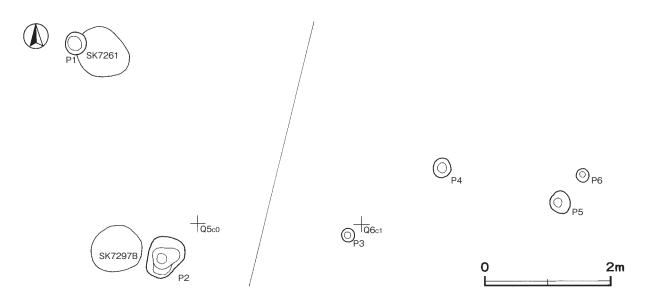
規模と形状 東西 9 m, 南北 4 mほどの範囲から,柱穴状のピット 6 基を確認した。平面形は長径 20 \sim 69cm, 短径 20 \sim 56cmの円形または楕円形で,深さは $13 \sim$ 40cmである。

遺物出土状況 土師器片 3点(坏1,甕2),須恵器片 1点(甕),土師質土器片 1点(内耳鍋)が,P $2 \sim P$ 4の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期・性格ともに不明である。

表 95 第 83 号ピット群ピット一覧表

ピット番 号	<i>比</i> 里	形状		規	模 (cm)		ピット	位置	形状		規	模 (cm)	
番号		712 174	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ	番 号	12. 但	形机	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	Q5b9	楕円形	38	×	34	15	3	Q5c0	円形	20	×	20	13
2	Q5c9	楕円形	69	×	56	40	4	Q6b1	楕円形	31	×	28	16



第474 図 第83 号ピット群実測図

	位置	形状		規	模 (cm)		ピット	位 置	形状		規	模 (cm)	
番号	D. E.	形机	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ	番号	区 臣	115 AV	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
5	Q6b1	円形	35	×	34	28	6	Q6b1	円形	20	×	19	17

第84号ピット群(第475図)

調査年度 平成 23 年度

位置 16 区東部のQ6b7 ~Q6e5 区,標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第152 A溝跡, 第152 B溝跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 東西 7 m,南北 6 mほどの範囲から,柱穴状のピット 5 基を確認した。平面形は長径 35 \sim 47cm,短径 24 \sim 47cmの円形または楕円形で,深さは 8 \sim 30cmである。

遺物出土状況 土師器片 1 点(甕),須恵器片 2 点(甕)が,P 1 \sim P 3 の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期・性格ともに不明である。

表 96 第 84 号ピット群ピット一覧表

ピット 番 号	位置	形状		規	模 (cm)		ピット	位置	形状		規	模 (cm)	
番 号	12. 国	15 10	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ	番 号	17. 国.	115 AV	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	Q6b7	楕円形	46	×	34	8	4	Q6d6	楕円形	45	×	24	30
2	Q6c7	楕円形	41	×	36	28	5	Q6e5	円形	35	×	34	27
3	Q6c6	[円形]	47	×	[47]	15							

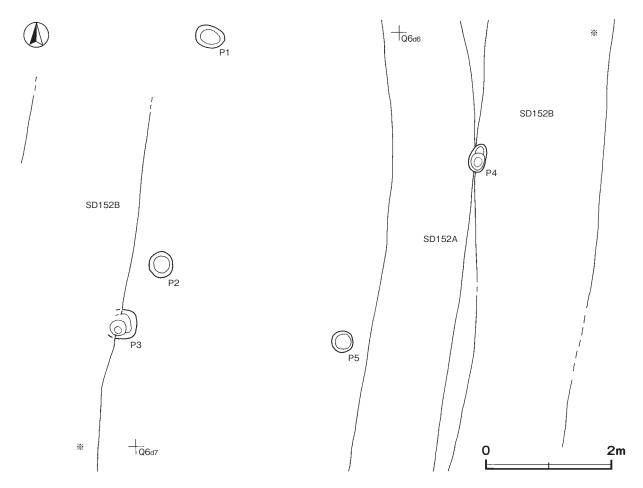
第85号ピット群(第476図)

調査年度 平成 23 年度

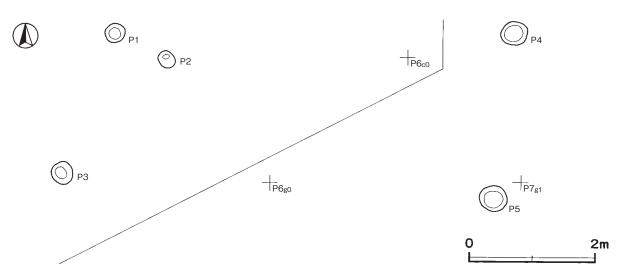
位置 16 区北東部の P 6 b8 ~ P 6 g0 区,標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西 8 m,南北 4 m ほどの範囲から,柱穴状のピット 5 基を確認した。平面形は長径 27 \sim 44cm, 短径 24 \sim 42cmの円形または楕円形で,深さは $16\sim$ 29cmである。

所見 時期・性格ともに不明である。



第 475 図 第 84 号ピット群実測図



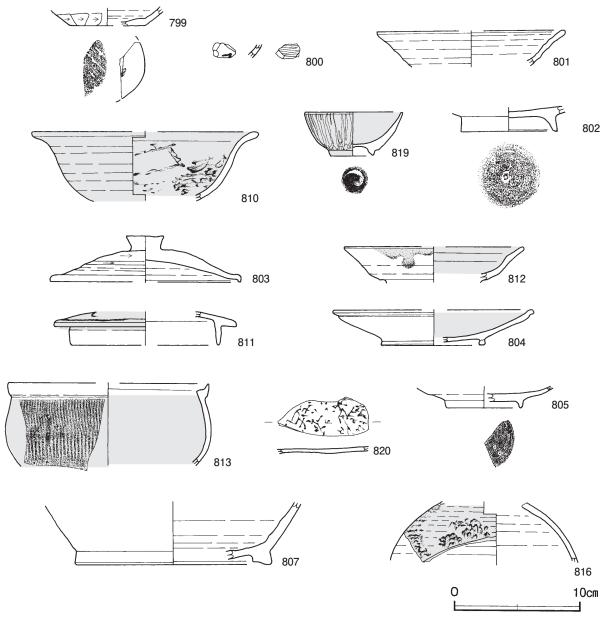
第 476 図 第 85 号ピット群実測図

表 97 第 85 号ピット群ピット一覧表

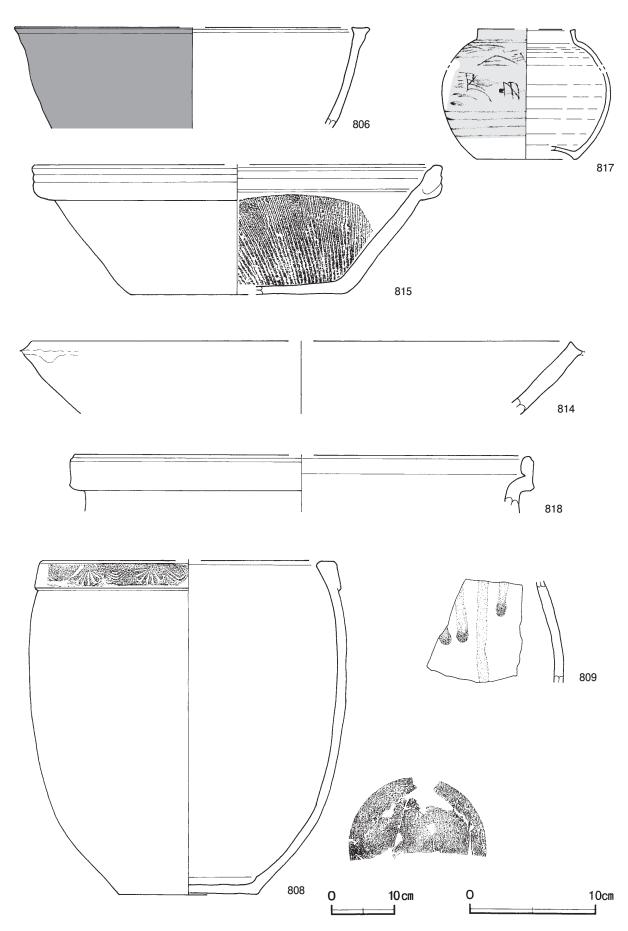
ピット 番 号	<i> </i> -	11/2 ATE		規	模 (cm)		ピット	片里	41b NII		規	模 (cm)	
番号	位置	形状	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ	番号	位置	形状	長軸 (径)	×	短軸 (径)	深さ
1	P6b8	円形	33	×	31	16	4	P6f0	楕円形	44	×	37	16
2	P6c9	楕円形	27	×	24	17	5	P6g0	円形	44	×	42	20
3	P6c8	円形	36	×	33	29							

(6) 遺構外出土遺物 (第 477 ~ 479 図)

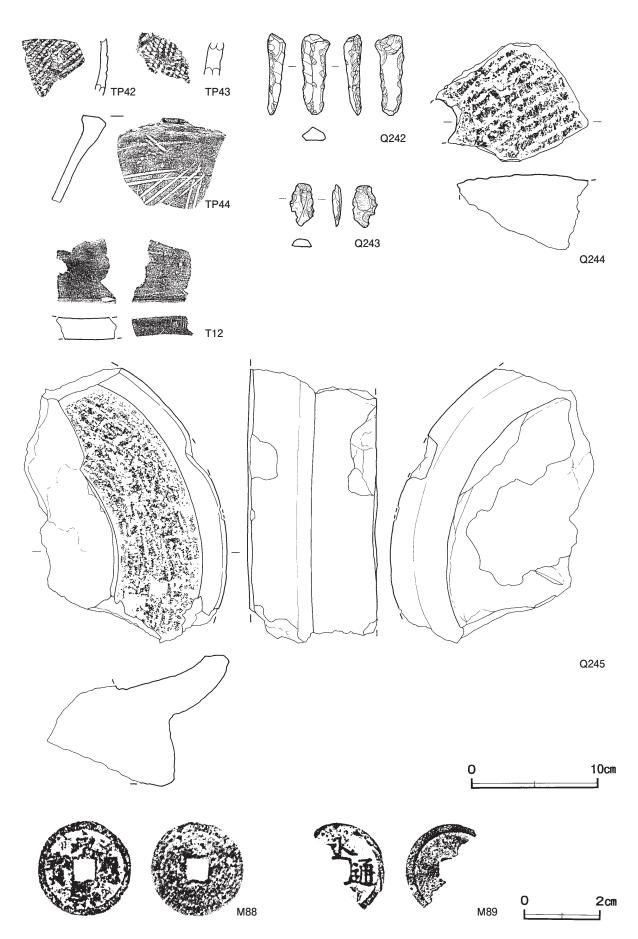
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第477 図 遺構外出土遺物実測図(1)



第478図 遺構外出土遺物実測図(2)



第479図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表(第 477 ~ 479 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色 調	焼成	Ì	手法の	特 徴 ほ	か	出土位置	備	考
799	土師器	坏	-	(1.4)	[6.0]	長石・石英・赤 色粒子	にぶい褐	普通	ロクロナー	デ 体部下端 削り 底部外	手持ちヘラ削 面に黒書あり	り 底部一方 判読不明	第 92 号堀跡	10%	
800	土師器	坏	_	(1.2)	-	長石・石英	橙	普通		処理 体部外			第 92 号堀跡	5 %	
801	須恵器	坏	[15.0]	(2.9)	_	長石・石英	オリーブ黒	普通	且ロクロナ	デ			表土	10%	
802	須恵器	高台付椀	_	(2.0)	7.6	長石・石英	灰白	李江	6 底部同転	ヘラ削り後高	台貼付		表土	10%	
803	須恵器	蓋	[15.2]	3.7	-	長石・石英	暗灰黄		-	転へラ削り	ПРВПО		UP80		PL103
									+		. H & 14 D	7a -b			I L103
804	灰釉陶器		[15.6]	2.8	[8.2]	長石・石英・雲母		-	ロカロナ	デ 内面施釉		熊式 I施釉	UP80	30%	
805	灰釉陶器		-	(1.8)	[5.8]	長石・石英	灰白	良好	黒笹 90 号	子窯式	1/1 97 7 F1E	1ЛВТЦ	SD152B	10%	
806	土師質土器	鍋	[28.2]	(8.0)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	1 外・内面	ナデ			SD150	5 % 外面煤	村着
807	須恵器	短頸壺	-	(4.9)	[15.4]	長石・石英	灰黄	普通	且ロクロナ	デ			第 96 号堀跡	5 %	
808	土師質土器	甕	[46.3]	53.0	21.9	長石・石英・雲 母・赤色粒子	赤褐	普通	外・内面	ナデ 口縁部	蓮華文 便槽	力	表土	60%	
809	灰釉陶器	甕	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄	良好	子 ロクロナ	デ 灰釉垂下			表土	5 %	
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調		絵付	釉 色	産地	年 代	出土位置	備	考
810	陶器	碗	[17.6]	(5.5)	_	精良	浅黄		草花文ヵ	灰白	瀬戸・美濃	16 C代カ	表土	10%	
811	陶器	蓋	[11.6]	(2.7)	_	精良	橙	+	不明	淡黄	益子	19 C後葉	表土	10%	
812	陶器	折縁皿	[14.2]	(2.8)	_	精良	淡黄	+		暗オリーブ	瀬戸・美濃	17 C前葉	表土	5 %	
					_			+		灰白			第92号堀跡		
813	陶器	行平	[15.8]	(6.6)	_	精良	灰黄			にぶい黄褐	不明	18 C後葉	.,		
814	陶器	鉢	[43.0]	(5.8)	-	長石	にぶい黄	褐	_	_	常滑	17 C前半	SD150	5 %	
815	陶器	擂鉢	[32.2]	10.3	[17.0]	精良	明赤褐		_	灰赤	堺・明石	17 C代	第92号堀跡	20%	PL103
816	陶器	急須	-	(4.8)	-	精良	にぶい黄	褐	草花文	灰オリーブ	瀬戸・美濃	18 C代カ	表土	10%	
817	陶器	土瓶	[7.7]	[10.4]	[8.0]	精良	にぶい権	艺	山水文	透明	益子	19 C後葉	第 92 号堀跡	20%	
818	陶器	꽲	[36.0]	(4.5)	_	精良	灰白		-	オリーブ灰	常滑	13 C中葉	第92号堀跡	5 %	
819	磁器	碗	7.5	3.5	3.1	緻密	灰白		_	明緑灰	肥前	19 C前葉	表土	95%	
820	磁器	皿カ	-	(0.5)	-	緻密	灰白		-	透明	不明	不明	第 92 号堀跡	5 % 墨書多	5.数
						I.					ı		I.	エロフ	- 20
番号	種 別	器種		胎 土		色調			ナ 様	の特徴	ほ か		出土位置	借	考
	縄文土器	深鉢		***		にぶい橙	LRの単純	治縄-		11 12			第92号堀跡		-
	縄文土器	深鉢		- D		橙	L Rの単純						表土	PL104	
11 43	地 又上66	休邺	K11 · 1	1关:云口	y 1941	155	していかす	即唯。					1八.	I L104	:
							1						T .		
番号	種別	器種		胎 土 云茶、電		色調			手 法	の特徴	ほ か		出土位置	備	考
TP44	土師質土器	擂鉢	赤色粒	石英・雲 子	· 17.	橙	外・内面・	ナデ	内面2条	1単位の擂目			表土	PL104	:
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質				特 徵	ά		出土位置	備	考
Q 242	角錐状石器	6.4	2.2	1.4	19.2	頁岩	両側辺に	階段:	犬剥離 表	皮残す			第 92 号堀跡	PL105	,
Q 243	剥片	3.4	1.9	0.6	3.75	黒曜石	縦長剥片	打i	面は単剥離	面			表土	PL105	,
							1						l.		
番号	器 種	径	孔径	高さ	重量	材質				特 徴	ř		出土位置	借	考
Q 244	石臼	_	[3.4]	(6.0)	(533)	安山岩	10 冬の世	B		,, 159	•		SD150	UTI	
	(下臼) 石臼	F2F C7					10条の擂目						DI 104		
Q 245	(下臼)	[35.6]	_	10.4	(2,180)	安山岩	下白片						表採	PL104	-
		1		1	1		Г							ı	
番号	銭 種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	刀鋳 年			特	徴		出土位置	備	考
M88	永□□寶	2.55	0.55	0.18	3.50	銅 1	1408年	無背	永楽通寶	力			SI3155	PL106	5
M89	永□通□	2.50	0.50	0.14	(1.41)	銅	1408年	無背	欠損 永	楽通寶ヵ			SD152A	PL106	5
番号	種 別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色 調	焼成	į	手法の	特徴ほ	か	出土位置	備	考
T 12	瓦	平瓦	(5.3)	(5.2)	1.7	長石	灰	普通	負丁寧なナ	デ 端部刻印	 「石川		SD572	PL106	;
- 10		, , , ,	(5.5)	.0.2/	1	1		100	-1 - , ~ /	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					

第7節 ま と め

1 はじめに

島名熊の山遺跡は、平成7年度から調査を実施し、これまでに『茨城県教育財団文化財報告』第120・133・149・166・174・190・214・236・264・280・291・322・328・360・380集の15冊¹⁾ の報告書を刊行している。今年度は、遺跡の北部にあたる13区・14区の面積8,925㎡、遺跡の南西部にあたる15・16区の面積4,451㎡について整理を行った。今回の報告分までの総調査面積は、254,909㎡である。これまでに確認した主な遺構は、竪穴建物跡2,387棟、掘立柱建物跡382棟、古墳2基、方形竪穴遺構94基、地下式坑72基、堀跡・溝跡325条、道路跡28条、井戸跡196基、大形竪穴遺構8基、火葬施設35基、墓坑77基、水田跡2か所、遺物包含層4か所などである。

遺跡の内容は、古墳時代(4世紀)から平安時代(11世紀)にかけての集落跡が中心である。6世紀から11世紀に至るまで途絶えることなく生活が営まれ、律令期は「河内郡嶋名郷」の拠点的集落となり、島名地区では当遺跡周辺だけに集落が集中している。また、室町時代以降についても区画や防御を兼ねた堀跡や溝跡、墓域、水田跡、道路跡などの遺構を確認し、長期間にわたる土地利用の状況が明らかになった。

今回の調査区域は、遺跡の北東側から西側に彎曲して入り込む谷の北側の標高 21 ~ 22 mの平坦な台地と、遺跡の南東側から西側へ彎曲して入り込む谷に挟まれた標高 20 ~ 23 mの平坦な台地上にある(第3図)。

各時代の様子については、これまでの報告で詳細に述べられているので、13 区においては『第 264 集』、14 区においては『第 280 集』、15 区においては『第 291・360 集』、16 区においては『第 280・322 集』での整理内容と合わせて、主な時代についての事実関係を記述する。

なお、時期区分については、これまでの報告との整合性を保つために、『第 190 集』で示された土器の変遷に基づき、第 1 期を 4 世紀、第 2 期を 5 世紀、第 3 ~ 5 期を 6 世紀、第 6 ~ 8 期を 7 世紀、第 9 ~ 11 期を 8 世紀、第 12 ~ 14 期を 9 世紀、第 15 ~ 18 期を $10\cdot11$ 世紀とする。また、竪穴建物跡の規模については、『第 291 集』を参考に、一辺の長さが 4 m未満を小型建物、 4 m以上 6 m未満を中型建物、 6 m以上 8 m未満を大型建物。 8 m以上を超大型建物とした。

2 13・14区の概要

(1) 縄文時代

この時代の遺構は、陥し穴1基を確認した。今回の14区で確認した縄文土器は、中期の細片数点が表面採集されたのみで、陥し穴の時期は不明である。わずかではあるが生活の痕跡が確認でき、狩り場跡であることが分かった。

(2) 古墳時代

今回の調査で古墳時代(第 $1 \sim 8$ 期)の竪穴建物跡 15 棟,土坑 3 基を確認した。これまでの報告で 13 区では竪穴建物跡が 188 棟,14 区では 19 棟が報告されており, $13\cdot 14$ 区全体で 222 棟を数える。

第1期の4世紀(第481図)は、この地に集落が出現する時期である。これまでに竪穴建物跡は、13区では4棟、14区では台地中央部で1棟が報告されている。今回の調査で、竪穴建物跡は13区で2棟(第3049・3051号)を確認した。

第2・3期の5~6世紀前葉(第481図)の竪穴建物跡は、これまで13区の南西部で、第2期の竪穴建物跡16棟が報告されており、14区では確認されていない。

第4期の6世紀中葉(第481図)になると遺構の確認数が増加し、これまで竪穴建物跡は13区では13棟、14区では5棟報告されている。今回の調査では、14区で2棟(第2423・3068号)を確認した。第3068号竪穴建物跡は14区のほぼ中央部に位置し、一辺が8mを超す超大型の規模である。第3068号竪穴建物跡から南東約30mに、一辺が6.4mの大型の第2423号竪穴建物跡を確認し、さらに、南東約30mに一辺8mの超大型の第2421号竪穴建物跡、その南東約30mの13区で、一辺が6.1mの大型の第2194号竪穴建物跡があり、主軸方向がN-40°-Wのラインに並び、規格性がみられる。超大型の第3068号竪穴建物跡は、主柱穴が6か所で、北側には壁柱穴を有する構造で、多量の土器などが出土していることから、14区の集落で6世紀中葉から後葉にかけての中心的な竪穴建物であったと考えられる。第3066号竪穴建物跡から北東8mに位置する第3066号竪穴建物跡は中型の建物であるが、構造や主軸も同じ方向を示すことから、第3068号堅穴建物跡との関連が強く考えられる。さらに、第3068号竪穴建物跡から南東へ28mほど離れた第2423号竪穴建物跡も大型の竪穴建物跡で、小集落の中心的な建物と考えられる。

第5期の6世紀後葉(第481図)になると、竪穴建物跡の棟数が急増し、13・14区全体でも竪穴建物跡の棟数が67棟となりピークを迎える。この地域の大規模開発に伴い増加していったと考えられる。この時期の集落範囲は、13・14区のほぼ全域に広がり、特に南西部に集中する傾向が見られる。今回の調査で、竪穴建物跡は13区で9棟(第2022・2028A・2028B・3040・3042・3044・3047・3050・3058号)、14区で8棟(第2426・3055・3075・3164・3165・3167・3169・3170号)、掘立柱建物跡は13区で1棟(第548号)を確認した。これまで確認していなかった南緩斜面にも新たに住居が形成され、集落が拡大していく様子をつかむことができた。大型の竪穴建物跡が2棟(第3167・3169号)、5 m前後の中型の竪穴建物跡が6棟(第2426・3055・3075・3164・3170号)が該当する。南部の大型の第3169号竪穴建物跡を中心とするグループと、北部の第3055号竪穴建物跡の平面形は竈に対して横長の長方形で、工房跡のような機能が想定され、隣接する竪穴建物跡との関連が考えられる。これまで、東部の超大型の第2411号竪穴建物跡を中心とするグループと南部の大型の第2051・2419号竪穴建物跡を中心とするグループ、北部の第2299号竪穴建物跡を中心とするグループが、同台地上で4~7 m間隔で形成されていることが報告されている。第4期に引き続き、大型の竪穴建物跡を中心として、小集落が形成されていると考えられる。

第6期の7世紀前葉(第481図)も引き続き集落域が台地上に拡大した時期であり、これまで13・14区で44棟の竪穴建物跡が報告されている。今回の調査で、竪穴建物跡は13区で8棟(第2009・2145・2245・2247・3035・3045A・3045 B・3046 号)、14区では4棟(第3037・3057・3061・3160 号)を確認した。集落の広がりもほぼ全域にわたる。13・14区における古墳時代後期の竪穴建物跡のほとんどが、主軸方向を北西に向ける規格性がみられるが、中央部から北部にかけて主軸方向を北側に向いている竪穴建物跡がみられるようになり、併せて小型の竪穴建物が出現してくる。今回の調査で中型は14区の北部に位置する第3057・3061 号竪穴建物跡で、これらを中心に東西20mほど離れた位置に小型の第3037・3160 号竪穴建物跡が位置している。第3057 号竪穴建物跡は竈に対し横長の建物跡で工房跡的な構造をしているが、工房に関連する遺物は確認されていない。小型の第3037 号竪穴建物跡は、竈が西壁に位置し様相を異にしている。13区ではこの時期、西側に竈を持つ竪穴建物跡は確認されていない。13区では、南西部に超大型の第2024 号竪穴建物跡と、中型の第2025 号竪穴建物跡を中心とするグループが見られる。

第7期の7世紀中葉 (第482図) になると, 竪穴建物跡は13区で12棟, 14区では2棟と急激に減少し, ている。

第8期の7世紀後葉(第482図)でも減少傾向は強まり、 $13\cdot 14$ 地区全体でも竪穴建物跡は、13区では7棟、14区では1棟と、 $2\sim 3$ 棟で1グループが形成されている。今回の調査では、 $7\sim 8$ 期に該当する竪穴建物跡は確認できなかった。

(3) 奈良時代

第9期の8世紀前葉(第482図)になると竪穴建物が再び増加する傾向を示している。これまで、竪穴建物跡は13区で7棟、14区では3棟、掘立柱建物跡は13区で2棟、14区では3棟が報告されている。今回の調査で、竪穴建物跡は13区で3棟(第2140・3036・3048号)、14区では1棟(第3071号)を確認した。竪穴建物跡の規模は1辺6m以上の大型は姿を消し、3~5mの規模になる。また、14区で掘立柱建物が出現するのがこの時期である。

第10期の8世紀中葉(第482図)では、これまで25棟の竪穴建物跡、12棟の掘立柱建物跡が報告されている。今回の調査で確認した竪穴建物跡は、13区で5棟(第2138A・2138B・3041・3043・3114号)、14区では東壁に竈を有する小型の第3166号竪穴建物跡1棟のみである。これまでの報告で、同様に東壁に竈を有する竪穴建物跡は、中央部にある第2413号竪穴建物跡が該当する。この時期は、さらに竪穴建物と掘立柱建物が増え、竪穴建物跡は当地区中央部と北東部に広がり、掘立柱建物跡は中央部に集中して配置されている。

第11期の8世紀後葉(第483図)では、これまでに堅穴建物跡27棟と掘立柱建物跡を21棟が報告されている。今回の調査で、竪穴建物跡は13区で2棟(第2136・3133号)、14区では小型で東竈を有する第3069号竪穴建物跡1棟のみ確認した。13区で掘立柱建物跡は2棟(第415・552号)を確認した。この時期の集落は、台地の斜面部に位置する傾向がみられる。また、当地区の中央部には空白地帯があり、それを囲むように建物が配置されている。掘立柱建物は13区の南側の谷に面する緩斜面に建てられている。

(4) 平安時代

第 12 期の 9 世紀前葉(第 483 図)は、これまで竪穴建物跡 36 棟、掘立柱建物跡 3 棟が報告されている。今回の調査で竪穴建物跡は、13 区では第 3060 号竪穴建物跡 1 棟のみで、14 区では 5 棟(第 2147・3039・3056・3070・3168 号)を確認した。その内 4 棟は、小型の竪穴建物跡である。14 区の中央部を南から東へ弧状に囲むようにほぼ等間隔で配置されている。中でも第 3070 号竪穴建物跡は、小型であるが須恵器坏や土師器の甕等が多く出土している。第 11 ~ 12 期は集落としての繁栄期であり、第 10 期以降、集落が東側に移行していく様子が建物の検出状況からうかがえる。

第 13 期の 9 世紀中葉(第 483 図)は、これまで竪穴建物跡 22 棟と掘立柱建物跡 9 棟が報告されている。今回の調査で 13 区では竪穴建物跡 2 棟(第 2139・3112 号)と掘立柱建物跡 1 棟(第 579 号)を、14 区では小型の竪穴建物跡 7 棟(第 3038・3073・3074・3162・3163・3171・3172 号)を確認した。その内、調査区南部で確認した第 3074・3073・3163・3171・3172 号竪穴建物跡は、主軸を北に向け、5 ~ 10 m間隔で配置されている。

第14期の9世紀後葉(第483図)になると竪穴建物跡が減少傾向を示してくる。これまで竪穴建物跡は13棟,掘立柱建物跡は13区の11棟が報告されている。今回の調査で13区の竪穴建物跡は確認できな

かった。14 区では小型の竪穴建物跡(第 3072・3161 号) 2 棟のみを確認した。14 区の北部に位置する、 第 3161 号竪穴建物跡では床下土坑から木部が付着した鑿が出土している。

第15期の10世紀前半では、これまで13区で竪穴建物跡4棟と掘立柱建物跡1棟が報告されている。 この時期以降14区では、竪穴建物跡、掘立柱建物跡は報告されていない。今回の調査でも確認できなかった。 第16期の10世紀後半では、これまで13区で竪穴建物跡1棟と掘立柱建物跡1棟が報告されている。

第17期の11世紀前半では、これまで13区で竪穴建物跡1棟が報告されている。

第18期の11世紀後半では、これまで13区で竪穴建物跡1棟が報告されている。

今回の調査で、13 区では、第 14 期以降の竪穴建物跡、掘立柱建物跡を確認することはできなかった。また、今回の調査で確認した 14 区西部の第 580・581 号溝跡は、奈良時代後葉から平安時代後葉にかけての、集落の西部を区画する溝であることが分かった。また、『第 264 集』で報告されている第 114・120 号溝跡は、北部を区画する溝と想定され、これまで報告されている分と、今回調査した分を併せた第 120 号溝跡の長さは 167.29 mで、第 114 号溝跡の長さは 101.32 mである。今回の調査で、第 114 号溝は、A 4 a9 区で西に直角に折れ、14 区方向へ延びることを確認した。第 114 号溝の延長上に、今回 14 区で確認した第 580・581 号溝がある。13 区と 14 区の間には未調査区があり、明確ではないが、これらの溝は、区画溝であったと考えられる。また当区の台地南側には谷津が東西に入っていることを考えると 13・14 区は、防備的にはしっかりした地区となっていたことが想定される。

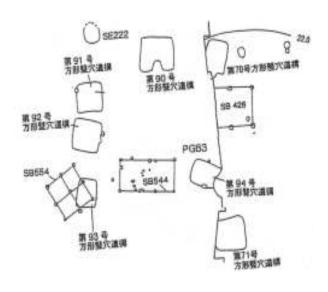
(5) 室町·江戸時代

今回調査をした14区の北部で、方形竪穴遺構6基、掘立柱建物跡2棟、井戸跡1基を確認した。第554号掘立柱建物跡の周囲を囲むように、方形竪穴遺構が5基配置されている。これまでの報告との隣接部分からも掘立柱建物跡を挟んで方形竪穴遺構2基が報告されており、掘立柱建物跡2棟を方形竪穴遺構8基が取り囲む配置になっている(第480図)。第93号方形竪穴遺構以外の6基は、それぞれ出入り口施設と考えられるスロープと2~4か所の柱穴を伴っており、関連がうかがえる。また、第71号方形竪穴遺構からは、焼土・炭化物・灰が出土し、焼土層が最大7cmあり、他とは性格が異なるものと思われる。

13 区ではこれまで 26 基の方形竪穴遺構が報告されている。その内スロープと柱穴をもつものが 16 基、焼土・炭化物が確認されたものが13 基である。

調査区西側で多く確認されており、方形竪穴 遺構同士の重複も見られる。

江戸時代は、14 区北部の土坑 3 基から、六 道銭や煙管が出土している。これまでの報告では、調査区南部の台地上や、当区の南部斜面に 地下式坑、火葬施設、墓坑等を確認しており、 室町時代から江戸時代にかけて、墓域の範囲が 北へ広がったものと考えられる。その後、近現 代に耕地や宅地として土地が利用されたこと



第480図 14区方形竪穴遺構、掘立柱建物跡配置図



第1~4期:(4世紀~6世紀中葉)



第5~6期:(6世紀後葉~7世紀前葉)

第 481 図 $13 \cdot 14$ 区竪穴建物跡・掘立柱建物跡配置図(第 $1 \sim 6$ 期)



第7~8期:(7世紀中葉~7世紀後葉)



第9~10期:(8世紀前葉~8世紀中葉)

第 482 図 $13 \cdot 14$ 区竪穴建物跡・掘立柱建物跡配置図(第 $7 \sim 10$ 期)



第11~12期:(8世紀後葉~9世紀前葉)



第13~14期:(9世紀中葉~9世紀後葉)

第 483 図 $13 \cdot 14$ 区竪穴建物跡・掘立柱建物跡配置図(第 $11 \sim 14$ 期)

が、境界溝等の存在からうかがい知ることができる。

3 15区の概要

(1) 古墳~平安時代

今回の調査区北部で、竪穴建物跡 3 棟を確認した。第5・6 期、第8 期、第14 期のそれぞれ1 棟である。これまで第5・6 期は、15 区全体で見ると北部で大形竪穴建物を核として、複数の中小の竪穴建物からなる集団構成が認められ、竪穴建物数が急激に増加する時期であると報告されている。また、規模は19 ㎡以下で、主軸に対し横長長方形の建物跡も確認しており、今回調査した第3033 号竪穴建物跡もこの形状である。

これまで竪穴建物跡は、第8期のものが北西部で2棟、第14期のものが北部で7棟報告されている。今回調査した8期の第3032 号竪穴建物跡の西部床面からは石製勾玉が出土している。祭祀が行われた可能性が考えられるが詳細は不明である。また、これまで報告されている第14期の竪穴建物跡の規模は19㎡未満であるが、今回調査した第3031 号竪穴建物跡の規模は29㎡と同時期の竪穴建物跡と比べると大きい。今回の調査で、15 区南部では竪穴建物跡を確認することはできなかった。また、今まで報告された部分と今回調査した部分との間には未調査区があるため、全体の傾向をつかむのは難しい。

(2) 室町時代(第485図)

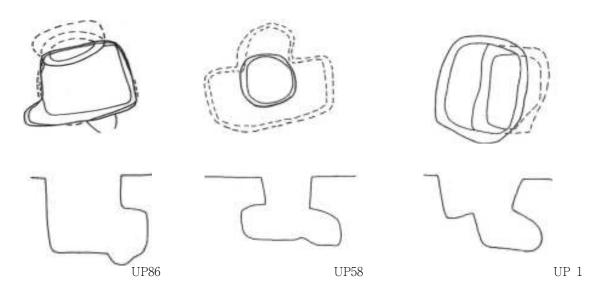
方形竪穴遺構 4 基,掘立柱建物跡 10 棟,井戸跡 10 基,火葬施設 1 基,地下式坑 7 基,土坑 72 基,道路跡 1 条,堀跡 1 条,溝跡 14 条,柱穴列跡 4 条を確認した。方形竪穴遺構は、4 基とも今回の調査区北部で確認し、いずれも炉跡はなかった。第 96・97・98 号方形竪穴遺構で柱穴が存在している。

掘立柱建物跡は調査区北部で確認した。周辺には地下式坑や井戸、多くの土坑があり、規模や構造から 墓域に伴う小堂や倉庫としての機能が想定される。

井戸跡は、形状が円筒状のものを4基、漏斗状のものを6基確認した。中でも第226号井戸跡からは、石塔75点が投棄された状態で出土している。また、井戸跡を確認した場所で井戸の性格が違うことも考えられる。15区北部の井戸跡の近くには、小堂と想定される掘立柱建物跡や地下式坑があることから、墓域の閼伽井戸、調査区南部の井戸跡は、第104号堀跡内部にあることから、生活用の井戸と考えられる。

火葬施設は調査区北西部で1基確認した。土坑内に通風孔を掘り、熱効率を上げるよう工夫がなされている。この形状は、『第236集』で示されたB類に相当している。なお、当遺跡の大半が同形式のB類と報告されている。地下式坑は、調査区北部で7基確認した。規模は、軸長が4m以上のもの(UP83~UP85)、2~4mのもの(UP82)、2m未満のもの(UP86~UP88)に分かれる。規模が4m以上のものは、全て溝と重複しており、規模が2m未満の2基は壁が大きく内彎している。当遺跡では16区の第58号地下式坑が同様に壁が内彎している。また当遺跡から約1.5km南に位置する「島名一町田遺跡」²⁾の第1号地下式坑も同形状で、時期は遺物から18世紀中葉と報告されており、性格は骨片が出土していることから墓として機能していたとある。今回調査した第85・86号地下式坑も墓坑の可能性がある。(第484図)

また, 第84号地下式坑からは天井部が崩落した後の覆土上層から吞口式腰刀が出土している。横位で出土していることから, 埋め戻す際に意図的に置かれたものと考えられる。



第484 図 島名熊の山遺跡第86・58号地下式坑、島名一町田遺跡第1号地下式坑(左図から)

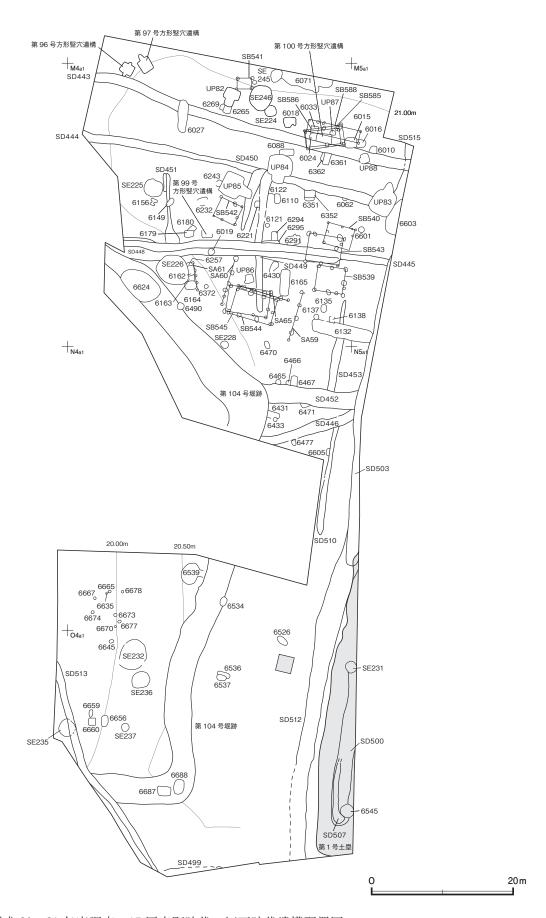
土坑は調査区北部を中心に72基を確認した。土坑内からは人骨や銭貨は出土していないため明言することはできないが、『第236集』、『第280集』で墓坑の可能性があると報告されている土坑と規模や形状、主軸方向が同様のものがある。また、『第236集』では当遺跡の中世後半の墓坑について「溝や堀によって区画された内部に多数の土坑が規則性をもって配置される。-中略- これらは、地下式坑とともに墓域の核となって拡大し集団墓的な要素を強めていったものと想定される。」とあり、当区でも同様の配置が見られる。

道路跡 1 条を妙徳寺の東側で確認した。波板状の凹凸があり、軟弱な地盤を補強するための痕跡と考えられる。一部の調査のため全容は掴めないが、現在の道路に沿って南北に延びていたと想定される。堀・溝跡 15 条を確認した。第 104 号堀跡は、3 回の掘り返しを確認し、16 ~ 17 世紀の長期にわたって使われていたと考えられる。出土遺物は堀の北部では五輪塔が、堀の南部では土師質土器や陶器・磁器、木製品が多数出土している。堀の西側が未調査区のため明確ではないが、妙徳寺の西側を区画するように巡っていくと想定される。また規模から防御施設としての機能も果たしていたと考えられる。堀の底部には、敵の進入を遅らせるための施設と考えられる土坑が、北部と南部にある。また、第 443・444 号溝は幅 4.0 ~ 5.5 mで平行して東西に延びており、道路の側溝と考えられ、妙徳寺の北に向かって延びている。第 453・510 号溝から東では土坑が見られないこと、第 452 号溝から南では掘立柱建物跡や地下式坑が見られないことなどから、溝による区画や規制が働いていたと考えられる。

(3) 江戸時代

井戸跡1基,土坑1基,溝跡3条,土塁1条を確認した。第445号溝は現在の地籍図と筆境がほぼ一致していることや,第513号溝は一部が現在まで水路として利用されていたことなどから,当時から現在までの土地利用の様子がうかがえる。妙徳寺の西側にあり,溝2条を伴う土塁は,出土遺物から室町時代後半から江戸時代まで機能していたと考えられる。現在も土塁の一部が遺存しており,当時の面影を残している。





第 485 図 平成 20・21 年度調査 15 区室町時代・江戸時代遺構配置図

4 16区の概要

(1) 古墳時代

竪穴建物跡 2 棟、土坑 2 基を確認した。竪穴建物跡 2 棟はそれぞれ第5・6期 1 棟ずつである。前回までの調査によって 17 棟を確認している。第6期になるとはさらに竪穴建物跡が増加し、継続した繁栄期の様相を呈している。これまでの報告で、竪穴建物跡は 23 棟を確認しており、1 辺が 6 mを超える大型の竪穴建物跡を中心とした集団が形成されていく時期である。集落の中心は『第280集』にて報告されている南部に集中しており、今回の調査区である当区北部にも居住域が広がることを確認した。

(2) 奈良時代

土坑3基を確認したのみで,前回までの調査によって確認している竪穴建物跡や掘立柱建物跡などの遺構は確認できなかった。

(3) 平安時代

竪穴建物跡 1 棟、掘立柱建物跡 1 棟、井戸跡 1 基、土坑 7 基を確認した。竪穴建物跡は第 12 期に該当し、当区では竪穴建物が第 9~11 期と比較して、増加傾向に転じた時期にあたる。掘立柱建物跡は第 13~14 期に該当し、南側の竪穴建物跡に伴う倉庫の可能性が考えられる。第 14 期の当区では、これまで竈の作り替えや、4 回以上の床の貼り替えが行われた竪穴建物跡が報告されており、灰釉陶器や墨書土器が多数出土している。当建物跡は、有力者の居宅として機能したと想定されている。また、出土遺物が 1,500点を超える竪穴建物跡が 2 棟報告されている。当区東側の現道を挟んだ 8 区では、時期は違いがあるものの、出土遺物が 1,000点を超える第 13 期の竪穴建物跡 5 棟を確認しており、一般住居としては、遺物出土量がかなり多いことから、『第 174 集』では「郷飲酒礼」の可能性が指摘されており、第 14 期の当区においても、出土遺物の多い竪穴建物跡は、役人などを招いて饗宴を行うために使用したとも考えられる。今回調査した調査区中央部の第 220 号井戸跡は、第 14 期には廃絶されたと考えられる。当井戸跡からは須恵器片 100点、灰釉陶器片 20点などが出土しており、饗宴後に井戸跡へ供膳具を投棄した可能性も考えられる。

(3) 室町時代(第486図)

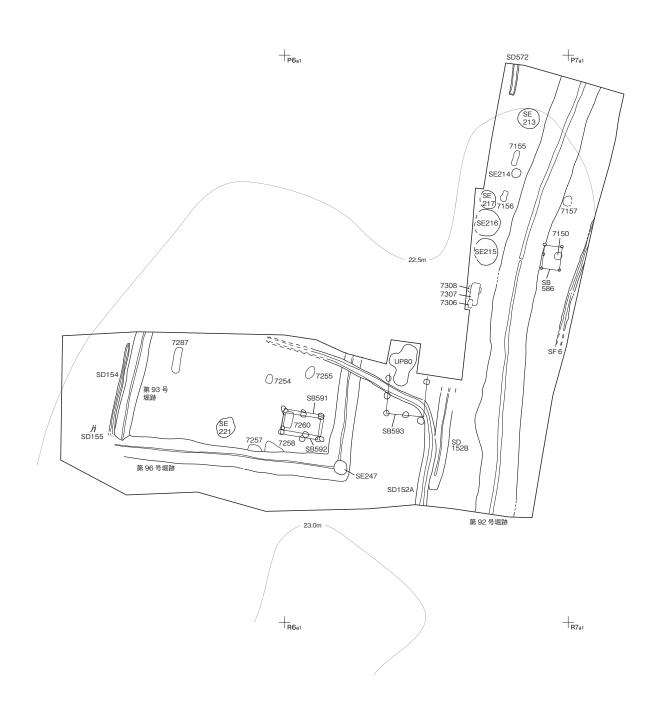
掘立柱建物跡4棟,井戸跡7基,地下式坑1基,土坑11基,道路跡1条,堀跡3条,溝跡3条を確認した。

掘立柱建物跡はいずれも15・16世紀代で、規模から倉庫として使用されていたと想定される。

井戸跡は、15世紀代が1基、16世紀代が1基、16世紀代が1基、16世紀後半が5基である。そのうち、素掘りの構造の 4基を除く第 $215 \sim 217$ 号井戸跡では裏込め土を確認したことから、井戸枠が設置されていたと考えられる。これまでに二段掘りの井戸として報告してきた井戸跡の中にも、周囲を広く掘り込み、井戸枠を設置 したものが数多くあったものと考えられる。

地下式坑は、崩落した天井部より上層の出土土器から、16世紀後半には廃絶していたと考えられる。 形状は特徴的で、竪坑から主室に向かって左側に張り出し部をもつものである。本跡と同タイプの地下式 坑は、本跡の南西80mほどの第52号地下式坑がある。軸方向はやや異なるが、東に触れている点は共通 している。出土遺物はどちらも上層からで、遺構が機能していた時期の遺物が検出されないことから、詳







第486 図 平成23・24年度調査 16区室町時代・江戸時代遺構配置図

細な時期や性格については不明である。

土坑は11基すべてが15世紀から16世紀代の室町時代と想定され、遺構の形状や長軸方向から5基が墓坑の可能性がある。これまでの調査結果から、形状が長方形もしくは隅丸長方形の4基は伸展葬、残りの楕円形の1基は伸展葬もしくは臥屈葬の可能性がある。

道路跡1条は出土した内耳鍋の特徴から当時代と考えられる。確認された長さは14mほどであり、一部分の確認にとどまった。本跡に隣接する東側には現道が通っていることから、本跡の未確認の部分については、現道の下に存在するものと思われる。

堀跡は3条とも、これまで報告されている。第92号堀跡は、確認できた総延長が130mを超える大規模なものである。壁面に柵列状のピットを検出したことなどから、本跡は区画及び防御を目的としていたと想定される。第93号堀跡は今回の調査分を含めて、総延長が100mを超えるものである。調査以前の農道と位置がほぼ一致することから、区画を目的としていた可能性も考えられる。第96号堀跡は、半町四方に巡る堀跡であることが明らかになった。方形区画の内部施設としては、同時期の第591・592掘立柱建物跡や第221号井戸跡がそれにあたると想定される。当遺跡と隣接する島名前野東遺跡からも方形区画を確認しているが、同時期のものではないと考えられる。第92・96号堀跡は、北側の妙徳寺に関わりのある遺構と考えられる。溝跡3条は第152 B・571号溝跡が区画目的で、第155号溝跡は、その総延長が90m近く、妙徳寺の南正面から南部へ直線的に延びていることから、寺に関わる溝の可能性がある。

(4) 江戸時代

土坑 1 基, 溝跡 2 条を確認した。第 7157 号土坑は,東部が撹乱を受けていることから,南北径は 1.45m,東西径は 0.70m しか確認できなかったが,円形と推定できる。本跡は刀子や煙管 $^{3)}$ が出土していることから,18 世紀後半の墓坑と考えられる。溝跡は,第 152 A \cdot 154 号が該当し,いずれも『第 280 集』にて区画的な機能を有した溝跡と報告されている。

(5) 明治時代

『第322集』にて報告されている校舎基礎跡の延長部分を確認した。第2号建物基礎跡の南端部にあたり、南北軸が25mであることが明らかになった。基礎跡の面積は175㎡の長方形である。1882(明治15)年に妙徳寺の校舎から移転した島名尋常小学校校舎の基礎と考えられる。

5 堀跡・溝跡から出土した土器・陶器・磁器

第15·16区の堀跡・溝跡から出土した土器・陶器・磁器を機種別に集計したのが、表99である。ここに 記した数は個体数ではなく破片数であり、またいくつかの堀跡・溝跡に絞って集計しているため、全体的な 傾向をつかむための指標と考える。

最も多く出土しているのが内耳鍋・焙烙であり、次が小皿である。第 104 号堀跡・第 449 号溝跡からは小皿がまとまって出土している⁴⁾。出土小皿には油煙が付着している物もあり、灯明皿として使われた物もある。

また、平安時代以降、煮炊きをする場が竈から囲炉裏へと変化をする。更に鍋が出現する以前は、「食事をする場所」と「食事をつくる場所」とがほぼ同一の空間であったが、館や屋敷など広大化した生活空間が確保されるようになると、「食事をする場所」と「食事をつくる場所」とが次第に分けられるようになる⁵⁾。

表 99 15·16 区堀·溝跡出土土器·陶磁器機種別集計表

種別		土師質土器			瓦質 土器 瀬戸・			・美温	手濃		唐常津滑	肥前系磁器		輸入磁器	合計									
時代	区	器種遺構	小皿	内耳鍋·焙烙	擂鉢	香炉	火鉢	蓌	火鉢	擦鉢	志野Ⅲ・碗	天目茶碗	甕 類	類	碗類	擂鉢	碗	蹇.	碗	<u>III.</u>	瓶	蓋	小坏	計 (点)
		堀 104	278	570	67	2	5	64		2	5	5	6	5	6	4		34	11	1				1065
室		443 溝		5	1														12					18
_	15	446 溝	3	11	4											1								19
町	区	448 溝	3	2	1														2					8
時		449 溝	7											1										8
代		452 溝	48	44	4		3		1						4			2	4	1				111
	16 区	堀 92	102	1028	106		1					2		5	7	1			26				1	1279
江		445 溝		7					1			2	2		9				12	2	3	1		39
戸	15	503 溝			2			1				1		2	3				6	1				16
時	区	500 溝	18	25	18		1	31												2				95
代		512 溝	11	161	14							7	9	3	16	8	5	9	0	30				273
	計		470	1853	217	2	10	96	2	2	5	17	17	16	46	13	5	85	63	7	3	1	1	2931

煮炊きの場の変化、料理を運ぶための必要性から内耳鍋が現れた。皿・擂鉢・甕などは在地の物と搬入のものが含まれ、第443号溝跡からは、古瀬戸Ⅱ期の平碗が出土しており、当時の有力者の交流の範囲や時期を知ることができる。

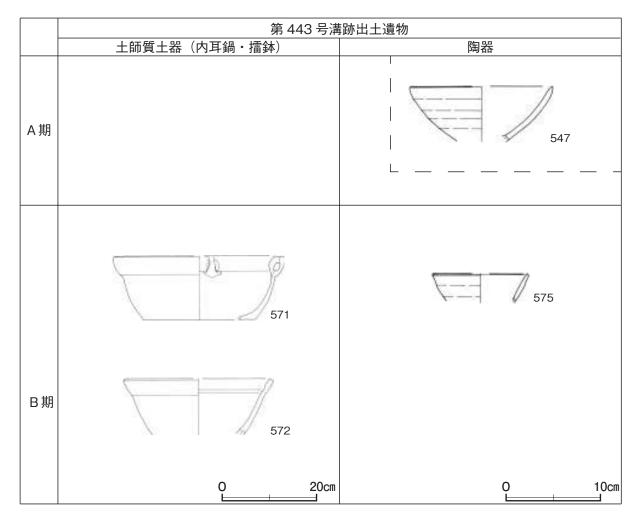
また天目茶碗とともに茶臼も出土していることから喫茶の風習がこの地に浸透していたことがうかがえる。これらの陶磁器類を遠く離れた「田中の庄嶋名郷」の人々が入手していたということは、牛久沼に注ぐ東西二つの谷田川水系の水運を掌握していた有力者が、水運だけでなく土地も支配し、その両面を押さえていたものと思われる⁶⁾。それを裏付けるように16区の第92号堀からは輸入磁器の八角小坏が出土している。当遺跡付近では「上野古屋敷遺跡」⁷⁾の第45号溝から出土している。表99を見ると、江戸時代の溝では第512号溝跡からの出土量が多い。第512号溝跡から約15m西には第104号堀跡がある。この溝と堀の間には遺構がほとんどない。第104号堀跡上層からは江戸時代の小皿が出土し、第1号土塁の付属施設と考えられる第512号溝と第104号堀が同時期に機能していた可能性がある。両遺構の間は儀礼や儀式のハレの場として使われていたことが想定される。また、室町時代の堀・溝跡に比べ、江戸時代の溝跡からの出土遺物の量が少ない。

6 15区の溝から出土した土器について

15 区の室町時代の遺構からは土師質土器や陶器が出土している。特にそれらは、堀跡や溝跡からまとまって出土しており、当区の室町時代後半から江戸時代初頭にかけての出土遺物の様相を知り得る資料となっている。『第 280 集』で、土師質土器、陶器の変遷について報告している。今回の報告分も出土遺物や遺構の重複から 4 時期の分類が可能である。そこで『第 280 集』をもとに、当区の堀跡・溝跡から出土した土師質土器、陶器の変遷をまとめてみた。各時期の年代観は共伴する陶器を基準にしており、古瀬戸及び瀬戸・美濃系陶器は藤沢氏の編年、常滑系陶器は中野氏の編年 8 を参考に、1世紀を 2 時期区分し、第 A 期を 15世紀後半、第 B 期を 16世紀前半、第 C 期を 16世紀後半、第 D 期を 17世紀前半としている。

(1) 第 443 号溝跡 (第 487 図)

土師質土器片 3 点(内耳鍋 2 ,擂鉢 1)が出土している。内耳鍋(571)は口径が 36cm,器高が 13cm,572 は口径が 30cm,器高が 11cmである。571 の体部は内椀気味に立ち上がり,口縁部でほぼ直立している。572 の体部は外傾して直線的に立ち上がっている。両鍋とも口縁端部の幅が広く,口径に対し器高は約 3 分の 1 で,焙烙に近くなる傾向が見られる。 共伴する陶器は,古瀬戸後期様式(II 期)の平碗(574)と大窯 2 期の丸碗(575)である。



第 487 図 第 443 号溝跡出土遺物

(2) 第 446 号溝跡 (第 488 · 489 図)

土師質土器 3 点 (小皿) が出土している。口径 6.8 ~ 9.6cm, 器高 2.2 ~ 3.1cm, 底径 3.8 ~ 4.8cmである。576 は、内底面周縁部に凹みがあり、3 点とも内底面の仕上げにナデが施され、体部が外傾し、直線的に立ち上がっている。576・577 は底形が口径の 2 分の 1 以上で、口縁端部が肥大している。焙烙は口径がが約 30cm, 器高は 8.7cmで口径に対し器高は約 3 分の 1 以下である。調査区中央部付近の土層観察から第104 号堀に掘り込まれているが、第104 号堀と同様の小皿や焙烙が覆土上層から出土していることから、溝が完全に埋まるのは、第104 号堀が埋まるのとほぼ同時期と考えられる。

(3) 第 449 号溝跡 (第 488 図)

土師質土器 7点(小皿)が出土している(\$487)図掲載は 5点)。小皿 7点の内 588 のみ溝南部の覆土下層,他は溝中央部の覆土上層からまとまって出土している。小皿の口径は $6.4 \sim 10.0$ cm,器高は $1.9 \sim 3.1$ cm,底形は $3.2 \sim 4.6$ cmである。585 は内底面周縁部が凹み, $584 \cdot 586 \cdot 587$ は内底面に強いうずまき状のロクロ目が,588 は内底面の仕上げにナデが施されている。585 のみ口径に対し底径が 2分の 1 以上で,他は 2分の 1 以下である。体部は $585 \sim 587$ は外傾して立ち上がっており, $586 \cdot 587$ は口縁端部が肥大している。また,口縁部がわずかに内彎するもの(584),底部が厚くなるもの(588)が出土している。

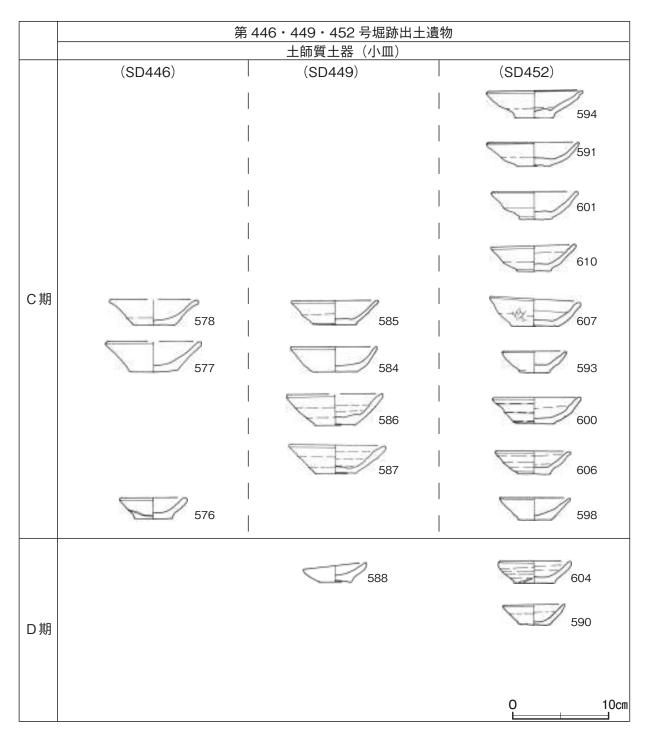
(4) 第 452 号溝跡 (第 488 · 489 図)

土師質土器 25 点 (小皿 22, 内耳鍋 1, 擂鉢 2), 陶器 3 点 (碗 1, 甕 2) が出土している。(第 499 図 掲載は小皿 11 点, 内耳鍋 1 点, 擂鉢 1 点, 天目茶碗 1 点, 甕 2 点である。) 小皿の口径は 6.2 ~ 10.0cm, 器高は 2.1 ~ 2.9cm, 底形は 2.9 ~ 4.7cmである。590・604・607 は口径に対し底径が 2 分の 1 以上である。 内底面の調整を見ると、出土小皿の全てに内底面の仕上げナデが施されており、内底面が凹んでいるもの (591・593・594・601・607・610)、うずまき状のロクロ目があるもの (598・600・604・606) に大きく分かれる。また体部が外傾して立ち上がり口縁部で外反するもの (594・606)、体部に明確な稜をもつもの (600・601・610)、底部が突出し、体部との境が明確なもの (594・601・606・610・604)、口縁端部が肥厚するもの (604・610) などが見られる。内耳鍋 (612) は口径 36.8cm, 器高 10.9cmで,第 443 号溝出土内耳鍋 (571) と形状はほぼ同じであるが、器高は低い。共伴する陶器は 13 世紀後半と、15 世紀後半に比定される常滑産の甕 (616・617) と 16 世紀代に比定される天目茶碗 (615) である。

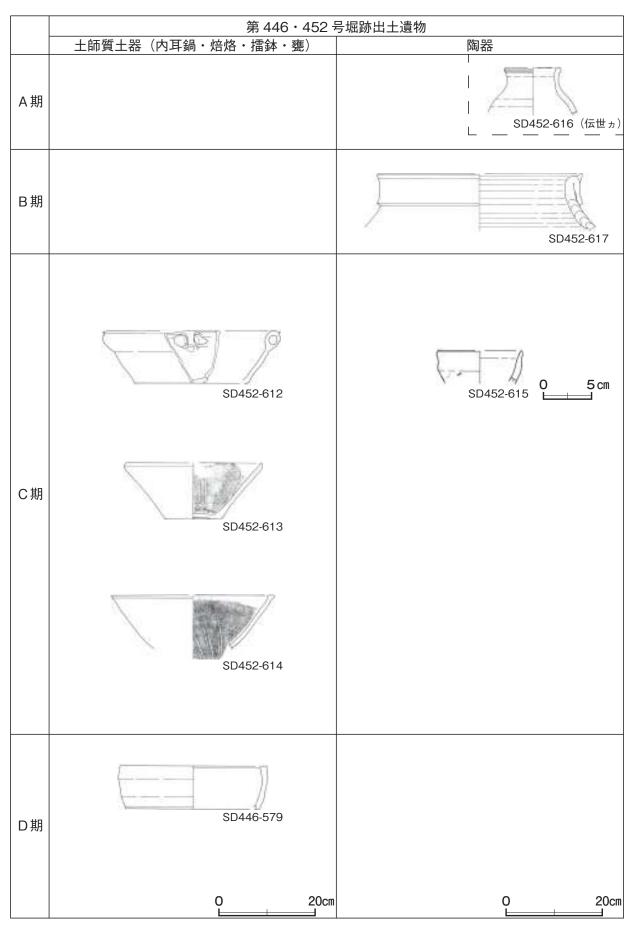
(5) 第 104 号堀跡 (第 490·491 図)

土師質土器 98 点 (小皿 81, 内耳鍋 4, 焙烙 3, 擂鉢 5, 火鉢 2, 香炉 2, 甕 1), 陶器 12 点 (碗 5, 皿 3, 鉢 1, 甕 3) が出土している。(第 501 図掲載は小皿 32 点, 内耳鍋 2 点, 焙烙 2 点, 擂鉢 2 点, 碗 4, 皿 3, 鉢 1, 甕 1 である。) 小皿の口径は 5.1 ~ 10.0cm, 器高は 1.3 ~ 3.3cm, 底形は 2.7 ~ 5.3cmであり, 出土小皿の 76.5% が口径に対し底形が 2分の 1 以上である。第 104 号堀は 3 回の掘り返しがされており、490・493・494・495 は第 I 期の堀の下層からまとまって出土した小皿 9 点の内の 4 点である。内底面の調整を見ると、490・493・494 は内底面の周縁部が凹んでおり、495 は内底面にナデが施されている。また、490・493・494 は口径に対し底径が 2分の 1 以上である。 C 期の小皿は堀の覆土中・下層から出土したものである。内底面の調整は、466・469・475・489・497・493・497 は、内底面の周縁部が凹んでおり、477・510・530 は、底部内面がうずまき状になっており、471・502・512 は、底部内面が同心円状になっ

ている。また、器形は底部が突出し、体部との境が明確なもの(485・507・489・493・530), 口縁端部が肥厚するもの(477・489)が見られる。D期の小皿は堀の覆土上層から出土したもので、堀の最終的な埋没時期を示すものである。底部が厚手のもの(499・523)もあるが、全体的に器壁は薄く、小形で扁平なものが多い。C期の内耳鍋は口径が33cm・29cm、器高は12cm・15cmほどの寸法であり、口径に対し器高が1/2以上のもの(545)、体部が大きく外傾し、内側につまみだされるもの(544)がある。甕は口径17cmほどで、口径より頸部の径が小さく、口縁端部が545と同様外側につまみだされている。D期の焙烙(542・543)は口径30cm、器高7cmほどの寸法で、体部は内彎して立ち上がっている。共伴する陶器は15世紀

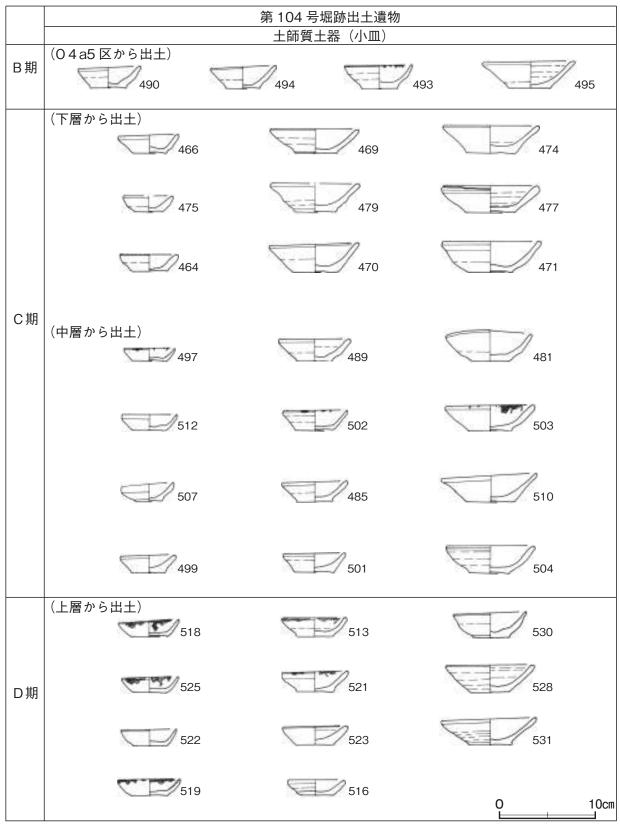


第 488 図 第 446 · 449 · 452 号溝跡出土遺物 (1)

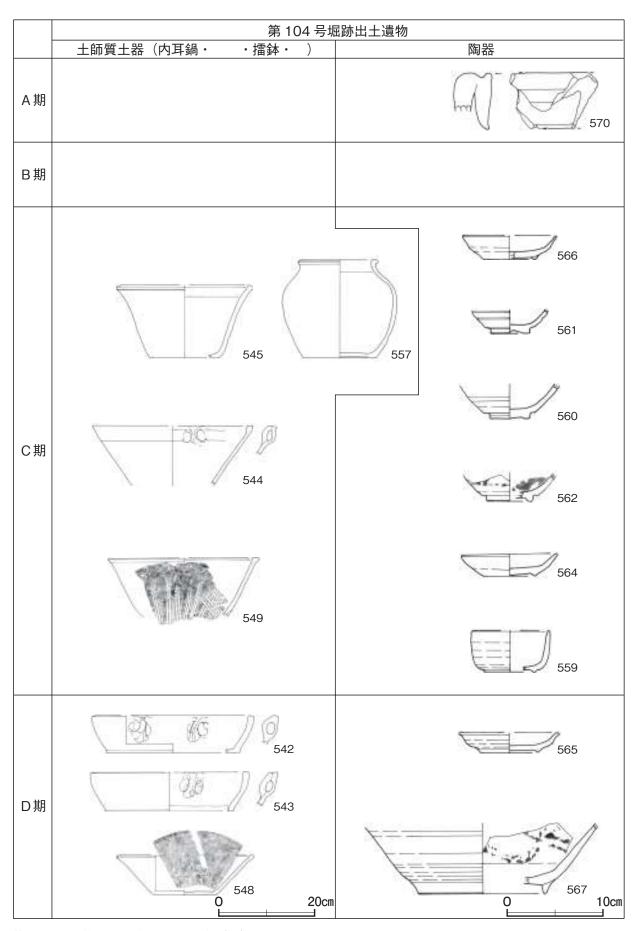


第 489 図 第 446·452 号溝跡出土遺物 (2)

前葉に比定される常滑の甕(570),16 世紀代に比定される瀬戸美濃産の灰釉皿(566),天目茶碗(560~562),瀬戸美濃産の丸皿(564),16 世紀後半に比定される志野丸碗(559),17 世紀前半に比定される志野皿や,堀廃絶後に廃棄されたと考えられる 17 世紀後半に比定される鉄絵鉢(567)である。



第490 図 第104 号堀跡出土遺物(1)



第491 図 第104 号溝跡出土遺物 (2)

7 第226号井戸跡出土土器について(第492図)

15 区北部に位置する第 226 号井戸跡から土師質土器 (小皿) 6 点 (422~427) が出土した。他に五輪塔 95 点, 宝篋印塔 1 点が出土している。422 は覆土下層,423~426 は覆土上層から出土している。その中の 427 が今回の調査で唯一出土した,非ロクロ成形の小皿である。覆土上層から出土している 423~426 は,口径は 7.8~9.2cm,器高は 1.9~2.1cm,底形は 3.9~6.5cmである。内底面の調整は仕上げにナデが施されており,口径に対し底形は 2分の 1 以上である。器高は低く,扁平である。覆土下層から出土した 422 は口径 10.0cm,器高 2.9cm,底径 4.6cmである。内底面の調整は底部内面にうずまき状のロクロ目があり,口径に対し底形は 2分の 1 以下である。非ロクロ成形の小皿 427 は覆土上層から出土し,口径は 7.6cm,器高は 2.1cmの丸底である。口縁部が外・内面にナデが施され,口縁端部は直立している。また,共伴する陶器は,15 世紀代に比定される瀬戸美濃系端反皿が出土している。

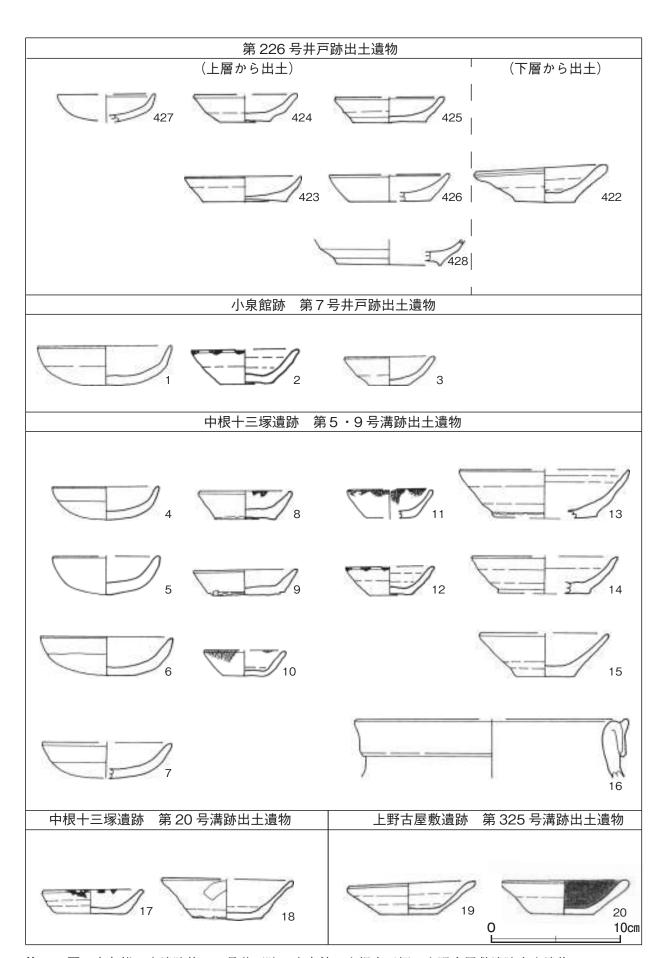
これらのことからこの井戸の廃絶時期を考えるとき、第 226 号井戸跡出土の小皿は、川村満博編年⁹⁾によるとIV期の非ロクロ成形小皿の最終末期で、ロクロ成形小皿が主体となる時期(15世紀前葉~中葉)に相当すると思われる。当遺跡から北へ 19kmの中根十三塚遺跡 ¹⁰⁾、北北東へ 12kmの小泉館跡 ¹¹⁾出土の小皿と同形式のものが含まれている。しかし覆土下層出土の 422 は、他の小皿の形式とは異なるように思う。内底面の調整や、口径に対する底径の大きさ、口縁端部が肥厚していることなどから、若干時期差がある。第 104 号堀跡出土の小皿や、当遺跡から東北東へ7.5kmの上野古屋敷遺跡出土の小皿に同型式のものが含まれる。上野古屋敷遺跡第 325 号溝跡の廃絶時期は 16世紀後半と報告されており、第 226 号井戸跡も同時期の廃絶と考えられる。

8 15・16 区出土の石塔について (表 100)

今回の調査区から出土した石塔をまとめたものが表 100 である。15 区で石塔が出土した地点は、調査区の北部がほとんどである。部材別の点数は、五輪塔の空風輪が 28 点、火輪が 29 点、水輪が 31 点、地輪が 36 点の計 124 点であり、宝篋印塔の笠部が 1 点、塔身が 3 点、基礎が 4 点の計 8 点である。しかし出土品の大部分が遺構に投棄された状態であったため、組み合わせが分からず樹立されていた石塔の基数を確定することはできない。五輪塔の地輪が 36 点、宝篋印塔の基礎が 4 点出土していることから、少なくとも五輪塔は 36 点、宝篋印塔は 4 点樹立されていたと想定される。今回の調査で出土した石塔には、梵字や紀年銘のあるものは無く、石材は全て花崗岩であった。16 区で石塔が出土した地点は、調査区東部の第 92 号堀跡で、石幢の笠部と思われる石塔が 2 点出土している 120。

出土五輪塔を種類別に見ると(第 493 図)空風輪の形状は、頭頂部が尖るもの(Q38・Q47・Q73・Q138・Q143)、頭頂部が丸いもの(Q39・Q144)、空輪部と風輪部にくびれが無いもの(Q198)の3種に大別できる。更に空輪部と風輪部の規模で見ると、空輪部と風輪部の高さと幅がほぼ等しいもの(Q138・Q198)、空輪部の方が高さがあるもの(Q47・Q73・Q143)、風輪部の方が幅がやや広いもの(Q38・Q39・Q144)に分けられる。風輪の底部にほぞが着くものはなかった。火輪の形状は、軒先が外反するもの(Q40・Q169)、軒先がやや外反するもの(Q54・Q189)、軒先が水平なもの(Q56・Q79)に分けられる。水輪の形状を見ると、高さと幅の比が1:2未満で上部の凹みが無いもの、(Q89)、有るもの(Q186)、高さと幅の比が,ほぼ1:2のもの(Q91)、上部より底部の方が幅が広いもの(Q147)に分けられる。地輪の形状は上部に凹みが無いもの(Q154)と有るもの(Q112)に分けられる。

最後にこれらの石塔の被葬者または造立者の階層及びその性格について考えてみたい。今回出土した石塔



第492 図 島名熊の山遺跡第226号井戸跡・小泉館・中根十三塚・上野古屋敷遺跡出土遺物

表 100 15·16 区出土石塔一覧表

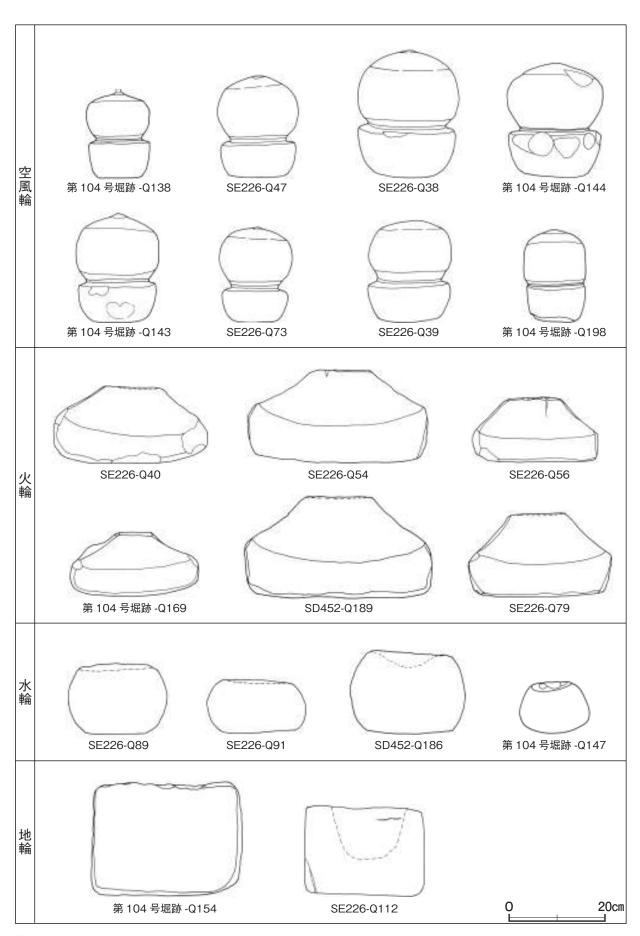
区	遺構	石塔	種類	個数
15区	第 226 号井戸跡	五輪塔	空風輪	14
	(75 個出土)	"	火輪	19
		"	水輪	17
		"	地輪	24
		宝篋印塔	塔身	1
	第 104 号堀跡	五輪塔	空風輪	11
	(38 個出土)	"	火輪	7
		"	水輪	9
		"	地輪	7
		宝篋印塔	塔身	1
		宝篋印塔	基礎	2
		宝篋印塔	笠部	1
	第 452 号溝跡	五輪塔	火輪	1
	(10 個出土)	"	水輪	2
		"	地輪	5
		宝篋印塔	基礎	2
	第 443 号溝跡	五輪塔	火輪	1
	第 512 号溝跡	"	空風輪	1
	第 445 号溝跡	"	火輪	1
	第 500 号溝跡	宝篋印塔	塔身	1
	第1号土塁	五輪塔	空風輪	1
	第 6018 号土坑	"	空風輪	1
	第 6603 号土坑	"	水輪	3
16区	第 92 号堀跡	石幢,	笠部	2
	五輪塔合計			124
	宝篋印塔合計			8
	石幢,合計	,		2
	石塔合計			134

に銘文は無かった。五輪塔が多数投棄されていた第 226 号井戸跡出土の土器を見ると(第 492 図)15 世紀中葉から16世紀後半と考えられる。このことから,五輪塔は15世紀前半には建立されており,16世紀後半までには井戸に投棄されたものと考えられる。 石塔は15世紀代には小形化し量産される傾向にあり,構造も簡易なものが多く,石塔内部に納骨する構造をもつものはほとんどない。今回第226 号井戸跡から出土した各部位の一番高さがあるものを合計(空風輪 26.6cm, 火輪 36.2cm, 水輪 25.4cm, 地輪 30.6cm)しても118.8cmと小形であることから15世紀代の建立と考えられる。また,笹生衛氏は,東国の中世墓地を五つに類型しており13),当地区は「C類型」の土豪層主導型墓域または「D類型」の上層農民主導型墓域に近い様相を示している。室町期には庶民層にも五輪塔が普及することなどから、半農生活の家臣団など石塔と想定される。

15世紀初頭には東国を二分する乱¹⁴⁾ が起こり、1467年には国内を下克上へと向かわせる応仁の乱が起こる。表 101を見ると筑波周辺でも領主間の争いが起こり、人々はその渦に巻き込まれていく。五輪塔はその戦いで命を落とした者や先祖代々の供養塔であったと思われる。それが井戸に投棄されたということは、第三者から何らかの指図があったのだろう。表 101を見ると 16世紀後半には多賀谷氏と岡見氏が谷田部城を巡って争っており、当地区もその影響を受けたものと思われる。当地区の支配者が変わり、今までのものを捨て去るという意味で五輪塔を廃棄させたと思われるが想像の域を出ない。

表 101 15 世紀~ 16 世紀のつくば周辺の動き 15)

年	主 な で き ご と						
15 世紀末	小田氏で家督相続をめぐる内紛						
16 世紀初頭	小田氏が小田城を回復 田中の荘も小田領になる						
弘治2 (1556) 年	小田氏治が結城政勝と戦い敗北 氏治は小田城を捨て土浦城へ 氏治						
	は4ケ月後には小田城に復帰						
永禄 9 (1566) 年	上杉謙信・佐竹義重ら小田城攻める 小田氏治敗走						
永禄 12(1569)年	小田氏治が北条氏と結び佐竹・多賀谷・真壁軍と手這坂で戦うが敗れ						
	る 小田城が佐竹氏のものとなる						
元亀元 (1570) 年	谷田部城は小田氏の家臣岡見頼忠の居城だったが、下妻の多賀谷氏の						
	攻撃を受け落城 多賀谷径伯の居城になる						
天正 8 (1580) 年	岡見頼忠・知義が北条氏の支援を得て多賀谷氏と戦う						
天正 17 (1589) 年	岡見治広が谷田部城奪還をはかったが敗れる						



第493 図 15 区出土石塔

9 おわりに

13・14 区は、縄文時代に生活の痕跡がみられ、本格的に集落が営まれるのは、古墳時代に入ってからである。第5・6期は竪穴建物の棟数が最も増加することから、人口も増加し、13・14 区での生産活動も順調に行われていたものと考えられる。第7期になると、徐々に竪穴建物の棟数が減少し始め、第8期まで減り続けている。奈良時代に入り、第9期でも引き続き竪穴建物跡の棟数は少ないが、この時期になると、掘立柱建物跡の棟数が増加している。これは掘立柱建物跡は倉庫として使用されていると思われ、生産が少しずつ回復し始め、人口が着実に増えていることがうかがえる。第10・11 期になると、竪穴建物跡及び掘立柱建物跡の棟数は更に増加し、平安時代の第12 期には、再び最盛期を迎えることになる。しかし、第13 期からは竪穴建物跡及び掘立柱建物跡は減少に転じ、第18 期に集落は終焉を迎える。

集落の規模が最も大きくなる第5・6期は、古墳時代後期の在地首長を中心とした集落が最盛期を迎えたことを意味する。古墳時代終末期である第7・8期は律令制による国家の中央集権体制に組み込まれていく過渡期にあたり、集落の再編が行われ、棟数が減少の一途をたどったものと考えられる。奈良時代に入り、第9期には律令制が施行されるが、班田収授法や墾田永年私財法が出され、開墾や生産活動が活発化し、人々は厳しい収穫の中にも活路を見いだし、第10~12期では小規模で規格性の強い竪穴建物跡及び掘立柱建物跡の棟数が次第に増加していくことになる。

集落が、第7・8期で一時減少し、第10・11期で再び盛行する背景には、古墳時代後期の首長層による開拓の開始と律令制度という大きな画期が存在している。律令制度の施行による集落の住人の再構成が行われたと考えられる。しかし、13・14区の竪穴建物跡と掘立柱建物跡の分布をみると、第9期以降の集落が第8期以前の集落を避けて営まれていることが確認できる。このことは奈良・平安時代の住人たちが過去に集落が営まれた事実を認識していたことを示している。つまり、この奈良・平安時代の住人による開発は古墳時代の住人の存在を否定して集落を形成してはいないと考えられる。この13・14区は律令制度という時代の大きな画期があろうとも、在地首長層の影響が継続していることを示しているのではなかろうか。

第12期以後は、律令制の衰退と共に、集落も縮小し、中世社会へ向かっていくことになる。13・14区の 集落変遷の動きは、これまでの当遺跡の調査報告の成果と合致していることが確認できた。

今回の15・16区の調査では、当遺跡の南東部と南部の集落の様相をつかむことができた。堀や溝で区画された埋葬に関する遺構から当時の土地利用の様子や社会情勢、出土遺物から人々の食生活の変化や交流範囲、小皿や石塔にこめられた人々の思いなど、室町時代の当遺跡の様子の一端を垣間見ることができた。斎藤弘氏は北関東の中世墓を6時期に分けており¹⁶⁾、その中で、「室町時代を迎えると農村にも共同墓地が出現すること、こうした造墓活動を主催した集団の介在があったこと、組織を整えた各宗派の葬送儀礼を通じての布教活動があり、教団の末端にあって庶民層に直接働きかけた人々がいたこと。」を指摘している。15区の東、16区の北には鎌倉時代後期に開山された時宗「妙徳寺」がある。当区の性格を考えるのに「妙徳寺」抜きには語れない。戦乱時には寺が人々の避難所になったと考えられ、妙徳寺の東にあり、15・16区の両区まで延び、壁面に柵列状の柱穴をもつ第92号堀跡は、防御としての機能も果たしていたと考えられる。また、今回の調査で、妙徳寺の西側が室町時代からの墓域であったことを確認した。現在も妙徳寺の西側、北東側は墓地になっており、当時から当地域の人々と密接な関係があったと思われる。

- 1) a 新井聡他「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 I 熊の山遺跡」『茨城県教育財団 文化財調査報告』第120集 1997年3月
 - b 小島敏他「(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 熊の山遺跡」『茨城県教育 財団文化財調査報告』第133集 1998年3月
 - c 吉原作平・原信田正夫「(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 熊の山遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集 1999年3月
 - d 矢ノ倉正夫・小林孝・川上直登「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 熊の山遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告』第166 集 2000 年 3 月
 - e 藤田哲也・三谷正・原信田正夫・川上直登・稲田義弘「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調 査報告書 V 熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 174 集 2001 年 3 月
 - f 稲田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文 化財調査報告』第190 集 2002 年 3 月
 - g 稲田義弘・飯泉達司「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 X」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 214 集 2004 年 3 月
 - h 松本直人「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XI」『茨城県教育 財団文化財調査報告』第 236 集 2005 年 3 月
 - i 田中幸夫・酒井雄一・田月淳一・松本直人・桑村裕「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地 内埋蔵文化財調査報告書XII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 264 集 2006 年 3 月
 - j 酒井雄一・渡邊浩実・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化 財調査報告書XⅢ|『茨城県教育財団文化財調査報告』第 280 集 2007 年 3 月
 - k 齋藤真弥・酒井雄一・渡邊浩実・松本直人・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画 整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XV」『茨城県教育財団文化財調査報告』第291 集 2008 年 3 月
 - 1 早川麗司「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVI」『茨城県教育財団文化財調査報告』第322集 2009年3月
 - m 小澤重雄「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVII」『茨城県教育財 団文化財調査報告』第328集 2010年3月
 - n 仲村浩一郎・坂本勝彦・江原美奈子「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調 査報告書XWII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 360 集 2012 年 3 月
 - o 清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIX」『茨城県教育財 団文化財調査報告』第380 集 2013 年 3 月
- 2) 鹿島直樹「島名一町田遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第230集 2004年3月
- 3) 芳賀啓『図説 江戸考古学研究事典』江戸遺跡研究会 2001年4月25日 古泉編年によるとⅣ期にあたる
- 4) 平成22年度企画展「都築区茅ヶ崎城跡と謎のウズマキかわらけ」横浜市歴史博物館 2011年1月
 - 「小皿は釉薬が施されていないため、一つの物を長期にわたって何度も使用することはできない。その性質から、それらは一般の人々が気軽に使う器である一方で、神仏に供える際の清浄な食器・主人と家臣の間で行う儀式で使われる非

日常的な食器としての用途が広まっていったと考えられている。」

- 5) 第6回特別展「鍋について考える」かみつけの里博物館 2000年2月
- 6) 大関武「常陸国中世土師質土器考-つくば市島名熊の山遺跡を事例として」『常総台地 16 鴨志田篤二氏 考古学業 45 周年記念論集』 常総台地研究会 2009 年 12 月
- 7) 三谷正 大塚雅昭 桑村 裕「上野古屋敷遺跡 1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書」『茨城県 教育財団文化財調査報告』 第 285 集 2007 年 3 月
- 8) 中野晴久「全国シンポジウム 中世窯業の諸相-生産技術の展開と編年-」2005年9月
- 9) 川村満博「中世初期~中期の常陸国のかわらけについて」『莵玖波 川井正一・斎藤弘道・佐藤正好先生還暦記念論集 』 川井正一・斎藤弘道・佐藤正好先生還暦記念事業実行委員会 2007年2月
- 10) 野田良直「中根十三塚遺跡 主要地方道下館つくば線緊急地方道路 整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育 財団文化財調査報告』第154集 1999年7月
- 11) 矢ノ倉正男「小泉館跡 一般県道高野筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第154 集 1995 年 3 月
- 12) 茨城県教育委員会『茨城の文化財 第45集〈特集〉工芸編』茨城県 2007年3月 筑波山周辺では、中世、六角地蔵石幢が爆発的に流行し、石幢を通称六地蔵型石燈籠と呼んできた。
- 13) 笹生衛「東国における中世墓地の諸相 房総の事例を中心に 」『研究紀要』16 号 千葉県文化財センター 1995 年 1 月
- 14) 関幸彦「その後の東国武士団」吉川弘文館 2011年9月
 - ・応永 23 (1416) 年 上杉禅秀の乱 (鎌倉公方 VS 前関東管領)
 - · 永享 10 (1438) 年 · 永享の乱 (将軍 VS 鎌倉公方)
 - · 永享 12 (1440) 年 結城合戦 (将軍 VS 東国武士)
- 15) a 中山信名『新編常陸国誌』崙書房(復刻版)1978年12月
 - b 茨城県史編集委員会「茨城県史 中世編」茨城県 1986 年 3 月
 - c 筑波町史編纂専門委員会「筑波町史」つくば市 1988年9月
- 16) 齋藤弘「北関東の中世墓」『日本の中世墓』高志書院 2009年3月

島名熊の山遺跡第 3161 号竪穴建物跡出土金属遺物の付着木質の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

島名熊の山遺跡は、古墳時代から平安時代にかけての集落跡であり、古墳時代~平安時代の竪穴建物跡、 掘立柱建物跡、中世の掘立柱建物跡などの遺構が検出されている。

本報告では、出土した鉄製の鋤先および鑿について保存処理を実施する。また、鑿の柄部に残存している木質を対象として、木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

2 金属遺物付着木質の樹種

(1) 試料

試料は、鑿と考えられる金属遺物の柄の木質1点である。

(2) 分析方法

柄の破損部から木片を採取する。木片から木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、 その特徴を現生標本と比較して種類(分類群)を同定する。

なお,木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982) や Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、日本 産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

(3) 結果

鑿と考えられる金属遺物の柄は、広葉樹のコナラ属アカガシ亜属に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis) ブナ科

放射孔材で,道管の壁厚は中庸~厚く,横断面では楕円形,単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

アカガシ亜属の特徴である複合放射組織が確認できないが、そのほかの特徴からアカガシ亜属と同定した。

3 考察

鑿と考えられる金属遺物の柄は、断面が円形であり、状況から削出丸木と考えられ、広葉樹のアカガシ 亜属に同定された。アカガシ亜属は、暖温帯性常緑広葉樹林に生育する常緑高木であり、木材は重硬で強 度が高い。鑿とすれば、柄は使用時に打撃を受けることから、打撃に耐える木材として、強度が高いアカ ガシ亜属が利用された可能性がある。

鑿の柄について、関東地方では調査例が知られておらず、全国的にも調査例が少ない。古代の資料は、 平城宮跡・平城京跡を中心に調査例があり、アカガシ亜属、ツバキ属、ヒノキ等の利用が確認できる(伊 東・山田 2012)。今回の結果は、アカガシ亜属が利用されている点で平城宮跡の結果とも調和的である。

引用文献

- ·林昭三,1991,日本產木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- ・伊東 隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- ・伊東 隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.
- ・伊東 隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- ·伊東 隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- ・伊東 隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- ・伊東 隆夫山田 昌久 (編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- ·島地 謙·伊東 隆夫,1982, 図説木材組織. 地球社,176p.
- ・Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編) ,1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト
- · 伊東 隆夫·藤井 智之·佐伯 浩(日本語版監修), 海青社 ,122p [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P .E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

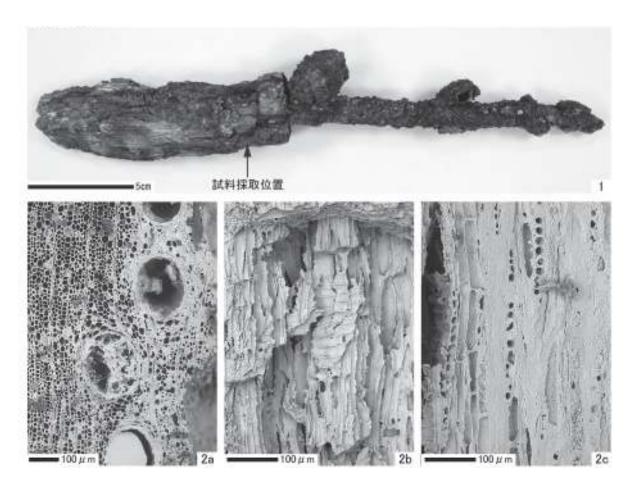


写真1 鑿の試料採取位置

写真2 電子顕微鏡写真 (コナラ属アカガシ亜属 a:木口 b:柾目 c:板目)

島名熊の山遺跡第84号地下式坑出土鉄製短刀の成分分析

(株) 吉田生物研究所

1 はじめに

茨城県に所在する島名熊の山遺跡から出土した金属製品について、以下の通り成分分析を行ったのでその結果を報告する。

2 方法

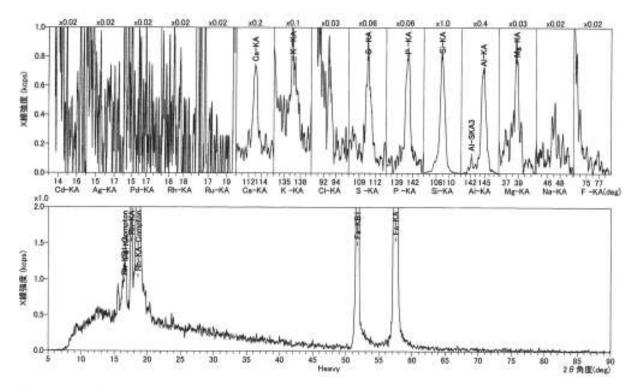
資料本体から $1\sim 2\,\mathrm{mm}$ 程度の試料を採取し、蛍光 X 線分析を行い、金属成分を分析した。分析装置は、RIGAKU 製の波長分散型蛍光 X 線分析装置 ZSX-PRIMUS II を用いた。

3 分析結果

成分分析結果のスペクトルを付す (図1)。ただし土壌に由来する成分も含まれると思われる。よって表1に分析結果一覧を示すが、その数値はあくまで参考にすぎない。 概ね短刀本体の金属成分は、Fe(鉄)であった。

表 1 分析結果一覧表

成分名	分析值 (wt%)
М д	0.231
Αl	0.928
S i	2.70
Р	0.0462
S	0.0570
K	0.0732
Са	0.106
Fe	95.9



第1図 鉄製短刀の分析データ

島名熊の山遺跡第84号地下式坑出土呑口式腰刀の樹種同定

(株) 吉田生物研究所

1 試料

試料は茨城県つくば市島名熊の山遺跡から出土した工具1点である。

2 観察方法

試料の数mm立方の試料をエポキシ樹脂に包埋し研磨して、木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)面の薄片プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果(広葉樹 1 種)の表と顕微鏡写真及び X 線写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) モクセイ科トネリコ属 (Fraxinus sp.)

環孔材である。木口では大道管($\sim400~\mu$ m)が単 \sim 数列で孔圏部を形成している。孔圏外では厚壁の小道管が単独ないし $2\sim4$ 個放射方向に複合して散在している。軸方向柔細胞は顕著で周囲状,翼状,連続翼状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織は平状細胞からなり同性である。板目では放射組織は $1\sim4$ 細胞列,高さ $\sim400~\mu$ m からなる。トネリコ属はシオジ,ヤチダモ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

- ・島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版 (1988)
- ・島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」 地球社(1982)
- ・伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I~V」京都大学木質科学研究所 (1999)
- ·北村四郎·村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I · Ⅱ 」 保育社 (1979)
- ・深澤和三「樹体の解剖」海青社(1997)
- · 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」(1985)
- · 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」(1993)

使用顕微鏡

Nikon DS-Fi1

表 2 製品同定表

N o	品名	樹種
1	鉄製短刀	モクセイ科トネリコ属

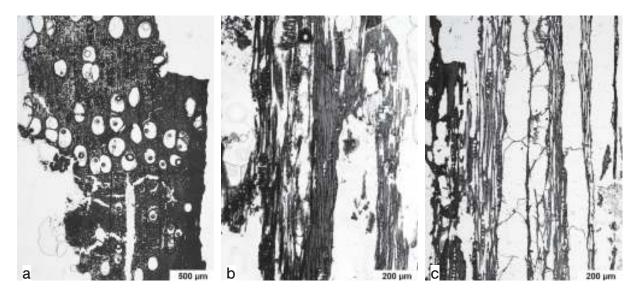


写真1 電子顕微鏡写真(モクセイ科トネリコ属 a: 木口 b: 柾目 c: 板目)



写真2 島名熊の山遺跡 第84号地下式坑出土鉄製短刀 X 線写真

島名熊の山遺跡第104号堀跡出土木製品の樹種同定

(株) 吉田生物研究所

1 試料

試料は茨城県つくば市島名熊の山遺跡から出土した容器1点、用途不明品1点の合計2点である。

2 観察方法

剃刀で木口(横断面), 柾目(放射断面), 板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果(広葉樹 2種)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) ブナ科ブナ属 (Fagus sp.)

(遺物 No.1)

(写真 No.1)

散孔材である。木口ではやや小さい道管($\sim 110~\mu$ m)がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの, $2\sim3$ 列のもの,非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち,内部には充填物(チロース)が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列, $2\sim3$ 列,広放射組織の3 種類がある。広放射組織は肉眼でも $1\sim3$ 3mm の高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ,イヌブナがあり,北海道 (南部),本州,四国,九州に分布する。

2) ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. Prinus Loudon syn. Diversipilosae, Dentatae)

(遺物 No.2)

(写真 No.2)

環孔材である。木口では大道管 ($\sim 380~\mu$ m)が年輪界にそって $1\sim 3$ 列並んで孔圏部を形成している。 孔圏外では急に大きさを減じ,薄壁で角張っている小道管が単独あるいは $2\sim 3$ 個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ,ミズナラ,カシワ等があり,北海道,本州,四国,九州に分布する。

参考文献

- ・島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版 (1988)
- ·島地 謙·伊東隆夫「図説木材組織」 地球社(1982)
- ・伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I ~ V 」 京都大学木質科学研究所(1999)
- ·北村四郎·村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I · Ⅱ 」 保育社 (1979)
- ・深澤和三「樹体の解剖」海青社 (1997)
- · 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」(1985)
- · 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」(1993)

使用顕微鏡

Nikon DS-Fi1

表 1 製品同定表

N o	品名	樹種
1	漆器椀	ブナ科ブナ属
2	箆状木製品	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

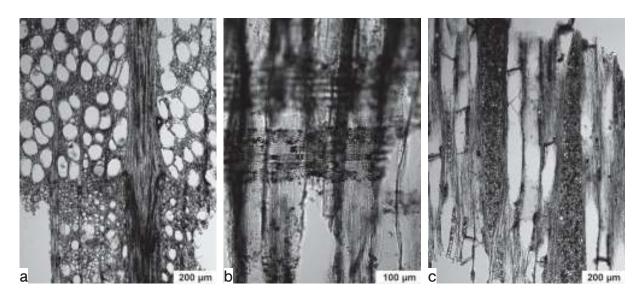
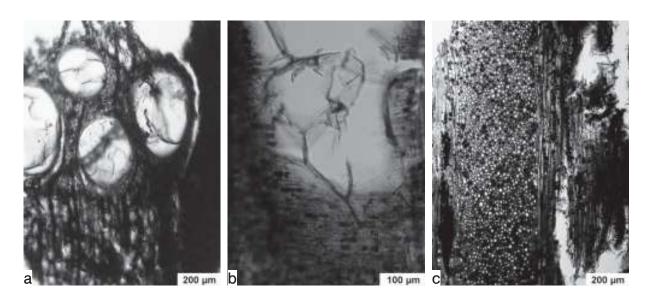


写真1 漆器椀電子顕微鏡写真 (ブナ科ブナ属 a:木口 b:柾目 c:板目)



印刷仕様

編 集 OS Microsoft Windows 7

Home Premium ServicePack1

編集 Adobe InDesign CS6

図版作成 Adobe Illustrator CS6

写真調整 Adobe Photoshop CS6

Scanning 6 × 7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000

図面類 EPSON ES-10000G

使用Font OpenType リュウミンPro・L

写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上

印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第390集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整 理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXI

中 巻

平成26 (2014) 年 3月10日 印刷 平成26 (2014) 年 3月12日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2 茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029 - 225 - 6587

H P http://www.ibaraki-maibun.org

印刷 株式会社 あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2-11

TEL 029 - 227 - 5505